11・9『PRIDE・GP』濃密情報満載!!

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE

紙のプロレス RADICAL



もはや誰にも止められない!!

ミルコ、10・5『PRIDE武士道』に電撃出陣!!

DSE榊原代表が『武士道』、『PRIDE・GP』、『W-0』まで今後の展開を大激白!!

桜井"マッハ"速人、眼窩底骨折で『PRIDE武士道』無念の欠場! 代わって"褐色の侍"カーロス・ニュートン見参!!

マッハの野望を砕いたU-FILEの異端児 長南 亮

パンクラス10周年両国大会、そして『X-1』!! 『PRIDE』以外の総合ビッグマッチを徹底検証!!

大晦日、タイソンはどこへ!? &K-1 JAPAN詳報!!

ホントに『W-0』ってやるの? 『W-0』追加情報!!

破壊王独白!! 長期欠場!? ZERO-ONEは、どこへ行く!?

"脱・王道"!! 社長就任1周年記念インタビュー 武藤敬司

大異変! 新日本が面白いゾ!!

WWE、夏の風物詩『サマースラム』紀行を読め!!

66
2003

紙のプロレス RADICAL 2003 NO.66 ミルコ、10・5『PRIDE武士道』に電撃出陣!!

平成15年10月25日発行 編集発行人/山口日昇
発売元:(株)ワニマガジン社 〒160-8580 東京都新宿区内藤町1番地 電話/03-3357-2911
発行元:(株)ダブルクロス 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 電話/03-3403-5188
ワニマガジン社 定価:本体838円+税


武士道
開戦前から
動乱


ョン、もはや測定不能!!

緊急独占
インタビュー

ミルコ・クロコップ

10.5『PRIDE武士道』

電撃参戦決定!!

この男のモチベーショ

ヒーリング戦、ボブチャンチン戦、そして『武士道』

すべてはヒョードルに勝つための調整試合だ!!



驚愕! 10·5『PRIDE武士道』に信じられない大異変!!
なんと、あのミルコ・クロコップが緊急出場することが電撃決定したのだ!!
11·9東京ドームで宿願であったヒョードルとのPRIDEヘビー級選手権を控えたいま、
なぜミルコはあえて茨の道を歩こうというのか!?
国際電話での独占インタビューをお届けしよう!

構成/堀江ガンツ　協力/DSE　designed by matsu (Two three)

——お忙しいところ急なお電話ですみません! ミルコさんが10・5『PRIDE武士道』参戦と聞いて非常に驚いているんですけど、これは本当なんですか?

ミルコ ああ、本当だよ。私は10月5日、日本に行って闘う。相手はまだ聞いていないがそれは間違いない。

——いやぁ、ホントでしたか! しかも、これはミルコさん自身が参戦を希望したものだと聞いたんですが?

ミルコ 確かに私の方からエージェントを通じて参戦を願い出たよ。でも当初、『PRIDE』側は私の10・5『武士道』参戦に難色を示したんだ。

——あ、DSEは反対したんですか。

ミルコ「11月の大会前にケガをされたら困る」ということと、私を「ビッグマッチだけで使って、プレミア性を保ちたい」という二つの理由でね。それでも私は、どうしても試合がしたかったんだ。

——なぜ、そうまでして10・5『武士道』出場を望んだんですか?

ミルコ すべては我が宿敵・ヒョードルを倒すためだよ。

——ヒョードルを倒すための『武士道』出場ですか?

ミルコ そう。私は去年の大晦日にフジタ(藤田和之)と闘った後、丸々3ヶ月のインターバルをおいて3月30日にボブ・サップと闘ったが、3ヶ月というのは自分のトレーニングスケジュールのペースから考えると長すぎて、調整に失敗したんだ。

——あの秒殺で完勝したサップ戦は、バッドコンディションだったわけですか。

ミルコ 日本に着いたときから高熱にうなされて最悪の体調だった。そのとき改めて気付いたんだ。精神的な部分と、試合に対してピークに持っていくコンディション作りのためには、3ヶ月というのは長すぎたってね。そして今回の11月9日(東京ドーム)というのも、8月10日にイゴール(・ボブチャンチン)と闘ってから、ちょうど3ヶ月だろう? だから、とにかく相手は誰でもいいから8月10日から11月9日の間に一試合挟んで、一度ピークアウトしたかったんだ。



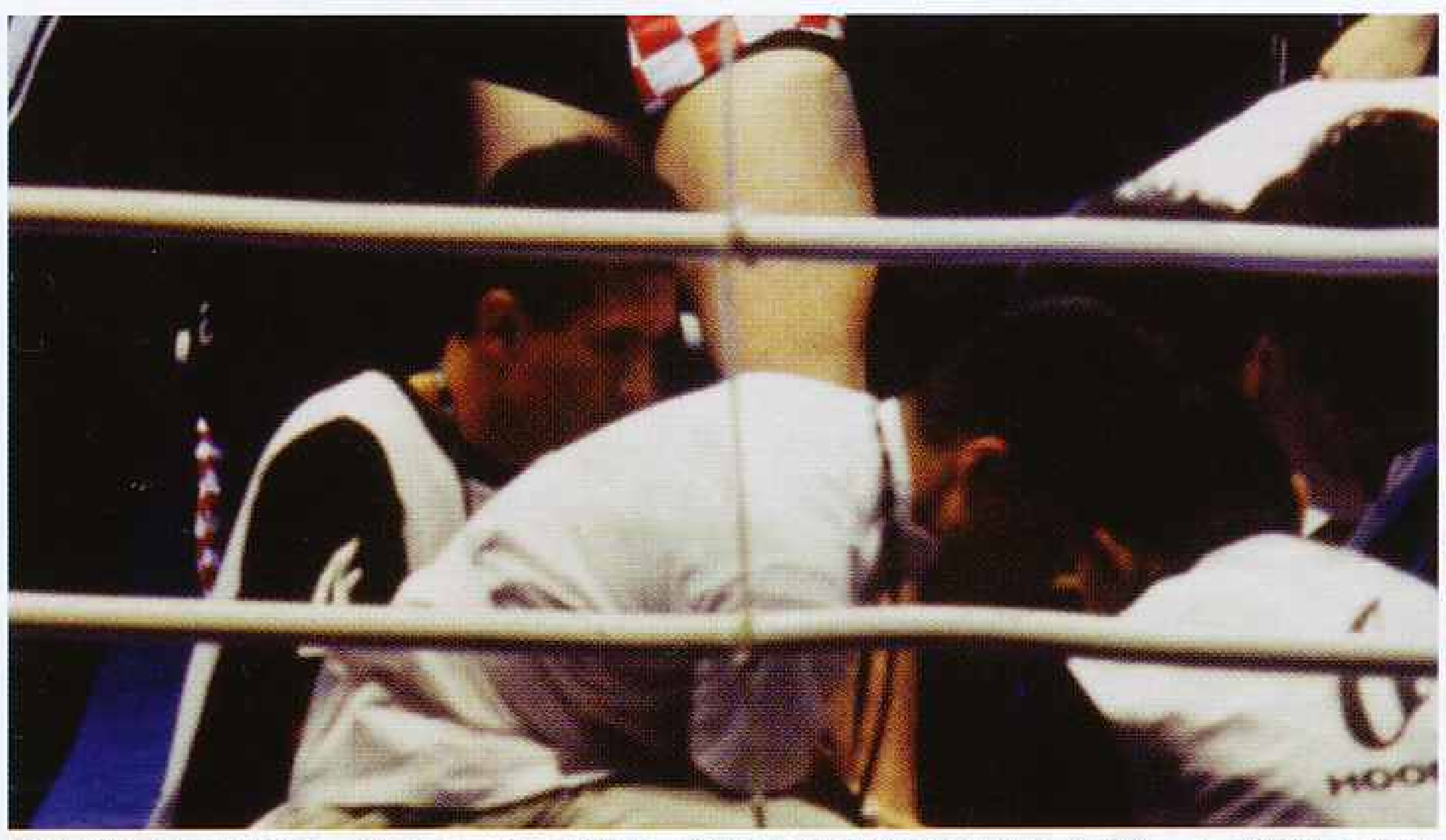
——身体をピークアウトさせるというのは、そんなに大事なものなんですか?

ミルコ 非常に大事だね。私はボクシング世界チャンピオンのオスカー・デラホーラやレノックス・ルイスのトレーニングについての本を研究したり、格闘技以外ではカール・ルイスのトレーニング方法なども参考にしているんだが、彼らもそこでピークアウトについて語っているんだ。それを読んで改めてその重要性を実感したね。

藤田戦の後、サップ戦まで3ヶ月の調整期間は私には長すぎた だからヒョードル戦の前にどうしても1試合挟みたかったんだ。

——なるほど。では、10月11日の『K-1 WORLD・GP開幕戦』には、ミルコさんにも出場オファーが行っていたと思いますけど、ピークアウトのために10・11K-1に出ようとは思いませんでしたか?

ミルコ 確かに私は相手は誰でもいいと言ったが、それは『PRIDE』ルールでの話だ。私はあくまでヒョードル戦のために試合をするのだから、いきなり練習方法の違うK-1ルールの試合は受けたくない。エメリヤーエンコ・ヒョードルという人間と試合するにあたって、そんなことをしていては、彼に付け入る隙を与えるだけだ。闘う意味がないんだよ。だから、10・5『武士道』というのが、すべての意味で打ってつけだったんだ。



3・30K-1さいたまスーパーアリーナ■ボブ・サップとの注目の初対決において、左ストレート一発でサップの目の下の骨と"心"を折ったミルコ。この圧勝劇が最悪の体調だったというのだから驚きだ。

——でも、試合をするとなると、たとえ格下相手でもケガをするリスクがどうしても付きまといますよね。そういった心配はありませんか?

ミルコ ヒョードルとの一戦というのは自分にとって今年最大の目標だから、確かにあらゆる意味でリスクは背負いたくないが、それでも一度もピークアウトしないでコンディション作りに失敗するよりはいい。

——それから、もし無傷で終わったとしても、試合後、身体を休める時間などを考えると、1ヶ月のインターバルでは逆に調整が間に合わなかったりしませんか?

ミルコ その点はまったく心配してない。もう技術面でのヒョードル対策は万全だし、一度ピークアウトした後、4週間かけて調整ができるわけだから、ヒョードル戦には万全な体調で挑むことができるだろう。それに『武士道』での試合も1Rで終わらせるつもりだから、試合後の休息は3日もあれば十分だろう。

——たった3日で十分ですか(笑)。

ミルコ イゴールとの試合後もそうだったんだ。次の11月9日まで3ヶ月あるから、マネージャーやエージェントが「家族と一緒にゆっくり休め」と言って、アドリア海沿岸のウォーターフロントのヴィラを2週間予約してくれたんだが、バカンスをしていてもどうせ頭に思い浮かぶのはヒョードルのことだから、5日目にはもうジムに戻っていたよ(笑)。

——5日後にはもう練習再開してたんですか!? 凄いですねぇ。

ミルコ ヒョードルという人間のことを考えると、自分をそこまで追い込まなければならないと思うからね。それに、イゴール

には1分半で勝つことができたから、身体はどこも悪くないし、このタイミングで休んでいたら、逆に精神的によくない。だから私はその後すぐにボスニアヘルツェゴビナの標高2000メートルぐらいの高地に山小屋を借りて、そこで心肺機能を高める高地トレーニングを始めたんだ。

――ウォーターフロントヴィラのバカンスを捨てて、山小屋で高地トレーニングですか……そんな選手、ミルコさんぐらいしかいませんよ！（笑）。

ミルコ　すべてはヒョードルに勝つためだ。それだけ私はこの闘いに対して真剣なんだ。だから今回『武士道』出場を志願したんだが、DSEに対して無理を言っているのはわかっているから、ファイトマネーはいくらでもいいと言った。お金の問題じゃないんだ。

――凄まじいモチベーションの高さですね。何があなたをそこまで駆り立てるんですか？

ミルコ　それはやはり、私から見てもヒョードルは侮れない相手だということ。そして、その相手を倒して『PRIDE』で最強になるということに対してだね。そのための努力は惜しまないよ。

――では、10・5『武士道』の対戦相手はまだ決まっていませんが、だれか希望する相手はいますか？

ミルコ　特に希望はない。こっちが無理を言って試合を組んでもらったのだから、何だかんだ言う立場にないだろうしね。キミは誰が相手だと思う？

――まったく見当がつきません（笑）。ただ一時、美濃輪育久選手の名前が噂に上がっていましたけどね。

ミルコ　ミノワという選手が以前から私と闘いたがっていることは知っている。今回やるかどうかという話は聞いていないが。

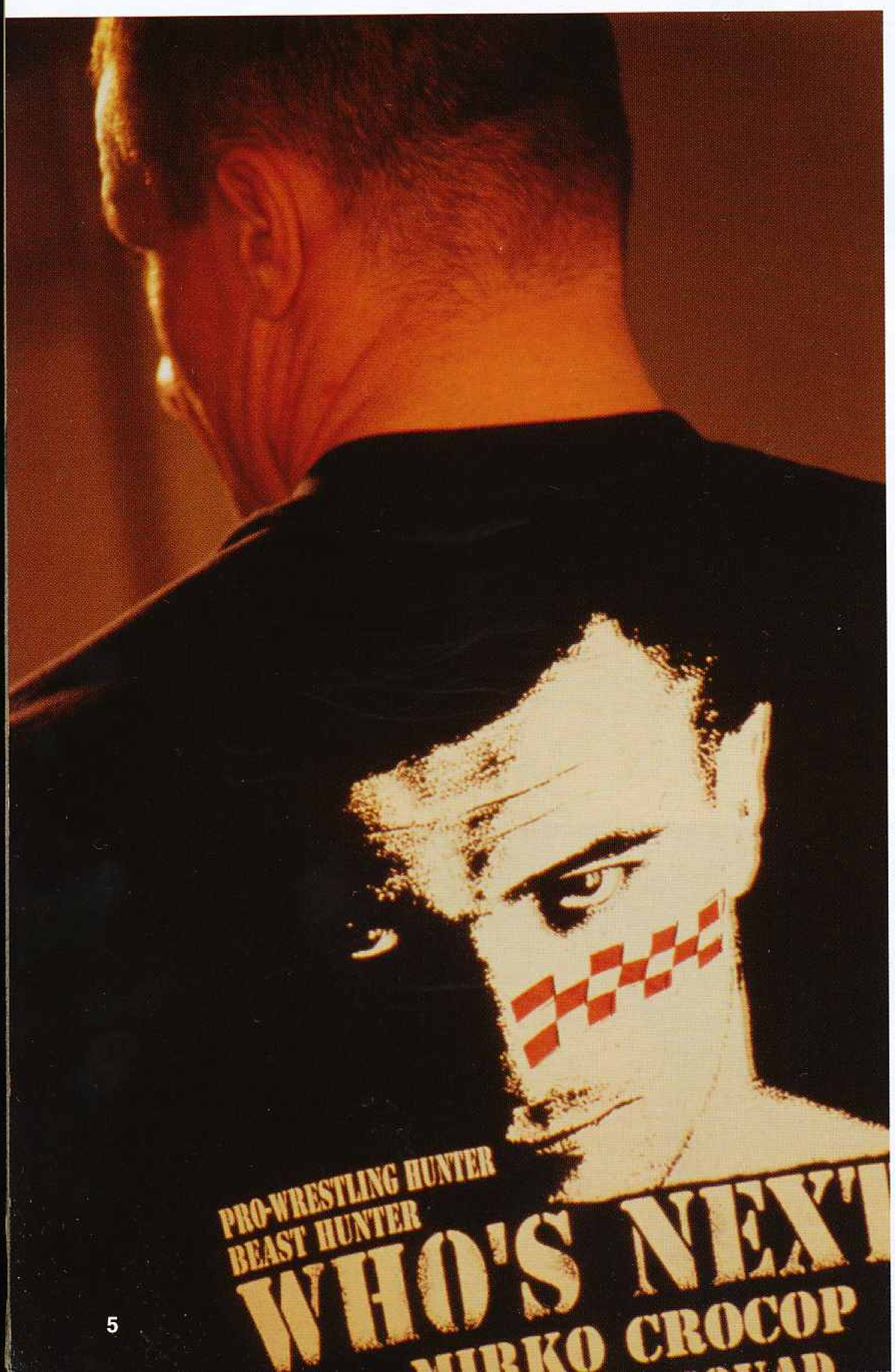
――いまはどんな練習をしているんですか？

ミルコ　今までと同じ練習をしているよ。朝9時からジムでウェートと、ランニングマシンを週3回。夕方の6時からスパーリングを中心にしたトレーニングをしている。水曜日は休みだ。特に変わった練習はしていない。

――高地トレーニングは終えて、いまは調整中という感じですか？

ミルコ　高地トレーニングは8月の末で終えた。私はサップ戦のあとにヒョードル戦を今年の目標とすることに決めたてから、ずっと長いスパンでトレーニングを消化しているんだ。だから、ヒース（・ヒーリング）やイゴール、そして今回の『武士道』もヒョードル戦のための調整のひとつでしかない。とにかく今は『武士道』で一度アドレナリンを放出してから、4週間かけてじっくりとヒョードル戦を待ちたいね。

――なるほど。ところで話は全然違いますが、日本ではいまマイク・タイソンがK-1に上がる上がらないが話題になってるんですよ。ミルコ選手はタイソンが登場した、8月のK-1ラスベガス大会はご覧になりましたか？



タイソンがもし本当に来るのなら相手は私しかいないだろう ただ、いまの私にはタイソンよりヒョードルの方が重要だ。

MIRKO CRO COP

ミルコ　ビデオをもらったから、これから見る予定なんだ。でも、タイソンが出てきたなら、相手は私しかいないだろう。サップ戦を見たい人間なんているのか？

――まぁ、興味ある人は多いと思いますけど、ミルコさんに完全KOされた選手ですからねぇ（笑）。

ミルコ　彼はラスベガスでも失態を見せたんだろう？　もう復活は難しいんじゃないか。それに、タイソンはボクシング・ルール以外ではやらないはずだ。それなら、私しかできる人間はいない。そもそも、タイソンやボクシングのヘビー級王者との闘いは、私のエージェントが別ルートで進めていた話だからね。

――確かに日本でも、タイソンが来るなら、対戦相手はミルコさんを望む声がダントツですよ。

ミルコ　でも、現時点ではタイソンのことは全然気にかけていない。それよりも、ヒョードルのことで頭がいっぱいだよ。

――いまはタイソンよりヒョードルだ、と。いやぁ、ホント楽しみです！　では、まずは10・5『武士道』での試合を期待しています！

【クロアチアへの国際電話取材にて収録】

マッハ敗れる!!

9・15『DEEP』大田区大会に〝マッハ桜〟咲かず!!

構成／松澤チョロ
撮影／平工幸雄
designed by matsu（Two three）

●桜井“マッハ”速人
（マッハ道場）

3R　2分10秒、ドクターストップ

●長南亮
（U-FILE CAMP.com）

〝マッハ桜〟を散らしたのはU-FILEの異端児!!



マッハ、敗れる!! 10・5『PRIDE武士道』へ出場が内定していた桜井〝マッハ〟速人が、9・15『DEEP』大田区大会で、長南亮にまさかの敗北！

衝撃は「マッハの敗北」だけでは終わらなかった。長南のカカトが顔面を直撃し、右目眼窩底骨折の疑いもあるとのことで、マッハは試合後、病院へ直行という緊急事態がボッ発!!

長南の実力を知る者にとっては、予想できなかった結果ではないが、さすがに『武士道』でのヘンゾ・グレイシーとの大一番を控えたマッハが、まさか病院送りにされてしまうとは……。

「自分との試合から3週間後の大会に出場を決めるなんてナメられてるとしか思わない。最低でも『武士道』には出させないようにします！」と吠えていた長南の思惑通りの結果になってしまったのだ。試合前の煽り映像でも「いまは9月。マッハ桜とか言ってるけど、桜が咲く季節じゃない。季節はずれの桜は散らしてやる！」と長南は豪語していた。まさに有言実行！

いざ試合が始まると、会場に詰めかけた大応援団からの「殺せ！」という物騒な声援を受け、さらに勢いづく長南が押し気味に試合を展開。

そして迎えた運命の3R。マッハが組み付いてテイクダウンに成功するも、その後、インサイドガードから腰を浮かせたマッハの顔面目がけ、長南が下からカカトで思いきり蹴り上げると後方へ倒れ込んだマッハ。再度、長南の上になったマッハだったが、レフェリーに促され顔を上げると、ビジョンには右目下がドス黒く腫れ上がったマッハの顔が映し出されたのだった。しばらくすると、試合続行不可能の診断が下され、場内には長南の勝利が告げられた。それとともに、マッハの『武士道』出場に赤信号が激しく点滅。

マッハの勝利後、恒例となっている木口先生とのリング上でのリサイタル。そこで使用するはずだったと思われるギターを関係者が抱え、寂しげに控室へ……。ああ無情。

〝マッハ桜〟を散らせた長南は、「（マッハが）あまり強くないと思った瞬間に一発もらって目が覚めた。パウンドで殴りにいったとき気持ちが切れているのがわかった」と激闘を振り返った。大会前にマッハと舌戦を繰り広げていた長

大番狂わせ!?　順当勝ち!?　マッハvs長南　BOUT REVIEW



この日、一番の歓声を浴びての入場となったマッハと長南。試合前＆煽りビデオで舌戦を繰り広げた両者だが、試合はシェイクハンドからのスタート



試合開始早々、パンチで襲い掛かった長南に対して、マッハは左のフックをカウンターを合わせる!!　倒れ込んだ長南にマッハは強烈なパウンドを打ち込んでいく！



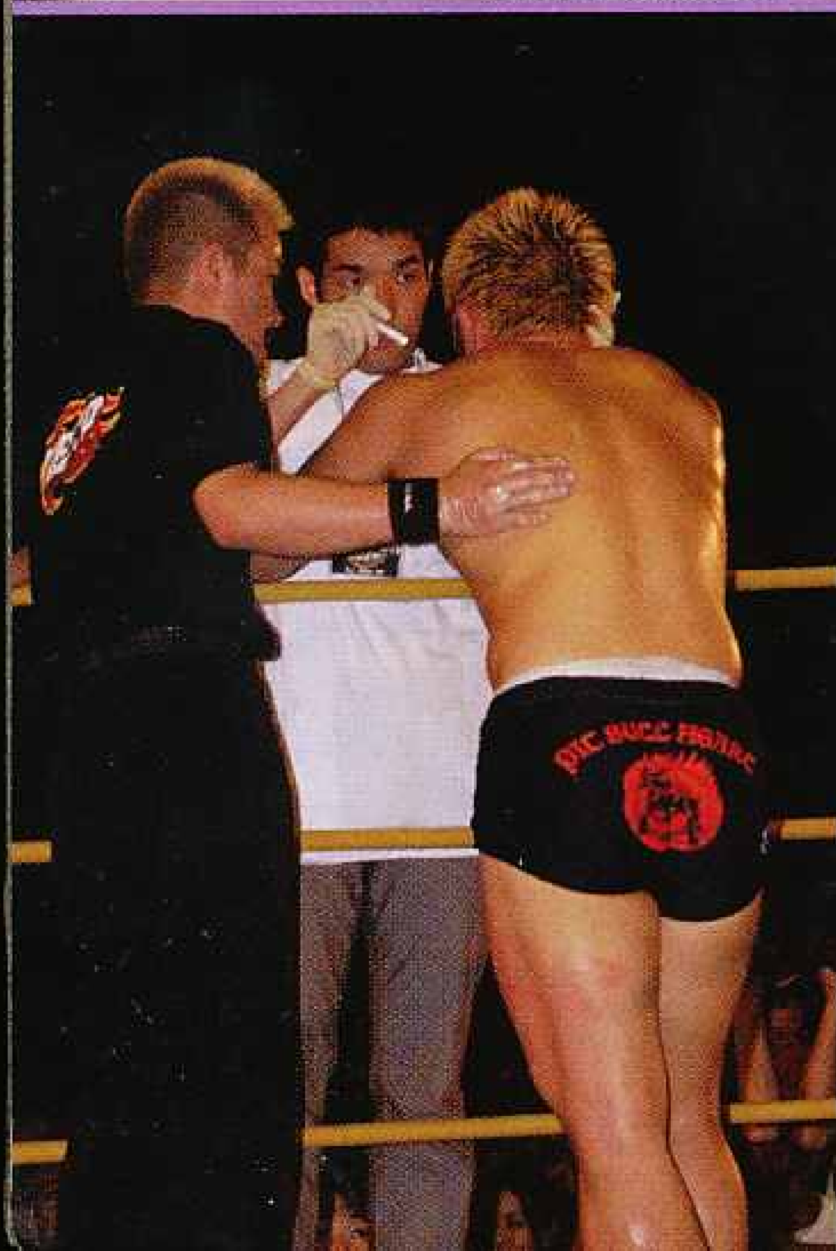
リーチを活かした打撃でマッハを苦しめた長南。マッハペースで進んでいた試合の流れをガラリと変えた。長南のパンチに対して、マッハは首相撲からのヒザ蹴りを多用。パンチとヒザ蹴りが交差！



右目眼窩底骨折の疑いで10・5『PRIDE武士道』出場に赤信号点滅!!

南だったが、『「マッハを壊す!」』とか言っていたけど、あれはパフォーマンス的なもの。（マッハの）ファンだったので、このまま潰れてほしくない」と試合後は敗者にエールを送った。そんなこと言われても、ちっとも嬉しくはないだろうが、敗北を喫したマッハは、いま何を思うのか？

大会から3日後、マッハも出席のもと『PRIDE武士道』第一回目の記者会見が行われた。よく野生児と言われるマッハだが、さすがに3日でケガを完治させるのは無理な話だろう。やはり、マッハの『武士道』出場は不可能なのか？　それとも奇跡が起きるのか？　会見の模様は次のページへ、マッハGO！　GO！



激闘の結末は、インサイドガードの状態から長南の足を極めにいったマッハの顔面に長南のカカト蹴りが炸裂！　瞬く間に右目がドス黒く腫れ上がり、右目下付近をカットし、無念のドクターストップ



猪木アリ状態からダイビングパンチを放った長南は、そのままパウンドで攻め立てる。機会をみて立ち上がり、またもや懐に殴り込む長南!!　鬼気迫る連続波状攻撃がマッハを終始圧倒し続けた



豪快な反り投げからマウントをキープしたマッハだが、長南が見事に身体を入れ替える。マッハは胴回し蹴りから上のポジションを奪うも長南は再び脱出成功!







やっぱり折れてた!!

ああ無情！ 再々検査で右目眼窩底骨折発覚!!



会見冒頭で榊原代表は「桜井選手本人は昨日まで出たいと言ってましたが、骨折が判明したため出場させられないという結論になりました」との衝撃事実を明かした

マッハ、出場志願も空しく『PRIDE武士道』無念の欠場!!

構成／松澤チョロ
撮影／平工幸雄
designed by matsu（Two three）

ああ無情……。〝マッハ桜〟、『DEEP』に続き、『武士道』でも咲かせられず!!

9月18日、都内ホテルで行われた『PRIDE武士道』一回目の記者会見の冒頭で、DSE代表取締役・榊原氏から、桜井〝マッハ〟速人の欠場が発表された。会見前日までの一部報道では、本人の出場の意志も強く、さらに負傷箇所は骨折の形跡が見られないとの診断結果を受け、出場濃厚と見られていたマッハだったが、再々検査により右目眼窩底骨折が発覚、全治4週間との診断が下され、無念の欠場となった。

榊原代表は「ポスター等でも発表させていただいていた通り、参戦が内定していた桜井〝マッハ〟速人選手が、右目眼窩底骨折により出場が出来なくなってしまいました。桜井選手本人も右目がどういう状態でも出たいと言ってくれていたんですが、プロモーターとして、やはり眼窩底骨折をしている選手を出場させることは出来ないと判断しました」と語った。

腫れは引いていたが、目の周りはアザでドス黒くなった顔で会見に出席したマッハは「期待していただいた方には申し訳ないです。結果的には試合はできなくなってしまいましたけど、気を引き締めてこれからも頑張ります」とだけ語ると以降はノーコメントで会見場をあとに。

DSEではヘンゾとマッハの対戦を予定していたようだが、マッハに代わる形で参戦が決ったのは〝褐色のサムライ〟ことカーロス・ニュートン。榊原代表によると「〝日本vsグレイシー〟というテーマを発表した時からニュートンは『自分を日本チームに入れてくれ』と言ってきていた」とのこと。また「桜井選手本人にも相当いろいろな思いがあると思いますが、この屈辱を乗り越えて、精神、肉体を最高の状態にして、また出ていただこうと思っています」と、次回以降の参戦に期待を寄せていた。

今回、マッハ、三島らの参戦の話は佐伯代表が橋渡しした形となったわけだが、改めて『DEEP』との関係を聞かれた榊原代表は「業務提携です。『PRIDE』に出ている選手が『DEEP』に出場するとか、逆に『DEEP』に参戦している選手が『PRIDE』や『武士道』に出たいという要望があれば、それを受け入れ

初遭遇！佐伯AD（自称）と髙田本部長が舌戦!?



この日の会見にはＤＳＥと業務提携をしていくことになった『ＤＥＥＰ』佐伯繁代表も出席。髙田統轄本部長とは初顔合わせということで、『ＤＥＥＰ』での会見とは一転して終始緊張の面持ち。『武士道』ではどういったことをしていきたいか、との質問が飛ぶと「私は自称アシスタントディレクターとして、マッチメークもそうですけど、会場の掃除から弁当管理まで一生懸命やっていきたいと思います」と、佐伯代表らしいコメント。すかさず髙田本部長は「佐伯代表！　弁当管理はボクがやります。弁当管理だけは譲れない」と抜群の切り返しを見せ、会見場は爆笑の渦に。さらに髙田本部長は三島の名前を「三島・星のマーク・ド根性ノ助」と読み上げる一幕も。お前ら、みんな男だッ！



会見当日は「さすがにネクタイを締めて出席しようと思った」と言う佐伯アシスタントディレクター（自称）だったが、やはりというかワイシャツのボタンが留まらずネクタイを締めることはアッサリ断念したという



日本vsグレイシー以外のカードについて聞かれた榊原代表は「『武士道』としては初めての大会になるので、マッチメークも含めいろいろ試行錯誤している。『PRIDE』の魅力を堪能できるカードを今月いっぱいまでに決めたい」



グレイシーチームの監督はホイスが務めるとの発表があったが、髙田本部長は日本チームの監督はやらないのか、との質問が飛ぶと「気持ちは当然、日本人を応援しますが、中立の立場で解説席から観戦します」とコメント

いざ、グレイシー狩りへ 三島、高瀬、中村出陣!!



この日の会見に出席したのは10・5『PRIDE武士道』でグレイシーチームと激突する三島☆ド根性ノ助、高瀬大樹、中村和裕の3人。浜中和宏は現在アメリカへ修行中のため欠席となった。3人の試合に対するコメントは次のとおり。ハウフ・グレイシーと対戦する三島「一番ちっこい階級なんで、ちっこいなりにスピードと技で見せれればと思っています。『PRIDE』は総合のイベントの中で世界最大だと思うので、出られるのが嬉しい。どうせ出るなら『三島を出して良かった』と思われる試合を心がけます。ハウフはさっきプロフィールを見て初めて顔を見ました（笑）。気性が荒いらしいのでハイアンをイメージしてやりたい」。ダニエル・グレイシーと対戦する中村「チャンスは何度もないと思うので、チャンスを活かして勝つだけです。相手は打撃の技術が向上しているので、それを意識して練習します。自分も打撃に力を入れているのでそれを見せたい。絶対に勝ちます!」。ホドリゴ・グレイシーと対戦する高瀬「今回のグレイシーの中で自分の相手が最強のグレイシーだと思う。アンデウソン（・シウバ）より強いと思うので、死闘になると思います。でも必ず勝ちたい」



ることも考えていきたい。そういう面でも、佐伯社長とは力を合わせていきたい」と、今後も協力関係を結んでいくことを発表した。

とにかく、いまはマッハの一日も早い戦線復帰を祈ろう。〝マッハ桜〟満開はいつになる!?

やる前から波乱続出！　10.5『PRIDE武士道』
これが日本vsグレイシー、5vs5対抗戦全カードだ!!



マッハ欠場！ 大ピンチの日本選抜に
“リアル・グレイシー最強軍団”
チーム・ヘンゾが立ちはだかる!!



10・5『PRIDE武士道』の〝柱〟である、「日本選抜vsグレイシー一族、5vs5全面対抗戦」のカードが遂に決定した！

日本選抜は、前頁掲載の通り、〝大将〟が内定していた桜井マッハ速人が、9・15DEEP大田区大会での長南亮戦で右目眼窩底骨折の重傷を負い無念の欠場。『武士道』の〝主役〟とも言えるマッハの欠場はあまりにも痛いが、その代打としてカーロス・ニュートンが出場することとなった。

いくら〝褐色の宮本武蔵〟の異名を持つとは言え、ニュートンが「日本代表」として出場することに違和感を感じるファンもいるかもしれない。しかし、ニュートンは、かつて日本に住み、かなりの日本語を喋る〝日本人より日本人らしい〟精神を持つと言われる選手。ま、「モンターニャには帰化してもらって、ラモス瑠偉さんみたいに日本名をつけるのもいいかも〜（谷川P・談）」よりはマシということで、ここは素直にヘンゾvsニュートンというスーパーテクニシャン同士の珠玉の一戦を堪能しよう。

その他の日本代表は、高瀬大樹、中村和裕、三島☆ド根性ノ助、そして髙田道場の新星・浜中和宏。浜中は現在、『武士道』に向けてアメリカへ飛び、ランディ・クートゥアー、ダン・ヘンダーソンらと特訓中。マッハに代わる〝大将〟としての出陣だけに、一本勝ちでの打倒ハイアンに期待したい。

さて一方、若い日本選抜を迎え撃つグレイシー一族からは、ヘンゾ、ハイアン、ホドリゴ、ダニエル、そして日本初登場となるハウフが出場。総合格闘技界では未だ特別な存在である〝グレイシー〟の名を持つ戦士が、一度にこれだけ揃うのはもちろん初めてだ。しかし、そのグレイシー・ブランドの神通力もここ数年陰りが見えるのも確か。

ここで若い日本勢に負け越すようなことが

日本選抜vsグレイシー 5vs5全面対抗戦

マッハの代打は“褐色の侍”カーロス・ニュートン! 浜中は“大将”に大抜擢!!

大将戦



浜中和宏 Kazuhiro Hamanaka （高田道場）

ハイアン・グレイシー Ryan Gracie （ハイアン・グレイシー柔術アカデミー）

副将戦



高瀬大樹 Daiju Takase （フリー）

ホドリゴ・グレイシー Rodrigo Gracie （グレイシー・バッハ）

中堅戦



中村和裕 Kazuhiro Nakamura （吉田道場）

ダニエル・グレイシー Daniel Gracie （ヘンゾ・グレイシー柔術アカデミー）

次鋒戦



©Booker K

三島☆ド根性ノ助 Dokonjonosuke☆Mishima （総合格闘技道場コブラ会）

ハウフ・グレイシー Rarph Gracie （ハウフ・グレイシー柔術アカデミー）

先鋒戦



カーロス・ニュートン Carlos Newton （ウォリアー・マーシャルアーツ・センター）

ヘンゾ・グレイシー Renzo Gracie （ヘンゾ・グレイシー柔術アカデミー）

ここで若い日本勢に負け越すようなことがあれば、いよいよ一族の権威は失墜。今回が在庫一掃処分セールになってしまう可能性もある。それだけに、グレイシー側も並々ならぬ決意を持って挑んでくることだろう。

ただ、ファンの中には、今回のメンバーについて、ヒクソンを頂点にしたエリオ一派でないことを物足りなく感じる人もいるかもしれない。しかし、先日、〝最後の対戦相手〟を求めて、よりによって新日本プロレスの会場にのこのこ現れ〝信者〟を大いに失望させたヒクソンや、『アブダビ』で無名選手に一本負けを喫した38歳のホイラー、そして一族の中では決して強い方ではないと言われるホイスなど、全盛期を過ぎ現在のVTではどこまで通用するか疑問符が付く彼らより、今回のメンバーの方が現時点での実力は明らかに上と考えて間違いない。しかも、今回の5人は、ヘンゾの実の兄弟（母親も同じ）であるハイアン、ハウフ。そしてヘンゾを父のように慕うホドリゴ、さらに従兄弟であり愛弟子であるダニエルと、ヘンゾを中心とした、その結束力はいやま一族の中でもナンバー1。ここにホイスが〝監督〟として加わることに、ハイアンなどは「ホイスが俺たちのリーダーだって?」と、憤慨しているという話も伝わるほどなのだ。

つまり、今回集結した〝チーム・ヘンゾ〟こそが、現時点で最強にして、最も強い絆を誇る〝リアル・グレイシー最強軍団〟。ハッキリ言って、この対抗戦は日本人次世代エース候補たちの〝グレイシー越え〟を期待して組まれたものだが、日本全滅も大いにあり得る!

はたして、日本格闘技界に新たなるスターが誕生するのか、それともグレイシー復活祭となるのか、10・5『武士道』はまさにやるか、やられるかの合戦なのだ。

ロシアン・トップチームが
秘密兵器を投入!!



幻想高まることこの上なし！“未知の強豪”が揃い踏み!!

ロシア軍・最強の男
セルゲイ・ハリトノフ
（ロシアン・トップチーム）

ヒョードル弟
エメリヤーエンコ・アレキサンダー
（ロシアン・トップチーム）

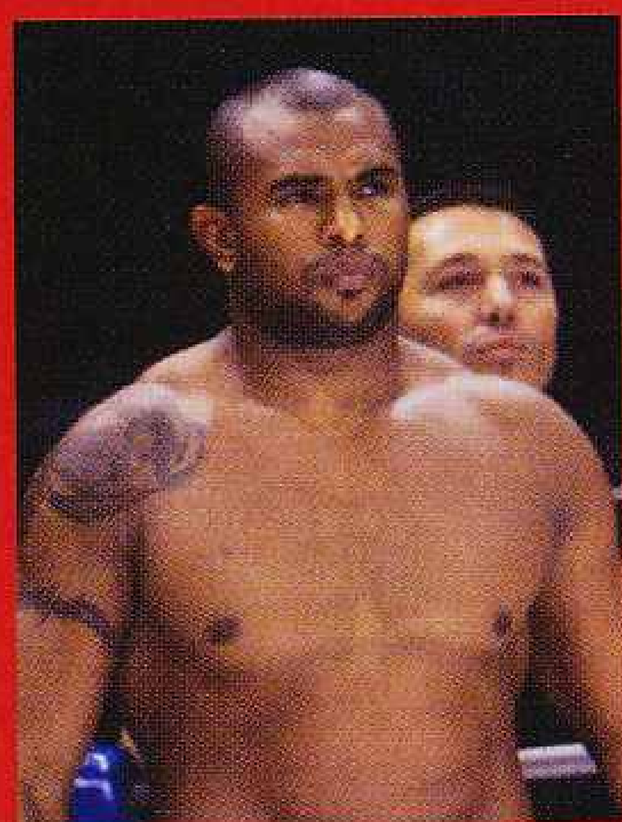


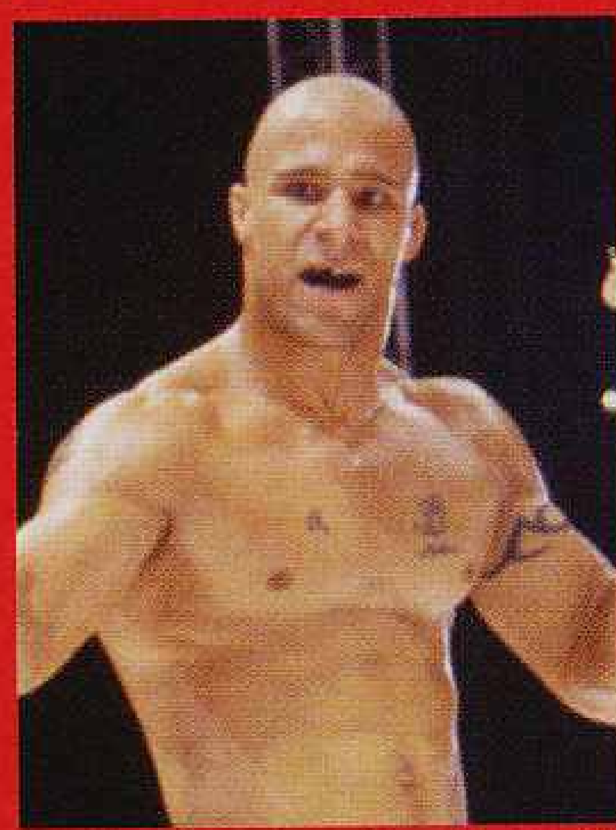
10・5『PRIDE武士道』に
ロシアが来る!!

決戦場を赤く染めるか!?

『PRIDE武士道』参戦予定選手


山本宜久
（高田道場）


アスエリオ・シウバ
（シュートボクセ）


フランク・トリッグ
（リアリティ・マネージメント）


小路晃
（フリー）


マリオ・スペーヒー
（ブラジリアン・トップチーム）

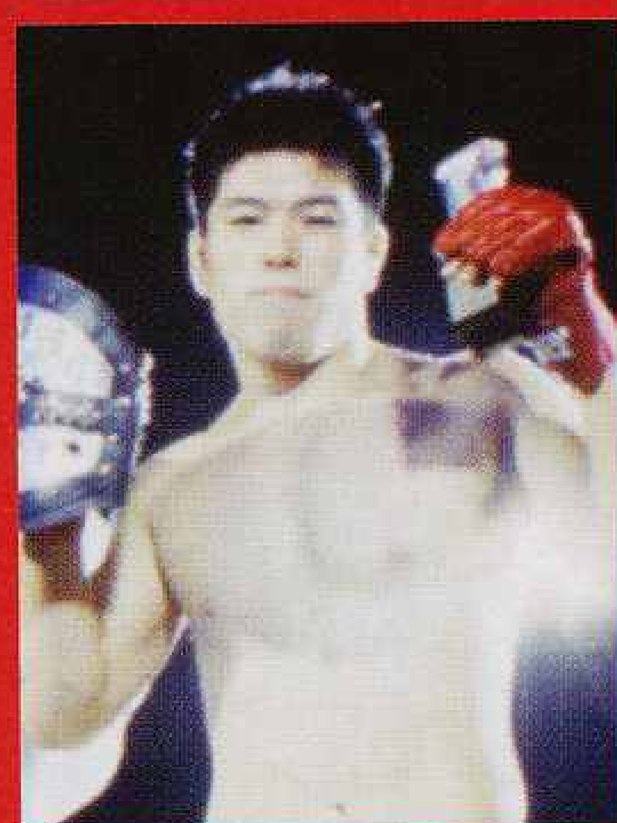
10•5『PRIDE武士道』

【会場】さいたまスーパーアリーナ

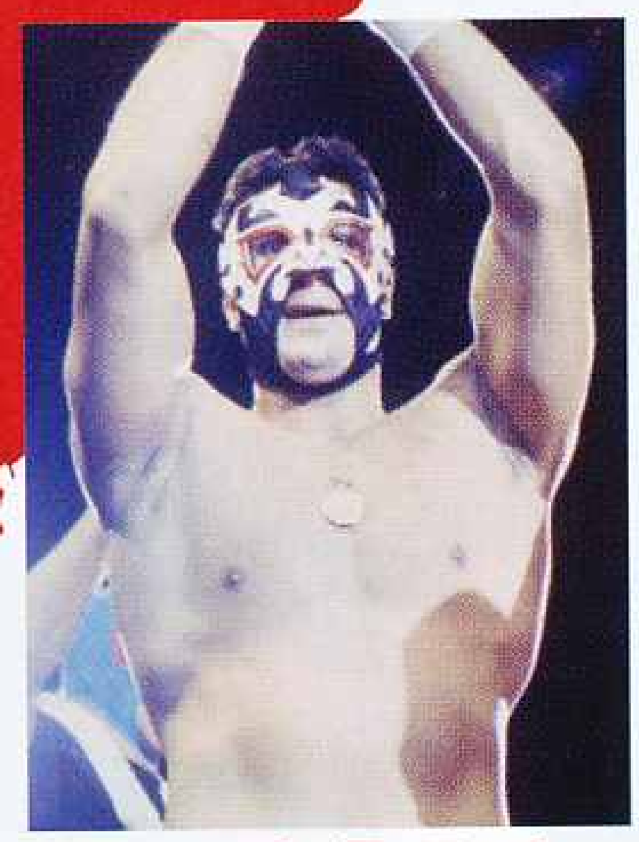
【開始】17:00

【チケット】VIP席￥50,000（専用入場ゲート・グッズ付）
RRS席￥23000／スタンドS席￥13,000
スタンドA席￥6,000

【お問い合わせ】
ドリームステージエンターテインメント
TEL◎03-5464-1531
HPアドレス◎http://www.so-net.ne.jp/pride/


大久保一樹
（U-FILE CAMP）


光岡映二
（慧舟會）


ドス・カラスJr.
（AAA）

危険な日本デビュー!! ヒョードル弟、アスエリオ・シウバと激突!?

『武士道』に、ロシアが来る!!

前号の本誌にて、ロシアン・トップチーム（以下RTT）総監督のパコージンより紹介された〝ロシアの秘密兵器〟が『PRIDE武士道』に参戦決定！ ハン、コピィロフらが礎を築き、ヒョードルを輩出した格闘帝国ロシアから新たな戦士たちが日本に登場することになった！

今回、『武士道』に参戦するのは、現『PRIDE』ヘビー級王者・ヒョードルの実弟、エメリヤーエンコ・アレキサンダー。そして、〝ロシア軍・最強の男〟セルゲイ・ハリトノフ。両者ともまだ20代前半と年齢は若く、将来のRTTを背負って立つ逸材である。

アレキサンダーは198センチ、115キロという巨体を誇り、あのヒョードルが「私と動きは変わらない。練習でも私と変わらない強さを持つ」と、その実力に太鼓判を押す。両肩から両腕を覆うタトゥー。妖気漂うツラ構え。兄とは違った怖さを感じさせる！ そのアレキサンダーの対戦相手には、シュートボクセの強豪、アスエリオ・シウバが有力視されている。ドウ猛な打撃が武器のアスエリオ。『PRIDE』のリングでは、ヤマヨシを11秒で殴殺、オーフレイム兄から一本を強奪した猛者だ。VTデビュー戦となるアレキサンダーにとっては厄介な強敵となるが、その未知の実力を計るには持ってこいの相手となる。

一方のセルゲイ・ハリトノフは、サンボ、コマンド・サンボでロシア軍・最強だった剛の者！ あのヒョードルを超える逸材と言われており、現在の実力は『PRIDE』王者と五分と、ロシア関係者は胸を張る。相手には、かつてK—1に参戦経歴があるジェイソン信長などが候補に挙がっている。

実は、ヒョードル以外の選手がまだ勝ち星を挙げていないRTT。それだけに、アレキサンダー、ハリトノフに懸ける期待はとても大きい。ミルコの電撃参戦、グレイシーvs日本の対抗戦が柱となる今回の『武士道』だが、RTTが満を持して放つ〝秘密兵器〟にも要注目だろう。

さて、ロシア勢絡み以外カードだが、こちらも21日時点で正式発表はされていない。参戦が有力視されていた〝香気な猪木〟ことLYOTOは『ジャングル・ファイト』で快勝後、体調不良を訴えたため参戦は見送られそう。突如参戦が浮上しているのがフランク・トリッグだ。トリッグといえば、桜井〝マッハ〟速人に敗れるまでは〝中量級最強〟の呼び声も高かった実力者。「中量級」がコンセプトのひとつとして成立する『武士道』にピッタリなファイターといえる。

また、日本からは、髙田道場の道場マッチを勝ち抜いたヤマヨシの参戦が決定。アメリカ修行中の小路晃も〝日本復興〟に意欲十分であり、慧舟會からは光岡映二と岡見勇信の若武者、U—FILEの大久保ちゃん（たぶん本人は何も知らないと思うのでそっとしといてください）なども候補となっている。他にも、マリオ・スペーヒー、ドス・カラスJr.の登場も濃厚であり、いずれにせよバラエティ溢れるカードが出揃うことは確実な『武士道』。軽・中量級に加えて、〝何が飛び出すかわからない〟実験の場、格闘新ブランドの幕開けは間近だ！



マッハ『武士道』出場断念

殺ったのはお前だっ!!

亮

Ryo Chonan

[U-FILE CAMP.COM]

聞き手／ジャン斉藤

撮影／丸山剛史

designed by matsu (Two three)

9・15『DEEP』大田区大会。10・5『PRIDE武士道』を先に見据える桜井"マッハ"速人を「『武士道』には参戦させない!」との宣言通り、怒りのコブシで打ち砕いた長南亮。"一寸先は闇"な総合格闘技のリングではあるが、『武士道』のエースと目されていたマッハの敗戦には、まさかの衝撃が走った。マッハの野望、そして『武士道』をも揺るがす鉄拳を放った、してやったりの長南亮。お前は一体、何者なんだ!?

——昨日は見事な勝利おめでとうございます!!

長南　ありがとうございます（笑）。

——長南さんは久しぶりの『紙プロ』登場になるわけですけど。今日はマッハ戦を振り返りつつ長南さんの凄みというか魅力を再確認……。

長南　（遮って）それにしても、試合前に『紙プロ』さんが取材に来ないで良かったですよ。本当にありがとうございます!

——そ、それはどーも。言ってる意味はサッパリわからないですけど（笑）。

長南　いやぁ、試合前に『紙プロ』の取材を受けると負ける選手って多いじゃないですかぁ?（ニヤリ）。

——そ、そうなんですか?　だから試合前には来るんじゃない、と（笑）。

長南　グッフッフッ。試合後に来てくれて感謝してますよお（笑）。

——そ、それはどーもです……って、そんなことより!　長南さんがマッハさんを病院送りにしたことで、『PRIDE武士道』（以下『武士道』）が大変なことになっちゃったわけですけど。

長南　いや、自分は最初から「出場は阻止します!」って言ってましたからね。有言実行しただけですよ。フフン。

——右目眼窩底骨折に追い込んで、宣言通りに任務遂行したというか。

長南　でも、ホントはマッハさんが『武士道』に出ようが出まいが関係なかったんです。「俺は負けない!」ってことを捻って言っただけでリップサービスの部分がありましたよね。

——でも、自分との試合が先に決まっているのに、その2週間後に『武士道』参戦を決めたマッハさんに対して怒りの気持ちはなかったんですか?

長南　それはありましたねえ。向こうは「一本勝ちができるから長南戦を受けた」とか言ってたみたいですから。

——それは本当なんですか?

長南　本当かどうかわからないけど、複数の人から聞いていたんで確かな情報なんじゃないですかぁ。それはムカつきましたね。だって自分と闘ってきた対戦者も冒涜することにもなりますからね。

——マッハさんが前日の計量会見で「失礼なのはわかってるけど、明日は"試合の前の試合"だから」と言ってたことにもハラが立ったりしたわけですか?

長南　別に何を言っても構わないけど、『DEEP』がないような言い方だけはしないでほしかったですよ。『武士道』ばっかで『DEEP』はもう終わっているかのようなな。あとになってみれば格好悪い話ですけどねえ。

——でもマッハさんって、ああいう性格ですから別に悪意はなかったと思うんですよ。

長南　だったら、もうちょっと気を遣って喋ってくださいよ。尊敬しろまでは言わないけど、対戦相手に不快感を与えちゃダ



狂拳怒蹴炸裂!　マッハを病院送り!!

U-FILEの異端児

"赤い暗殺者"マッハの野望を砕く!!

「驚くな。関係者や選手の間では俺の勝利は当然の結果だった」

長南

メですよ。ボクはマッハさんに相当憧れてたんですけど、まったくブッ壊れたところもありましたね。

――その憧れだった選手と実際に闘ってみていかがでした？　試合後に「あんまり強くないと思った」と言ってましたけど。

長南　最初に立ち会ったときの感覚でそう思ったんですよ。打撃を出したときに「これはいけるんじゃないか」って。でも、左カウンターをもらって一気に目が覚めたって感じでしたね。

――そのまま押し倒されてパウンドで攻められましたけど、危機感はありました？

長南　危ないとは思ったけど、あとあと尾を引くようなダメージをなかったし、負けるという感覚は終始なかったですね。

――逆にパウンドで攻め返したときに、マッハさんの「気持ちが切れた」のを感じたわけですよね。

長南　かなり弱ってるのがわかりましたね。組んだときのパワーもあんまり感じなかったし、別にマッハさんは最強じゃないんですよ。人気とかを引っくるめれば、この階級では最高の選手だと思いますけど。実力からいったらわかんないスよ。

――「大番狂わせ！」という言われ方されてますけど、長南さんからすればそうでもないと？

長南　何回やっても倒す自信はありますよ（キッパリ）。出稽古で練習してる選手や、関係者だってみんな「長南が勝つ！」って言ってましたからねえ。自分でも驚く結果ではないです。それに、あの蹴りがたまたまなんて言うなら何回でも蹴れますよ！　だって、あの体勢で足を取りにきたんですからね。ああいう結果になりますよ。

※試合は3R中盤、インサイドガードの状態から足を取りに来たマッハの顔面に長南のカカト蹴りが連打で炸裂。マッハの右目はドス黒く腫れあがり、さらに右目下付近をカット。ドクターストップとなった。

――決定打となった顔面蹴り。そしてパウンドの攻めも強烈でしたけど、試合の流れを傾けたのはスタンドの打撃でしたよね。

長南　どうなんスかね？　たしかにスタンドで何度もパンチが入ってましたけど。

――長南さんはコブシをケガしてて、打撃の練習をしてないって聞いてますけど。

長南　練習してないわけじゃないです。コブシのケガが慢性化してるからミット打ちができないだけで。いろいろ工夫して練習してるんですよ。

――万全の状態じゃないけど打撃はあの破壊力。

長南　いや、万全ですよ。コブシ以外に足のケガも慢性化してるところがありますけど、誰でもケガは抱えてるわけですしね。ただそれに調子はかなり良かったんです。リングに上がってもフワフワしてましたね。

――その理由はなんでしょうか？

長南　いや、わかんないスけど。会場の雰囲気もあるんじゃないですか？

――そういえば、会場に空調設備がないから異常に暑かったですよね（笑）。

長南　暑かったですねえ。みんなウチワでパタパタやってるし（笑）。

――その異常な暑さに加えて、長南さんへの声援もさらに熱かったですよね。

長南　あの声援は長南軍団。田舎（山形）の友達です。バスを借りてわざわざ来てくれたんですよ。

――しかし、いくらなんでも途中の「殺せ！」コールは物騒過ぎましたよ（笑）。

長南　あれはヤバイですよねえ。注意しておきます（笑）。あと会社の人も応援に来てたんですけど、親方なんか興奮してリングサイドまで来ちゃって（笑）。

――長南さんってまだ大工の仕事は続けてるんですか？

長南　普通に働いていますよ。でも久松戦後は細かいケガを多かったから、このままマッハさんとやってもダメだなって思って。



負ける感覚はなかった。何回やっても倒す自身はありますよ

金銭的には厳しくなるんですけど、親方に「今回だけは休ませてくれ」ってお願いして、それで治療やら出稽古やらできたんですよ。だいぶ理解してもらってますね、会社には。コブシのケガが治ったら、また現場に戻って働きますよ。

――長南さんはそういった仕事の兼ね合いもあるから、もともとプロになるつもりはなかったんですよね。

長南　そうですね。試合一本でやってるプロと比べて、物理的に無理だと思ってましたから。いくらファイトマネーが入っても大工をやってたほうが給料はいいですからね。

――それ、佐伯さんが聞いたら「余計なことベラベラ喋らんといてよ！」と言いかねないですよ（笑）。

長南　いやいや、佐伯さんには感謝してますよ（笑）。けど、夢を持って普段は働いてるのが現実ですね。だから、年末にケガしてリハビリのために実家に帰ったときは苦戦しましたよ。

――ああ、須田戦直前に左足靭帯損傷の大ケガをしちゃいましたね。

長南　あの試合が終わった後、東京の借マンションを引き払って地元に戻ったんですけどケガで仕事も何にもできなくて、精神的にもかなり厳しかったんですよ。でも、また東京に戻るためには頑張るしかないって思って。足は痛かったけど、酷寒の地で

長南亮 〝成り上がり〟『DEEP』ロード





01・12・23／○vs冨宅飛駈（3R判定3―0）■ネオブラ予選アマチュアコンテンダーズ、『DEEP』フューチャーファイトを経て本戦初登場。〝哀愁のパンクラシスト〟を打撃で圧倒。判定ながらも完全勝利を飾った。「演出で硬くなった」と初々しいコメントを残している



02・3・30／○vs秋山賢治（1R4分22秒TKO）■美濃輪育久を苦しめた禅道会の強豪を殺リクのパウンド攻撃によりTKO！　一度はサイド・ポジションを取られた長南だがパワー&タイミングでスイープに成功。そのまま殴りかかり葬るという、長南らしい試合運びをみせた



02・6・9／●vs石川英司（2R判定0―2）■同門・上山が優勝したミドル級トーナメント。一回戦はグラバカ石川。再三ポジションを許しながらも怒濤の巻き返しをみせるが惜しくも判定負け。実は1ヶ月前バイクの交通事故に遭い、大ケガが癒えぬ状態での出陣だった



02・9・7／○vs臼田勝美（1R5秒TKO）■開始早々、ダッシュからの飛びヒザ蹴りでバトラーツ臼田の顔面を襲撃!!倒れ込んだ臼田に狂ったようにパンチを叩き込む長南！　わずか5秒の瞬殺勝利で有明コロシアムを震撼させた。臼田はアゴの骨を折る大ケガ……。



02・12・8／●vs須田匡昇（3R判定1―2）■靭帯損傷の右足を引きずりながらの入場。須田の寝技に苦しんだが、最終ラウンドにカウンターパンチを鼻筋にブチ込み鬼気迫るラッシュで須田を追いつめた。試合後、修斗王者・須田は鼻骨骨折の疑いのため病院に直行



03・7・3／○vs久松勇二（3R判定2―0）■復帰戦。花道を猛ダッシュで駆け抜けてリングインした長南。久松の堅い守りに阻まれて決定打こそなかったが、終始有利に試合を進めて判定勝ち。「しょっぱい試合でしたけど勝つことができました」と復活をアピール

大工をしながら凌いでいました。やっぱり諦められなかったんですよ。

――前にお話を聞いたときには、「いつでもやめる覚悟はある」と言ってましたけど、何か心境に変化があったわけですか？

長南　やっぱり須田戦が転機になりましたよね。1、2Rで劣勢で、3Rもあの調子だったら辞めたと思うんですよ。でも最後に逆襲できましたからね。

――右足一本で須田さんを追い込みましたよね。判定で負けたけど、勝った須田さんより評価が上がったというか。

長南　あの試合から上を目指すようになりましたね。もちろん、あそこまでできたのはファンの大声援があったからですし、その期待に応えたかったんですよ。その〝期待に応える〟イコール〝勝つ〟ことなんですよ、自分は。負けて光るなんてのは好きじゃないし、だったら罵声を浴びたいぐらいです。須田戦は特殊な状況だったけど、今回のマッハ戦も判定で負けて評価されるのだけはイヤでしたね。どうしても勝たなきゃいけない！　と思ってましたよ。

――内容よりもとにかく勝つ、と。

長南　そうです。膠着するドロ試合でも勝った方がいいですね。

――でも、長南さんの試合ってアグレッシブだからいつも面白いですよ！「内容が悪くても勝てばいいんだ！」と言う選手って、本当に膠着しちゃうもんですけど（笑）。

長南　いや、自分は本能的に動いてるだけですよ。

――良い試合をしようとする意識はまったくないんですか？

長南　攻めるってことを意識してるんですよ。パスや寝技よりも破壊技を狙いますね。

――つまり、とにかく殴りに行くわけですね（笑）。

長南　ダメージに与えられない動きはしないですねえ。パスされたってマウント取られたって痛いわけじゃないですよ。パンチを喰らわなければいいわけだし。

――それはそうなんでしょうけど（笑）。

長南　まあ、ファンだったときが長いから「そんな選手になりたい！」という気持ちがおのずとできたんだと思いますけど。

――そのファン時代に影響を受けた選手って誰ですか？

長南　プロレスファンだったころは、ロード・ウォリアーズですねえ。いつも秒殺してホント圧倒的じゃないですか。格闘技でいうとマイク・タイソンですかね。あと前田日明。

――納得しました！　危ない匂いに魅せられたわけですね（笑）。

長南　グッフッフッ（笑）。前田さんはかなり好きでしたねえ。本とかも全部持ってますから。

――長南さんはリングスファンだった流れでU―FILEに入門したんですよね。

長南　会社から近いのも理由になりますね。格闘技自体、5年ぐらいブランクあったんですけど。高校のときは極真をやってたんですよ。

――シュートボクシングの土井さんもいた道場でやられてたんですよね。

長南　極真には洗脳されてとこもありましたよ（笑）。週に一回行くぐらいであんまり練習はしなかったんですけど。

Ryo Chonan

――路上で実戦してたとか？（笑）。

長南　してないですよ（笑）。空手やってたころは闘わずして無敵になったんで。

――闘わずして無敵ですか？

長南　中学の頃にケンカで強い奴を2、3人倒してて。それで空手を始めたから、狭い街に情報が飛び交ったんですよ。

――長南がさらに強くなった、と（笑）。

長南　そういうことです（笑）。あとそのころはバイクも好きだったんですよ。

――族だったわけじゃないんですよね。

長南　違いますよ！　自分は走り屋だったんです。スピードを求めてたんですよ。

――でも、長南さんのその風貌だと、族と思われていたわけですよね。

長南　（一瞬固まって）……ま、まあ、世間的に見たらそうなんでしょうけどねえ。

――ワハハハ！　やっぱりイザゴザもあったわけですよね？

長南　いやあ、ないですよ！　あんまりヤンチャなことをした記憶はないんですよねえ。

――でも、『紙プロ』のインタビューで「地元のバーで飲んでたらいきなり背後から襲

われけど、しっかり制裁した」って言ってたじゃないですか（笑）。

長南　あぁ、あれは襲われたらやり返しただけですよ！

――そのケンカの理由を聞いたら「ん〜、何だったんでスかね？　よくわかんないですけど、まあ、オレは悪くないです。正当防衛ですから」って、なんだか微妙な言い回しをしてましたけど（笑）。

長南　いやいや、ウチの田舎はおかしいんですよ、ちょっと。瓶とか持って襲いかかってくる奴もいましたからね。

――ワハハハ！　メチャクチャ絡まれてるじゃないですか！

長南　いやあ〜、年に一回は必ず巻き込まれるんですよ（笑）。正月に帰った途端に絡まれたこともありましたからね。

――マッハさんを倒したことでますます絡まれそうですね（笑）。

長南　相手してらんないですねえ。まあ、きたらヤるけど（真顔で）。

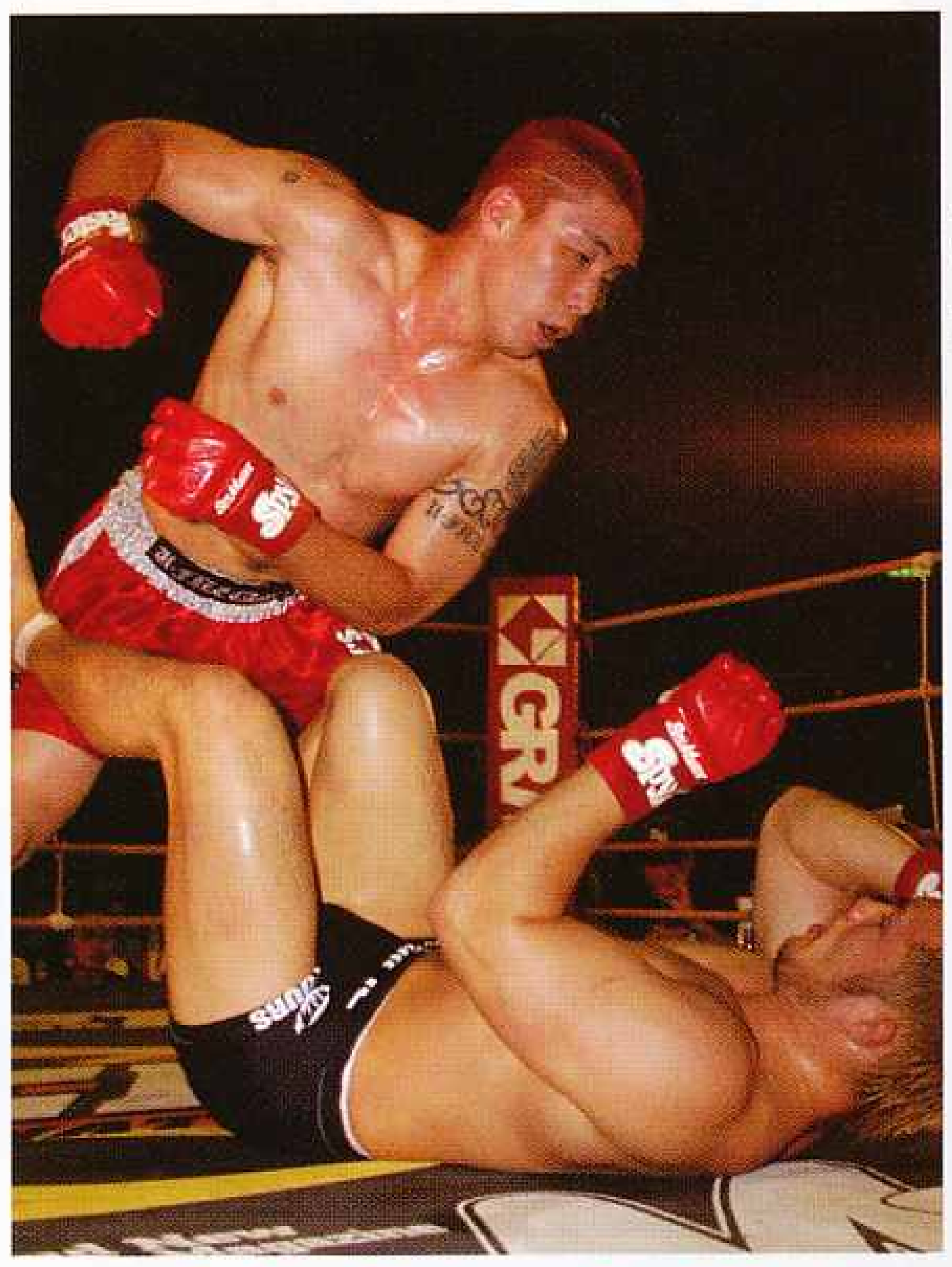
――お、押忍（笑）。逆に長南さんに憧れを持つファンも増えていくと思うんですけど。

長南　う〜ん。あんまり意識してないですけどね。こんなところで浮かれてらんないですから！　次が正念場だと思ってますから、絶対に気は抜けないし。

――次の試合となると、『武士道』なり上のステージも見えてきましたよね。

長南　今回の勝利でもう切符は手にしたと思いますね。マッハさんを倒したんだから、『PRIDE』や『武士道』に出ても誰も文句は言えないとは思うんですよ。

――まあ、佐伯さんが「ちょっと長南君、『DEEP』を忘れんといてよ！」と言うぐらいで（笑）。



マッハ『武士道』参戦の夢を木っ端微塵に打ち砕いた長南。リーチを活かした打撃が持ち味だが、どんな不利なポジションを許しても驚異の背筋力で跳ね返す。グラウンドにも優れたストライカーなのだ

Ryo Chonan

長南　もちろん『DEEP』には今後も出ますよ！　やっぱり『DEEP』が自分を育ててくれたんですからね。

――『DEEP』ではドスJrや上山さんなんかも光りましたけど、"生え抜き"の匂いが一番するのは長南さんですよ。

長南　だから、今回は『DEEP』を背負った気持ちがありましたね。こんなに修斗勢に侵食されて、軽くお金を稼ぎましたって感じで次のステージに行かれたら、『DEEP』で育った俺としたら「ナメるな！」って感じですよ。

――そんな意地もあったんですね。

長南　佐伯さんは誰も目を付けてくれない頃から、俺を押し続けてくれてたんですからね。すごく感謝してますよ！

――ちなみに『武士道』で闘いたい相手って誰かいますか？

長南　ガイジン選手とやりたいですねえ。

――そういえば、長南さんはまだガイジンと試合したことないんですよね。

長南　だから興味あるんですよ。世界に強いのはゴロゴロしてますからね。パット・ミレティッチとかマット・ヒューズとやれば面白くなるとは思うんですけど。

『武士道』の切符は手に入れたと思う。文句はないでしょう

――マ、マット・ヒューズと面白い試合。たしかに強い選手ですけど、すぐ膠着しちゃうイメージがありますよ。

長南　カタイ人なんですよねえ（笑）。凄い勢いでタックル来るから、このヒザを合わせられると思うんですよ。

――面白くする自信もあるし、勝てる自信もある？

長南　自信はありますよ！　実際に強い人たちと練習してますからね。

――長南さんはU－FILE以外に、高阪さんのGスクエアや吉田道場でも練習されてるんですよね。

長南　高阪さんのとこには1年以上前から御世話になってます。その流れで吉田さんのところにも行ってるんですよ。

――セコンドに付いた高瀬さんとも練習してるんですよね。

長南　あと中村（和裕）選手とも練習してますけど、マッハさんに勝てたのは高瀬さんの存在も大きいんですよ。一緒に対策を練ったり練習してくれて。それに高瀬さんは「強い奴なんかまだまだいますよ」「絶対勝てる」とも言ってくれて心強かったですね。高瀬さんはマッハさんをボコったアンデウソン（・シウバ）を簡単に極めてますから、そう言う権利はあると思うし。

――長南さんが勝ったときは、高瀬さんはメチャクチャ喜んでましたね。

長南　自分のことのように喜んでましたね。「興奮して寝られない！」って言ってましたよ（笑）。

――そこまで興奮しましたか（笑）。

長南　高瀬さんはいい同士だなって思いますね。寝技は鬼の強さですし、練習するとすぐ極められちゃうんですよ。

――長南さんも寝技の防御は凄いですけど。どんな体勢になっても必ず脱出して。

長南　いやあ、高瀬さんだと無理です。高瀬さんはアンデウソンにアームロックから三角絞めを極めたけど、あんなの余裕でできるんですよ。

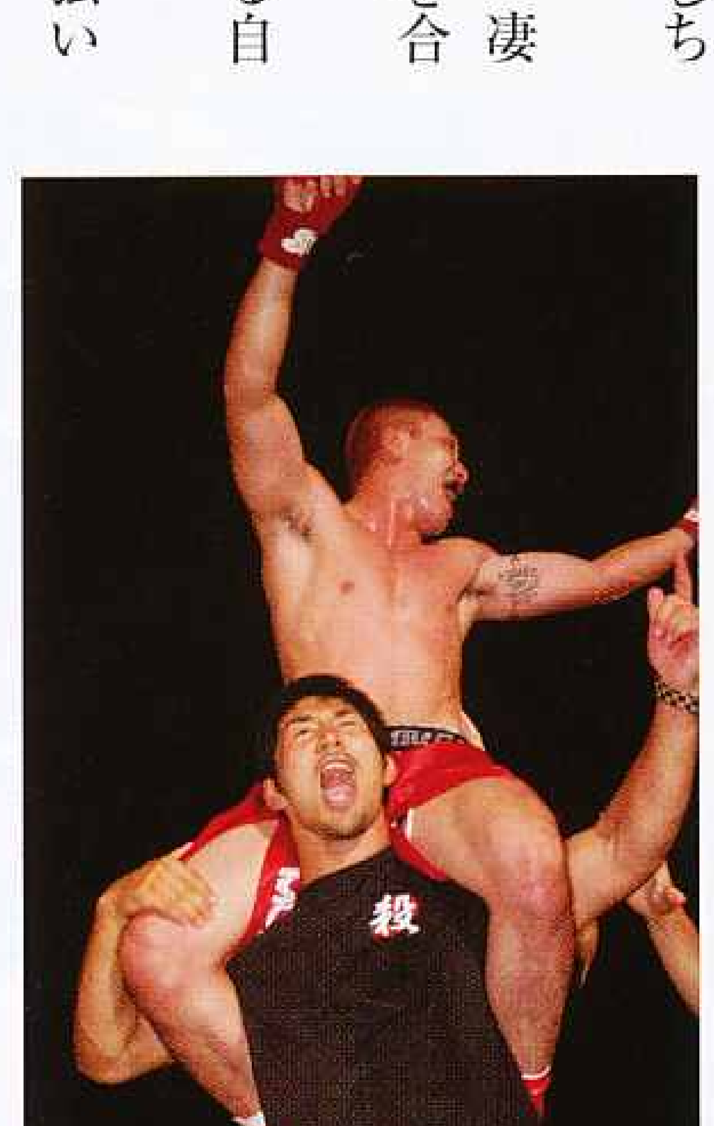
――高瀬さんは今度、『武士道』でグレイシーと闘いますよね。

長南　セコンドにも付きたいし、練習も協力したいですよ。高瀬さんも世界を目指してますから。

――そういえば長南さんは試合後、リング上から「高瀬さんとか、若い世代で世界と闘っていきたい」と言ってましたけど。

長南　一緒に闘っていきたいですね。高瀬さんは尊敬できる選手でもありますから。あと尊敬できる人といったら髙阪さんですね。すごい視野が広いというか、アマチュアレベルの選手の名前を知ってて特性も理解してるんですよ。自分の下に人が付くとしたら、髙阪さんみたいな人間になりたいです。引退して大工業一本になるとしても、ああいう親方になりたいですよ。

――師匠である田村さんはどうですか？　以前、長南さんは「ボクは定職に就いて自



マッハのセコンドには修斗・五味孝典が付いたが、長南側には「長南・殺」Tシャツを着た高瀬大樹。長南の勝利が告げられた瞬間、すぐさまリングを駆け上がり長南を祝福！　高瀬は『武士道』で難敵ホドリゴ・グレイシーを対戦。世界を目指す"同士"の活躍に続きたいところだ



【ちょうなん・りょう】1976年10月8日、山形県鶴岡市出身。高校時代は極真空手を学び、上京後U−FILE CAMPへ。入門時は上山龍紀いわく「とにかく目つきが危ない。一言で言えばチンピラ」で「家に遊び行ったら彫り師に入れ墨を彫ってもらっていた」男。大久保ちゃんに「マット界にこんな弱い奴はいらない。抹殺です」と一方的に宣告するなど、どこまで本気だかわからない口撃が冴え渡るU−FILEの異端児。175センチ、80キロ。

立している」から「尊重してくれることもあってか関係は薄いんです」と言ってましたけど。

長南　メチャクチャ薄いですねえ（笑）。

——今回の試合には、田村さんはセコンドに付いていなかったですよね。

長南　……それは前に「セコンド、付く？」って田村さんに聞かれて、「あ、まかせます！」って言ったからかなあ。

——普通は「お願いします！」って言いますよ！　長南さんは凄いなあ（笑）。

長南　も、もちろんU—FILEがあるから、いまの自分があるってのは感謝してますよ！

——逆に田村さん自身も長南さんを「向上心が強いタイプ」と評してるから、自主性に任せてるところもあるんでしょうか？

長南　というか、人に「やれ！」って言われてやってるようじゃダメだと思うんですよ、総合格闘技は。自分なりに考えたり開拓していかないと。自分が出稽古を行ってる理由も、U—FILE（登戸）では肉体的にも精神的にもプレッシャーをかけられる選手が田村さん以外いないんですよね。

——やっぱり田村さんは凄いですか。

長南　桜庭さんもそうですけど、『PRIDE』で自分より重い相手と闘ってるわけですからね。普通に考えたら、（ヴァンダレイ・）シウバなんかと闘えないですよ。

——ホントは一階級下ですもんね。

長南　でも、自分は同世代で「VTに勝ちたい！」って取り組んでる人間とやっていきたい気持ちが強いんですよ。田村さんは一世代上なわけですから。

——それが高瀬さんだったり。

長南　それと自分は〝長南亮〟として闘っていきたいんです。〝田村さんの弟子〟〝U—FILE所属〟だから試合に出れるんじゃなくて、自分の力で切り開いて行きたいんですよ！

——それはプロとしてあるべき姿ですよね。ちなみにU—STYLEに興味はないんですか？

長南　全くないですねえ。自分は動きで魅せたいわけじゃないですからね。

——将来的にもやりたい気持ちはない？

長南　う〜ん。VTで闘えなくなったらそのまま引退すると思います。何かにしがみついてまで、この業界に残りたい気持ちないですし。

——刹那的に生きたいというか。

長南　ただ、どうやってこの業界で生きていくかってことも悩んでますね。自分なんかまだまだですから。頑張らないと。

——お話を聞いて、長南さんには謙虚な部分と、強気というか傲慢というか、そういった二面性があるのを感じました。

長南　やっぱり強気ながらも謙虚さがないとダメですよ。自分1人でやってるわけじゃなくて、一緒に練習したり、応援してくれる人もいるわけですから。それに昨日、勝利の余韻に浸ってボロアパートに帰ったら、現実に虚しくなりましたからねえ。

——そこで謙虚になるわけですね（笑）。

長南　だから、もっともっと頑張りますよ！　来年の『武士道』、そして『DEEP』を期待していてください！

【03年9月16日／「ベイブリッジ向ヶ丘店」にて収録】

日本武道傳骨法

堀辺正史師範が吉田vsシウバの見所を早くも大解剖!!

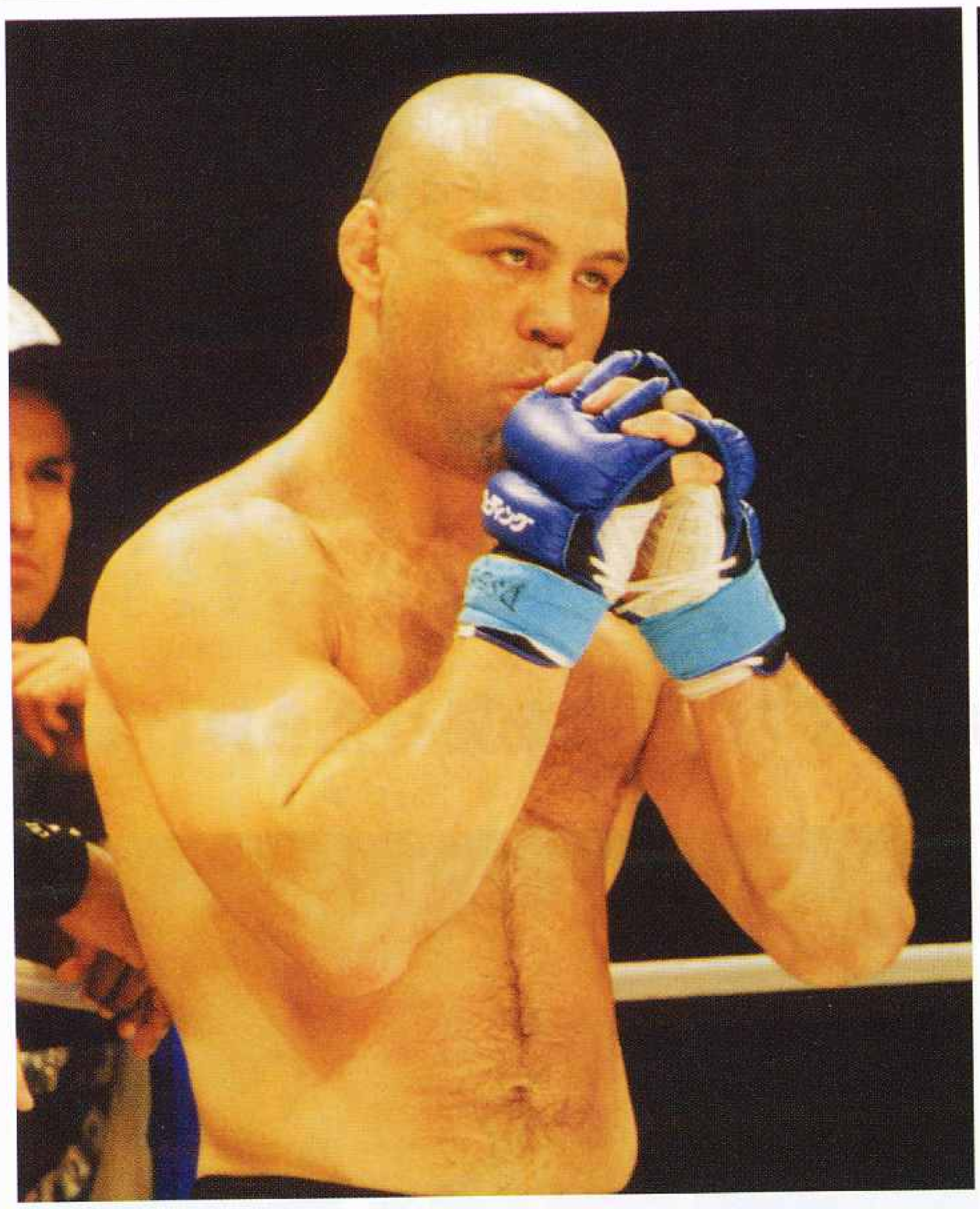
勝負の分かれ目は〝際(きわ)〟にあり！

またしても青春の大発見!!



聞き手／堀江ガンツ

designed by matsu (Two Three)



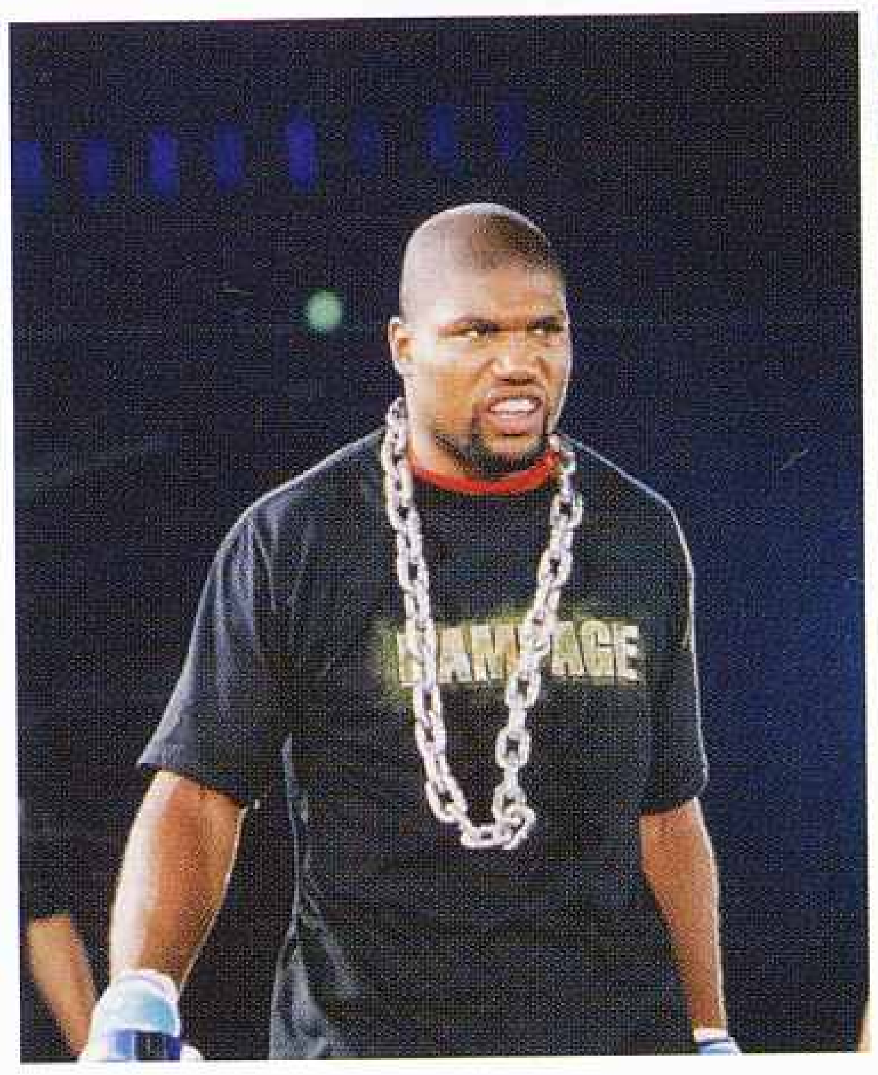


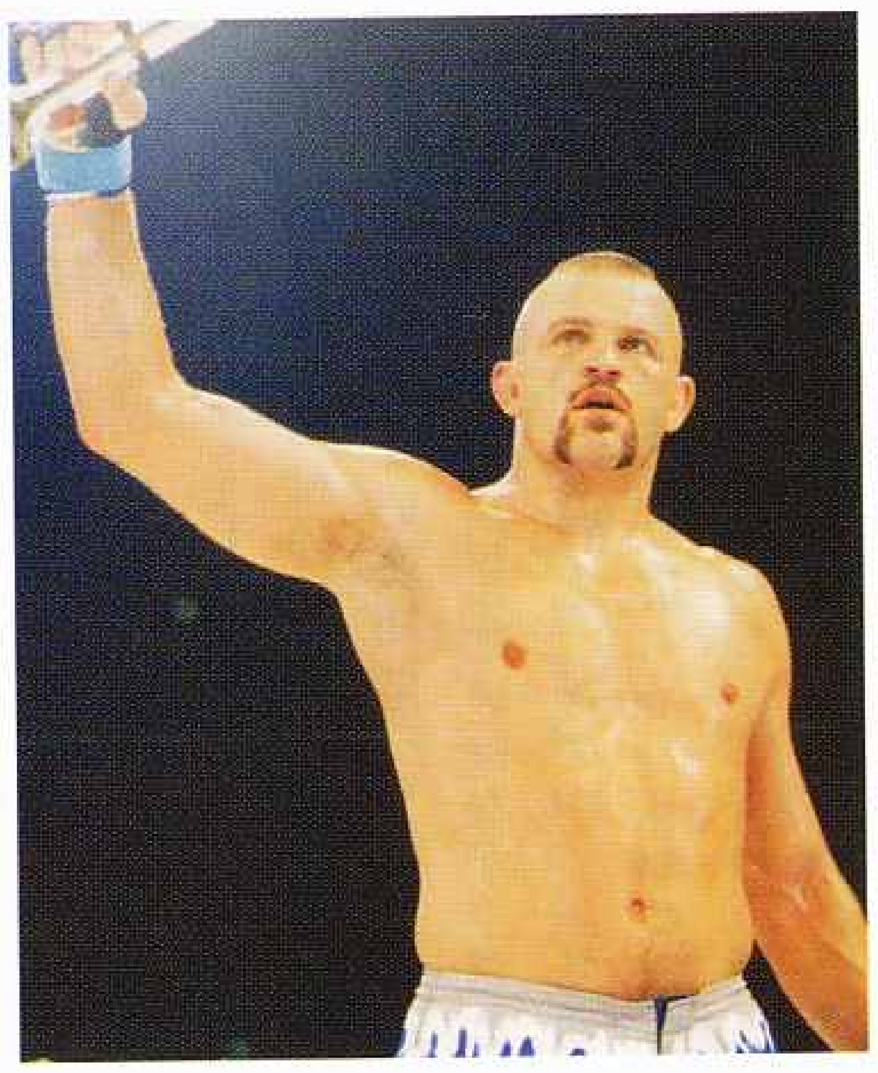
PRIDEミドル級グランプリ 11.9東京ドーム 決勝トーナメントで
“相思相愛”シウバvs吉田 実現濃厚!!

――先生、今日はちょっと気が早いかもしれませんけど、一足早く11・9東京ドームで行われる『PRIDEミドル級GP』決勝トーナメントの見どころを伺いに来ました！

堀辺　もう待ちきれないって感じすか？（笑）。

――ズバリ言って、気持ちは10・5『武士道』をすっ飛ばして、ドームに向かいつつあります（笑）。で、その『ミドル級GP』なんですけど、組み合わせ自体はまだ発表されていませんが、どうやら抽選で若い番号を引いた選手が対戦相手を指名できるようなシステムになるそうなんですよ。そうなると、お互いに「闘いたい相手」と言われる吉田とシウバの試合がいきなり実現することが濃厚なんです！





堀辺　ほぉ～。

――先生は吉田vsシウバという試合はどのように感じていますか？

堀辺　これはもう大大大大注目の一戦です！

――大が5つも付くほど注目の一戦ですか！（笑）。

堀辺　なんなら、もう2，3個つけてもいい！

――大が計8つもつく、と（笑）。では、その大が8つつくほどの注目ポイントを伺いたいんですが？

堀辺　はい。そのポイントというのはいくつかあるんですけど、まずシウバの方から話をすると、この前の桜庭戦からシウバに変化が起きてきてるんですよ。

――「変化」というのは、さらに成長してるということですか？

堀辺　そうね、いろんな意味で成長してる。その一番のポイントになるのは、シウバという選手は今までの試合は全部、自分から仕掛けて行ってアグレッシブに攻めまくるという形で勝ってきましたね。

――「主食・日本人」と言われるだけあって、肉食獣のように獰猛に襲いかかってました。

堀辺　そのアグレッシブに獰猛に攻め続けるってことが〝シウバらしさ〟っていうふうにもう理解されて、そしてそれが人気にも繋がっていた。勝つことと、アグレッシブな攻めで観客の心を喜ばせるという、要するに勝負論、観客論を含めて満足させてきたんです。でも、前回の桜庭戦では完全に観客がどう思うかっていうことを考慮しない試合をしたんですよォ！

――ああ、確かに自分から攻めずに〝待ち〟の態勢でしたよね。

堀辺　そうそう。そこのところにシウバの変化っていうのがあるんですよね。つまり勝負に対してより貪欲になってるということが見えるんです。だから人気も大切なんですけど、とにかく勝ちを取らなきゃダメなんだという、非常にリアルな感覚というのがシウバの中により確立したと。

――それとチャンピオンですから、そうでもしなければあの座は守り切れないということですよね。

堀辺　そうですね。だから『PRIDE』全体の試合内容が、増々そういうふうになってきてますよね。ハッキリ言ってみんな余裕がなくなってきたということですよね（笑）。

――観客論とかプロ意識とか言ってる場合じゃなくなってきたと（笑）。

堀辺　『PRIDE』のレベルが上がり過ぎちゃって、ホントはああしたい、こうしたいっていうのがあるんだろうけど、とにかく勝たないことには使ってもらえなくなるし、稼げなくなるわけだから。そういう意味で現実主義者というか、リアリズムというか、とにかく勝つだけしか考えないシウバっていうのが今回の試合でも重要なんですよ。そして今回は、それに対して吉田が向かっていくっていう構図になってくるわけです。

――では、吉田選手としては勝負に徹してきたシウバをどう切り崩すかという一番のポイントになるわけですね。

堀辺　そうです。吉田もね、柔道時代は金メダルを取るということが至上命令だったわけだから、見てる人がどう考えてるかっていうことはほとんど考慮しない試合を当然ながらしてきたわけですよ。だからそういう意味では吉田はリアリズムなわけです。そして、そのリアリズムのまま『PRIDE』に上がってきたために、一部からは「プロとしていいのか」っていう不満も出たわけですよ。

――そこが、いまいち人気の出ない理由だったわけですね。

堀辺　でも、いまや『PRIDE』自体がリアリズムになりつつあるわけです。だから吉田の勝負一本槍っていうものが『PRIDE』のリングとやっとマッチしたというか、そういう時期になったと思う。ただし、吉田の中にプロで数戦したことによって、「ちょっと面白い事をやらなきゃいけないかな」っていう価値観の変化が起きてるんならばハッキリ言ってそれは止めたほうがいいよ、と。

――そうなったら吉田じゃなくなってしまいますよね。

堀辺　技術云々以前に、もし彼の中にそういう変化が生じてるんだったら、それは大きな敗北に繋がります。というのも、この前の田村戦で吉田もちょっとそういう傾向が見えたんですね。

――あの試合は、打撃の間合いでの勝負になって大苦戦しましたね。

堀辺　あれは、田村のローキックでなかなか前に突っ込めない展開になってしまって、組みたくっても組みにいけなかったという部分もあるんだけど、彼の中で「ちょっと僕も打撃できますよ」、「ちょっと沸かしてやろうじゃないの」っていうね、そういう一面もあったように見えるんですよ。

――新しいものを覚えると使いたくなりますもんね（笑）。

堀辺　使いたくなる！　それと違った自分を見せたいっていう変なプロ意識！

――単なるプロ意識じゃなく、〝変な〟プロ意識なんですね（笑）。

堀辺　そう。あの試合でそういうふうに受け取れる部分があったんですよ。そういう芽生えが今回にも引きずって、あのシウバと自分だって打撃戦で結構やれますよってところを観客にアピールしようとしてるんだったら、これは間違いなく吉田敗北に繋がる大きな原因になりますね。だからメンタルな価値観、この部分が今回の試合では試合以前の問題として大きいと思いますよ。

――では、まず最初のポイントは吉田がこの試合にどういう価値観で挑むのかっていうことですね。

堀辺　これが試合展開を裏側で支える重要な要素なんです。吉田がとにかく、「魅せるもへったくれもない、勝ちゃいいんだろ」っていうふうに徹してくれれば吉田の勝利も五分五分なんですよ。逆にその変な気持ちがあるとしたら吉田敗北っていう方に天秤が傾く可能性が高い。要はどういう価値観でやるかっていうことですね。自分は最近それをシングルスタンダードとダブルスタンダードっていう言葉で言ってるんですけど、シングルスタンダードっていうのは勝ち負けだけにこだわる闘い方ですね。ダブルスタンダードっていうのはプラス面白い試合とか魅せる試合をすることです。そして今回シウバの方は絶対にダブルスタンダードで来ない。勝ちさえすればいいというシングルスタンダードで来てるんで、吉田も何がなんでもその考え方で臨んで欲しいということですね。

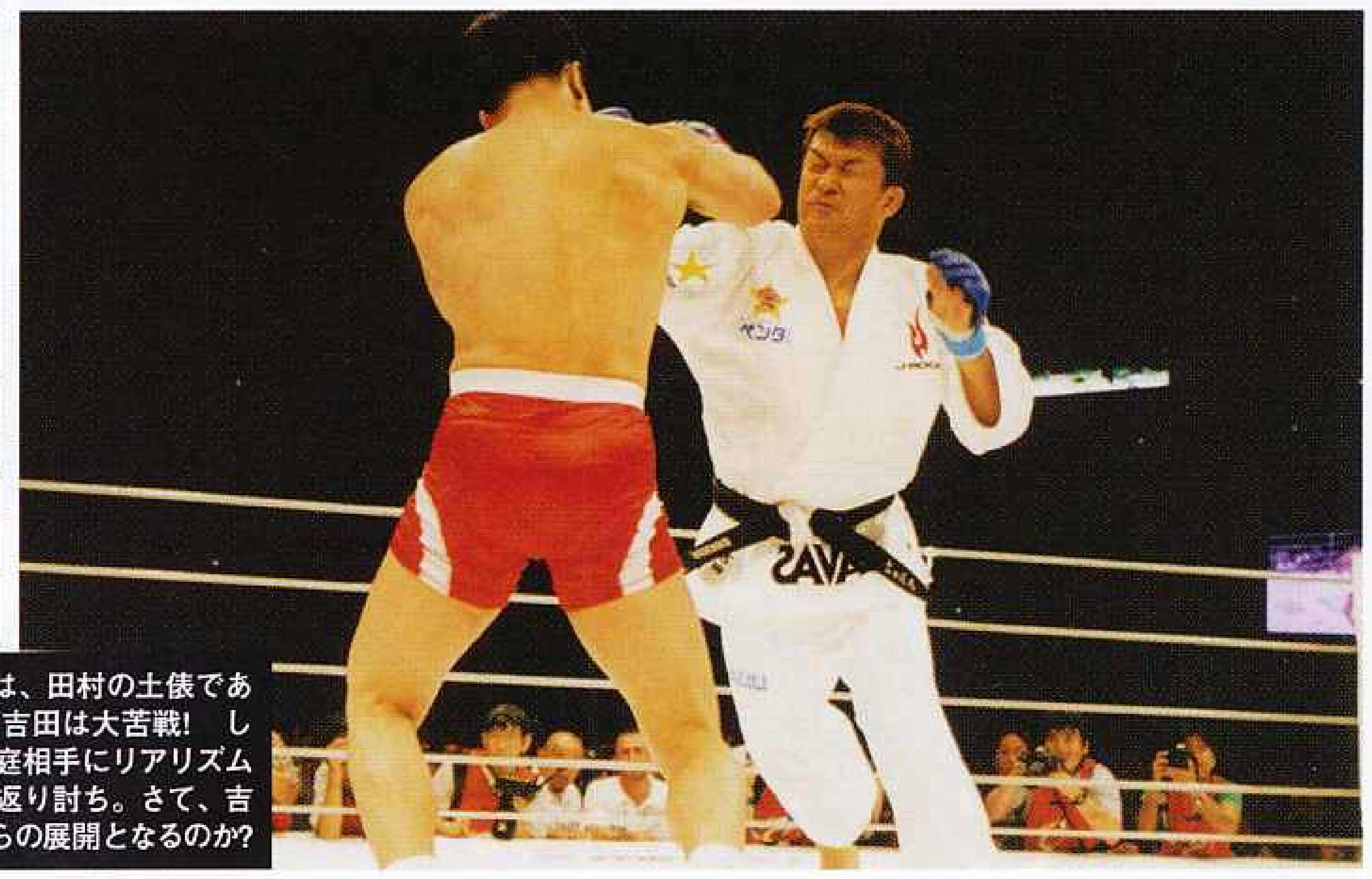
――なるほど、それが第1。

堀辺　そして次に技術的な面で言うと、シウバっていうのは『PRIDE』でストライカーとしての地位を築いてますけれども、ミルコの打撃と比べてどっちが上かと言われたら、おそらくみんなミルコを上げると思うんですよ。なぜなら、あのリングの中でシウバの打撃というのは下手に見えるから。

――確かに雑な感じには見えますね。

リアリズムのシウバに対して吉田が変なプロ意識を見せたら負ける





8・10の1回戦では、田村の土俵である打撃戦に挑んだ吉田は大苦戦！　しかし、シウバは桜庭相手にリアリズムに徹して、サクを返り討ち。さて、吉田vsシウバはどちらの展開となるのか？

堀辺　でも、雑そうに見えるからと言って、あの『ＰＲＩＤＥ』っていう戦場の中でミルコに劣るかっていうと、自分は決して劣らないと見てるんですよ。例えば、今までの試合を見ても彼がフックとかパンチを出してきた時、ほとんど腰が入ってないんですよね。上体だけでポンポンやってるでしょ？

——ボクシングで言うと手打ちに見えますね。

堀辺　そう。でも手打ちだからこそ圧倒的に手数が増えるんですよ。そして手数が多いからこそ、シウバのパンチっていうのは相手の多様な動きに対して追って行けるんです。そこが逆に下手に見えるんだけど、総合の試合ではタックルや組んでくることを考えた場合、手数の多さっていうものが凄く有効になってくる。桜庭戦にしても、あの手数の多さで幻惑してるんですよォォ！

——どこからでも打撃が飛んできそうで、タックルに入れないわけですね。

堀辺　そうなんです。逆に腰が入ってるパンチは空振りしたとき大きな隙ができるから、吉田なんかだったら別にタックルを使わなくても柔道的な組技でガッと入れるんだけども、ああいう小さなパンチを打って来られるとなかなか取っ組むっていうことが難しくなる。そういう意味でシウバの打撃っていうのは、下手そうに見えるけれども、組んでくる人に対して考え抜かれているっていうところが要注意なんですよ。

——はぁ〜、ある意味、高等戦術なんですね。

堀辺　その部分を見落としちゃいけないってことですよォ！　シウバだったら大丈夫じゃないかっていう人がいるかもしれないけど、かえって吉田みたいな選手にとってあれはやりづらい。しかもシウバっていうのはヒザ蹴りもある。手数の多いパンチを顔面めがけてボンボン狙ってる時に強烈な膝蹴りが入ってくるんで、よりやられる確率が増すんですよね。つまり打撃で交わらなければならない局面っていうのは考えてる以上にシウバが有利なんですよ。だから吉田は変な色気を見せずに、絶対に打撃に付き合わないことが必要です。

——これまで通り、ガッチガチのアマチュア戦法で行け、と。

堀辺　そうです。どんなパンチが来てもとにかく突進することです！　ボブ・サップがアーネスト・ホーストと闘った時のようにひたすら前進してくっついてしまうというかね。打撃の一番の防御は前進してパンチやキックの距離を詰めてしまうってことが第一前提なんで、おもいきって踏み込めば当たったとしても大して効かないんです。

——そういえば安田忠夫もそれでジェロム・レ・バンナに勝っちゃいましたもんね。

堀辺　だから吉田がその戦法をとれば吉田の勝ち。倒したら絶対に吉田の勝ち！　何でそう言い切れるかと言ったら吉田に上に乗っかられた時にシウバは動けないから。

——シウバは動けない？　そこまで断言できちゃいますか⁉

堀辺　動けない！（キッパリ）。

——でも、シウバも実は柔術の実力もなかなかのものだと聞きますけど。

堀辺　そうらしいね、でも動けない！　なぜなら吉田の押さえ込みというのは隙間を作って動こうとしても、その隙間を作らせない。動く余地を与えないんです。それだけ吉田の寝技のテクニックというのはブラジリアン柔術の人たちの動く、変化する、そこから極めにいくっていう柔術とは違うんですよ。だから吉田が寝技になると、なぜかみんな動けなくなってタップしちゃうでしょ？

——そうなんですよね。なんか乗っただけで終わっちゃうみたいな（笑）。

堀辺　そう、柔術家や総合格闘家の寝技は結構掛けられても動けるんですよ。だから吉田の試合を柔道の押さえ込みの破壊力を知らない人が見ると、「八百長じゃないか？」って声がでる（笑）。

——ガハハハハ！　確かに毎回、吉田選手が試合をするたびにネット上では「八百長説」飛び交いまくってます（笑）。

堀辺　それは八百長に見えるくらい、相手の身動きを取れなくする寝技なんですよォ！　だから、おそらくシウバとやってもそれぐらいの強さを発揮すると思うんです。

——じゃあ、先生の予想だと次のドームはまた「吉田、八百長じゃないか」って言われるような勝ち方で勝っちゃうと（笑）。

堀辺　寝技に持ち込んだら、そうなります！　でも、逆に打撃に付き合ったら最後、もうこれは圧倒的にあの局面ではシウバの強さが出て、吉田が失神ＫＯしてるっていう姿を我々は見る可能性は高い。

——吉田の失神ＫＯシーンですか。それは衝撃的ですねぇ。

堀辺　それと同様に、シウバが関節を極められたり、首を絞め落とされたりする姿を見せる可能性も高いけどね。



相手の動きを完全に制してしまう吉田の寝技。写真のドン・フライも上を取りながら身体の自由が奪われて何もできなかった。はたしてシウバも同じように仕留められるのか⁉

——じゃあ、どちらにしても衝撃的な結末を迎えることになるわけですね。

堀辺　待ち受けてますね。そういう意味でもこの試合は非常に面白いんですよ。明暗が凄いハッキリ分けられる試合じゃないかと。

——なるほどなるほど。じゃあ、「攻防」にはならないということですね？

堀辺　ならない！　どっちが勝つにしても長い時間はかからないんじゃないですか？　１Ｒ以内には終わると思います。ひょっとしたらもの凄い短い可能性もある、３分以内とかね。だからこれは、最高の攻撃と攻撃が交差して盾と矛がカチャーンとぶつかって火花を散らすようなそういう緊迫感のある試合展開ですね。火花が散った後はどっちかが倒れていると。

——では、ファーストコンタクトから重要ですね。

堀辺　非常に重要です。それと今回の吉田vsシウバというのは、おそらく完全に組んでる時とか完全に離れてる時とかじゃなくて、組んでいたときの離れ際とか、寝っ転がった人が立ち際とか、そういう〝際〟の勝負になる！

——際！

堀辺　そう、〝際〟です！　これがすべての試合で勝負のキーワードになりますよ。なぜかと言うと今回集まった男たちは、そういう〝際〟を見逃さない連中なんですよォ！　だから一流なんです！

——際を見逃さない男たちですか（笑）。

堀辺　中途半端のどっち付かずの部分。この部分を見逃さない目っていうものを持ってる。そしてそれを一瞬でとらえて弱点を

吉田は寝技にさえ持ち込めば「八百長じゃないか」と思うくらいシウバを簡単に動けなくします！





『PRIDE』はいまK-1の全盛期のような時期に突入している

『PRIDEミドル級GP』だけでも見どころ十分なのに、そこへさらにこの超ド級のヘビー級頂上対決までもが実現！ この『PRIDE』の興行的モチベーションもまたどうにも止まらない。

攻めるというね。だからその際を攻められた時にはどうなるかわからないという今回の大きな一つの意図になってるよね。

——ますます目が離せないですよね（笑）。

堀辺 目は離せないですよ。おそらくシウバも今回は吉田の反応を見ながらここぞという時に一気に仕掛けると思いますよ。だからこの前の桜庭戦とちょっと似たような展開になる可能性は非常に高い。

——お互い睨み合いながらの心理戦みたいなものもあるわけですね。

堀辺 そういう緊張感がありますね。ただ、シウバと吉田のどっちが有利かと言えば、吉田がこういうルールの中で初めて打撃のスペシャリストと勝負するわけだから吉田にとって最大の危機ですね。これをもし吉田が突破したら、また『PRIDE』の歴史が変わります。髙田、桜庭と続いてきた第二段階で、「この世界は吉田」っていう期待が飛躍的に高まりますから、そうなれば『PRIDE』は新しい時代に突入していきます。

——吉田選手が成功したら、柔道界からもそれに続く大物も出てくるでしょうしね。

堀辺 出てくるでしょう。そういう意味では吉田に勝って欲しいね。ここで吉田が勝ってくれると『PRIDE』の遠心力、求心力がうんと増すと思いますから。吉田みたいになれるんだったらいっちょ俺もやってやろうかっていう力がやっぱり柔道をやってる人にも出てくるし、そういう人たちを呼び込む力にもなるんで、『PRIDE』の発展っていう観点から見ればシウバが負けたほうが面白いと思います。

——では、これは難しいと思いますが、先生はこの『PRIDEミドル級GP』優勝は誰だと思ってますか？

堀辺 いやぁ、これはホントに予測つかない！ これは誰に聞いても答えられませんよ。もの凄く高いレベルで実力が伯仲してるから、誰が勝ってもおかしくないし、誰が負けてもおかしくない。だから今回の『PRIDE』のカードは最高の贅沢ですよ、予測不可能だってことは贅沢なんですよォ！

——でも、一部ファンの間では、桜庭選手や田村選手といったスター選手が一回戦で負けてしまった事でこの4人ではどうかなっていう意見がありますけど？

堀辺 それは確かにあるかもしれないね。でもきっと全試合が終わった時にはそういった思いは消されると思う。

——とんでもないものを見たっていう満足感に浸りそうですか（笑）。

堀辺 格闘技はこんなに凄いのかっていう、改めて一流選手の闘いに対する凄さっていうものが出て、きっと『PRIDE』人気がさらに上がると思いますよ。そして……悪いけどプロレスが落ちるね！

——ガハハハハ！ またしても（笑）。

堀辺 そういうものを見ちゃうとまたジワジワとねプロレス界にも伝わるんじゃないかな。

——新日本がアルティメット・クラッシュとかもやってますけどね。

堀辺 そういうものにも影響を及ぼしてしまうね。質が全然違うから。

——次のドームはその凄いトーナメントがあって、しかもそれ以外にヒョードルvsミルコっていう大変な一戦も行われるんですよ。

堀辺 これホントにやるの？

——合意に達したんであとは発表を待つだけみたいですね。

堀辺 それをやったらまた凄いね。そしたらもう11月のドームが終わったら、みんな『PRIDE』に引きつけられるよ。いまの『PRIDE』はかつてのK-1の一

番いい時代、ホースト、アーツ、バンナ、フグが全盛期を迎えていたいい時代がありましたよね。ああいう時代にいま『PRIDE』は到達していると思うんですよ。

——ああ、なるほど。そのK-1は今いろいろ大変みたいですけどね（笑）。

堀辺　なんか最近のK-1はちょっと変なのが多いですよね。本来の姿を見失って、K-1がK-1じゃなくなりつつあるようなそういう時期に重なってるので、より『PRIDE』に対する期待が高まるという力も作用している。

——じゃあ、今までK-1的なものが好きだった層も『PRIDE』に移っていくことがあるんじゃないですか？

堀辺　そういったことがどんどん起きてきますね。それはなぜかと言ったら、現代というのはリング内で行われる試合っていうものの厳しさ、勝負に徹した闘い方、これが観客を魅了する一番のポイントになってるんだよね。

——今、スポーツ界ってみんなそうですよね。サッカーもヨーロッパの最高のものを見たい、野球もメジャーリーグのトップが見たい。格闘技も『PRIDE』の一番最高のものが見たいと。

堀辺　そういう流れですね。だからこそ、先ほど言った選手がリアリズムになってきたということですよ。最近の『PRIDE』っていうのは勝てば自分の味方になるという、途中経過じゃなくて結果がすべてで人気まで左右されるというね、そこまでシビアになってきたこのシビアさっていうものが『PRIDE』の人気になってきてるよね。これも長い目で見たらきっと問題が出てくる時がくると思うんだけども今の時点ではこれでOKですよ。

——強い選手の試合っていうのはやっぱり遊びがなくても面白いですからね。

堀辺　面白いです。緊張感と息詰まるような何とも言えない球技とかにはないものですよね。格闘技の醍醐味と言ったら緊張感ですよ。お互いに相手を殺しに行くみたいな、それが格闘技のメインテーマだからそれが伝わってくるのね。シウバと吉田という違ったものがぶつかることによって格闘技という細かい事まで知らない人たちにとっても雰囲気でわかるような試合展開になる。

——見てるだけで、ひりひりしてきそうな試合ですよね（笑）。

堀辺　そういった試合こそ一般視聴者も虜にできるんですよ。専門的な事はわからないけども、テレビを通してその場の凄さが伝わってきて、お茶とか飲んでても全部その手が止まっちゃってね。

——ビール片手にとか、そんな感じで見れるものじゃないんですね（笑）。

堀辺　ない！　これは球技ではありえない世界ですよ。そのありえない部分がより強烈に出るってことが『PRIDE』をどうするかっていう鍵を握っているわけですよ。今回、参戦してる人たちがぶつかるとみんなそうなる可能性がある。

——格闘技の醍醐味だらけですね（笑）。

堀辺　そういうことです。

——贅沢ですねえ（笑）。

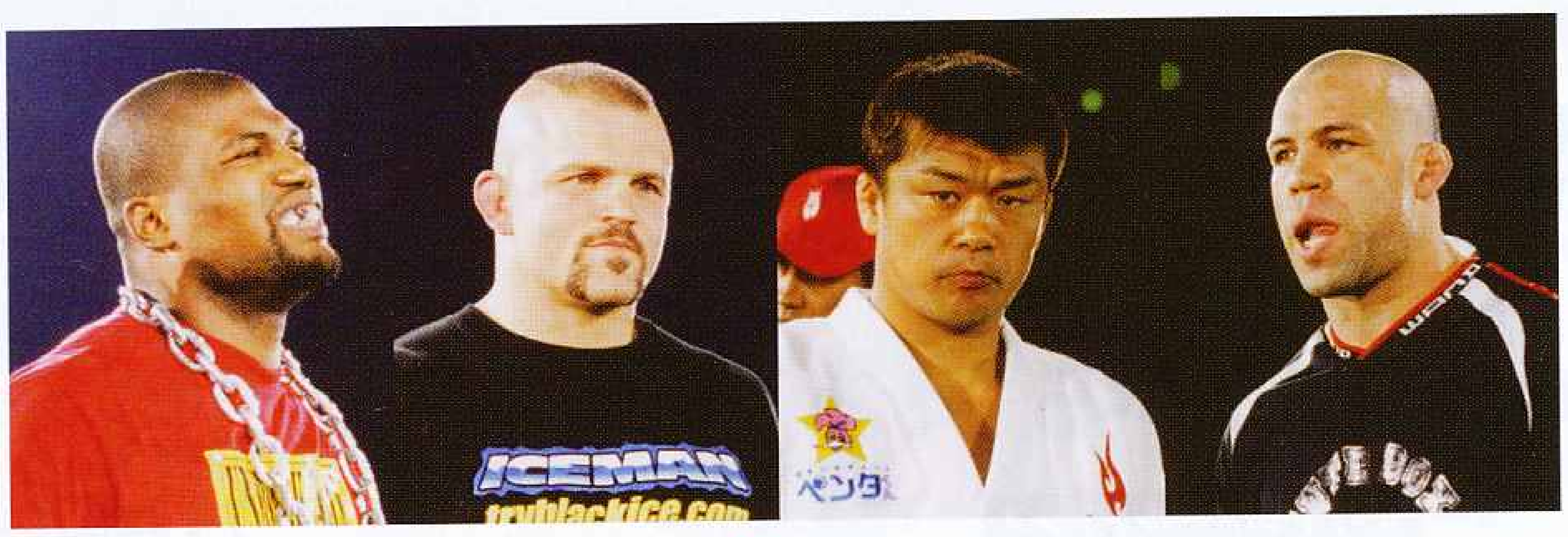
堀辺　だから、できたら東京ドームに行って、生でその空気を感じた方がよりいいですね。私も久しぶりに会場まで行く予定です。ま、さいたまスーパーアリーナとかは遠すぎるということもあるんですけど（笑）。

——そういう人は多いでしょう（笑）。いやぁ、お話を聞いてますます楽しみになりましたね。今日はありがとうございました！

【03年9月19日／東中野・骨法武術館にて収録】

ミルコvsヒョードル、ミドル級GP決勝戦、
11.9東京ドーム大爆発!!

確定



『PRIDE GRANDPRIX 2003 決勝戦』

2003年11月9日（日）東京ドーム
開場15:00 開始17:00予定

チケット情報（入場料/全席指定・消費税込み）

VIP（ビップ）100,000円【特典：専用入場ゲート・グッズ付】
RRS（ロイヤルリングサイド）……30,000円
スタンドS……16,000円　スタンドA……7,000円
吉田秀彦応援シート……16,000円（応援グッズ付き）
※吉田応援シートは、ドリームステージ、PRIDEオフィシャルサイト、PRIDE携帯端末オフィシャルサイトのみで販売

発売日

■9月1日（月）～9月9日（火）
ファンクラブ先行
お問い合わせ　03-5464-1531

■9月13日（土）
携帯端末オフィシャルサイト先行
i-mode/J-PHONE/ez　10:00～24:00
お問い合わせ　03-5464-1531

■9月14日（日）
特別先行電話予約　10:00～19:00
予約申込電話番号　03-5749-9900　特電9/14のみ
お問い合わせ　03-5464-1531
PRIDEオフィシャルサイト先行
http://www.so-net.ne.jp/pride/
イープラス　03-5749-9911

■9月14日20:00～9月16日12:00
（イープラス稼働時間10:00～翌6:00）

■10月4日（土）　一斉発売
お問い合わせ　ドリームステージエンターテインメント
TEL.03-5464-1531

真の"男の中の男"は誰だ!?

ミルコの電撃出陣で10月5日の『PRIDE武士道』さいたまスーパーアリーナ大会も大成功間違いなしだが、約1ヶ月後の11月9日には東京ドームで『PRIDE・GP2003決勝戦』が開催される。

なんと言っても、大注目はエメリヤーエンコ・ヒョードルが保持する『PRIDE』ヘビー級王座にミルコ・クロコップが挑戦するという、空前絶後の超ウルトラスーパーマッチ。ホント、この試合を見終わったら2003年はもう終わってもいいっていうぐらい、いまから待ちきれない一戦だ。

そして、大会名にもなっているとおり、この日は『PRIDEミドル級GP』の決勝戦も行われる。現在、吉田、シウバ、ランペイジ、リデルの4人が決勝ラウンド進出が決定しているが、どんな組み合わせになってもハズレはなしの超大物揃い。日本人で唯一決勝ラウンドへ勝ち上がった吉田は、世界柔道での日本勢のような活躍は見せられるのか？　それとも『PRIDE』ミドル級王者のシウバがグランプリまで一気に制してしまうのか？　どう転んでも大爆発確定の11・9ドーム大会。チケットがなくっても知らないからねッ！

ミドル級世界一の栄光を手にするのは誰か!?

四強激突!!



死闘の夏を経て、決戦の秋へ——!!　“男の中の男”がついに決定する!!　ヘビー級ワンマッチも超ド級だ!!



『PRIDE GRAND PRIX 2003 決勝戦』

11.9 sun
東京・東京ドーム
開場15:00　開始17:00（予定）

[チケット料金（全席指定・消費税込）]

VIP（特典：専用入場ゲート・グッズ付）	100,000円
RRS（ロイヤルリングサイド）	30,000円
スタンドS	16,000円
スタンドA	7,000円

【トーナメント参加選手】クイントン“ランペイジ”ジャクソン／ヴァンダレイ・シウバ／吉田秀彦／チャック・リデル

またも一般発売に先駆けて『紙プロ』スペシャル先行予約受付!!

超太っ腹!! お買いあげの方全員に“ヒョードル・オリジナルハンカチタオル（非売品!!）”をもれなくプレゼント!!

購入方法　9月28日（日）〜30日（火）に電話または携帯サイト『紙プロHand』から予約した後、10月10日（金）〈消印有効〉までに現金書留で下記のものを送付して下さい。①お客様の郵便番号、住所、氏名、チケットの種類&枚数、受付方法（電話orメールor携帯サイト）、予約番号を明記したメモ　②現金（チケット代＋送料500円※）

送付先　〒151-0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702　（株）ダブルクロス　紙プロチケット係

※山岳部・離島は除きます。詳細はお問い合わせください。
※大会チケットは10月20日〜25日前後の発送になります。

9.28(sun) 10:00~18:00

（予定枚数に達し次第、受付を〆切らせていただきます）

先行予約電話番号
03-3403-5142

先行予約メールアドレス
ticket@kamipro.com

地方のみなさんごめんなさい!! Tel&メール受付は1日限りです!!

[メールでも予約を受け付けます]
上記の受付時間中にお名前、電話番号、メールアドレス、チケットの種類&枚数を書いたメールをお送りください。折り返し、予約番号を返信します。※翌日午後7時までにメールが届かない場合は、先行予約電話番号にて確認してください。

9.28 0:00~9.30 23:00

（予定枚数に達し次第、受付を〆切らせていただきます）

地方に優しい携帯サイト『紙プロHand』では9月28日・深夜0時から3日間71時間いつでも予約できます!!

[サイト受付方法]
上記の受付時間中に携帯サイト『紙プロHand』にアクセス、フォーマットに従って予約してください。折り返し、予約番号&購入方法を返信します。※アクセスが集中している時間帯は、非常につながりにくくなる場合があります。また、受付時間によっては確認メールが届くのが夜22時以降、深夜になる場合がありますのでご了承願います。

予約するなら加入しないか!?　非売品ヒョードルタオルを300円（月会費）で買ったと思えばノー問題!（?）

『PRIDE.GP』情報続々アップ!!　当日はリアルタイム速報します!!『紙プロHand』アクセス方法

- DoCoMo：iMenu ▶ メニューリスト ▶ スポーツ ▶ 格闘技／大相撲
- au/TU-KA：トップメニュー ▶ 遊ぶ・楽しむ or インターネット ▶ スポーツ ▶ 格闘技
- J-PHONE：メニュー ▶ Jスカイメイン ▶ スポーツ・レジャー ▶ その他スポーツ

ユーザーとプロレスする携帯サイト
紙のプロレス Hand

[問い合わせ先]（株）ダブルクロス TEL .03-3403-5188　（株）ドリームステージエンターテインメント TEL.03-5464-1531

「正直、スマン」に次ぐ名言誕生!! 武蔵、ジャパンGPに優勝して一言!!

「ホントにすいません」

サップ復活!! ひとりで爆発!!

ジャパン勢壊滅、されど驚異の視聴率!! 平均20・2%瞬間最高25・9%を記録



9.21 K-1 SURVIVAL 2003 スペシャルレポート!!

優勝直後に観客に謝るK-1JAPAN GPのチャンピオン……この姿がジャパン勢の地盤沈下を象徴している。低調に終わったジャパン勢を尻目に、"闘いの海抜0メートル地帯"K-1JAPANはイロモノ外人が大暴れ!! 彼らの醸し出す不思議な魅力をTV画面じゃ伝わらない部分まで徹底リポート!! さらに大会直後、「ふざけんな!!」と怒りの直電を編集部に掛けてきたターザン山本氏の思いっきり生電話も緊急収録!! 大会に憤りを感じた方は必読だ!!

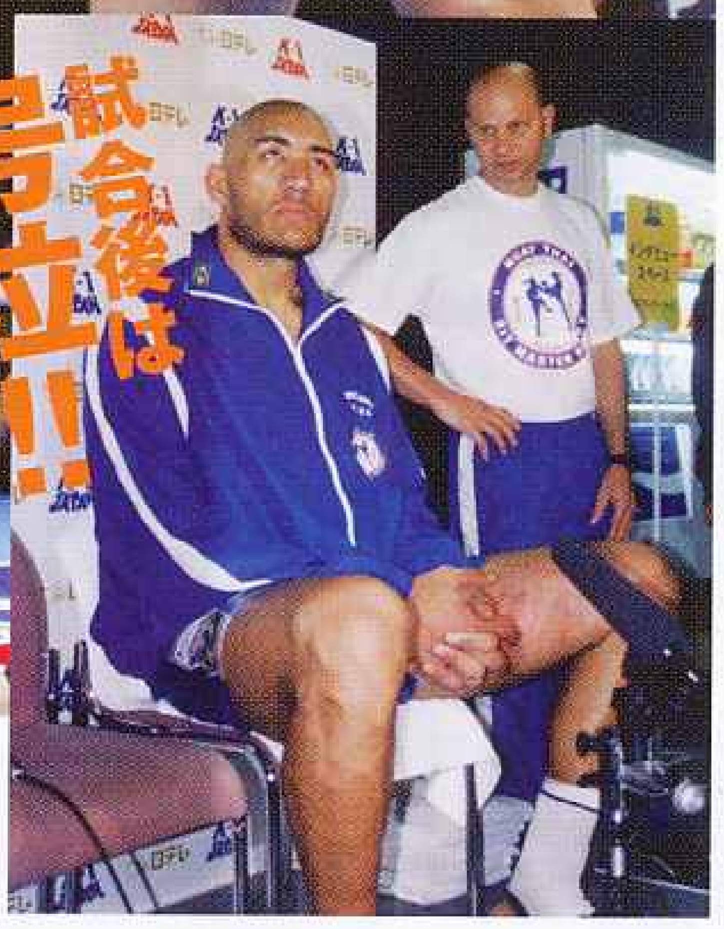
構成／坂井ノブ 撮影／乾晋也

designed by matsu (Two three)

「K-1 JAPAN」改め「K-1ビックリ人間大賞」か？
世界各国の奇人変人が大集合!!

225センチの暴走大巨人
ルールを覚えてクリーンファイト!!





K-1ルールを覚えた暴走大巨人は見違えるようなクリーンファイトで武蔵に敗れてしまった。前回の対戦でヒットしたパンチは武蔵にかわされてしまったものの、内股への鋭いローは何発かヒットした。試合後、コメントルームでは目に涙を浮かべて（写真・右）敗戦を悔しがるモンターニャ。涙の理由を聞かれ、「自分は格闘家だ」と一言だけコメント。武蔵をKOして「ウガァ～」と叫んでいたのがウソのような奥ゆかしさだ。谷川プロデューサーも「彼は絶対に強くなる!」と太鼓判を押した。



本家サップ大暴れ!! ボタに水を投げつける!!

今年3月、ミルコにKOされて以来の日本での試合で完勝! 10月にはK-1 WORLD GP開幕戦でジェロム・レ・バンナとの対戦が噂される中、リングサイドで観戦したボタに水を投げつけ乱闘寸前の大暴れ!! K-1にやってくるマイク・タイソンへの挑戦権をめぐって早くも因縁が勃発した。



“白いサップ” 52秒で夢破れる…

NFL、プロレス、K-1とサップと同じコースを歩んで来た“白いサップ”。試合前は「サップに勝ってデカイ家を買う」と鼻息も荒かったが、あえなく撃沈。UPWでプロレスもしていたガムリン、試合後は右目の青あざを記者陣に見せ、「MMAはプロレスと違う。フェイクじゃない」と問題発言!



ブタのように闘い ブタのように運ばれる…

「ベルナルドは普段ローキックを使ってないので、ローキックは頭に無かった」と対策なしで試合に挑んだが……ローでKO負けを喫したバタービーン。「マイク・タイソンに一言。K-1で闘うにはキックの防御が必要だ。練習をしてきた方がいい 」と言い残して、台車を押されて控室に戻って行った。最高!

「しょっぱい試合ですいません」と言ったのは、S・S・マシンのマスクを脱いだ平田淳嗣だが、まさかK－1JAPAN GP優勝者の口から、そんな発言が飛び出すとは思わなかった。しかし、それほどまでに武蔵を筆頭とするジャパン勢は精彩を欠いていた。

「ジャパンは賞味期限切れ」と角田信朗競技統括プロデューサーが激怒したのは、今年4月の山形大会のこと。それ以前からK－1JAPANの存在意義には疑問符が付けられていたが、まったく改善の兆しが見えないままに2003年のK－1JAPANは幕を閉じた。

だが、大会自体がつまらなかったかというと、そういうわけでもない。ジャパン勢がメインの大会だと思って見たら期待ハズレとなるだろうが、いまやK－1JAPANはZERO－ONEや往年の全日本プロレスに勝るとも劣らない外人天国と変貌を遂げつつある。

実際、この大会で誰が一番輝いていたかといえば、真っ先に〝暴走大巨人〟モンターニャ・シウバを挙げたい。身長225センチというアンドレ級の巨体が半狂乱でマウントパンチを見舞い武蔵を失神KOした前回の試合。〝暴走大巨人〟いわく、「俺は貧しい家に生まれ、食べるものにも困っていた。ストリートで闘っていた頃を思い出してしまった」とのことだが、いまの日本人でこんな泣かせるセリフを吐ける人間がいるだろうか？ 「お母さんを楽させたい」というWJの中嶋くんぐらいのものだろう。そんな出自の男が、「今回は暴走をしないように」とわざわざK－1ルールを覚えて参戦してきたのだ。そして、別人のようなクリーンファイトで3Rを戦い抜き、しかも潔く敗れて控室では大号泣したという。きっとアマゾンに降るスコールのような大粒の涙を流して悔しがったに違いない。そのシーンを想像しただけで、少し心が温かくなる。さらに「今回はルールを完全に守るよう意識して闘った。その結果、攻撃的な部分が少なかったかもしれない」と、なんとも奥行きのあるコメントを残している。「優勝したら日本に帰化してWORLD GPに参戦する」という夢はお預けになってしまったが、今後も応援せずにはいられない。モンター



ターザン激怒!!
「こんなもん、やめちまえ」

21日の大会後、編集部に一本の電話が入る。声の主はターザン山本氏。いつもの世間話かと思えば、さにあらず。いきなりK-1JAPANへの溢れんばかりの憤りをブチまけたのだった!!

「こんな日曜日の夕方、台風が接近してる時にさぁ、わざわざ横浜アリーナまで足を運んで非日常空間を見に行ったのに、なんでこんなバカバカしいフラストレーションにはまんないといけないんだよ!! アホかと言いたいよォォォォ!! 俺の日曜日をナメてんのか!! もう、大会直後にマスコミ控室で知り合いに会うたびに「くっだらない」と叫びまくってきたよ!!

K-1 JAPANなんてK-1の中の粗大ゴミだもんな!! 世の中から抹殺しないとダメだ。解散勧告、消滅勧告を出しますよォォォォ!! (大炎上)。

だってさぁ、お客が何かを観に来てるって雰囲気じゃないんだよな。会場に入った瞬間に「ああ、この程度のものか」と見切ってる。お客の方が数段上ですよ。一番いけないのは、興行をやってるK-1側に「恥ずかしい」という感情がないこと。横浜アリーナの一番上の段を黒い幕で覆ってるんだよな。わざわざそんなところに金をかけるなっていうんだよ!! そういうところだけ、なぜ丁寧にやってるんだと言いたいんだよぉ。あれはお客をいっぱいに入れられなかったこと自体をK-1関係者が誰も恥と思ってない証拠だもん。

俺なんか4・2『夢の架け橋』をやった時、もし客が入らなかったら切腹しようと思ったもん、ホンマに!! イベンターは、もしお客が埋まらなかった場合は切腹を覚悟でやらなきゃいけないんだよォォォォ!! そういう感覚が谷川には全然ない!! (キッパリ)。

いつも同じメンバーでやってるから、ジャパン勢もパンチを打ち抜けないんだよ。パンチの攻防やってんだよな、あいつらは!! 中迫とやったさぁ、あの〜、誰? メガネかけた暴走族の……あいつ (※注・天田ヒロミのこと)。お互いを知ってるからダラダラと打ち抜けないんだよ。K-1一座の馴れ合いですよ。同じ部屋の力士が相撲してるようなもんだ!! 案の定、微差の微差の微差の微々たる微差の判定で延長戦やって武蔵は優勝したわけだよ。お前の優勝賞金を返上しろ、土下座して謝れと言いたいよぉ〜。俺に言わせりゃ、決勝戦は両者失格ですよォォォ!! ジャパン勢にWORLD GPに出場する資格はないよォォォォ!! K-1JAPANのコンセプトそのものが崩壊したんと違う!?

もっと言いたいのは、角田さんのことだよぉ!! 角田さんがレフェリーやってた決勝戦、ラウンド明けに「歴史に残るような決勝戦をやってくれ」とか言ってたんだよな。そんなもん、言語にして言うもんか!? 試合中も消極的ファイトが多いから注意するんだけど、そのたびに客が沸くんだよな。あれじゃ試合を見るというより、角田さんのレフェリーを見てるようなもんですよぉ。ああいうのは決勝戦という厳かな場所じゃなくて、町道場でやってる練習試合でやってりゃいいんですよ!! 今回でK-1JAPANは角田ワールドの中で弟子たちが模範試合をやるようなものだということがハッキリしたよ。もう、角田さんはレフェリーをやらない方がいい!! 谷川もイベントプロデューサーなら解説をやるなと言いたい!! だって、客観性がゼロじゃないか!? 4・2『夢の架け橋』で俺がやったように裏で統括しなきゃダメなんですよォォォ!! (大炎上)。

今回のK-1JAPANはハッキリ言って横浜アリーナでやるレベルじゃないもん。昔は一瞬のKOシーンに色気があって興奮したんだけど、いまはそういうのが全然ないもんな!! 毎回ゲテモノばっかり呼んできて変なアングルでさぁ、あれじゃキワモノ・カーニバルだよ!!

その点、プロレスは偉いよ。俺たちは力道山、アントニオ猪木、ジャイアント馬場という偉大な人たちによって感性を鍛えられたんだもん!! リングに感性を刺激されるものがリングにあって、それによって俺たちは豊かになったんだよな!! いまの格闘技は刺激だけが先行して、お客を育てるところにまで行ってないんだよな。ある意味、それが格闘技の特徴かもしれないけど、その点でプロレスは偉いよぉ。ジャイアント馬場とアントニオ猪木はプロレスファンを育て上げちゃったもん、それで今、俺がここにいるんですよぉ〜。凄いことだよ、これ!!

プロレスにはアングルも仕掛けもあるけど、K-1JAPANはそれを安っぽく取り入れてるだけですよォォォォ!! 大安売りの叩き売りみたいなプロレスだもんな!! あれじゃ、ぼったくりプロレスですよォォォォ!! (大炎上)。

ああ〜、今日はしゃべり過ぎたな。いつもより1.5倍パワーアップしたよぉ。もう、疲れたよ!! 今から『SRS・DX』の仕事だぁ〜。アホらしいなァァァァ!! (談)」



元IBFヘビー級王者とMr.ギネスがK-1参戦へ!

ボクシング元IBFヘビー級王者のフランソワ・ボタがK-1参戦をアピール!! タイソンとも一度対戦し、その時は敗れている。で、ボタの両脇にいるのがMr.ギネスブックことリアン・スティンキャップとジョン・スティンだ。しかし、リングに上がっただけで何の紹介もされず。さすがはK-1、贅沢な使い方! なんだか江口寿司のマンガに出てくるあの兄弟みたいだ。

優勝賞金500万円ゲッツ!!



武蔵　藤本

武　蔵vs藤本祐介

○武蔵［延長1R 判定2-0］藤本祐介● 3R開始前、手負いの両者にレフェリー・角田信朗が「消極的過ぎる!!」と異例の注意。延長R開始前は「消極的なファイトは即レッドカード!!」と追い討ち。「武蔵らしい優勝」(谷川P談) だった。

武蔵　堀



武　蔵
vs
堀　啓

○武蔵［2R3:00 KO (2ノックダウン)］堀啓● 2R、武蔵が左ローで2度のダウンを奪って、勢いに乗る堀を返り討ち!! 堀は武蔵をあと一歩まで追い詰めながら勝ちを逃してしまった。

藤本　天田



藤本祐介
vs
天田ヒロミ

○藤本祐介［3R 判定3-0］天田ヒロミ● 2R、藤本のブン回しフックが炸裂、天田ダウン!! その藤本に3Rイエローカードが出るも判定勝利。天田は注目の新日出場について「ギャラ次第ですね」と語った。



武　蔵
vs
モンターニャ・シウバ

○武蔵［3R 判定3-0］モンターニャ・シウバ● 武蔵のローが的確にヒット。モンターニャはワンツーもミドルもスピードがなかった。試合後、両者は健闘を称え抱き合う。なお、武蔵は左足を痛める。



堀　啓
vs
富平辰文

○堀啓［3R 判定2-0］富平辰文● 2R、身長198センチの堀のド迫力ジャンピング・ハイキック（前田健作直伝）がヒット!! その後も長いリーチを活かしたパンチとキックで攻め込み判定勝利!!



藤本祐介
vs
ノブ・ハヤシ

○藤本祐介［延長1R 判定2-1］ノブ・ハヤシ● ブンブン丸・藤本は2Rにダウンを喫するもブンブ振り回すパンチをヒットさせ挽回。3Rではドロー、延長までもつれて僅差で判定勝利を収めた。



天田ヒロミ
vs
中迫剛

○天田ヒロミ［延長1R 判定3-0］中迫剛● 「あまり好きではない」という中迫を相手に天田が意地で勝利!! 至近距離でドツキあい、3Rで決着つかず。延長R、動きの止まった中迫に天田がラッシュして勝利!!

ニャが日本人になったら、K-1JAPANにも光明が見出せるはずだ!

光ったのはモンターニャだけじゃない。「アメリカ進出には白人のスターが必要」(谷川氏談) とサップの対抗馬としてK-1が給料まで払って育てたというステファン・ガムリンも試合前のビッグ・マウスだけで十分楽しめたし、ローキック対策をまったくしないで「足へのキックより、頭へパンチをもらいたかった」と台車に乗せられコメントルームまで運ばれてきたバタービーンも最後までエンターテイナーだった。サップと乱闘を繰り広げた元IBFヘビー級王者フランソワ・ボタも年内にはK-1デビューを飾るというし、ボタと一緒にリングに上がったバス7台を引っ張るというMr.ギネスブックも来年にはK-1へ参戦する。

K-1JAPANが日テレで放送されているからではないだろうが、愛川欽也が司会の『世界ビックリ人間大賞』を観ているような錯覚に陥るシーンが続出した21日の横浜アリーナ大会。角田プロデューサーが日本人勢に〝愛のムチ〟を振るう一方で、谷川貞治イベントプロデューサーが続々と投入するステキな外人選手の妖しい魅力がK-1JAPANを支配する日もそう遠くはないだろう。その際、K-1ガールは『ビックリ人間大賞』でおなじみ、驚異のバストを誇る金髪美女たちに……!? 頑張れ、K-1JAPANの外人軍団!

［徹底検証リポート第2弾］

アンディの故郷スイス発 タイソンK-1出場問題 そして「ニューヨーク・タイムズ報道」の真実

文／タダシ★タナカ

前号で掲載した「タイソン、K-1参戦問題」についてのリポートは、読者に大変好評だったようである。なにしろこの件については、マット界にとって10年に1度の大ニュースにも関わらず、K-1側からの限られた情報と断片的な海外からのニュースしか与えられなかったのだから、いかにファンが情報に飢えていたかがわかる。

読者は知っているのだ、与えられただけの情報には本当に自分が知りたいことは何もないことを。その顕著な例が8月26日付「ニューヨーク・タイムズ」紙が「タイソンの次の試合がK-1で、日本のスターとなったサップと対戦する」と報じたとされるニュースだろう。この記事が出た途端に、日本のスポーツ新聞を初めとしたマスコミは「タイソンvsサップ決定！」と書き立てた。天下の「ニューヨーク・タイムズ」がそう書いているのだから、間違いあるめぇ、ということだ。

しかし、そんなに簡単にいくなら、なぜこれまでアントニオ猪木が何度も招聘計画をブチ上げたのに実現しなかったのだろうか？

相手は世界一著名なプロボクサーで、昨年8月『UFO LEGEND』大会でも、「空港まで来たが出国できなかった」ことにされていたお騒がせ男である。代理人を自称する関係者が西海岸には多すぎて、本当に権利を持っていたニューヨークのシャーリー・フィンケル相談役に話が通ってなかった言い訳があったが、タイソンの破産宣告でケンタッキー州ルイズビルのボクシング・プロモーター＝クリス・ウェブとスティーブン・エスピノーザ弁護士に代わった。

ではここで、今回の「ニューヨーク・タイムズ」報道のカラクリを解いてしまおう。

今回の「タイソン、K-1出場」のニュースは、K-1 USA代表のスコット・コーカー氏が前号で紹介した米国五大紙や格闘技関係者に広くプレスリリース（広報資料）として流した情報をもとに書かれたものである。要は五大紙のウチ4紙には完全無視されたが、たまたま「ニューヨーク・タイムズ」だけが取り上げたというだけの話なのである。

だからそこに書かれている内容は、「ボクシング・ルールならやってやる！（Marquis of Queensbury）」という、ラスベガスでの試合終了直後からタイソンが言ってることをなぞっただけで目新しいものではない。それどころか、そもそも不正確な箇所がアチコチにある。

たとえばモハメド・アリvs猪木の異種格闘技戦を例に出した下りだ。アリが受け取った額が6百万ドル（実際は2百万ドル）とか、「対戦相手のロッキー猪木」と印刷されているから首をかしげた。最初はわざと皮肉でアントニオと書かなかったのかと思って現地のジャーナリストたちに連絡を取って確かめたが、単なる無知だという。

開催予定地は二転三転 現在有力なのはハワイ案

一流新聞だからといって信用するとロクなことがないのはどこの国でも同じだろう。ただし、その「ニューヨーク・タイムズ」紙の記事には、一箇所だけ気になる表現があった。「タイソンvsサップは〝12月の後半〟に開催予定」と書かれていたことだ。

ここでピンとくるのは、やはり日本開催は難しいという現実だろう。日本開催で動いているなら対戦予定を「大晦日」と書くはずだが、あえてここでは「12月の後半」と書いてあったということは、つまりタイソンの入国は難しいのである。

出入国管理法では「1年以上の懲役や禁固、それに相当する刑に処せられたことのある者の入国を禁じている」。ただし、それに当てはまるのに総理大臣になった者もおれば、「法相が特別な事情があると判断した場合」でW杯にはマラドーナを認めている。ジェームス・ブラウンだって70歳で来日して熱唱予定だ。現場の入国管理局の玉虫色の判断ではあるので、絶対にNOでもなければYESでもないのが実情である。しかし、約3億円の脱税容疑でタイソンは本人の知らぬところで架空契約の主役であった。だから麻薬常用暦のあるエリック・クラプトンが自由に来日できて、格闘技のリングにファン代表としてあげてもらうのとは状況が違うのだ。

しかも、8・15K-1ラスベガス大会で

は、当初はテレビカメラも気を使って、客席を撮るときはタイソンとガールフレンドだけにして、その〝隣の人物〟をあえて画面に残さなかったのに、保釈中の身でありながら館長はタイソンの手を引っ張ってリングにあげ、対戦アングルを現場で指揮した明らかな様子がテレビ画面に出てしまった。これは業界関係者には〝館長健在〟をアピールする格好の材料となったものの、一方で裁判長の心象を著しく悪化させた。これによって試合での入国はより難しくなったと考えるべきだろう。

そのことを裏付けるように、K-1事務局側は日本、米国、アジアの三案を検討しているとの情報を流している。ところが、ここでその三案とはまったく違った意外な国での開催が検討されていた事実が浮かび上がっている。その国とは、故アンディ・フグの母国スイスだ。

日本で大成功した英雄フグの活躍によって、スイスではK-1が数々の視聴率記録を打ち立てるほどの大人気を博していることは日本にも紹介されている。このK-1人気の高い土壌で、しかも「アンディの故郷で開催」とあれば日本へのプロモーションも抜群、さらに少なくとも欧州ならタイソンは過去も入国はできているからビザの問題がないとくれば、まさに開催地としては打ってつけと言える。事実、スイスのプロモーターが年内にもう一度K-1イベント開催を検討していたこともあって、かなり実現する可能性が高いところまできていたようだ。

ところが、意外なところで問題が持ち上がってきた。なんと肝心のスイス国民が犯罪歴のあるタイソンのK-1登場を歓迎しなかったのだ。なにしろスイスの新聞では、「犯罪者タイソンと、サップというフリーク（やや悪い意味の〝怪物〟）がこのリングに上がることは、K-1とアンディ・フグの両方にとってディスグレイス（恥辱）である」とまで書かれてしまったのだ。これによってスイス開催案は白紙に戻ったという。K-1の地位が高いが故の障害なのだから皮肉なものだ。

現在、ホノルル開催を目指して、ハワイからの中継案が検討されているとの情報もあるが、このスーパーファイト実現には、まだまだ一波乱も二波乱もありそうだ。

アメリカだけでなく日本でも難しいTV放映問題

ところで、前記した「ニューヨーク・タイムズ」の記事には、タイソンの契約金が20万ドルで、試合すればさらに400万ドル（5億円弱）保証というコーカー氏のしゃべった数字まで掲載されている。しかし、業界の慣例に従えば前者はわざと実際に払った額より小さく書いて、後者は大げさになりがちだ。おそらく実際は25万ドル程の手付金で、ピーク時に比べて下がっている試合ギャラは、日本で書かれているような10数億円にはならない。マネージャーに無断で顔面に刺青を入れたせいで世間的な価値が暴落したことは周知の事実である。

値段というのは対戦相手と他の競合プロモーターとの比較で決まるものだ。レノックス・ルイスと再戦するのではなく、北米では知名度のないボブ・サップが相手という事実を無視してはビジネス分析ができない。すると確かに金銭面では、ジャパン・マネーがタイソンの社会的地位の回復に貢献できる範囲ではある。ここに今回のタイソン対サップの実現可能性の根拠のひとつがあるわけだ。

しかし前号でレポートした、北米でタイソンのPPV放送権を持つケーブル局ShowtimeとK-1の権利があるESPNの障害だけでなく、ボクシング協会と帝拳プロモーション・本田会長への仁義などにも触れたおいたほうがいいだろう。

谷川貞治K-1イベント・プロデューサーは、年末『紅白歌合戦』裏番組のパートナーには昨年に引き続きTBSと合意していると伝えられている。製作担当の子会社DREAMAXの樋口潮社長が『タイソン・ボンバイエ』の方向を了承したからだ。しかし、そうなるとこれまでタイソンと関係の深い日本テレビ（現在K-1ジャパン放送中）と本田会長は面白くはない。

究極格闘技UFCのWOWOW放送権を買ったとされるのが本田会長だ。ボクシングがキングであり、ボクシング業界の意向が最優先されるラスベガスという「悪魔のゲーム」の聖地は、ビジネスの宣伝上はイリュージョンとの建前だが、実態はマジックなのである。

K-1、PRIDE、WWE 北米PPV事情

再び現地PPV事情と財源の手配

北米で一般家庭に完全に普及しているケーブル放送事情を紹介しておきたい。数あるチャンネルの中でもWWEの「RAW」や「スマックダウン」はもとから基本セット内にある局が放送している人気看板番組だ。ところがタイソンと契約を結んでいるSHOWTIMEの場合だと、ライバルのHBOと並んでプレミア・チャンネルという扱いになる。つまり日本のWOWOWのように毎月別料金を払う必要があるわけだ。普段は映画番組が中心だが、ボクシングの場合はPPVにする大会と、プレミア・セット料金を払っていれば普通に見られる大会に分けられてしまう。

HBOのボクシング番組は長年ジョージ・フォアマンの実況が売りで、SOWTIMEはタイソンが見られることが目玉だった。ただし全盛期を過ぎたタイソンの場合、すでに相手によってはPPVにはなっていない大会がある。これらの事実は日本には報道されていない。

「タイソン戦が実現するならボクシング・ルールでも構わない、それなら米国は（権利を持っている）SHOWTIMEが放送すればいい」と、信じられない安易な発言が出ているが、K-1の名前すら使わないのなら、そもそも米国進出の意味がなくなってしまう。K-1の権利を買ったESPNも黙ってないだろう。

一切北米市場を考えず、日本で「タイソン・ボンバイエ!」名義で開催して、石井館長のポケットマネーでタイソンのギャラも払うというなら誰も止められない。ところが、そもそも入国が難しいから順調に進む話ではないわけだ。

財源に北米からの放送収入をアテにするなら、場所もルールも決まってないプランなのに年末に間に合うのだろうか？　タイソンだからPPVというのも昔の栄光であって、現地で無名のサップ相手だとお金が取れない可能性が高い。米国開催となった場合「向こうの時間に合わせれば日本が昼間になる問題もある」と書いたスポーツ紙もあったが、これは現地事情を知らなさ過ぎる。なぜなら、このカードに興味があるのは日本だけなのだから。

8・15K-1ラスベガスは PPV8万世帯が契約?

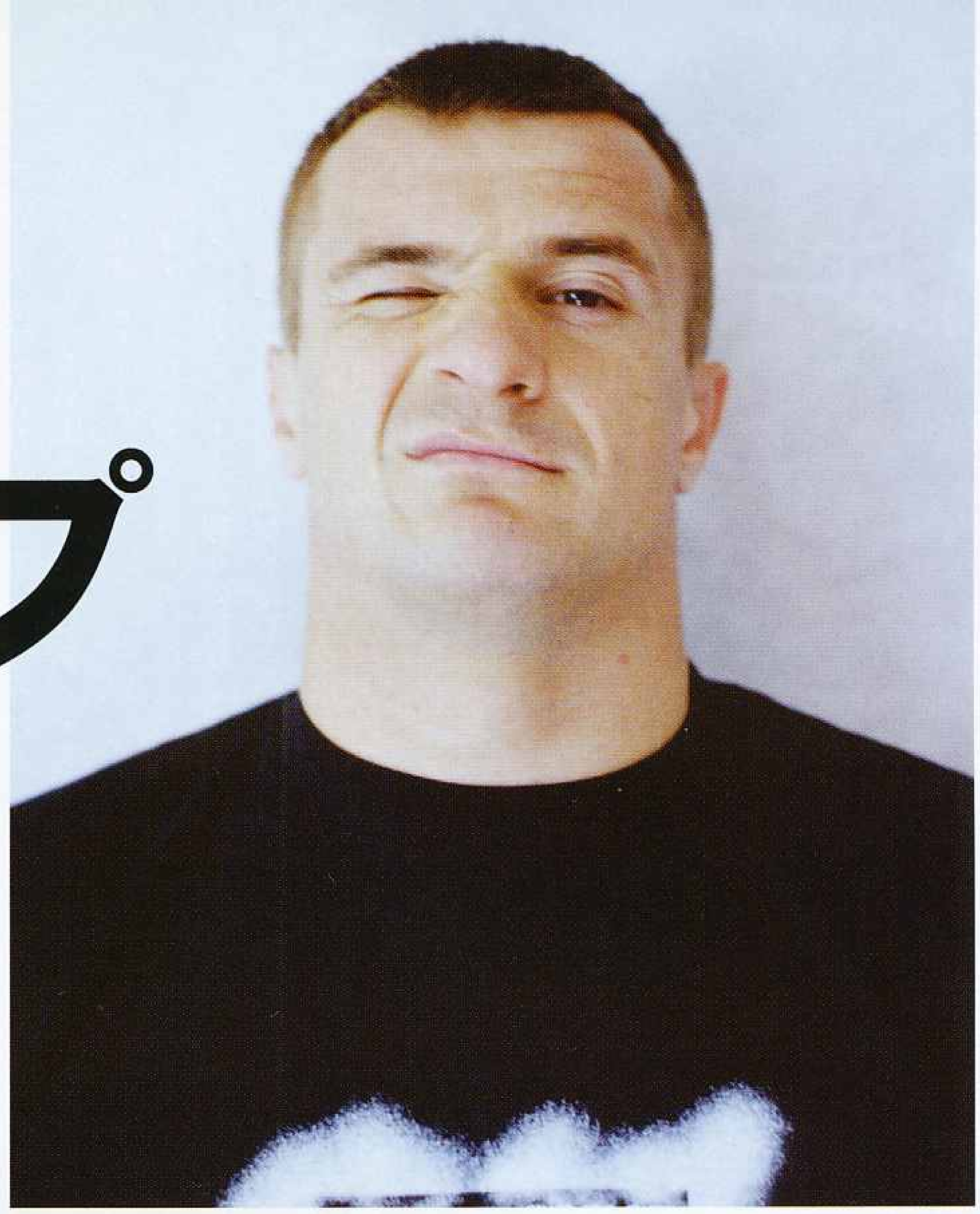
ところで、『SRS-DX』誌に8・15K-1ラスベガス大会のPPV件数が「少なくとも8万はいく」と書いてあるが、もし米国スタッフが本当にそのような甘い考えを谷川プロデューサーに伝えているなら、首を傾げざるをえない。日本ものの格闘技コンテンツはUインターやパンクラスの90年代中期からパターンが同じまま。初放送回の数字が最高で、そこから徐々に下がっていくデーターがある。

有料放送を盛り上げるためのレギュラー番組が始まったのなら話は別だが、アンディ・フグを切り札にラスベガス初進出した回が4万世帯なので、日本でのサップ現象が一般誌に取り上げられたくらいでは状況は変わらない。北米の放送権を買い、宣伝を担当したESPNがタイソン登場を報道しなかったので、PPV再放送回の数字がハネ上がったとも考えられない。以上のことから、3万世帯との現地初期報道に近い数字に落ち着くであろう。


CONTENTS

紙のプロレス RADICAL

2003 NO.66



○吉田豪が超多忙のため『書評の星座』はお休みさせていただきます。『Y2談』内のプチ書評をお楽しみください。



「人間、三日会わないと変わるんだよ!」
改名と共にヤマヨシ大変身宣言!

高田道場巴戦を制し、10.5『PRIDE武士道』出場決定!!

山本憲尚改め

山本宜久

怒濤のヤマヨシ節 完全復活!!

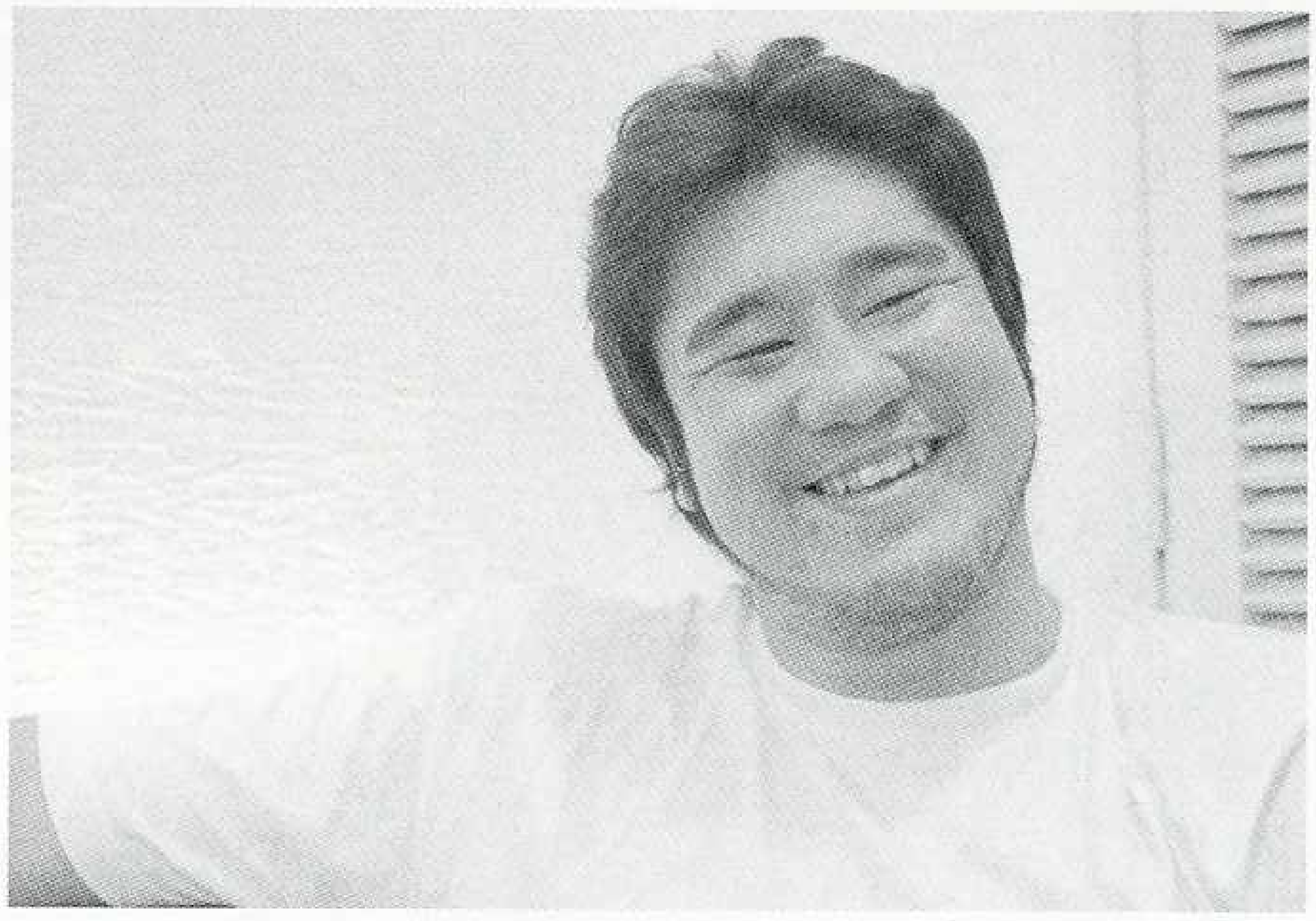
新必殺技「ヨロシク」とは何か?

武人・ヤマヨシが帰ってきた! いつの間にかリングネームを山本憲尚から本名の宜久に戻していたヤマヨシが、松井、今村と闘った「高田道場巴戦」を制し、『武士道』出場権を獲得! しかも、「中西、健介と誰が一番強いか決めたい」と唐突すぎる宣戦布告を行うなど、あらゆる意味で“ヤマヨシらしさ”が帰ってきた。そんなわけで、久々に爆発したヤマヨシ節をたっぷりとご堪能ください!

聞き手／中村カタブツ君
撮影／丸山剛史
designed by matsu (Two three)

山本宜久

「山本海苔」じゃないんだから、「ヤマノリ」って言われると頭に来る！



——先日は過酷な道場マッチを勝ち上がった山本さんですけど、山本憲尚から本名の山本宜久に改名した途端にリボーンしたなって感じですよね（笑）。

ヤマヨシ　名前はね、深い意味はないんだよね。「また変えたんですか？」ってたまに聞かれるんだけど。

——そりゃ変えたんなら聞かれますよ（笑）。社交辞令としても聞かなきゃ失礼じゃないですか。まあ、ゲン担ぎみたいなもんですか？

ヤマヨシ　ゲン担ぎというか、人に言われたことで運命は決められたくないなと。改名することによって「あなたの運命は良くなりましたよ」って言われた時にはどうかなって思ったんだけど、よく考えてみると人に言われたことで人生が左右されたら嫌じゃない？　人間はね、女も格闘技もやってみなきゃわからないよ。自分が経験して学んで成長していくんだよって。

——簡単に言うと改名は失敗だったと（笑）。

ヤマヨシ　要するにピンとこなかったんだよね。下の名前を言われた時にいちいちカチンカチンくるんだよね。

——なぜだ（笑）。

ヤマヨシ　憲尚、憲尚って俺は憲尚じゃなくて宜久だと。その時に自分じゃないなと思ったね。

——あの道場マッチがあった時は山本宜久で良かったんですか？

ヤマヨシ　だいぶ前に変えたからね。

——じゃあ、山本宜久で闘ってとりあえずは2連勝っていうことですね。

ヤマヨシ　公式戦でもないしね。やっぱり両親がつけたこの名前で33年間生きてきたところで、俺という人間があるわけだからね。フフッ。

——よく格好つけてそういうことが言えますねえ（笑）。

ヤマヨシ　正直言って、ヤマノリなんか言われたら頭にくるんだよね！

——自分で呼んでくれって言ったんじゃないですか！（笑）。

ヤマヨシ　山本海苔じゃないんだから。スーパー行って山本海苔見たら頭にくるからね。俺じゃないなって。

——スーパーで思ったんですか（笑）。

ヤマヨシ　やっぱりその時に思ったよね。やっぱりヤマヨシのほうがいいですよね。最初の頃はピンとこなかったですからね。

ヤマヨシ　ピンとこなかったでしょ？　俺自身がピンとこなかったんだから他の人がピンとくるわけないよ。

——だけど最近やっと慣れてきたんですよ（笑）。そうしたらまた変えるから。だけど山本憲尚がいいですよ。

ヤマヨシ　憲尚？

——あ、宜久だ（笑）。僕も40越えてるんでなかなか直らないんですよ。

ヤマヨシ　ああ、脳細胞が破壊されてくるからね。

——ホントに前田日明さんバリのツボをついた嫌な返しの仕方をしますよね（笑）。

ヤマヨシ　そう？

——ともかくホントにリボーンじゃないですか。しかも、今後が凄く期待できるなと思ったのが道場マッチを終えたあとの第一声ですよ。中西さん、健介さんの名前を挙げて、「誰が一番強いかを決めたらええんや！」ですから、僕らはやっぱり期待しますよ。

ヤマヨシ　あの時はそう言ってしまったんやけど、今の『PRIDE』ってクオリティーが高いじゃない？　上を目指して切羽詰まってツバ迫り合いしていかなアカン状況でどうやったら生き残っていけるかっていったら、そこまで持って行かなければいけないんだよね。でも、彼らはやっぱり『PRIDE』のトップファイターと比べたらクオリティーに関しては低いからね。

——向こうは経験ないし、当たり前の話ですよね。だけどファンからしたら面白そうじゃないですか。

ヤマヨシ　面白いよ。

——でしょ？　だから凄い目のつけどころがいいなあと思ったんですよ。格闘技ファンは知りませんけどプロレスファンはやっぱりそういう試合を見たいですよ。

ヤマヨシ　だから、『PRIDE』って着々と世間に認知されて一般のファンも増えてきたじゃない？　でも、今までの『PRIDE』ってプロレスファンがかなり支えてきたわけだから、俺は昔から応援してくれてるファンも大事にしていきたいよね。

——ファンの質は入れ変わってきてると思いますけど、その中でそういう言葉が出てくるのがつくづくセンスがあるなって。そこを外さないからいいんだと思うんですけど。で、本題の『武士道』ですけど、相手はまだ決まってないんですか？

ヤマヨシ　マジで決まってないよ。

——だけど、もう2週間しかないんですよね？

ヤマヨシ　ねえ？　何も聞いてないよ。

——噂ではヒョードルの弟になるんじゃないかって話もあるんですよ。

ヤマヨシ　俺がやる相手っていつも無名で強い相手やからね（笑）。ボブ・サップもそうじゃない？　俺に感謝しなきゃいけないでしょ。

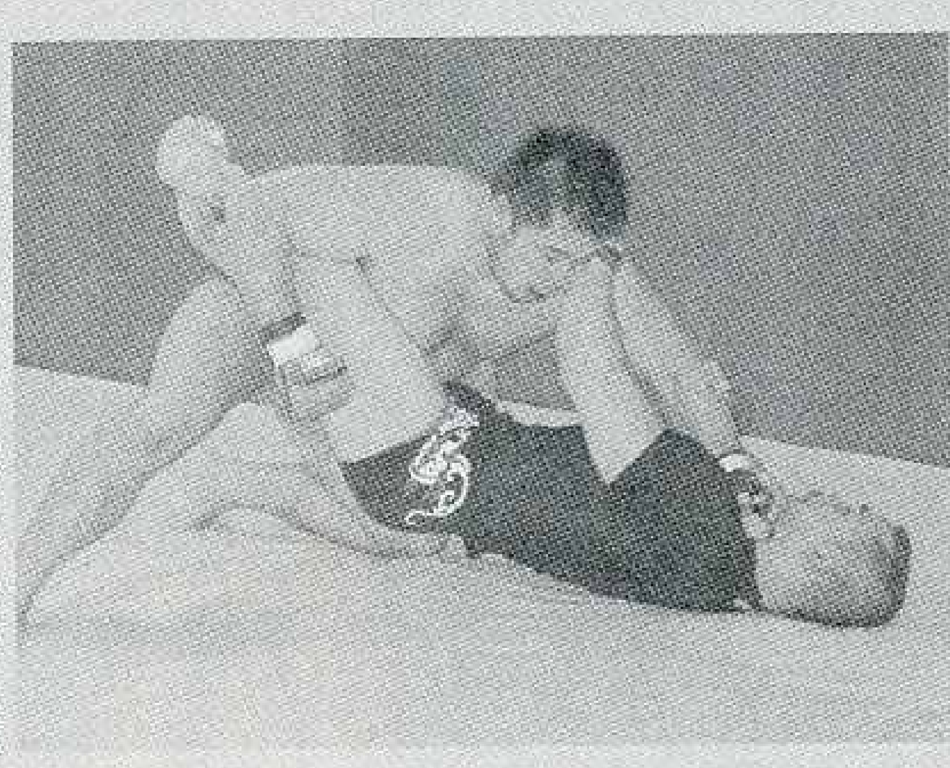
——あの時、潰してたらその後はなかったですからね。で、もしヒョードル弟だったら、またもや強そうですよね。

ヤマヨシ　基本的には『PRIDE』に上がる選手で弱い選手はいないからね。

これが新必殺技「ヨロシク」だ!



上四方の体勢で上になったヤマヨシが、変形ネックロック"ヨロシク"で頸動脈を締め上げ、松井はたまらずタップ!



3日は、タックルを狙う今村と、距離を取ってローキック中心に攻める松井の闘いに。今村の左足は真っ赤に腫れ上がった。



目を腫らしたヤマヨシは「まだまだ若いモンには負けられなかった。意地の差が出たと思う」と、気迫のコメント。

9月7日　高田道場

過酷な髙田道場巴戦 ヤマヨシが松井を新技「ヨロシク」で下し『武士道』出場!

10・5『PRIDE武士道』の出場権を賭けて、山本宜久、松井大二郎、今村雄介の3名で争われた髙田道場サバイバル巴戦。7日、最終戦を行ったのは、前回、前々回の対決でともに今村相手に"引き分け"という結果ながらも、優勢に試合を進めていたヤマヨシと松井。いわば"事実上の決勝戦"は、序盤からポジションが目まぐるしく変わる攻防に。ヤマヨシの"ヨロシク"がガッチリ極まると、松井は「グアーッ!　ウワーッ!」と呻き声を挙げながら脱出を試みるが、ロックを解くことはできず、無念のタップ!!　松井はギリギリまで耐えたせいか首を負傷。マットに横たわったまま「クソーッ!　ああ、クソッ!!　クソォ!」と、無念の声を道場内に響かせた。

今回行われた髙田道場サバイバル巴戦ルールは、4ポイントのヒザ蹴りが禁止となるものの、それ以外は通常の『PRIDE』ルールに準ずるという厳しいもの。打撃は50%の力で、と注意があったにもかかわらず、ヤマヨシは明らかに全力の打撃を放っていた。

——だけど、いいどつき合いになりそうな気がしませんか？　まあ、弟がどういうスタイルかわかりませんけど（笑）。

ヤマヨシ　ロシア人って骨格が太いんだよね。ロシアの水ってカルシウムがいっぱいだから。

——あ、そうなんですか？

ヤマヨシ　水道水を捻ると水が甘いんだよ。これを飲んでると極太っていうかね、骨が厚くなるっていうか。俺はどっちかっていうと骨格は太いんだけどね、ちょっとカルシウム不足やけど。

——怒りっぽいってことですかね（笑）。まあ、ともかく結果がほしいですね。

ヤマヨシ　そうだね。何て言うのかな、やっぱりちゃんと本戦で結果を出さないと、試合のために試合やってるみたいなもんだからここでバシっとね。

——何のために道場でやったんだって話ですからね。今村さんから鼻血を出させて、松井さんからは一本取った過酷な試合の意味がないですからね。松井さんなんて終わった後もズッと悔しそうにしてて、一方ヤマヨシさんは目が腫れてると。

ヤマヨシ　驚いた？

——驚きましたよ。髙田さんが「打撃は50％で」って言ってるのに今村さんから鼻血出させてるんだもん。

ヤマヨシ　でも、あれは49％だよ。鼻ってそれぐらいでもすぐ血が出るからね。

——でも、見た目には凄いなって。『PRIDE』に上がるための厳しさがよくわかりましたよ。

ヤマヨシ　最初は髙田さんの言ってたコンセプトを消化できなかったんですよ。でも、よく話を聞いて、改めて自分で消化した時にここで何をしなきゃいけないかって言うと、実力の違いを出さなきゃいけないわけだよ。有言実行だからね。

——キッチリと一人は血だらけ、一人はタップですからね。

ヤマヨシ　逆に言えば、俺が日頃スパーリングをやってる時にもうちょっと力を見せつけなきゃいけなかったのかなって思ったよね。

——髙田さんもそういうふうに見てたわけですからね。

ヤマヨシ　反省だね。

——ともかく過酷な道ですよね。

ヤマヨシ　まあ、どの世界でも簡単なものはないしね。極めようと思ってもなかなか極めることはできないし、そこに到達できる人間って一握りだと思うし、それを目指してみんな切磋琢磨して頑張ってるわけだけど、努力だけじゃ到達できない領域だからね。持って生まれたものもあるし。

——持って生まれたものって凄いデカイと思うんですよね。

ヤマヨシ　この前、火星見た？

——カセイ？？？

ヤマヨシ　月の横に火星。

——いや、見てないですけど。

ヤマヨシ　あ、見てないの？　俺は見たよ。あれはね6万年に一度見れるんだよね。見れたから運があるんだよね。見てないんでしょ？　フフッ。

——見てないです。

ヤマヨシ　運がないんだよ。別にあなたのことをバカにしてるわけじゃないけどね（笑）。

——ムカつくなぁ。逆に言えば運を使っちゃったわけですよね（笑）。

ヤマヨシ　それは使ったんじゃなくて運を引き付けれる人間と引き付けられない人間がいるって話だよね。たまたま空を見たらえらい月の隣に光ってるもんがあるなと思

って。初めはUFOかなと思って2分ぐらいジーっと見てたんだけど、動かないから誰かに聞いたら「あれは火星だよ。見たの？　凄い運がいいですよ」って。6万年に一度やからね。もう一生見れないからね（笑）。

――だから、運をストックしてるんです！

ヤマヨシ　競馬でもこないだ1200万を一頭買いして2億円当てた人いたでしょ？

――あれは凄いですけど、ヤマヨシさんが威張ることではないですからね（笑）。

ヤマヨシ　まあ、それも運の一つだからね。

――持って生まれた運ってありますからね。ただ、今回道場マッチを制したことは運じゃないじゃないですか。

ヤマヨシ　サクセスストーリーの一つだからね。それをやることによってマスコミとかが喰い付いてくる、いわば餌を撒いたわけですよ。そこに『紙プロ』が喰い付いたわけでしょ？　ただポンと出ただけではマスコミは喰い付かなかったわけですよ。サクセスストーリーがないと今の時代は喰い付かないから、そういう意味でも髙田さんは凄く考えてると思いますよ。

――ホントにあれはいいコンセプトですよね。それをドラマチックにしたのがヤマヨシさんですからね。やっぱりああいう道場マッチって過酷じゃないとダメですよ。だから血は出さなきゃいけないだろうし、タップまでしなきゃいけないだろうし、あそこは白黒ハッキリさせないといけない場面だったじゃないですか。それをちゃんとヤマヨシさんはやってのけたじゃないですか。

ヤマヨシ　第一戦の時に相手の顔面を思いっきり殴れなかったんやけど、あとで髙田さんのコメントを聞いた時に「ああ、甘かったな」って。髙田さんが考えてる方向性に俺はちょっと応えられてなかったなと。じゃあ一本勝ちしなきゃ説得力ないし、面白くないんだということで最後は一本取りにいったからね。

――あれは変形の袈裟固めなんですか？

ヤマヨシ　あれはヨシロックっていうんだよ。

――ヨシヒサのヨシロック（笑）。

ヤマヨシ　オリジナルやからね。

――あれは首を極めてるんですか？

ヤマヨシ　頸動脈。



火星は6万年に1度しか見れないんだよ。見た俺は運があるね。

山本宜久

――絞めてるんですか？

ヤマヨシ　絞めてる。あれは放っておいたら落ちちゃうよ。

――あ、そうだったんですか。覆い被さってよくわからなかったんですが。

ヤマヨシ　見えないでしょ？　あれは頸動脈を絞めるんだよね。ある記者がさ、「あれはどういうふうに極まってるんですか？」ってね、そういう知識がない人間がインタビューするなって。

俺の相手はいつも無名で強いヤツ サップも俺に感謝しなきゃいけない

――いやぁ、わかんなかったなあ（笑）。どこで絞めてるんですか？

ヤマヨシ　二頭筋と腰骨で頸動脈を絞めてるんだよ。スリーパーと一緒。ヨシロックだけどヨロシクでもいいよ。

――新技ヨロシク。やっぱり面白いですね（笑）。

ヤマヨシ　根本的にさ、マスコミなのに「どこが絞まってるんですか？」っていうのがちゃんちゃらおかしいんだよね。そういうのはちゃんと勉強しなきゃダメでしょ。

――はい（笑）。勉強はやってはいるんですけど難しいですよ。

ヤマヨシ　よく雑誌とかに「何とかの関節技は極まった」とか嘘を書いてる記者が多いんだよ。そんな技じゃねえだろって。それはもう勉強不足っていうか頭が悪いっていうかね、俺らからしたらアホだなって思うからね。

――いやあ、なんか久しぶりに気持ちのいいヤマヨシ節が戻ってきましたね（笑）。

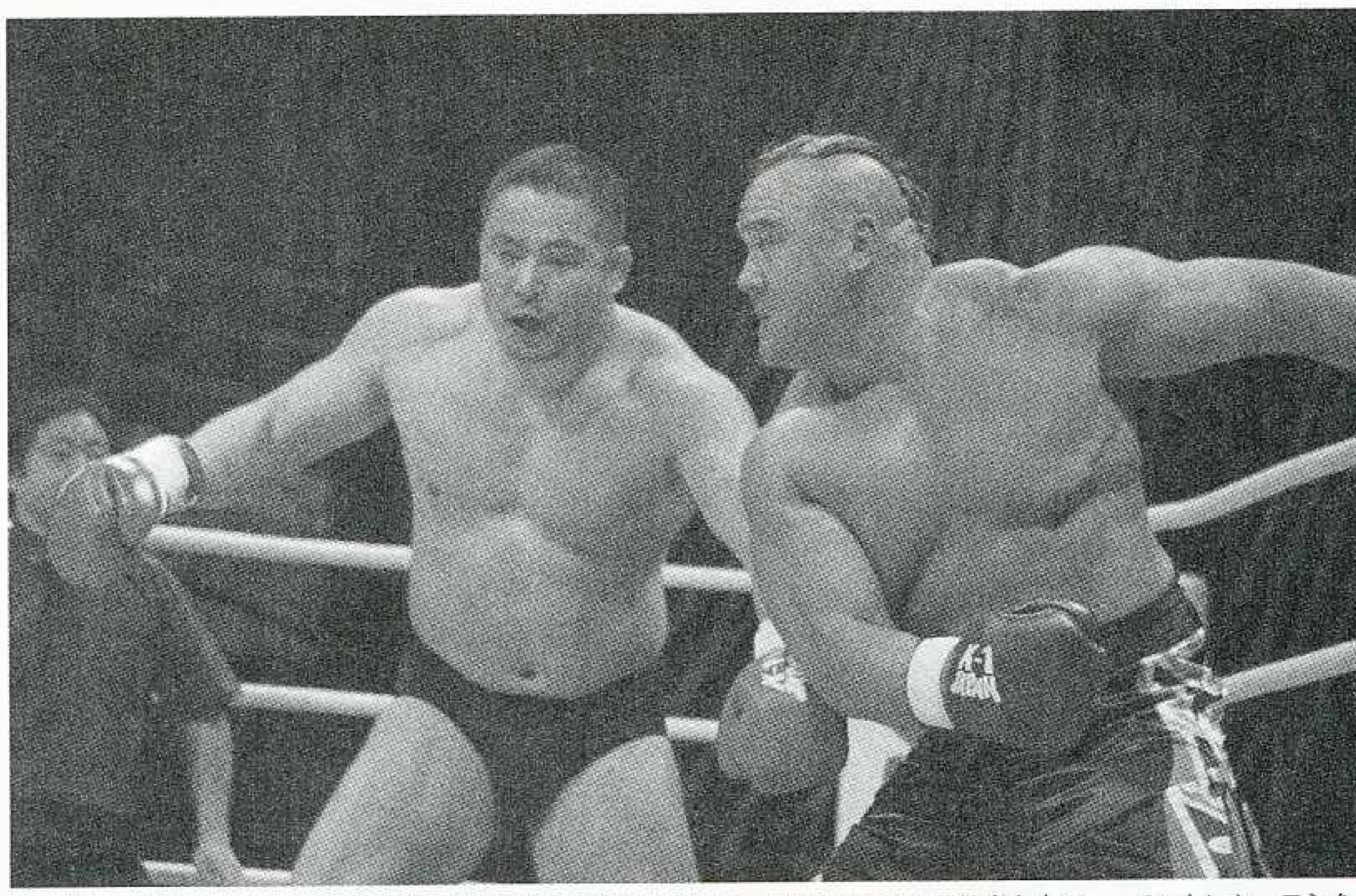
ヤマヨシ　気持ちいい？

――やっぱり僕らが思ってるのは去年の大塚戦後のヤマヨシさんだったんで、久々に出て来てこれだけハツラツとしてるヤマヨシさんが見れるっていうのはホントにいいですよ。

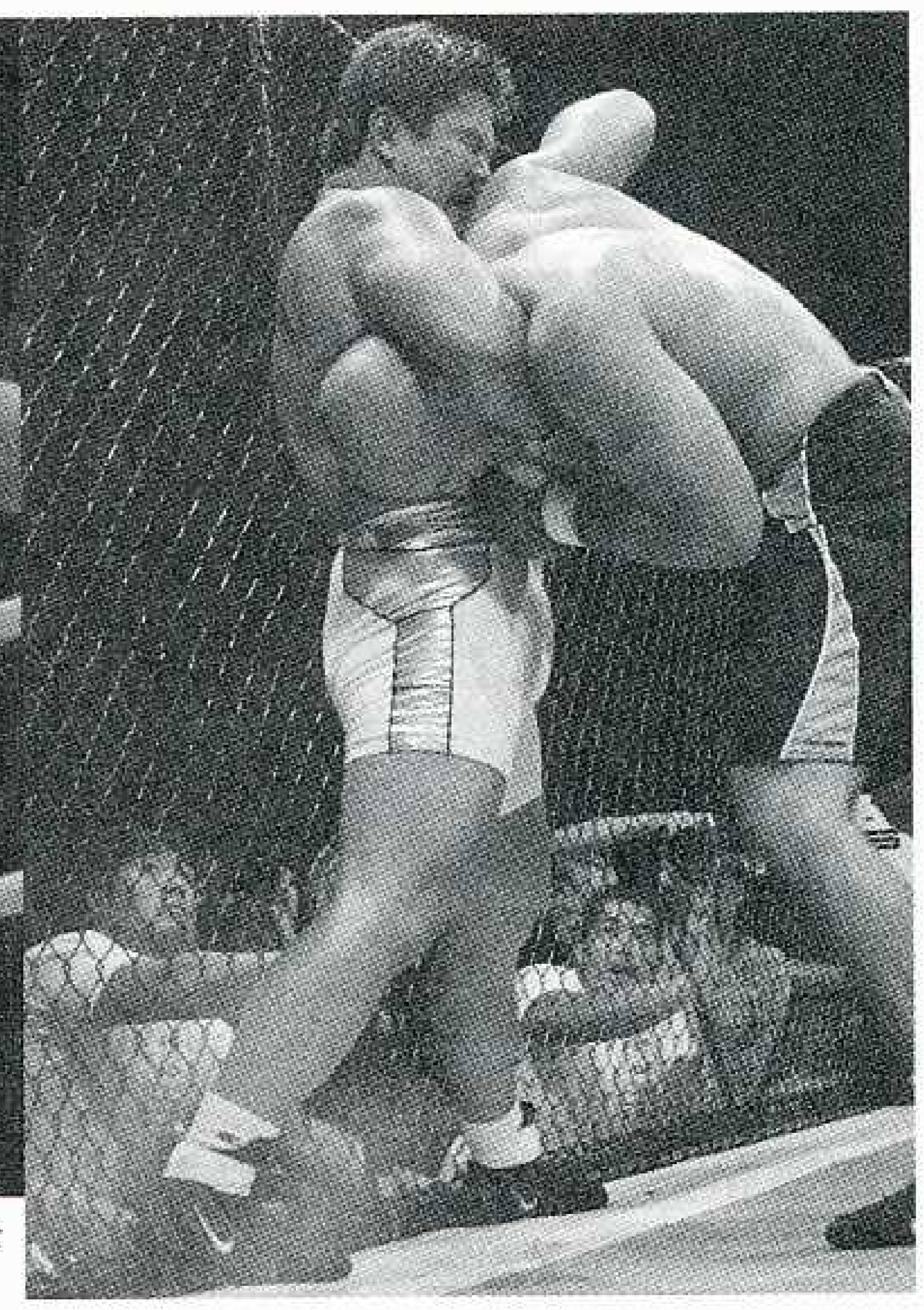
ヤマヨシ　あの試合は自分の中で消してしまいたいよね。自分がやってしまったんで消すことはできないけど。

――いやあ、よく乗り越えてくれました。

ヤマヨシ　何を乗り越えたの？



クオリティは高くないが、ゴツゴツした原始的な闘いをVTのリングで見せてくれた健介と中西。この2人にヤマヨシを加えた3人で、ぜひともバーリ・トゥード巴戦をやってほしいものだ。



――嫌な思いというか記憶というか。

ヤマヨシ　これからもいっぱいありますよ。その都度、人間はその場でその場でね。

――意外と引きずるほうなんですか？

ヤマヨシ　女の話は引きずらないね。

――女の話はしてませんよ（笑）。

ヤマヨシ　女に関しては引きずらないなあ。

――引きずりこみますか（笑）。

ヤマヨシ　向こうが引きずっちゃうほうやからね。フフッ。

――格好つける時はホントに声まで変わりますね（笑）。

ヤマヨシ　人間ね、三日会わなきゃ変わるんですよ。随分来てないでしょ？

――来てないですね。

ヤマヨシ　変わったもん。

――変わった感じはしますよね。

ヤマヨシ　三日会わないと変わるんだからあれから計算するとかなりの日にちでしょ？　だからかなり変わってるんだよ。

――道場マッチにも勝ち、発言のキレもかなり増して、見てると元気になってるし、非常に期待できますよ。

ヤマヨシ　キレって何のキレだよ（笑）。

――面白いもん！（笑）。

ヤマヨシ　でもね、ヨシロックって見てる人にはわからないんですよ。あれは道場で使うからいいんだよ。ホントに使うとわかりにくいんだよね。

――そうですけど、せっかくの新技ですからね。極めれる時は極めちゃってくださいよ。

ヤマヨシ　まあ、これで宣伝してもらえればね。ヨシロックってこうして極めるもんなんだよって。試合で極めればヨシロックだなって、ヨロシクでもいいけど。まあ、いい宣伝効果になると思うよ。

――吉田（秀彦）さんも一時、ヨシロックって言ってましたけどね。

ヤマヨシ　あ、そうなの？

――知らないで言ってたんですか？（笑）。

ヤマヨシ　知ってないことはないけどね（笑）。どうでもいいじゃないそんなこと。

――いやあ、でも楽しみですね。『武士道』に関しては誰とやりたいってあります？

ヤマヨシ　誰とっていうより相手は選ばないよ。選ばないっていうか何にも知らないし。

――まあ、今回はホントに誰が来るかわからない状況ですからね。じゃあ、プロレス、格闘技界で夢も含めて誰とやりたいってありますか？

ヤマヨシ　夢も含めてって聞く人いるよね。確かに夢っていうのも大事なんだけどね。夢ある？

――いや、ありますよ（笑）。

ヤマヨシ　何？

――夢は自分の思い通りの城を作りたいんですよ。

ヤマヨシ　風呂付きの？

――家じゃないですけど（笑）。最近友達が増えてるんですけど、揃いも揃って働くのが嫌いなグウタラばっかりなんですよ。そういう人間を食わせていけるような城というか、事務所を作りたいって夢がありますね。

ヤマヨシ　社長？　経営者？

――経営者じゃなくて、そいつらは遊んでくれてて構わないんですよ。俺が稼ぐからって。

ヤマヨシ　凄いよね。そこに俺も入れてよ、遊ぶから。

——ワハハハ！　ヤダ！（笑）。絶対わがまま言うから。

ヤマヨシ　ボランティア精神が旺盛なんだ？

——それは知らないですけど、それが楽しいですね。

ヤマヨシ　俺の夢は何だろうなあ。5、6人の女の子に両側からデッカイうちわであおいでもらって、フルーツかなんか食べさせてもらいたいよね。

——マハラジャだ（笑）。

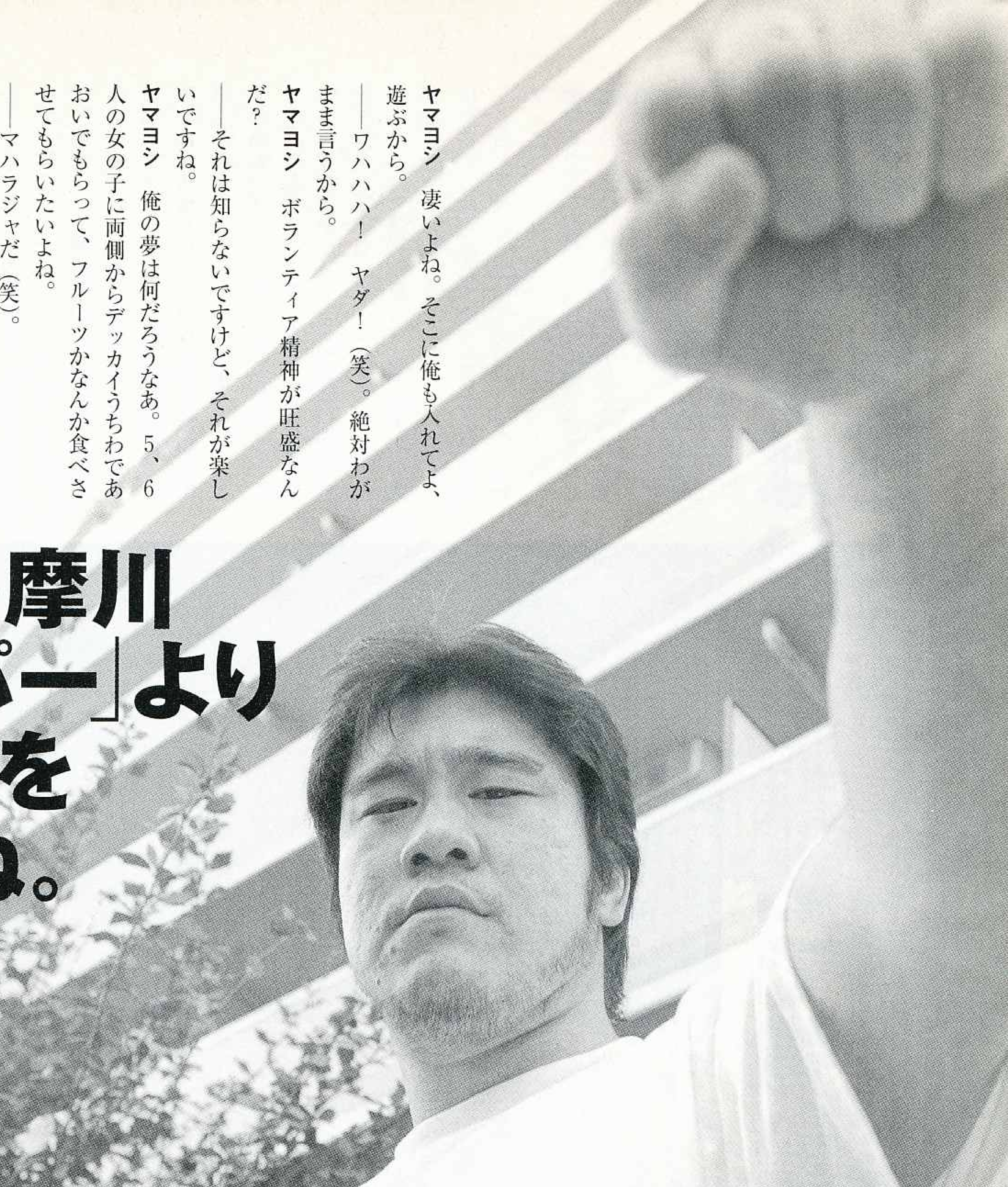
ヤマヨシ　みんな稼いで来てくれて上納金も納めてくれてね。

——それはいいですね（笑）。で、格闘技の夢は？

ヤマヨシ　う〜ん。『武士道』で一本勝ちですね。それができないと次に繋がらないですよ。

——あ！　そういえば多摩川低空アッパー早く見せてくださいよ！

ヤマヨシ　多摩川低空アッパー？　腰の調子が悪いからね。



今回は「多摩川低空アッパー」より「ヨロシク」を出したいね。

山本宜久

——名前だけは何回も出てるのに一回も見たことないですよ（笑）。

ヤマヨシ　ヨシロックは決めたいね。ヨロシクでもいいけど。

——あっそうですか（笑）。多摩川低空アッパーは鶴見川沿いで生まれたんじゃなかったんですか？

ヤマヨシ　そういうところはあんまり突っ込んでも面白くないでしょ。そこは突っ込むとこじゃないよ。

——失礼しました（笑）。多摩川のほうがまだ格好いいですしね。

ヤマヨシ　まあ、何でもいいんですよ。発想とひらめきだよ人間は。

——じゃあ、今回は多摩川低空アッパーじゃなくてヨシロックもしくはヨロシクで。

ヤマヨシ　長いからヨロシクでいいよ。

——それを楽しみにしておけと（笑）。

ヤマヨシ　うん。

——ホントに勝って欲しいですよ。

ヤマヨシ　ホントにじゃなくてヨロシクを決めるよ。

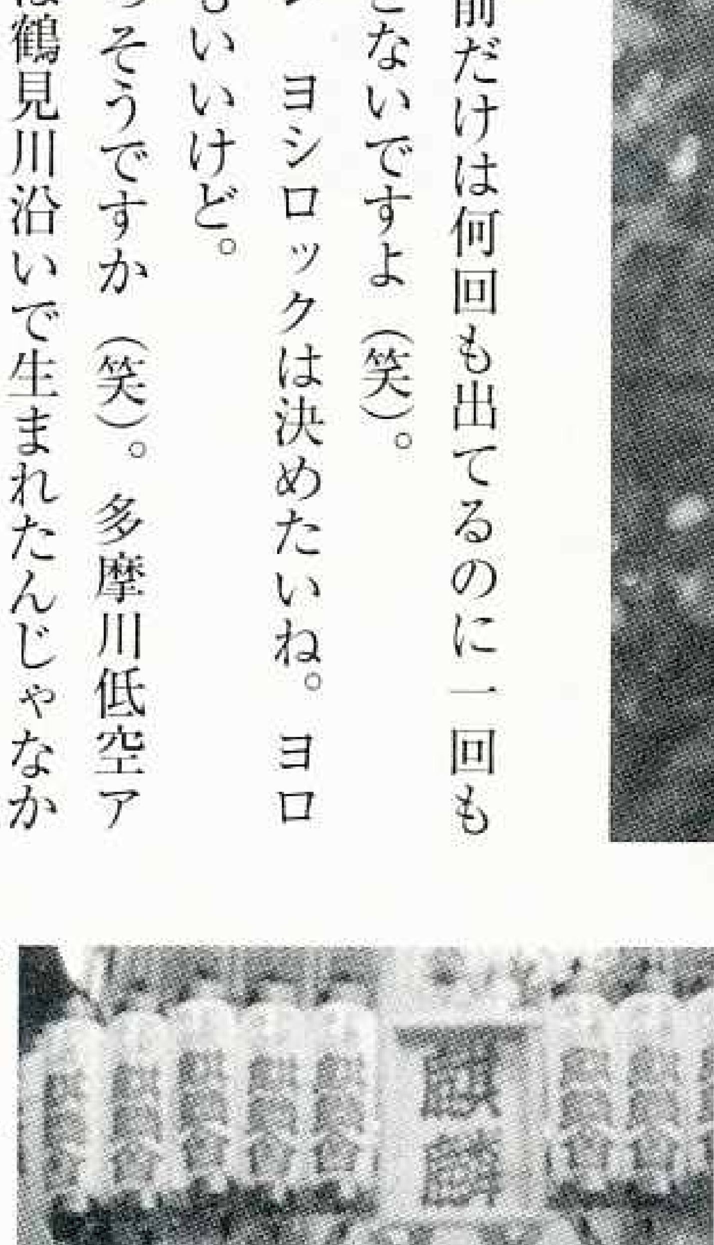
——結果を出してください。正直に言いますけど若干まだ不安なんですよ。結果が今んとこ伴ってないんで、ホントに勝って欲しいですよ。相手はたぶん未知数で強い相手だと思うんですけど、そいつをぶっ潰して新生・山本宜久が出てくるなっていうのを見せてくださいよ。

ヤマヨシ　まあ、生き様を見ててよ。

——いや、勝ち姿も見せてください！

ヤマヨシ　そうだね。結果と生き様を見せますよ。フフッ。

【03年9月12日／高田道場にて収録】



本名&リングネーム・山本憲尚改め山本宜久（やまもと・よしひさ）■1970年7月4日、山口県下松市出身。190センチ、105キロ。92年5月16日「東京・有明コロシアム」vs成瀬昌由でデビュー。95年にヒクソン・グレイシーと対戦。その後、98年には前田日明のリングス内引退試合の相手を努めるなど、"後継者"と目されたが、01年にリングス離脱。『真撃』での小川襲撃事件を経て、01年9月より『PRIDE』参戦。ボブ・サップデビュー戦の相手も努めている。



遅ればせながら
「紙のプロレスRADICAL」&「紙のプロレスHand」
読者が選ぶ

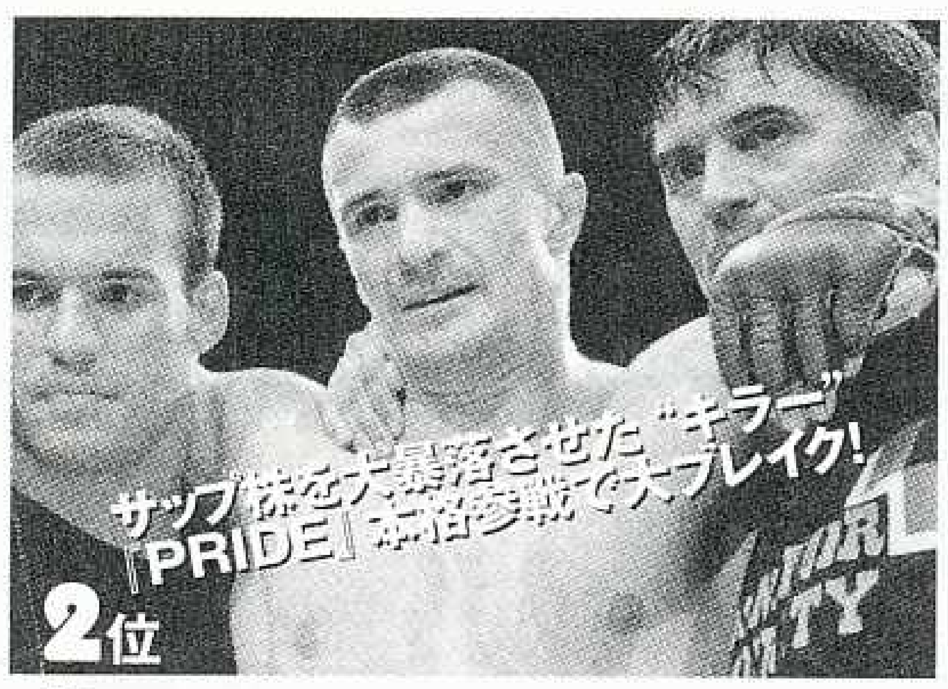
紙プロ大賞2003 1.1-6.30

上半期　結果発表——ッ!

MVP部門

1位 エメリヤーエンコ・ヒョードル 537票

総評 ベスト興行部門を見てもわかるように、とにかく3・16&6・8『PRIDE』に尽きた、今年の上半期。そうなるとやはりMVPは、昨年まで「最強」の名を欲しいままにしたノゲイラを遂に王座から引きずり下ろしたヒョードル! 6・8でも藤田と名勝負を展開しているだけに当然の受賞だろう。そして2位は、3・30K-1でサップバブルを一夜にして完全崩壊させ、格闘技界における主役の座を強奪したミルコが追随! 11・9『PRIDE』東京ドームではこの2人が激突するのだから、マット界の話題独占は必至だ。三冠奪取、そして冬木弘道さん追悼大会での男気から3位に入った破壊王。大怪我をしただけに下半期はつらいか。逆に5月にIWGP王者になってから、ここに来てさらに存在感を増した高山が下半期は楽しみ。日米の“神”との絡みはあるのか? 10・13新日ドームにも注目だ。



2位 ミルコ・クロコップ 493票



3位 橋本真也 183票

4位	高山善廣	90票
5位	田村潔司	84票
6位	髙田延彦統括本部長	78票
7位	中西学	66票
8位	小橋建太	57票
9位	クイントン“ランペイジ”ジャクソン	54票
10位	魔裟斗	53票

ベスト興行部門

1位 PRIDE.26（6・8横浜アリーナ）**630票**

2位	PRIDE.25（3・16横浜アリーナ）	204票
3位	アルティメット・クラッシュ（5・2ドーム）	66票
4位	ZERO-ONE（5・2後楽園）	63票
5位	NOAH（3・1武道館）	57票
次点	闘龍門（4・22代々木第2）	



『PRIDE』が1、2位を独占! 特に6・8『REBORN』は、『PRIDE』シリーズの中でも1、2を争うベストイベントとの声多し、11・9ドームはこれを超えるか? ゼロワンは票が分散したため4位だった。

ワースト部門

期待の裏返しだと思って!
ワーストレスラー部門

1位	中西学	435票
2位	長州力	111票
3位	ボブ・サップ	105票
4位	桜庭和志	87票
5位	谷川貞治	75票

期待していたからこそだって
ワースト興行

1位	K-1BEAST II（6・29さいたま）	318票
2位	アルティメット・クラッシュ（5・2ドーム）	177票
3位	WJ旗揚げ戦（3・1横浜アリーナ）	150票
4位	新日本プロレス（1・4ドーム）	66票
5位	『WRESTLE-1』（1・19ドーム）	45票



俺は自由だ！気持ちイイよお!!

休刊とは"快楽"なり

『SRS・DX』編集長代理

ターザン山本ちゃっかり登場!!

『SRS・DX』休刊を大暴走総括

ターザン山本 ~~山口日昇~~&吉田 豪が

毒舌トークで送る

月刊Y²談SP

構成／ジャン斎藤

designed by gutty (Two three)

十八番"自由への失踪"が炸裂したわけではないが、山口日昇は世界柔道TV観戦するため無念の欠席！ 今回は"おヘソの下はYONGなY"ことターザン山本がちゃっかり参戦!! ターザンが編集長代理を務める『SRS・DX』休刊問題をなぜか『紙プロ』で大総括！『ゴング』、『週プロ』、そして本誌にも、狂犬のように噛みつきましたよぉぉぉ！

山本　……今日は怒りが込み上げてるんだよ、豪ちゃん!!

吉田　いきなり何ですか、山本さん。久しぶりの『紙プロ』登場だっていうのに（笑）。

山本　（編集部が持参した、『週プロ』のムック本『タイムスリップ・インタビュー』を指差しながら）これだよ、これ！ こんなの見れたもんじゃない!! つくった奴はアホタレですよぉぉぉぉぉ!!

吉田　『週プロ』20周年を記念した、いい本じゃないですか（笑）。

山本　いや、別にそれほどハラが立たなくてもいいんだけどさぁ。歌枕（ターザンの弟子）が「安西（伸一）さんがインタビュー集をつくったんですけど、山本さんが見たら絶対に怒りますよ！」と言ってて、その理由を聞いたら「山本さんのインタビューがひとつもない」って言うんだよ！

吉田　ちなみに広告を読むと「『週プロ』20年の歴史の間で、珠玉のインタビュー20本を厳選しました!!」ってあるから、どうやら山本さんのは厳選した上で落ちたみたいですね（笑）。

山本　……『週刊プロレス』で圧倒的に素晴らしいインタビューといったら、俺を出さないで誰が出るんだって話だよ！

吉田　宍倉（清則）次長、安西さん、市瀬（秀俊）さん、佐藤（正行）編集長の4人が出てましたけど（笑）。

山本　……俺はこの本に対して、ベースボール（マガジン社）の池田社長に抗議の手紙を書こうと思ってるよ！

吉田　ダハハハ！ そこまで思い詰めてたんですか（笑）。

山本　手紙には「この本を読んだら、天国の池田会長はきっと泣く」と書く。会長は「事実はマスコミの原点。歴史を曲げて書くことは絶対に許されない」って言ってたんだけど、かつて全日本プロレスが歴史を振り返ったときに、SWS事件の直後は天龍さんのことを外したでしょ？ あれと同じ！ この本は隠蔽というか詐欺というか、歴史を誤魔化してるのと一緒ですよ！

吉田　タイムスリップと銘打ちながら、ターザン山本時代には決してタイムスリップしようとしないというか。



表紙を見ただけでターザンの顔色がガラリと変わった『週プロ』タイムスリップインタビュー本。自分の名前が出てないか虫眼鏡を使ってすみからすみまで読みだしたが、まったく見当たらず。おまけにその虫眼鏡をお店に忘れるオチまでついた！

月刊Y²談

山本　だって、俺の長州インタビューが入ってないんだよ？ 「山本、Uはお前なんだよ！」と名言を吐いた、あのインタビューがないわけ。馬場さんがSWSに対して怒ったインタビューもないしさぁ。

吉田　いや、馬場さんがSWSをボロクソに言ってるインタビューは載ってるんですけど、なぜか聞き手が山本さんじゃなくて佐藤編集長のやつなんですよ（笑）。

山本　……（絶句）女子プロだったら北斗晶のインタビューを載せるべきだし、村松（友視）さんのインタビューもない。俺もたいがい寛容だけど、これぱっかりは許せないですよぉぉぉぉぉぉ！

吉田　いや、全然寛容じゃないです（笑）。そもそも、『週プロ』20周年イベントに呼ばれなかったときも、本気で怒って裏イベントもやってたじゃないですか。

山本　やっぱり、イベントには歴代編集長をみんな呼ぶべきですよ！ 『週刊プロレス』は実質上、俺のⓒみたいなもんだしさ！

吉田　あ、『週プロ』は「ⓒターザン山本」でしたか（笑）。

山本　そうじゃない！ 杉山（初代『週プロ』編集長）さんと俺のⓒで成り立ってるようなもんですよ！

吉田　ダハハハ！ 浜辺（前『週プロ』編集長）さんや佐藤編集長のⓒじゃないんですね（笑）。

山本　まったくない！（キッパリ）。だって、20代の終わりとか30代前半の『週プロ』読者ってのは、みんな俺のファンなんだよ？ 彼らから見ても、こんな本はナンセンスですよ！ だから俺はベースボールに掛け合って、自分の『週プロ』インタビュー集を新紀元社から出そうと思ってるよ！

吉田　ターザン山本珠玉のインタビュー集を自ら編集しますか（笑）。

山本　しかも編集センスがゼロですよ、この本ッ（吐き捨てるように）！ 本って最初に開けたときに、何が載ってるかで決まるでしょ？ 俺は（アニマル）浜口さんのことは大好きだけど、巻頭にする人じゃないよ！

吉田　まあ、最初のブロックは宍倉次長のセレクトだから、そうなっちゃうのもわかるんですけどね。

山本　次長を最初にするのはいいけど、巻頭だけは馬場さんか猪木さんにすべきですよ！ それなのに、こんな編集するのはドマイナーというかクソ田舎モノですよぉぉぉ！

吉田　久し振りに山本さんの編集論が飛

び出したからついでに聞きますけど、山本さんは『紙プロ』の表紙についても2号連続でダメ出ししてましたよね。

山本　『紙プロ』もしょっぱいよなぁ！　前々号の表紙は桜庭じゃなくてミルコじゃなきゃ駄目ですよぉぉぉぉ！　だって、その号にはミルコがK-1を徹底批判したインタビューが載ってたわけでしょ？

吉田　山本さんが「俺が言いたいことを全部言ってくれた！」とまで表現していた、ミルコの本音全開インタビューですね（笑）。

山本　そうだよ！　俺が考えてることをズバリ言ってくれた選手を表紙にしないから、もう余計にハラが立ったんだよなあ。

吉田　いや、あのときは山口日昇が失踪してたからインタビューが取れてたのかどうかも分からない状況だったんですよ。結局、表紙の色校を出張校正していたときに取れてることがわかったから、ギリギリで見出しだけ「独占！　ミルコ・クロコップ衝撃の爆弾発言！」って変えるという、出版常識では考えられないようなことをやったわけですけどね。

山本　まあ、豪ちゃんはこうやって言い訳するわけだけど、それでいて前号でミルコを表紙にするんだからシラけたよなあ……。

吉田　ところが山本さん！　なぜかミルコを表紙にした号が順調に売れているらしいんですよ。

山本　（一瞬固まって）………豪ちゃん。それは全部、俺の力ですよぉぉぉぉ!!（大炎上）。

吉田　ダハハハハ！　そうだったんですか？

山本　だって、俺は『SRS・DX』でミルコを何度も表紙にし続けたじゃない！　あの冷たい鉄仮面の男を何回も表紙にすることで、俺がミルコの神話と幻想を概念化したんですよ！　つまり、俺がひとりで荒地を耕して種を蒔いて水をやって育てたんだから！

吉田　それでやっと実ったと思ったら『SRS・DX』が政治的な事情でミルコインタビューをできなくなって、代わりに『紙プロ』が収穫しちゃったってわけですね（笑）。

山本　上前を跳ねてるだけだよ、お前たちは！　全部、俺の功績だぁぁぁっ！

吉田　ダハハハ！　勉強になるなあ（笑）。しかし、山本さんが耕したミルコはホント恐ろしい男ですよね。「ヒョードル戦の前にもう一試合やりたい」ってことで、『PRIDE武士道』にも出るそうですよ（笑）。

山本　『武士道』にぃ？

吉田　あのヒョードルでさえ休みたいって言ってるのに、ミルコのモチベーションはとにかく異常なんですよね。

山本　さすが俺！　そのミルコを表紙にしてきたんだから、見る目がありますよぉ！



記念イベントには歴代編集長を呼ぶべきですよ
『週プロ』は実質上、俺のⓒみたいなもんだしさ！

吉田　でも、一足遅いぐらいの方が世間に届くってことなんでしょうね。

山本　いや、『紙プロ』は結果オーライだけども、編集者としては常に一歩先にやるということが大切なんですよ！　「売れる」「売れない」というのはあとからついてくるものであって、まずは売れるための土壌づくりをすることが大切なんだよ！

吉田　ウチも昔は一歩先をいく表紙を作ってきたんですけど、それだと売れないんですよ。ましてや山本さんを表紙にしたりすると（笑）。

山本　……それでもいいじゃない！

吉田　じゃあ山本さんが前号について「ミルコじゃなくてハルク・オーガンを表紙にすべきだ！」ってFAXテロしてきたのは、次に耕すのはオーガンだって意味なんですね（笑）。

山本　前号はオーガンでしょ！　ここにきて、”プロレスの馬鹿馬鹿しさ”　”アホらしさ”が評価されつつあるじゃない。坂口さんの復帰もそうだけど、その前はオーガン！　要するに、格闘技の求心力に対して馬鹿馬鹿しいプロレスの遠心力がうまいこと両立し始めてきた。これはプロレス界にとって、久しぶりの希望の光ですよ！

吉田　格闘技の呪縛から解かれて、ようやくプロレスの禍々しさやハレンチさが発揮できるようになってきてますよね。どうせだったら、坂口vsオーガンが見たいですけど（笑）。

山本　そこまで吹っ切れてやれるかどうかが、いまのプロレス界には絶対的に問われてるわけですよ！

吉田　そんな状況下で、プロレスのど真ん中を標榜していたはずの長州さんと永島さんが遂にVTへと手を出しちゃったわけですけど。

山本　（突然テンションが下がって）あぁ、あったねえ……、『X-1』も。

吉田　山本さんは『X-1』を生観戦したんですよね。

山本　いやあ、凄いものを観たよなぁ……（しみじみと）。『X-1』には今年の夏の風景が見えましたよ。今年は冷夏だっただろう？　つまり、辻褄があったわけですよ。

吉田　山本さんは前に『週プロ』で「冷夏のG-1」ってコピーを付けましたけど、今回はまさに「冷夏のX-1」と（笑）。

山本　そう！『X-1』が2003年夏にトドメを刺したというかさぁ。

吉田　ボクはTVで観ましたけど、ホント言葉をなくすしかないような興行でしたよねえ。山本さんも『SRS・DX』で「総評は書きづらい」「黙して語らず」「GKこと金澤編集長は、ゴング誌上でどう書くのだろうか？」って、思いっき



とにかく「タイソン！」「タイソン！」と大変な盛り上がりをみせる『SRS・DX』。ターザンはあっちで大騒ぎし過ぎたせいか、『紙プロ』の『Y2談』ではタイソン問題については多くは語らず。

月刊Y²談

り投げちゃってるし（笑）。
山本　内容なんか何もなかったんだから、言うことはありませんよ！
吉田　ところが、その『ゴング』が健介を表紙にして「VTをなめるな！」という意表を突くコピーを付けたわけじゃないですか。「選手には罪がない」というフォローも入ってますけど、『ゴング』は『X-1』自体をフォローすると思ってましたからね。
山本　いや、このタイトルは意表は突いてるけど実は絶妙な反語になっているんだよなあ。たとえば『X-1』をオブラートに包んで書いたり、あるいは意識的に記事を縮小したりしたら〝『ゴング』は逃げてる〟って言われるわけ。だから、そこを見越してGKは、あえて批判したようなポーズを取ってるんだけど、こんなの全然批判になってない！　実際は『X-1』と共犯関係を結んでいるんですよ！
吉田　ああ、すっかりダマされちゃいましたよ、ボクは（笑）。
山本　まだまだだねえ、豪ちゃんも。見え見えだよ、こんなの！　GKは高等戦術で『X-1』をかわしたんですよ！
吉田　だけど、山本さんもGKに任せるって高等戦術で『X-1』をかわしましたよね（笑）。
山本　いや、俺は正直に言ってるだけ。



田村、桜庭、吉田が出場したミドル級GPの豪華カードに加えて、ヒョードル、ミルコ、ノゲイラも揃い踏みした8・10『PRIDE・GP』直前号の表紙は、これですよぉぉぉ!!　んあ〜！

人間は正直に言うことが大事なんですよぉぉぉ！
吉田　つまり、GKは正直者じゃないんですかね（笑）。
山本　『ゴング』の表紙はワークですよ！　だって、「VTをなめるな！」ということは、VTを認めてるってことじゃない！　GKは完璧なプロレス支持派でしょ？　このタイトルにしたことによって、GKはVTを認めてることを逆に証明してしまったんですよ！
吉田　どうこう言ってもVT好きだってことは明らかになりましたよね。
山本　大矛盾！　あのプロレス支持は完全にビジネスでやってるんですよ！
吉田　ちなみにGKは、編集後記で「あの場にはいたくなかった。来なければ良かった」と、えらい正直な心境を綴ってますよ（笑）。
山本　『X-1』と同じ日に、武道館で全日本の三冠戦があったでしょ？　GKは「そっちに行ったことにして欲しい」ってポロリと漏らしたらしいんだよな。でも、GKの姿は『X-1』の会場で（一揆塾）塾生何人も見てるわけよ。
吉田　会場はガラガラだったから、誰がいるかすぐバレますよね（笑）。
山本　俺も『X-1』に行くつもりはなかったんだけど、新間さんから「一緒に行こう」ってチケットもらったんだよ。そうしたら、リングサイド2列目なんだよ。俺と新間さんがリングサイドなんて、ヤバイじゃない！
吉田　WJ側からすれば、まず確実に嫌がらせだと思われますよ（笑）。
山本　それでビビってたら、新間さんが


休刊になったいまは気持ちがいいですよぉぉぉ！
俺はフリーバーズ！ 休刊バンザ～イ!!

行けなくなったんだよね。だから、2階から見てたんだけどさぁ。

吉田 新間さんは全日本の武道館大会に行ってたらしいですよ。

山本 えぇっ？ そうだったの⁉ ……新間さんも、それならそうと先に俺に言ってくれればいいじゃないぃ！

吉田 まあ、土壇場で『X-1』を蹴った新間さんのほうが勝ち組のような気がしますけどね（笑）。

山本 いや、『X-1』の結論は、あそこに行った奴は本当に絶対に偉い！ 俺は自分を誉めて上げたいっ‼

吉田 横浜まで行って悲惨な大会を観た俺は偉い、と（笑）。

山本 しかもあの日は競馬で100万円勝ったから、後楽園からタクシーで行ったんだよ！ あんなプアーな大会にタクシーだよ、豪ちゃん！ 断然ッ、俺の勝ちですよぉぉぉ！（大炎上）。

吉田 山本さんの移動はゴージャスだったわけですね（笑）。

山本 でも、1万円ぐらいだろうと思ったタクシー料金が高速料金を含めて1万3千円もかかってさ。あれには頭にきた！ あの3千円は余計ですよぉぉぉぉ！

吉田 そんなみみっちいこと言ってる山本さんが一番、プアーですよ（笑）。帰りもタクシーだったんですか？

山本 いや、歌枕や塾生も一緒だったからさ。タクシーだと試合の余韻でワイワイ喋りたくなるでしょ？ もう寂しくて何も喋りたくないから電車で帰りましたよぉ。

吉田 それって、どう見ても負け組ですよ（笑）。しかし、新日本の『アルティメット・クラッシュ』の場合は、新日本にガチンコ幻想を取り戻そうっていう社内全体の姿勢や上井さん個人の熱意もあって前向きな何かが感じられたけど、『X-1』には何も見えなかったんですよね。見えたのは、スポンサーを獲得するためにはガチンコをやるしかないっていう台所事情ばっかりで。

山本 そういうことですよ！ スポンサーを説得するためには、流行のVTをやらないといけない。『X-1』は、スポンサーの了解点を得るための企画でしかなかったわけ。それが結局、長州の歴史なんですよ。ジャパンプロレス時代からやってきた彼の生き方というか、それを延々続けてるだけだよなあ。

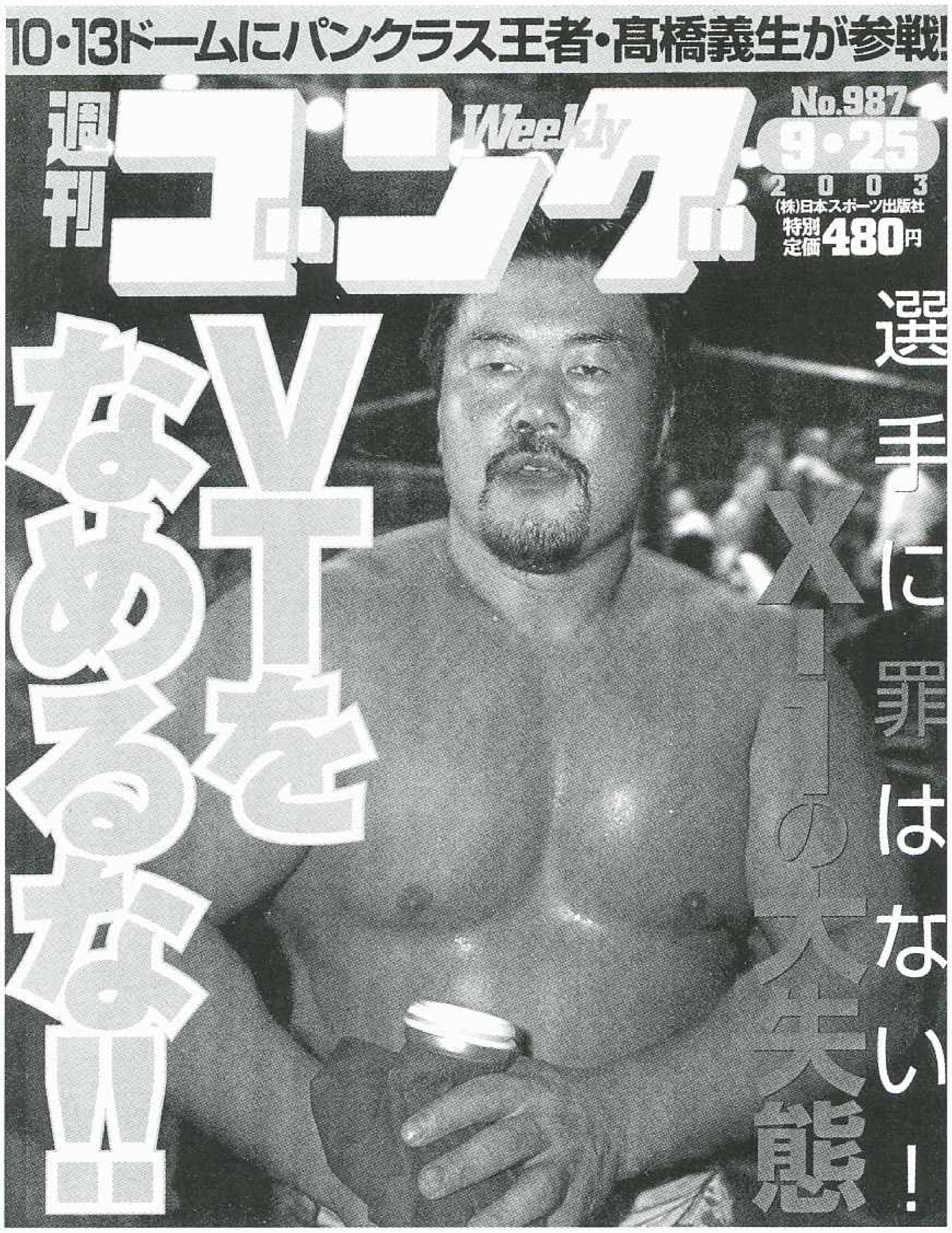
吉田 初めにスポンサーありきというか、そのスポンサーが気に入る対象がプロレスからガチンコに変わったってだけなんですか？

山本 そうそう。ガチンコをやれば、金出してもらえるというかさあ。

吉田 とにかく志が低いんですよねえ。だからこそ、こんな悲惨な内容になったんでしょうけど。

山本 解説席に北斗が来てたんだけど、あ～れも寂しかったよぉ……（しみじみと）。北斗なんか男子プロレスを一時期だけれども飛び越えた、俺からすればすごく輝いていた人なんだから、あの会場だけには来てほしくなかったですよ！

吉田 一時は「女・猪木」とまで言われてたんですけどねえ。しかも、北斗が解説したのは中嶋君の試合だけだから、秒殺で終わったせいで試合中には一言しか喋れなかったっていう（笑）。



ちなみに翌週の『ゴング』には長州インタビューが掲載。「反省点だらけですよ」と『X-1』を語る長州。WJ自体が「ズレている」と苦境に立たされていることも口にしたが「俺はズレているつもりはない」と俺“だけ”はど真ん中と主張。ギャフン！

月刊Y^2談

山本 あとさ、ガチンコの過剰さを出すために金網を持ってきたけど、あの金網もしょっぱかったよなあ。

吉田 選手が金網に押しつけられる度にセコンドが必死になって支えてたんですけど、それでもやっぱり途中で壊れちゃうし（笑）。「日本初の金網VT！」っていうのが売りだったことにしても、金網VTなんてUFC-JやK-1なんかでもやってるわけだし、そういう常識すらもわかってないんですよね。

山本 会場からしても、横浜文化体育館というのはインディ団体にとっては一番大きな舞台なわけでしょ？ 武道館、両国には届かない団体がやる会場ですよ。

吉田 その文体すらも『X-1』には大き過ぎたわけですけどね（笑）。『PRIDE』って平均点が80点ぐらいの大会だから、60点ぐらいのときでもボクらはボロクソ言うじゃないですか。でも、『LEGEND』や『X-1』を見ると、30点ぐらいの大会が存在するという事実に気付かされるんですよ。

山本 それぞれハードルがあるってことがあれで初めてわかるよなあ。

吉田 『X-1』にはもともと期待してなかったわけですけど、その低いハードルすらも下回りましたからね。WJの所属選手はほとんど出ないし、健介は試合前から「今日で最後のVT！」と明言してたし、外人選手もTシャツを着たまま試合するような奴ばかりだしで、やる気があるのは企画した（ブライアン・）ジョンストンだけだったのも問題ですよ。

山本 まあ、『X-1』で唯一の救いだったのは中嶋君だけだろうね。身体能力は抜群に高いと思うよ。

吉田 永島さんは、その中嶋君を中心にして「今度はM-1を開催する！」って

ブチ上げたわけですけど。

山本 ん？ なんだ、M-1って？

吉田 K-1ワールドMAXを意識しつつ「マグマ」「ミドル級」のMの名を掲げた、11月開催予定のビックプロジェクトですよ！ 吉本のガチンコ漫才トーナメント「M-1」が盛り上がっていることも知らずにそんな名前を付ける永島さんのセンスには、もはや呆れるしかないですね（笑）。

山本 ……そ、そんなの、やれるのかぁ？

吉田 いや、当然できるわけないからWJ内部からも非難の声が挙がってるみたいです（笑）。

山本 中嶋君の将来が心配だなあ……。

吉田 ガチンコをやるにしてもプロレスをやるにしても「キミの居場所はそこじゃない！」の一言ですよね！ ガラガラで熱のない会場でインディ系の選手とプロレスする中嶋君なんて見たくないじゃないですか。まあ、新日本時代にあれだけインディを否定していた長州さんがリッキー・フジや矢口壱琅と抗争していること自体、寂しくてしょうがないんですけど。

山本 まあ、WJは長州さんじゃなくて永島さんのモノだからね。俺はそう思ってるよ。

吉田 長州さんは『X-1』に対しても引き気味でしたよね。当日は「急用がある」ってことでノーコメントだったし。

山本 あんな内容じゃコメント出せないよ！ 喋ることないもん！

吉田 長州さんって昔から「プロレスも格闘技も同じだ」って言ってましたけど、VT興行を実際にやってみたいまはどう思ってるんですかね？

山本 そういうことを問題にすること自体に意味がない！ だって、長州さんも永島さんも今、何をやっていいかまるでわからなくて、VTに手を出したんだから！

吉田 「逆方向のど真ん中」という『X-1』のキャッチフレーズにしても、言ってる本人ですら意味がわかってないと思いますよ（笑）。

山本 時代にギブアップしたんだよな、長州さんは。完全に白旗、両手を挙げて全面降伏してるわけですよ！ そういう人たちを責めてはいけないんだよなぁ。影響力のないモノを叩いてもしょうがないもん。影響力があるもののミスに対しては俺は絶対に見逃さないけどさ。

吉田 『PRIDE』、K-1、新日本なんかは叩いてもいいけど。

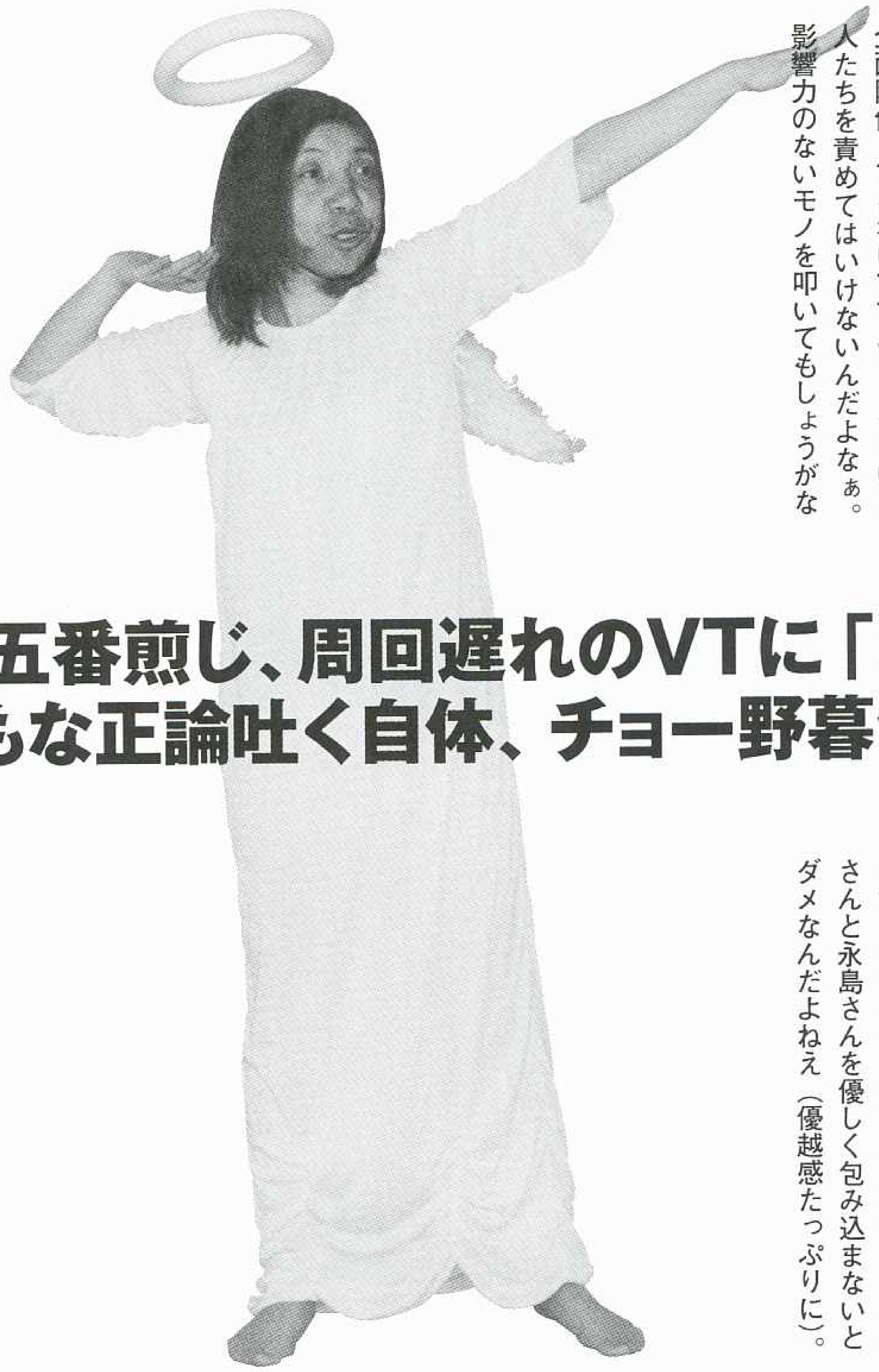
山本 俺たちは『PRIDE』という最高のVTを見てるんだよ？ 『X-1』はその二番煎じどころか五番煎じなわけだからさ。その五番煎じに文句を言ってもしょうがないですよ！ 陸上競技なら、周回遅れのVTですよぉぉぉ！

吉田 山本さん、いま思いっきり文句言ってますよ（笑）。

山本 （無視して）そんな大会に「VTをなめるな！」とか、まともな正論を吐くこと自体がチョー野暮ったいわけ。今こそ優しく包み込んで見てあげないといけないんだよ！

吉田 MISIA流に言えば「つつみ込むように……」（笑）。

山本 そうそう（笑）。俺たちが、長州さんと永島さんを優しく包み込まないとダメなんだよねえ（優越感たっぷりに）。



『PRIDE』の五番煎じ、周回遅れのVTに「なめるな！」とか、まともな正論吐く自体、チョー野暮ったい！

吉田 しかし、山本さんにもそんな優しい視点があるとは思わなかったですよ（笑）。

山本 いやいや、皆さんは俺のキャラを一方的に誤解してるけど、俺はさあ、ただアジテーションでバッシングするだけの人間じゃないんだよね。時と場合によっては変わるんだよ。「生き馬の目を抜く」とか「死に馬を蹴る」という言葉があるけど、『X-1』にはそれをやっちゃいけないわけ。

吉田 山本さんは『SRS・DX』で「ちょっとつらいものを見てしまった」と書いてましたけど、だからこそ何も言えないってことですね。

山本 ホント、何もかも寂しいというかさぁ。

吉田 ジョンストンの会見も泣けましたよねえ。記者に「なぜ新日本と手を切ったんですか？」って聞かれたら、「私にも生活があるんです」って正直に答えて（笑）。

山本 長州の姿も寂しかったよぉ……。長州は試合が始まる前から本部席にずっと座ってたけど、俺が知っている長州は中嶋君の試合だけ見ますよ！

吉田 健介の試合も見てあげましょうよ（笑）。しかし、『X-1』は『LEGEND』に匹敵するって言われがちですけど、それとはまた違いましたよね。

山本 『LEGEND』の場合は時間軸がないからね。だけど長州の場合は時代を遡れば、いろんなものがあるじゃない。場末のバーに、かつての人気スターが出ているような寂しさですよ！ だけど長州力という存在の残骸が見れたんだから、あれはとても貴重な興行なんだろうけどさ。

吉田 GKもその寂しさは訴えてるんですよね。GKが抱いていた幻想だと、「ブチ切れた長州がリングに躍り込んで、ヤワな金網をすべて蹴り倒す。そしてマイクを手に『金網なんてやめちまえ！ 俺がリングのど真ん中でプロレスを見せてやる！ トモヒロ（石井）、オマエ上がってこい！』と吠える」ってなるはずだったみたいだし（笑）。

山本 それは大正解だよ、GK（笑）。でも、かつて我々が抱いていた長州力という存在は、もはや空洞化してるんだよな！ 長州力は灰になったんですよぉぉぉ！

吉田　電流爆破で真っ白に燃え尽きましたか（笑）。

山本　完璧過ぎるほどの残骸ですよ！　もはやパーフェクトな残骸！

吉田　長州さんのやることは復帰以降、すべて残骸になっちゃってますよね。

山本　まあ、俺もいろいろ言ったけど『X-1』には最初から期待してなかったから失望はしてないんだよ。ただ、決定的な絶望感があったんだよなあ……。

吉田　それ、絶望感のほうが重症じゃないですか！

山本　その絶望感のまま会場を出たら、文体の前にチケットを売る小屋があるじゃない。その中に呑気なオッサンが女の子といたんだけど、それがなんと谷津ですよぉぉぉぉ!!　俺はあの呑気さを見て救われた！　谷津は本当に良かったねえ（しみじみと）。

吉田　どこに救いを求めてるんですか（笑）。しかし、蝶野vs高山も試合自体はダメだったし、夏の金網2連発はどっちも失敗したわけですね。まあ、新日本の場合はそれがビック・サカの乱闘＆復帰というビッグ・サプライズに繋がったわけですけど。

山本　今年の夏のMVPはビック・サカですよ！　ビック・サカが新日本プロレスを救ったというか、格闘技に対するあらゆるコンプレックスやトラウマを取り払ったんだよねえ。これから新日本は伸びると思うな！

吉田　プロモーターの星野勘太郎さんを魔界の総裁として再生させたのが当たったのに続いて、山本小鉄さんや坂口さんみたいに経費もかけずに使える、内部の知名度ある人材を有効活用するようになりましたからね。

山本　新間さんもそうだけど、彼らは全然、格闘技に対してトラウマがないんだよ。

吉田　むしろ俺らの方が強い！ぐらいに思ってるでしょうね（笑）。

山本　でも、ビック・サカがあれだけ偉大な存在だとは思わなかったなあ。いつも猪木さんの影に回っていた人だからね。

吉田　前にビック・サカの復帰プランが出てきたときは、猪木さんの一声で潰れちゃったわけですけど。

月刊Y^2談

山本　それが今回は息子の憲二が出てきたことで、さらに盛り上がってるじゃない。坂口さんだけだったらちょっと弱いけど、息子が出てきたことでアングルにリアリティが出てきた。いまは高齢化社会だから、坂口さんみたいなお年寄りにどんどん頑張ってほしいね。だって、甲子園で優勝した常総学園の木内（監督）さんは77歳だよ！　マラソンの小出監督もオッチャンだし、星野（阪神監督）さんや野村（シダックス監督）さんもそうだけど、独自の哲学や技術論を持ってるわけじゃない。新日本も同じなんだよ！　お年寄りが今、日本を引っ張ってるわけじゃない。新日本も同じなんだよ！

吉田　蝶野じゃ無理だったんですかねえ……。

山本　蝶野は底が浅いんだよ！　蝶野が成功するためには嫁が出てこないと無理！

吉田　あ、マルティナ夫人がカギを握ってますか（笑）。

山本　蝶野はマルティナ夫人の、あの女の強さを全部、隠してるわけだろう。そこを全面に出せばブレイクしますよ！

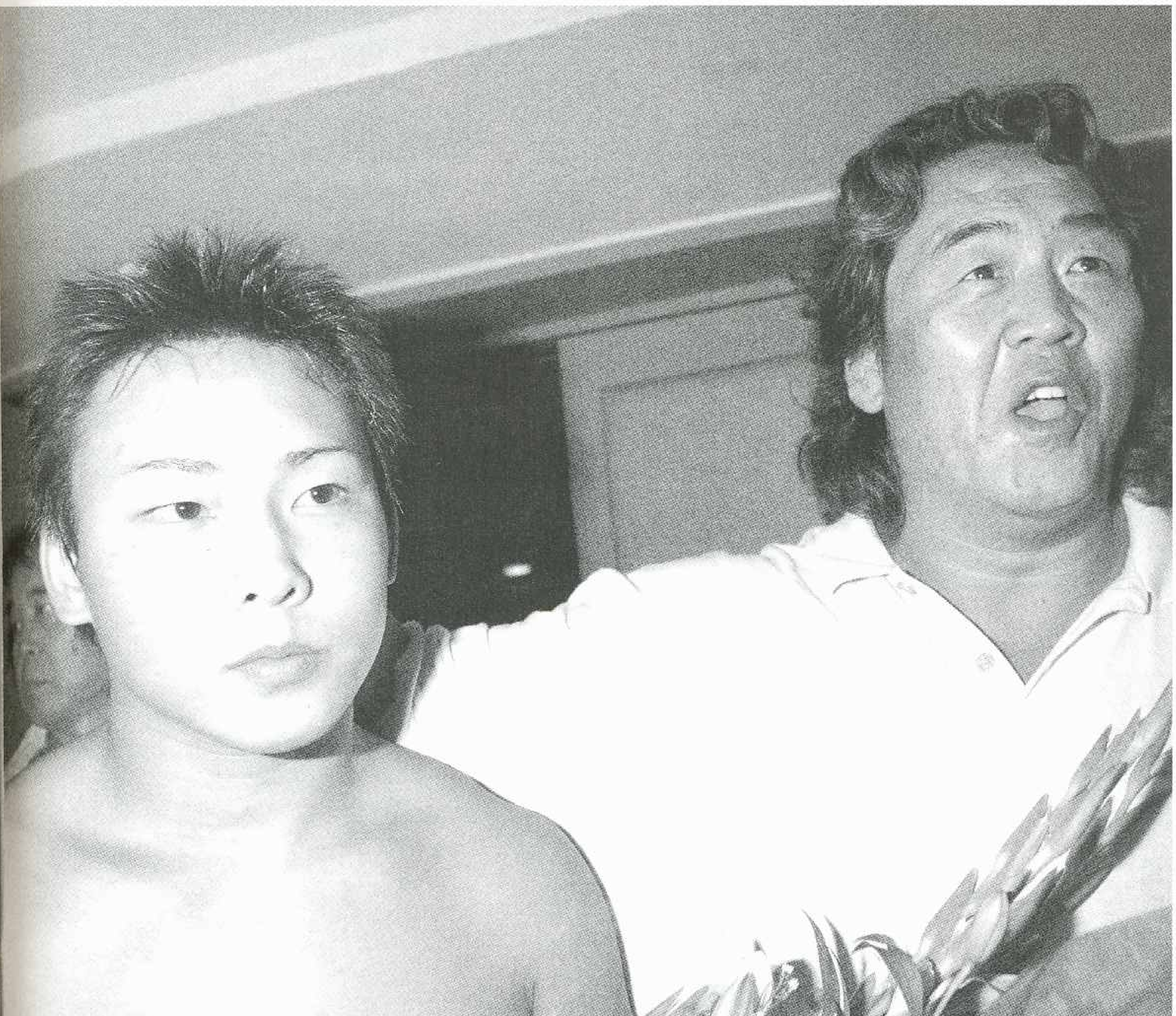
吉田　つまり、蝶野が尻に敷かれてる姿を出せってことですね（笑）。

山本　そうだよ！　実際、蝶野や藤波さん、坂口さんもみ～んな尻に敷かれてるわけだからさ、みんな奥さんを出せばいいんですよ！

吉田　馳さんも「坂口家最強は利子夫人」って言ってましたけど、利子夫人は元女優ですからね。ちなみに真壁が「坂口家で一番怖いのはおかみさんだろ！」って吠えたら、すかさず高山は「俺はそこまで言ってない」って引いてましたけど（笑）。

山本　奥さんと言えばさあ……。（小声で）OKA-CHANGの出版パーティーはどうだったの？

吉田　え～、読者の皆様はほとんど事情がわからないと思うので念のために説明すると、ここ最近山本さんが恋をしている人妻として一部で有名なOKA-CHANG（石丸元章夫人）が処女作『アイロニー？』（扶桑社）を出したので、今日はボクも出版記念パーティーに行ってきたわけですけど、山本さんは不参加で



『X-1』に唯一見えた光明が弱冠15歳の中嶋君だろう。ど真ん中のリングでどこまで成長できるのか？　長州がかける期待も絶大だ！



長州の姿も寂しかったよぉ……。いまこそ優しく
包み込んで見てあげないとけないいんだよ！



表紙を見ただけでターザンの顔色がギラリと変わった『紙プロ』NO.64『PRIDE・GP』直前号。ターザンは「俺のミルコをなぜ表紙にしない！」と大炎上！　すぐさま抗議の電話が編集部に！

月刊Y^2談

したよね。どうしてなんですか？

山本　だってね……（以下、30分近くパーティーとOKA－CHANGの本について駄目出しを続けるが、このコーナーの主旨と違いすぎるため残念ながら割愛）。

吉田　しかし、山本さん。なんでそんなに憤ってるんですか？

山本　本を出すならOKA－CHANGは俺に相談すべきだったんですよ！

吉田　あ、俺抜きで勝手に本を作るな、と（笑）。

山本　だから、こんな本を出す出版社自体も大マヌケ！　扶桑社がいかにダメな出版社か、おかげで骨の髄まで俺にはよ～くわかったよぉぉぉぉ!!（大炎上）。

吉田　ダハハハハ！　扶桑社が手を引いたから『SRS・DX』が休刊になった恨みを、そこにぶつけなくてもいいじゃないですか（笑）。

山本　『SRS・DX』はこれから面白くなるのにさぁ。（『タイソンという名の大金鉱脈』と表紙に打った号をバンバン叩きながら）俺がこんなに素晴らしい表紙をつくったのに、扶桑社は先を読む力がまったくゼロですよ！

吉田　『PRIDE』との関係が切れたとはいえK－1情報はどこよりも強いし、今後はタイソンのネタを独占できるんだから、もったいない話ですよね。山本さんもHPの日記でかなり憤ってましたけど（「これから格闘技の世界は確実に盛り上がっていく。それなのになぜ『SRS・DX』は休刊にならなければならないのか？　それを考えると思い切り腹が立ってくる。バカ野郎である。一つの媒体（雑誌）がなくなることは、ジャンルが貧困化してしまうきっかけになるのだ。こういう時、『PRIDE』にしろK－1にしろ、『SRS・DX』をなんとか残していこうという働きかけをまったくしようともしない。アホである。それは天に向かってツバを吐いていることと同じことなのだ。あとで損をするのはお前たちの方だからな。よくおぼえとけよ」という、異常にパワフルな恨み節を披露）。

山本　ホント、そうですよぉぉぉ！

吉田　しかし、『プロレス激本』にしてもインタビュー路線に変わって面白くなりそうなときに休刊になったし、タイミング悪いですよねぇ（笑）。

山本　あのときも「あと3回やって結果をみてくれ！」って言ったのに、双葉社が結論出しちゃったんだよね。『プロ勝ち』も一回出しておしまいだし、いまの出版社には未知なモノにかける気概や志とか「勝負したる！」っていう気持ちが全然ないんだよ。

吉田　山本さんはいま、新紀元社に「月刊ターザン山本」を作れ！」って言ってるみたいですね。

山本　それ、ターザン高松（新紀元社・社長）が本気になってるんだよ！　『SRS・DX』の実売数とか雑誌コードの問題やらを、着々とリサーチしてるからね。まだどうなるかわからないけど、俺にすべて自由に仕切らせてくれたら面白い雑誌が作れますよ！

吉田　編集長代行だった『SRS・DX』では、どうしても自由にできない部分があったわけですか？

山本　できるはずがないでしょ。だって『SRS・DX』は、マガジンとしての



表紙を見ただけでターザンの顔色がドドーンと変わった『紙プロ』No.65『PRIDE・GP』検証号。「今号はオーガン！　顔を洗って出直してこい！」とすぐさまFAXテロを編集部に仕掛けた！

客観性を持った雑誌じゃないじゃない。谷川や柳沢（元『SRS・DX』発行人）が『PRIDE』とK-1に深く関わっていたというか、ブレーンになっていたというかさ。谷川なんて、K-1のプロデューサーじゃない。

吉田　そもそも出版元自体、『PRIDE』とK-1を放送しているフジテレビの関連会社ですからね。

山本　そうなると、プロモーションの意向に添って雑誌をつくらないといけないでしょ？　一種の足かせがあるわけですよ。だから俺は自分のページで自分のメッセージを送ってるだけで、要はターザン山本の飼い殺しみたいなもんだったんですよぉぉぉ!!

吉田　でも、テリー伊藤と山本さんのツーショットを使った表紙や、試合じゃなくて観光地についての写真と文章ばかりで埋め尽くしたパリ特集号からは、思い切り自由さを感じましたよ（笑）。

山本　テリーさんとのツーショットは間隙を突いてやったんですよ！

吉田　間隙を突くにしても、『PRIDE・GP』直前号でやる表紙じゃないですよ（笑）。まあ、『PRIDE』がREBORNした頃からローデスとDSEの関係が悪くなってたから気持ちはわかりますけど。

山本　『PRIDE』側にも、変に『SRS・DX』を取材させないようなところがあったらしいんだよな。

吉田　高田道場の道場マッチも取材媒体限定ということで、『SRS・DX』は取材できなかったみたいですからね。

山本　俺たちは面白いことを載せようとしてるわけですよ。それなのに、『SRS・DX』はK-1の雑誌、『紙プロ』は『PRIDE』系の雑誌ってセクトが勝手にできちゃってさ。そんなのナンセンス過ぎますよ！　俺からするとまったく訳がわからんというか、どっちもどっちだよなあ。

吉田　『SRS・DX』休刊の原因は、そういう部分にあったわけですか。

山本　ただ、あの編集部の空気もかなりよどんでいたからねえ……。

吉田　ああ、確かに某カメラマンも『『SRS・DX』の編集部は空気が重すぎる』って言ってました（笑）。噂によると、男子と女子がほとんど口を聞かなかったみたいですね。

山本　そこで俺はどっちにも声を掛けて、編集部の潤滑油になってたわけですよ！　大きな声を出して気合いを入れて、無限大の明るさを与えていたんだよなあ。

吉田　山本さんがいれば、とりあえず活気は出ますからね（笑）。

山本　いつ何時でもお祭り騒ぎをして、編集部に明るさを取り戻したわけですよ！　そのおかげで小松の円形脱毛症も治ったんだよねえ（しみじみと）。

吉田　そんな心と体のケアまでしてたんですか（笑）。

山本　でも、いろいろ気を使ったから今度は俺自身にストレスが溜まっちゃってさあ……。休刊になったいまは逆に気持ちがいいですよぉぉぉ!!

吉田　ダハハハ！　ようやくストレスから解放されたんですね（笑）。

山本　そう！　休刊は不名誉なことなんだけど、いまの心境は「休刊ッ、バンザ～イ!!」だから！　俺はフリーバーズ!!　自由になれたという解放感があるんだよ！

吉田　やっぱり山本さんは無責任で面白いですねえ。編集長代行だったのに（笑）。

山本　だって、物事を長くやっていくと煮詰まってくるし、いろいろなことがわかりすぎて辻褄も合わなくなるから矛盾を感じるじゃない。そうなると行動力も

『紙プロ』の表紙もしょっぱいよなあ!!
ミルコの神話と幻想は俺が概念化したんですよぉぉぉ!!

落ちてくるから、新しいことをやりたいなって思うわけだけど、そのためにはいまの仕事を「放棄するか」、もしくは勝手に本が「潰れる」しか道はないじゃない。

吉田　『W-1』の頃に放棄しようとしてたこともありましたけど、それが潰れたわけですからね（笑）。

山本　競馬で負けたときもそうだけど、何かしがみついて生きている人にはリセットする気持ちよさを知ってほしいよ。

吉田　小さく勝ったり負けたりするよりも、たまには大負けした方がいいってことですね。

山本　「負けもドラマだ！」って大声で叫んで、次の世界に旅立っていく！　何かを失っても、必ず違った何かが生まれてくるからね。俺なんかこのところ競馬ボロ勝ちですよ！

吉田　『SRS・DX』休刊のカウントダウンが始まると同時に、100万単位の勝利が続いてるみたいですね。

山本　この前なんか、2千円で7万7千円の馬券を当てたんだよ？　払い戻しで150万！　これもすべて『SRS・DX』が休刊になったからですよぉぉぉ！　休刊、バンザ～イぃ！（思い切り裏返った声で）。

吉田　すべてはうまく転がるようになってるんですねえ（笑）。

山本　だから、俺はいつもみんな「やめろ」「捨てろ」と言ってるわけよ。会社なんかすぐ辞めろ、と！

吉田　山本さんは、悩みに相談しにきた人全員にそうアドバイスしてますよね（笑）。

山本　サラリーマン社会で生きていれば、窓際に追いやられたりリストラされる日がいずれくるわけですよ。それなら、こちらのほうから先にやめてやる！　という気持ちを持ってないとダメだよ、いまの時代は。そういう強気の姿勢だと、い会社は慰留するんですよ。辞めるのを怖がっていると、逆に会社から狙われるんだよなぁ。

吉田　でも、山本さんが『週プロ』をやめたときは慰留されなかったんじゃないですか？

山本　あんときは、間髪入れずに会社から「わかりました！」って了承されたんだよな。ホント間髪入れずに退職金を払いやがったよ！　みんな俺がいなくなってほしかったんだろうねえ……（しみじみと）。

吉田　ダハハハ！　山本さんが辞めれば、新日本と上手くやっていけるし『週プロ』の売れ行きも倍増すると思ったんでしょうね（笑）。で、山本さんはこれからどうするんですか？

山本　競馬に生きますよ！

吉田　K-1よりも競馬ですか（笑）。

山本　俺は本気だよ、豪ちゃん！　毎回、ポケットの中に100万円入れて競馬やってるからね！

吉田　そんなこと広言してると、いつか襲われますよ！

山本　俺は襲われないですよ。だって、俺は身体がデカイでしょ？　それに派手な服来てるでしょ？　動物は「大きい」や「派手」なものを襲わないようになってるんですよ！

吉田　そのために派手な格好をしてたんですか（笑）。でも、しょっちゅう自転車のカギを落としてる山本さんがポケットに100万円入れてるのも危なっかしいですよねえ。

山本　いや、100万だと束だから落としようがないんだよ！

吉田　なるほど（笑）。とりあえず山本さんは競馬で自由に生きるとして、他の編集部員はどうなるんですか？　いまだに谷川さんや社長（柳沢）から休刊の話はされてないって噂ですけど。

山本　……どうなるんだろうねえ。

吉田　ローデスはK-1の関連会社になるって話もあるみたいですけど、山本さんから見てK-1はタイソン景気で好転しそうですか？

山本　というか、タイソンをどれだけ絡ませられるかによってマット界の運命も変わってきますよ。すべてはタイソン待ち！『PRIDE』は絶好調だけど、K-1がタイソンを取ったことで、目に見えないプレッシャーになってると思うんだよね。

吉田　タイソン問題に最もプレッシャーを感じてるのは猪木さんだと思いますけどね。これまで何度も「タイソンが来ます！」って騒いだのに呼べなくて、狼少年みたいになってたじゃないですか（笑）。

山本　ああ、猪木さんは口には出さないけど嫉妬してるだろうねえ。

吉田　猪木さんはK-1のタイソン招聘話になると笑顔が消えて、「皆さん、俺に言わせないで、自分の言葉で書いたらどうですか？　わかってるんでしょ？」って、やけに意味ありげなことを言い出すらしいですよ。それなのに谷川さんは、「ええ～っ？　猪木さんが嫉妬してるの？　そんなことないでしょ、絶対。ボクは仲良く一緒にやっていきたいと思ってるんだけどなぁ」とか、えらい呑気なこと言ってるし（笑）。

山本　……谷川は恐ろしくキラーだよなあ。アイツは確信犯的なところある。いや、絶対に確信犯ですよ！

吉田　谷川さんは、どこまでが素なのかバカを演じているのか全然わからないですからね（笑）。あとヤスカク情報によれば、猪木さんは新日本にも嫉妬してるらしいですね。

山本　ん？　どういうこと？

吉田　『週プロ』で連載している「ヤスカクの事件簿」によると、猪木さんの新日本の批判も「いまの新日本ほど面白い団体はない」から「猪木の声は嫉妬にすぎない」ってことみたいですね（笑）。



【吉田豪のプチ書評の星座】元モデルであり、前科持ちライター・石丸元章夫人であり、現役の向島芸者でもあるOka-Chang初の著書『アイロニー？』（扶桑社／1200円）は、彼女がCZWとZERO-ONE好きだということを差し置いても『紙プロ』読者なら絶対に読むべき一冊である。なにしろ、彼女にベタ惚れしているターザン（Oka-Chang曰く「チャーミング」なんだとか）を花見デートに誘うなり「森鴎外の旧宅があるホテル」に拉致して、2人で泊まったというとんでもないエピソードが初公開されているんだから、それだけでも奇跡の一言。なお、この日についてターザンが「今日あったことは書けない」と日記に記していたことを踏まえてみると感慨深いばかりなんだが、実はK-1山形大会の取材をサボっていたからだったりするのも、さすがはターザン。「この本を売りたいんだったら、俺にいいアイディアがある。……離婚することですよぉぉぉぉぉ！」という下心全開のスーパーバイズをブチかましてたのも最高なのであった。

山本　確かに、猪木さんほどジェラシーが強い人もいないよ。でも猪木さんの場合、自分と違うことをやってる人に対してジェラシー抱くじゃない。

吉田　猪木さんはG1決勝戦の日にアメリカに帰っちゃうぐらい新日本に興味もないから、むしろ嫉妬しているのは、『PRIDE』やK-1、あとはノアに対してだと思うんですけどね。新日本に対してはストレートに憤ってるだけで（笑）。ただ、坂口さんの復帰戦があんまり評判がいいようだと、猪木さんも黙っていられなくなる気はしますよ。

山本　復帰するってこと？　そういえば猪木さんはニューヨークに引っ越したんでしょ？　どうすんの、ロス道場の人たちは？

吉田　猪木さんのお膝元に道場を作るってことで新日本に多額の金を使わせて、とんでもない話ですよね（笑）。

山本　猪木さんは「世界戦略」を金科玉条みたいに言ってるけど、猪木さんはいわゆる実行力や行動力、それに実体は何もないからなあ。ブチ上げるだけで、すべてが空回りというかさ。

吉田　口癖になってる「世界戦略」にしても、昔言っていた「対世間」から名前が変わっただけだと思うんですよね。

山本　「対世界」イコール「対世間」。ということはさ、昔から何にもクリアされてないってことだじゃん（笑）。猪木さんは世界一の妄想家ですよ！

吉田　でも最近になって、永久電機が上手くいきそうもないってことに気付いたらしいですよ。「どうやら俺はダマされていたらしい」って（笑）。

山本　そういう意味では最後に猪木さんに対して言える言葉は一つしかない！　猪木さんは、すごくかわいいよぉぉぉぉお！

吉田　ビジネス的な接点さえなければ、本当に愛すべき存在ですよねえ（笑）。ただ、「世間」なり「世界」にハードルを設定することって絶対に必要なことだとは思うんですよ。いまのプロレスラーはそこにハードルを置かないで、もっと小さな世界を対象にしてますよね。

山本　ごく限られた世界、スモールワールドに向けてやってるというか、いまのプロレス界はスモールワールドですらない。もっと小さい村だよな。同好会レベルですよ！　ほら、猪木さんがよく村松さんに言った言葉で「コンパスの論理」があったじゃない。

吉田　プロレス界を軸にして、どこまで大きな円を描けるかって話でしたよね。

山本　いまのプロレス界は、別にコンパスなんか必要ない。手で書ける簡単な世界というかさあ（笑）。

吉田　点みたいなものですからね（笑）。ただ、猪木さんの「対世間」なり「対世界」戦略が口だけでまったく実現しないのに金ばっかりかかるから、下の選手が小さくまとまる方向を選んだ部分はあるんでしょうけどね。

山本　猪木さんはプラスとマイナスの差が激しいし、マイナスの部分で被害を被った人は多いからねえ（笑）。

吉田　『ジャングル・ファイト』のドタバタ振りを見てたら、たとえスケールが小さくなろうが安定を求めたくなる気持ちもわかりますよ（笑）。山本さん、『ジャングル・ファイト』はいかがでした？

山本　俺もアマゾンに行きたかったよ！　でも、アマゾンまで乗り継ぎ乗り継ぎの連続で、日本から行くのは難しいみたいでしょ。

吉田　結局、どこも海外特派員を取材に行かせたみたいですからね。それに、現地の衛生にも問題があるみたいだから、体調が悪い新聞さんは行かなくなったん

何かにしがみついて生きてる人はリセットする気持ちの良さを知って欲しいねぇ

でしょうけど。

山本　新間さんの体調不良はひょっとしてアングルで、『ジャングル・ファイト』に嫌気がさしたんじゃないの？

吉田　いや、会場はアマゾンの僻地も僻地だから、本当にヤバイらしいんですよ黄熱病、マラリア、腸チフスと、ヤバイ病気のオンパレードで（笑）。

山本　うそぉ？

吉田　クーラーのカビに苦しんでる井上（編集長）さんが行っていたら、命の危険もあったと思いますよ（笑）。

山本　俺も新日本のパキスタン遠征のときに、ラホールという街で高熱を出して死にかけたんだよ！　あのときは同じ部屋だった作家の村松さんに介抱してもらったんだけど、俺はちょうど離婚したあとでさぁ。

吉田　パキスタン遠征というと、『ファイト』の記者時代に最初の離婚を経験したときの話ですね。

山本　結局、ものすごく高い注射を射ったおかげで治ったんだけど、「俺は離婚もして……こんなところで死ぬのかぁ…!?」って、村松さんの前で呻き声を挙げてたんだよなぁ（笑）。

吉田　ダハハハ！　恥ずかしいですねぇ（笑）。

山本　村松さんは、そのときのパキスタン遠征の話を舞台にしてのちに「聖者の行進」という本を書いたんだよ。でも、本を出すはずだった出版社と村松さんの折り合いが悪くなって、村松家に眠ってるんだよ、その原稿。

吉田　読みたいですねえ、それ！

山本　しかも驚くことに、その本の主人公は俺なんですよぉぉぉ!!

吉田　もしかしたら、離婚の話もネタになってるんですか？

山本　なってる（笑）。あの遠征では最後にイスラマバードという街に行ったんだけど、パキスタンの国境にはカイバルという峠があって、その向こう側はアフガンなんだよ。村松さんの本ではすべてに絶望した主人公、つまり俺が、その峠で消えてなくなるっていうストーリーなんですよ！　アフガンでゲリラになったのかもしれないんだよねえ。

吉田　ゲバラ好きの山本さんが、アフガンゲリラになりますか（笑）。

山本　そんな素晴らしい内容で、しかも俺が主人公の本なのに、世に出てないのがハラが立ってハラが立ってさぁ！

吉田　『タイムスリップインタビュー』やOKA-CHANGの本を出すんなら、そっちを出せってことですか（笑）。

山本　そういうことですよぉぉぉぉぉ！　ミルコ、オーガンの次に耕されるべき存在は、この俺しかいないんですよオオオ!!

【03年9月某日／都内某所にて収録】

「俺は自由だ！　気持ちイイよぉ！」と、編集長代行とは思えない休刊総括をしまくったターザン。原稿チェックの際には「これは最高の対談だ！　読みながら興奮しているよぉぉ！」と『SRS・DX』の編集部から電話してくるのだから、最後の最後まで本当に完璧！　んあ〜！

読み切り小説

『ジャングル・ファイト』
その真夏の歪曲線



井上義啓 著

「今日は祝日（9月15日・敬老の日）で印刷の連中が休みなものですから、輪転回しは明日（火曜日）のアサイチになります。印刷が1日送れるわけですから、出稿する原稿は『ジャングル・ファイト』の囲い物だけで、せっかくのジョニー橋本（仮名）の情報も中邑と村上、LYOTOが勝ったというだけの、しょうもない記事でチョンですワ。ホンマ、泣けまっせ。休みの関係で、そうなることは分かっていたのですけど、ジョニーには特派員としてマナウス（ブラジル・アマゾン州）には行ってもらわないといけませんし、ホンマ、泣けますワ」

「それで……」

「ですから、インタビュー（『I・Yのシュートトーク』＝週刊ファイト連載）を『ジャングル・ファイト』に関する何やかやでカバーしてもらおうかと……」

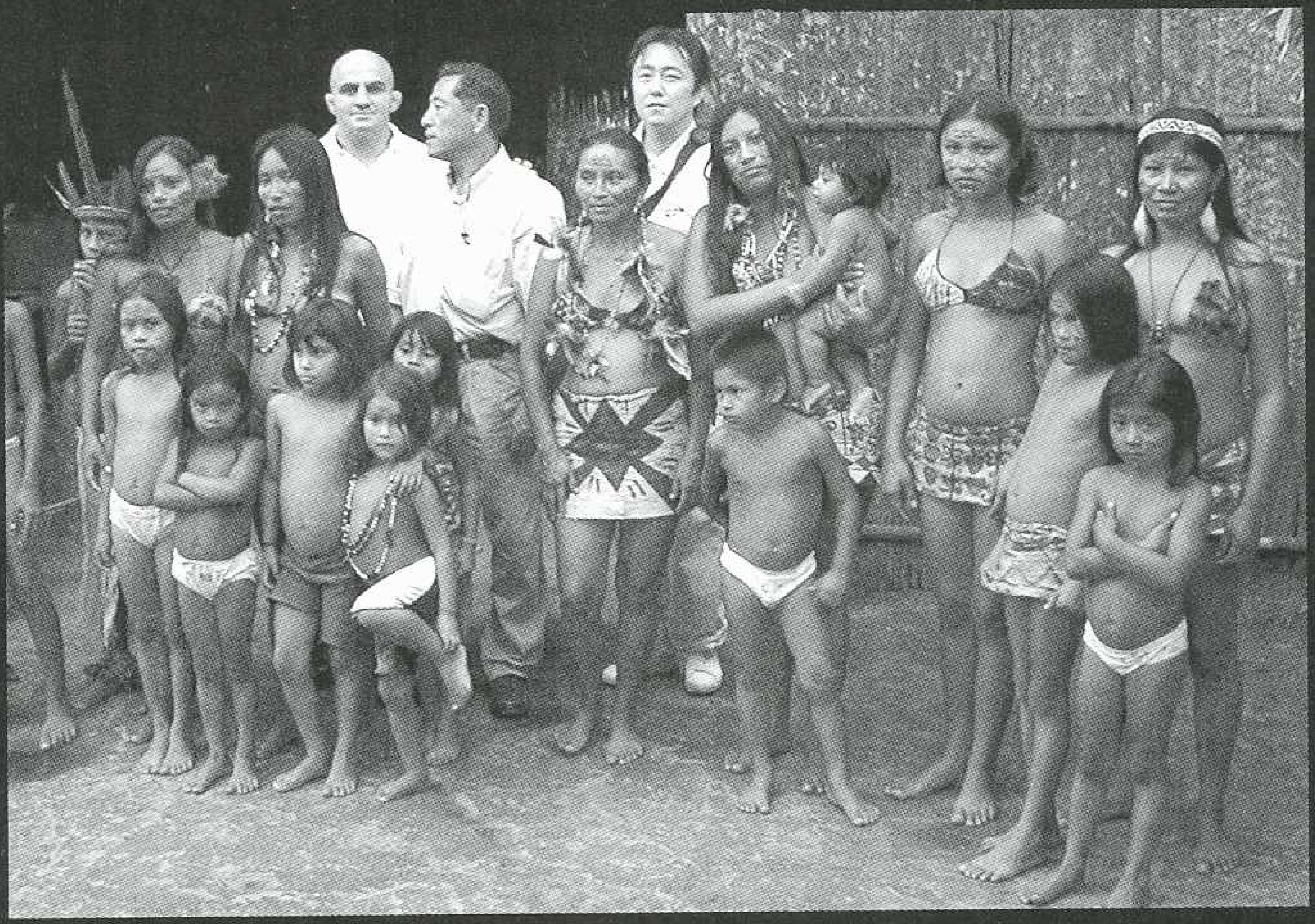
「テレビの映像も皆目流されてないし、情報にしても、いま、キミから聞いた、上っ面を撫でたようなもので仕舞いだ。インタビューと言ったって話しようがないよ。まァ、ご期待に沿うべく考えてはおくけどね」

◆

翌16日。大阪の街は阪神タイガース18年ぶりの優勝で狂ったように沸き返っていた。梅田のヨドバシカメラで、屋外でも印刷できる携帯プリンターのバッテリーを買うため阪神百貨店の前を通り過ぎたのだが、うんざりする人、人、人の群れで、〈幸せな奴だな、アイツらは……〉と自虐的に唇を歪めた。しかし、そうでもしなければ、ウツ状態の、今の世の中から逃げ出す方法を大阪の人間は持たない。仕方のない政治の貧困であり、どん詰まりのハルマゲドンであった。小泉純一郎を始めとする4人の道化師が面白おかしく太鼓を叩いて回っているからに違いなかった。

井沢（仮名・主人公）はつまらなく感じた。喧噪の街にも秋めいた風が吹く。〈どこかへ行ってみたい〉そう思った。無論、京都しか思い浮かばない。まだ足を運んでいない場所は一カ所。それがこの日、井沢が仕事の中に入り込んできた『ジャングル・ファイト』を考えようと決めた京都・大原の三千院である。

井沢は駅構内のキヨスクで番台の上にポツンと置かれていたデイリースポーツを買うと阪急電車に乗った。



思った通りで、″必要とした″『ジャングル・ファイト』の記事は一行も載っていなかった。昨日も今日も、また明日も……。どのスポーツ紙からも井沢の世界である『ジャングル・ファイト』は消え失せていた。東スポが″待望″の記事を載せたのは、その日の午後である。井沢は、その紙面を京都・河原町駅の売店で目にした。

〈これだけのことか……〉

やはり期待したものは何もない。休日2日間のデイリー、日刊、スポニチ、報知同様、それは″白紙″に過ぎなかった。井沢はつまらない顔をして、三千院行きの京都バスに乗った。

◆

『リングの中で闘うプロレスなんて時代遅れなんだ。原野を戦場として闘うファミコン的なプロレスが平成プロレスの主流になるだろう』

〈もう10何年も前か……。タイガースの優勝は18年前というが、俺の活字も、それと同じように古い〉

無論、大笑いされた。

「そんなプロレスが出てくるはずがないじゃないか。パソコンゲームとごちゃ混ぜにされたんじゃたまらんよ」

「編集長。△△の××が『ファミコン・プロレスなんて』と、アホみたいに大口開けて笑うてましたで」

「東京の連中の言うことなんか気にしてたら、大阪で『ファイト』が張っていけるか。東京の連中の言う″天動説″は、毎度のことで聞き飽きたよ」

大原の里にコスモスの花が可憐である。そこには、秋の風しかなかった。人間、都会の塵の中だけで生きていってはならないのだ。自分では、それが″まっとう″だと錯覚しているが、人間の温かい喜怒哀楽の血は都会の雑踏の中にはない。

〈猪木は（左足の）親指をピラニアに噛みつかれたという。あのダイブはプロモーションとして成功だったのか〉

12日（日本時間13日）、会場であるアルアウ・ジャングル・タワーホテルから移動中の船上から、猪木は突然、アマゾン川にダイビングした。人喰いワニも棲んでいる遊泳禁止水域だ。

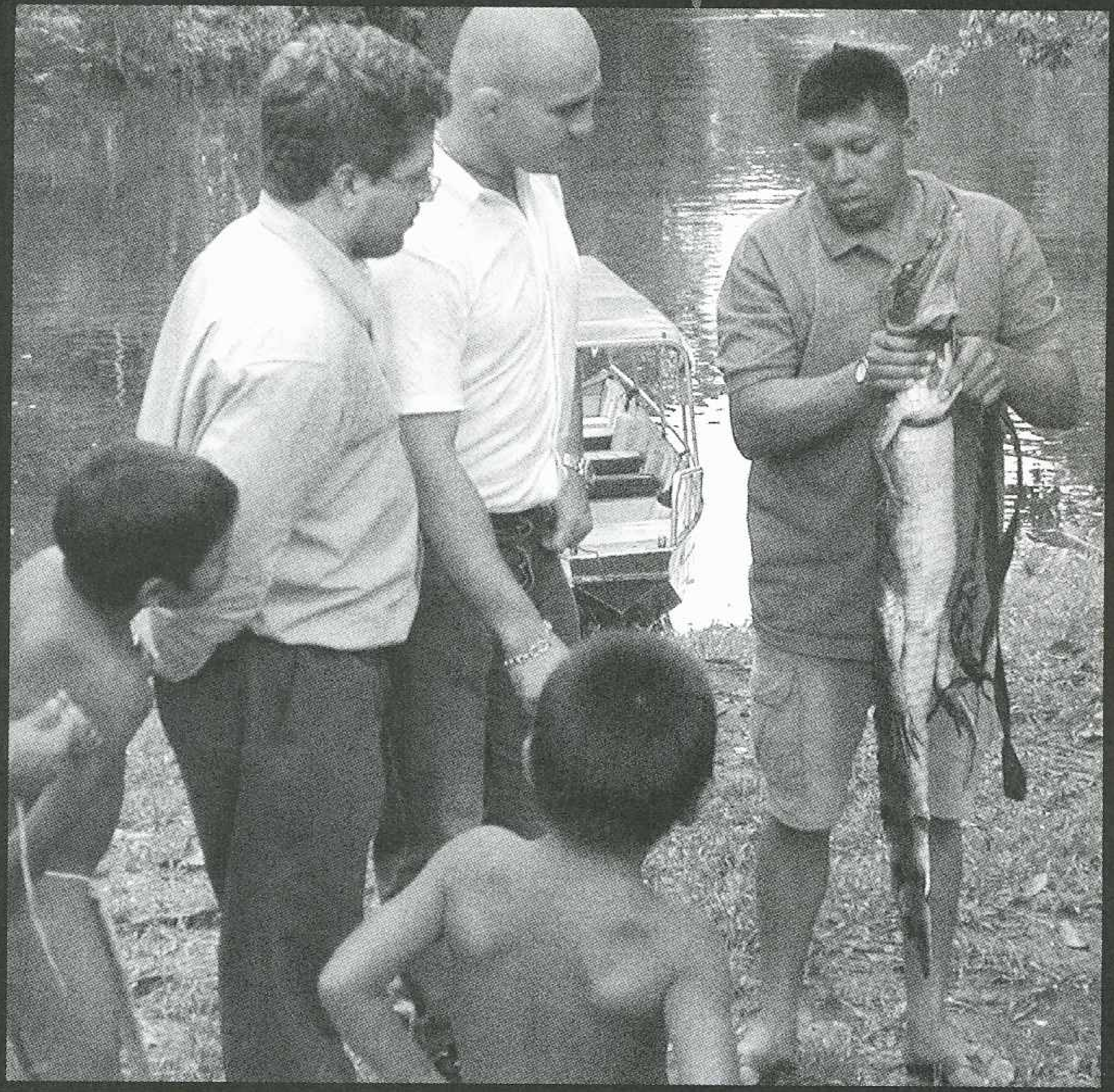
〈裸族（ジャングルの奥地に住む原始種族）が猪木に槍を投げつけたという。どこまでが演出で、どこまでが真実か……〉

バス停を降りると、すぐ前の駐車場の向こうに、「三千院近道はこちら」との大きな立て看板が目に付いた。見ると住宅に挟まれた1メートルほどしか幅のない狭い私道が暗く続いている。ここを通るのだろうと歩いていったが、その横に、「私道につき、通り過ぎると罰金を科します」との張り紙。ヤレヤレ。

千有余年の歴史を誇る天台宗の門跡。都会ではない石垣の中に、池泉回遊の庭園が広がる。『ジャングル・ファイト』も阪神タイガースの優勝もない静寂さの確かさ。だから井沢は無意味さを避けた。井沢が通り抜けた暗い細道は、紛れもなく、人間の歩いて過ぎる確かな血であった。

杉木立の向こうに往生極楽院が見える。阿弥陀三尊坐像（重文）が安置されている塔堂の横で、井沢はまた、″憂き世″の遠いブラジルでの闘いを思った。仕方のない″義理″であった。

〈猪木の考えることは、どうもかったるい。マスコミを手玉にとって記事を書かせることにも失敗したし、パフォーマンスも演出も通りいっぺんのチエの無さだ。新間のダンナが入院してブラジルに行けなかったので、あのような体たらくで終わったのかもしれない。とにかく、この前（9・6WJプロレス『X-1』）のブライアン・ジョンストンと同じ。イズマイウに何もかも任せていたのではロクなことには



ならない。切れ者が必要だったんだ……〉
では、他にどんな手があったか。大原の里に点在する素朴な作りの民家の数々。その藁葺き屋根を吹き過ぎた秋の風が井沢が考え込んでいる塔堂の笹の葉を揺るがす。赤トンボが2匹、ポツンと飛んでいった。
〈オレだったら、ゴジラのぬいぐるみとアリと闘った、あの猪木だ〉
アメリカ人やブラジルの人たちが知っている〝ニッポン〟は、ゴジラと富士山である。猪木が〝ニッポン〟を使ってパフォーマンスするとすれば、それはゴジラであり、アリと闘った猪木しかない。
〈ゴジラのぬいぐるみを着て、ピラニアがウジャウジャいる川を渡ればよかったんだ。ピラニアに両足を食いつかせたまま、リングに上がればよかったんだ。そうしておいて、裸族に槍を投げさせる。先っぽが丸いヤツを……。ひときわ吠え立てておいて、ぬいぐるみを脱ぐ。猪木だ。そこでナレーションが入る。「あのモハメド・アリと闘った日本のアントニオ猪木です！」と……〉

井沢の脳裏にホテルの横にはみ出した木造りのリングが見える。鉄柱などない。すべてが現地で調達した木材ばかり。天井はと見ると、いくつかのライトの上にツルや木の枝、葉っぱなどで覆われている。それが川の上にせり出しているのだ。アマゾンであり、ジャングルであるという謳い文句に偽りはなかった。
〈（モンターニャ）シウバは〝アマゾン決戦〟に出すはずだった。それがK-1と図っての、初めからの作戦だったのだ。それが証拠に〝アマゾンの大巨人〟とのリングネームが初めから付けられていた〉
武蔵相手の大暴走で、腹立ち紛れに角田信朗プロデューサーがシウバに無期限出場停止を言い渡した。
〈谷川のダンナ（イベントプロデューサー）は慌てただろう。しかし、口に出してしまった処分は訂正が効かない。仕方なく時間を置いて、「猪木さんに預けて根性を鍛え直してもらうしかない」と、最初の一発をマスコミに書かせた。そうしておいて、成田（空港）での、あの猪木とシウバのツーショットだ。猪木が「ジャングル・ファイトに出場してもらうかもしれない」とホンネ。これが第2弾。しかし、予算（コスト）の関係でシウバもTOAもみんなオジャンになった。おそらく、そういうことだろう〉
こうなると、マスコミが記事にするエレメントは壊滅的な打撃を被る。柱となるヒカルドンにしてもインパクトはそれほどではないし、ましてやチャバレリは現役ではなくトレーナーだ。
〈それも、カードが前日（日本時間13日）に分かったとあっては『ファイト』など書きようがない〉
特殊な地域での試合には〝紀行文〟が必要だ。後日、それは活字になるのだが、大会前の報道にも、それは欠かせない必須条件だった。それもなかったところに、今回の〝ツンボさじき〟があった。ファンは何一つ知らされなかったのである。
「『ジャングル・ファイト』、どうなりましたんや。ホンマにやったんですか」
井沢は同じ電話攻勢にうんざりさせられた。『ファイト』からの情報も断片的で答えようがなかったのである。
〈ジョニーがホームページで、ブラジル行きの危険状態をあれこれ書き込んでいたが、あれくらいのものか〉
しかし、それとても出発前の記者同士のやり取りで、猪木一行に随行してのリポートではない。
〈結局は空振りだったっていうことだ……〉
平家物語で知られる建礼門院ゆかりの寂光院が、平家一門の冥福を祈って静かである。大原女の原形はここで誕生した。
〈『ジャングル・ファイト』も〝ファミプロ〟の原石。誕生した時は頼りなくても、時間が経てば光り輝く珠玉と化すはずだ〉
あれをもって「失敗した」と言ってはならない。猪木と言う名の大河から流れ出した支流の一つ。それが会場プロレスを否定した、新しい形の格闘技だった。
〈時間と言う名の魔術師が、いつか、猪木の軌跡を証明する。「プロレスはバードに代わる」と断言したように……〉
夕暮れの風が頬を叩く。井沢はゆっくり腰を上げて、さっき通ってきた小道をバス停へと下っていった。



〈了〉

Special Thanks　Photo by Wallid Ismil



K-1、新日連合軍？受けて立ちますよ！

マット界のキーパーソンが遂に『紙プロ』初登場！

“PRIDEをREBORNさせた男”が語る
今後の『PRIDE』、『武士道』、
アメリカ進出、プロレスイベント開催、
そしてK-1との本当の関係!!

（株）ドリームステージエンターテイン[illegible]ト 代表取締役

榊原信行

聞き手／堀江ガンツ [illegible] 森廣博 designed by Tani-Yan（Two three）



――さて、待望の『紙プロ』初登場ということで、今日は聞きたいことが山ほどあるんですけど、榊原さんってあんまりインタビューにお出にならないですよね？

榊原 そんなことないですよ。最近すんごい受けてますよ（笑）。

――専門誌では少ないんじゃないですか？

榊原 専門誌で単独でインタビューを受けるのは今日が初めてかもしれませんね。あ、『週プロ』でやったわ、佐藤編集長の連載で。

――忘れてましたか（笑）。

榊原 はい（笑）。あれぐらいですね。

――その『週プロ』では榊原さんの正体というか、経歴みたいな話でしたけど、今日はこれからのお話をうかがっていきますので、よろしくお願いします。

榊原 はい。

――『PRIDE』は6月に「リボーン」してから2大会を終えて、今が新たな全盛期と言っていいくらい勢いが感じられますけど、代表としては今のこの状態をどう感じていますか？

榊原 まあ、『PRIDE』は97年にスタートしてから、今年6月の『REBORN』まで、グランプリを挟んで26大会もあったわけじゃないですか。その中で我々も多くのことを経験しているし、選手たちも『PRIDE』というリングに上がったらどう闘うべきなのかっていうことが基礎の部分で熟成されてきた。そして見る側の人たちにも『PRIDE』って、そういうコンテンツの魅力が浸透してきて、そういうことがたまたま『PRIDE・25』ぐらいから花開いてきているんだと思いますね。

――これまでの積み重ねの成果だと。

榊原 それが大きいでしょうね。26回やってきたということは、それだけリサーチができているということですから、初めて『PRIDE』に上がる選手に、このリングでは何をしなくちゃいけないかということが我々も言いやすいわけですよ。例えばドン・フライvs高山の試合を見みせて「どう思いますか？」とかね。そういったことを繰り返してきた結果、選手たちにもいい意味で浸透してきたし、そういうものがうまく回り出して、この『PRIDE・25』で開花したのかなって。

――確かに熟成されてきた部分もあると思いますけど、逆に26回やってきた中での金属疲労のようなものも昨年末ぐらいには感じられたんですよ。それがどう今のようにドラスティックに生まれ変わったのか、榊原さんが代表に就任して一番変えようとした、心掛けた部分というのは何だったんですか？

榊原 金属疲労みたいな部分は確かにありましたよ。そういったことも踏まえて我々が昨年から考えていたものの一つがグランプリ構想。それから、あとは今まで以上にファンの声に耳を傾けて、現時点での最高のカードを出し惜しみなく究極に突き詰める作業をしようと。その現れが『PRIDE・26』へのミルコ・クロコップ投入だったわけなんですよ。あそこでミルコを投入するというのは、去年だったら考えられませんでしたよね？

――あれはビッグ・サプライズでしたよ！

榊原 そういったいい意味でファンの一歩先行く裏切りみたいなことをドンドン仕掛けていきたいなと思ってるんですよ。

――あの大会は、凄くファンのニーズと足並みが合ったという感じがしましたけど、去年までは何か大きい大会がポンポンとあって、それに振り回されてるような、そんな感じに見えたんですよ。

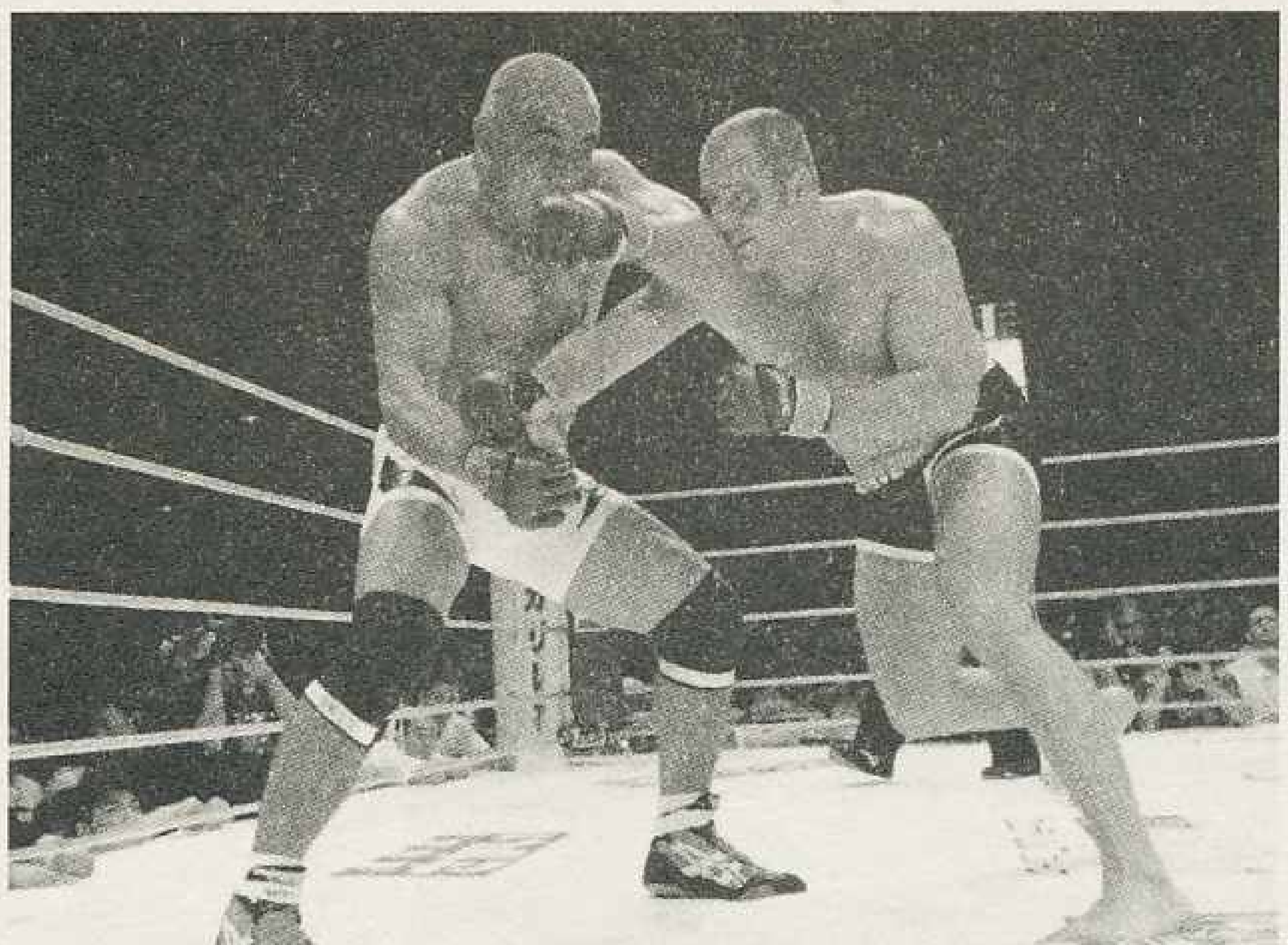
榊原 それについては、やっぱり格闘技のソフトをつくるって大変な作業なんですよ。例えばミュージカルのキャッツなんかだと、一回パッケージを作るとそれで1年とか2年とか20～30公演を同じ内容で組めるんですけど、格闘技は毎回新しい出し物を一から作らなきゃならないので、一回一回にもの凄いエネルギーがいるわけですよ。そういった中で毎回クオリティが高いものを提供するためには、いい仲間というか、いいネットワークがないといけないわけで、そのために今年からもう一回そのネットワークを作り直したと。表向きの部分だけじゃなくてDSEの構造を変えたんですよ。だからボクとしては自分の中で信頼できるスタッフと最高のものを出して、惜しみなく提供していきたいと思ってるんです。

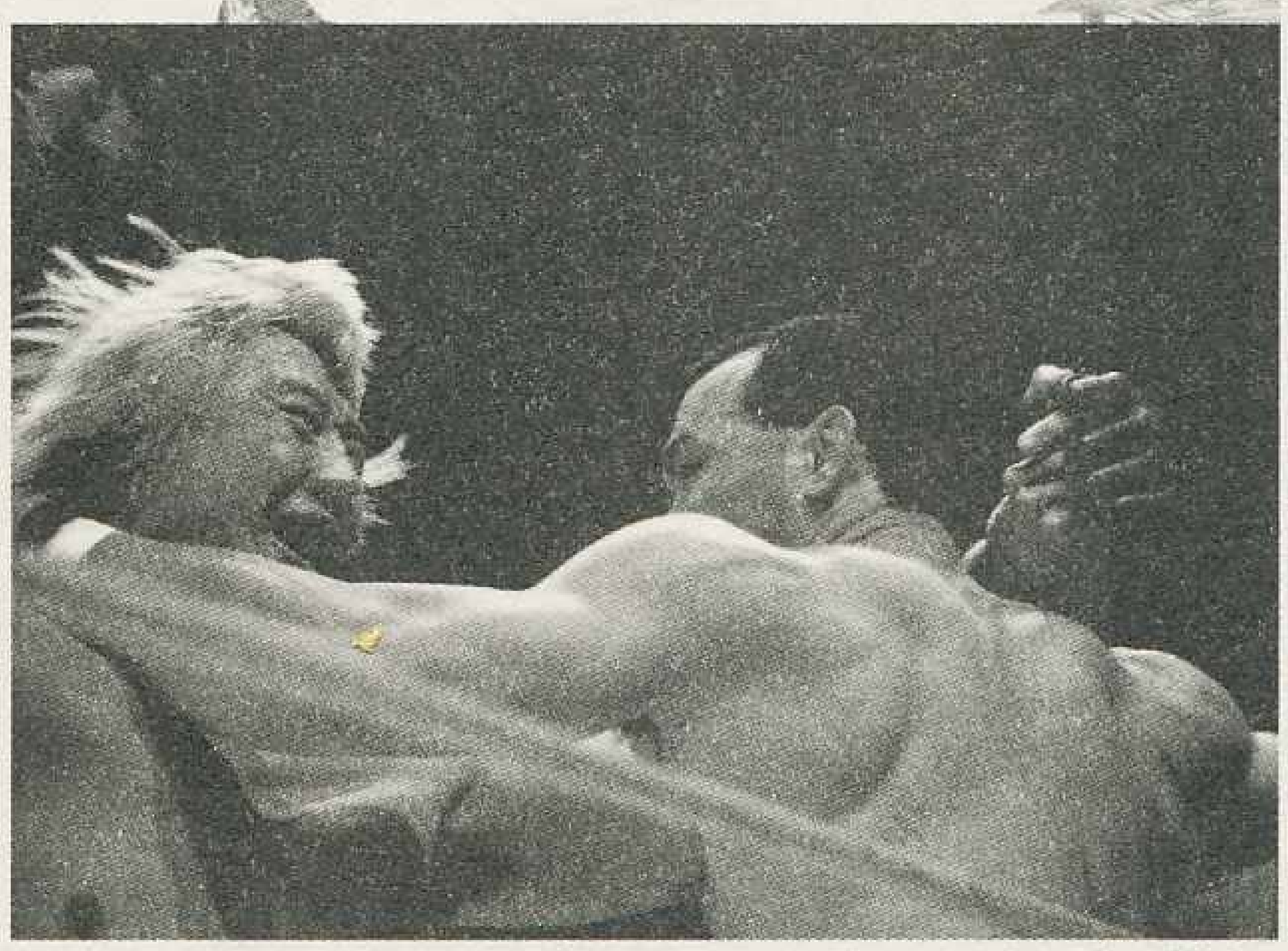
――常に最高のものを提供するために、ネットワークや構造の部分も「リボーン」したわけですね。

榊原 そう。だから、例えば去年で言うと『PRIDE・22』（名古屋レインボーホール）なんかはハイアン・グレイシーvs大山峻護がメインだったり、『PRIDE』っていう今のナンバーシリーズの中でも大会によって濃度の差っていうのが凄くあったと思うんですよ。

――ありましたねぇ。

榊原 それをなくしたいっていうことが新しくスタートする中で凄くあって、今年に関しては4万人近く入るさいたまスーパーアリーナのグランプリであっても、その半分のキャパの横浜アリーナであってもレベルの差みたいなものを極力なくしたつもりです。





緊張感溢れる勝負論の世界ながら、一方でスペクテーター性溢れるド迫力な真っ向勝負が求められる『PRIDE』のリング。藤田や高山はそれぞれ真っ向勝負をヒョードル、フライに挑んだ結果完敗を喫したが、評価は下がるどころか、大きく上がる結果となった。

そうじゃないと、毎回「最高の舞台」とは言えませんからね。だから、今後は地方であろうと、さいたまであろうと『PRIDE』のイメージを損なわないクオリティのものを常に提供していくつもりです。

『PRIDE』と『武士道』は『ロウ』『スマックダウン』の関係

——そういった本流の『PRIDE』ナンバーシリーズとは別に、10・5さいたまスーパーアリーナから『PRIDE武士道』という新しいイベントがスタートしますけど、なぜこれを始めようと思ったんですか?

榊原 それはもちろん『武士道』の中で表現していきたいことがあるからやるわけですけど、一つは今のグランプリという概念を持ち出すことによって圧倒的に新しい選手に闘う舞台を与える機会が減るわけですよ。

——実績がない選手にとっては、敷居がもの凄く高くなりますよね。

榊原 しかも、これまでの『PRIDE』は、「UFCとかリングスとかいろいろなところからヘッドハンティングして、いいとこばっかり持って来て」って言われ続けてきて、実際UFCやリングス、それから新日さんから出てもらったりだとかあったわけですけど、正直言って、今の新日本さんから『PRIDE』に出てもらいたいっていう期待感の持てる選手は少ないと思うんですよ。

——別の期待感はありますけどね（笑）。

榊原 そういうものを含めた中でグランプリっていうのは、もう一度『PRIDE』の中で熱や求心力を持たせるために出した概念なんですけど、そうすると絶対的に新しい選手の出場の機会が減ると。だから『武士道』はそれを補う目的が一つ。それから、やっぱり第二、第三の桜庭、藤田とか高山クンとかね、そういう選手を自分たちの中で生んでいく環境を作っていくっていうのが一つ。

——新しいスターを育てていくわけですね。

榊原 あとはファンの人のアンケートの中でミドルよりもう一つ下の階級を見てみたいっていう意見が多かったんですよね。それは桜井クンであったり三島クンであったり、ホントはサクもその階級だったらそこで闘って欲しいっていう意見も結構あるわけですよ。無理してウエイトアップをしてヴァンダレイとやる必要はないんじゃないかって。ホントに彼のジャストな体重は83キロぐらいじゃないですか。だから充分そこのクラスにも魅力的な日本人選手がいっぱいいるんで、それは確かにそうだなっていうことですね。

——マッチメイクも『PRIDE』本戦とは趣が変わってくるんですよね?

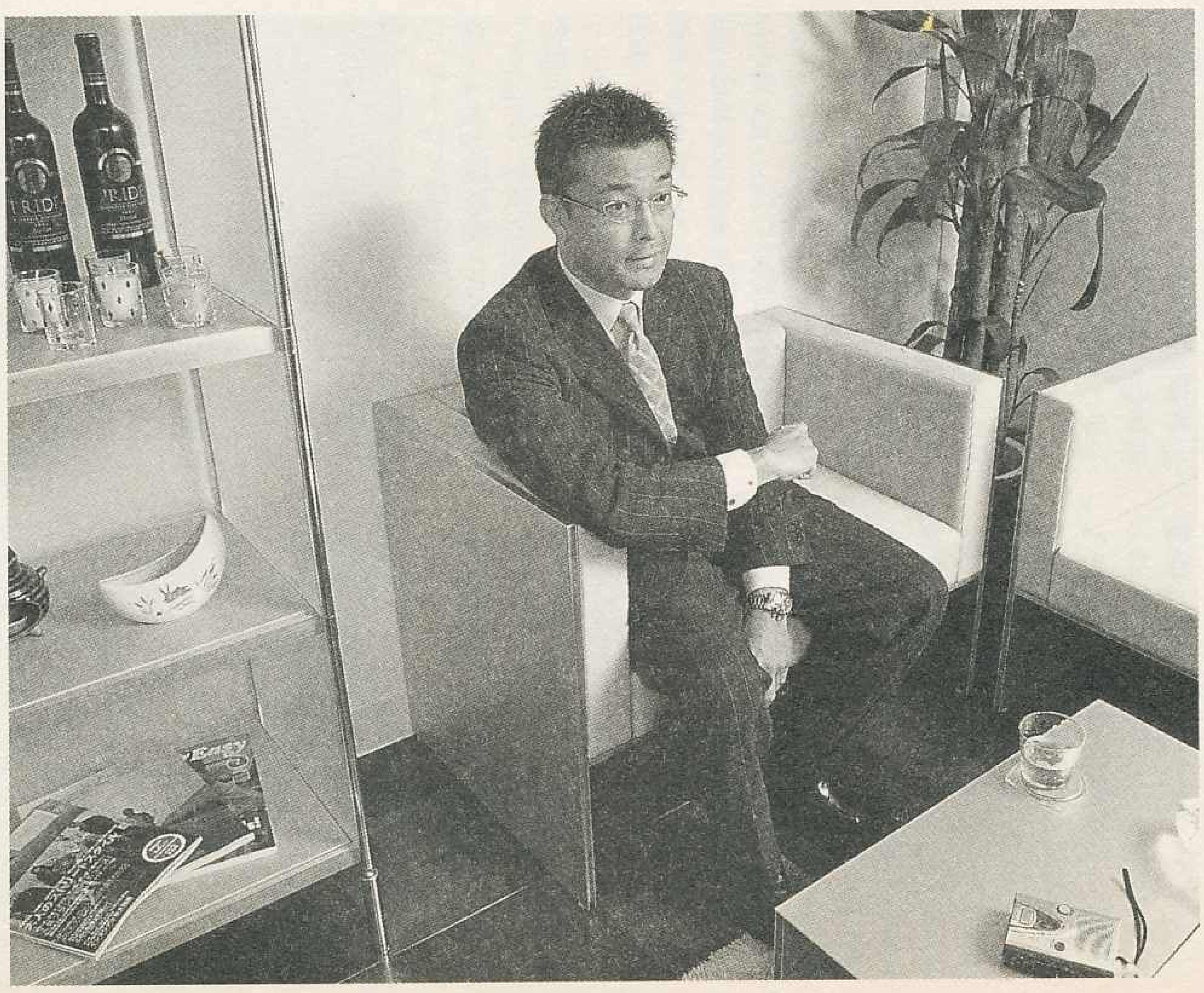
榊原 そうですね。やっぱり『PRIDE』というものに対して、特に外国人の選手なんかは〝競技〟として捉えている人が多いわけですよ。とにかくナンバーワンになりたいということ。ミルコなんかにしても、ベルトが欲しいということがモチベーションになっているわけです。それはそれでいいことなんですけど、そうするとどうしてもマッチメイクが〝常識的〟なものになる。

——同じぐらいの体重の同じぐらいの実力の選手同士が闘うカードになるわけですね。

榊原 でも、バーリ・トゥードという競技の中でも、もっと違った魅力を引き出すマッチメークがあると思うんですよ。例えば階級を越えた闘いもあるだろうし、異種格闘技戦があってもいいだろうし。そういった、いま我々がナンバーシリーズで出来なくなりつつあるところを『武士道』で補いたいな、と。

——確かに、テーマや因縁がある試合って、時には最強を決める闘い以上に興味がわきますからね。

信頼できるスタッフと最高のものを提供する そのためにDSEの構造を変えたんです



榊原 だから例えば、桜庭が今度復活してきても、今の『PRIDE』のリングで試合するとしたら、ダン・ヘンダーソンだとかアローナだとか、そういう名前があがってくると思うんですよ。

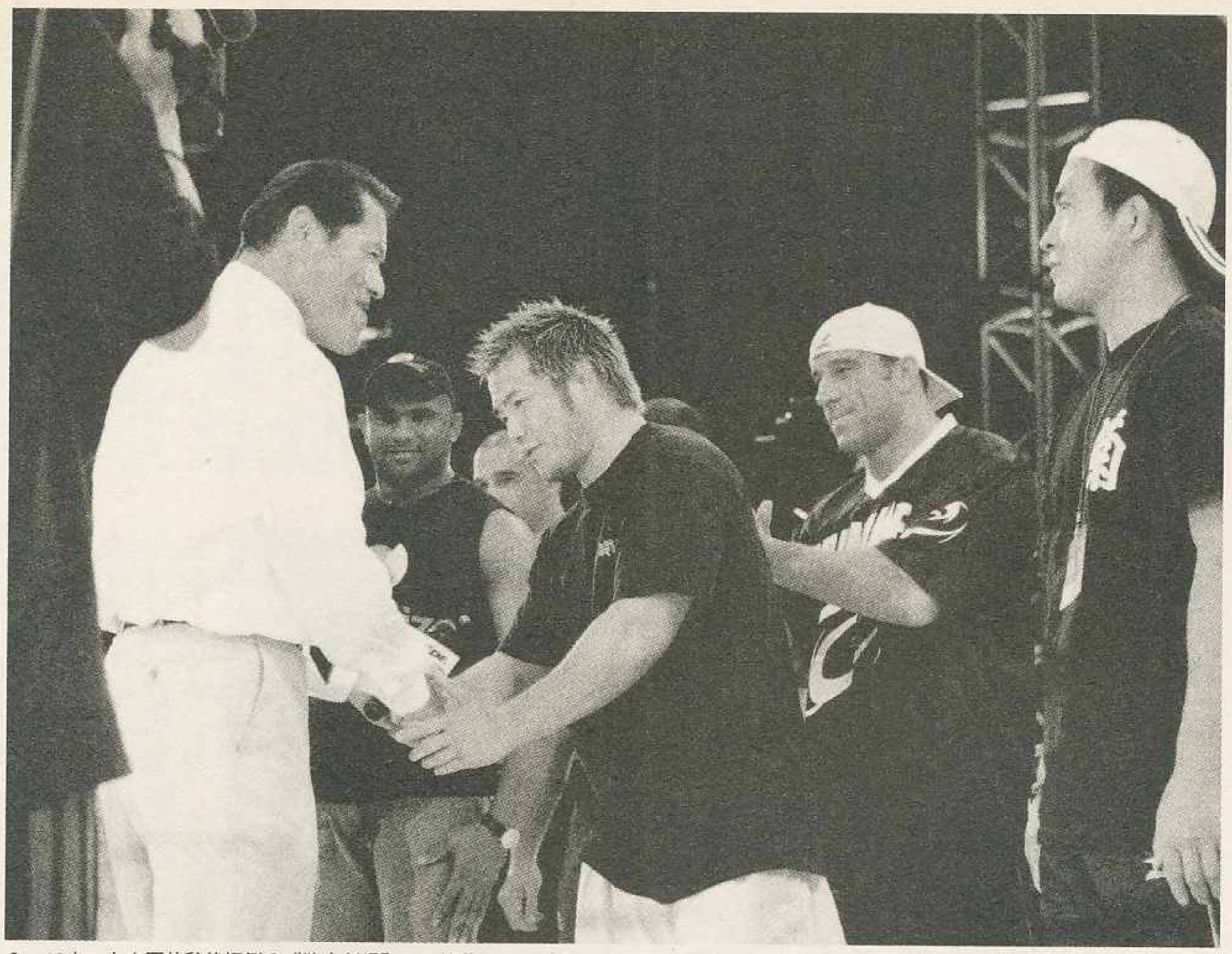
——ああ、いわゆる〝目に見えないランキング〟に縛られるマッチメイクになると。

榊原 そうそう。でもホントは、そういったものにこだわらず、彼の持っている引き出しの多さや、炎のコマみたいな〝桜庭ワールド〟が見たいわけですよ。それだったら、勝負論にがんじ絡めにして『PRIDE』のリングに上げるより、そうじゃない部分の引き出しの彼だったらもっと面白いかもしれない。そういう可能性を引き

出す機会を『武士道』っていう名の下に、新しいセカンドラインとして作り出したいなと思っているんですよ。

——では、本流である『PRIDE』ナンバーシリーズは、より誰が強いのかを競う場になっていって、マッチメーク的な面白さは『武士道』に移る可能性が高いわけですか？

榊原　そうですね。服のブランドでアルマーニってあるじゃないですか。あれはジョルジョ・アルマーニとエンポリオ・アルマーニっていう二大ブランドがあるわけですよ。カジュアルラインと普通のラインで。だけどエンポリオ・アルマーニでもスーツは売ってるわけで、どっちが上とか下はないんですよね。それぞれに魅力があって、別々の価値観で両立している。『PRIDE』と『武士道』の関係もそこを目指しているんです。プロレスの世界で言うなら、WWEの『スマックダウン』と『ロウ』のような関係にしたいなって。



8・10さいたま■休憩後恒例の“猪木劇場”に、桜井マッハ速人ら、多数の日本人選手が『武士道』出場候補選手としてリングに登場。しかし、笑いながらゾロゾロ現れたその姿からは、プロとしてのオーラが感じられなかった。これが彼らにとって一番の課題だろう。

マッハにプロとして求める要求はもっと高い 猪木さんに張られて笑ってちゃダメですよ！

——WWEも後発の『スマックダウン』の方が盛り上がってますもんね。

榊原　だからボクは「『PRIDE』より『武士道』を見に行きたい」っていうファンが増えてもいいと思うんですよ。

——でも、『武士道』は桜井マッハ速人選手ら軽量級の選手が中心というのは、現時点では興行的にかなりキツイ部分があるんじゃないですか？

榊原　キツイです（キッパリ）。桜井クンにしても、今まで『PRIDE』のような環境の中で試合をしたことはないと思うんですよね。あれだけの大会場、あれだけのお客さんの熱の中で。じゃあ、桜井っていう選手が『PRIDE武士道』に上がった場合、一人の競技者としてだけじゃなくて、プロとしてどれだけ何を見せれるか。

——そこが問われてくる、と。

榊原　だから桜井クンにも言いましたよ。「プロとして『PRIDE』の中での要求はもっと高いよ」と。そこを彼がどう感じて表現できるのかにボクは凄い期待してるんですけど、しばらくはキツイと思いますよ。ただ、今の『PRIDE』のような熱は過去の歴史とかいろんな積み上げがあって初めて生まれてきたものだから、『武士道』に関しては長い目で見てますよ。

——プロとしての商品価値はともかく、今回vsグレイシーとの5vs5に名前が上がっている選手たちはみんな実力者ですから、これから期待は持てますよね。

榊原　ホントに原石はいっぱいいるんですよ。高瀬（大樹）クンとか吉田道場の中村和裕クンにしても、競技的な実力は世界のトップファイターと比べても遜色ないと思うんですよね。でもそこで高瀬を見たいから『武士道』に行くっていうファンがどれだけいるか？　今は10人でもいいですよ。でも、それを100人、1000人にする作業をどれだけ今度の10月5日に表現できるか。サクに憧れてるのはいいけど、やっぱり高瀬のオリジナリティーのある姿をどう確立していくかだろうし、そこは選手と我々の共同作業で作っていくしかないでしょうね。

——そうなると『武士道』は、ある意味『PRIDE』本戦以上に「プロとは何か？」が問われる舞台になりそうですね？

榊原　うん。だからそういう中にいる以上、アントニオ猪木さんと対峙しても、ビンタを張られて笑ってちゃダメですよ！　あそこのリングに上がったということは、アントニオ猪木っていう毒とどう交われるのか、もしくはそこで対峙できるぐらいのエネルギーを持って欲しいわけ。そこら辺を彼らは学んでいかなくちゃいけないと思うんですよね。例えばヴァンダレイ（・シウバ）にしても最初はただブラジルから出て来た腕っぷしの強い兄ちゃんでしたけど、彼は強さ以外にもプロのファイターとして自分に足りないものをここ数年でいっぱい身に付けてきたと思うんですよね。だからそういう選手が生き残るんですよ。

——この世界、強い選手はたくさんいますけど、いわゆる客を呼べる選手っていうのは一握りですからね。

榊原　勝ち負けじゃなくて、コイツの試合が見たいっていう部分を感じさせる色気っていうものが欲しいですよね。高山（善廣）クンだってそうだと思うんですけど、彼の場合はたまたまそういう魅力を手に入れたわけじゃなくて、頭もいいし何が必要かっていうのをわかってそれを表現し

てるんですよね。サクもそうだろうし、プロに必要なのはそういう部分だと思います。

――じゃあ、当面は中軽量級の若い日本人十アルファで行くわけですか？

榊原　マッチメークの妙というかね、こんなことをやっていいの？　っていうような、ちょっとトンチの効いたカードを組めればいいかなと。そのへんはDEEPの佐伯社長の得意分野なんで（笑）。

――いや、佐伯社長はトンチが効き過ぎてる気がするんですけど（笑）。

榊原　でも、佐伯ワールドって言われるDEEPの一つの世界観って作り出しつつあるじゃないですか。あの人の純粋に競技を愛してる思いがああいう形で表現されるっていうのは我々には真似できないですから、そのへんを上手く活かせてもらえたらなと思ってるんですけどね。

――じゃあ、現時点では発表されてませんけども、結構隠し球みたいなものもあるわけですか？

榊原　そうですね、いろいろ考えてますから、期待してもらっていいですよ。

――いやぁ、楽しみです！

9・26『UFC44』に高田本部長とランペイジが登場！

――他団体との交流についても伺いたいんですけど。パンクラスとは交流すると言われながら、なかなか話が進まないような気がするんですけど、代表自身はパンクラスとの関係をどのように考えてますか？

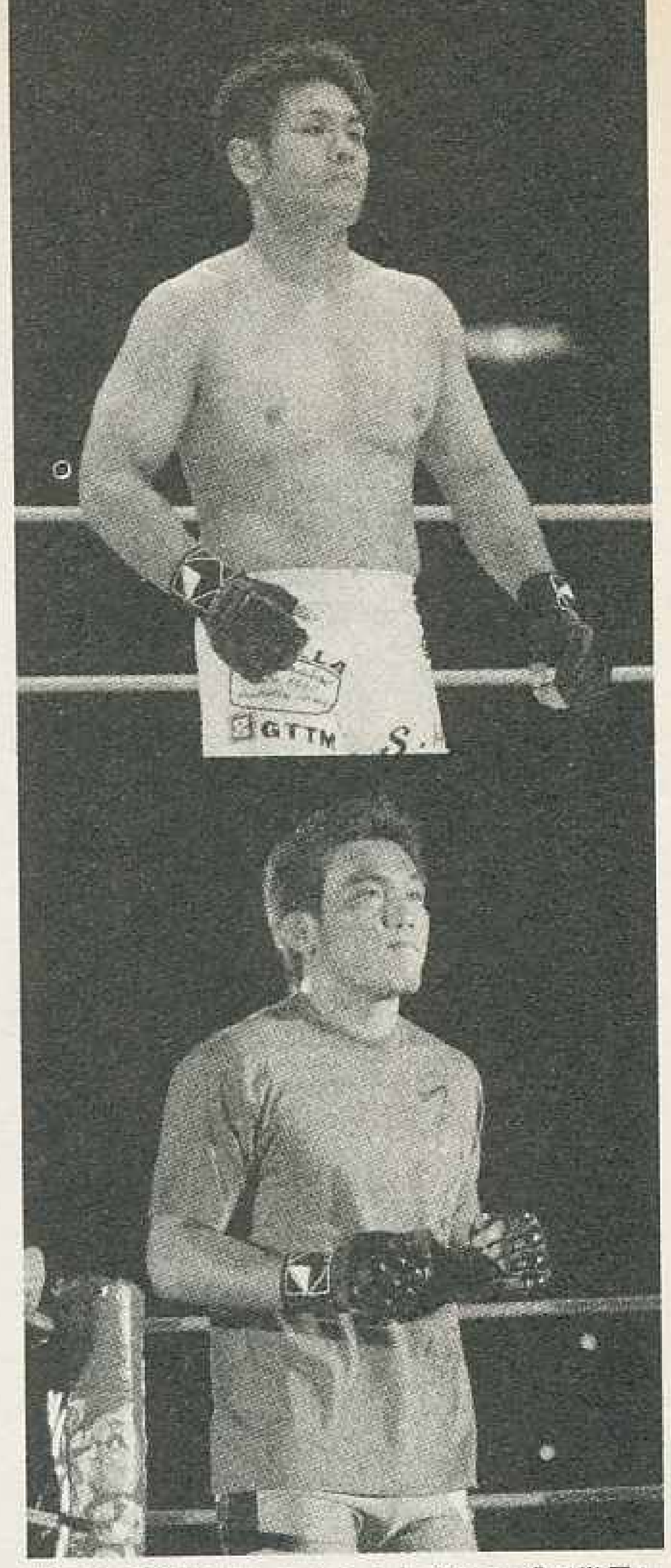
榊原　パンクラスには『武士道』というコンセプトに合う選手がいっぱいいらっしゃると思いますから、ドンドン出てきてもらいたいし、尾崎社長や坂本さんとはキチっとコミニュケーションは取れてるんで、近い将来、必ず出てもらえると思いますよ。近藤クンとかも、この間のジョシュ・バーネットとの試合を映像で見ましたけどやっぱりいいものを持ってますからね。

――今、「『PRIDE』に出て来て欲しい日本人は誰ですか？」っていうアンケートを取ったら、菊田、近藤っていう名前は必ず上に出てくるでしょうからね。

榊原　あと個人的には高橋義生クンとかにもぜひ出て来て欲しいなと思いますけどね。

――新日本プロレスとの関係っていうのはどうなんですか？

榊原　いや、関係はいいですよ。上井（文彦＝執行役員）さんと非常にいい関係でお話させてもらってるんで。当然、新日本さんもアルティメット・クラッシュとかをやられてますから、そういうところに『PRIDE』側からも日本人、外国人問わず出場してもらおうと思ってますし、逆に新日本さんからも積極的に『武士道』とかグランプリの本戦に上がって来てもらったり、いろんな意味で交流が進めばいいなと。ジョシュとかにも来年やるヘビー級のグランプリには新日本を代表してぜひ上井さんに送り込んで欲しいというのを正式にお願いしてるんで。



菊田や近藤が『PRIDE』のリングで世界レベルの選手と闘うことは、多くのファンが望むところ。彼らが上がるリングは新日本ではない。

ジョシュにはゼヒ「新日本代表」として『PRIDEヘビー級GP』に出てほしい



ジョシュには、ゼヒ"新日本代表"の"キング・オブ・パンクラシスト"としてが『PRIDE』のリングに上がってほしい。

――あ、もうお願いしてるんですか!?

榊原　はい。ジョシュはUFCの元チャンピオンでもあるんだし、あそこまで「新日本を代表して」みたいなことを言ってるんだから、ゼヒ「新日本プロレス代表」として出ていただきたいですよ。彼ぐらいの実力があれば、『PRIDE・GP』でも結果を出して、また新日本に戻っても、それがプロレスラーとしての貯金になると思いますからね。『PRIDE』のヘビー級戦線に絡んできたら、非常に面白い展開になると思います。

――あと、UFCに関しては、今後もさらに関係を深めていく感じですか？

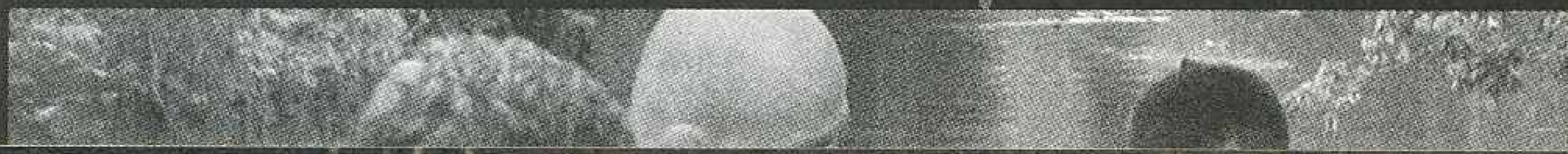
榊原　そうですね。9月のティトとランディーの大会（9・26『UFC44』）に高田本部長にも行ってもらいますし、そこでチャック・リデルとクイントンがオクタゴンに上がって、タイミングが良ければ本部長も上がると思います。

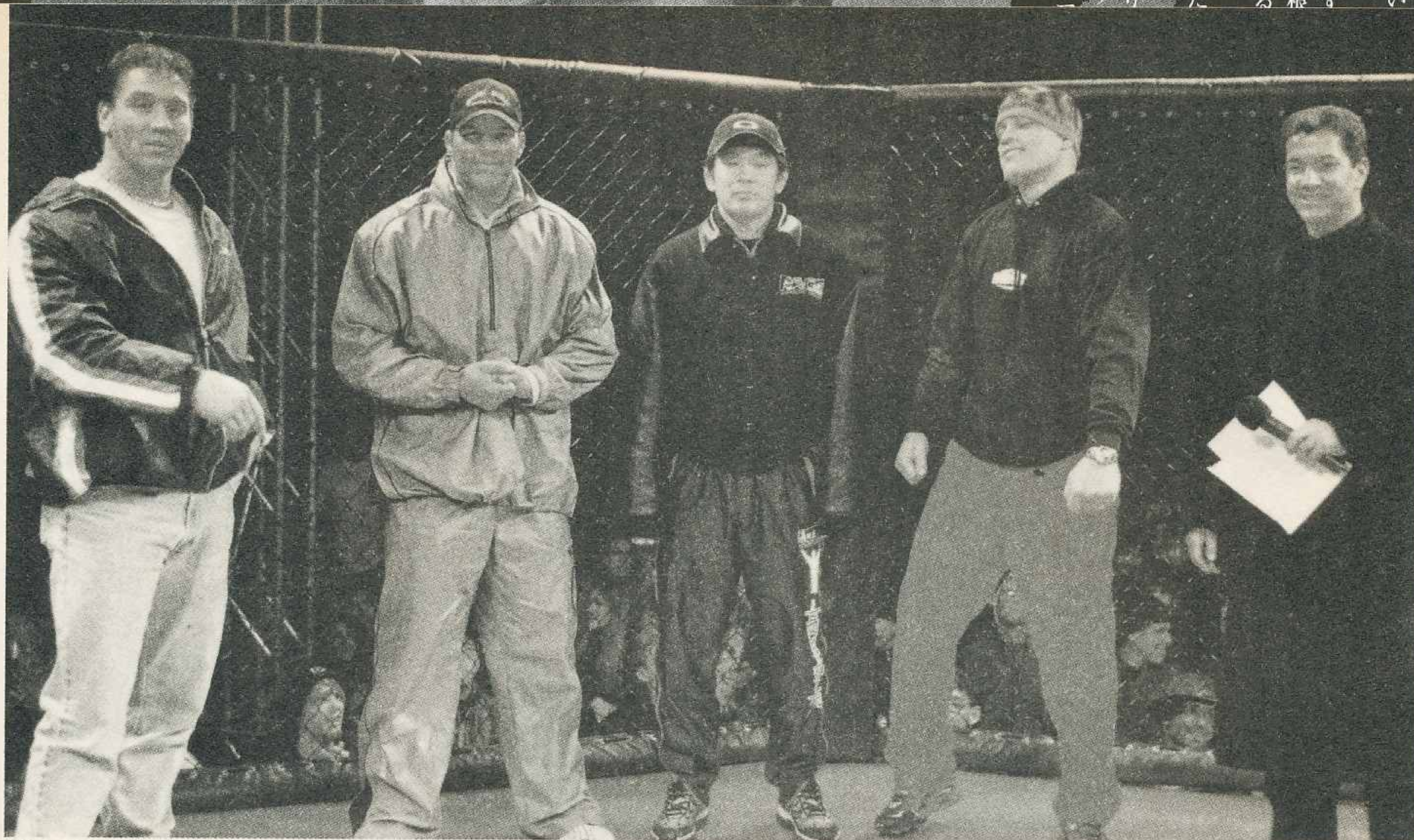
――本部長オクタゴン登場ですか！　それは刺激的ですね（笑）。

榊原　全米の大ブーイングを巻き起こしに乗り込もうかなと（笑）。ホントに早いタイミングで『PRIDE』の選手をUFCのリングに上がってもらえるようにしたいと思ってます。

――当初は『PRIDE』アメリカ進出に関して、UFCとは興行的な勝負みたいな感じでとらえられていたと思うんですけど、逆に興行的というよりもホント試合での勝負になってくるという感じですか？

榊原　やっぱり、アメリカの中ではUFCが老舗だし、圧倒的に認知度もあると思いますから、そういう上位概念に我々『PRIDE』側として





本場アメリカでＵＦＣのオクタゴンには上がったことはないが、2001年には今村のセコンドとしてキング・オブ・ザ・ケージの会場に現れアメリカのファンから大歓声を浴びたサク。そもそもサクがブレイクしたのは、97年末のＵＦＣ－Ｊでブラジリアン柔術のマーカス・コナンに一本勝ちしてから。原点に戻り、サクが再びオクタゴンに入ることはあるのか？

『PRIDE』アメリカ進出はサクに託したい
来年はミルコと藤田がUFCに上がります！

は噛み付くしかないと。そこで選手同士闘うことが必要だなと思ったんですよ。で、誰が上がるかってなった場合、この前ミルコサイドとも話をしたんですけど、『ＰＲＩＤＥ』を代表してミルコ・クロコップもＵＦＣに上がることになります。

——えぇ〜！　ミルコがホントにＵＦＣに上がるんですか!?

榊原　今年は無理でしょうけど来年ぐらいには実現するんじゃないですか？　ミルコだけじゃなく、藤田和之もチャレンジするし。ヴァンダレイやヒョードルもチャンピオンでいるならやらせたいですね。逆にそういうトップクラスが交わらなかったら、やる意味ないですからね。

——いやぁ、それはメチャクチャ刺激的ですね！　そうなると、もちろん来春予定されている『ＰＲＩＤＥ』のラスベガス興行というのは、ＵＦＣとの対抗戦みたいな形を思い描いているわけですか？

榊原　対抗戦まではいかないかもしれないですけど、なんらかのカードは組まれるでしょう。とにかくアメリカ進出の一番の目的は、アメリカのマーケットにポテンシャルがあるってことですよね。それは何かって言ったらＰＰＶっていうシステムが完全に行き渡ってるわけですよ。5000万世帯の人たちがアクセスできる環境にあって、マイク・タイソンとかの試合だったら110万世帯とかが見るわけですよ。ＷＷＥにしてもあれだけのマーケットがあるし。それなら、我々の『ＰＲＩＤＥ』も圧倒的にアメリカ人の選手が多いわけですから、向こうで人気が出ないわけがないんですよ。

——確かにアメリカ人スター選手の有無というところがＫ－１と違うところですよね。

榊原　ＵＦＣにしても、そういうところを開拓してる状況なんですけど、マーケットを作り出すのって一社独占ではなかなか作り出せないんですよ。競争とか競合があって初めて熱が生まれてくるんで、逆に我々がＵＦＣに挑んでＵＦＣがその喧嘩を買うことによってハードコアなファンからそういう熱が伝わって行くっていう、地道な努力かもしれないけどそこを開拓したいと。あくまでもアメリカのマーケットに向けてのプレゼンテーションの高い大会を作りたいということですよね。

——もちろん、その中でＵＦＣとの差別化も図っていくわけですよね？

榊原　はい。まずオクタゴンではなくてリングですよ、と。それから『ＰＲＩＤＥ』独自の面白さを試合で体現できるのが桜庭和志だと思うんですよね。だから一発目はサクと一緒にアメリカに行きたいですよ。サクに『ＰＲＩＤＥ』のリングってこんな試合を見せるんだって託したいですよね。ただ、彼は面倒臭がりなもんだから、どこかに出かけて泊まることすら嫌がるんで、前にロスに一緒に行った時も面倒臭そうにしてるんですよ（笑）。

——昔から「グァムとかならＵＦＣに出てもいい」とか、言ってましたもんね（笑）。

榊原　飛行機が嫌いなもんだからね。まあ、それでも無理矢理連れて行きますよ。『ＰＲＩＤＥ』のアメリカ進出第1戦は、日本のファンがアメリカまで見に行きたいぐらいのカードを編成したいですよね。

Ｋ－１とはくっついたり、離れたりしていた方がいい

——ラスベガスというと先日のＫ－１のラスベガス大会はご覧になりま

したか？

榊原　映像で見ました。

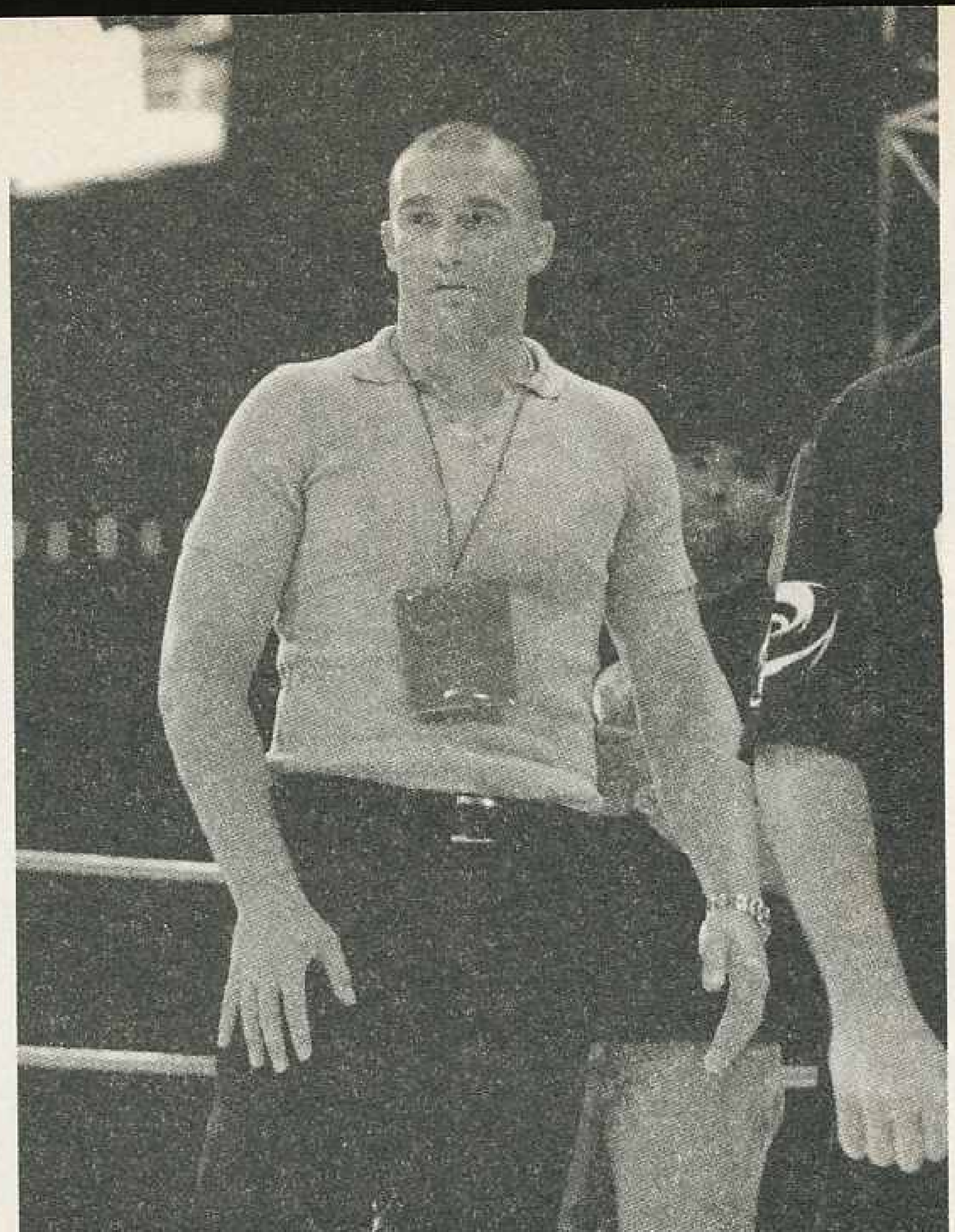
――今、「タイソン出場か!?」ということで話題になっているわけですけど、どんな感想を持たれましたか？

榊原　いや、面白かったですよ。キモvsサップの試合もレベルがどうのこうのっていうことじゃなくて、逆にああいった感じのハラハラドキドキっていうのは、今までアメリカの格闘技のソフトの中にはなかったと思うんで、あれはあれで正解だと思いますね。良かったと思いますよ。その後はさすが石井（元）館長で天晴れなタイソンの担ぎ出しですよね。ホントにあの行動力は凄いですよ。ボクの横にタイソンがいても手を引っ張って上がらないですもん（笑）。

――あのバイタリティというか、行動力というか（笑）。

榊原　誰にも真似はできないですよ。

――館長とはK－1のイベントで一緒にお仕事をされてたわけですけど、館長から盗んだ部分は何かありますか？



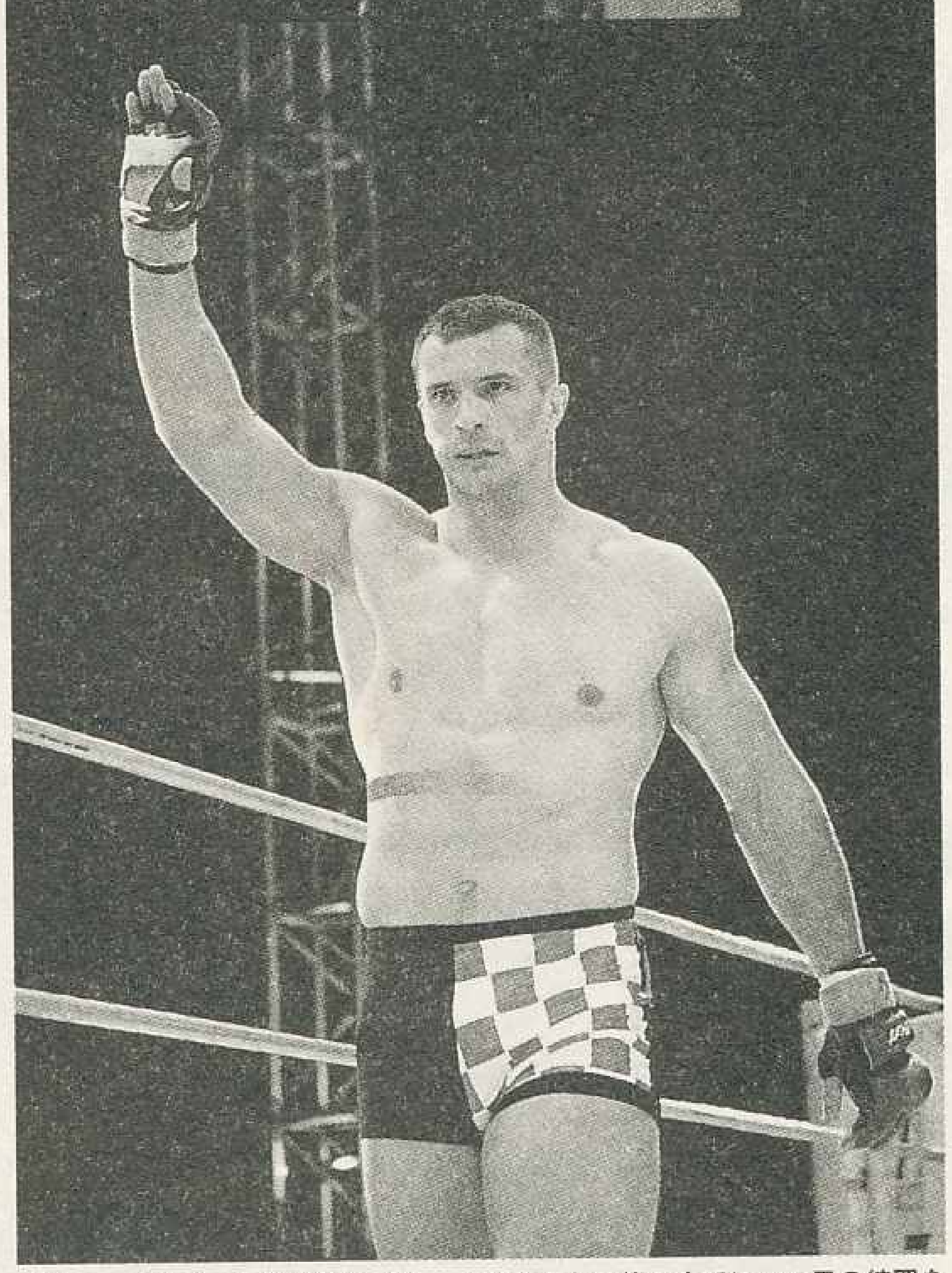
榊原　館長からはみんな盗みました！（笑）。

――ガハハハハハ！

榊原　ホントにこの世界に踏み出すキッカケになったのは石井館長との出会いだし、K－1の仕事に携わらせてもらったことが、今の自分の仕事をする上での一つの大きなキッカケなんですよね。それからボクの中でのもう一つ大きな出会いは高田延彦本部長なんですよ。その二人が自分の中では大きな出会いでしたね。

――そんなK－1と今、『PRIDE』が犬猿の仲とか言われてますけど、実際のところK－1との関係はどうお考えですか？

榊原　確かに去年ぐらいまでは凄い積極的に交流してましたけど、基本的にK－1っていうのは立ち技のナンバーワンを決める競技じゃないですか。そこと『PRIDE』っていう場所とでは、ソフトの流れの中では一時的に深く交われば爆発しますけど、そのあとは一旦、貯めが必要じゃないですか。



ミルコ・クロコップの成功により、ノゲイラと一緒にすでにVT用の練習をしているピーター・アーツを始めとして、K－1ファイターが『PRIDE』に流入すると噂されている。その第1の舞台は大晦日の『猪木祭り』か？

――何度も続けると異種配合の刺激は薄れますよね。

榊原　だから、いつもいつも二人三脚でっていうよりくっついたり離れたりのほうがいいんじゃないですか。ボクは基本的にK－1の石井館長をリスペクトしてるし、またタイミングとしてご一緒することもあるだろうし。

――では、去年まで『イノキ・ボンバイエ』っていうのは、K－1との共催のような形ですけど、今年は全く別になりそうですか？

榊原　まだ最終的には決まってないんじゃないですか？　放送局も猪木さんは「一番高い山から放送するのもいい」って言ってましたけど、そういうことも含めて僕的には格闘技界の年に一回のお祭りなんで、大中小関わらずいろんなところからお祭りを作り出すってことになると思いますけどね。

――でも、K－1の谷川イベントプロデューサーは『タイソン祭り』と『猪木祭り』みたいな感じで、別々にやるような口振りでしたけど。



昨年まではK－1と『PRIDE』の合同興行のような趣だった、大晦日恒例の『イノキ・ボンバイエ』。しかし、今年は？

榊原　いやあ、じゃあそうなるね（笑）。

――そうなりますか（笑）。

榊原　谷川さんの言うようにこの業界はまわってますから、谷川さんがそう言うんだったらそういうことになります（笑）。

――K－1に関しては、それ以外にも選手がドンドン『PRIDE』のリングに進出してくるっていうような話も挙がってますけど。

榊原　可能性はあるんじゃないですか？　僕らから選手を取りにいくっていうことじゃなくて、『紙プロ』さんのミルコインタビューでも物議を醸してましたけど、選手たちの中でもミルコみたいな考えを持つ選手はいると思いますから。

――少なからずいるでしょうね。

榊原　だから、それは選手が何を目指すかによって、自分の求めているものがある場所に選手は動くでしょう。それはK－1から『PRIDE』に闘う場を移行してくる人もいれば『PRIDE』からK－1に移行する人もまたいると思うんですよ。それは必然的にその選手と我々とファンが

求めるものが一致する方向に動くだろうし。

——ピーター・アーツには、もう『PRIDE』から話がいったっていうことを谷川さんがインタビューで話してましたけど。

榊原　あ、ホント？　何のインタビューで？

——『SRS・DX』ですね。

榊原　へえ〜そうなんだ。ボクは話してないです。

——あ、話してないんですか。

榊原　ただ、ホントにこの業界が活性化する中で、いろんな思惑で選手獲得とかマネージメントで間に入る人がいっぱいいますから、いろんな選手にいろんなオファーがいってるんじゃないかなと思いますけどね。ボク自身はピーター・アーツとか出て来たら面白いと思いますよ。

——面白いですよねえ。あと、ボブ・サップも『PRIDE』のリングからしばらく離れてますけど？

榊原　でも、また『ボブ・サップ祭り』とかやるんじゃないですか？　そっちの祭りで忙しいでしょ。

——あ、向こうの祭りで（笑）。



【さかきばら　のぶゆき】1963年11月18日、愛知県出身。大学卒業後、東海テレビ事業株式会社に入社。スポーツ、音楽イベントのプロデュースを数多く手掛ける。96年UWFインター名古屋大会のプロデュースに際し、高田延彦と出会い、これをきっかけに森下（前社長）らと共に『PRIDE.1』をスタートさせる。（株）DSE設立後は、森下前社長と共にプロデューサーとして『PRIDE』シリーズ発展に尽力。今年、代表取締役に就任。

『W-0』は『W-1』と比較してもらった方がありがたい

——最後になりますけど、『PRIDE』とは全く違う路線で『W-0』（仮称）というプロレスイベントをDSEが行うようですけど、これはどんな理由から開催しようと思ったわけですか？

榊原　まあ、僕らとしては、もともとプロレスとかにも興味がありますから。DSEは格闘技の団体を持っているわけでもないし、ひとつのソフトとしてプロレスをプロデュースしていきたいという考えはあったんですよ。ただ、外部の人間が参入することに、プロレス界の人たちは、凄くアレルギーを持ってますよね？

——異常なくらい過剰に反応します（笑）。

榊原　でも、新日さんだって『アルティメット・クラッシュ』をやったり、長州さんが『X-1』とかやったりしてるわけでしょ？　彼らが格闘技系がプロレスをやることに対してアレルギー持つように、我々もプロレス団体がシュートファイトやるのに無茶苦茶アレルギーありますよ。

新日やWJが何の照れもなくVTをやるなら悪いけどDSEもプロレスをやりますよと

——同じことですもんね。

榊原　だから、彼らが何の照れもなくシュートファイトをやるんだったら、悪いけど僕らも照れもなくプロレスをやりますと。それは宣言しときますよ！

でも、偉そうなことは言いませんけど、今のプロレスはダメなところがいっぱいあるんですよ。まずビジネス的な構造がダメだし、観客の立場に立ってプロデュースしているようにも思えない。

——そっち方面では力道山時代からあまり進歩がないと言われてますからね（笑）。

榊原　だから例えばZERO-ONEとかリング上に関しては、メチャクチャ熱があると思うんですよ。オーちゃんとか橋本さんとかガファリとか非常に魅力あると思うし、橋本さんのそういう選手の魅力を引き出す力というのは僕らが間接的に見てても凄いあると思うんですよ。ただ、そういうところに僕らがうまくジョイントできたらもっとこうなるのになっていうところはありますよね。

——試合以外の部分ですね。

榊原　そう。それから試合についても、僕らが持ってる海外のネットワークの中で可能性がある選手を引っ張ってこれればやってみたいことですよね。

——でも、『W-0』を開催するにあたって、どうしても「『W-1』の延長じゃないか」みたいなマイナスイメージで見られると思うんですよ。その点はどういうふうにお考えですか？

榊原　逆に僕らは『W-1』と比較されたほうがいいと思ってますね。『W-1』のイメージが残ってる人たちに、いろんな思いで見てもらって、逆に『W-1』で満たされなかった部分を満たせることができればいいなと。そういう気持ちは持ってますし、野心もありますし。ただ、具体的に何をやるかはまったく決まってませんけど（笑）。

——一部報道では、11月3日に新日本プロレスが横浜アリーナをやるということで、上井さんからDSEに『W-0』中止のお願いがあったということなんですけど。

榊原　中止のお願いは来てないです。間接的には聞きましたよ。藤波社長が猪木さんに「止めてくれるように頼んで欲しい」って言ってきたとか。

——なんかK-1とくっついて、『W-0』に凄い対抗意識を燃やしてるっていう話も最近出てますけど。

榊原　新日さんが？

——はい。

榊原　まあ、なんでも受けて立ちますよ！　それはまあ逆に新日さんとK-1が新しいものを作り出すことに僕らは何にも反対しないですから。誰がプロレスやろうと新日さんが立ち技をやろうと、不可侵条約みたいなものはないですから。それだったら僕らもプロレスもやるし、立ち技もやるし、可能性があるものには貪欲にチャレンジしますよね。

——もちろんバーリ・トゥード以外でも、最高のものを作り出す自信はあると。

榊原　そうですね。

——じゃあ、今後も期待しております！　お忙しい中、ありがとうございました。

榊原　よろしくお願いします。

【03年9月12日／ドリーム・ステージ・エンターテインメントにて収録】

今あらためて検証する、パンクラスが生んだ日本屈指のストライカーの
“凄味”と“非常識”



近藤有己

「目標、1年365試合!」

8・31パンクラス両国大会では、敗れたとはいえ体重差27キロをものともせずジョシュ・バーネットと真っ向勝負。“あわや”のシーンを連発し、またも株を上げた近藤有己。総合格闘技における常識がまるで通じない特異な強さと魅力はいかにして生まれたのか。パンクラスが10周年を迎え、新たな流れが生まれそうな今だからこそ、あらためて検証してみたい。

聞き手／橋本宗洋　撮影／丸山剛史　試合写真／乾晋也

designed by hisa（Two Three）



8・31パンクラス両国で
ジョシュ・バーネットと
壮絶な真っ向勝負を展開!!



体格差があっても対応できる技術が本物。今まではまだ中途半端だった

――8・31両国のジョシュ・バーネット戦は、敗れたとはいえホントに凄い試合でしたね。改めて振り返ってみていかがですか？

近藤　映像を見て感じたのは、やっぱり体重差は関係ないんだなと。

――そういう手応えが。

近藤　あの試合では体重差とかは自分自身の問題でしかないんだなっていう。ちゃんと自分が技術を持っていれば、体重差は関係なく闘えるなって感じがしましたね。

――2R、3Rとマウントを返してますよね。あそこは凄く驚きましたよ。

近藤　あそこはもっと早く返せたと思うんですけどね。結局、マウントパンチを結構もらっちゃったのがその後に響いてるんで。

――で、1Rのパンチにしても、3Rにジャーマンで投げられた後のヒザにしても、「これはいけるんじゃないか」って場面がかなりあったのがまた凄いなと。

近藤　「ここでもうちょっといってればな」っていうのがかなりありましたね。「ここは譲っちゃいけなかったな」っていう。ジャーマンで投げられてすぐ立ったときに、相手がタックルにきたんですけど潰せそうだったんですよ。

――フィニッシュに至るテイクダウンの直前ですね。

近藤　あそこは、今までの僕の感覚だと倒されることはなかったんですよ。同じ体格の相手だったらなんとかごまかせてたんですよね。だけどジョシュくらいの体格とかパワーがあるともってかれちゃうんで。それに対応できる技術がなくっちゃいけないなと。今までが中途半端だったってことですね。

――「相手が大きいとキツイな」じゃなくて「これまでが中途半端だった」と。

近藤　そうですね。まだまだ完全じゃないのに、同体格だと通じちゃってたんで。

――いや、でも普通の考えだと同体格で通じてれば充分のはずなんですけどね。なんか近藤さんは基準が違いますよね（笑）。

近藤　やっぱり、ホントの技術っていうのはそこだと思うんですよね。体格差でどうにかなっちゃうものは本物じゃないっていうか。まだまだ雑な部分があって。

――逆に言えば、まだまだいける余地はあると。

近藤　磨いてけばなんとかなるんじゃないかなって思いますね。



Yuki Kondoh

――今のマット界で、近藤さんが目指してるものっていうのはかなり異色ですよね。で、今日はそんな近藤有己という選手がいかにして育ったのかっていうのを探ってみたいと思います（笑）。

近藤　はい（笑）。

――子供の頃からプロレスは好きだったんですか？

近藤　いや、小学生のときとかはそんな熱心に見てたわけでもないですね。どっちかっていうとジャッキー・チェンと仮面ライダーが好きで。最初に見たのはスカイライダーですね。仮面ライダーはプロレス的ですよね。必殺技で勝つところが。

――え、ウルトラマンとかもそうじゃないですか？

近藤　光線系はダメなんですよ（笑）。ライダーキックで勝つとこがいいんで。

――仮面ライダーは今も見てます？

近藤　見てますね、朝。今でも変身したいと思いますね。

――変身したいですか（笑）。

近藤　ドラマの中のことじゃなくて、本当に変身したいんですよ。リアルに。

――リアルに仮面ライダーになりたいと（笑）。ジャッキー・チェンは最初に見たの何でした？

近藤　テレビで『酔拳』見たのがたぶん最初ですね。

――『蛇拳』とか『酔拳』だと特訓シーンがあるじゃないですか。自分でも真似したりしました？

近藤　特訓って言っても映画ほどじゃないですけど……『酔拳』見て、酒飲めなきゃダメだと思って、僕も飲みました（笑）。

――瓢箪で酒飲まなきゃダメだと（笑）。

近藤　瓢箪は憧れましたね（笑）。

2003.8.31 両国国技館
体重差27キロの名勝負誕生!!

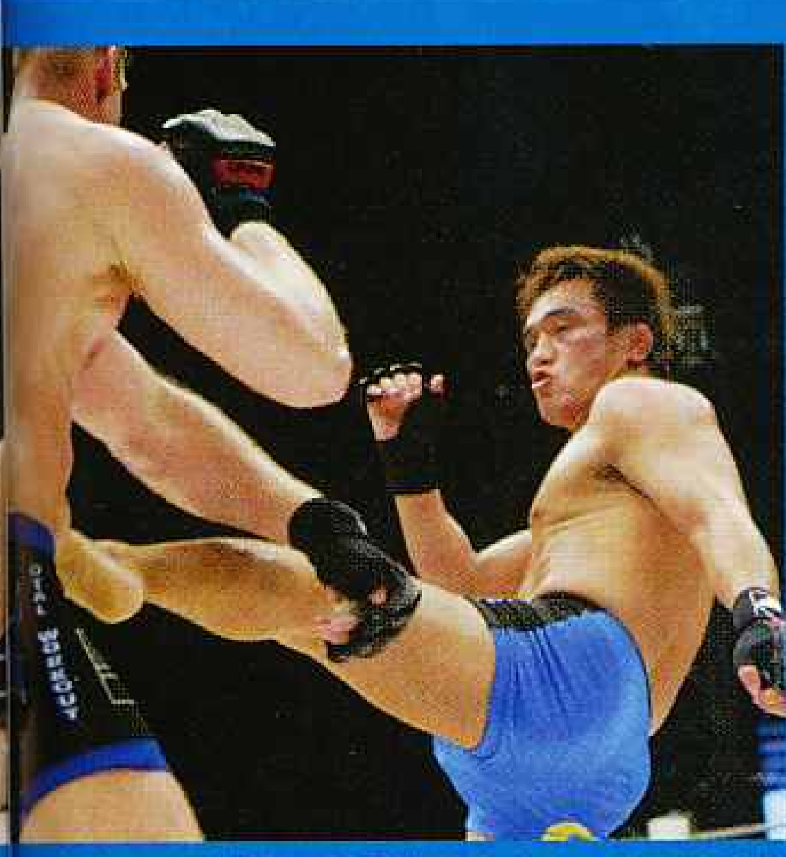
○ジョシュ・バーネット
（新日本プロレス）
［判定 2-0］
近藤有己●
（パンクラスism）



開始早々、ジョシュは近藤を首相撲に捉えヒザを連発。そしてテイクダウンを奪おうとするが、近藤は抜群のバランス感覚でそれを許さない。



なんとか打撃戦は避け、寝技に持ち込みたいジョシュはコーナーに追いつめて、コツコツと打撃を入れていく。しかし、近藤も冷静だ。



身体が一瞬離れて打撃戦になると、そこは近藤の世界。殴り合いのように見えながら、ジョシュのパンチは空を切り、近藤は的確に当たる。



ジョシュは、
ンチを振
も返す。











――近藤さんは少林寺拳法もやってましたけど、それもジャッキーの影響で？

近藤　そうですね。小学校の2年生の頃から。あの、リー・リンチェイの影響もあって。でもその頃はやめたくて仕方なかったですね。

――それはなんでです？

近藤　やっぱり、蛇拳とか酔拳じゃないとこが（笑）。映画と違うよって。

――そこは当時みんな思ったでしょうね。実は日本の少林寺拳法とカンフーって別物ですからね（笑）。

近藤　それで小学校5、6年くらいで一回やめて、また高校のときに始めたんですよ、部活で。それからは逆に面白くてしょうがなかったですね。それはプロレスラーになるために、ちょっとでも役に立てばっていうつもりでやってたんですけど。

――小学校と高校で少林寺やって、中学では何かやってたんですか？

近藤　中学ではバスケ部ですね。

――お、バスケ部とかサッカー部ってけっこうモテ系じゃないですか。

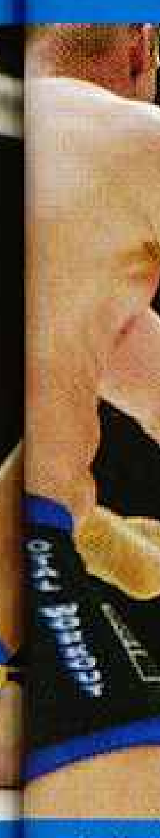
近藤　いや、僕は全然でしたね。告白とかするにはしたんですけどね。小学校では野球もやってて、それがなんでバスケにしたかっていったら坊主になりたくなかったからなんですよ。まあいわゆる思春期で（笑）。

――だけどモテなかったと（笑）。プロレスラーになろうと思ったのはいつぐらいだったんですか？

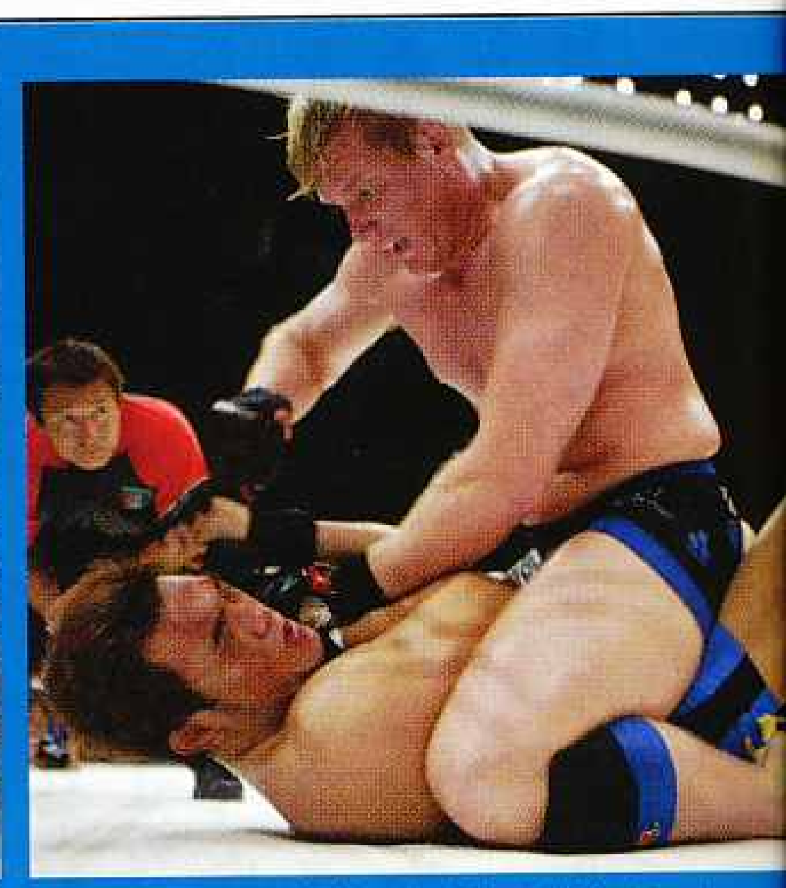
近藤　中学のときに、本格的にプロレスにハマッたんですよ。その頃は僕の地元では新日本は夕方にやってて、それを見て。

――何の試合だったか覚えてます？

近藤　藤波さんの試合だったんですけど、まずインパクトあったのが、凄い髪型で。



身体が
の世界
ュのパ



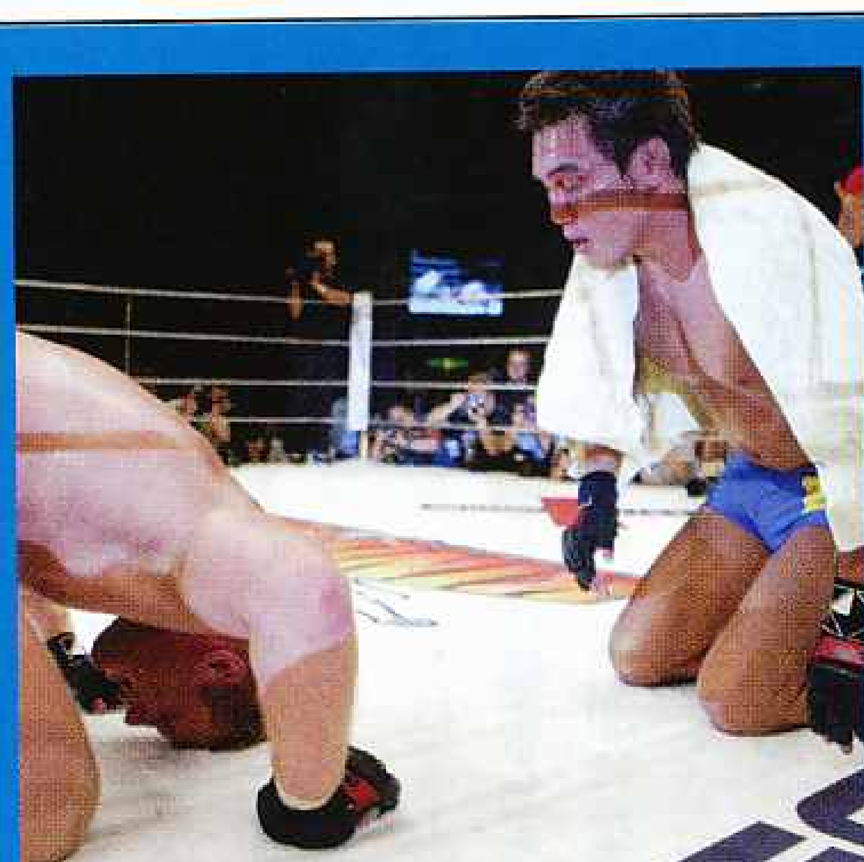
それでもなんとか寝技に持ち込んだジョシュは、マウントからガツンガツンと、重いパンチを振り下ろしていく。しかし、近藤はこれも返す。



粘りに粘った近藤だが、3Rに再びマウントを奪われると、身体を反転してしまい遂にチョークの餌食になり遂にタップ！



ジョシュが勝利すると中西学が真っ先にリングに駆け上がり、馬鹿デカい新日旗を振って、まるで自分が勝ったかのようにアピール！　中西、最高！



最後は「UWF同門対決」を思わせる、頭をついてのおじぎをするジョシュ。きっとビデオで何度も見たこの光景をやりたかったのだろう。

―ドラゴンの髪型がプロレスファンの入口ですか（笑）。

近藤　あの、ちょうど飛龍革命ですか、あの時期で。自分で髪切ったときみたいで。

―「やれんのかっ！」ってあれですね。

近藤　そのぐらいから見始めて、で「天龍とかはどうしてんだろう」と思って友達に聞いたら夜中にやってて。

―全日本はそうですね。

近藤　そのときに思ったのは「東京ってこんな夜中にプロレスやって、お客さんも見に来るんだ」って（笑）。

―全日本で覚えてる試合ってあります？

近藤　馬場さんが天龍さんにピンフォールされた試合ですね。パワーボムで。あのときは「おいおい、馬場、大丈夫かな？」って思いましたね。でも一番感動したのは獣神ライガーvs佐野直喜戦ですね。

―それ見てプロレスラーになりたいと。

近藤　中2の冬だったんですけど、友達と「将来どうする？」みたいな話をしたときに「プロレスラーになる」って。なんとなく答えたんですけど、それで初めて意識したっていう。

―「あ、オレはプロレスラーになりたいんだ」って。進路を決める三者面談とかありますよね。そのときはなんて言ったんですか？

近藤　もう「プロレスラーになりたい」って言いました。ただ自信はなかったんですよ、体力とか。だから高校卒業までに体力つけてって考えてましたけど。

―やっぱり休み時間に筋トレやったりとかしてたんですか。

近藤　いや～、もうダメですね。人に努力してるとこを見られるのが恥ずかしいんですよ。べつに美学とかじゃなくて、ホントに恥ずかしくて。

―じゃあ「あいつ夢を持って頑張ってるな」とか思われると……。

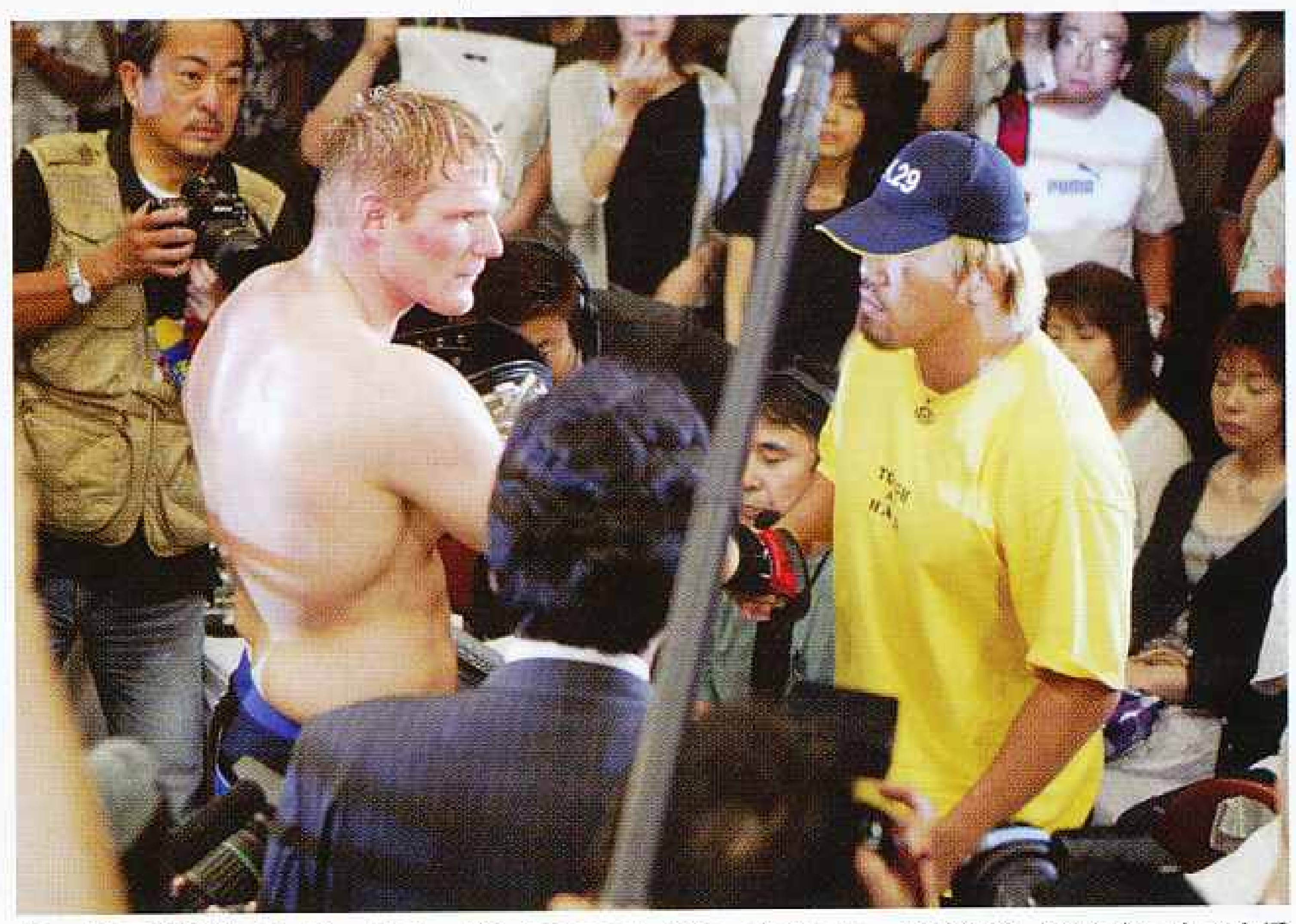
近藤　いや、もう触れないでくれっていう（笑）。家ではまあスクワットとかやるんですけど、部屋は絶対開けてほしくないんですよ。そっとしといてほしいんですよね。

―パンクラスはUWFからの一連の流れを見て？

近藤　あ、UWFは嫌いだったんですよ。ビデオ見てもつまんなくて。「なんじゃこりゃ？　こんなのプロレスじゃねえよ！」って。

―でも少林寺とかもそうですけど、格闘技やってると普通のプロレスのほうが「ちょっと変じゃねえか？」って思ってUWFに行ったりしませんか？　「こんな技はかかんないだろ」とか。

近藤　いや、それをできるのがプロレスラーだと思ってたんですよ。僕らがブレーンバスターやろうとしても、足が上がんないじゃないですか。それをできるのが本物のプロレスラーなんだって。けど、その頃に「プロレスは技を受けてから始まる」みたいなことが言われだしたんですよ。



第10代無差別級キング・オブ・パンクラシストとなったジョシュは試合後、解説席に座る高橋義生とガッチリ握手。この二人のタイトル戦が10・13ドームで行われることが決定！

Yuki Kondoh

―「受けの凄味」みたいな。

近藤　それがどうも違うぞと。自分が受けるのはいいにしても、相手が自分の技を受けてくれるっていうのはなんか腑に落ちないなって。じゃあUWFがいいかっていうと、こっちは試合が地味だし。中だるみするじゃないですか（笑）。

―正直に言えばね（笑）。

近藤　そういうときに、船木さんが出てきたんですよ。もう雑誌を見てても凄く光ってるし。映像を見ても他のUWFの選手とシャープさが全然違うんですよね。「ああ、UWFのスタイルでもこんなに魅力的に闘えるんだ」って思いましたね。それで藤原組、パンクラスと「船木さんのいる団体に入ろう」って考えてましたね。

―藤原組も地味でしたよね（笑）。

近藤　ちょっとそこは悩みましたね（笑）。体もなんかショボイっていうかたるんでる感じで。でもゴッチさんがいるんで「これが本物なんだ」って思い込もうとして。

―で、パンクラス旗揚げが高3の9月ですから、モロに進路を決める時期ですよね。

近藤　もう旗揚げ戦の前に入門テストは受けてたんですよ。

―「船木さんのいる団体」ってことで。

近藤　そうですね。そのときは落ちたんですけど。旗揚げ戦を見て、もう理想の団体ができたなと思いましたね。体も絞れてるし、試合も中だるみしないし。

―秒殺ですからね（笑）。入門テストに合格したのは第2回のテストで？

近藤　そうですね。3月の終わりに。

―その時期って、同級生がどんどん進路が決まってくじゃないですか。焦りとかなかったですか？

近藤　それはなかったですね。1回目に落ちた時点で、何回でも合格するまで受け続けようと思ってましたし。30になっても40になっても入れるまで。

―40の新弟子（笑）。

近藤　そういうのは全然気にならないんですよね。

―パンクラスに入ってからはわりと順調っていうか、すぐに頭角を表しましたよね。5戦目で鈴木さんに勝って、デビュー2年目で船木さんに勝ってベルトも巻いてで。

近藤　あれはメチャクチャ嬉しかったですね。気ぃ狂うかと思いました（笑）。やっぱり最初の頃って、まだ気持ちがファンっていう感じもありましたし。

―道場で会うと「あ、本物の船木だ！」みたいな（笑）。やっぱりあるんですね。

近藤　さすがにサインはもらわなかったですけど（笑）。

―さすがにそれはやらないでしょ（笑）。

近藤　でも一人いますけどね、窪田っていうんですけど（笑）。

―でも、そんな憧れの人に勝った気分って凄いでしょうね。

近藤　他のスポーツではそんなにないことだと思うんですよ。誰かに憧れて、その人と1対1で闘って勝つっていうのは。

―じゃあその頃っていうのは、成長は早かったけれども、他のプロレスファン出身のレスラーとそう気持ちは変わらないというか。

近藤　そうだと思いますね。今よりギラつ



相手を選んだり避けたりすることは男として恥ずかしくないのかなって。

いてたし、たぶん自慢オーラも出してたと思うんですよ。「どうだ!」みたいな。

――それが変わったのは、何かきっかけがあったんですか? 今ギラついてるとこが全然ないですよね。

近藤 まあ、ここ3、4年くらいだと思いますけど、きっかけとかはよく覚えてないですね。

――例えば、普通の格闘家って、試合前の練習はメチャクチャきつくて泣くぐらいまでやるし、寝れないくらい緊張するし、でもそれがあるから勝った時に嬉しいんだっていうじゃないですか。

近藤 僕はそういうのないですね。まあ試合が近付くと練習量は……上がんないですね(笑)。

――ホントに!?

近藤 試合後も、まあ開放感とかはあるし、その後のこう、怠惰な生活みたいのが嬉しいときもあったんですけど、だんだん「そうじゃないだろう」ってなって。

――へぇ〜。

近藤 やっぱり仮面ライダーは毎週闘ってますし(笑)。プロレスラーも年間100試合以上こなしてるじゃないですか。だからプロレスが好きでプロレスラーになったんだから、毎日やりたいと思わなきゃ違うだろうって。試合前の緊張感とか、試合後の開放感とかがあるのはおかしいなって思ったんですよ。

――普通はそれがいいって思うはずですけどねぇ。

近藤 どっちかっていうと、試合前は嬉しいはずだし、試合後は逆に次に向けて浮かれず準備する感じですよね。そういう発想は周りと違うかもしれないですね。理想はやっぱり、年間365試合やりたいんですよね。

――ダハハハ! それは凄い(笑)。

近藤 やっぱり究極を目指すべきだと思うんですよね。仮面ライダーにしてもジャッキー・チェンやプロレスにしても、僕が憧れたのは闘うこと自体だったんですよ。

――子供のときに見て、思わず真似したくなる気分のまま今もやりたいっていう。

近藤 それを追い求めてやってる感じですね。闘いっていうものが本当はつまらないもので、しんどいだけなのかもしれないけど、本当にそうなのかどうか追求したいっていう。だから一番強くなりたいっていうのは後からつけた目標みたいな感じがありますね。「強くなきゃいけないんじゃないかなぁ」っていうか「そういうもんなんだな」っていう感じで。僕にとって大事なのは闘う舞台があるっていうことなんですよね。ちゃんとした、町中のケンカじゃない闘う舞台が。

――ケンカは昔からしなかった?

近藤 全然したことないですね。やっぱりあの〜、そういうことすると怒られるじゃないですか(笑)。怒られるの嫌いなんで。

――そりゃ誰でも嫌いですけど(笑)。闘うこと自体が大事って話だと、近藤さんは試合の話をまず断らないですよね。相手も選ばないですし。

近藤 そうですね。なんか、生意気な言い方かもしれないですけど、相手を選んだりするのっていま普通になってるじゃないですか。特定の選手を避けたりとか。それって本来カッコ悪いことなんじゃないかって思うんですけどね。いわゆる"おいしい"とかっていう考えは。"う〜ん"って思うんですけどね。一人の男として、恥ずかしくないのかっていうか。

――近藤さんは超格下の相手でも平気でやりますもんねぇ。

近藤 格が上とか下とか、そういうのは周りの勝手な評価なんで、僕が左右されることはないですね。どんな選手が相手でも、学ぶところはたくさんあると思いますし。

――試合前の緊張感とか、試合後の開放感がないっていうことですけど、あんまり試合は特別なもんじゃないって感じなんですか?

近藤 特別は特別なんですけどね、やっぱりそのために生きてるんで。ただ試合が近いからってやたらにテンション上がったりとか、そういうことはなくなりましたね。

――試合に向けて練習量が増えたりもしないんですもんねぇ。

近藤 っていうより、普段から、毎日が試合のために練習してるはずじゃないですか。試合がないときでもやっとけよって(笑)。

――いやいや、試合用の練習はキツイから、そう毎日はできないんじゃないですか。

近藤 でも試合前になったらできるんですよね。だったら普段からやっとけばいいじゃないですか。

――普段の練習とか生活で気を付けてることってありますか? 例えば食べ物でも

脂身抜きの〝ハイブリッドちゃんこ〟は、僕には身体に悪いですね(笑)

脂肪は取らないとかありますよね。

近藤　お酒はなるべく控えるようにしてますね。あとはよく噛んで食べることと、食べ過ぎないこと。

――一般人と同じじゃないですか(笑)。

近藤　ええ、普通に健康に気を付けて。

――パンクラス名物の脂身抜きのハイブリッドちゃんこはどうなんですか?

近藤　僕は全然食べてないです。僕の中では……こんなこと言っていいのかな、僕個人の中では、あのちゃんこは体に悪いですね(笑)。

――体に悪い!(笑)。でも、体にいいように作ってあるんでしょ、あれ?

近藤　適度に脂は採ったほうがいいんですよ。とり肉もササミだけとかはダメですね。

――焼き鳥も皮は外したりとか。

近藤　ああ~、ありえないですね。脂身も食べるし、ガリガリ君も好きですよ。だから食べ過ぎだけ気を付けてれば。

――なんでパンクラスにいながら、そういう考えになったんですか?

近藤　まずストレスですよね。あといわゆる科学的な食事って内臓が悲鳴をあげると思いますね。「とりあえず体にいいもの放り込んどけ」みたいな感じだと。

――そのためにもガリガリ君が必要だと(笑)。ウェイトはやってます?

近藤　中3日くらいですね。1回10分くらい。

――1回10分!(笑)。あえて少なくしてる理由があるんですか?

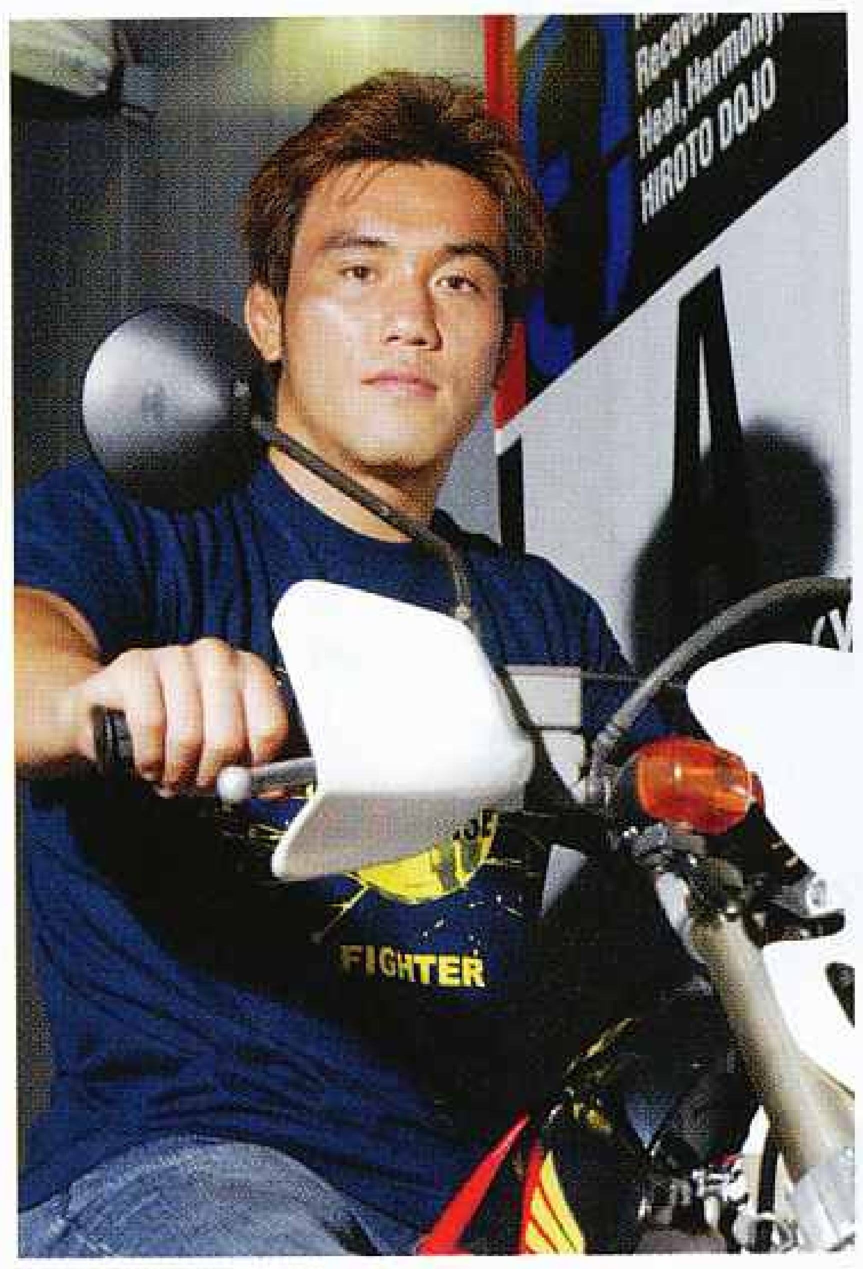
近藤　いや、それが精一杯なんで(笑)。

――周りがやってることとか気にしないんですか。

近藤　気にしないですね。

――道場での練習はどんな感じで?

近藤　12時からスパーリングがあるんで、それまでに行く感じですね。スパーリングだけは、どうしても一人じゃできないんで。



こんどうゆうき■1975年7月17日、新潟県出身。パンクラスism所属。デビュー5戦目で鈴木みのるを破り、デビュー1年半で船木誠勝を破り第5代パンクラス王者に君臨。ここ数年王座から遠ざかっているが、今年5月菊田早苗と白熱のドローを演じ実力を証明した。

Yuki Kondoh

――決まったスパーリングパートナーとかいるんですか?

近藤　いないですね。そのときにいる相手で。

――普通、寝技はこいつとやると勉強になるとか、ミットはこの選手に持ってもらうとやりやすいとかあるじゃないですか。

近藤　そういうのはないですね。

――なんで(笑)。

近藤　例えばミット持つのがヘタだったとしても、ヘタなのはそいつのせいだけじゃないんですよ。それをうまくしてやるのも自分の技量だし、そういう中でいかにいい練習ができるかっていうのもポイントなんですよね。「なんでコイツとミットやると息が合わないのかな」って考えるのも、深いところでは理由が見つかって、そこも学べるんですよね。何に関しても、自分の外に理由はないんですよ。例えばムカつくことがあったとしても、それはムカつかせた奴が悪いんじゃなくて、要は自分の心の中の状態じゃないですか。なんでも自分の問題なんですよ。

――前に「何かに対する欲とか怒りはモチベーションにならない」って言ってましたけど、それも要するに周りに左右されない、自分の心の中の問題っていう。

近藤　そうですね。

――じゃあ今後の目標っていうのは?

近藤　次の試合で、前回以上の試合をしたいなと。進化を見せれたら。あと久々に白星もほしいですけど(笑)。

――UFC、『PRIDE』、それに『アルティメット・クラッシュ』と闘う場所の選択肢も増えてきてますけど、その辺は?

近藤　今は特に考えてないですね。ジョシュに勝ってたら「これをやったらファンの人が喜ぶかな」っていうのがあったと思うんですけど。

――理想の自分のゴールというか、究極の地点ってどんなものなんですか?

近藤　まだ想像つかないですね。今、まだ体力の衰えとか全然感じないですし、自分にとってどこが高い所なのかもよく分かんないですね。

――それこそ『週プロ』では「80、90までやりたい」って言ってましたけど(笑)。

近藤　それは進化し続けるうちに、そこまでいっちゃうかなっていう。昨日の自分より今日の自分のほうが強くなっていくっていうのを繰り返して、80、90。

――ああ、近藤さんの90歳は28歳の今より強いわけですか(笑)。

近藤　もう問題になんないくらいですね。老体にムチ打ってっていうんじゃなく、一本取れる90歳ですよね。差し合いとかでも、今はいっぱいいっぱいでやってるんですけど、歳取ったらこう(片手でスッと押す仕種)。

――冗談じゃなくそう考えてるのが凄いですよねぇ(笑)。

近藤　いや、でもホントに分かんないじゃないですか。分かんないってことは、なれるかもしれないってことなんで。

――じゃあ食事に気を付けて、90歳まで頑張ってください(笑)。

近藤　90までかどうかも分かんないですけどね。もっと先とか(笑)。

【03年9月12日/パンクラス事務所にて収録】

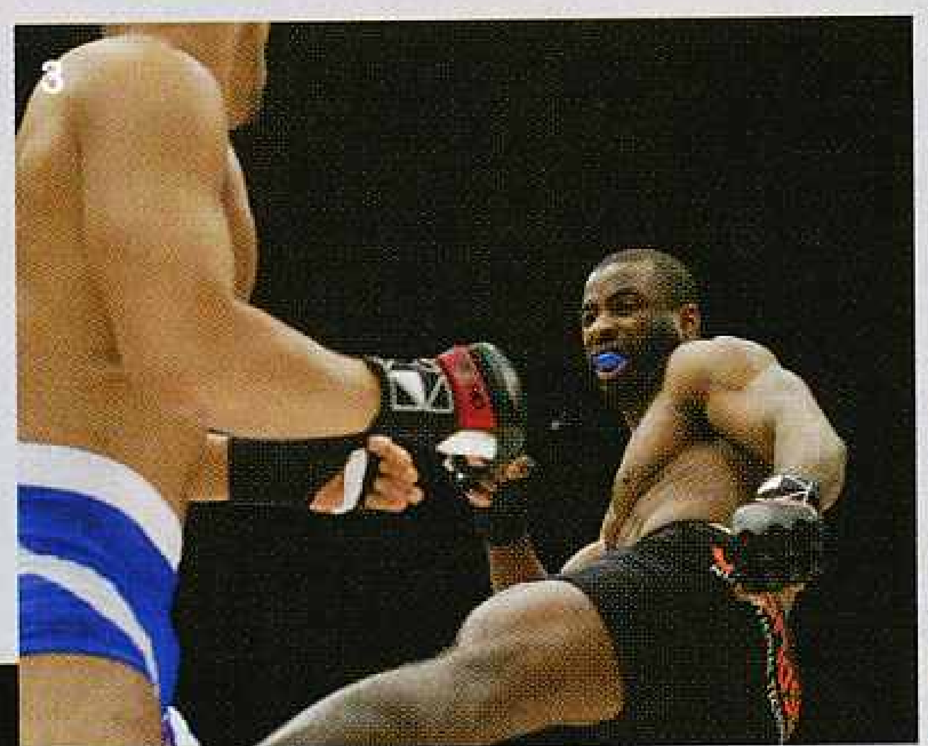
8・31パンクラス10周年記念興行 両国国技館
vs世界、vs新日本対抗戦はパンクラスの5勝3敗

しかし本当にこれでいいのか？

vs世界、vs新日本という2本立ての対抗戦となった8・31両国は、パンクラスの5勝3敗と記録上では勝ち越し、めでたし、めでたし、と言いたいところだが、本当に価値ある勝利がどれだけあったかは、ちと疑問。もっと近藤のような真っ向から勝ちに行く姿勢が見たかった、というのが本音。11・30両国に期待！

vs世界トップバーリトゥーダー

國奥、グレイシーに惜敗 菊田は一本勝ち奪えず


3


4


1


2

①②ハウフ・グレイシー門下のクラウスレイは、初ＶＴながら打撃でも國奥と互角に渡り合う好選手。文句ナシの判定勝ちを奪った。③開始わずか29秒でカストロの蹴りが郷野の金的に当たり反則負け。④菊田は豪州の実力者シノシックを寝技で一方的に攻め込むが、またしても一本は奪えず。⑤佐々木は自分より二周り小さいヒース・シムス（チーム・クエスト）に危なげなし。しかし、一本かＫＯで勝ちたかったところだ。


5

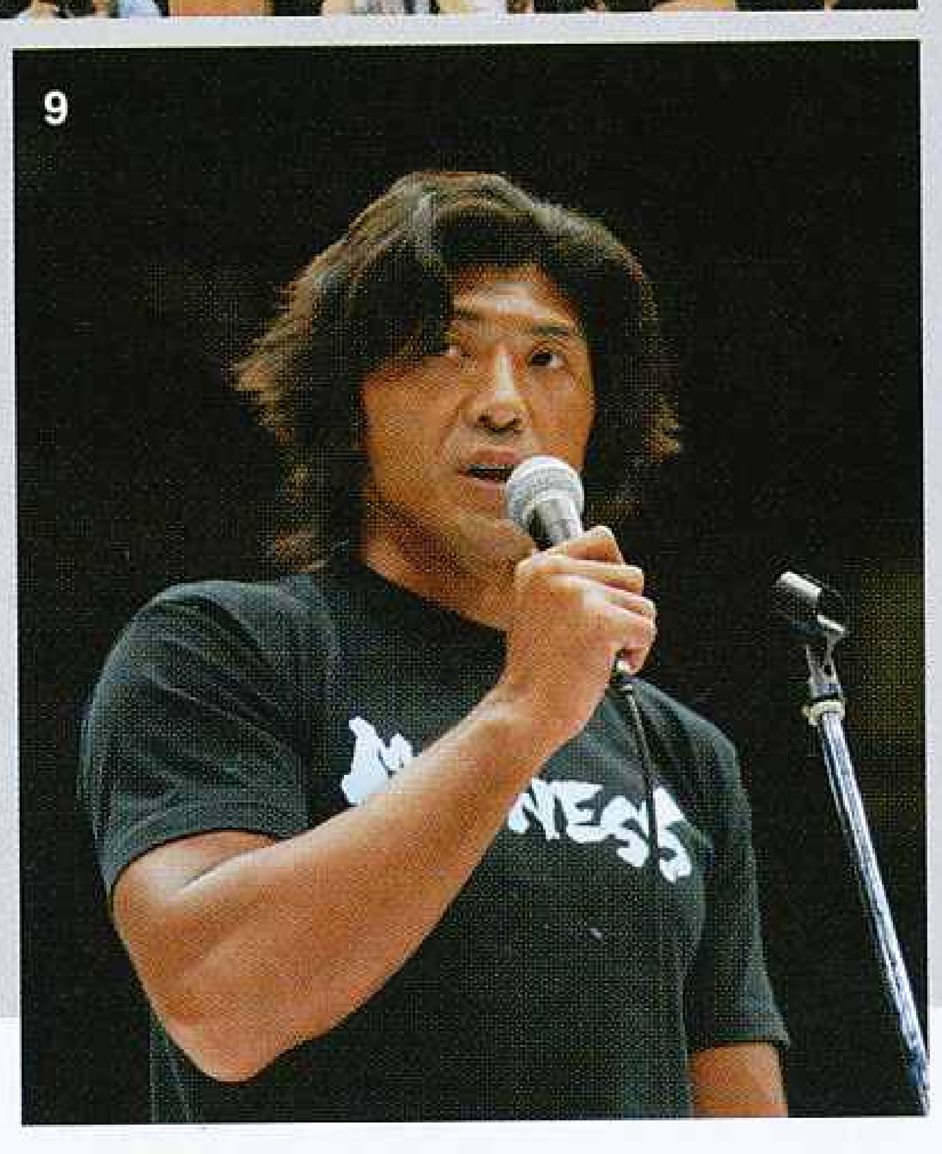
vs新日本プロレス

矢野善戦、されど渋谷が鮮やかに逆転！ そして、みのる節が大爆発!!

8


7


6


9

⑥新日本の秘密兵器・矢野通は、渋谷相手に１Ｒ優勢に進めるなど、なかなかの好選手。しかし、一度下になると対処はまだまだで、渋谷が十字で一本。⑦鈴木vs飯塚はキャッチレスリングで対戦。お互い探り合いに終始した感じだったが、２Ｒ足関を取りかけたみのるの勝利。⑧試合では静かだったみのるだが、試合後は「俺たちがパンクラスだ！バーか！」と大絶叫！⑨挨拶に立った船木はパンクラス勢に対し「『PRIDE』や世界に討って出てほしい」とエール。



ヒカルド・

Ricardo Almeida

パンクラスで無敵の4連勝!!
次はいよいよ“キング”の座に王手か!

アルメイダ

［ヘンゾ・グレイシー柔術アカデミー］

「ジョシュが〝新日本代表〟を名乗るなら、ボクは〝パンクラス代表〟として彼を倒す！」

昨年11月にパンクラス初参戦以降、破竹の4連勝を挙げ、瞬く間に〝エース外人〟の座に登りつめたアルメイダが遂に〝キング・オブ・パンクラス〟の座に狙いを定めてきた。しかも、菊田の持つライトヘビー級だけでなく、ネイサン・マーコートのミドル級、さらにジョシュ・バーネットの無差別級を含めた三冠王宣言！　いまこそ、この男に注目せよ！

聞き手／堀江ガンツ　撮影&通訳／黒田史夫　試合写真／乾晋也
designed by hisa (Two Three)

8・31パンクラス両国国技館大会の前日、ホテルの喫茶店でインタビューを受けてくれたアルメイダ。しかし、翌日の三崎和雄戦は82kg以下のミドル級契約のため、通常87～88kgで闘っている彼は、計量ギリギリで水も飲めないという。

「ボクのことは気にしないで注文していいよ。喫茶店で誰も注文しないんじゃまずいじゃないか。でも、『ボク一人ぐらいなら『クレイジーなガイジンじゃしょうがない』と、店員さんだってきっと思ってくれるさ（笑）」

そう言って、周りの人みんなにメニューを回すアルメイダ。〝グレイシー一族イチのいいヤツ〟と呼ばれたヘンゾ・グレイシーの一番弟子は、とにかく気持ちのいいヤツだった。

昨年11月に発参戦以降パンクラス4連勝を挙げ、いよいよその人気は爆発寸前。そんな彼の素顔を紹介しよう。

アルメイダ　（『紙プロ』前号のヴァンダレイ・シウバ神社お参りページを見て）オ～、ナイス・フォト！

――アルメイダさんも日本の文化には興味あるんですか？

アルメイダ　凄く興味があるよ。日本の歴史小説なんかも大好きだし、モンゴリアンが攻めてきたとき（元寇）のストーリーとか最高だね！

――蒙古襲来を知ってますか！　日本の文化は格闘家として来日する前から好きだったんですか？

アルメイダ　うん、そうだよ。ブラジルでは日本のテレビ番組がよくやっていて、子供の頃から夢中で見ていたんだ。ジャスピオン、チェンジマン、ジライヤ、ドラゴンボール……ほとんど日本の子供たちと同じような番組を見てボクたちは育ったんじゃないかな。だからこそ、日本の文化には昔から興味があるんだよ。

――へ～。じゃあ、ホドリゴ・グレイシーなんかもチェンジマン好きで〝オタク〟とか言われてますけど、別にブラジルでは普通のことなんですか？

アルメイダ　ホドリゴやボクの世代のブラジルの男の子はみんな大好きだよ。でも、ボクのお母さんは「日本のテレビを見せたのは間違いだった」って言ってるけどね。「あんな番組を見て育ったから格闘家になっちゃった」って（笑）。

――やっぱり格闘技を始めたのは、そういった〝格闘ヒーロー物〟の影響が強いんですか？

アルメイダ　そうだね。ドラゴンボールみたいなのに憧れていたから、最初に始めた格闘技は友達に誘われた柔術だったんだけど、柔術の面白さが理解できなかったんだよ。なんかゴロゴロ寝てるだけでカッコ悪いってね（笑）。それでなんとなく見た目がカッコイイ空手に移ったんだけど、半



ボクがVTをやるようになったのはヘンゾの「命令」なんだよ（笑）

年後にまた友達から「柔術やろう」って誘われて、今度は本格的にやってみたら面白くて、それでハマッちゃったんだ。

――見た目が地味な柔術が好きになった一番の理由は何だったんですか？

アルメイダ　柔術は実戦での有効性を追求していたから、そこに惹かれたんだ。それまでボクがやっていた空手はいわゆる〝伝統空手〟で、悪い格闘技だとは言わないけど、あまり実戦に有効ではなかった。やっぱりボクは格闘技をやるなら、常に昨日の自分より今日の自分の方が強くなるように前に向かっていきたかったんだけど、伝統空手は昔の人が考えた型の練習を重視したり古い伝統を重んじる。でも、柔術はどんどん新しいものを取り入れて進化している。その辺りで空手より柔術に向いていたんだと思う。

――なるほど。アルメイダ選手が最初に入った柔術の道場は、「グレイシー・バッハ」だったそうですけど、ヘンゾ・グレイシーとはそこで初めて出会ったんですか？

アルメイダ　ＹＥＳ。まぁ、出会ったと言ってもその頃は雲の上の存在だったけどね。92年当時のグレイシー・バッハでは、先生のカーロス・グレイシーJr.以外で黒帯を巻いていたのはヘンゾだけだったんだ。しかもカーロス先生はすでに現役という感じじゃなかったけど、ヘンゾはバリバリ試合に出ていろんなトーナメントで優勝していたから、ボクらにとってヘンゾこそがリアル・ヒーロー。誰もが「いつかはヘンゾみたいになりたい」と思っていた憧れの存在だったんだ。だから当時はよくヘンゾやホイラーの試合を見に、バスに乗って遠くまで行ったりしたよ。それでも、あのころヘンゾが負けるところは一度も見たことがなかったからね。それぐらい凄い柔術家だったんだ。

――いまは昔と違って黒帯柔術家はたくさんいますけど、その中でもヘンゾ・グレイシーが特に尊敬を集めているのはどんな理由からなんでしょうか？

アルメイダ　やはりヘンゾはカリスマ的な存在だし、性格が凄くいいからそれで愛されているという部分もある。そして、なんといっても誰とでも闘うという勝負に対する姿勢が尊敬されている理由じゃないかな。だからこそバッドボーイたちもヘンゾの言うことだけはきくんだよ（笑）。

――じゃあ、そのヘンゾから黒帯を授けられたというのは、アルメイダ選手にとっても凄く誇りなんじゃないですか？

アルメイダ　そりゃそうさ。やっぱりヘンゾは黒帯を巻くに相応しい人間かどうか凄く選ぶ人だからね。そのヘンゾにもらえたことは非常に名誉なことだし、ヘンゾ、ハウフ、ハイアン、ジャン・ジャック・マチャドという名選手たちを輩出した名門グレイシー・バッハで黒帯を貰えたということも誇りに思うよ。

――アルメイダ選手が黒帯を取得したのは何かきっかけがあったんですか？

アルメイダ　茶帯のときに出た99年の『アブダビ・コンバット』でヒーガン・マチャドに一本勝ちしたことがきっかけだよ。当時、ヒーガンはヒクソンにしか負けたことがない柔術界では大物中の大物だったから、そのヒーガンに一本勝ちできたというのは自分でも信じられなかったし、もの凄く大きな出来事だった。それで試合後、アブダビの王子が選手を集めて船上パーティを開いてくれたんだけど、そのパーティ最中にヘンゾやみんなに担がれて、海に放り出されてしまったんだよ（笑）。

――手荒い祝福ってやつですね（笑）。

アルメイダ　それでボクが海の中に真っ逆さまに落とされて、「何が起こったんだ」と思っていたら、ヘンゾが浮き輪の代わりに黒帯を海に投げ入れて「その黒帯は今日からお前のものだ」って言うんだ。そして船の上ではアブダビに参加したすべての選手が拍手して祝福してくれた。あれはホントに嬉しかったよ（ニッコリ）。

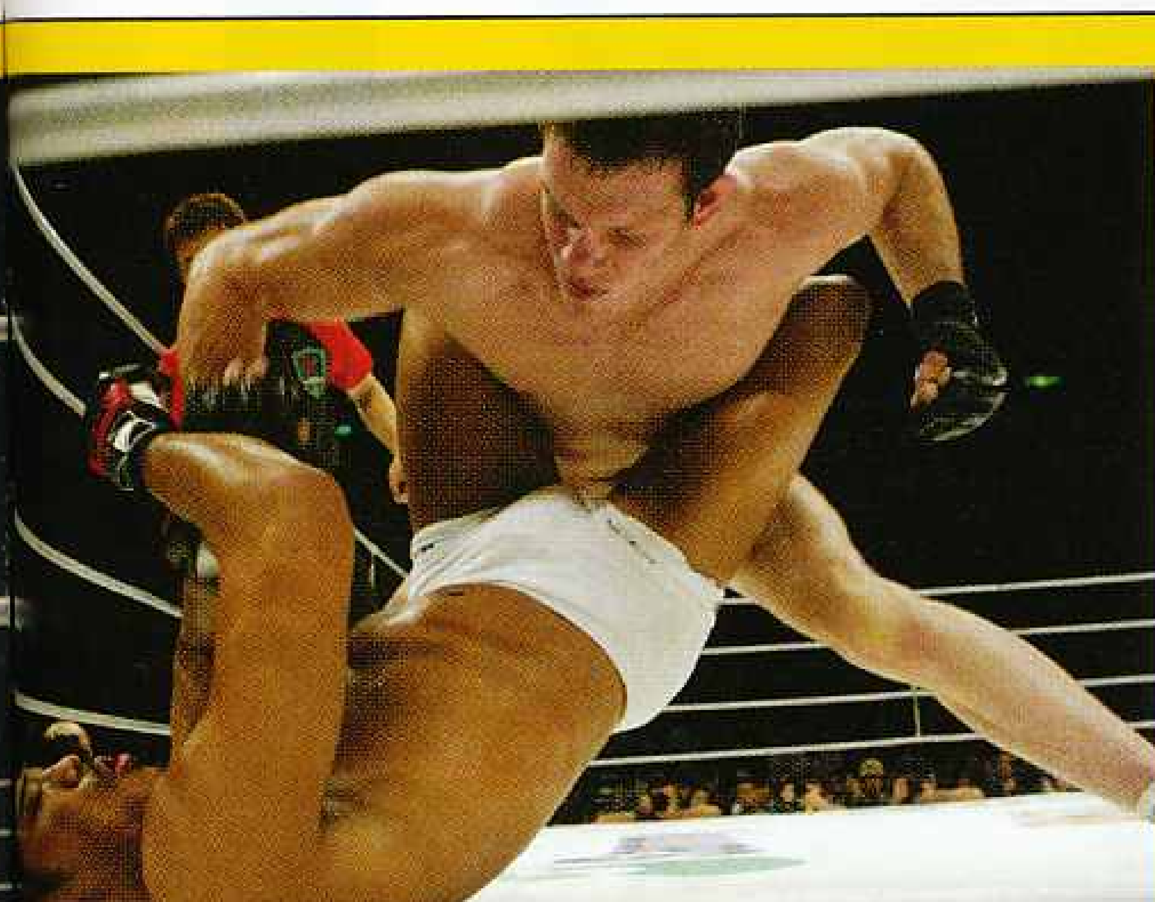
――いや～、ヘンゾも粋なことしますねぇ（笑）。そもそもそんな雲の上の存在だったヘンゾとアルメイダ選手が親しくなったのは、いつごろからなんですか？

アルメイダ　ボクはブラジルの高校を卒業したあと、ニューヨークの大学に進学したんだけど、ニューヨークに行ったばかりのころ、ヘンゾの家に2ヶ月間居候させてもらったんだ。そしてヘンゾがニューヨークに道場を出すときに協力したりして、それで親しくなっていったんだよ。そんなこともあって、ボクにとってヘンゾというのは、自分の息子にも「ヘンゾ」という名前を付けるくらい影響を受けた人間なんだ。ボクがいまプロのファイターとして生活してい

Ricardo Almeida




ガ


アルメイダはパンチをかいくぐって強引にテイクダウンを奪うと、守りの堅い三崎相手に豪快なパウンドを振り下ろしていく。



打撃に自信がある三崎は、アルメイダと寝技合戦は挑まず、パンチで勝負。アルメイダはローキックを中心にした攻めでそれに対抗。

2003.8.31 両国国技館
グラバカ三崎を破りアルメイダ4連勝！

○ヒカルド・アルメイダ
（ヘンゾ・グレイシー柔術アカデミー）
［判定 2-0］
三崎和雄●
（パンクラスGRABAKA）

るのもヘンゾの影響だしね。

——VT（バーリ・トゥード）を始めたのもヘンゾの影響だったんですか？

アルメイダ　うーん、それはヘンゾの影響というより、ヘンゾの「命令」だね（笑）。

——ヘンゾの「命令」でしたか（笑）。

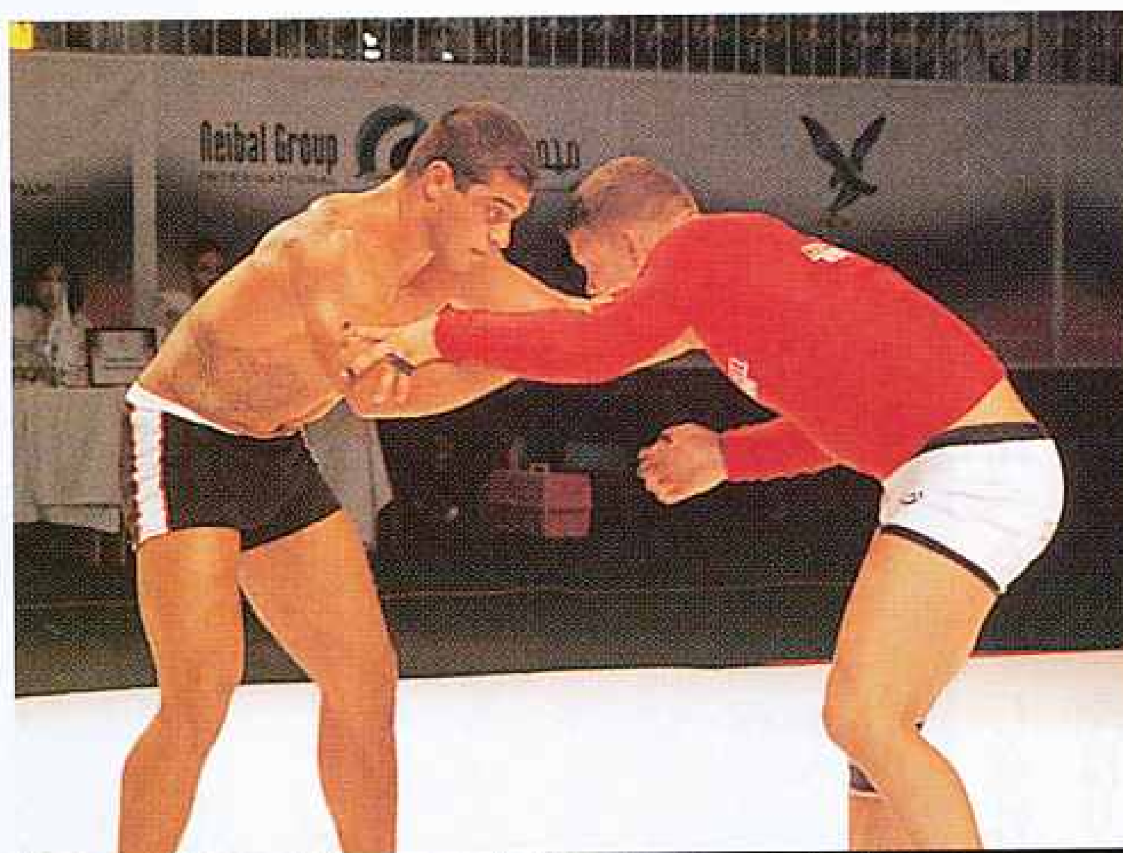
アルメイダ　ボクのVTファーストマッチはサクラバとハイアンが闘った『PRIDE・12』（H12年12月23日）なんだけど、その時ボクは最初ハイアンをヘルプするセコンドとして来日したんだ。それがショージ（小路晃）と闘うはずだったアラン・ゴエスが急遽欠場になってしまって、誰かが代わりに出なきゃならなくなった。それで『グレイシー・マガジン』の記者が仲介して、カワサキ（“ブッカーK”川崎浩市）に「ニーノ・シェンブリを代わりに送ってもらうように、ヘンゾに頼んでくれ」って言ったんだ。そしたらヘンゾは「わざわざブラジルからニーノを呼ぶ必要はない。いま日本に行っているアルメイダを出す」って勝手に宣言しちゃったんだよ（苦笑）。

——本人の意向も確かめず（笑）。

アルメイダ　そう。「アルメイダはもう日本にいるから、飛行機代もビザも新たなセコンドもいらなくてチープでいいだろう」って（笑）。それで『PRIDE』のOKも出ちゃったんで、ボクの意思とはまったく関係ないところで急に試合が決まってしまったんだ（苦笑）。

——この間の『PRIDEミドル級GP』に急遽出たムリーロ・ブスタマンチみたいですね（笑）。

アルメイダ　いや、彼の場合はUFC王者になるくらいVTの経験も豊富で6日か7日前ぐらいに試合に出ることになったんだろうけど、ボクは5日前でしかもデビュー戦だからね。ボクの方が非常識じゃないかな（笑）。









（写真・右上）本文中にもある通り、急遽VTデビューすることとなった『PRIDE・12』の小路戦。この時からすでにアグレッシブな姿勢が評価されていた。（左上）『アブダビ』での実績もトップクラス。第3回大会では1回戦で菊田を破ったヒーガン・マチャドに一本勝ちしている。（右下・左下）パンクラス参戦後は美濃輪、佐々木らライトヘビー級トップランカーを次々撃破。次はもう菊田戦しかない！

——非常識度で上回りますか（笑）。そもそもVTをやりたい気持ちはそのころからあったんですか？

アルメイダ　いや、ほとんどなかったよ。

——あ、なかった（笑）。

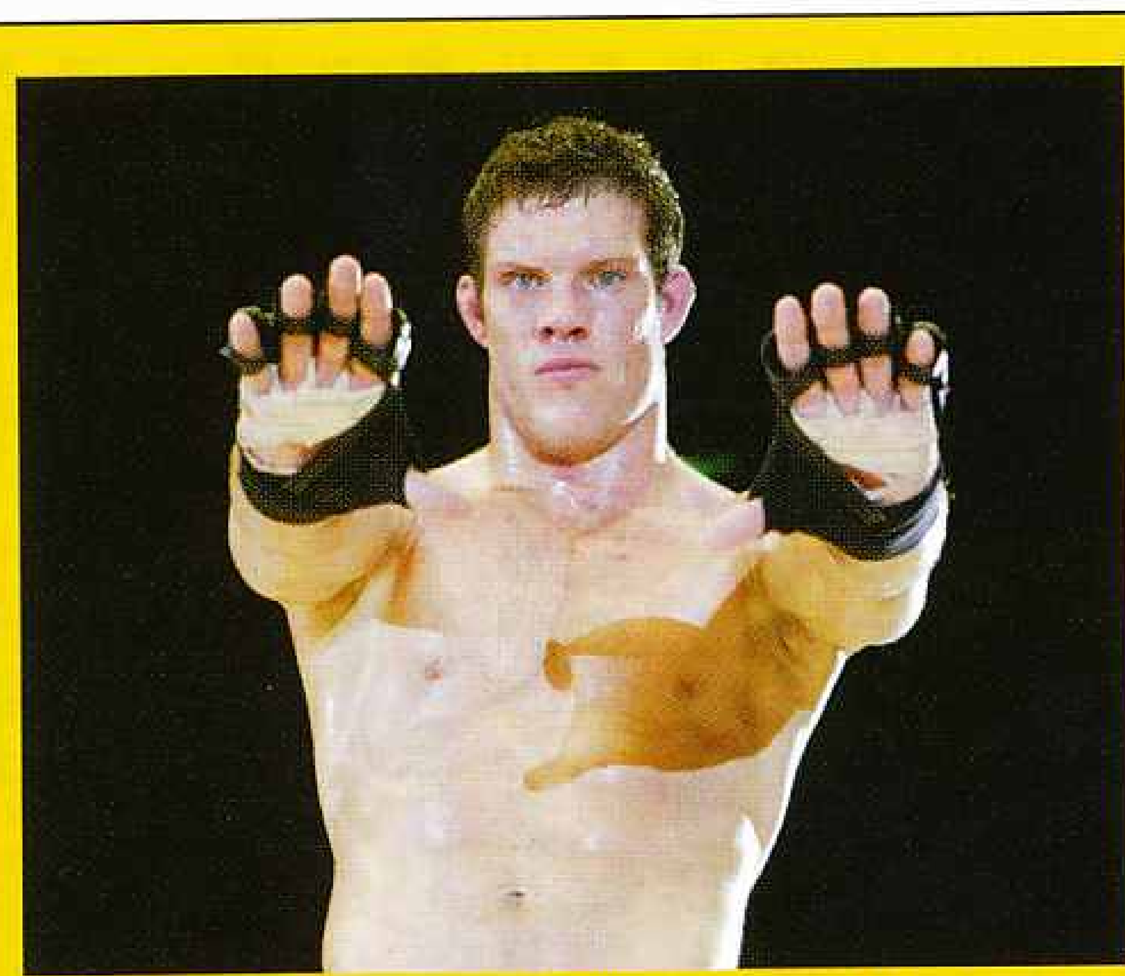
アルメイダ　もともとボクのお父さんがVTをやることには絶対反対していたし、自分でも「危険だからやりたくないな」と思ってたんだ。でも、いざヘンゾに指名されたら「こんなチャンスは2度とない」と思って「勝っても負けても関係ない。とにかく試合に出よう」って気が変わったよ。

——では、小路戦以降VTを続けるようになったのは、あの試合でVTが病みつきになったわけですか？

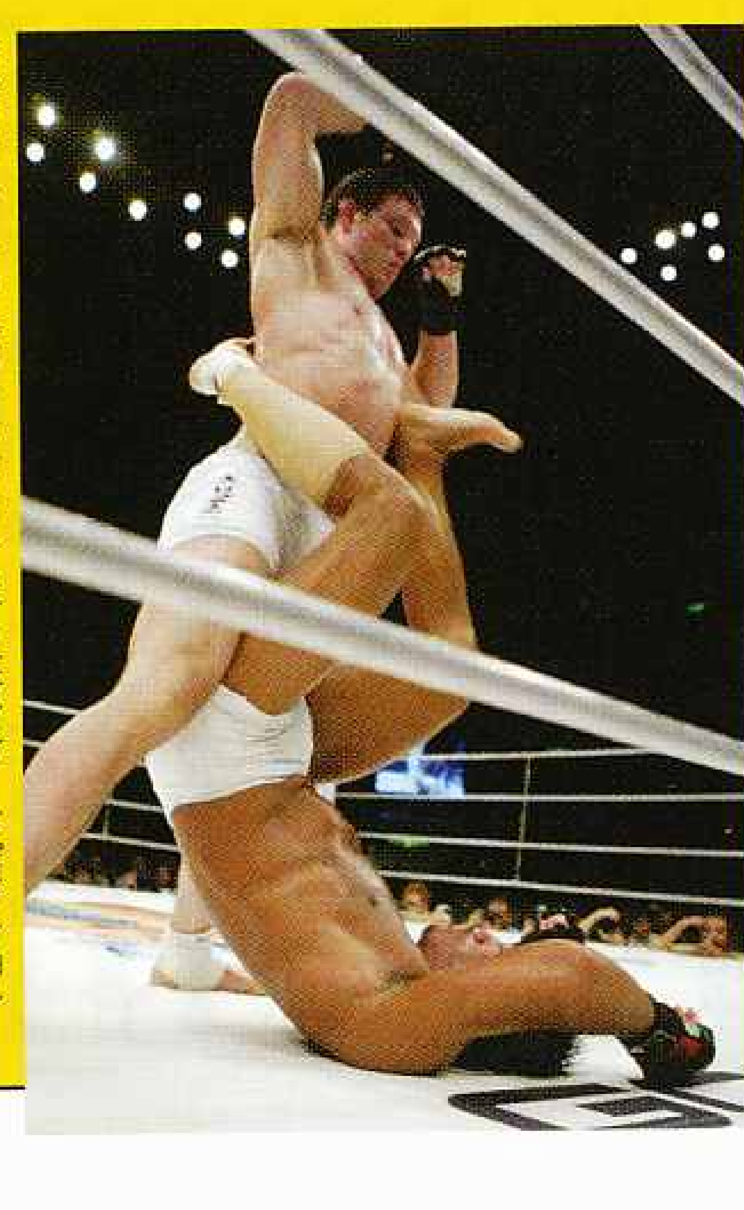
アルメイダ　う〜ん、病みつきというかスノーボードみたいなもんだよ。一回滑ってみたらやめられなくなったという感じかな。それでショージとの試合の後すぐにヘンゾから電話があって、「次はUFCに出ろ」って言うんだ（笑）。だから何か嵐に巻き込まれたような感じでボクはVTのファイターになったんだよ。

——ちなみに反対していたお父さんも今はVTを認めてくれてるんですか？

アルメイダ　確かに今でも試合に出ることは心配しているけど、デビューしたときはもう23歳だったからね。ボクのやりたいことを理解してくれて、今はいろんなサポートもしてくれているよ。ただ、ボクがUFCでユージン・ジャクソンに勝った時なんだけど、その時お父さんが初めて試合を見



結局、終始アグレッシブに攻めたアルメイダの判定勝ち。試合後はお馴染み、『ドラゴンボール』のキャラ、トランクスのポーズを見せた。



終盤もアルメイダがテイクダウンし、三崎がガードポジションを取る展開が続く。上になったアルメイダは“しあわせチョップ”まで見せた。



それでもクロスガードや猪木―アリ状態でなんとか凌ぐ三崎に、パスガードをしながら全体重を浴びせるパンチでさらに攻め込む。



菊田がUFCに出るなら応援する
ボクはパンクラスや『PRIDE武士道』83kg以下王者を目指すよ

に来ていて、試合が終わったあとに話をしたんだ。そしたら、お父さんは見ていただけなのにフルマラソンを走りきったあとのようにクタクタになっていて、「こんなに心臓に悪いことはない。2度と俺にこんな思いをさせないでくれ」と言われたよ（笑）。

――息子が金網の中で殴りあってるんですからね。そりゃそうでしょう。

アルメイダ　そのときお父さんに言われたのは、「あまり勝ち負けにこだわって、無理をしないでくれ」ということだった。だから、いまでもボクは自分が闘わなくちゃいけない以上に試合をするつもりはないよ。それに自分自身、最初の何試合かは人を殴ったり傷つけたりするのが凄く嫌で、感情的にはVTをやることに葛藤があったんだ。本格的にプロとして活動していくと決心してからは、そういったことは感じなくなったけどね。

――UFC時代の戦績は、今の快進撃と比べると少し意外なくらい負けが先行していますが、やはりUFC時代はまだ闘いに迷いがあったんですか？

アルメイダ　そういうわけじゃないよ。ただ単にあの頃のボクは経験がなかったんだ。周りは10何戦もキャリアを積んでUFCに上がってくるのに比べて、ボクの場合は1戦『PRIDE』で試合をしただけだったからね。あとはルールの違いかな。やっぱりUFCでは相手が手をついていたら、どんな状態からでも顔面は蹴ってはいけないとかあって、ボクがグラウンド状態から顔面を蹴ったらリンドランドはマットに手を付いたんで、レフェリーに2回注意を受けて失格になったんだ。ただ、それについてどうこう言うつもりはないよ。そこで負けたことによって自分が学んだことも多いし、いま思えばUFCはいいレッスンだったと思う。



――では今、かつて『アブダビ』なんかでも活躍したトップファイターたちは、組技の大会は控えてVTに専念する選手が多いですけど、アルメイダ選手もしばらくはVTに専念するつもりですか？

アルメイダ　いや、確かにボクもいまはVTに集中しているけど、『アブダビ』はヒーガン・マチャド、マーク・ケアー、ムリーロ・ブスタマンチ、ジョシュ・バーネットといった大物と闘える機会を与えてくれた場所（ちなみにケアー以外には勝っている）だから、自分にとっては大事にしたい大会だし、逆にボクと闘いたいと思っている若い選手もいるだろうから、これからも『アブダビ』には出続けていきたいと思う。

――ちなみに今年の『アブダビ』は、聞くところによると無差別級に出たくて出場したらしいですね？

アルメイダ　そうなんだよ。無差別に出たいから出たのに、階級別の試合でケガをしてしまって出られなかったんだ。無差別のことばかり考えていたら、足を極められて初めてタップしたよ。これも大きなレッスンになったね（苦笑）。

――やっぱり無差別でやる魅力というのがあるわけですか？

アルメイダ　そうだね。やはり大きな人間と闘って自分を試したいという気持ちは強いよ。だから常に無差別で闘うというのが自分の目標だよ。

――VTでも無差別級を闘いたい気持ちはありますか？

アルメイダ　うん。ゼヒVTでも自分を試してみたいよ。VTの無差別の場合ケガに対するリスクが大きいことはわかっているけど、やっぱりデカい相手に自分の柔術がどこまで通用するか試したいんだ。そもそも柔術というのはどんな相手と闘っても自分を守れるというのが特徴なんだし、それはサーフィンで、もの凄く大きな波が来たときと同じだと思う。ビッグウエーブに飲み込まれて死ぬかもしれないけど、ボードとテクニックがあればその波に乗ることができる。闘いにおいても大きくて強いヤツが相手でも、柔術のテクニックで自分を守ることができると思うんだ。

――では、無差別で興味がある相手、闘いたい相手は特にいますか？

アルメイダ　誰でもOKだよ。でも、しいて一人名前を挙げるとしたらジョシュ・バーネットかな。

――おぉ～、ジョシュですか！

アルメイダ　ジョシュには『アブダビ』で一本勝ちしているからね。問題ないよ。彼

が新日本プロレス代表と言うなら、ボクはパンクラス代表として彼と闘ってもいい。ボクはヘンゾ・グレイシー柔術アカデミーの人間だけど、パンクラスで試合をするたびに〝団体の一員〟としての意識が高くなってきているからね。

――では、近藤vsジョシュという試合にはアルメイダ選手も興味がありますか？

アルメイダ　もちろん興味あるよ。ジョシュの方が体格的なアドバンテージはあるけど、コンドーはタフだし誰に勝ってもおかしくない可能性をもっている選手だから、きっと面白い試合になると思うよ。でも、もしコンドーが負けたら、今度はボクがジョシュと闘いたい。場所は新日本プロレスのリングでもＯＫだよ！

――それはゼヒ実現してほしいですねぇ！　あと、ファンからは菊田選手との試合も期待されていますけど、菊田選手にはどんな印象がありますか？

アルメイダ　キクタはグレートなファイターでボクも好きな選手ではあるけど、対戦相手として考えた場合、彼と試合をさせてもらえるかわからない。たぶんこのままだと闘える機会はないんじゃないかな。だから彼と闘うための近道になるんだったら、減量はきついけど、まずはネイサン・マーコートのミドル級王座を奪うのもいいと思う。

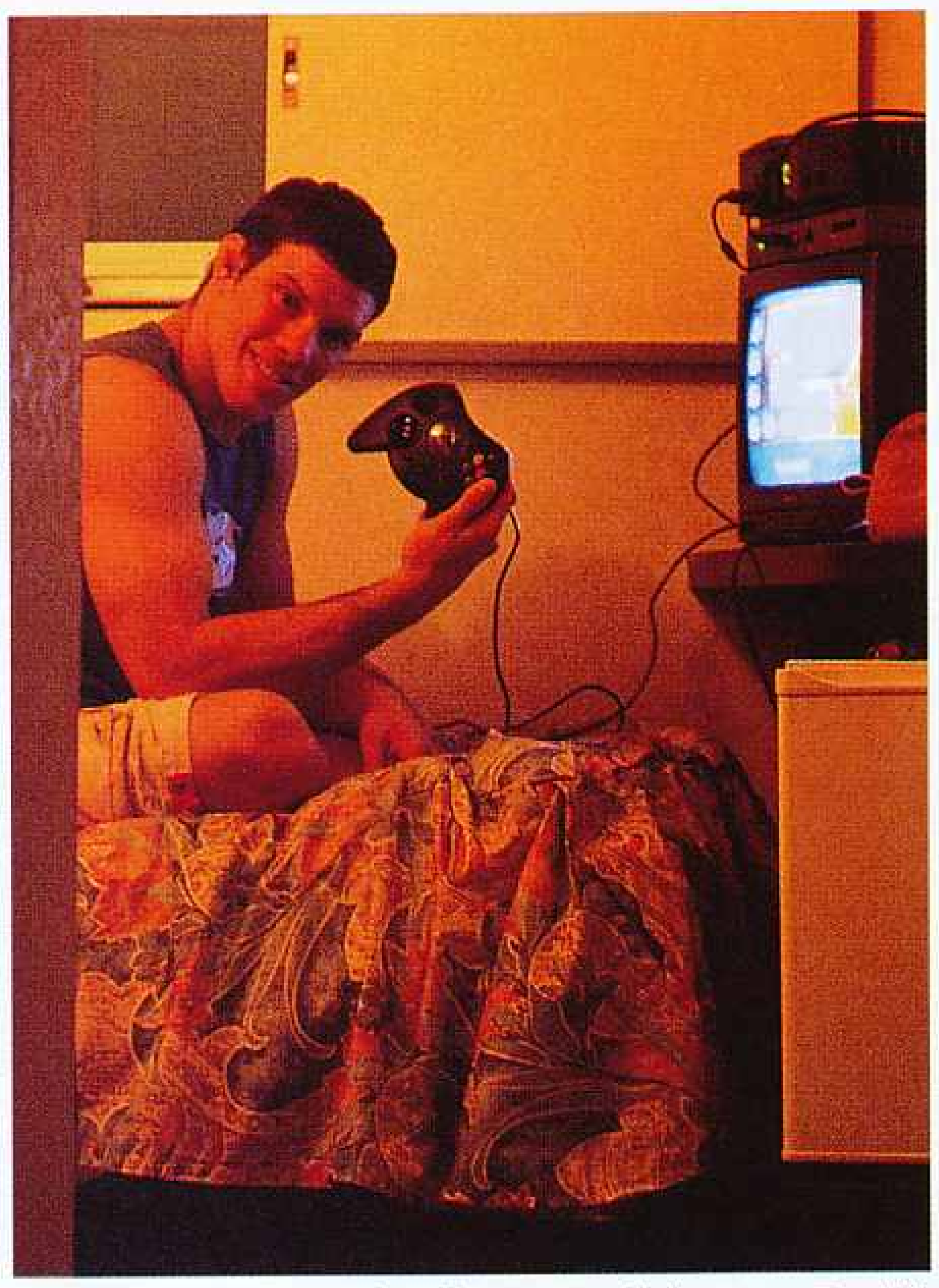
――確かに菊田選手はアルメイダ選手との試合より、ＵＦＣミドル級王座の方に色気を見せているみたいですからね。

アルメイダ　もしキクタがＵＦＣに行くなら、ボクも経験者として彼に協力するよ。ボクはキクタを始めとしてグラバカのファイターはみんな好きだし、（ＵＦＣミドル級王者の）ムリーロ・ブスタマンチも『ＰＲＩＤＥ』に行ってしまったから、キクタだったらチャンピオンになれる可能性があると思うよ。だからホントにＵＦＣに出るつもりがあるなら一緒に練習してもいい。

――逆にアルメイダ選手ももう一度ＵＦＣミドル級を狙うことはないんですか？　菊田vsアルメイダならＵＦＣのチャンピオンシップでもおかしくないと思いますけど。

アルメイダ　今はもう日本で闘うことに集中しているから、ＵＦＣに出るつもりはないね。それよりもキング・オブ・パンクラス王座や、近々新設されると噂の『ＰＲＩＤＥ武士道』の83kg以下チャンピオンを目指したいね。慣れればこの体重でもやっていけると思う。

――やはりアルメイダ選手にとっても『ＰＲＩＤＥ』というのは、魅力ある舞台ですか？



Ricardo Almeida■1976年11月29日、アメリカ、ニューヨーク出身。180cm、89kg。ヘンゾ・グレイシー柔術アカデミー所属の黒帯柔術家。組技世界一決定戦と呼ばれる『アブダビ・コンバット』には、98年の第1回から今年行われた第5回まですべて出場。第2、4回の準優勝を始めとして、5大会連続ベスト4進出の偉業を成し遂げている。00年12月『PRIDE.12』でVTデビュー（小路晃に判定勝ち）。以来、UFCを経てパンクラス参戦後は破竹の4連勝を挙げている。なお、両親がアメリカの大学院に通っているときに生まれたため出身はNYだが、リオ育ちのブラジル人。

アルメイダ　もちろん！　ファイターだったらあのリングに上がりたくないという選手はいないんじゃないかな。世界最大のＶＴイベントだからね。やっぱりボクにとっても大きな目標だよ。

――アルメイダ選手の実力だったら、今回の『ＰＲＩＤＥミドル級ＧＰ』に出てもおかしくないんじゃないですか？

アルメイダ　ボクが⁉　いやぁ、まだまだボクにそんな実績はないよ。今の時点ではやっぱり今回のメンバーの方が実績やいろんな面でボクより上であることはわかっている。でも、頑張って次のチャンスを狙いたいとは思っているよ。

――謙虚ですね～。

アルメイダ　謙虚なんじゃなくて、いまの状況を冷静に分析しているだけだよ。だから、いまはまだダメだけど、同時に自分の時代がもうすぐ来るということもわかっている。来るべきその日のために準備をしっかりする。それがいまの自分には一番大事なことだと思う。

――なるほど。では、アルメイダ選手の大きな目標というのは何ですか？

アルメイダ　昔はやっぱり早くベルトを取って認められたいという気持ちが強かったけれど、いまはそういう気持ちはあまりなくて、やっぱり試合をしたり練習したりして人間的に成長することが一番の目標かな。結構、強い選手でも人間的によくないヤツって多いから、ボクは練習や試合の経験を自分の内面の成長を促したい。そして長く闘うことがベルトを取るより重きを置いているよ。

毎年、「こいつには誰も勝てないだろう」という選手は出てくるよね？　去年だったらノゲイラだし、今年ならヒョードルやミルコ・クロコップ。でも、彼らだって必ず負ける日は来るんだ。だからボクは、ただ「最強」を求めるんじゃなくて、ファイターとして総合的に成長していきたい。そして人々の記憶に残り尊敬されるような選手になりたいね。

――わかりました。今後のさらなる活躍を期待しています！

【03年8月30日／都内・某ホテルにて収録】

このインタビューの翌日、アルメイダは見事、三崎和雄を判定で下したが、これまで美濃輪や佐々木相手に見せた抜群のキレがいまひとつだったように思われた。

アルメイダ自身、試合後「急激な減量もあり100％の力が出せなかった」と言っていた通り、やはり88kgがベストウェートで、無差別級にすら名乗りを挙げている彼がミドル級で闘うことは無理があったのだ。

それでもアルメイダは「キクタやコンドーと闘う近道になるのなら、ネイサン・マーコートのミドル級王座を奪いたい」と語っているが、わざわざ下の階級の王者にならずとも、彼の実績ならライトヘビー級王座挑戦資格は十分にあるだろう。というより、パンクラス初参戦のジョシュが無差別級王座に、2戦目の小澤強がヘビー級王座に挑戦できて、アルメイダがライトヘビー級王座に挑戦できない方がおかしい。

ライトヘビー級キング・オブ・パンクラスタイトルマッチ、菊田早苗vsヒカルド・アルメイダ。もう、やるしかないだろう！

『LEGEND』を越えた!? 夏の終わりに新たな伝説が……



健介、中嶋君、揃って勝利も『X-1』は問題続出!!



破壊なくして創造なし!? なんと試合中、金網が破壊!!



S パンクラス10周年両国大会に、『X—1』、『DEEP』、8月末から9月中旬にかけて総合のビッグマッチが続いたわけだけど、どれが一番面白かった?

M 『DEEP』もマッハvs長南は抜群に熱い試合だったけど、如何せん冷房なしの大田区体育館は暑すぎて正直まいったからなぁ。やっぱり、語るなら『X—1』しかないでしょ? 両国のバックステージで、セコンドとして張り切る中西がモニターに映る度に「アイツ、おいしいなぁ」ってボヤき続けてたNも面白かったけど(笑)。

C 異議なし! まあ大会の内容に関しては異議だらけなんだけどさ(笑)。

S GKも鼻血を流す健介の写真で「選手に罪はない! X—1の大失態 VTをなめるな!!」って表紙を作ってたからね(笑)。

C でも、確かにその通りで選手のレベルも低かったし、外人選手も日本に来れただけで満足って感じで、大会後は金網の中で記念写真をバシャバシャ撮ってるし、長州が「用事があるから」って言って足早に会場を立ち去る気持ちも良くわかる(笑)。

M その後、長州は『ゴング』のインタビューで「X—1は問題点だらけだった」って言ってたけど、健介や中嶋君、ボビッシュ以外は無名な選手ばっかりだし、唯一知名度のあるボビー・サウスワースも『PRIDE13』でビクトー・ベウフォートにアッサリ負けてるぐらいで、興行的に苦戦するのは最初から覚悟してたと思うよ。

C 客入りは厳しいだろうなって思ってたけど、それに以上に寂しい入りだった(笑)。

M 文体の前のチケット売場で谷津が頑張ってチケットを売ってたんだけどね(笑)。

S でも『X—1』やるんだったら谷津も出て欲しかったな。引退試合でもいいから。

C それこそ前号の『紙プロ』のインタビューで『X—1』参戦をアピールしてたスティーブ・ウィリアムスと谷津の因縁対決でもやった方が話題にもなったでしょ。

M 確かに、その試合は観たいね。でも今だったらセコンドに浅野社長とか松野さんが付いてくるかもしれないよ(笑)。

C でも、メインで勝利したボビッシュが試合後、なぜか矢口壹琅と抱き合ってたし、それぐらいじゃ驚かないよ(笑)。

M いや、それはやっぱり矢口のサンボのテクニックをボビッシュが吸収しようとして一緒に特訓してたんじゃないの?

C そうなのかなぁ? そういえば、『X—1』の会場で「お前はイズマイウか!?」ってぐらい、どこでも顔を出しまくっていたのが、桜庭と闘ったこともあるシャノン〝ザ・キャノン〟リッチで(笑)。

M セコンドのクセに試合後、選手の前に立ってファイティングポーズをキメてカメラに収まってたからね(笑)。

C ガハハハ! リッチも気になったけど、もっと気になったのが、あの金網だよ。

S あの金網は専門のケージビルダーが、わざわざ来日して組み立てたんでしょ。

C でもケージビルダーって言うとカッコいいけど、そのケージビルダーって第一試合に出てた選手だったりするからね(笑)。

M 試合前に、その金網を触ってみたらグラグラして、かなり不安定だったんで「いつか壊れるんじゃないか?」って心配してたら本当に壊れちゃった(笑)。

M 試合中はセコンド総出で金網を押さえてるし、リング上での闘いより、金網が気になってしょうがなかった(笑)。

S ページも残り少なくなってきたんで、肝心の健介や中嶋君の話も聞かせてよ?

X1 MIXED MARTIAL ARTS
9・6 横浜文化体育館



えっ？　今度は『M-1』!?

『X-1』とは“ギャグ方向のド真ん中”なのか!?

構成／松澤チョロ　撮影／丸山剛史　designed by hisa (Two Three)

C　中嶋君は良かったよ！　試合前の煽り映像とか見るとタックルも早いし、寝技もかなりできそうな感じだしね。ただ、問題は、あのレフェリー。中嶋君の試合に限らず、あのレフェリーは最悪だったから。

M　そうそう。選手を分けてもブレイクなんだか、レフェリーストップなんだか、さっぱりわかんなかったし。思わず、試合を観に来てた島田レフェリーに「グッドレフェリー！」って言っちゃったもんなぁ（笑）。

S　で、結局、『X―1』のMVPって誰になるの？　やっぱり中嶋君？

M　中嶋君も良かったんだけど、MVPって言ったら、やっぱりドン・フライだね。大会途中でフライからの応援メッセージがビジョンで流されたんだけど、それがとにかく抜群だったんだよ（笑）。

S　エッ!?　何か衝撃発言でもしたの？

M　いやいや、ビデオが映し出されると、いきなりフライが雄大な自然と青空をバッグに登場して、弟子みたいな選手と3人で缶ビール片手に「チアーズ！」って完璧なホロ酔いモードで、その後のメッセージも、ほとんど掛け合い漫才でさ（笑）。

S　誰かが言ってたけど、『X―1』って〝逆方向のド真ん中〟じゃなくて〝ギャグ方向のド真ん中〟なんじゃないかって（笑）。

M　うまいね、どうも（笑）。あぁ、だから永島専務が大会翌日の『東スポ』で「次はM―1を開催したい」って言ってたのか。

C　「M―1のMはミドル、MAX、そしてマグマ！」って言ってたヤツでしょ（笑）。

M　ガハハハハ！　フライは弟子と一緒にM―1用の練習してたんじゃないの（笑）。立ち位置もド真ん中だったし、まさに〝ギャグ方向のドン真ん中〟！

S　君の頭はマグマが噴火してるよ（笑）。



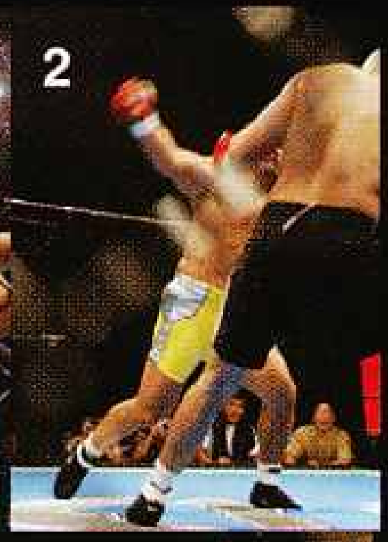
記念すべき『X—1』のメインを務めたのはダン・ボビッシュ（1人だけ黄色のKOTCグローブを着用）。ほぼ同体格のベイシル・キャストーを金網に押し込んだボビッシュが上からパンチを連発するとキャストーは戦意喪失。その間わずか93秒！　試合後、ボビッシュはWJタオルを高々と掲げアピール



ジョシュが新日フラッグならこっちはWJタオルだ!!
ボビッシュ、メインで圧勝!!

健介、完勝も、この表情。
正直、複雑……











①勝利後、ガッツポーズをキメた健介だったが、直後は複雑な表情に②「プロレス技も出したい」と試合前から語っていた健介はラリアット気味のパンチを披露③チリマ風に相手を投げた健介は「レスラーとしての意地でブン投げてやろうと思った」④最後は渾身の力で絞め上げ勝利⑤最初で最後という日本でのＶＴで右親指骨折……正直無念⑥対戦相手のウェリッシュはスーパーマンのマーク入りマスクで入場⑦試合後はリング上で楽しげにプロレスごっこ（?）をはじめたウェリッシュ



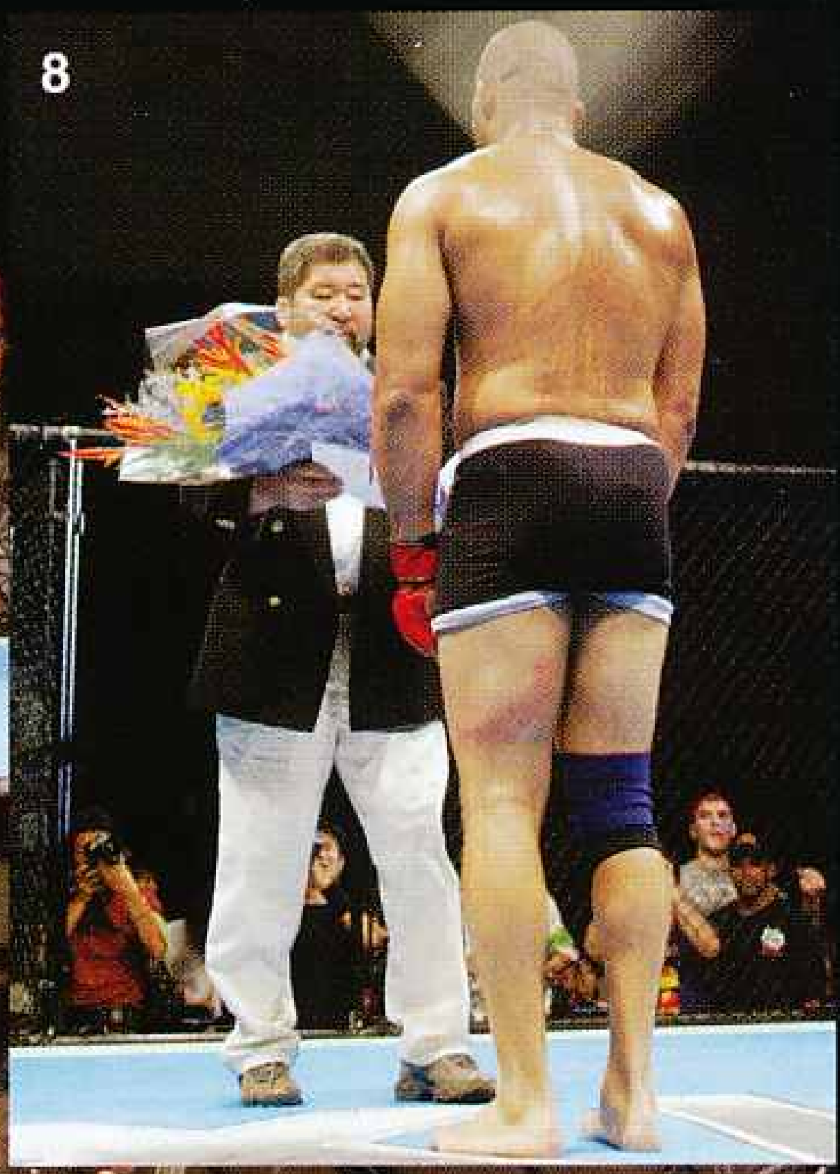


9・6 横浜文化体育館

ネタだけは盛りだくさん!
『X-1』ダイジェスト













⑧セミはインターコンチネンタル王座決定戦として行われ、サウスワースがパンチの連打でブライアン・バードーの目尻から出血させ、ドクターストップで初代王者に輝いた。サウスワースにはマサさんから花束が贈られた。ちなみにベルトがないのは空輸トラブルのためではない⑨試合中は若手選手が必死に不安定な金網を支えていた⑩リングサイドから熱い視線を送る長州と越中。長州は大会後は急用で足早に会場を後に⑪セコンドながらもカメラを向けると選手よりも気合いの入ったファイティングポーズを見せるシャノン“ザ・キャノン”リッチ⑫中嶋君の試合のみ『サムライＴＶ！』の解説を務めた健介夫人の北斗晶。健介の試合も解説して欲しかったが……⑬ブライアン・ジョンストンとマサ斉藤が中心となって進めてきた『X—1』。次回大会に関して永島専務は「反省点はいっぱいある」としながらも「ジョンストンと相談しながら考えていきたい。年内云々というより焦らずじっくりやった方がいい」とコメント

“15歳”天才空手少年の野望

将来は健介さんみたいなデッカイ家を建てるぞ!!

中嶋勝彦

Katsuhiko Nakajima



衝撃の金網VT秒殺デビュー!

聞き手／松澤チョロ
撮影／福島勝儀
designed by hisa (Two Three)

あのミスター高橋もWJ入団前から、その才能に惚れ込んでいたという15歳の〝天才空手少年〟中嶋勝彦。その動きをビデオで見た長州が「鳥肌が立った」と絶賛した逸材だ。

小学生の時に父親と離ればなれになり、その後は母親の女手ひとつで育てられた中嶋君は「母のために強くなって、お金を稼いで楽をさせてあげたい」と、中学卒業と同時にプロの道を選んだ見上げた根性の持ち主なのだ。

そんな15歳、中嶋君の素顔に迫ってみた。

──いきなりですけど、中嶋君は『紙プロ』って知ってました?

中嶋　知ってます。ボクが所属してた総闘館の(竹内)館長がプロレス、メチャメチャ好きだったんですよ。それで『紙のプロレス』は毎回見てたみたいで。創刊号から持ってるって言ってましたよ。

──それは素晴らしいですね(笑)。

中嶋　「言っといてくれ」って(笑)。

──アハハハハ! 早速ですが、改めてデビュー戦勝利おめでとうございます!

中嶋　ありがとうございます!

──正直、『X─1』に関しては否定的な声も多いですけど、中嶋君に対しては「良かった」って声が圧倒的に多いですよ。

中嶋　ありがとうございます!

──大会終わってからビデオとかで自分の試合は見ました?

中嶋　あっ、見ました。

──どうでしたか? 振り返ってみると。

中嶋　そうですねぇ。もうちょっと続いた方が良かったかなっていう感じで。アッという間だったじゃないですか?

──秒殺でしたからね。試合時間はどれぐらいだったか覚えてます?

中嶋　1分何十何秒? でも実際、試合自体は20秒ぐらいで終わってましたよね? だから、ちょっと物足りなかったなって。

──中嶋君は悪くないんですけど、『X─1』はレフェリーがダメでしたね。

中嶋　なんかみんな言ってましたね。自分は緊張してたんで、あんまりわかんなかったですけど。

──中嶋君というと、イメージ的には、かなり強心臓なのかなって思ってたんですけど、やっぱり緊張はしてたんですね(笑)。

中嶋　はい。ガチガチでした(微笑)。

──ガチガチでしたか(笑)。試合直後は、まだ今後のことは何にも考えられないって言ってましたけど?

中嶋　いや、いまも何も考えてないです。

──そうなんですか(笑)。

中嶋　でもやっぱり今度はプロレスデビューしたいなって思ってます。

──それは試合後も言ってましたよね。ゴーサインを出すのは、長州さんになると思うんですけど、自分の中では「もう近いかな?」とか手応えは感じたりしてます?

中嶋　いやいや、まだ全然無理ですよ!

──全然無理ですか(笑)。

中嶋　プロレスラーとしての身体が出来てないし、まだまだだと思います。

──ここ最近は『X─1』用の練習をずっとしてたと思うんですけど、プロレスの練習は、最近は出来てないんですよね?

中嶋　昨日、巡業で久々に練習したんですけど、筋肉痛です(苦笑)。

──あ、そうですか(笑)。プロレスの練習っていうと、どのぐらいまで段階はいってるんですか?

中嶋　まだ技とかじゃなくて、ロープワークや受け身とかもやってたんですけど、『X─1』の練習が始まって、ちょっとプロレスの方が鈍くなっちゃってて。

──プロレスラーとしてどういった選手になりたいっていうイメージってあります?

中嶋　自分はこういう身体なんで、WJの中で動ける選手になりたいですね。

──目標とする選手っていうと?

中嶋　目標? ……タイガーマスクです。

──タイガーマスクも何人かいますけど、何代目ですか?

中嶋　やっぱり初代タイガーマスクです。

──エッ、初代!? 15歳だから当然ナマでは見たことないですよね?

中嶋　はい。でもビデオで初代のタイガーマスクのデビュー戦とか見て影響受けました。こんなの出来るの?っていう技もあったしビックリしましたね。

──それで、WJっていうと、〝ド真ん中〟ってキャッチフレーズがありますけど、中嶋君的には〝ド真ん中〟っていうのは、どういうものだと思ってますか?

中嶋　ボクはまだ、ド真ん中プロレスはやったことないんで、これから少しずつわかっていきたいなって思います。

──頑張ってください。『X─1』の話に戻りますけど、大会翌日の『東スポ』に「中嶋が魔裟斗へ挑戦へ」って出てたのは見ました?

中嶋　えっ、なんですか、それ!?

──どうやら、魔裟斗選手に挑戦状を叩きつけたみたいです(笑)。

中嶋　いやいや、ボクそんなこと言ってないです。なんですか、『M─1』って?

──『X─1』が終わって、永島さん的

目標とする選手ですか? 初代タイガーマスクです

Katsuhiko Nakajima

PLAYBACK 9・7中嶋勝彦vsジェイソン〝ゴールデンボーイ〟レイ



この日、一番の大歓声を浴びながら金網に入った中嶋。地下シュートマッチ8戦8勝という触れ込みのレイを前にしても動じることなく逆にプレッシャーを与えていく



開始早々、鋭くそしてしなやかな左ハイをブチ込んだ中嶋。これはガードされたが、すぐさまスピードのある左フックが相手のテンプルを直撃! レイはもんどり打って倒れ込んだ



レイがダウンすると、中嶋は即座に相手の上になり情け容赦なく拳を振り下ろした。慌てて止めに入ったレフェリーだったが中嶋は、その制止を振りほどき、かまわず殴り続けた

くらいだったか覚えてますか?

中嶋　1分何十何秒? でも実際、試合

習っていうと、どのぐらいまで段階はいってるんですか?

いです。なんですか、『M―1』って?

――『X―1』が終わって、永島さん的

レイがダウンすると、中嶋は即座に相手の上になり情け容赦なく拳を振り下ろした。慌てて止めに入ったレフェリーだったが中嶋は、その制止を振りほどき、かまわず殴り続けた



には11月をメドに中嶋君を中心とした『M―1』って大会を考えてるみたいなんですよ。ちなみに『M―1』のMは「MAX」「ミドル」それから「マグマ」って意味があるみたいです（笑）。

中嶋　へぇ～、いま初めて聞きました。

――漫才の『M―1』ではないみたいですけどね（笑）。

中嶋　アハハハハ。

――次はプロレスデビューしたいっていうことでしたけど、デビュー戦を見て、もっと中嶋君の格闘技の試合を見たいっていうファンも多いと思うんですよ。もし『M―1』という大会が開催されるんであれば出場してみたいですか?

中嶋　そうですね、またその時考えます。

――やっぱり天才空手少年としては将来的に魔裟斗選手と闘えるような選手になってもらいたいところですけど、魔裟斗選手にはどのような印象を持ってます?

中嶋　ローが凄い早いですよね。

――また、具体的な印象ですね（笑）。

中嶋　ちょっと前の大会で優勝したじゃないですか? あれを見たんですけど魔裟斗選手、凄いですよね。

――凄いと思います（笑）。もしK―1ルールで闘うことになったら現時点では正直難しいなとは思ってるんですか?

中嶋　そうですね。ボクは顔面有りとかあんまやったことないんで。それ用の練習をしないとダメだと思います。

――でも、まだまだ年齢的にも若いですし、そんな遠くない将来闘ってみたいっていう願望はありますよね?

中嶋　自分が大人になれば。まだボクは子供なんで。

――中嶋君が考える大人って何歳ぐらいなんですか?

中嶋　いや、骨格的にまだ骨とかが成長してると思うんで、やっぱり大人と子供じゃ違うじゃないですか? 同じ体重でも。いまは全然かなわないです!

――また、キッパリ言いますね（笑）。やっぱり将来的にはプロレスと総合やK―1と両方やっていきたい?

中嶋　まずはプロレスをやって、他はその次ですね。

――その気持ちっていうのは入門当初から変わらないんですか?

中嶋　なんか、日に日にプロレスに対する気持ちが強くなってきてますね。

――で、現時点では自分はプロレスラーっていう認識なんですよね?

中嶋　はい、そうです! まだプロレスではデビュー出来てないんですけどね（笑）。

――そこは微妙なところですけどね（笑）。

中嶋　でもやっぱりプロレスの団体にいるんで、プロレスラーだと思ってます。

――で、ここから中嶋君に、これまでの人生を振り返って欲しいんですよ。まだ15年だけですけど（笑）。

中嶋　はい。

――小学1年の終わりぐらいまで九州に住んでたんですよね?

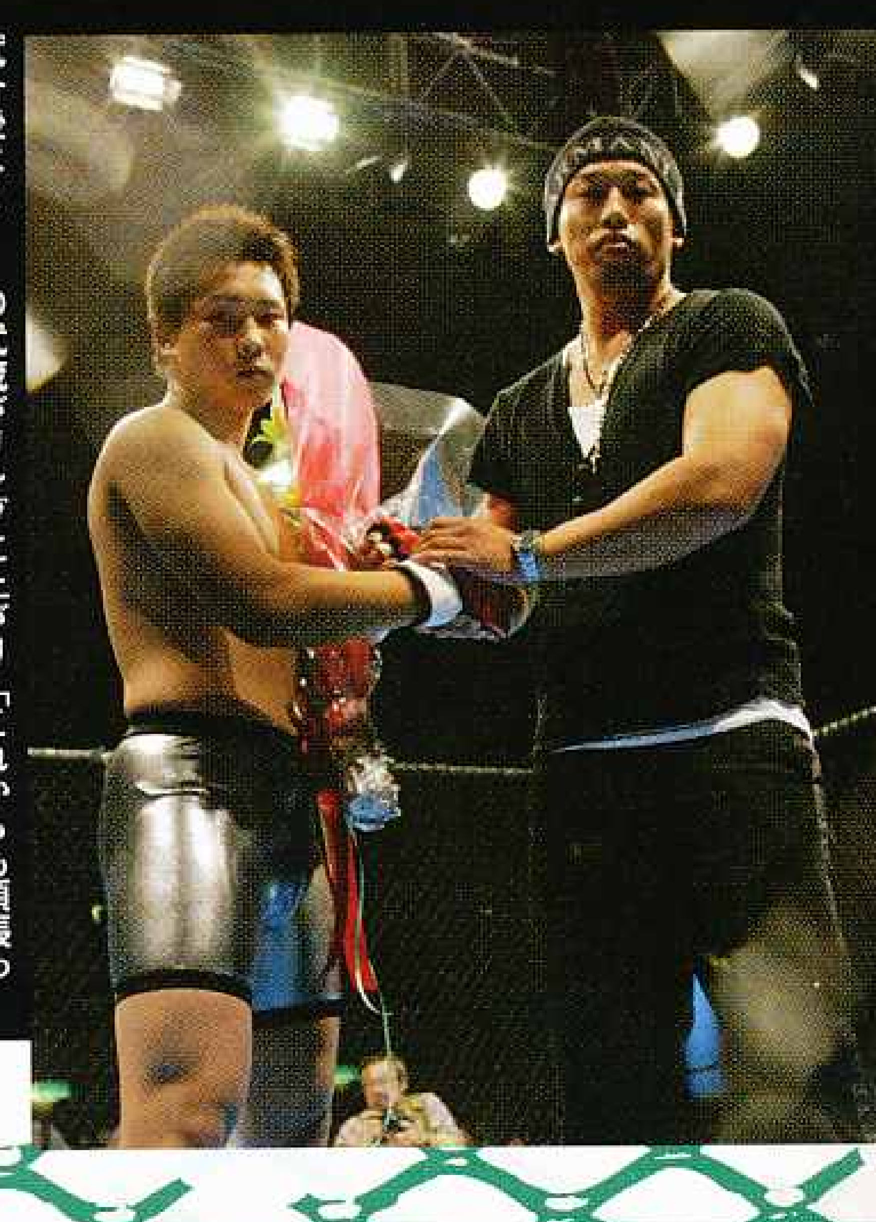
中嶋　そうです!

――それまでは格闘技は何もやってなかったんですよね。

中嶋　福岡にいたときはお兄ちゃんが空手やってて、自分はそれを見てただけです。

――それで興味が出てきたんですか?

中嶋　興味があって、いろいろ見に行って体験入門みたいな感じで、ちょっとやってたんですけど、すぐに名古屋に引っ越しして、それから「空手やりたいな」って思ったときに、たまたま総闘館の看板を発見し



試合後はK―1の武蔵がリングに上がり「これからも頑張って練習して強い選手になってください」と勝利を祝福。「一番面白かったのは金網のドアが壊れたこと（笑）」（武蔵）



入場時を上回る大歓声の中、花道を引き上げる中嶋を控室前で満面の笑みを浮かべ待っていたのが長州。中嶋をガッチリと抱きしめると「たまげたヤツだ!」と目を丸くしていた



コメントルームで記者陣に囲まれた中嶋は「緊張していっぱいいっぱいでした。自分のことで精一杯で金網に入っても何も感じなかった。ただ、母の声は聞こえてました」とニッコリ

たんです。

――たまたま看板がありましたか？

中嶋　はい（笑）。

――お兄さんは名古屋に出てきて空手は辞めちゃったんですか？

中嶋　そうです。でもボクは、その看板を見て「やりたい！」って思って、看板に書いてあった電話番号をボクが下4桁の方を覚えて、兄ちゃんが上の何桁かを覚えて家に帰ってからかけたんですよ。

――全部は記憶できなかったと（笑）。

中嶋　記憶できないんで（笑）。半分ずつぐらい覚えてって感じで、家に帰ってすぐに電話して、そこからですね。

――「貧しかったんで、強くなってお金を稼いで、お母さんに楽させたい」って、WJ入団のときに言ってましたけど、そんなに生活は大変だったんですか？

中嶋　結構大変でした（苦笑）。違う取材でも話したんですけど、電気代が払えなくてロウソクを立てて、ラーメンをみんなで分け合って食べたりしてましたからね。

――はぁ～、そんなこともありましたか。でも、いまは合宿所でチャンコから何から食べ放題なんですよね（笑）。

中嶋　そうですそうです。あの頃よりはずっとましですね（笑）。

――それは良かったですね（笑）。やっぱり空手の大会で結果が出せるようになった頃から、将来はプロレスラーになろうと考えてたんですか？

中嶋　いや、最初は格闘技のプロみたいになれればなって。小学校高学年ぐらいでそういうのを考えてましたね。

――なんかで読みましたけど、中学校に入学して「ボクはK―1の選手になる」って宣言してたみたいですね。

あややとか上戸彩とか可愛いんじゃないですか（照）

中嶋　あぁ、たぶん言ったと思います（笑）。

――最初はプロレスっていうよりもK―1とかだったんですね。

中嶋　まあ、初めはそうでしたね。その頃はK―1会場に見に行ったり、アンディ・フグとかいましたからね。でも、先生とプロレスも見に行ったりしてましたよ。

――プロレスは竹内館長の影響も大きかったんですね。

中嶋　そうですね。会場だけじゃなく、いろいろビデオも見せてくれたりして。それに館長は新日本の練習生だったんですよ。

――あ、そうなんですか。「自分が果たせなかった夢をコイツに」みたいなところは



Katsuhiko Nakajima

あったんですかね（笑）。

中嶋　う～ん、そういうのはなかったと思います。自分の意志で決めましたから。

――最終的にはWJを選択したわけですけど、その前にはいろんなところから誘いがあったみたいですね。

中嶋　そうですね。

――リングスの前田さんも中嶋君のことを知ってるって言ってましたけど。

中嶋　はい。前田日明さんには一回会いました。あと武藤敬司さんと橋本選手。

――それは凄いですね。最終的に長州さんのWJを選んだっていうのは何か具体的に理由はあるんですか？

中嶋　ハッキリはないですけど、タイミング良く話が来て。

――全部同じ時期に話が来たっていうわけではなかったんですね？

中嶋　違います。前田さんとは中学2年ぐらいのときに会って、たまたまそのあと会社が潰れたっていうか、悪くなったみたいでタイミングが合わなかったっていう。

――タイミングが悪かったですね（笑）。

中嶋　その後にWJから話があって、旗揚げを控えて、自分の卒業とかともタイミングが合ったんで決めました。

――ボクらマスコミの間では、先ほど会われた人の中では、長州さんと前田さんの2人はメチャクチャ怖い人っていうイメージが強いんですよ（笑）。

中嶋　あっ、そうなんですか（笑）。でもやっぱり長州さんとかは違いますよね。

――そういうのはあんまり感じませんでした？　それとも単純に「あっ、長州力だ」ぐらいの感覚ですか？

中嶋　そうですね。あんまり……（小声で）怖くはないです（笑）。

――さすが大物ですね（笑）。

中嶋　でも凄く優しいですからね。

――入団会見のときからそうですけど、長州さんは中嶋君の話をしてるときはメチャメチャ嬉しそうなんですよね（笑）。かなり惚れ込んでると思いますよ。

中嶋　ハッハッハッ。そうなんですかね？

――怒られたこととかあります？

中嶋　あります！　ベンチプレスを上げるときに左右の重りを付け間違えたりして怒られましたね。

――まあ、それは危ないですからね（笑）。

中嶋　それでサイパンと道場で2回怒られましたね。まだ2回だけですけど（笑）。

――長州さんのサイパン合宿はお馴染みですけど、中嶋君は初めてサイパン合宿に参加して、どんな印象が残りました？

中嶋　ボクはサイパン合宿が初めての海外だったんですよ。

――初めてがサイパン合宿（笑）。

中嶋　練習はキツかったですけど、その後がもう、暇だったです（笑）。

――は？　暇だった？（笑）。

中嶋　長州さんはプールで泳いだり日焼けしたりしてましたけど、自分は部屋に戻っても何もないんで、石井（智宏）さんが一緒にいて車でどっか行ったりしてたんですよ。それが楽しみでしたね（笑）。

――サイパンで唯一の楽しみが石井さんとのドライブでしたか（笑）。

中嶋　あとは何もすることないですよ。

――それが逆に長州さんとかは、リラックスもできるし練習に集中できるってことでいいんでしょうけどね。

中嶋　そうでしょうね。自分は若いから、どっか行きたいんですよ（笑）。

――ジッとしていられない、と（笑）。

中嶋　そうなんです（笑）。道場とかでもジッとしてられないですから。

――別に道場から逃げ出したいとかではないんですよね（笑）。

中嶋　そういうんじゃなくて遊びに行きたいとかなんですけど（笑）。

――WJの選手の中では誰と行動することが多いんですか？

中嶋　高智（政光）さんが多いですね。

――でも高智さんとか石井さんってWJの中では若手って言われてますけど、中嶋君

から見ると年齢的にもキャリア的にも大先輩じゃないですか。

中嶋 大先輩です。自分の倍ぐらいは生きてますからね（笑）。

——15歳ってことで、みんなから「若い若い」って言われるでしょうけど、会話してるとギャップとか感じたりします？

中嶋 いや、普通の会話しかしないんで、ギャップは別にないと思います。

——長州さんとかは「アレがアレして」とか抽象的な表現が多いじゃないですか？（笑）。中嶋君的には理解できてます？

中嶋 最近わかるようになりました。

——それはだいぶ成長してますね（笑）。

中嶋 ハッハッハッ。ホントですか（笑）。

——たぶん（笑）。中嶋君は結構、人見知りしたりする方なんですか？

中嶋 う〜ん、人見知りっていうか、シャイですね。

——シャイボーイでしたか（笑）。

中嶋 たぶんシャイです。初めて会った人には自分からしゃべれないんで（苦笑）。

——この間の対戦相手じゃないですけど、ストリートファイトというか、ケンカっていうのはそんなにしてなかったんですか？

中嶋 それはないですよ（笑）。中学校とか入ってからはないです。

——小学校の時はあったんですね？（笑）。

中嶋 小学校の時はありました。

——それはどういった理由で？

中嶋 言葉遣いとかでありましたね。失礼なこと言われて抑えきれなかったんで。でもそれぐらいですよ（笑）。

——中嶋君の眼光の鋭さからいって、もしかして悪い道に走ってた時期もあったのかなぁって思ってたんですけど（笑）。

中嶋 ないですないです。そういうこともなく順調に成長しました（笑）。

——スクスク育ったと（笑）。

中嶋 はい（笑）。やっぱり武道やってたのが良かったんだと思います。

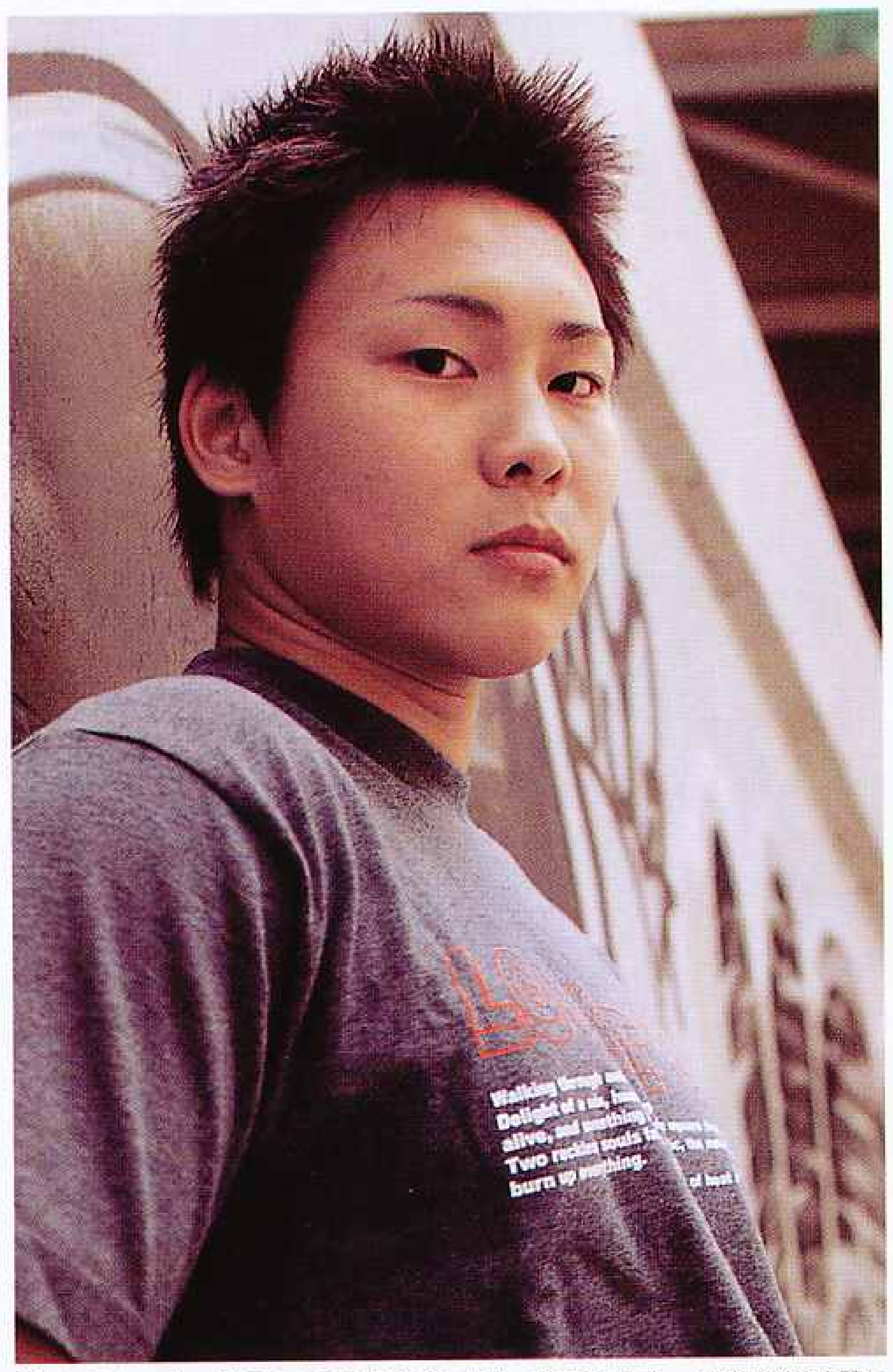
——あぁ、それはあるでしょうね。

中嶋 武道やってなかったら悪い道に走ってたかもしれないです（笑）。

——関係ないですけど、初恋っていつぐらいになりますか？

中嶋 は、初恋ですか？

——はい、初恋です（笑）。



【なかじま・かつひこ】1988年３月11日、福岡県出身。小学２年の頃に愛知県江南市に転出。翌年、日本空手道総闘館本部に入門。小学４年で黒帯を取得（初段）、00年に極真松井派の全日本ジュニアタイトルを取得。翌年にはキッズグラップリング大会中学生の部で優勝。そして中２にして空手オールジャパンカップ高校軽量級で優勝。中３の時には総闘館トップジュニア高校重量級で優勝。02年12月、新日本を退団後、新団体ＷＪプロレスを旗揚げした長州力に見いだされ入団。３月の横浜アリーナでの旗揚げ戦ではパワーホールに乗って空手着の上から学生服を着て入場。リング上で組み手を披露し大歓声を浴びた。９月６日に行われた『Ｘ―１』ではジェイソン“ゴールデンボーイ”レイ相手に１Ｒ１分25秒TKOで見事デビュー戦を勝利で飾った。身長172cm、体重78kg

中嶋 恋っていうか、恋とかわかんなかったですよ。初恋なのかわかんないですけど、幼稚園の先生は好きでした（微笑）。

——シャイな中嶋君としては年上の先生に惹かれたわけですね（笑）。

中嶋 アハハハ。記憶では、たぶんそれが初恋なんだと思います。

——いまでも年上の女性とか憧れたりします？

中嶋 どうですかねぇ？ あんまり年齢は別に気になんないかもしれないです。

——そうですか。モー娘。の辻ちゃんとかと年は一緒ですからね。

中嶋 そうですそうです。

——『東スポ』のインタビューで、加護ちゃんとかアイドルは自分と比べると子供に見えちゃうって言ってましたよね？

中嶋 う〜ん、でも、そういうキャラでやってるんじゃないですかね？ たぶん外に出たら全然違うと思うし。

——そういう意味ではプロ意識というか？

中嶋 じゃないですかね。

——中嶋君的には、好きなアイドルとかタレントっていうと誰になります？

中嶋 好き……とかないですねぇ（笑）。

——いいなぁとか思う人もいない？

中嶋 可愛いとか思う人は、あややとか上戸彩とか可愛いんじゃないですか（照）。

——ですよね。その辺はボクみたいな30過ぎのおっさんと変わらないですね（笑）。

中嶋 そうですかね（笑）。

——それこそ魔裟斗選手とかもタレントと付き合ったりしてたし、中嶋君も将来的にはそっち方面でも頑張ってください（笑）。

中嶋 ハッハッハッ。頑張ります！（笑）。

——将来的なマット界での野望というか夢は何かありますか？ 健介さんが持ってるＷＭＧのベルトを奪ってやるとか（笑）。

中嶋 いやいやいや、まだそこまで考えられないです（笑）。

——そういえば、『Ｘ―１』の中嶋君の試合だけ北斗晶さんが解説をしてて、「試合してる本人より私の方が緊張する」って言ってましたけど、よく話はするんですか？

中嶋 はい。会場とかで会うと、いろいろ話しかけてくれるんで。あと健介さんちに行った時にも喋りました。

——あっ、噂の豪邸に行ったことがあるんですね（笑）。

中嶋 はい、あります。

——将来的には健介さんの家みたいな豪邸を建てたいところですよね（笑）。

中嶋 そうッスね。ボクもあんな家を建ててみたいです！

——やっぱり実際に行ってみると健介さんの家ってかなり凄いんですか？

中嶋 凄いです！（笑）。家の中ももちろん凄いんですけど、庭もメチャメチャ広いんですよ。で、一番驚いたのが、外に犬小屋があるんですけど、その犬小屋が6畳ぐらいあって、ヘタしたらボクの部屋よりも大きいですよ（笑）。

——ろ、6畳の犬小屋!? さすが健介さんですねぇ（笑）。

中嶋 犬に負けたと思いましたね（笑）。

——アハハハハ！ 今後のさらなる活躍を期待してます！

中嶋 はい！ 頑張ります!!

【03年9月10日／ＷＪ事務所にて収録】



龍紀

Ryuki Ueyama

9·15『DEEP』において挑戦者·須田匡昇に苦しみながらも『DEEP』ミドル級王座を防衛した上山。しかし、その試合で右足を負傷! 間近に控えた10·6U-STYLEでは、師である田村潔司への挑戦権が懸けられた1DAYトーナメントが行われるが……手負いの上山龍紀はUスタイルで"回転"できるのか!?



『DEEP』ミドル級王座防衛成功！
“第一章完結”を宣言するも
右足亜脱臼＆靭帯損傷の緊急事態!!



驚ガク!! 曲がってはいけない角度に
上山の足がきしんだ……!!

魅せれるのか？ 勝てるのか？

10·6 U-STYLE後楽園ホール

田村潔司挑戦者決定1DAYトーナメント

上山

第二章 地獄の開幕!!

聞き手／ジャン斉藤
撮影／丸山剛史
試合写真／平工幸雄
designed by hisa (Two Three)

上山　どうもお待たせしました（テーピングした右足を引きずりながら）。

──だ、大丈夫なんですか？……って、全然大丈夫じゃないですよね!?

上山　いやあ、昨日の試合でヤっちゃったんですよ（笑）。

──もしかして、須田さんの足に上山さんの足が挟まったときに……。

上山　あれでヤっちゃいましたね。亜脱臼と靭帯損傷です。

──重傷じゃないですか！　あの変形STFとでも言うべき状態には、観客も騒然としてましたよ。上山さんの足があまりにも不自然な角度で曲がっていたんで。

上山　ああ、試合が終わったあとに「すごい角度で曲がってた！」ってみんなに言われましたね。あれってボクが上を取ってパスしようとしたら、須田選手が阻止しようとして絡まったんですよ。

──そして須田さんとポジションが入れ替わる形になって、ますます脱出が困難になったわけですか。

上山　全然無理でした。須田選手も自分で外せなかったみたいで、結局ブレイクが掛かったときにレフェリーが解いてくれたんですけど。

──デストロイヤーが力道山にかけた4の字固めがセコンド総出でも外れなかった以来の衝撃エピソードですね（笑）。

上山　そうかもしれないですね（笑）。

──しかし、亜脱臼と靭帯損傷を負ったわけですから、試合中はかなり効いたわけですよね。

上山　亜脱臼は試合中になんとかハメたんですけど、その後はまったく動けませんでしたね。

──あのあとはローキックとかも全部、牽制気味に放ってましたもんね。

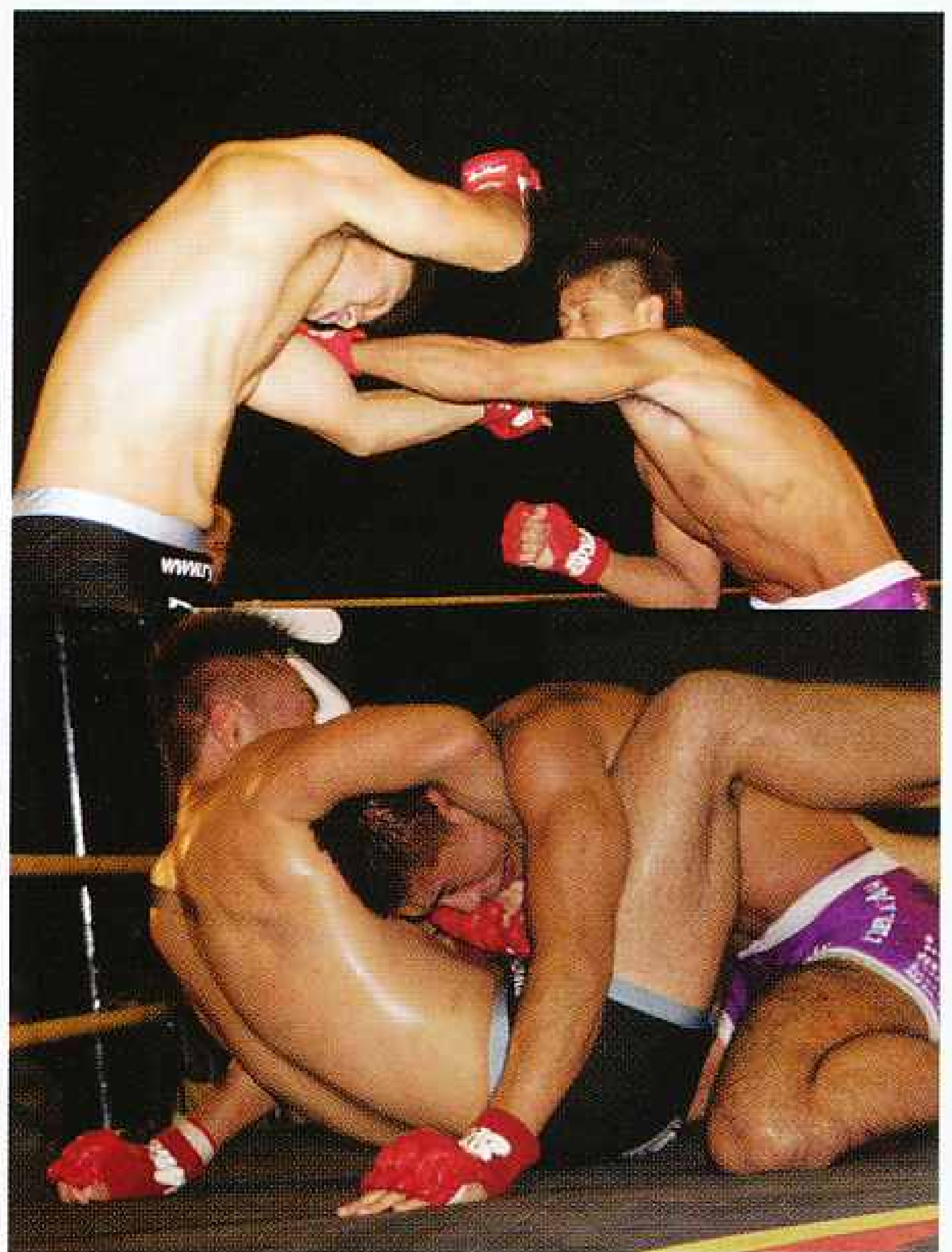
上山　タックルもまともにできなかったからゴマかしながら闘ってました（微笑）。

──でも、上山さんは表情ひとつ変えないで闘ってたじゃないですか？

上山　それはUインターでそう教わりましたから。練習でも、試合でも、どんなに苦しくても表情に出すなってことで。

──宮戸さんや、鬼の先輩たちに洗脳されていたわけですよ（笑）。

上山　アハハハ！　その教えが活きましたねえ（笑）。





<王者>△上山龍紀（3R判定0-1ドロー）須田匡昇△<挑戦者>／上山が1Rにパンチで須田をダウンさせたが、須田が持ち直して一進一退の攻防へ。2R、変形STFで足を痛めた上山は動きが止まる。須田は痛めた足へのローキック、パンチで攻め立てる。3Rは上山がフロント・ネックロックで勝負をかけるが、須田も終了間際に同じ技で逆襲したがタイムアップ。ドローを告げられた須田は悔しさ一杯の表情。上山は念願の初防衛に成功した

Ryuki Ueyama

──いまではU−FILEの町田のジムを任されて、指導かつ経営もこなす立場なわけですけど。ここってかなり広いジムですね！

上山　皆さんにそう言われますね。

──どうでしょうか、道場長としてジム経営の方は？

上山　それが驚くほど順調なんです。駅から近いから、通いやすいらしいんですよ。ウエイトトレーニングのマシンも充実してますし、スポーツクラブっぽいとか言われてます。

──それに駅から徒歩1分ですから絶好の立地条件ですよね。すぐそこにラブホがあるのがロケーション的に問題があるぐらいで（笑）。

上山　よくカップルが通るんですよ（笑）。

──さっきからバンバン通ってますよ（笑）。で、聞くところによると、ここにはいろんな選手が稽古に来てるってお話でしたけど。

上山　来てますね。ノアの杉浦選手やMAX宮沢選手とか。

──あ、杉浦さんも来てるんですか！　上山さんとは、なんだか不思議な組み合わせですね（笑）。

上山　杉浦選手とは宮戸さんの結婚式で知り合ったんですよ。

──その席で意気投合されたわけですか？

上山　意気投合……ってわけじゃないですけど、なんとなく（笑）。

──なんとなくですか（笑）。でも、杉浦さんってこの辺の方じゃないですよね。たしか新宿方面って聞いてますけど。

上山　遠いところをわざわざ来てくれてるんですよ。ここには、レスリングでシドニー（・オリンピック）出て今度のアテネにもたぶん出場する笹本君がレスリングクラスの指導員をやってるんですけど。杉浦選手とは知り合いらしいんです。

──そういった繋がりもあるんですね。

上山　杉浦選手はノアでジュニアのチャンピオンになったんですよね。自分が『DEEP』でベルトを防衛したら、お祝いに一緒に飲もうって約束してるんですよ。

──上山さんも無事防衛しましたし、美味しいお酒が飲めそうですね（笑）。

上山　そうですねえ（微笑）。嬉しいですね。自分の夢はチャンピオンになって防衛することでしたから。夢が叶いました。

──でも、内容的にはかなり苦戦しちゃいましたよね。

上山　ファンの方には判定で申し訳ないけど、やっぱり相手が強かったんで。須田選手は修斗のベルトと、ハワイのベルトを持ってるんでしたっけ？

──はい。修斗と、スーパーブロウルのライトヘビー級の2冠王になりますね。

上山　やっぱり2冠王の実力を持った選手ですから。強かったですね。

──頭で抱いていたイメージと違ったとこ



21日の段階ではU-STYLEには出場する予定だが、“回転体”を標榜する上山にとっては過酷なトーナメントとなる。UスタイルLOVE上山の執念が壮絶な格闘ドラマを生み出すのか……？

マッハvs長南以外も白熱! 9･15『DEEP』大田区体育館

「え……? 俺の相手はプラタじゃないのか?」ブラッド・コーラー、まさかの勘違い!!



○鋼侍＜破天荒＞（3R2分11秒※パンチ連打）石井淳●＜超人クラブ＞
犬軍団・小原道由が設立した格闘技塾「破天荒」から鋼侍（こうじ）がプロデビュー。パンクラスのリングで謙吾、ゴドシーを破った超巨漢・石井淳を相手に、パンチの連打を浴びせTKO勝利!!「小原さんの名にかけて負けられなかった」という鋼侍に、セコンドで「気合いだぁぁ!」とばかりに檄を飛ばしていた小原も大喜び!





○三島☆ド根性ノ助＜コブラ会＞（3R判定2-0）加藤鉄史●＜PURE-BRED大宮＞
テコンドーの試合にも出るなど、蹴り技の技術の精度を高めた三島は、跳びヒザ蹴り、カカト落としなどを披露。強烈なミドルも炸裂させたが、加藤も粘る。結局、三島が判定ながら勝利を収め、『武士道』に弾みをつけた。GO！GO! 星のマーク・ド根性ノ助！（by高田本部長）



○ドス・カラスJr＜AAA＞（1R1分25秒TKO）ブラッド・コーラー●＜チーム・エクストリーム＞
対戦相手をブラソ・デ・プラタと勘違いして意気揚々と来日したコーラー。会見では「相手はオ●ンコ野郎！」と吠えまくっていたが、相手がドスだとわかると「……え？　ウソだろ……!?」と絶句！　「ドスは強いよぉ……」と表情が暗くなり、肩を落として落ち込む始末。試合もテイクダウンされた際、右肩を痛めたらしく唐突にタップ。ナチュラル爆笑アングルが久々に炸裂した試合となった



大爆笑!! コーラー「ドスJrは強いよ……。はぁ～」



△MAX宮沢＜荒武者＞（3R判定1-0ドロー）百瀬善規△＜禅道会＞
美濃輪育久を苦しめ、近藤有己を判定で破ったこともある実力者・百瀬が『DEEP』初参戦。『DEEP』常連ファイターであるMAX宮沢と対戦した。試合は両者とも決定打は出ず。『DEEP』で3連続ドローとなったMAX宮沢は試合後、悔しい表情



○桜井隆多＜R-GYM＞（1R3分46秒アームロック）藤沼弘秀●＜荒武者＞
ん～ッ、マッスル!!　桜井隆多が見事な一本勝ち！　黒の着流し、手には刀。「仁義なき戦い」のテーマに乗って入場した藤沼に圧倒的な寝技の差を見せつけた。藤沼は必殺の打撃が不発。前回の入江戦に続き『DEEP』では二連敗となった



『DEEP』ミドル級タイトルマッチの試合前、あの清水健太郎が“悲しけりゃここで闘え！”とばかりに両者に花束贈呈！　シュートボクシングのリングでは見慣れた光景だが、唐突な『DEEP』登場に観衆は大きくドヨめいた！　ん～ッ、失恋レストラン!!



上山龍紀が人生初のタイトルマッチなら佐伯代表だって初のタイトル立会人!!　この日は初秋とは思えない蒸し暑さに加えて、会場は空調設備がない大田区体育館。そのため館内はサウナ状態だったので、“歩く成人病前夜”佐伯代表の体調が心配されたが無事任務遂行！　大量の汗をマキ散らして会場をあとにした

田村さんとUスタイルで闘うのが夢。挑戦者決定戦には間に合わせたい！

ろってありましたか？

上山　う〜ん、何もない（笑）。自分は相手のビデオとか見て対策を練ってたり研究する方じゃないんで。今回もまったく見ませんでした。

——須田さんとは、上山さんと同じU—FILEの長南さんが闘われてるわけですけど。

上山　ああ、その試合を見たぐらいですね。でも、あんまり覚えてないんですよ。

——そういえば、上山さんってマット界のニュースや選手のことにあんまり詳しくないんですよね。

上山　そうなんですよ。まったく知らないんですよ（笑）。

——だから試合も相手のことを考えるより自分の力を出すだけ、と。

上山　そうなりますね。今回はかなり体調も良かったから、自分の力を出せば大丈夫だろう、と。調子がいいから練習し過ぎて、体重がかなり落ちちゃったけど（苦笑）。

——試合後も言ってましたけど、かなり体重差に苦しんだみたいですね。

上山　当日の体重で計算すると、自分が74キロだから、10キロ差かな？　ボクは昔から20キロ、30キロも差がある選手と闘ってきたんで、体重が試合にどう影響するかわかってるんですよ。そういう試合をやったことない人にはわからないと思いますけど、やる勇気も必要です。今回はさすがに「ヤバイ！」と思って増やそうとしたんですけど、全然増えませんでした。もともと食べても増えない体質なんですけど、今回はそこが失敗しましたね。

——好調過ぎて、意外なところに落とし穴があったわけですか。須田さんは「俺の勝ちだった」と判定に異議を唱えていましたけど、その辺はどうでしょうか？

上山　やっぱり挑戦者はチャンピオンを凌駕する内容じゃないとベルトは取れないですから。それに、自分は1Rにパンチでダウンを奪ってますからね。手応えもあったし、判定は微妙だと思ってました。再戦でも全然問題ないですけど、体重を増やしてからですね。今度の防衛戦はちゃんと増やして闘います（笑）。



タイトルマッチで上山のセコンドについた田村。以前から「田村戦」を熱望していた上山にとっては、挑戦者決定トーナメントは格好のチャンスだが……

——ところで、上山さんは試合前に「勝ったら言いたいことがある」と、田村さん張りの含みを持たせてましたよね。

上山　う〜ん、引き分けですからね。勝ってないから言いません。負けても言うことがあったんですけど……それも負けてないんで言いません。まあ、こっちは言いたくなかったから良かったですけど（笑）。

——なるほど（笑）。試合後のリング上で、「上山龍紀完結〜第一章〜」という垂れ幕を掲げてましたけど、勝ったら言いたいことを含めて、この一戦に期するものがあったわけですか？

上山　はい。さっきも言いましたけど、チャンピオンになって防衛するのが夢だったんで。とりあえず一区切り付く試合だとは思ってましたね。

——今年は一度だけ全日本プロレスに参戦しましたけど、「第二章」には純プロも視野に入ってるんですか？

上山　機会があればまた出たいですね。一度出たあと、ケガをしてたんで機会がなかったですけど。

——上山さんの全日本登場にはビックリしたんですけど、あれってどういう経緯だったんですか？

上山　全日本プロレスさんの方から、お話があったんですよ。最初聞いたときは自分もビックリしたんですけど（笑）。

——不安とかありませんでしたか？

上山　いや、なかったですね。何か練習したわけじゃないですし。ただ、プランチャはやろうと思ってなかったんですけど、思わず飛んじゃいました（笑）。

——ああ、飛んでましたねえ（笑）。

上山　今度は飛ぶだけじゃ済まされないですよ（笑）。奥が深く難しかったですし、また出場したいです！

——期待してます（笑）。で、近々『PRIDE武士道』（以下武士道）もスタートしますけど、「上山龍紀第2章」の舞台として『武士道』に興味はないですか？

上山　いや、あんまり良く知らないんですよ。なんですか、『武士道』って？

——マッハさんが出れなくなって、大混乱してる大会ですよ（笑）。簡単に言うと、『PRIDE』では見れない中量級の試合や、異色のワンマッチが組まれるステージなんですよ。70、80キロ級の上山さんなんか、ピッタリの大会だと思いますけど。

上山　う〜ん。どうなんでしょうねえ。選手とかもよく知らないし。

——今回はグレイシーも出るんですけど、情報に疎い上山さんが知ってるのはホイスとかヒクソンぐらいですか？（笑）。

上山　そうですねえ（笑）。どちらかというと、『武士道』より『PRIDE』の方が興味はありますけど。

——お！『PRIDE』で闘いたい相手がいたりするんですか？

上山　誰ですかねえ……。闘わせてくれるんだったら、桜庭さんと闘いたいです（笑）。

——ああ、上山さんは前から「田村さんと桜庭さんと闘いたい」と言ってましたね。10月6日のU—STYLE後楽園大会では、田村潔司挑戦者決定トーナメントがありますけど……その足で大丈夫ですか？

たことない人にはわからないと思いますけ

上山　やっぱり挑戦者はチャンピオンを凌

――不安とかありませんでしたか？

ありますけど……その足で大丈夫ですか？

上山　そうなんですよねえ。なんとか間に合うようにはしたいんですけど。

――田村戦が念願だった上山さんからすれば這ってでも出たいわけですよね。

上山　本当になんとか間に合わせたいというか、間に合わせないといけないですね。すごく出たいですし。

――マッハ戦の2週間前にU―STYLEに出た男からすれば。

上山　ホントにそうです（笑）。それに自分が興行に出ることで、少なからずチケットを買ってくれたお客さんもいるわけですから。

――特に女の子は多いですよねえ。一昨日も黄色い声がたくさん飛んでましたし（笑）。

上山　いやいや、そんなことはない（笑）。

――マジメな話、田村さんも出ない、上山さんも出ないとなると、Uスタイルというカラーが薄くなる部分はないですか？

上山　いや、U―FILEの若手も出ますからね。外部からもいい選手が出場しますし、まったく問題はないと思います。

――田村さんも、伊藤（博之）さんや藤井（克久）さんを評価してますよね。

上山　伊藤とは旗揚げ戦でやりましたけど、彼は闘う気持ちが出てますからね。自分もUスタイルをやると、ガムシャラにやっていた新人のころを思い出して感情が高ぶるんですよ。回転体も大事ですけど、そういった感情もないとUスタイルはできないと思います。

――上山さんはケガで休んでいたことでまだ旗揚げ戦しかに出られてないですけど、田村さんがこないだの大阪大会で「若い奴らは伊藤、藤井以外、点数もあげられない」と、ダメ出ししたことにはどう思われましたか？

上山　やっぱり、若い選手に田村さん抜きで引っ張っていくぐらいの気持ちがないからでしょうね。田村さんが出ない大会で他の選手が頑張らないと、U―STYLEも拡がりがみせないですから。田村さんを焦らせるぐらいの気持ちでやらないとダメだと思いますね。



【うえやま・りゅうき】1976年生まれ。高校時代にレスリング部に在籍。卒業後、Uインターに入門。Uインター解散後はキングダムに参戦するもケガのためにリングを離れていたが、「U-FILE.CAMP」所属として復帰。リングス、コンテンダーズ、パンクラス、U-STYLEなどあらゆるステージで活躍。現『DEEP』ミドル級王者。

――上山さんは引っ張って行く自信があるわけですよね？

上山　あるというか、「上山は違う」ってことを見せないといけないですよね。ボクはUスタイルをやるためにこの世界に入ったんですから。

――田村さん闘ったら、焦らせる自信はありますか？

上山　……（一瞬固まって）た、田村さんと試合ですか？　そうですねえ……焦らせないといけないですよね。

Ryuki Ueyama

――こないだの大阪大会で田村さんが冨宅（飛駈）さんをミドルキックの連打で秒殺したときはかなり怖かったって聞いてるんですけど。

上山　凄かったですよね。でも、あれが本当の田村さんなんですよ。

――あの怖さこそが田村潔司。

上山　昔から田村さんの試合は怖いんですよ。自分はUインターのころ知ってますけど、いまの若い子は「田村さんが怖い」とか言うじゃないですか？　ボクはもっともっともっと……怖い田村さんを知ってますから（笑）。

――いまの田村さんが怖いだなんて冗談じゃない、と（笑）。そんな田村さんからすれば、いまのU―STYLEに物足りなさを感じることは当然なんでしょうね。

上山　そうですね。田村さんとは一回も闘ったことないし、Uスタイルで田村さんとやるのが夢なので、試合でも「上山は違う」と思わせるようにしたいです！……って、まだ出るかもわからないし、1DAYトーナメントだから出たとしてもかなり大変なことになりそうですけど（微笑）。

――決勝まで上がるとしたら1日3試合ですよ（笑）。

上山　それに自分は回転体ですから（笑）。

――「上山龍紀・第二章」は地獄の開幕になりそうですけど、今後の活躍を含めて期待しています!!

上山　あ！　もうひとつ目標がありました！　そういえば、自分、前からアブダビ（・コンバット）に出たかったんですよ。

――ホントですか？　アブダビは2年に一回だから、今年やったんで再来年開催になりそうですけど。どうやら今度は日本で開催されるって噂ですよ。

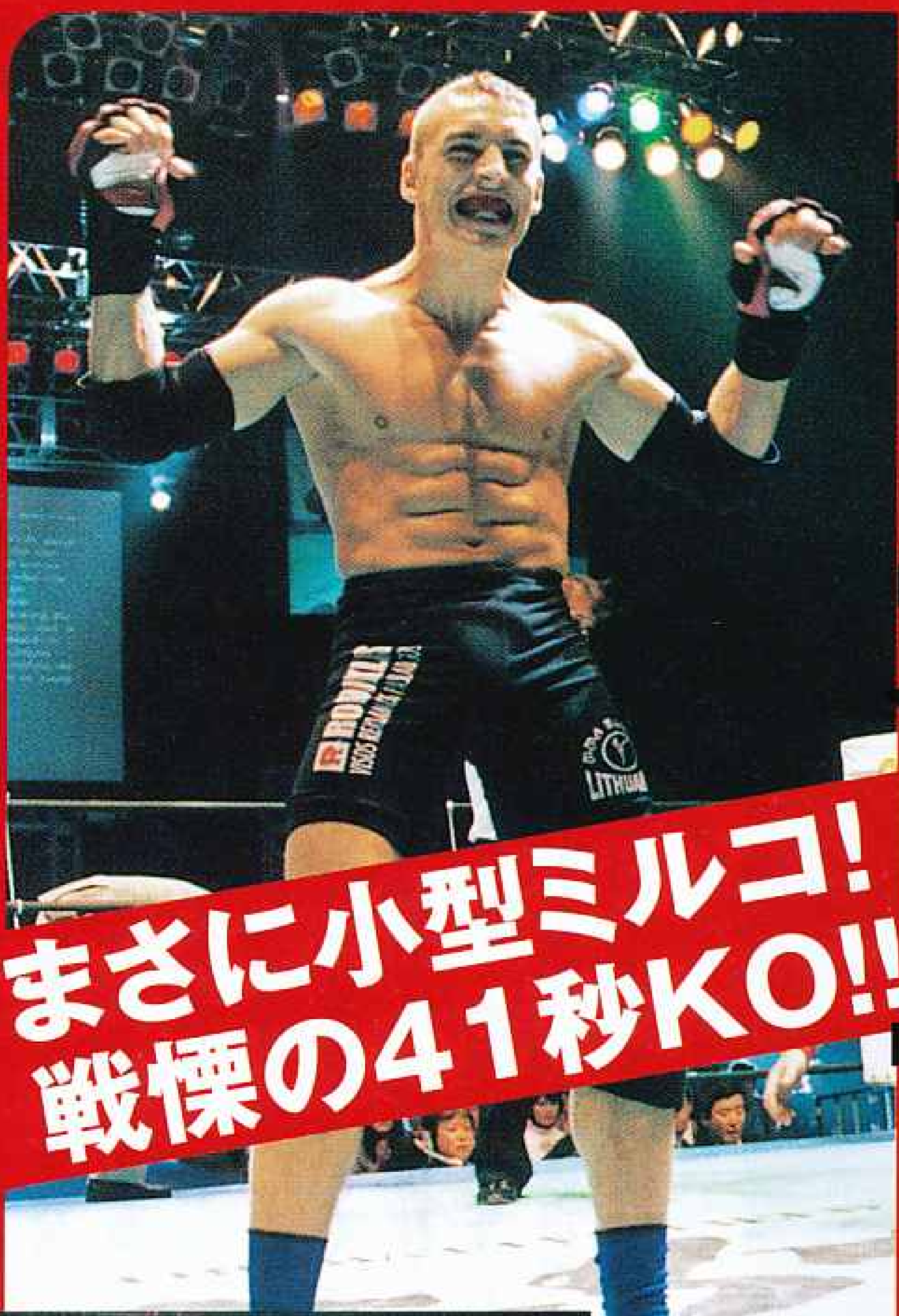
上山　……さ、再来年で日本開催？　それは知らなかったですねえ。

――え～っ、とりあえず格闘技界の情報収集も頑張ってください！（笑）。

【03年9月17日／「U―FILE CAMP町田」にて収録】

“殺戮の美青年”

レミギウス・モリカビチュス



まさに小型ミルコ！戦慄の41秒KO!!



身体は小さいのに、その打撃は超ド迫力！　その一発一発が重くて早い打撃に、館内はどよめきに包まれた。この男の試合は必見だ！



前回、所を失神KOに追い込んだ、恐怖のヒザ蹴りがまたしても炸裂！　わずか1R41秒でモリカビチュスが坪井淳浩をKOした。

“小さなヴォルク・ハン”

所英男



期待の新星・太陽に見事一本勝ち!!



1R終了間際、太陽が足を絡ませて十字を防ぐが、所は諦めず極めに行き、1R4分56秒、残り4秒で劇的な腕十字が極まり所が勝利を奪った！



期待通りのハイスピードな寝技合戦を展開！所は下になってもするすると足関節を狙っていくなど、終始積極的な攻めを見せた。

制覇に

11.23 & 1.11 Zepp Tokyo
あのKOKトーナメントが軽量級になって帰ってくる!!

が名乗り上げた！

今や伝説となったKOKトーナメントが軽量級となって帰ってくる！

あの懐かしき学舎、リングスが活動を休止してから早1年半。「活動再開間近」と言われ続ける〝第2次リングス〟の方は、肝心の〝元帥〟が相変わらず釣り＆オンラインゲーム三昧らしいので恐らく来年も再来年も「活動再開間近」な勢いだが、リングスのルールを受け継いだ『ZST』は、着実に興行を続け9月7日、Zepp Tokyoで4回目の大会を開いた。

今大会は、次回11月23日大会から、いよいよ軽量級版KOKトーナメント『ZST・GP』がスタートするため（決勝は来年1月11日）、その前哨戦的な意味合いが強かったが、後半3試合に出場したグランプリ出場予定選手がそれぞれ一本勝ちを奪い、優勝候補としてその存在を強烈にアピールした。

まず気勢を上げたのは、〝小さなヴォルク・ハン〟所英男。前回『ZST3』でモリカビチュスに完敗、4・6リングス・リトアニア大会でも苦杯を舐める（ちなみに夜は別の何かを舐…以下自粛）など、このところ精彩を欠いていた所だが、この日は気迫が違った。和術慧舟會の新星で「宇野薫の後継者」との呼び声も高い中原太陽を相手に終始アグレッシブな闘いを見せ、最後は1Rラスト4秒での劇的な腕十字！　勢いのある太陽を下し、改めてそのグラップリング技術を実証した形だ。所はもともと〝アマチュア大会荒らし〟として数々のトーナメントで好成績を挙げているだけに、『ZST・GP』でもその本領発揮に期待したい。

本紙「リングの汁」連載中 花くまゆうさく先生
「ZST」デビューはドロー!!



花くま先生効果か、フューチャーファイト第1試合から、なんと超満員！ 対戦相手はロデオスタイルの小松俊明選手（32）だ。



中盤はフロントチョーク、バックからのチョークを取られかかり、ピンチに陥った花くま先生。しかし、なんとか冷静に対処。



試合終了間際にズバリ極まったヒザ十字固め！ 劇的な勝利か!? と思わせたが相手に凌がれタイムアップ。5分時間切れドローだった。

その他の主な試合



小谷直之の実兄、小谷ヒロキは、前回タッグで対戦したUFCファイター、リッチ・クレメンティと対戦。時間切れドローとなった。



このところ『ZST』では“ヘタレ”キャラが定着しつつあるヤノタクは、P'sラボの植村ジャックを極めきれずドロー。

ZST・GP開幕戦 11・23(日) ZeppTokyo

決勝大会：2004年 1月11日(日) 2回戦、準決勝、決勝

70kg未満選手による､16名出場のトーナメント形式

賞金

優勝賞金総額：500万円（600万円）
準優勝賞金総額：150万円（210万円）
3位賞金総額：70万円（100万円）
()内はすべてKO、一本勝ちの場合の最高額。

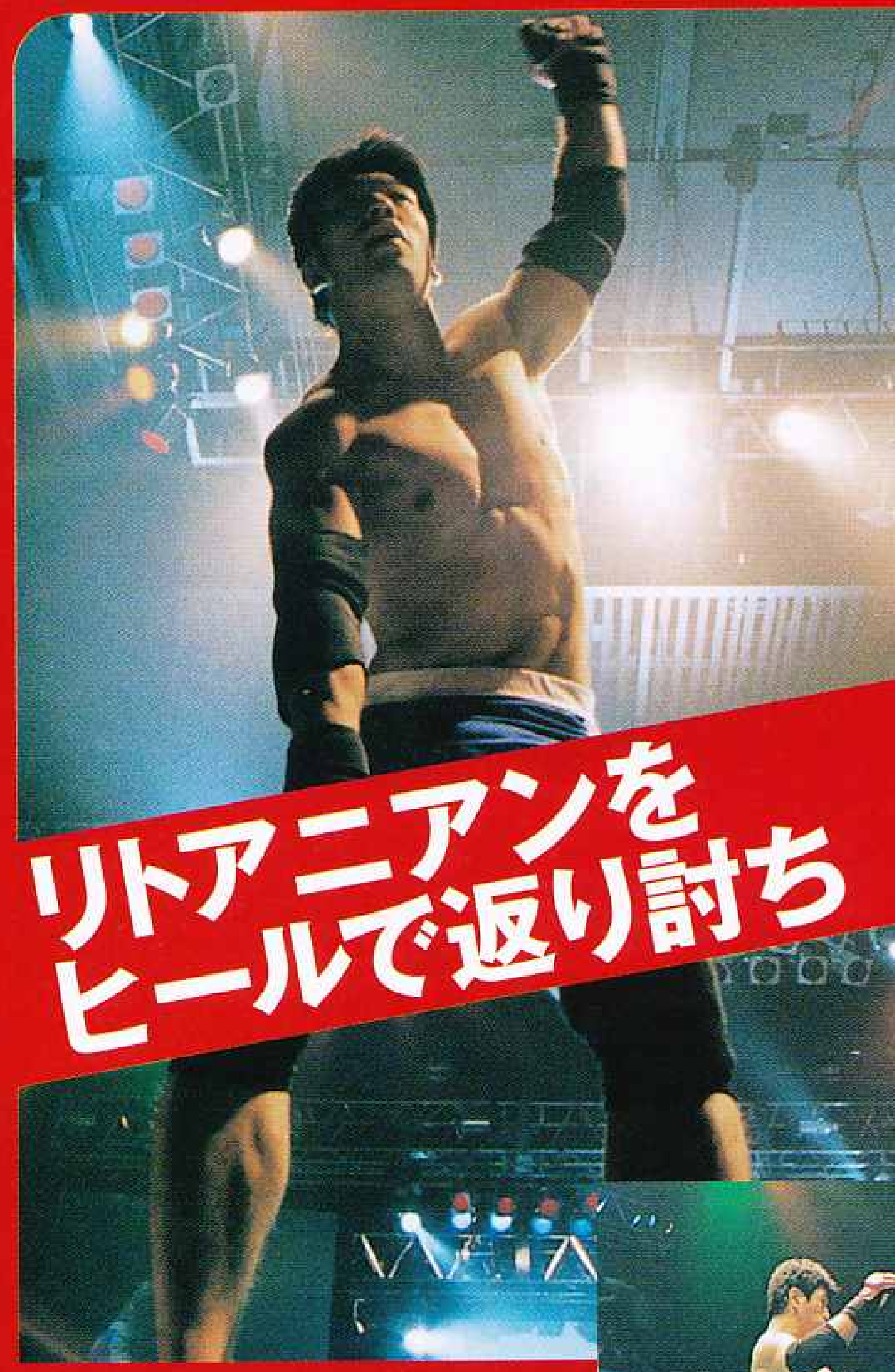
チケット

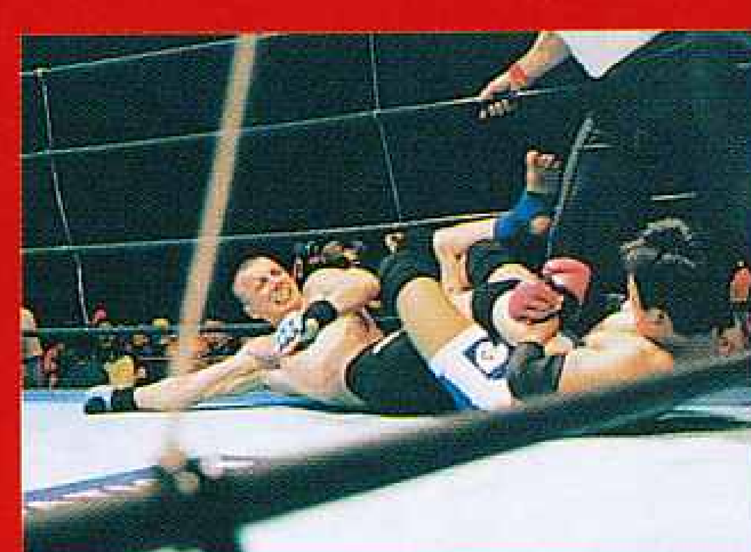
VIP/20,000円(ドリンク付) SRS席/12,000円
S席/8,000円 A席/6,000円

問い合わせ

ZST事務局 03-5321-9595 www.zst.jp

“ZSTライト級のエース”
小谷直之
リトアニアンをヒールで返り討ち





ご覧の通りヒザ十字がガッチリ極まり、1分36秒、小谷がレフェリーストップ勝ち。「タップしてない」と抗議されたが、これは逃げられない。



4・6リトアニア大会で闘った際、後手後手に回りドローに持ち込まれてしまった反省からか、この日の小谷は序盤から飛ばしていった

「ZST・GP」
この3人

文＆写真／堀江ガンツ

続くセミファイナルでは、モリカビチュスの恐怖のヒザ蹴りがまたしても炸裂し、『ZST2』の再戦となる〝グラップリング・シュートボクサー〟坪井淳浩を壮絶な返り討ち。もう、とにかく打撃のスピードが違う、音が違う。寝技に難はあるのだろうが、寝技になる前にKOしてしまうその〝狙撃手〟ぶりは、まさに小さなミルコ・クロコップ。『ZET・GP』では、優勝と「今成へのリベンジ」を目標としているので、あの〝進化したハンvsフライ〟とでも言うべき、超高速の寝技vs打撃が再び実現すれば楽しみだ。

そしてメインは〝ZST無敗のエース〟小谷直之が、リトアニアで引き分けたスミルノヴァスにヒールホールドをガッチリ極め完勝。対戦相手がマット・セラから急遽変わったが、それを感じさせない闘いぶりで見事メインを締め、エースの責務を全う。やはりこの男こそ、『ZST・GP』の本命だ。

この日、活躍した小谷、モリカビチュス、所の3人に、この日は欠場した〝足関十段〟今成正和を加えた4人が大会の中心となるだろうが、それ以外にもロシアやアメリカから未知の強豪が多数参戦してくるという『ZST・GP』。スタイルが画一化されがちな昨今の格闘技界の中で、これだけ個性がバラバラな、それでいてアグレッシブな選手揃いというのは魅力的。会場規模と選手の身体は小さいが、その試合内容は本家KOKトーナメントにも決して劣らない闘いを見せてくれるに違いない。11・23&1・11ZeppTokyoへ集え！

…ダブルインパクト!!

…”、地上波放送決定!

『肉力強女』!?
ぢから　つよい　おんな



この日の番組設立会見に出席したのは左上から右に、総合の高橋洋子、総合＆柔道＆プロレスの藪下めぐみ、キックの柴田早千予、ボクシングのライカ、真ん中左から、ボクシングの八島有美、柔術の茂木康子、サンボ＆柔術の藤井恵、下段左から総合の辻結花、空手＆総合の石原美和子、総合の久保田有希、空手の砂山久美子、総合＆サンボのしなしさとこ等、現在の女子格闘技界を代表する『肉力強女』なメンバーが一堂に会した

1st Impact

女子格闘家以外で会見に出席したのは番組のゼネラルプロデューサーのテリー伊藤、アドバイザーの島田裕二、さらにバトラーツのリングガールでお馴染みだった宮内美穂ちゃんがアシスタントを務める。会見途中にはボブ・サップがビデオメッセージで登場。女ビースト軍を結成し、1千万獲得を宣言！



遂に女子格闘技が地上波に進出決定！

アダルト関係だけではなく、つい先日は一軒家プロレスを大成功させた高橋がなり率いるソフト・オン・デマンドと〝天才プロデューサー〟テリー伊藤がガッチリ手を組んで女子格闘技専門情報番組『肉力強女（にくぢからつよいおんな）』をテレビ東京で週イチでスタートさせることが9月16日にSOD女子格闘技道場で行われた番組設立会見で発表となった（一発目の放送は10月3日、深夜2時40分より30分間）。

この日の会見には、辻結花、久保田有希、しなしさとこ、石原美和子、藤井恵ら、現在の女子格闘技を代表する選手たちがズラリと勢揃い。

この番組のゼネラルプロデューサーを務めるテリー伊藤の横には、藪下めぐみ、高橋洋子、女子ボクシング世界王者のライカ、女子キックの世界王者の柴田早千予が並んだ。

「子供の頃から格闘技が大好きだった」というテリー伊藤は「いろんな所で格闘技が注目されているけど、それは一部の選手だけだということを知った。一生懸命頑張っているのに経済的に豊かな人が少ないっていうのも寂しい限り。大きなお金が動けば、みんな頑張るし、新しいスターも必ず出てくる。この番組では、〝1千万円デスマッチ〟を行って女子格闘技をドンドン盛り上げますよ！」と高らかに宣言。

〝1千万円デスマッチ〟とは、番組で「四天王」と紹介された、藪下、高橋、ライカ、柴田が一般公募で集められた格闘家志望の女性を相手にバトルを展開。挑戦者が勝利すると、なんと現金200万円と800万円相当の商品が獲得できるという仰天企画。今回の会見では、賞品として『西部警察』で話題を集めた超高級外車〝TVR〟が紹介された。さすがは〝マネーの虎〟高橋がなり社長率いるSOD制作協力な内容である。

テリー伊藤は「昨日まで援助交際していたような子が出てきてもいいと思う。



…は
…会

給料を払ってもらえず、くすぶってる団

女子格闘技界に多

遂に"ジョシカク"、地

にく　ぢ

番組名は『肉カ



スマックでおなじみの渡邊久江が全日本キックに入団!!

2nd Impact



この日の会見には"ゼロ中"の宮田興行部長だけではなく金田代表も出席。金田代表は「渡邊選手には日本だけじゃなく世界にも出ていってもらいたい」と、海外遠征の可能性も示唆した

スマックなどでおなじみの"格闘ジャンヌダルク"こと渡邊久江が全日本キックボクシング連盟に入団することが9月17日に行われた会見で発表された。

会見では全日本キックの宮田興行部長から「安定した環境で練習できるように、選手活動のお手伝いをしたいと思った。昨日から、すでにWINDY智美選手が所属しているAJジムで練習もスタートしている」と、所属に至る経緯についてコメント。渡邊は「ご無沙汰してます。新生・渡邊久江ということで、まずは11月（11日『Girls SHOCKⅢ』）の試合に向けて、気持ちと体調をいいテンションに持っていけるよう頑張っていきたいです」と挨拶。WINDYとの練習について聞かれると「これまではミット練習が中心だったんですけど、昨日はマスやスパーが中心で顔が崩れないかとドキドキしました」と、笑顔で語った。

テレ東での女子格闘技番組の話を聞かされると「一千万!? 挑戦したい！テレビに出て、お金ももらえるなんて最高!!」とニッコリ。今後、渡邊のさらなる暴れっぷりに期待しよう！

なんと！"女四天王"を倒すと『西部警察』で話題の超高級車プレゼント!!





会見終了後には外に用意していた賞品のＴＶＲを披露。テリー伊藤は「プロの選手がバスや電車で会場に行くのは色気がない。このＴＶＲで会場に乗り付けてほしい」とコメント。VTR を手にするのは誰だ!?

給料を払ってもらえず、くすぶってる団体の選手とかも来てください。いま守る側である四天王が裏切って挑戦者に回ってもいいし。1千万円が欲しかったらドンドン裏切ってください」と裏切りを推進。薮下はこれに乗じて「アタシは免許もないんで、車を取ったら売り飛ばして現金にしたい」と目を輝かせていた。

アドバイザーとして紹介された島田レフェリーも「俺様のジムで挑戦者を育ててバンバン出させるよ」と、これまた早速の一千万強奪宣言！　会見に出席した四天王以外の女子格闘家たちが、この番組にどういった形で登場していくのか、正直、不安もあるが、とりあえず、一発目の放送は要チェックだ!!



この日
田早
左から
現在の

いたような子が出てきてもいいと思う

女子格闘技は死にませ〜ん!!

女子格闘技 Girls SHOCKⅡ 9・7 北沢タウンホール



今回が2度目の開催となる全日本キック主催の女の子だけのキック興行『ガールズ・ショックⅡ』。当初、メインにはスマック等で活躍する渡邉久江が出場予定だったが〝体調不良〟とのことで残念ながら急遽欠場に。しかし、渡邉以外にも今大会にはスマックなどで活躍する総合系の選手が大挙出場。プロとしてのキャリアは優るとはいえ、キックジム所属の選手相手に、なんと全勝という結果を残した。次回『ガールズ・ショックⅢ』は11月開催。悔し涙を流したキック系選手の逆襲は見られるか!? 見逃せないゾ!!



スマックでは連敗街道を突き進んできた金井広美だったが、なんと名門・藤原ジムの岡本から2度ダウンを奪いKO勝ち！



ここ最近、練習の成果を発揮しまくりで絶好調の元女子プロレスラー坂口一美。この日もパンチで2度ダウンを奪い見事なKO勝利！

スマック勢、キック興行で4連勝!!



『紙プロ』でもお馴染み、元生ゴンギャル&スネークピット出身の坂本が藤原ジムの横田と激しい打撃戦を展開。序盤は互角だったものの3Rに得意の右ストレートでダウンを奪い3—0の判定勝ち。坂本はキックは2戦2勝！



全試合結果

★メインイベント ○グレイシャア亜紀（彰考館）[1R 0分40秒、KO] リー・ガップソン（韓国）●
★第8試合 ○NORIKO（Team Dii）[判定3-0] ジェット・イズミ（クロスポイント吉祥寺）●
★第7試合 ○妃口 慧（S.V.G.）[判定3-0] 成沢紀予（ソーチタラダジム）●
★第6試合 ○坂本奈緒子（チーム品川）[判定3-0] 横田志保（藤原ジム）●
★第5試合 ○大島 椿（JMTC）[判定3-0] CHIHIRO（DRAGON GYM）●
★第4試合 ○金井広美（GF2）[2R 0分23秒KO] 岡本裕子（藤原ジム）●
★第3試合 ○石山絵理（TEAM LIMIT）[判定2-0] akinori（GIRL FIGHT AACC）●
★第2試合 ○ASAMI（士心館）[判定2-0] 四十内としえ（青春塾）●
★第1試合 ○坂口一美（GF2）[2R 1分57秒、KO] FUKY 510（DRAGON GYM）●

女子格闘技 Gals 2 8・30 北沢タウンホール



『紙プロ』にも何度か登場し話題となった〝力道山を刺した男の娘〟篠原光が約1年振りに総合のリングに帰ってきたぜぇ〜！ が、しかし、結果はSOD女子格闘技道場の期待の星・たま☆ちゃんに判定ながらも完敗。たった1年ではあるが、女子格闘技界の流れの速さを篠原自身、痛感したことだろう。とは言え、正直スター選手不足の女子格闘技界において、際立つキャラの持ち主の篠原には是非とも踏ん張ってもらいたいところ。やる気は十分に感じられただけに、次はそのキャラ通り〝殺る気〟を見せてくれ！



セコンドの薮下からの「何やってんのぉ〜!?」「好きなようにやればぁ〜」といった声援に応えるべく必死に闘った、たま☆ちゃんだったが満足のいく闘いを見せられず試合後は、ご覧の表情

〝喧嘩女王〟復活ならず！ たま★ちゃん吠える!!



判定勝ちを収めた、たま☆ちゃんだったが、試合後は「しょっぱい試合ですみませんでしたァ！」と絶叫。さらに「薮下さん、お願いします！」とリングに仰向けになると、薮下は嫌々ながらもダイビングセントーンを敢行！ 後輩に渇を入れた



全試合結果

★第6試合／総合ルール ○たま☆ちゃん（SOD女子格闘技道場）[判定3-0] 篠原光（電撃ネットワーク・チーム南部）●
★第5試合／総合ルール ○虎島尚子（RJW CENTRAL）[1R4分12秒、腕ひしぎ逆十字固め] 小八ヶ代真紀（ストライプル）●
★第4試合／ブラジリアン柔術・女子青帯ガロ級 ○村野麻子（SSSアカデミー乙女チック柔術倶楽部）[ポイント判定4-0] 高田博美（ストライプル）●
★第3試合/総合ルール ○野口若菜（パレストラ古河）[判定3-0] 金子和美（TEAM YANO）●
★第2試合／ブラジリアン柔術・女子青帯チャレンジ ガロ級 ○吉田正子（パレストラ福島）[ポイント判定4-0] 新井寛子（東京イエローマンズ）●
★第1試合／グラップリングルール ○古館由紀（Team-Roken）[1R2分59秒、三角絞め] 石川千恵（B-CLUB）


前号で「スマックはいつだってヤバイ!!」と書いたが、やっぱりスマックはヤバかった。大会直前になってキーラ・グレイシーの来日延期が発表された8月大会は渡邉久江の壮絶KO勝利で、なんとか乗り切ったスマック。

当初、10月大会では、昨年に引き続きミドル&ライト級のトーナメント開催の予定だとか、キーラをあらためて呼ぶとか話が出ていたが、9月に入ってもいっこうに10月大会の情報が入ってこない。「キーラに続いて大会自体も延期じゃないの？」との良からぬ噂も駆け巡っていたが、9月12日に、ようやく10月大会が正式発表となった。カード発表こそなかったものの、WINDY智美、ジェット・イズミ、カロリン・フブレクツ、大門まい子らが出場予定選手として名を連ね、ホッと一安心……と思いきや、その数日後、日本へ格闘技留学中だったカロリンがケガでオランダに帰国、さらには同時期に禅道会が行う大会にスマック系の選手が多数出場するということも重なり、お客さんを満足させられるマッチメークが難しくなり、結局10月大会は延期に。ただし、11月大会は開催するとのことなので、スマックファンも、スマックのヤバさを初体験しようと思っている『紙プロ』読者の皆さんも、正式発表まで、しばしお待ちを！

スマックガール 次回大会は11月です！



8・30北沢タウンホールでの『TRIAL』で総合ルールに初挑戦したスマックガール篠代表。「選手の気持ちを理解したい」とグラバカジムの大島信哉と対戦。須藤元気ばりにバックブローを連発するもチョークを極められ1R47秒タオル投入で完敗。



スポーツ紙の王様

『東スポ』とは何か？

「後藤だなぁ？」「新日本崩壊」などの名言を生んだ
元『ワールドプロレスリング』解説者

柴田惣一

『東京スポーツ』第2運動部・次長

長年に渡りプロレスを支え続けている、夕刊紙『東京スポーツ』。プロレス記事に限らず、その衝撃的かつ独特な見出しに思わず惹かれて買ってしまう読者も多いはず。その『東スポ』より、『ワールドプロレスリング』の解説者としても名を馳せた柴田記者が登場。『東スポ』の面白さの秘訣、プロレスへの想いを語ってもらった。

聞き手／ジャン斎藤　designed by gutty（Two Three）

れるか!? 見逃せないゾ!!

通り〝殺る気〟を見せてくれ！

んも、正式発表まで、しばしお待ちを！

女子格闘技
Girls SHOCKⅡ
9・7 北沢タウンホール



スマックでは連敗街道を突き進んできた金井広美だったが、なんと名門・





――今日は、『東スポ』の名物記者であり、『ワールドプロレスリング』の解説者としても活躍された柴田さんのプロレス観について、いろいろと伺いたいと思ってます！

柴田　よろしくお願いします（笑）。

――もちろん、他紙の追随を許さない『東スポ』の面白さの秘密にも迫りたいと思ってます（笑）。さっそくですけど、柴田さんの「第2運動部・次長」という肩書きは、具体的にどういった立場になるんでしょうか？

柴田　要するに、第2運動部というのはプロレス、ボクシング、大相撲、キックなど格闘技を扱ってる部署であって、そこのデスクになりますね。

――編集長的な立場だとすると、格闘技面の内容は、柴田さんの意向が反映されるわけですよね。

柴田　コントロールする立場にはなりますね。コントロールできてるかどうかわからないですけど（笑）。

――それは、ボクらではわかりかねます（笑）。

柴田　現場の記者とは電話でやりとりするぐらいなんですよ。いまはパソコンがあるでしょ。外で原稿が書けちゃうから、彼らと直接、顔を会わす機会は意外と少ないですね。

――柴田さんはあまり会場や現場には行かれないわけですか？

柴田　TVやPPVでチェックするぐらいです。ホントは行きたいんですけどねえ。

――それでも現場を統括する立場ですから、休日返上で動かれてるわけですよね。

柴田　いや、ウチは日曜日が休刊だから。何か事件が起こらない限り、土曜日は休みになりますね。ただ、月に1回ぐらい朝番が回ってくるんですよ。そのときは早朝に出社して、新聞をチェックしたりするんですけど。

――柴田さんクラスの立場になっても、そういう役割が回ってくるんですか。

柴田　いや、各デスクが交代でやるんですよ。その朝番のときにね、一面を差し替えたりするときもありますからね。たとえば、高山と（ストーカー）市川のときもそう。

――「高山、宇宙人撃破！」の見出しで闘龍門初の一面を飾ったのは、差し替えによるものだったんですか（笑）。

柴田　あんときは、たまたまボクが朝番だったんですけど、「これは面白い！」という声があがって急遽一面にしたんですよ（笑）。

――素晴らしい大英断です（笑）。いまさら言うことじゃないですけど、『東スポ』は、プロレス記事以外の打ち出しも他紙とは違いますよね。松井（秀喜）さんのプライベート記事なんて、他では読めないじゃないですか（笑）。

柴田　あれはね、松井が凄い！　松井が良く答えてくれると思う（笑）。

――「趣味・AV鑑賞」を公言したり、「メジャーリーガーの〝モノ〟を見てみたい。何かひとつでも〝勝った〟というのがあれば自信になる！」と、夜のバットでもメジャー挑戦を宣言したりと、シモ関係ネタが全開ですよね（笑）。

SHIBATA SOUITI

柴田　ウチの場合は独特の踏み込み方もあるんだろうけど、彼はどこ（スポーツ紙）に対してもそうらしいよ（笑）。

――猪木さんみたいに「ジャンジャン飛ばしてくれて結構！」みたいな姿勢なんですね（笑）。

柴田　いやいや、誰とは言わないけど、都合が悪くなるとウチのせいにする人がいる。たしかに言ったはずなのに、「『東スポ』が悪い！」ってことでね。それはズルイと言いたいし、男らしくないと思うけど（笑）。

――なるほど（笑）。で、最近は他のスポーツ紙も、かなりクダけた『東スポ』的な紙面になってますよね。特にプロレス報道なんかはそう思いますよ。

柴田　それはボクも思う。かなりウチ風になってるよね。

――デスクとしては当たり前ですけど、他のスポーツ紙のチェックは欠かさないわけですよね。

柴田　もちろんチェックはしてますけど、こういう見方、視点があるのかと、ハッとさせられることもありますね。それにプロレスに関しては、昔はウチの独占的なところはあったけど、いまはどこでもやってますからね。ウチは夕刊だからさ、他より半日遅れるわけですよ。ネタを出すにしても同日じゃダメ。前日じゃないと意味がないんですよね。

――同じ夕刊のナイガイスポーツも気になりますか？　紙面の色使いやロゴも『東スポ』とソックリになってますけど。

柴田　ウチと間違えて買う人もいるって話ですよ（笑）。まあ、それでナイガイさんが売れるんだったらいいと思いますけどね。

――余裕ある発言ですねえ（笑）。

柴田　ナイガイさんとウチでは、捉え方や価値観が違うと思いますから。ウチでは扱わないネタをナイガイさんが大きく扱ったり、その逆のパターンもあるわけだし。

――つまり、視点の違いに自信があるわけですね。やっぱり、スポーツ紙の中では『東スポ』の見出しが一番、目を引きますよ！

柴田　あの見出しは整理部（レイアウト）の功績もデカイんですよ。彼らは運動部とは違った視点で見ますからね。もっとヒネれば面白いってことで、見出しをドンドン変えるんですよ（笑）。

――それで「宗男 ドラえもん変えた」「麻原 巨人入り宣言」という、内容が気になってしょうがない見出しが生まれるわけですね（笑）。

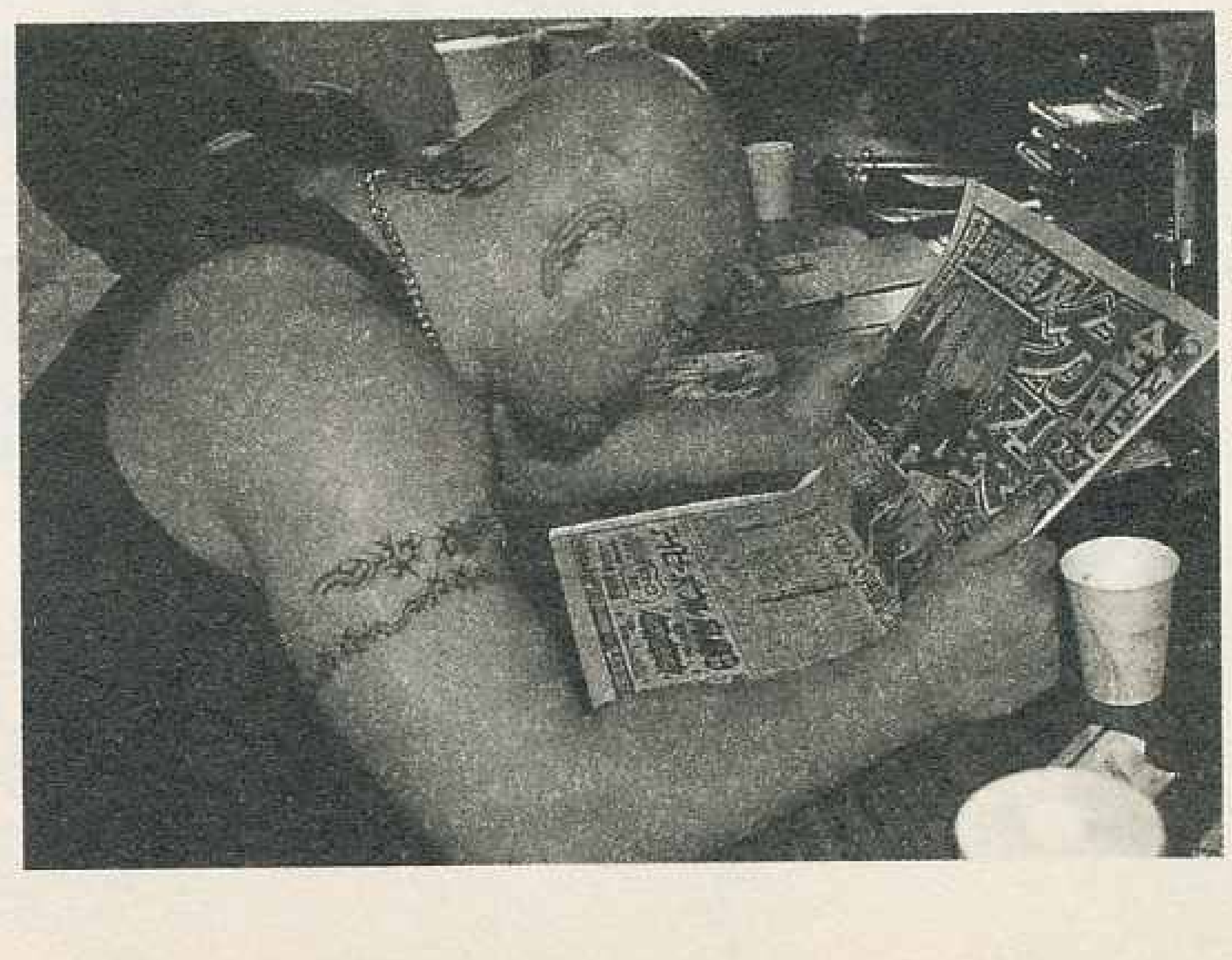
柴田　そうです（笑）。ウチの社員だって会社に行けばあるのにさ、見出しに惹かれて買っちゃうぐらいだからね。

――社員までダマされますか！（笑）。

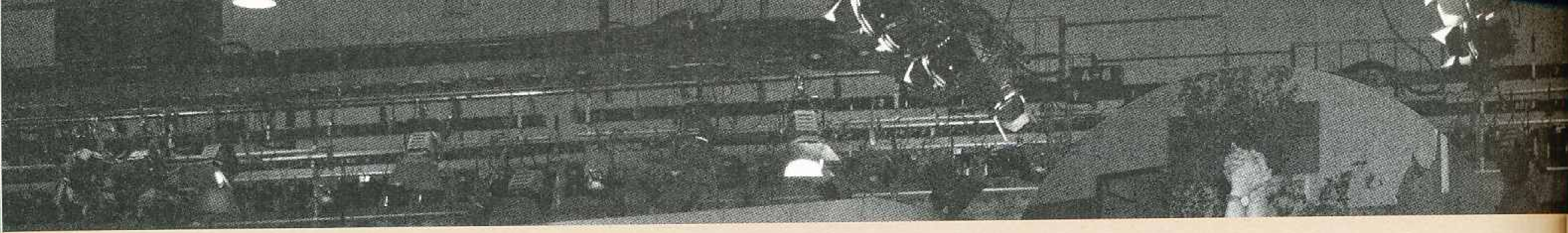
柴田　……ダマされるといったらマズイな。「買わされる」ですね（笑）。

――気を付けます（笑）。そんな『東スポ』に柴田さんが入社されたのは、どういう動機だったんでしょうか？

柴田　『東スポ』は、大学に入るため



『東スポ』を読んで初めて情報を知るレスラーも少なくない（藤波社長は知らな過ぎだけど）。最近では、川田＆渕、全日本・生え抜き幹部が紙面を通じて武藤の方針を批判。それを読んだ武藤が激怒する事態にも。



と、シモ関係ネタが全開ですよね（笑）。

大きく扱ったり、その逆のパターンも

柴田　『東スポ』は、大学に入るため

に東京に出てきたときに存在を知ったんです。野球からプロレス、エッチから政治経済まで扱ってて、非常に面白い新聞だなと（笑）。

――奥が深い紙面づくりですよね（笑）。

柴田　それで、もともとマスコミ志望ではありましたけど、『東スポ』に入りたい気持ちが強かったんですね。それでうまく引っ掛かって、希望通り第2運動部の配属になったわけです。

――希望通りというと、プロレスは大好きだったわけですか？

柴田　小さい頃から見てましたね。良くあるパターンで、親が「見ちゃダメ！」ってことで一時期離れましたけど。大学に入って一人暮らしするようになってからまた見始めて。

――当時のプロレスは、猪木さんと馬場さんに尽きるわけですけど、柴田さんはどちらのファンだったんですか？

柴田　どちらかといえば、猪木さんですね。異種格闘技戦とかやったり、あんまりプロレスラーらしくなくて強いというか。

――猪木さんはプロレスラーらしくないですか（笑）。

柴田　馬場さんは身体だけで、プロレスラーって感じですよね。猪木さんはスキャンダルも含めてプロレスラーでしたから（笑）。

――猪木さんの場合、自分の人生を切り売りしてましたからね（笑）。

柴田　人生を背負って出てくるわけだからさ。そういう意味では猪木さんの方がドラマチックでしたよね。

――「レスラー・猪木は好き」だけど、「人間・猪木は嫌い」という関係者が多いわけですけど、柴田さんはどうでしょうか？

柴田　人間・猪木？　魅力がいっぱいじゃないですか（笑）。

――危険な魅力に溢れてますよね（笑）。

柴田　ボクは好きですよ。気さくに喋ってくれるし、非常にいい人。まあ、ボクらなんかは実害を被るわけじゃないからね。金を貸して返してもらえないわけじゃないし（笑）。

――猪木さんと揉める人って、結局はお金の問題ですからね（笑）。

柴田　だから、ボクには直接関係ないんで、面白いと思えちゃう部分もあるんだけど（笑）。

――でも、猪木さんと『東スポ』は、政治評論家の菊池久さんが書いた都知事選絡み記事が発端になって、裁判沙汰になったことがありましたよね。

柴田　政治家・猪木としてはいろいろ問題があったからさ（苦笑）。ちょっと厳しい目で見ちゃうよね。プロレスラー・猪木は大好きなんですけどね、ウチは。

――膨らませやすい発言をしますからね（笑）。で、話は『東スポ』入社当時に戻りますけど、その頃の上司って蒼々たるメンバーが揃ってましたよね。

柴田　櫻井康夫、山田隆、門馬忠雄という三大部長がいましたね（笑）。

――ある意味でプロレスの歴史を築いてきた、プロレスマスコミの重鎮ですよね（笑）。

柴田　そういう意味では最初からレールは敷かれてたわけで、大変助かりました。取材の仕方から原稿の書き方にしても全部教わりましたし、いろいろ御世話になりましたよ。

――門馬先生なんかは酒がかなり強いって話ですから、遊びの方面でも指導を受けたんですよね。

柴田　それはもちろん。第2運動部の忘年会は泊まりがけでやるんですけど、大きいアイスペールにいろんな酒をゴッチャにしてね。それをみんなで回し飲みするんですよ。

――記者同士の飲み会でも、プロレス村の伝統に沿うわけですね（笑）。

柴田　そうそう（笑）。ボクはお酒はあまり飲めなかったんですけど、だいぶ鍛えられましたよ。

――ちなみに、WJの永島（勝司）さんも『東スポ』記者出身ですけど、柴田さんとはどういう関係になるんですか？

柴田　師匠の1人ですね。ボクが入ってしばらくして、永島さんはデスクになったんです。永島さんは凄い人でしたね。独特の取材の仕方で相手の懐に入り込んじゃうから。

――そして、そのままフロントになっちゃうわけですね（笑）。

柴田　そうそう、実際に入っちゃうんだからねえ（笑）。まあ、ネタを引っ張り出すためには懐に入るのは必要なことですよ。

――柴田さんも『ワールドプロレスリング』の解説を務めたぐらいだから、しっかり新日本内部に喰い込んでたんですか？

柴田　ある程度、話は聞いてましたけど、永島さんのようなことはできませんでしたね。永島さんは、自分で絵を描いてたんじゃないの？（笑）。

――記者時代から、〝闘魂二人三脚〟だった、と（笑）。

柴田　でも、永島さんの場合はちゃんと批判もしてたし、そういう意味では非常に『東スポ』的な方でしたよ。マスコミは批判することも大事です。ど



闘龍門初の『東スポ』一面を奪取したのは、なんとストーカー市川!!　「ストーカー市川暴走十番勝負・番外編」の相手として、高山善廣が闘龍門に予告なしに登場。その異次元対決が翌日の『東スポ』一面を飾ったのだ

『東スポ』とは何か？

「これは面白い」ってことで、高山vsストーカー市川を一面に差し替えたんです（笑）

女子格闘技
Girls SHOCKⅡ
9・7 北沢タウンホール



スマックでは連敗街道を突き進んできた金井広美だったが、なんと名門・



っかで線引きしないといけないところもある。自分もちゃんと線を引いて、言いたいことも言ったし書きたいことを書いたんです。

――だからこそゴールデンタイム・（新日本プロレス・大阪ドーム大会）で、「新日本は崩壊しました！」って絶叫できたわけですね（笑）。

柴田 あそこでフォローしたってしょうがないじゃない。猪木軍にみんなやられて、新日本は崩壊しましたよ（キッパリ）。

――現場はかなりグジャグジャでしたよね。小川さんと藤波社長が乱闘したら、そこに長州さんがテーマ曲付きで乱入するんですから（笑）。

柴田 その〝何でもあり〟さが面白いんだけどね（笑）。まあ、落ちるときは落ちた方がいいんですよ。闘い続ければ挽回できるんだからさ。落ちても這い上がってくるからプロレスは面白いんです。

――ただ、あの「崩壊」発言が猪木さんの逆鱗に触れて、それで解説を降板させられてたって噂を聞きましたけど。

柴田 いやいや、それは関係ないですよ。

――あ、違うんですか？ 柴田さんが降板したあと、新日本に対して辛辣な原稿を書き始めたんでトラブルの匂いを感じたんですけど。

柴田 解説者の問題は関係ないですね。個人のことで、紙面が左右されることはありません。たまたま、でしょう。

――「地道な下交渉や根回しをしてからならともかく、いきなりブチ上げる」「汗をかかない猪木流のヤリ口は、拒絶されても仕方あるまい。裸の王様になっていることに、猪木が気付いているのか」って書いてましたけど（笑）。

柴田 それはだって、その時は思ったもん（笑）。

――ワハハハ！ 思いましたか！（笑）。

柴田 猪木さんが、いろいろ動き回った人に対するテイクケアが足りないのは事実ですよ。けど、あれは筆が過ぎたかなって反省しました（苦笑）。ちょっと思い上がっていたかもしれないね。でも、解説を降りたこととは関係ないです。

――ということ、突然降板したのはどういうことだったんですか？

柴田 担当プロデューサーも変わったんで、番組内容を一新したかったんだと思いますよ。それは番組改編には



柴田さんの「崩壊」発言が飛び出した、01年4月8日新日本プロレス大阪ドーム大会。散々な客入りに加えて、泥沼化した猪木、長州の覇権争いなど、リング内外ともに大迷走、大混乱!! 小川と藤波社長の乱闘を繰り広げるなど（藤波が小川に怒りのドラゴン張り手を炸裂！）、そのドタバタ振りがある種の興奮を誘った大会でもある

当然のことですけど、直接言ってくれればいいのに、ボクを飛び越えて櫻井さんに連絡があったんですよ。

――そういう顛末なら、余計な噂も立ちますね（笑）。

柴田 それに、以前からボクを降ろしたいと思ってる人がいたようですね。「団体の意向に添うように喋るように」と言われたこともありますからね。でも、その役割はボクじゃなくて、アナウンサーなりが果たばいいわけでしょ。

SHIBATA SOUITI

――辻アナの言うことを、ほとんど否定＆無視していたマサさんでは無理でしょうしね（笑）。

柴田 マサさんは独特だったからねえ（笑）。ボクの場合はマスコミとしての立場もあるし、それだったら解説をやる意味がないわけですよ。

――でも柴田さんは、石澤さんがハイアンに完全KOされたときは「もう少しできたような気がする」「ちょっとレフェリーの判断に……」疑問視したりと、かなり新日本寄りの解説をされてたと思うんですけど。

柴田 ああ、カシンのときはいろいろ言われましたねえ（苦笑）。

――「これはちょっと納得いかないですねえ」と、〝新日ヒャッホー！〟な実況した辻アナも、かなり反発を喰らってましたけど（笑）。

柴田 いやね、なんかのインタビューでも言ったんだけど、ボクは「『東京スポーツ』の柴田」っていう看板と、テレ朝の立場を考えて喋ってるわけですよ。

――新日本の悪口をバンバン言うわけにはいかないですよね（笑）。

柴田 それこそ自分の考えをストレートに言う方が楽ですよ。その方が皆さんからすると面白いんだろうけど……それはちょっとねえ（笑）。あんときは、カシンが努力にしてきた成果を出せなかったから、もうちょっとやらせてあげたかった気持ちがあったんです。カシンの気持ちになりすぎたんですよ（笑）。

――あと後藤（達俊）さんがストロングマシンに変身したときに、柴田さんが「お前は後藤だなぁ！」と、ズバリ正体を名指ししたときもビックリしました（笑）。

柴田 あぁ、あれは体型や動きのクセ、繰り出す技などから、後藤であることが明白だったんで、思わず叫んでしまいました（笑）。

――なるほど（笑）。あの当時は辻アナ、マサさん、柴田さんと本当に奇跡的な実況席だったわけですけど、そもそも柴田さんが解説に起用されたのは、どういうきっかけだったんですか？

柴田 あれは新日本の東京ドーム大会でね、『ゴング』や『週プロ』、各スポーツ紙の記者が2試合づつ特別解説をやったんですよ。『東スポ』からはボクが出たんですけど、そのあとボクに「レギュラーでやらないか？」という話があったんです。

――指名されるぐらいだから、柴田さんが一番好評だったんですか？

柴田 いや、そういうわけでもないんじゃないの（笑）。やっぱボクが『東スポ』ってこともあったんだと思いますよ。

――プロレスだったら『東スポ』だろう、と。

柴田 解説はUインターがTBSで放送したときもやりましたよ。あとリングスの旗揚げ戦もやったかな。

――前田さんとも接点があるんですか？

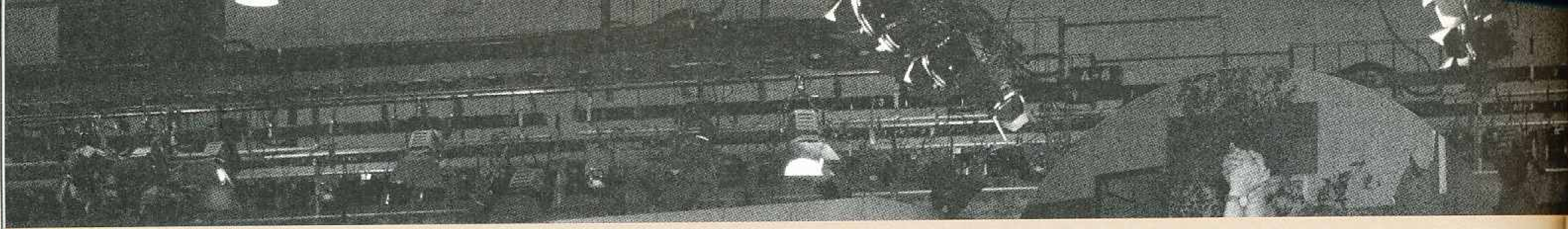
柴田 ボクと前田は同学年なんですけど、彼がヨーロッパから帰ってきたときに、ボクは『東スポ』に入ったんです。あの頃の前田はすごく輝いていたね。輝いてた！ 前田に「キミがプロレス界を背負え！ ボクが『東スポ』を背負うから」とか、偉そうなことを言った覚えがある（笑）。

――そんな前田さんには、『東スポ』のカメラマンがフィルムを没収されたり、結婚報道の際には裁判沙汰のなっちゃいましたね。

柴田 揉めちゃいましたねえ、残念なことですけど。以前の様な関係に戻ればいいんだけど。

――フィルム没収事件以来「『東スポ』は前田日明には届しない」ってことで、リングスの記事がまったく載りませんでしたからね。前田さんに限らず、揉めた選手＆団体も多いんですか？

柴田 それはありますよ。ジャーナリ



ズムなんて偉そうなことは言わないけれど、やっぱり批判はするし、批判できる立場にいないと。読者の方もヨイショばっかりじゃ面白くないでしょ。我々は読者に面白さを提供するわけですから。ただし、プロレスと一緒に歩んで行こうと姿勢は変わらないし、営業妨害をする気はないです。「おかしい」「まずい」と思えば、書きたいことを書くだけであって。

——柴田さんは『SRS・DX』のインタビューでも、「団体が考えてることがあまりにもくだらなかったり、宣伝くさかったらブチ壊す」とまで言ってますもんね。

柴田　あ、そんなこと言ってた？（笑）。

——「本気でやりますよ」とまで言い切ってますよ！

柴田　ああ、そう（笑）。まあ、「ブチ壊す」とまでは言わないけど、無視しますよ。「つまらない」と思えば、団体の思惑通りには書かない。「面白い！」と思えば載せますけどね。やっぱりスターというのは、団体や我々が一生懸命盛り上げてたって本人次第なんですよ。プッシュはしますけど、結局は本人に懸かってるんです。

——その論理は興行にも当てはまりますね。

柴田　そういう意味では、何か失敗したり潰れると「『東スポ』のせいだ！」とか言われる方もいますけど、ウチが書いたぐらいでダメになるんだったら遅かれ早かれ潰れるんですよ（キッパリ）。

——そういう声が挙がるのは、『東スポ』あってのプロレスという認識があるからなんでしょうね。

柴田　そういう風に思ってくださるのは有り難いですよ。そういう自負を持って、取り組んで行きたいですね。

——いまは数え切れないぐらい団体がありますし、誌面に載るのも大変な時代ですよね。

柴田　申し訳ないけど、これだけあると載せられない興行も出てくるんですよ。本来なら大きく扱えるモノが小さくなったりしますし。誌面と人員も限界があるんで、団体同士が興行日程を話し合ってほしいですね。

——一面になるネタもそうですけど、紙面を割くには『東スポ』ならではハードルがあるわけですよね。

柴田　格付けはしないけど、レスラーの名前は影響しますね。だけど、どんなインディーだろうと面白ければドーンと扱うし、どんなメジャーだろうがつまらなければ小さくなる（笑）。

——こないだ裏一面を飾った「一軒家プロレス」は、『東スポ』的には合格だったわけですか（笑）。

柴田　あれは面白かったですよ（笑）。他のインディーさんでも面白い興行はあるんだろうけど、申し訳ない話で目が届いてこないこともある。だから、ドンドンアピールしてほしいですね。

——浅野社長の「IWA新宿二丁目劇場」のように（笑）

柴田　浅野社長はどんなリクエストにも応じてくれますからねえ（笑）。

——ポーゴさんも頻繁に一面を飾ってますよね。「市長室襲撃！」「パトカーに火炎放射！」とか、ポーゴネタを独占スクープしてるじゃないですか（笑）。

柴田　ハハハ！　いや、他紙が相手にしないってのもあるんでしょうけど、彼は営業をかけてくるし努力してるんですよ。ただ、社内でも賛否両論あるんですよね。

——それはそうでしょうね（笑）。

柴田　でも、いろんな反応があったほうがいいんです。文句の電話が掛かってくるようなネタが一番面白いと思いますよ。

——ちなみに、柴田さんが手応えを感じた記事ってどういうネタですか？

柴田　高田、三沢（当時タイガーマスク）、健介や北尾、船木とかやらせていただきましたけど、やっぱり結婚のスクープ。出すタイミングを見計らってずっと温めてるんだけど、他で出ちゃうんじゃないか？　ってヒヤヒヤしてるわけですから。

あそこでフォローしたってしょうがない。あのとき、新日本は崩壊しましたよ!!

——衝撃だったのは、その健介・北斗の婚約が一面を取ったときの裏一面が貴ノ花と宮沢りえの婚約記事だったことですよ！　普通は逆にするじゃないですか（笑）。

柴田　そうなんですよねえ（笑）。もともと健介・北斗が一面予定で、途中で貴の花・宮沢りえの情報が入ってきたんですけど。

——そのまま押し通すのが『東スポ』たる由縁ですねえ（笑）。

柴田　あと反響が凄かったのは、長州さんと北尾さんがケンカしたときや、前田がUインターと揉めたときの記事ですね。北尾本人からも、夜中に抗議の電話が掛かってきましたし（笑）。

——元・横綱から直々に苦情がきましたか（笑）。

柴田　北尾さんが再起のトレーニングを始めたときもそう。彼からすれば美談にしてほしかったんだろうけど、こっちは一歩引いて書くからね（笑）。

——まあ、面白おかしく書いちゃいますよね（笑）。

柴田　本人からすれば気に障ったんでしょうね。いまだに付き合いもあるし、普段は仲が良かったですから。

——その北尾さんは、「立浪部屋・総合顧問」という立場で相撲界に電撃復帰されたわけですけど、何か聞かれてました？

柴田　「お相撲さんを育ててみたい」と言ってましたね。横綱まで行った人だから中途半端ではないんだけど、最後までできなかったわけだから。若い人に夢を託したいんだと思いますよ。

——さっそく朝青龍に「周りの声は気にするな」とかアドバイスしてますね（笑）。しかし、北尾さんはあれだけのトラブルを起こしたわけですから、この復帰は異例のことですよね。

柴田　立浪部屋さんの事情もあるみたいだけど、彼は相撲協会と揉めたわけじゃないから。立浪部屋の先代親方から破門されただけで、それがクリアされれば問題ないんですよ。

——復帰も驚きですけど、いまの北尾さんの「ナイフ評論家」っていう職業にもビックリしました！　ナイフのことを雑誌に書いたり、企業のプランナーをやったりしてるらしいですけど、聞き慣れない職業ですよね（笑）。

柴田　頑張ってますよ、彼は。身体もかなり絞ってね、だいぶ痩せて体調良いみたいですよ。

——もしかしたら、プロレスへのカムバックも有り得るんですか!?

柴田　いやいや、具体的な話はないけど……いつでもいけると思いますよ！

——それは楽しみです!!　いまのマット界だったら、北尾さんは大活躍できると思いますよ（笑）。

柴田　もったいなかったからねえ、北尾さんは。ボクも彼には変な先入観があったんだけど、喋ってみると面白い人ですよ。なんであんな事件を起こしたのかわからない。彼が全面的に悪いというのはなかったと思いますよ。

——でも、柴田さんはスキャンダルが起こると血が騒ぐんですよね。以前のインタビューだと「団体が割れそうな時は喜んで書いちゃう」と言ってまし（笑）。

柴田　いやあ、ワクワクしちゃうね、本当。事件やスキャンダルが起きると楽しくてしょうがない（笑）。

——ワハハハ！　ワクワクしますか！

柴田　みんなもそうでしょ？　事件が起きたときのほうが新聞や週刊誌も売れるって言うじゃないですか？（笑）。

——ファンも「ゴタゴタはイヤがる」って言われてますけど、実は大喜びしてると思いますよ（笑）。

女子格闘技
Girls SHOCKⅡ
9・7 北沢タウンホール



スマックでは連敗街道を突き進んできた金井広美だったが、なんと名門・



柴田　そんなときこそ、エネルギーやドラマチックな動きが生まれるわけだからね。次のステージに移るときや、新しいことが始まるときには波風は立つし、どうしてもトラブルにはなりますよ。それは仕方ないことでね。

——そこで表面化する、人間のドロドロした部分にファンも興味を引くわけですからね。

柴田　やっぱりね、ウサン臭さとドロ臭さと〝何でもあり〟。プロレスにはこの3つがないと。スポーツライクにしちゃったら面白くないと思う。たとえば、坂口会長が復帰したことだってかなり面白いと思うんだよね。

——息子の坂口憲二も出てきたりして、〝何でもあり〟のファミリードラマになってますよ（笑）。

柴田　あれもプロレスの一つですよ。デスマッチもプロレスだと思うし、WWEにしても全部が良いとは思わないけど、プロレスの一つ。

——「こんなのプロレスじゃない！」と、業界から大反発を喰らった『W-1』はどうでしょうか？

柴田　いや、あれこそプロレスですよ！（笑）。WWEをマネしたんだろうけど、ああいうスタイルがあってもいいと思いますよ。あんときは客が入らなかったけど、サップとホーストにプロレスをやらせてのは大したもんだと思います。ボクは面白かったですよ、見てて。

——たしかにウサン臭いし、〝何でもあり〟でしたからね（笑）。

柴田　これからもドンドンやってほしいね。というか、もっとやんないと！それこそ武藤が言うように、プロレスを見たことない人が全日本プロレス、もしくは他のプロレスに足を運ぶ良いきっかけになるわけだからね。ボクは肯定しますよ。

——『W-1』のようにエンタメを意識したプロレスが生まれた裏側には、やっぱりミスター高橋本の影響もあるとは思うんですが。

柴田　どうなのかなあ……？　ウチなんかは（あの本を）積極的には取り上げないけどね。いろんな考え方があるんだろうけど、プロレスをああいう風に捉えたら、面白くないでしょう。

——高橋さんは、プロレス界のために書いたと言ってるわけですけど。

柴田　どうなんだろうね。高橋さんは自分をやってきたことを否定することになると思うんだけどな。

——柴田さんは、高橋さんの本は読まれたんですか？

柴田　読みました。いやあ、そうだったのか！　って思いました（笑）。

——柴田さんでも知らない事実があったわけですね（笑）。

柴田　当事者の方が書いたんだから、それは説得力あるよねえ。実際に関わっていた方なんだからさ。でも、いまの若いファンの人は、プロレスがどういうモノかわかってるんじゃないの？

——どうなんでしょう（笑）。アジャ・コングとアルシオンの裁判でも、〝台本〟の存在が表に出たりと、各方面からカミングアウトがなされてるのは事実ですけど。

柴田　ただ、ネットとかにしても、書き込みをするのは相当なマニアが多いでしょ。サイレント・マジョリティ、声なき大衆じゃないけど、大部分の方は積極的に書き込みされるわけじゃないから。ウチはある程度わかってるファンを対象に記事を書いてますけど、やっぱりプロレスを知らない人に向けて書かないといけないところもあるんですよ。

——『東スポ』で週一連載している『週刊ファイトクラブ』なんかは、まさしくビギナー向けのバラエティ企画ですよね。

柴田　そうですね。あれはスポーツ特報部が担当部署になるんですけど、第2運動部とは違った視点でプロレスの魅力を伝えたいというのが狙いのひとつです。

——その『週刊ファイトクラブ』でやっていた、WJの旗揚げ戦や新日本vsZERO-ONEの5・2決戦の出口調査はかなり衝撃でしたよ！「WJ68％不満」「ZERO-ONE圧勝」とか、従来の『東スポ』からは考えれない記事じゃないですか（笑）。

柴田　いやいや、あれは見た人が言ってるんだから（笑）。

——ワハハハ！　いや、長州さんに「マスコミは『東スポ』だけでいい」と言われた『東スポ』に、あんな記事が載るとは思わなかったんで（笑）。

柴田　長州さんの、その言葉は有り難いですよ（笑）。素直に嬉しいです。

——でも、そこまで評価されながら、長州さんとは友好的な関係でもなかったんですよね。

柴田　そうなんですよねえ（笑）。健介の婚約を教えてくれたのは長州さんですし、「柴田、お前を櫻井康夫にしてやるからな！」って言われたりしたんですけど（笑）。

——ワハハハ！　思い切り友好的じゃないですか！

柴田　まあ、長州さんは真っ正面から行けばいろいろ話してくれますから。ハナから拒否されちゃうところもあるんでしょ。

——ズバリ、ウチですね（笑）。長州さんはWJになってからは、かなり丸くなったという話ですけど。

柴田　丸くなりましたよねえ。ウチの若手の記者が行っても話をしてくれるようになりましたから。以前は顔を覚えてもらうだけでも大変だったのに。

——やっぱり団体の長になった責任感もあるし……。

柴田　WJ、大変なんじゃないの（笑）。厳しいからさ、サービスしないといけないと思ってるんじゃないの。

——でも、WJが打ち出す仕掛けって新聞的にもファン的にも、古くさいところってあると思うんですけど（笑）。

柴田　ああ、ありますね。わたしもそう思います（笑）。

——やっぱり、永島さんのやり方がちょっとズレてるですかね？

柴田　そういう声が多いですねえ。ボクはなんとも言えないけど、その声は否定はできないよね。

——リキ＆ナガシマ企画名義で行われた『X-1』も、ファンの声はイマイチでしたよね。柴田さんは解説をやられたわけですけど、ご覧になってどう思われました？

柴田　実験の場としては良かったんじゃないかと。技術がまだまだ未熟な選手が多かったですけど、「殴り合い」「ド突き合い」というVTの原点が見れたんですから。

——金網が途中でブッ壊れたり、選手が金網に押しつけられる度にセコンドが必死に押さえてましたけど、身の危険を感じませんでした？（笑）。

柴田　いや、それはなかったですけど（笑）。まあ、第一弾なんでね、温かい目で見た方がいいんじゃないですか。

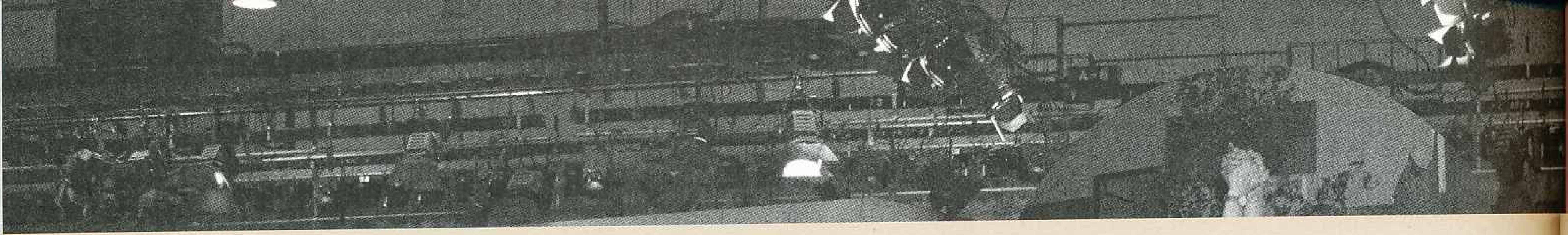
——第二弾も考えてるって話ですし、期待したいですよね。新日本もそうですけど、プロレス団体がVTをやることについてはどう思われてるんでしょうか？

柴田　プロレスとVTを同じ大会で一緒にやるのは無理があるんじゃないかなって思うけどね（笑）。別物なので、別の方がいいんじゃないかって。

——新日本「アルティメット・クラッシュ」が行われた5・2東京ドームでは、プロレスとVT、何が違うのかって説明もあったわけじゃないですからね。

柴田　本来は分けること自体がおかしいんだしね。「別物」と言いながら、分けるのはダメってのも矛盾した話だけどさ（笑）。まあ、挑戦するのはいいと

SHIBATA SOUITI



思います。結果が失敗だったら、すぐに撤退すればいいんだから。もしくは軌道修正すればいい。上井さんもいろいろ反発はあるだろうけど、いまはプロレス自体が低迷してるんですからね。何かを変えないことには浮上はできないと思いますよ。

――良くも悪くも大きな話題にはなりますもんね。中西さんのK―1敗戦しても、『東スポ』では「プロレス最強伝説崩壊」という緊急連載が始まったぐらいですし。

柴田　中西の負けは、一言で言えば残念です。それこそ、中西が努力してたことが全然出せなかったわけでしょ。腰も引けていたわけだしね。でも、プロレスファンは暖かいよね。中西は歓声で迎えられてるけど、罵声を浴びせて貶めるべきだったと思う。

――そこから這い上がる姿が見たいわけですし、あれで本人が満足しちゃうのが一番は怖いですよね。

柴田　たとえば、高山がなぜ評価されるかというと、負けてもボコボコになるまでやるわけですよ。船木のヒクソン戦、藤田のヒョードル戦にしても、負けたけど課程が見えたじゃないですか。それも見えないことには、ファンもつまらないと思いますよ。



90年代後半の『ワールドプロレスリング』を妖しく彩った、"ヒャッホー"辻アナ、柴田さん、マサさんという、まさしくゴー・フォー・ブロックな実況席!!　何が飛び出すか言い出すかわからないトリオである

――当然、紙面でも扱いにくいわけですよね。

柴田　筆が踊らないよねえ。ただ、ボクはTVで一歩引いて見てることもあるから、熱狂している現場の感想じゃないかもしれない。試合レポートなんかは、熱狂の中で書いた方が面白いかもしれないですね。

――最近、プロレスで熱狂してしまう試合ってありました？

柴田　……あんまりないんじゃない（笑）。どうですか？

――笑える試合は多いですけど（笑）。

柴田　一軒家プロレスとかも面白いけどさ、熱狂はしないよね（笑）。熱くなる試合はないなあ。

――そういえば、『東スポ』でプロレスがまったく一面にならないときもありましたけど、それは記者から見ても熱狂できるネタがなかったからですか？

柴田　それは社の方針としていろいろあるんです。要は一面にならなかったのは、プロレスじゃ売れなかったってことですよ。もちろん「売れる・売れない」だけじゃないですけど、大きな要素になりますから。最近は（プロレスネタの反響は）いいんじゃないですか。具体的な数字は知らないですけど、上から何も言われないってことは問題ないんですよ。

――最近では、K-1や『PRIDE』といった格闘技ネタも一面を飾ってますけど、反響も大きいんですよね。

柴田　サップが載ると売れますね。まあ、サップはプロレス大賞も取りましたし、話題もあって読者も興味があるってことですよね。

――サップのMVP受賞は画期的なことでしたけど、プロレス大賞って団体間のバランスが重視されてるように見受けられるんですけど。

団体の意向に添うなら解説をやる意味がない マサさんは独特だったけど（笑）

柴田　いや、それはたまたまですよ。大衆というのは、我々以上に移り気なものだし、それで人気があるってことはウケてるってことだから。当然の結果だと思いますよ。プロレス大賞は、かつては大仁田も取ったこともあるし、ウチは非常にオープンというか時代にあった柔軟性はあると思いますよ。

――もし吉田（秀彦）さんが『PRIDE・GP』で優勝したら、プロレス大賞の可能性もあるわけですか？

柴田　それはありますよ！

――プロレスの試合を一試合もしないでMVP受賞もある（笑）。

柴田　『PRIDE』は、グラウンドもあって総合的な闘いですから対象になります。K-1は立ち技だから対象には入りませんけど……どうなるかわからないな。流動的ですよね（笑）。

――とにかく話題性があればOKなわけですね（笑）。

柴田　そういうことです（笑）。去年、ボブ・サップに走らせたのはプロレス界の努力が足りなかったからです。でも、それにやっと気付いて努力し始めてますよね、どの団体も。

――柴田さんから見て、今年のプロレス大賞って誰になると思います？

柴田　プロレス大賞は、今年でちょうど30周年なんですよ。記念すべき回だけに盛り上げていきたいんですけど、今年は小橋か高山かな。やってることは互角だろうけど、このままいったら話題性がある高山じゃないかな。

――高山さんは紙面を割きやすいコメントをしますしね。

柴田　小橋も優等生な発言もいいけど、もっと頑張ってほしいよね。

――サウナでのダンベル特訓とか、『東スポ』的な頑張りですね（笑）。

柴田　そう（笑）。ノアさんはものすごくいい試合をするんだけど、なかなか紙面にしずらいんだよね。小橋も三沢や秋山も、レスラーとして凄く評価してますよ、ボクは。だからこそ、余計にもったいないなと思いますね。秋山にしてもG1に出るときは1面にドーンとなるんだけどさ。

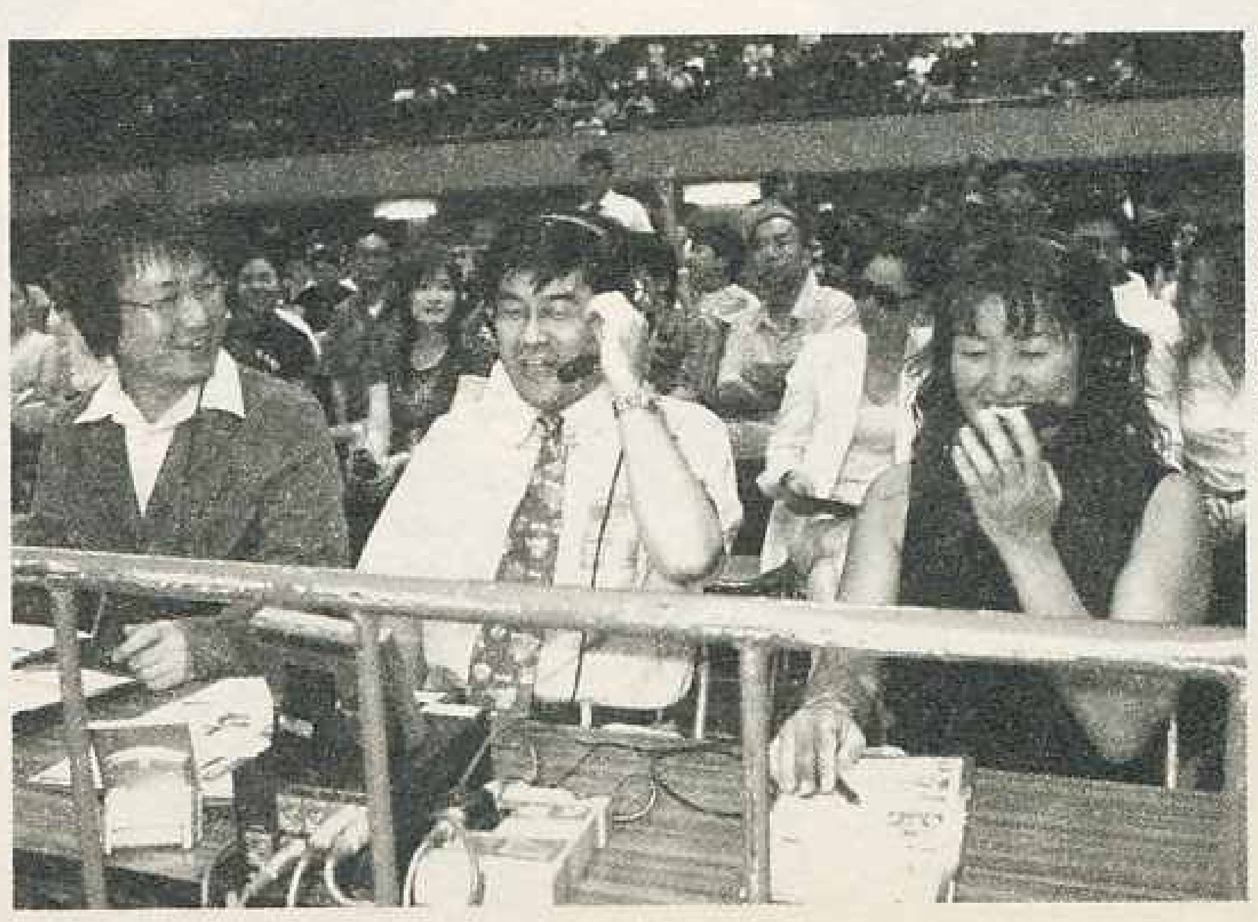
――そういう意味では、高山さんもそうですけど、蝶野さんなんかも紙面映えのするレスラーですよね。

柴田　彼の喋りは面白い。けど、執行役員になってからつまらなくなったね。守りに入るな！　攻めの役員になれ！って思う（笑）。

――昔は、新日本の「金に汚い役員どもを電流爆破に突き飛ばしてやる！」とか、藤波社長を「無能社長！」「プロレス界追放！」って、本音混じりに罵倒してましたからね（笑）。

柴田　ハハハ！　いや、いまの彼の立場もわかるんだけど、それでも蝶野には面白いことを言ってくれる期待があるからさ。毎日、ウチの紙面を独占してほしいよ！

――他に、紙面映えするレスラーって



柴田さんは「X-1」の実況席にも登場！　WJの旗揚げ戦も解説を務めるなど、PPV放映されるWJのビッグマッチで起用されることが多い。ちなみに北斗晶は中嶋君の試合のみ特別解説した

女子格闘技
Girls SHOCKⅡ
9・7 北沢タウンホール



スマックでは連敗街道を
突き進んできた金井広美
だったが、なんと名門・



誰かいますか?

柴田　天龍さんも面白いですね。生で聞いてるともっと面白い。紙面ではあんまり書けないようなことを言うんだよ（笑）。

——お兄さんが芸人である吉江（豊）さんなんかも、実はかなり面白いと思うんですけど。

柴田　吉江も面白い（笑）。あと中邑（真輔）とかにも期待したいけど、最近ウチのイチ押しは西村なんだよね（笑）。

——西村さんの「安田、お前は悪じゃ!」「負けたら人間やめろ!」と語る、宗教チックな無我マイクは面白いですよね（笑）。こないだは成田空港の搭乗口でヨガの座禅ポーズが載ってましたし。

柴田　やってたね（笑）。新日本って意外と自由にやらせてくれるから、みんな面白いんだよね。

——社長の藤波さんからして最高ですからね（笑）。

柴田　藤波さんもいろいろ喋ってくれるけど、いまは会社からストップが掛かってるみたいでね。

——最近、藤波社長のコメントが控えめなのはそういう理由だったんですか！　社長室の入り口に「社長のコメントは広報を絶対に通すように!」と張り紙されてることは聞いてたんですけど（笑）。

柴田　なかなかインタビューをさせてくれないね。会社通すと面倒くさいから、「直に話を聞いてこい!」って言ってるけど。

——それにしても、新日本は離脱者が相次ぎましたけど、いまだに人材の宝庫ですね。

柴田　そうなんだよねえ。あんだけ選手が出ていったのに、次から次と面白い奴が出てくるんだよ。そういう土壌があるんじゃない。先輩が自己規制しないんだから、後輩もそう育つだろうしね。

——かつてだったら、橋本さんの付き人になったら若手は確実に感化されますよね（笑）。

柴田　ハハハハ!　三銃士ってのも相当面白かったからね。武藤もかなりスマートだしさ。彼らの全盛当時に現場に入れたのは嬉しいですよ。長州、藤波、タイガーマスクがいた当時はどこも超満員だったけど、三銃士がいたころも本当に凄かったからね。



しばた・そういち／1958年生まれの45歳。子供は2人。『東京スポーツ』勤続21年を誇るベテラン記者である。『ワールドプロレスリング』解説者としても活躍し、いまでもWJのPPVビックマッチの実況席などに顔を出している。柴田さんは「ミッキーマウスが大好き」とのことで、そのミッキーLOVE振りはネクタイにも表れている

ダマされる……じゃなくて、思わず買ってしまう見出しを期待してください（笑）

——東京、大阪、名古屋、福岡の四大ドームツアーをやったりと、いまでは考えられないぐらいの景気の良さでしたよね（笑）。

柴田　1回目の高田vs武藤をやったときの東京ドーム。あんときなんて、団体関係者がボクに「チケットないか?」って聞いてくるぐらいの人気だったんだからね。

——ドームから水道橋駅まで前売り券を買うファンの行列が並んだり、Uインター側にもまったく招待券がなかったって聞いてますよ。

柴田　あと猪木さんの引退試合。あのときも凄かったよ。ホントに売れたのは、あれが最後じゃない?

——ホントに売れた、最後の興行ですか（笑）。

柴田　フフフ（笑）。最近はちょっと寂しいよね。野球をのぞけば、東京ドームで年に何回もやれるスポーツなんかないんだからさ。もっと頑張ってほしいよ。

——そのカギを握るのはどの団体になりますか?

柴田　やっぱり新日本だろうね。なんだかんだ言っても（笑）。

——今はかなり面白くなってますからね。ZERO-ONEに可能性は見えないですか?

柴田　いまは橋本がケガしてることもあって、団体の方針が決まらないからね。大谷とかも頑張ってるんだろうけど、今後どうなっていくのか展開が見えないところがあるよね。

——『東スポ』の一面にもなりましたけど、小川さんもハルク・オーガンになったり頑張ってますけど（笑）。

柴田　小川もね、あそこまで開き直れたっていうのは凄いと思う（笑）。ボクはもう一回、VTに戻ってきてほしいんだけど。

——ただ、『PRIDE』やK-1の格闘技は興行にタイムラグが出てくるから、連日報道できるプロレスと違って新聞的にはやりづらいですよね。

柴田　引っ張りづらい部分がありますよね。カードが決定したり、大会直前にならないと難しい。

——K-1のタイソンvsサップなんかは闘わなくとも、あと1年ぐらいは引っ張れそうですけど（笑）。

柴田　そうだよねえ（笑）。ぜひサップとやってほしいけど、タイソンがどういう契約書にサインしたのか心配。猪木さんのときよりはページ数が多いって話だけどね（笑）。

——猪木さんより、ってのも不安ですよ（笑）。

柴田　まあ、面白ければ、ウチはドンドン取り上げますよ!　ウチは宅配よりも即売。面白くなければ120円払って（スタンドから）引いてもらえないわけですからね。

——その基点になるのは〝面白さ〟なんでしょうか?

柴田　いや、要素として重要だけど、買って頂ける紙面です。読者のニーズも変わってくるわけだから、それに敏感に察知していきたいですね。それはプロレスや格闘技も同じだと思うよ。いまは格闘技に人気があるからって、みんなそっちに行くんじゃなくて本来のプロレスの面白さを追求してもらいたい。UWFがブームのときに大仁田が出てきてたりさ、必ず反対方向に揺れ戻す。読者は厳しい目を持ってるし、移り気なんだよね。

——『東スポ』が担う役割も大きいと思いますので、今後も面白い紙面づくりを期待しています!

柴田　みんながダマされる……じゃなくて、思わず買ってしまう見出しも期待してください（笑）。

——ワハハハ!　今日はありがとうございました!（笑）。

【03年9月某日／都内某所にて収録】



大・成・功!

シャケも吹っ飛ぶ凄まじさ!

破壊なくして創造なし!

プロレス一軒家、見事ブレイク

すでに1ヶ月以上経ってしまっているが、8月21日、後楽園で行われた『一軒家プロレス～グレート小鹿邸新築披露デスマッチ～』の評判がメチャメチャいい。観戦した人、誰もが「観に行ってホントに良かった」と満足げな顔で語っていた。一軒家プロレスの何がそんなに面白かったのか？　この大会を目撃した3人の男が感じた、一軒家プロレス観戦記!

構成／松澤チョロ　撮影／平工幸雄　designed by Tani-Yan (Two three)

めなのはそういう理由だったんです

も超満員だったけど、三銃士がいたこ

――ただ、『PRIDE』やK-1の格

【03年9月某日／都内某所にて収録】

三者三様「一軒家プロレス」観戦記

太日本ウォッチャーが見た一軒家プロレス
イナズマ★K

大日本に神風が吹いた！

この日のホールを観に行った人はプロレス史に残る伝説を目撃した……って言い過ぎな感もするけど、それくらいのインパクトがこの日の後楽園ホールには巻き起こったのだ。でも観てない人には何が凄いかサッパリ分からない一軒家プロレス。その概要からまずはおさらいしよう。

一軒家プロレスのきっかけは、かつてビデオ安売り王から出ていた、テリー伊藤製作の元祖バックヤードレスリング的なプロレスビデオシリーズ（他には『大銭湯プロレス』『商店街プロレス』がある）の中から『一軒家！　家庭内暴力デスマッチ』を実際にやってしまおうという所がスタート地点。

『マネーの虎』でもおなじみのソフト・オン・デマンド社長・高橋がなり氏から、デスマッチ用の3千万の家をプレゼントされた大日本プロレスのグレート小鹿。会見で「せっかくの家だし何ヶ所か回って」という小鹿の発言に「だから商売がヘタなんですよ！　一回で壊さなきゃ！」と一喝し、いきなり虎っぷりを発揮のがなり氏。その意気込みからも何かが起りそうな予感がプンプンでしょ。

家は後楽園ホールに2日間かけて建設。大日本の沼澤邪鬼は、SODの人気ビデオ〝全裸シリーズ〟に敬意を表し、全裸で釘打ちと、早くも臨戦体勢だ。



そしてこの日の後楽園は確実にありえない空間と化していた。北側客席部分に小鹿邸がデーンと構えているのだ。格闘技の聖地が一転、リングもない住宅展示場状態。家の中の闘いが見れるように、小鹿邸の左側には大きなモニターを設置。実況席の声も場内に聞こえる様になっている。通常とは違った演出だけにこれが大いに役立った。

さてストーリーは、夢の一軒家を手にした小鹿社長が、いきなりやってきた非道たちに「一軒家争奪戦をやらないと家をブッ壊す！」というムチャな挑戦を叩き付けられ、それを受けて立つという所から試合開始。

まずはキッチン争奪マッチ。シャケ、カニをブン回し大暴れするマッドマン・ポンドに、納豆まみれでKOされるアブドーラ小林。「バカヤロ、明日から飯どうすんだコノヤロウ！」との小鹿の激も虚しくキッチン差し押さえ。続くサンプラスと弁慶のトイレマッチも、弁慶が便器で失神KO！「明日からウンコどうすんだ？」と嘆く小鹿。

残るはリビングと2階を戦場とした高低差デスマッチ。伊東竜二&メンズ・テイオー vs 非道&トゥー・タフ・トニーは、家中ことごとくブッ壊す、もうヒッチャカメッチャカな壮絶バトルを展開。

笑えるけどアメージング！　一軒家プロレスは最高のプロレスだ!!

最後は家から放り出され、リングアウトならぬハウスアウト負け。家から転がり客席寸前で砕けた（奇跡のようでした）高価な壷から出てきた権利書と、外の物置きをタテに、家を奪い返すことを決意する小鹿軍。祝杯をあげる非道軍に奇襲を仕掛け、全軍入り乱れる大乱闘がスタート！　劣勢の小鹿軍に残る大日本勢の山川やWX、裸にヘルメットの関本らが駆け付け、なぜかひたすら家をブッ壊すというデタラメな展開が。もはや狂乱のメンズ・テイオーはタンスをブン投げ玄関破壊！　選手全員、闘いと破壊で渾沌とする中、急成長中の伊東竜二が2階からのダイビングボディプレスでフィニッシュ！　見事ボロボロの家の権利を守ったのだ。

どうですか!?　こういう企画だと、ショボさとダメダメ感が出がちだけど、意外なほど頑丈な家と、全員の吹っ切れたメチャクチャさに抜けもあり、かなりの爽快感だ。

これまで、大日本に一番欠けていたディテェールの甘さとテンポの悪さが、外部プロデュースを得て解消。それと大日本が今まで培ってきたハチャメチャさが見事に融合、全てがプラスに働き、笑えるけどアメージングというショーへと見事に開花したのだ。

格闘技やWWEと比べてとか、そういった枕詞がどうしても付いて回った日本のプロレスで、久々にそういうことを考えさせないものが見れたっていうのは、まだまだ日本のプロレスも可能性は残されてるっていうのを垣間見れた瞬間でもあるんです。

エニウェアフォール的なハードコア・マッチが定着した現在、家ごとブッ壊すというさらに一歩踏み込んだ世界。とにかくシュチュエーションの凄さは圧倒的。人間が誰しもが持つ破壊衝動や、大惨事の現場を見たいという野次馬根性のスイッチを完全に入れられてしまった。お客さんも終了後、妙にはしゃいだ空気になってたのはきっとそのせい。いや～テンション、アガった。日常にはない異空間を体験するのがプロレスと言うのなら、これは間違いなく最高のプロレスだ！

「ドームに江戸城を作りましょう！」なんて小鹿社長が言ってたけど、ぜひやってほしい！　お願いします、がなり社長！

今年中には第2弾もあるかもなんていう話もチラホラあるし、次の機会があるなら確実に目撃すべし!!

格闘家が見た一軒家プロレス
滑川康仁

『紙プロ』 iモードサイトで知った「一軒家プロレス」に興味を持って、それに『紙プロ』のチョロさんにライターとして誘われたので会場に足を運びました。

僕はリングス入門前はプロレスも格闘技も、どちらも大ファンで浜口ジムに入門するために実家の茨城から上京してからは何度もプロレスを見に行きました。その中でも強烈に記憶に残っているのは、当時、同じ浜口ジムに通っていて、現在は全日本プロレスの本間選手と見に行った両国で行われた新日本のG1クライマックスです。

長州vs橋本戦で片ヒザをついた長州さんの胸に橋本さんがキックを入れたときに『バシッ!!』っていう音とともに僕の胸にキックの振動が響きました。「プロレスラーはやっぱりスゲェ！」と思い知らされました。

僕がプロレスを初めて見たのは高校2年の2月に地元の北茨城市体育館にW★INGプロモーションの旗揚げシリーズが来たときです。そのときはディック・マードックがタッグマッチに出たんですが、彼は出番までリングサイドでジャンバーを着てたので、そんなもんなのかなと思いました。休憩時間に『ジプシー・ジョーのサインがもらえますよー』の声に引き寄せられサインをもらいました。プロレスラーにサインをもらうのはジョーさんが初めてだったんですけど、嬉しかったなぁ。

他に印象に残っているのは金村選手の太ももの太さとアイスマンが二階からバスケットコートのゴールに乗ってから飛び降りたことです。二十歳の頃にもNOWが来て見に行きました。そのときは冬木軍がカッコ良かったっていう印象が残ってます。外道さんの声もカッコ良かったし。あと、僕が初めて生でUスタイルの試合（田中稔vs小坪弘良戦）を見たのがその日です。

北茨城市体育館には僕が小学3年生のときにも新日が来て、それを見に行くのを楽しみにしてたのですが、その当時ファミコンが欲しくて両親と何度もモメて、やっと買ってくれる約束を取り付けたので新日に連れていってもらうのは悪いと思って親に「我慢する」と伝えて行くのを止めました。

でもその日がパンクラスの船木さんのデビュー（vs後藤達俊）の日だったと何年後かに知り、行けば良かったと今でも後悔しています。

あ、肝心の「一軒家プロレス」からだいぶ話がそれてすいません。正直言って「一軒家プロレス」は、もの凄く面白かったです。見られなかった人は本当に可哀想だと思います。開催を知ってから僕も「一軒家プロレス」をやってみたいと思ったのですが、ガラスが飛び散ったり、納豆を頭からかけられているのを見たら僕には無理だと気づきました。それに有刺鉄線で背中を傷つけたらお風呂に入るのも大変そうだし、大体、伊東選手のように有刺鉄線を体に巻きつけて2階からのダイブなんて僕には絶対無理です。この日の「一軒家プロレス」を見て、改めてプロレスラーは凄いと痛感させられました。

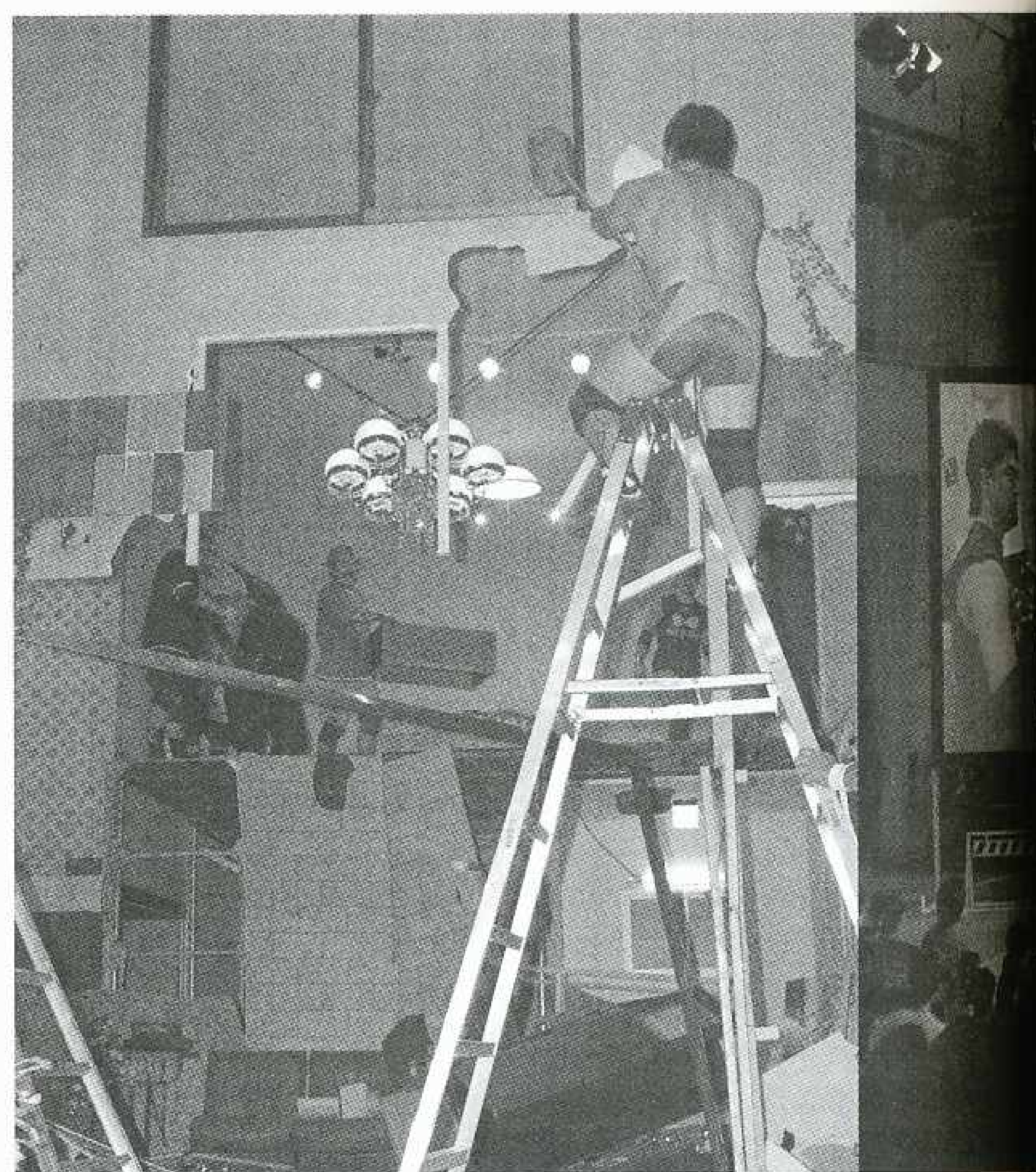
話は変わって僕の話になります。11月1日に韓国での復帰戦が決まりました。ブラジリアン・トップチームの選手（ファビアーノ・カポアニ）とやるのは初めてなんで今から楽しみです。最初、佐伯さんには「キックの選手だからテイクダウンとればドントムーブもありだし、落ち着いて押さえ込めば勝機はある」と言われたのですが、とんでもない！　あとで発覚したんですが彼はブラジリアン柔術の強豪でした。それにドントムーブもなしです。でも、やるからには、もちろん勝つつもりでやります。

また自分ごとなのですが、僕が凄く尊敬していた祖父が先日亡くなりました。亡くなる前日に隔離病室で祖母と2人で祖父のそばに座りながら症状のひどさを見ることしかできなかったのですが、その時の気持ちはどうやって説明していいかわからないぐらいで、その時間は生涯で忘れられないと思います。。亡くなったことを知ったとき、普段は泣かない自分ですが二十年分くらいの涙を流してしまいました。

祖父は篠原八郎といい、味噌屋と農業を兼業しながらいろいろな分野で精力的に活動していて、地元では知られた存在でした。頼まれごとをされたら私財を削ってでもやり通す人で、近くの山の神社にも私財を投じてみんなが参拝しやすいように設備や石碑などを立てたりもしました。あとは仕事の斡旋や結婚の相手探しを頼まれることが多くて結び付けた夫婦は30組以上だったそうです。地元警察署とかからの信頼も厚く、葬儀には国会議員の梶山先生や県会議員や市会議員の先生方、そして日立市長、高萩市長、北茨城市長、十王町長の方々が来てくださり、さらには茨城県知事から電報も頂いたりと、花や来てくれた人の多さに祖父のいろいろな方々からの信頼の厚さを見て改めて尊敬しました。偉大な祖父に、僕も一歩でも近づきたいと思っています。

韓国での試合は祖父のために、そして仲良しだったジャイアント落合のためにも、必ずいい試合をして天国に報告したいです。

PS・葬儀のあと、夜通しで東京に帰ってきて、ほとんど寝ずに9月15日の『DEEP』大田区大会のPPV解説をしたのですが、会場の暑さと試合の熱さで大変でした。でも、一緒に練習することもある長南がマッハ選手相手に素晴らしい試合で勝利を収めたのを見て、さらに気合いが注入された気がします。僕も長南に続きたいと思います。復帰戦を期待していてください！



総工費3千万円と言うだけあって小鹿社長の新居はかなり立派なものだった。しかし数時間後には見事に破壊。この一軒家プロレスの模様は『サムライTV！』で10月初旬に放送予定。要チェック！

『紙プロ』読者が見た一軒家プロレス
神奈川県 BUGGYさん

バカなりに世間に討って出て、おまけに目ン玉飛び出る興行というのは、こういったことなのだろうか？　正直、試合内容や破壊方法、そして家の強度など問題は数々あり、後楽園ホールを後にしてJR水道橋へ向かう最中は「60点」だと思ったが、いつものように試合後、居酒屋で話していると異常なほどに話が膨らみ「語れる興行」となった。

「もしZERO―ONEがこれを行ったら？」

「西村は無我的破壊を見せてくれるのか？」

「中西が再浮上するにはコレだ！」

「リック・フレアーならば1人でも試合を成立させることが可能」

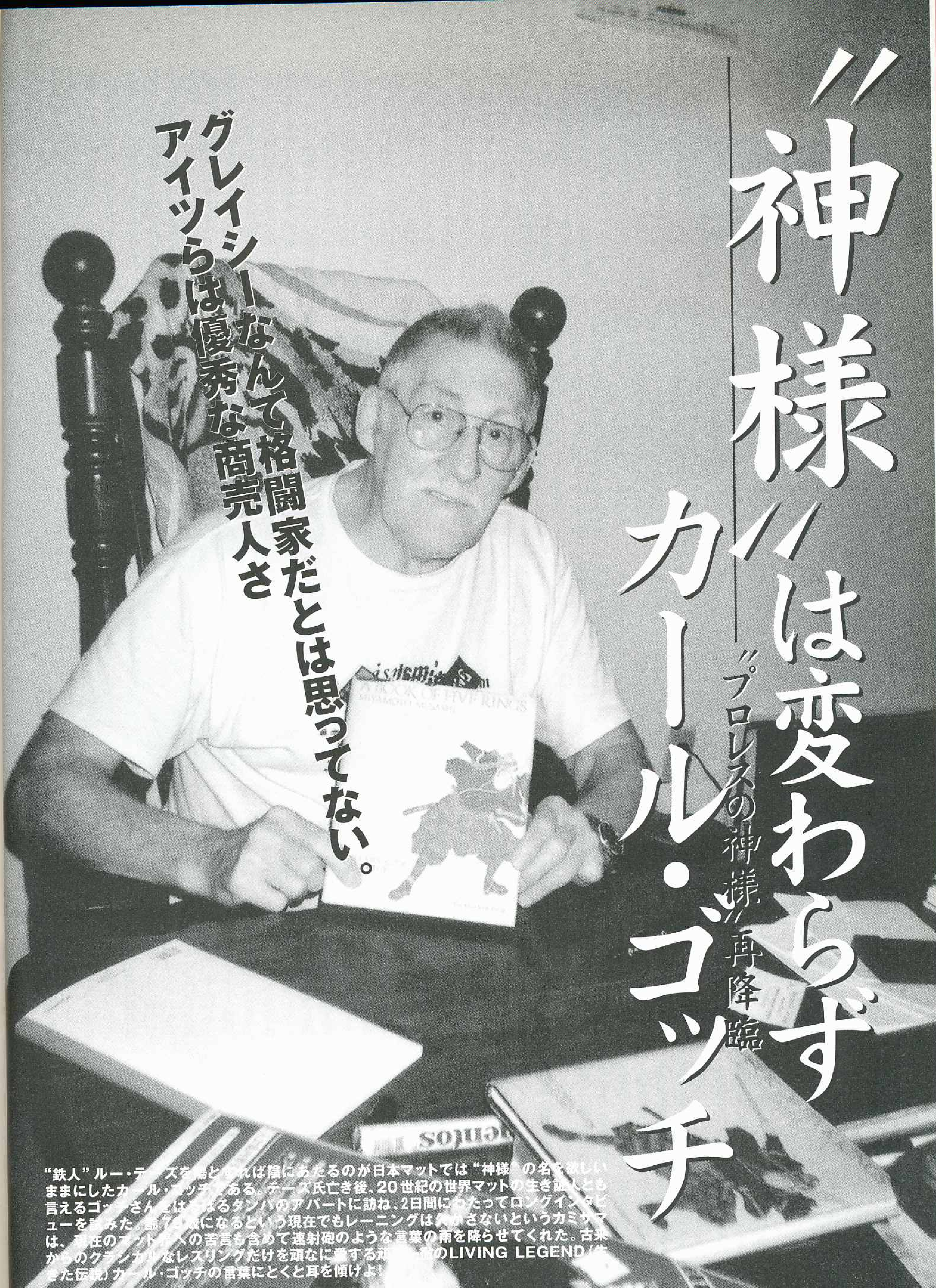
など、妄想は尽きない。これぞ語れる上に次も見に行きたくなる興行だ。

音楽の世界ではスタイルの解体&再構築が進化に繋がるように「破壊なくして創造なし」は、ここでも感じることができた。

真面目なプロレスファンから見れば一見無駄な興行に見えるかもしれないが、いつの時代も時代を変えるのは「変なモノ」だ。

あのエルヴィス・プレスリーだって、最初は、あの腰つきが下品とされていたのだから。

これからは大晦日に一軒家プロレスで一年のストレスを発散させよう！



“神様”は変わらずカール・ゴッチ

“プロレスの神様”再降臨

グレイシーなんて格闘家だとは思ってない。アイツらは優秀な商売人さ

“鉄人”ルー・テーズを陽とすれば陰にあたるのが日本マットでは“神様”の名を欲しいままにしたカール・ゴッチである。テーズ氏亡き後、20世紀の世界マットの生き証人とも言えるゴッチさんをはるばるタンパのアパートに訪ね、2日間にわたってロングインタビューを試みた。齢78歳になるという現在でもトレーニングは欠かさないというカミサマは、現在のマット界への苦言も含めて速射砲のような言葉の雨を降らせてくれた。古来からのクラシカルなレスリングだけを頑なに愛する頑固一徹のLIVING LEGEND（生きた伝説）カール・ゴッチの言葉にとくと耳を傾けよ！

聞き手＆撮影／[illegible]道 猛　構成／松澤チョロ　designed by Tani-Yan（Two three）

Roomナンバー3113のベルを2回鳴らすと、いきなり"神様"カール・ゴッチその人が現れる。タクシーの運転手と2人でゴッチ宅を突き止めるのに苦労しただけにこの時の感激はひとしおだった。

――はじめまして！ プロレスの神様カール・ゴッチにお会いして直接お話ししを伺うべく、日本から参りました。

ゴッチ それはそれはご苦労だったね。私はご覧のように今はリタイアして悠悠自適の生活さ。妻のエラがガンで死んでからもう8年になるか。愛犬のジャンゴも今年の3月に死んでしまったよ（と言って遠くを見つめる）。

――あぁ、そうだったんですか。何か、エラ夫人との思い出を語っていただけませんか？

ゴッチ エラとは幼なじみで20そこそこで結婚して以来ずっと一緒だった。いつも微笑みを絶やさない優しい女性だったよ。彼女の遺灰を大事にしまってあるんだが、私が死んだ時に一緒に埋めてもらおうと思っているんだ。

――ということは現在は一人暮らしをされてるわけですね。

ゴッチ そうだね。友人と呼べるヤツもこの近くにはほとんどいないんだ。

――いまは、どういう生活をされているんですか？

ゴッチ いたってシンプルなもんさ。朝起きて自分の朝食を作って食べるとトレーニングさ。

――79歳というお年で、今なおトレーニングは続けているんですね。

ゴッチ もちろんだ。キミも知っているだろう？（私が昔から言っているように）"ヤング・マン・シュッド・トレイン、オールド・マン・マスト・トレイン"（「若者はトレーニングするものであり、老人はトレーニングしなければならないものだ」）っていう言葉をね。今でも1時間半から多いときは2時間くらいは日々の鍛練は欠かさないさ。まあトレーニングのメニューはプッシュアップ、スクワット、（相撲の）テッポウといったごく簡単なものだけどね。



ゴッチさんがリング上で見せるポーズは、よくヒットラーそっくりと言われるが、元々はドイツ人が手を上げて"クラフトハイル"（力万歳！）とやる習慣に端を発する。それをヒットラーが有名にしたというのが真相

――さすがはゴッチさんですね。今は日本マット界ともほとんど交流はないんですよね？

ゴッチ フジナミ（辰爾）からはしょっちゅう「来てくれ」って頼まれているんだが、今の私では理想とするコーチ業は無理だろうからね。

本当に弟子と呼べる選手？ フジワラ、キド、フジナミの3人だね

――いやいや、そんなことはないと思いますよ。

ゴッチ いや、今の私では金をかすめとるようなもんだよ（苦笑）。それに私は完璧主義者なので正しい指導が出来なければ何もやらない方がマシだと思っているんだ。そういえば、こないだニュー・ジャパンの若手でナカムラ（真輔）っていうヤツが来たかな。それからここ（タンパ）に住んでいるニシムラ（修）が何度か来て、一緒に食事をすることがあるぐらいだよ。

――ゴッチさんから見て西村選手は、どう評価されているんですか？

ゴッチ ニシムラはナイスガイで英語も達者だ。彼は私のことをへりくだって「ミスター・ゴッチ」なんて言うんだが、私は逆に「気安くカールって呼んでくれ」って言ってやるのさ（笑）。

――ちなみにパンクラスのTシャツを着ているのは、やはり顧問だからということですか？

ゴッチ いや、これはただ向こうが送ってきたんで着ているだけさ（笑）。

――あ、そういうことでしたか（笑）。

ゴッチ まあスズキ（みのる）とは、まだグッド・フレンドとして付き合っているけどね。

――ゴッチさんは、これまで多くの日本人選手をコーチされてきましたが、本当に弟子と呼べる選手は誰ですか？

ゴッチ フジワラ（喜明）、キド（修）、フジナミの3人だね。

――マイ・サンはその3人だと？

ゴッチ YA！ それからマエダ（日明）もグッドだ。その中でもベストと言えば、やっぱりフジワラだろう。彼は私の教えたことを一番正直に反復して自分自身のモノとして習得するまでの域に達した。人はただ知っているだけではダメなのさ。それを本当に自分のモノとするまではね。

――猪木さんはどうですか？

ゴッチ イノキはビジネスマンさ。彼は金を追い求めて結局間違った道を歩んで行ってしまったのさ。彼みたいな人間は"12トレイド、13アクシデント"（【全体の25の内】12が商売欲で残りの13が偶然の仕業）って言うんだよ。

――でも昔実際に肌を合わせ何度も闘ってきたゴッチさんとしては、やはりレスラーとしての猪木さんは評価しているんじゃないですか？

ゴッチ それについては答えるべきではないだろう。……キミは少し（余計なことを）訊き過ぎるね（苦笑）。

――失礼しました（笑）。では、かつてはヨコハマ・キッドと言って目をかけていた高田さんや船木さんはいかがですか？

ゴッチ タカダ？（鼻が高くなった仕草をして）彼はテングになってしまった。私はこのトシでもまだ学んでいるんだよ。もうこれで十分なんてことがあるはずがないじゃないか。彼のように金が入っていい車を乗り回して、物質的な生活を追いかけるようになったらレスラーとしては堕落の始まりなんだ。そういう意味ではフナキも悲しいかなビジネスマンになってしまったひとりだ。

――その高田、船木を打ち負かしたグレイシー柔術ですが……。

ゴッチ （遮って）グレイシー柔術なんてインチキさ。

――グ、グレイシーはインチキですか？

ゴッチ （興奮して）"ジュウジュツ"とは何だい？ 日本古来からの護身術じゃないか。それを頭に"ブラジル式"なんてつけて"ブラジリアン柔術"なんて笑わせるなよ。言ってみれば「スペイン式闘牛」とか「イギリス式サッカー」なんて言うようなもんさ（笑）。単に商売の種にしているだけだろう。

――ヒクソンは高田戦、船木戦で最低でも1億以上のギャラを手にしたと言われ

てますからね。

ゴッチ （首を振りながら）……信じられない。アイツらは格闘家じゃなく立派な商売人だね。グレイシーとはコマーシャルのことじゃないか？

—グレイシーはコマーシャル（笑）。

ゴッチ まあそうやって彼らは大金を得ているんだから、彼らが正しくて私の方がバカなのかも知れないよ。なぜなら金のことで言えば私は文無しだからね（苦笑）。でも技術的には別にヤツらには何があるわけでもない。ハッキリ言うとナッシングだ。

—ナ、ナッシングですか？（笑）。

ゴッチ YA！ そのナッシングに負けたヤツっていうのは悲しいかな2倍ナッシングだっていうことさ。

—2倍ナッシングですか（笑）。でもゴッチさんはグレイシーの話題になると途端に熱くなりますね。

ゴッチ 私が本当にグレイシーの価値を認めるなら「いいものはいい」とハッキリ言うさ。でもヤツらのフィニッシュ・ホールドなんてチョーク・スリーパーかアームバーしかないじゃないか。もうひとつアイツらの寝っ転がったザマ（ガード・ポジション）は、人呼んで〝ホアー・ハウス・ホールド〟（売春宿固め）だ。ハッハハッハッ。それにヒクソンと闘った時のフナキは言ってみればフナキのシャドー（影）だったんだ。まあグレイシーなんて、私が現役なら手を使わずに尻だけで闘ってやるよ。

—し、尻だけで闘いますか？（笑）。

ゴッチ （顔を真っ赤にして）もし闘ったら2分もかからずにトーホールドで足を折ってKOしてやるところさ。アイツらが二度とリングには上がれないようにね。

—そのシーンはゼヒ見たかったです（笑）。

ゴッチ アイツらを負かすのなんてわけないさ。私のグランドマザー（祖母）でも勝てるほどの相手なんだ。

—わ、わかりました（苦笑）。では、これまでゴッチさんが対戦したレスラーで一番強いと思ったレスラーは誰になりますか？

ゴッチ バート・アズラディ（イギリスのアンコ型の伝説のレスラー）だね。バートはパワーハウス（発電所）というに相応しい男だ。それからビリー・ジョイス。彼の強さはサイエンティフィック（科学的）だったね。彼と同じ〝蛇の穴〟（ビリー・ライレージム）のビリー・ライレーはグッドレスラーではあったが、ジムの経営の方ばかりに忙しくて何も教えてもらえなかった。私がコーチしてもらったのはブラザーのジョーの方さ。

—〝蛇の穴〟と言えばビル・ロビンソンがいますが……。

ゴッチ ロビンソンとは一緒に練習したことなんてないよ。ヤツがジムに来たのはずっと後のことさ。日本では北海道やなんかで闘ったことがあるがね。

—昨年亡くなったルー・テーズについてはやっぱり強かったんですよね。特に日本ではルー・テーズ、カール・ゴッチというふたつの名前はプロレスファンの間では神格化していますが。

ゴッチ テーズはセントルイスにオフィスを構えてNWAというビッグ・プロモーションに支えられいたチャンプだったんだ。それからサブミッションの技術もなかった。アメリカの真のチャンピオンは（テーズの師であった）エド・ストラングラー・ルイスさ。ルイスこそアメリカでレスリングをビッグにしたレスリングの父なのさ。ルイスは5回チャンピオンになったが、それは自力で勝ち取ったものだが、テーズが6回チャンピオンになったのは与えられたものさ。プレゼントとしてね。

—プレゼントでしたか（笑）。

ゴッチ YA！ テーズはオフィスでボスの言うことを聞いてチャンピオンでいられたのさ。アメリカでは徒党を組んでいないと生きていけないってことさ。よく人は簡単に〝シュート〟なんて言うけど〝シュート〟じゃなくて〝シット〟（糞！）の間違いじゃないのか？（笑）。

—シュートじゃなくてシットですか（笑）。つまりサブミッションに関してはゴッチさんの右に出るものはいなかったということですか。

ゴッチ みんなテーズにしろロビンソンにしろ口だけで関節技の使い手だなんて言っているが、そうやって口だけで伝説が生まれていくんだ。彼らは口で吹聴しているだけさ。人がやっているのを見てそれをコピーしてそれでこと足れりって言っているんだよ。技術を学ぶためにはジムに通って長い時間をかけて練習しないことには始まらないからね。技を習得することはそんなに簡単なもんじゃないよ。サブミッションは奥が深く、もともとは古来ギリシャのパンクラチオンの時代にまで遡るものなんだ。プラトンとかピタゴラスといった大哲学者たちはオリンピアに出場したレスリング選手だったんだよ。アルキメデスが言うようにテコの作用により地球でも動かすことが出来るってわけさ。こうやって（と、筆者の体を取って実際に実演して）手でも足でも極めることができるのさ。

—アタタタタ！

ゴッチ サブミッションに必要なのはパワーじゃないんだ。バランスとタイミングさ。「最小の動きで最大の成果を！」これがサブミッションの掟さ。

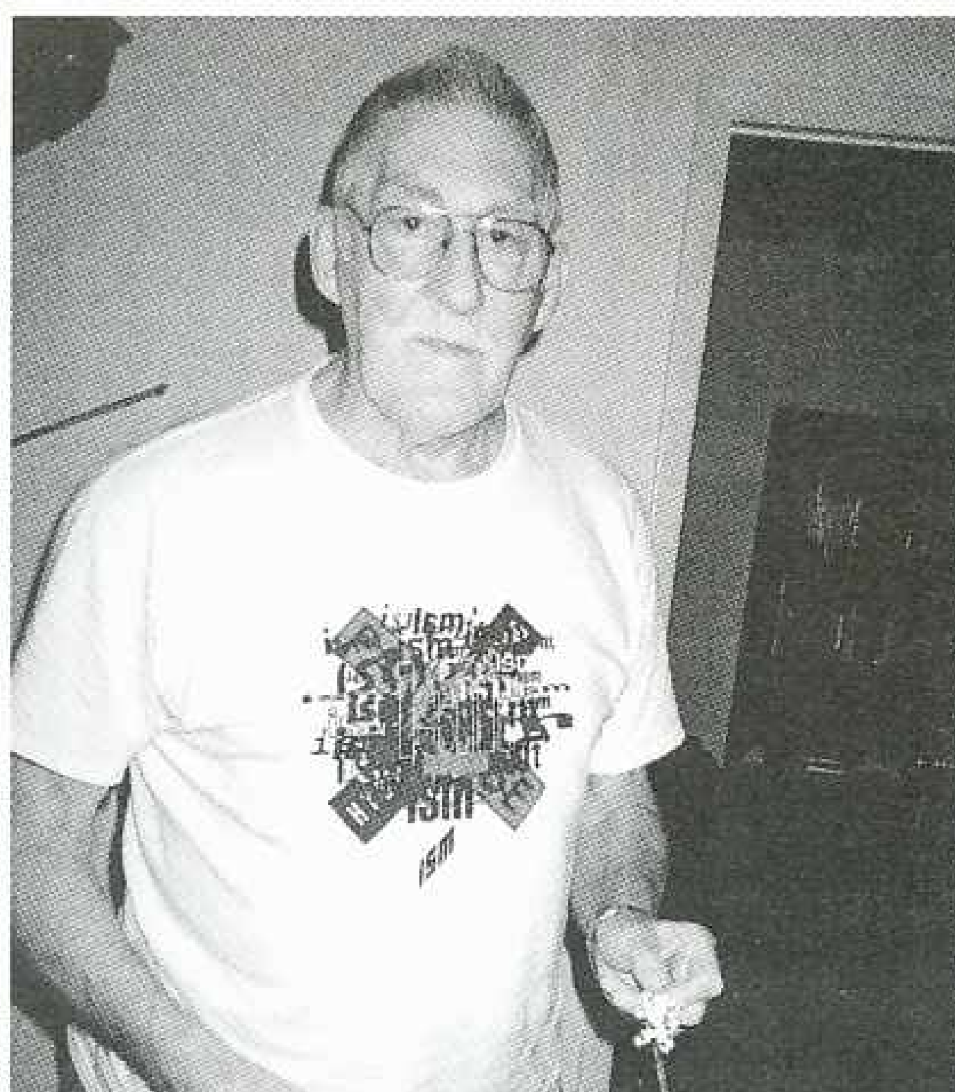
—そうですか。話は変わりますが、アメリカマットではゴッチさんはドン・レオ・ジョナサンからAWA王座を奪取しましたよね。

ゴッチ その後、誰も挑戦したがらずにそのまま王座を返上しなければならなかったがね。よくアメリカは〝ランド・オブ・ドリーム〟（夢の大陸）と呼ばれるけど、私にとっては〝ランド・オブ・ナイトメア〟（悪夢の大陸）だったね。

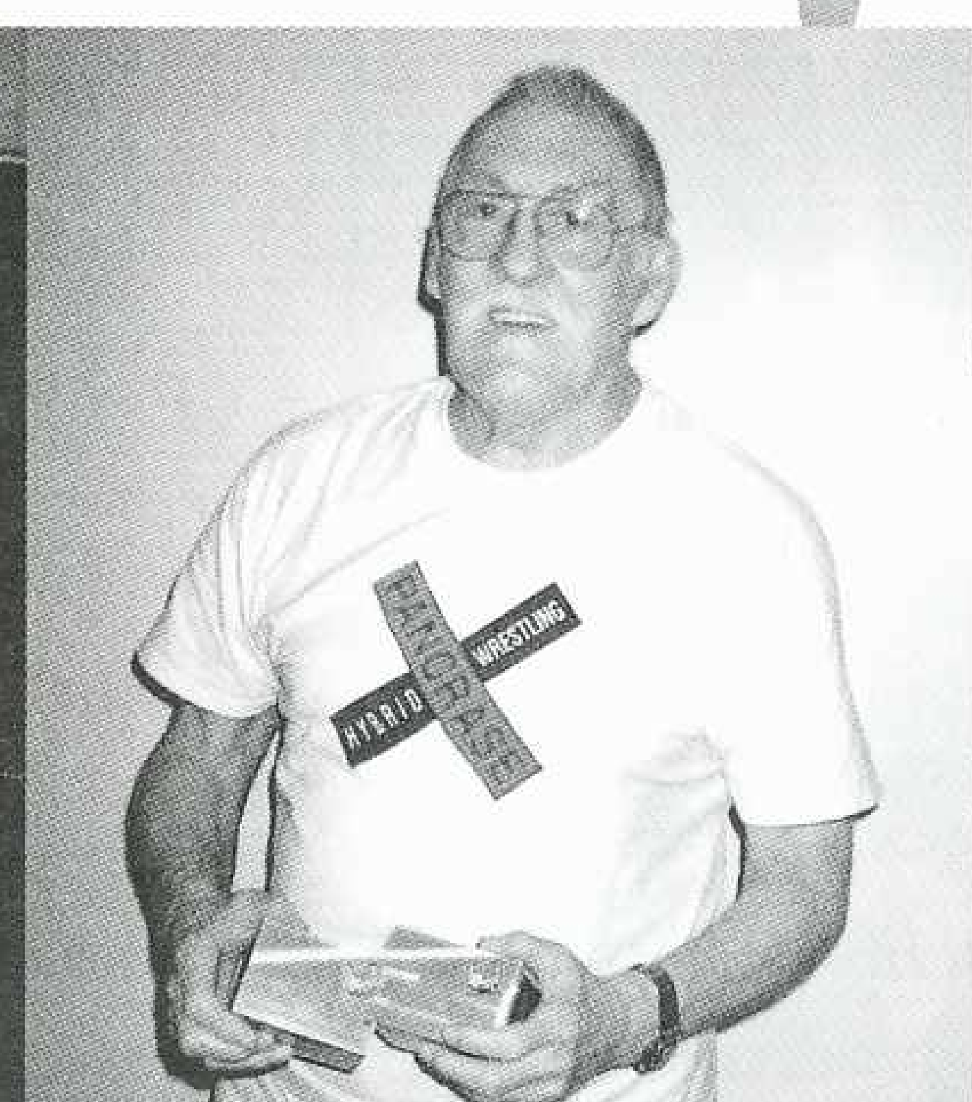
—それは何か理由があるんですか？

ゴッチ なぜなら私は誰の命令にも従わず、敵が増えるのもお構いなしに自分のやりたいようにやってきたからね。アメリカでもヨーロッパでも私がキングでありルールであったんだ。そんな私のスタイル

グレイシーの寝っ転がったザマは、ホアー・ハウス・ホールド（売春宿固め）だ



ちゃっかりと2種類のパンクラスTシャツを着ていたゴッチさん（体の大きいゴッチさん用の特注品とは鈴木みのるの言葉）。手にしている緑茶は「これがいつも飲んでる証拠だ」と、わざわざ台所から持ってきてくれたもの



新日本プロレスのロゴであるライオンマーク。この象徴の発案者は旗揚げ戦にも馳せ参じたゴッチさん。猪木は最初、タイガー（虎）のマークにしようとしたが、叔母の形見のペンダントが新日本のシンボル誕生に一役買った

は融通がきかず馬鹿だと思う人もいるだろうが、私は自分の生き方は曲げられないんだ。それから私はマネーマン（金の亡者）にはなりたくないからね。〝アイ・ルール・マネー・ダズント・ルール・ミー〟（「私が金を管理するのであって、私は金に支配されることはない」）この世界は特に金に支配されているヤツが多すぎる。私は金に囲まれて惨めでいるよりも、貧乏でも幸せなのを選ぶということさ。

——でもゴッチさんは日本マットではその価値を認められて日本プロレス・新日本プロレスのコーチとして迎えられたんですよね。

ゴッチ ああ。でも日本で本当に金を稼いだのはデストロイヤーみたいなヤツだよ。特にニュージャパンでは私はシンマ（寿）に毛嫌いされて、私の名前だけ利用して正当な報酬をもらうことは出来なかったんだ。おまけにシンマはこの私を無用の長物とばかりにニュージャパンから追放して、「俺がブッカーだ！」とばかりにひとりですべて仕切ろうとしていたんだ。

——ゴッチさんの名前をストロング・スタイルの象徴としてブランドのように利用しようとしていたと？

ゴッチ 彼らは私が目障りになると追いだそうとするくせに、ひとたび私の技術が必要になると「ゴッチさん、ゴッチさん」って調子のいいことを言って「また来てくれ」だからな。節操のないことはなはだしいよ。ニュージャパンのライオンのロゴは知っているだろう？

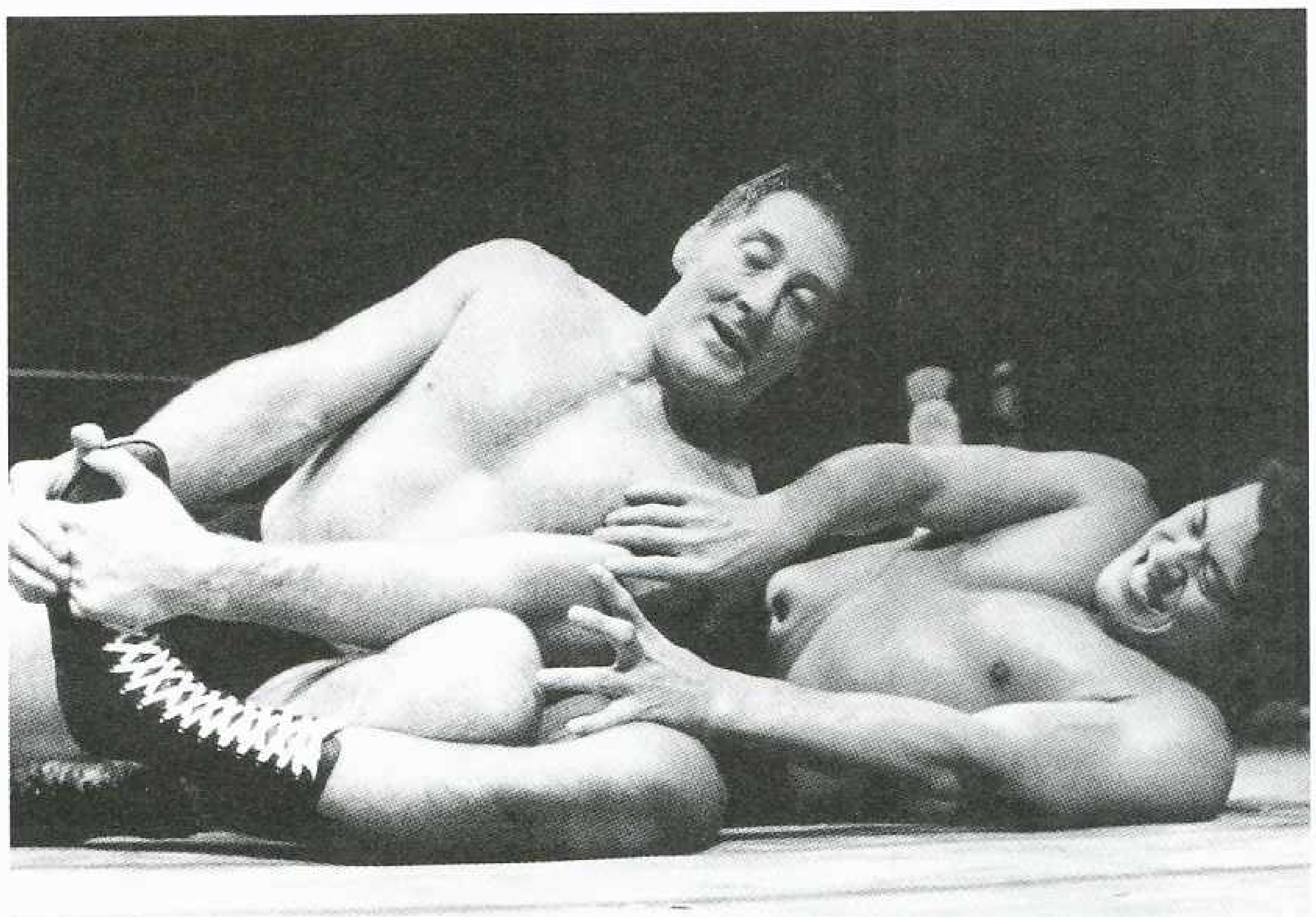
——もちろん知ってます！

ゴッチ あれにしても発案者はもともとは私だったんだよ（とライオンのペンダントを見せてくれる）。

——それは知りませんでしたね。そういえば、猪木さんと新聞さんが最近、和解してまた一緒になったんですよ。

ゴッチ （首を振って驚く）……アイツらはいつだってそうなんだ。シンマこそすべてのトラブルの元凶なんだ。東京プロレスの裁判沙汰は知っているだろう。イノキも馬鹿なヤツだったが、シンマというヤツは自分に儲かる話があるといつのまにか擦り寄ってくるような調子のいい男なんだ。

——ただ、新聞さんはいまでもゴッチさんのことを認めてますし、誤解してる部分もかなりあると思うんですけね。



イノキはそろそろリタイアした方がいいだろう。エッ？　引退したって!?

ゴッチ さあ、どうなんだろうね。

——では、ちょっと話題を変えますが、ゴッチさんといえば、かなりの親日家としても有名ですよね。

ゴッチ イエース！　アイ・ラブ・ジャパン！（ニッコリ）。もし日本に出会わなければ、（今の）カール・ゴッチはいなかった。私は日本に見出されたのさ。私に会わなければ今のイノキがなかったようにね。とりわけ宮本武蔵には深い影響を受けたものだ。

——ゴッチさんが宮本武蔵に心酔しているっていう話は有名ですけど、『五輪の書』を含めて宮本武蔵の話をもう少し詳しく聞かせてくれませんか？

ゴッチ 私はサブミッションを操るMUSASHIなのさ。武蔵は剣で闘ったが、私は素手で闘った。戦闘方法こそ違うものの〝闘い〟の姿勢は全部同じなのさ。『五輪の書』は読めばむほど自分が武蔵の生まれ変わりではないかと思わされずにはいられないんだ。

——ゴッチさんは武蔵の生まれ変わりでしたか⁉

ゴッチ 私はそう思っているよ（ニッコリ）。私も武蔵も清貧で誇り高く、宮仕えが嫌いで周りからは恐れられていたところも似ているね。二人とも孤高でインデペンデント（独立していた）だったんだ。

——『五輪の書』（英文版〝A Book of Five Rings〟）との出会いはいつのことだったんですか。

ゴッチ 初来日の頃（注：昭和36年）に前から探していたのを貰ったのさ（と、所蔵本を見ると1$＝¥360時代の¥4010という円価が書かれてあった）。

——『五輪の書』といえばヒクソンも愛読しているみたいですが。

ゴッチ （顔をしかめ首を振って）私は、それ以来何度も読み返しているが、武蔵の教えを本当に理解している者は私を含めて誰もいないよ。みんな武蔵の言葉を右の耳から左の耳聞き流しているだけにすぎないのさ。

——その頃は日本プロレスの専属コーチでもあったんですよね。

ゴッチ ああ、渋谷のリキパレスで練習したものさ。私は時間に厳しくてちょっとでも遅れてくるヤツがいると戸を締めて中には入れてやらなかったよ（笑）。

——その話はよく聞きますよ（笑）。

ゴッチ 当時は私も全く日本語がわからず日本人レスラーの方も英語がダメだったからね。だから、ひとり少しだけ英語が話せるジュードー・ボーイのトグチ（キム・ドク）を通訳として立てて何とか一緒に練習したものさ。

——戸口さんが通訳役だったと（笑）。ゴッチさんは日本の文化や日本食にも馴染みが深いんですよね。

ゴッチ アメリカの連中は自分の国のハンバーガーやホットドッグが一番で、よその国の良さを認めないっていうパターンが多いが、どこへ行ってもその国の事物を正しく尊敬の念をもってあたることが大事なんだ。その生活の中に入り込んで行ってね。言葉を覚える時には特にそれは有効だ（ゴッチさんは母国語のドイツ語、フラマン語、英語に加えてフランス語、オランダ語、そして日本語に現在はロシア語も勉強しているとのこと）。私は学校では7年間しか学ばなかったからね。まあ経験に勝る学校はないということさ。

——日本食で好きな食べ物というと何になりますか？

ゴッチ サシミから納豆まで何でもござれだ（ニッコリ）。私は昔からステーキはコレステロールが多いんで、ずっとサカナを食べているしね。あとはサムライライス（麦飯）だね。

——サムライライスですか？

ゴッチ 白米は見た目こそいいけど栄養的にはサムライライスの方がずっといいんだよ。あとは砂糖は使わずにハチミツにし

神様は変わらず、カール・ゴッチ

プロレスの神様再臨

たりと、これでも結構食べる物には気を使っているのさ。それから今でも緑茶を飲んでいるんだよ。

——ホントに日本通なんですね。

ゴッチ　ただ日本酒には一度やられたことがあるんだ（苦笑）。ある席に招かれて一度日本酒を飲みはじめたところこれが水みたいでいくらだって飲めたんだよ。ところがそのうち急に体の芯から熱くなってきてタクシーを呼んで渋谷のホテルまで送ってもらったが、部屋に入り込むなりそのまま床に伏せってしまいワイフに介抱してもらったってわけさ。

——そんな苦い思い出がありましたか（笑）。

ゴッチ　ちょうどその時、外では学生運動の暴徒が暴れていたそうだが、私には何も聞こえなかったよ（苦笑）。でも（アンドレ・ザ・）ジャイアントとは国際プロレス時代によく飲んだものだよ。

——アンドレはビールからワインまで相当飲んでたみたいですね。

ゴッチ　日本酒もかなり飲んでいたよ。ホテルに一升瓶を持ち込んで浴びるように飲んでいたからなぁ……（しみじみと）。あれじゃあ内臓をやられて死ぬのも無理はないさ。

——話は変わりますけど、ゴッチさんも聞いているかと思いますが、今のプロレス界は格闘技界の嵐を受けてレスラーもプロレスファンも自信を失ってしまっている人が多いんですよ。

ゴッチ　どうやらそうみたいだな。

——今のプロレス界に何かアドバイスがあればお願いします。

ゴッチ　まず、今の日本にいくつのプロモーションがあるんだ？　18？　それとも20ぐらいか？

——その倍以上はあると思います。

ゴッチ　（顔をしかめて）日本みたいな小さな島国でそんなに団体があること自体ナンセンスさ。ただし、力道山の頃みたいに1団体っていうのはダメだ。やっぱり競争が必要だからね。

——どのくらいが理想なんでしょうね？

ゴッチ　まあ、せいぜい3団体が限度だろう。20もの団体を支えるのにどれだけのレスラーが必要になると思う？　だから、椅子並べや靴売りとか石焼きイモ屋（「イ～シヤキ～イモ～！」と自分で真似をしながら）みたいな、レスラーとはとても呼べないような連中がパフォーマンスだけするようなことになるんだ。昔はれっきとした競技であったレスリングに今誰が誇りを持てるんだい？



【かーる・ごっち】
神様カール・ゴッチは“無冠の帝王”であったゆえに現役選手としての実績が見過ごされがちであるが、プロレスの芸術品“ジャーマン・スープレックスホールド”の生みの親はゴッチさんその人。いま見てもゴッチさんの芸術そのものと言える見事なブリッジを超える人間橋の持ち主は見られないと思われる。力道山とはシングルで引き分け、全盛期のA・猪木には3勝2敗と勝ち越したカール・ゴッチこそ日本マット界史上最強の外人エースである

日本に帰ったら、みんなに伝えておいてくれ。私はまだ死んでいないとね（笑）。

——何かレスリング復活の秘訣はありますかね。

ゴッチ　簡単なことだよ。おいしい料理を作るにはいい材料が必要なように、感動を呼ぶ映画に名優が不可欠なように、いい試合には才能あるレスラーが必要だってことさ。それからそのレスラーを指導するいいコーチがね。

——そうですか。誰かコーチとして適任者はいないんですかね。

ゴッチ　昔のレスラーはみんなリタイアしてしまって、かつての私のようないいコーチを探すのは今や極めて困難なものさ。それがレスリング凋落の原因さ。まあ簡単にコーチ業と言っても、コーチっていうのは本当に骨の折れる仕事だからな。あとは（ハッキリと日本語で）〝ヤマトダマシイ〟を持ったガッツのあるヤング・ボーイを探してくることだね。テレビだ、宣伝だ、客寄せだっていうところまではプロモーターに出来ても、一番重要な素材であるレスラーだけは作り出すことは逆立ちしても無理だからね。

——それはそうでしょうね。

ゴッチ　それからイノキはそろそろリタイアした方がいいだろう。

——猪木さんは5年前に引退しましたよ。

ゴッチ　引退したって⁉　それは口だけだろう。実際興行を牛耳っているのはイノキで、51％から52％（半分以上ということか？）の利益は彼が持っていってるんだろう？

——さすがに、今はそんなことはないと思います（笑）。以前ゴッチさんは「真のレスリングが甦らせられるのは日本だけ」とおっしゃってましたけど、今でもそうお考えですか？

ゴッチ　このアメリカで求められているのは大仕掛けによる興奮やバカ騒ぎだけだろう？

——それはWWEのことですよね？

ゴッチ　（顔をしかめて）語りたくもないがね。まあ幸い日本にはひとつの素晴らしい伝統があるじゃないか。

——素晴らしい伝統というと？

ゴッチ　スモウだよ。スモウこそ日本が誇るべき伝統的なレスリングだよ。何より多くの日本人がその価値を正しく理解しているところが羨ましい限りだ。スモウを鑑賞する広い大衆がいる限り、レスリングの技術を評価する土壌も備わっているということさ。そんなところでいいかな？

——はい。ありがとうございました。ゴッチさんの話を聞けば聞くほど、ここタンパに日本人以上に日本人の心を持った外国人を見出したことを確信しました。私が思っていたとおりカール・ゴッチはカール・ゴッチ以外の何者でもありませんでした。

ゴッチ　それは良かった（ニッコリ）。日本に帰ったら、みんなによろしく伝えておいてくれ。フジワラ、フジナミ、キド……みんなにね。

——わかりました。誌面を通じて伝えておきます。

ゴッチ　それから〝アイム・ステイル・アライブ〟（「私はまだ死んでいない」）とね。ハッハッハッ。

【03年6月3日・4日／タンパのカール・ゴッチ宅にて収録】

【取材後記】

サブミッションの技術にかけては自他ともに認めるマット界NO1であったゴッチさん。関節技だけではなく言葉を操るのにも長けたゴッチ爺さんの話を聞いていると K-1、『PRIDE』と格闘技界の暴風雨を受けて青息吐息のプロレス界の救世主はここにあり！　という思いを強くした。特にプロレス界の仇敵とも言えるグレイシー柔術への舌鋒は凄まじかった。トレーニングとコンディションの重要性をひたすら唱えるプロレス界の最後の砦は現役時代から全く変わることのない孤高の男だった。

本誌 Back Number

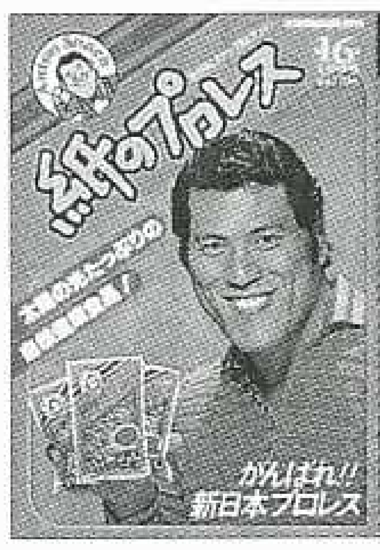


no.08 '94.01

特集 さらば新日本プロレス

仁義なきワイド座談会「さらば新日本プロレス」／仰天企画・恐山旅行のついでにマスカラス＆天龍を見る／サスケが『紙プロ』初登場！　20ページにも及ぶ大特集！

700yen⇒350yen 50%OFF



no.16 '96.06

特集 新日本凸凹大学校

『紙プロ』的・昭和新日本プロレス大検証！　マサ斉藤・キラーカン・田中リングアナ・破壊王・後藤達俊／ビックリ！　糸井重里vsサダハルンバ谷川の対談が実現！

780yen⇒390yen 50%OFF



'00.04

情念～夢一途なり～石川雄規

『紙プロ』で2年半続いたバトラーツ社長石川雄規のドラマチックな連載エッセイに大幅加筆＋書き下ろし！　情念とは何かがわかる一冊である。

2100yen（送料込み）



no.13 '95.03

特集 道場破りとは何か？

安生洋二が道場破りでヒクソンに返り討ち！　山本小鉄＆上田馬之助道場破りとは何か？インタビュー／『平成ファミコン・プロレス』馳浩・スペル・デルフィン・斉藤文彦

780yen⇒390yen 50%OFF



no.17 '95.07

特集 実況パワフル北朝鮮

あの北朝鮮での「平和の祭典」を語りまくる！　アントニオ猪木＆永島勝司・村松雄視・破壊王・ブル中野／バトの原点はここにある！「藤原組の逆襲」

780yen⇒390yen 50%OFF



極真魂溢れる16人を直撃!! 完売間近

極真とは何か？

松井章圭／磯部清次／N・ペタス／大山茂／大沢昇／ウイリー／フィリオ／村上竜司／中村誠／廬山初雄／佐藤勝昭／黒澤浩樹／竹山晴友／谷川貞治／山田英司／夢枕獏

1530yen⇒800yen 50%OFF



no.14 '95.04

特集 神秘とは何か？

佐山聡・大槻ケンヂ・ブロボディガード清水白鳳・鈴木みのるたち格闘神秘を膨らます！／日本プロレス歴史の証人・遠藤幸吉セメントロングインタビュー

780yen⇒390yen 50%OFF



no.19 '95.09

特集 さようなら紙のプロレス

『紙プロ』を偲んで…　ターザン山本・ユセフトルコ・上田馬之助・糸井重里・サスケ＆高野拳磁／石井館長、ターザン、サダハルンバ、平仲信明たちの「負けず嫌い」座談会

780yen⇒390yen 50%OFF



みんなで遊べる付録付き!! '01.04

さくぼん

サクのすべてがよくわかる桜庭和志発のインタビュー集！　花くま先生の「サクラバの汁」、特製シールやサクマシン立体紙お面など付録がこれでもか！　とばかりに付いています！

総238ページ

1500yen（送料込み）



no.15 '95.05

特集 インディペンデントの逆襲

あんた誰？　山口日昇試練のインディ・レスラー10番勝負！／Kーとは何か？　石井館長・ターザン山本・サダハルンバ谷川らのKー１三兄弟（当時）インタビュー

780yen⇒390yen 50%OFF



インタビューという名の鉄拳史 完売間近

紙の前田日明

『紙プロ』、『リンタマ』、『紙プロRADICAL』誌上で展開された前田日明怒濤のエネルギー史！　引退直前時のインタビューも特別収録だ。今こそ前田日明を振りかえれ！

2000yen（税金・送料込み）



パンクラス公式読本 完売間近

［矛］・［盾］

97年当時のパンクラシストが勢揃い!!　ゴッチさん、佐山聡、なぜか馬場さんも登場するパンクラス公式読本二部作!!　ターザンも炎上してますよぉぉ!!

各1260yen⇒630yen 50%OFF

---

no.50 表紙 桜庭和志 '02.05／880yen

サクが笑えば、世界が笑う!!
- 「地方初世界」開始！ 小川直也＆橋本真也
- リングスロシア軍団の軌跡
- パンクラス取材解禁！ 菊田、"尾崎の野郎" が登場！
- ギョ!? I編集長が新日本に三くだり半！

no.51 表紙 橋本真也 '02.06／880yen

ZERO-ONEに願いを！
- 両国国技館だよ、全員集合！ 橋本真也
- 『PRIDE』の魅力をマン開！ 小池栄子
- 天才が悩みに答える！ 武藤敬司人生相談
- 新・超獣　ザ・プレデター

no.52 表紙 小川直也 '02.07／880yen

見えない鎖を引きちぎれ！ 小川直也リング外での暗闘!!
- 全身プロレスラー・高山善廣
- USAの渡世人ドン・フライ
- 『PRIDE』侵攻開始!! ロシアン・トップチーム
- 戦慄の『LEGEND』前夜！

no.53 表紙 桜庭和志 '02.08／880yen

世紀のビックイベント『Dynamite!』直前大解剖!!
- ノーフィアー×無謀美・対談!! 高山善廣×美濃輪育久
- 独占肉弾スクープ！ マット・ガファリ
- 爆裂！　川村社長ガチンコ語録！
- 偽造王の知られざる半生！　一宮章一

no.54 表紙 ノゲイラ '02.08／880yen

不平等の時代を克服した英雄ノゲイラ!!
- "首の皮一枚" ホイス＆エリオグレイシー
- "青い目のケンシロウ" ジョシュ・バーネット
- 純プロ頂上対談！ 武藤敬司×ウルティモ・ドラゴン

no.55 表紙 高田延彦×田村潔司 '02.09／880yen　完売間近

高田×田村!! 夢幻大の真剣勝負が実現!!
- 「真剣勝負」発言から7年!!　田村潔司
- メガトン級の強さと面白さ!! ボブ・サップ
- 靖国神社で興行開催!!　佐山聡
- コピィロフおじさん、『PRIDE』デビュー!!

no.56 表紙 Uインター '02.10／880yen

愛すべき若気の至り!! 受け継げ、Uインターの蒼き魂!!
- 田村戦直前!! 高田の覚悟を読み解け！　高田延彦
- 蘇れ！Uインター伝説!! 安生＆金原＆高山
- 高田×田村、観る側の覚悟!! 浅草キッド

no.57 表紙 高山善廣 '02.11／880yen

一瞬の11・24!! 高田延彦引退試合を大総括!!
- サップと地峡規模のタイマン勝負!!　高山善廣
- 新たなる "U" が始動!!　田村潔司
- 悪魔の書、再び！ ミスター高橋×大槻ケンヂ
- "北尾戦・セメントマッチの真実" ジョン・テンタ

no.58 表紙 武藤＆船木 '03.01／880yen

新春特大号!!「明日、また生きるぞ！」な対談の大連発!!
- 夢幻のファンタジー対談 武藤敬司×船木誠勝
- Uスタイル対談　田村潔司×高阪剛
- Uインター座談会　宮戸×安生×鈴木健
- カルガリー師弟対談 ハシフ・カーン×ミスター・ヒト

no.59 表紙 ヒョードル '03.02／880yen

吹けよ！　呼べよ嵐!! マット界新風景が見えてきた!!
- いざノゲイラ戦!!　E・ヒョードル
- アメリカン・ドリーム ダスティ・ローデス
- 爆発!!　WJマグマ語録
- 吉田道場の秘密兵器　中村和裕

no.60 表紙 ヒョードル '03.03／880yen

英雄、変貌好む!!『PRIDE』RE・BORN!!
- ノゲイラ撃破!!　E・ヒョードル
- 驚愕の格闘芸術対談!! 武藤敬司×須藤元気
- あのマーシーがすべてを告白!! 田代まさし
- 全日本中継の真実!!　倉持隆夫

no.61 表紙 OH砲 '03.04／880yen

5・2仁義ある闘い!! やっちゃうぞバカヤロー!!
- 裏番組をブッ飛ばせ！ 橋本真也×小川直也
- 1年間の沈黙を破った!! ヴォルク・ハン
- プロレス・格闘技クロスオーバー対談 エンセン井上×金原弘光
- リングス・リトアニア特集

no.62 表紙 ミルコ '03.05／880yen

誰でもいいからミルコのクビをカッ斬ってみろ!!
- ヴァーと笑顔で初登場!! 佐々木健介
- 現役復帰間近!?　船木誠勝
- ホントに大爆発!!　橋本真也
- 新日本バードを徹底検証!!

no.63 表紙 ミルコ '03.06／880yen

吉田秀彦が大英断！ ミドル級GP出陣！
- 「お前は男だ」劇場炸裂！ 高田延彦
- 『PRIDE』REBORNを大総括!!
- 憂国の虎 THEマスク・オブ・タイガー
- 芸能界一の川田番　ダチョウ倶楽部

no.64 表紙 桜庭＆田村 '03.07／900yen

灼熱の『PRIDEミドル級GP』直前号!!
- "異次元格闘技戦戦" 田村潔司×吉田秀彦を大展望!!
- 『PRIDEミドル級GP』 出場全選手インタビュー
- ミスター高橋の盟友が放つ "猪木の裏側"
- スマックガール・ビキニ特写!!

no.65 表紙 ミルコ '03.08／880yen

ヒョードル×ミルコ、闘争本能世界一決定戦!!
- "最後の皇帝" 燃え上がる！ エメリヤーエンコ・ヒョードル
- "反逆の妖刀"、遂に皇帝へ!!　ミルコ
- 吉田秀彦戦の "謎" に迫る！ 田村潔司
- 闘魂ストーカーを捕獲！　イズマイウ

通販申し込み方法

▼お申し込みは郵便振替と現金書留の2通りになっております。（バックナンバーは通販でしか取り扱っていません。書店では買えません）。

★郵便振替
00130-3-769154
（株）ダブルクロス
★現金書留　〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷
3-11-3-702
（株）ダブルクロス

▼郵便振替の場合は用紙の通信欄に希望号数を明記し、現金書留の場合は希望号数を書いた紙を同封して下さい。
※本誌なのかRADICALなのかを必ず明記して下さい。

▼送料　1冊＝310円、
2冊＝380円、3冊～4冊＝450円
5冊＝520円、6冊以上＝700円

※代引きについてはP160を参照してください。

紙のプロレスRadical常備店

■アイドール新宿店
■新宿ファイター
■大山アメリカン
■プロレスマニア館
■チャンピオン　■リングスパレス
■バディスラム　■タコシェ
■レッスル渋谷
■レッスル池袋
■書泉ブックマート
■書泉ブックタワー
■書泉グランデ
■東京イサミ
■ワールドスポーツプラザ
KINGS
渋谷WEST／池袋／新宿
大阪／名古屋／札幌／福岡

Radical Back Number

宇宙初!! 巨乳からビン・ラディンまで 死神（ジェラルド・ゴルドー）が答える人生相談!!



BACK NUMBER

驚愕の相談員がズラリ!!　アナタの悩みを解決します！

No.05	前田日明の「人生は語らず」
No.38&40	橋本真也の人生ケサ斬りチョップ!!
No.43	大谷晋二朗の火祭り人生相談
No.45	ジェラルド・ゴルドーの死神人生相談
No.47	葛西純のお猿の人生相談
No.48	ミスター・ポーゴのクサリガマ人生相談
No.51	武藤敬司の「俺、わっかんねえよ」人生相談
No.55	坂田亘のガチンコ恋愛相談

電話で相談はできませんが、バックナンバーは注文できますよ!!

03-3403-5142

【平日PM3:00～10:00（株）ダブルクロス】

no.05 表紙 高田延彦　'97.08 / 680yen

すべてはここから始まった!!
高田、ヒクソン戦へ……
●ドン荒川vs藤原喜明“昭和新日対談”
●前田日明の大好評人生相談
『人生は語らず』
●世界格闘技連盟とは何か!?　佐山聡
●長与千種＆ライオネス飛鳥

no.15 表紙 小川直也　'99.02 / 780yen

リアル・アルティメット・クラッシュ!!
小川vs橋本“1・4事変”勃発!!
●あの“1・4事変”を徹底大検証!!
●“前田日明・最後の相手”
アレキサンダー・カレリン
●引退記念雑談会
「語ろうマサ・サイトー!」
●『S多重アリバイ』／佐野雄飛・編

no.16 表紙 エンセン井上　'99.03 / 780yen

格闘ノストラダムス!!
エンセン表紙初奪取号!!
●環境問題を『紙プロ』で語る!!
アントニオ猪木
●完全無欠の怪物!!
語ろうジャンボ鶴田
●相撲多重アリバイ　石川孝志
●マーク・コールマン

no.24 表紙 アレク　'00.02 / 840yen　完売間近

ノゲイラ、ダンヘン、田村、コピィロフが登場!!
●リングスロシア幻想を掘り起こせ!!
●『紙プロ』的視点から送る
「語ろう船木vsヒクソン!」
●驚ガクのUFO対談／サスケ×矢追純一
●ターザンが
有刺鉄線デスマッチを敢行!?

no.29 表紙 秋山準　'00.07 / 840yen

「格闘環境」は刻一刻と変化する!
ノア勢フルメンバーで登場!!
●三沢、秋山『紙プロ』初登場!!
●プロレススーパースター列伝・
仲野信市
●本誌独占　ジャンボ鶴田夫人
真実を語る!!
●TKおかん

no.31 表紙 アントン総帥　'00.09 / 840yen　完売間近

真のストロングスタイルは『PRIDE』にあり!!
●桜庭和志×高阪剛
レフェリーは浅草キッドだ!!
●ボヤキ漫談　川田利明語録
●プロレスという物語について
ダン・スバーン
●プロレススーパースター列伝　永源遥

no.32 表紙 小川直也　'00.10 / 840yen

針はどちらに向くのか!?
新プロレスvs純プロレス開戦!
●田村潔司に快勝！
A・ホドリゴ・ノゲイラ
●ドラゴンの大爆笑　　藤波語録
●プロレススーパースター列伝
ラッシャー木村
●“和製カレリン”本田多聞

no.34 表紙 小川直也　'01.01 / 880yen

『猪木祭り』開幕ーッ!! プロレスは「闘い」を忘れたときに老いていく!
●ＵＦＣミドル級王者
ティト・オーティズ
●プロレススーパースター列伝
ミスターヒト
●修斗から『猪木祭り』へ！　宇野薫
●ボブチャンチン＆オバチャンチン

no.35 表紙 サクマシン（イラスト）'01.02 / 840yen

「純プロレス」を考え倒せ!
500人アンケートも実施!　徹底検証号
●ZERO-ONE本格始動　橋本真也
●プロレススーパースター列伝
ジョー樋口
●“ノアの怪物”杉浦貴
●UFCの巨人
ランディ・クゥートアー

no.36 表紙 橋本真也（イラスト）'01.02 / 840yen　完売間近

新生「闘いのワンダーランド」に闘魂の火種!!
●ノアから独立！
高山善廣を確認せよ!!
●ヴォルク・ハン―ノゲイラに狼の伝言
●W☆ING 史上最凶の歴史を紐解く
●吉田豪に
“ドラゴンの呪い”が襲う!!

no.37 表紙 小川直也（イラスト）'01.04 / 840yen　完売間近

小川と三沢が遂に絡んだ!!
純プロレス戦国絵巻
●安田忠夫が借金から
自殺未遂まですべてを語る！
●アブダビコンバット2001―大探検記!
●シュート活字×ファンタジー活字
●他に比類なきプロレスが
ＷＷＦにはある！

no.38 表紙 高田延彦（イラスト）'01.05 / 840yen　完売間近

小川と長州、どちらが孤独だったのか!?
●忘れ物の正体は―。高田延彦
●ヴォルク・ハンの最強の遺伝子
Ｅ・ヒョードル
●プロレススーパースター列伝・
阿修羅原
●死神降臨・ジェラルド・ゴルドー

no.39 表紙 前田日明　'01.06 / 840yen

どうなるんだ、リングス!
前田isデッド!?
●前田道場新エース・金原弘光
●怪物か!?
それとも……藤田和之座談会
●壮絶なる格闘人生・藤原敏男
●プロレススーパースター列伝・
田上明

no.40 表紙 アントン総帥　'01.07 / 880yen

猪木軍vsK―1に見たいものは“地上最強のプロレス”
●蘇れ！Ｕインター＆キングダム
伝説！高山善廣×金原弘光
●熱いこの叫びを聞け！　大谷晋二郎
●プロレススーパースター列伝・
グラン浜田
●グラバカの核弾頭　郷野聡寛

no.41 表紙 ピンス・マクマホン　'01.08 / 880yen

Can you カミングアウト?
“最後の黒船”WWF襲来!
●リングス10周年！
ヴォルク・ハンが振り返る
●真樹日佐夫×三池崇史巨頭
対談が実現！
●W☆ＩＮＧの真実・茨城清志
●毒舌知能犯　秋山準語録

no.42 表紙 アントン総帥　'01.09 / 880yen

猪木なら何をやっても許されるのか!?
●ドン荒川×橋本真也のトンパチ伝承対談
●“ヒャッホーの真実”辻よしなり
●蘇れ！ＵＷＦインター伝説!!
高山善廣×宮戸優光×金原弘光
●誇り高きルチャ戦士
カト・クン・リー

no.43 表紙 桜庭和志　'01.08 / 880yen

サクと『PRIDE』のケツに火がついた!!
●ブラジリアン・トップチーム
３大柱インタビュー
●大谷普二郎の「俺をしんじろう！」
人生相談
●金原弘光×サスケの新日本プロレス
学校同窓会

no.44 表紙 桜庭&シウバ　'01.11 / 880yen

サクの連敗が『PRIDE』に語りかけるものは何か?
●その修羅場の数々！
シーザー武志
●怪物伝承対談！
高山善廣＆杉浦貴
●ハンス・ナイマン&ディック・フライ
●闘龍門大特集

no.45 表紙 アントン総帥　'01.12 / 880yen

「K―1vs猪木軍」
命懸けのエンターテイメント!!
●悪魔の書、現る！　ミスター高橋
●ジェラルド・ゴルドー人生相談
●プロレススパースター列伝・
グレート小鹿
●語録で振り返るマット界2001

no.46 表紙 田村潔司　'02.01 / 880yen　完売間近

『PRIDE』LOVEをブチ壊す男、田村潔司!!
●さらばリングス!!　浅草キッド
●“蒙古の怪人”キラー・カン
●“スーパー・フライ”ジミー・スヌーカ
●エル・カネック、バードで快勝!!

no.47 表紙 ピンス・マクマホン　'02.02 / 880yen

WWE日本侵攻5秒前!
●“天才”武藤敬司が
『紙プロ』驚愕の初登場！
●噂の馳浩が新日分裂から
ミスター高橋本までを語る！
●第一次リングス閉幕特集
●プロレススーパースター列伝・
ストロング金剛よ!!

no.48 表紙 桜庭和志　'02.03 / 880yen

見えてきたゾ、桜庭、満開の日!!
●奇跡のメガトン対談！
小川直也vsノゲイラ＆スペーヒー
●和田最強伝説が遂に現実に！
語り部・金原弘光
●伝説の男が笑撃の登場！
ジョー・サン
●WWEを知る男　ウォーリー山口

no.49 表紙 ミルコ&ヒクソン&小川&桜庭　'02.04 / 880yen

究極の格闘技大戦争勃発!!
マット界灼熱の噂!
●和田さん快勝記念対談！
高山＆金原＆和田
●アレクに怒りの火を付けた
菊田早苗とは何者か!?
●破壊王も火のヤリ特訓！
小笠原和彦が火の輪くぐりを敢行！

リング内・リング外の情報を読者にお届けする RADICAL情報局

>>>新日本が禁断のバードマッチに再び足を踏み入れる!!

5・2に開催されて大きな話題となった、新日本プロレスの放つバーリトゥード大会『アルティメット・クラッシュ』。10・13、ふたたび新日本がバード（※井上用語で『バーリトゥード』のこと）を行う！　前回同様プロレスリング6試合、アルティメット・クラッシュ5試合を行う予定で、試合順についても前回同様、プロレスの試合を行った後にアルティメット・クラッシュを行う予定で、メインイベントは、高山善廣の持つIWGPヘビー級ベルトに、Ｇ１優勝者・天山広吉が挑戦するタイトルマッチとなる模様。蝶野正洋VSハルク・ホーガンが電撃決定した他、ジョシュ・バーネットVS高橋義生戦も正式決定！　『ジャングルファイト』に参戦したヒカルドンこと、ヒカルド・モラエスの参戦、“荒鷲”坂口征二も９・14に続いて参戦を示唆!?　アントン総帥はどう出る!?そしてドラゴンは!?　マットのスプリング調整は今回も行われるのか!?　続報を待て!!

新日本プロレス『Ultimate Crush』

10月13日（月・祝）東京ドーム
試合開始15:00

★料金:プレミアムシート50000円／アリーナA30000円／アリーナB15000円／1階スタンドA10000円／1階スタンドB7000円／2階スタンドC5000円／2階スタンドD3000円
チケットぴあ、ローソンチケット、CNプレイガイド他で絶賛発売中!!
★問:新日本プロレスリング（株）03-5468-3111

>>>秋山準、IWA10周年大会に参戦！

ＩＷＡ10周年大会に、まさかの秋山準参戦!!　16日、ＮＯＡＨ事務所で会見を行った秋山準は、浅野社長からの携帯ゴリ押し参戦要求に対して「電波が悪く『はい？』と聞き返したら、参戦了承と受け取られた」と説明。メインは殺人医師が狂虎と対決!!

9月29日 IWA『プレ10周年記念大会』

東京・後楽園ホール　試合開始 18:30

①ウルトラ・セブン&岸勝也vs平野勝美&ケン片谷
②【ミックスドタッグマッチ】YUJI KITO&竹迫望美vsザ・グレート・タケル&亜利弥'
③【ボブ・チャック杜行試合】
ボブ・チャック&三田英津子vsチョコボール向井&おまわりさん
④【IWA世界ジュニア選手権】（王者）河童小僧vs上野幸秀（挑戦者）
⑤【特別試合】橋誠&秋山準vsフレディ・クルーガー&ブギーマン
⑥【プレ10周年記念試合】
タイガー・ジェット・シン&松田慶三vsスティーブ・ウィリアムス&三宅綾
★問:IWAジャパン　03-3352-3366



15日、喫茶「タントラ」で会見を行った際、ウェイターに化けてレモンティーを運んできたフレディ・クルーガーにレモン目潰し攻撃をくらって茫然とする橋と、橋の携帯を奪って強引に秋山の参戦を取り付ける浅野社長

ツアー★GUIDE

>>>韓国の新バード大会『K・O・King』を見に行こう!!

美濃輪育久vsダン・スバーン、ノゲイラ弟vsキモが韓国で実現!!　滑川康仁のバード復帰戦も行われる!!　前号でも紹介した、韓国で旗揚げされる新バード大会『Ｋ・Ｏ・Ｋｉｎｇ』。この大会を見に行く観戦ツアーが３種類発表された。選手達と骨付きカルビが食べられる、お食事会付きプランもあるぞ!!

10／31（金）発・3日間コース

【期　間】
10／31（金）～11／2（日）

【旅行代金】（1名あたり）
★名古屋発　¥64,000
★東 京 発　¥68,000
★大 阪 発　¥62,000
大会チケット付き、シングル追加代¥16,000

【旅行日程】
①31日（金）午後、各空港よりソウル空港へ～夕方、ソウル空港到着～免税店へご案内後ホテルへ
②１日（土）自由行動～夕方、オリンピックスタジアムへ『Ｋ・Ｏ・King』観戦～ホテルへ
③２日（日）午前、韓国食料品店へご案内後、空港へ～ソウル空港から各空港へ～午後、各空港へ到着。

2日間コース（1泊2日）

【期　間】
11／1（土）～11／2（日）

【旅行代金】（1名あたり）
★名古屋発　¥87,000
★東 京 発　¥91,000
★大 阪 発　¥84,000
大会チケット付き、シングル追加代¥8,000

【旅行日程】
①１日（土）午前中、各空港よりソウル空港へ～昼頃、ソウル空港到着～免税店へご案内後ホテルへ～夕方、オリンピックスタジアムへ『Ｋ・Ｏ・King』観戦～ホテルへ
②２日（日）午前中、ソウル市内観光～昼食（選手達と骨付きカルビを）～午後は東大門や免税店でのショッピング～夕方、韓国食料品店へご案内後、空港へ～ソウル空港から各空港へ～夜、各空港へ到着。

3日間コース（2泊3日）

【期　間】
11／1（土）～11／3（月・祝）

【旅行代金】（1名あたり）
★名古屋発　¥93,500
★東 京 発　¥97,500
★大 阪 発　¥90,500
大会チケット付き、シングル追加代¥16,000

【旅行日程】
①１日（土）左記・2日間コースと同じ
②２日（日）午後の東大門や免税店でのショッピングまで上記と同じで、その後、自由行動
③３日（月）終日、自由行動～夕方、韓国食料品店へご案内後、空港へ～ソウル空港から各空港へ～夜、空港へ到着。

★ツアーのお問い合せ★
DEEP事務局 TEL 052-339-0303　もしくは、名鉄観光サービス（株）神宮前支店 TEL 052-679-1655 担当：稲葉哲也まで

暑いですね。今年の夏はどこに行ったんだ、と書いたのは先月でしたが、どこかに行ったんじゃなくて遅れてただけだったんですね。なんか腹立たしいです。それはそうと、今月も見逃せない情報満載でお送りする情報ページです。担当はささきぃです。よろしくです。

ブッコミ ノリノリ★NEWS

■バトラーツジム『B-CLUB』秋の入会キャンペーン実施中!

バトラーツジム『B-CLUB』では、10月13日まで入会金が50%オフになる秋の入会キャンペーン実施中。また、限定予約発売の『B-CLUB』Tシャツも登場! 受付は9月いっぱい。色はピンクと緑の2種類、定価2800円のところ、B-CLUB会員は特別価格2300円で購入できる。予約受付・支払い方法については、B-CLUBまで問い合わせること。
★問&申込:B-CLUB
TEL 048-963-7515

■今月のBCG情報

島田裕二率いる格闘技ジム・BCG初のフランチャイズが柏にオープン! 開館日は毎週月・木曜日の11:00〜21:00。コースはダイエット・キッズ・格闘技・エクササイズの4つで、各コースとも入会金5000円・月会費5000円。見学・体験は自由。まずはカウンセリングを受けにいってみよう。港区東麻布のBCGも、もちろん絶賛営業中!
★住所:千葉県柏市常盤台2-1
(JR柏駅より徒歩15分)
★問:BCG 03-3560-7911

■第5回・実戦格闘術大会、出場選手募集!

格闘結社・田中塾が主催する「実戦格闘術大会」。現在、10月19日に行われる第5回大会の出場選手を募集中だ。試合時間はすべて2分(両者とも10ポイントに満たなかった場合延長1分)、階級は65kg以下級・75kg以下級・無差別級・高校生の部・女子の部の5つ。詳しいルールの他、詳細は以下まで問い合わせること。なお、大会は入場無料となる。
★日時:10月19日(日)13:00開始
★場所:千葉・船橋市武道センター
★参加費:5000円
★問:格闘結社 田中塾
千葉県船橋市前原西2-30-1
TEL&FAX 047-474-1841

■フベントゥ・ゲレーラ、後楽園でサイン会!



大阪のプロレスショップ・SOLLUNAが、10月13日後楽園ホールでグッズイベントを開催する。当日、AAAブースではAAAオフィシャルグッズの販売に加え、写真のフベントゥ・ゲレーラがゲストとして来場。2004年1月のAAA来日公演プロモーション&サイン会を行う。当日は東京ドームで新日本の『アルティメット・クラッシュ』が開催される日だ。入場無料なので、この機会にのぞいてみては??
『SOLLUNA PRESENTS プロレスリンググッズショー』
★日時:10月13日(月・祝)
11:00〜17:00
★場所:東京・後楽園ホール展示場
★料金:入場無料
★問:USA WRESTLING STORE『SOLLUNA』
(大阪市中央区東心斎橋1-11-13 B1F)
TEL 06-6282-0919
FAX 06-6282-0099
mail hayashi@sollunawwe.com
HP http://www.sollunawwe.com

■パチスロ機『ビーストサップ』発売!



アルゼ(株)から、ボブ・サップをイメージキャラクターとした、15インチ液晶ディスプレイ搭載パチスロ機『ビースト・サップ』が発売される。サップ本人も「今まで見た中で最もすばらしいパチスロ機」と絶賛。「『ビーストサップ』も私と同じく対戦相手(競合機)を蹴散らし勝ってほしい」と語った。見所は通常ゲーム中に純ハズレやチャンス目から突然突入する「サップゲーム」。サップゲーム中はボーナスが引きやすく、確率約10倍! チャンス目確率も大幅アップ。ラウンドガールが登場したり、様々な相手と対戦するバトル演出などもある。

■ターザン&吉田豪イベント開催!

「ターザン山本と吉田豪の格闘二人祭Vol.11!!」

"格闘技トーク最強タッグ"ターザン山本&吉田豪が、毎回乱入のマル秘豪華ゲストと激突する大人気トークライブが、遂に11回目を迎える!! 前回に続いて2回目の週末(金曜日)開催となる今回、ゲストにはアントニオ猪木にゆかりのあるあの人物が登場する……かもしれない!? 今や全世界に噛み付きまくっている50過ぎの男・ターザンの言動には要注意だ!!
『ターザン山本と吉田豪の格闘二人祭vol.11!!』
★日時:10月10日(金)18:30開場 19:30開始
★場所:ロフトプラスワン
(JR新宿駅東口下車、徒歩5分)
★チャージ料金:1800円(飲食別)
★問:ロフトプラスワン TEL:03-3205-6864

また、同じくロフトプラスワンで10月26日に行われる「宇多丸 VS ワル presents『夢工場'03〜TVの国からキラキラ〜 vol.3』」にも、吉田豪が参戦。お客さんに人の家に遊びにいった感覚で楽しんでもらうため、開場時間よりも開演時間のほうが早い(入ると、もう始まっている)という、イベント史上初の試みが行われる。
★日時:10月26日(木)18:00開場
★チャージ料金:1500円(飲食別)
★場所:ロフトプラスワン
★問:ロフトプラスワン TEL:03-3205-6864

■静岡炎上! ターザン山本が静岡で『一揆塾』開講!!

ターザン山本の「一揆塾」が静岡にて初開講!! 21世紀のプロレス・格闘技界を一刀両断!!
★日時:10月18日(土) 18:00講演開始 (17:30開場、20:00終了)
★場所:グランシップ静岡 904号
(静岡市池田 JR東静岡駅前)
★参加費:1人2500円
(当日受付にて)
※先着60名限定! 終了後、20:30よりターザン山本を囲んでの食事会も予定。こちらは限定先着20名、会費5000円、場所は未定。申込&問は以下の事務局まで。
★申込&問:「一揆塾」静岡事務局
代表・吉原健一
〒421-0121 静岡市広野5-20-22
TEL 054-268-4077
FAX 054-268-4079
E-mail dreamwink3@yahoo.ne.jp

大会★GUIDE

>>>みちのくプロレス、『ふたり旅』シリーズを経て年内最後のビッグマッチへ!!

みちのくプロレスが、年内最後の東北シリーズ「みちのくふたり旅」シリーズを行う。参加チームは右枠の通り。また、毎年恒例・年末の関東ビッグマッチの日程も決定! みちプロ10周年記念第6弾、はたして"夢のカード"は実現するのか……!?

みちのくふたり旅2003 タッグリーグ戦

10月4日(土)〜19日(日)

★参加チーム(6チーム) ザ・グレート・サスケ&アトランティス組/ディック東郷&折原 昌夫組/はやて&こまち組/サブゥー&MIKAMI組/タルサン・ボーイ&マッチョ☆パンプ組/湯浅 和也&池田くん組

◎10/4(土)福島 福島国体記念体育館 <開幕戦> 18:30開始
◎10/5(日)青森 青森県民青い森アリーナ(青森市) 15:00開始
◎10/7(火)秋田 山内村民体育館 18:30開始
◎10/8(水)岩手 花巻市民体育館 18:30開始
◎10/9(木)山形 酒田市営体育館 18:30開始
◎10/10(金)宮城 石巻市総合体育館 18:30開始
◎10/11(土)福島 郡山市総合体育館 18:30開始
◎10/12(日)岩手 一関市文化センター体育館 18:30開始
◎10/13(月祝)福島 いわき市平体育館 15:00開始
◎10/14(火)岩手 住田町生涯スポーツセンター 19:00開始
◎10/16(木)宮城 白石ホワイトキューブ(白石市) 18:30開始
◎10/17(金)秋田 秋田市立茨島体育館 18:30開始
◎10/18(土)青森 はちのへハイツ 18:30開始
◎10/19(日)宮城 Zepp Sendai(仙台市)<最終戦> 14:00開始

みちのくプロレス10周年大会 第6弾「メモリー」

11月2日(日)東京・有明コロシアム 試合開始17:00

★入場料金:アリーナSS席10000円/アリーナS席6000円/コートサイド7000円/1F指定席5000円/2F指定席3000円(当日各1000円増し) チケットぴあ、ローソンチケット、CNプレイガイド他で絶賛発売中!!
★問:みちのくプロレス TEL 019-626-1333

>>>禅道会「バーリトゥード2003」開催!!

禅道会の主軸大会「バーリトゥード2003 オープントーナメント リアルファイティング空手道選手権大会」が開かれる。同大会は、禅道会の主催する道着を着たバーリトゥードのトーナメント大会で、今年は5周年記念大会として、盛大に開催される。他流派の強豪選手を相手に禅道会の精鋭選手はどう闘うか?ジャケットバーリトゥードNO.1の栄冠は誰の手に輝くのか!? また、今年から「アクセスルールの部」を無くし、女子の部もマスターズの部も体重制、ヘッドギアとオープンフィンガーグローブ着用のリアルファイティングルールで行われることが決定ずみだ。

禅道会「REAL FIGHTING バーリトゥード2003」

10月5日(日)試合開始10:30(開場9:30/開会式10:00)

★会場:ビッグハット(長野市 若里 多目的スポーツアリーナ)
長野県 長野市 若里 3丁目 22−2 TEL:026-223-2223
★入場料金:前売1500円/当日1800円 ローソンチケットで発売中!
★主管:NPO法人 日本武道空手道連盟 長野事務所 TEL:026-293-6944
※詳しい大会の内容ほか、選手紹介も充実! 禅道会公式HP:http://www4.ocn.ne.jp/~zendokai/

闘龍門★GUIDE

>>>闘龍門、イベント&ツアー 情報3連発!!

DoFIXERと行く! 秋の紅葉もみじ狩りツアー開催! DoFIXERのメンバーがプロデュースする、秋の1泊2日バスツアーが決定。もちろんDFメンバーも全員参加! 楽しいディナーパーティーなど、イベントも盛り沢山だ。旅行先は信州・長野の軽井沢。ペンションを借り切っての宿泊となる。温泉やアウトレット・モールなども近くにあるので、自由時間のお楽しみもバッチリ!

10/22(水)〜23(木)

※22日のお昼ごろ東京を出発、23日夕方に東京着の予定
★参加料金:1人45,000円
※3名以上で1室利用の場合。2名1室は1人あたり3000円増し、1名1室は1人あたり6000円増し。
★参加方法:下記電話番号で申込み予約を受付。詳細が説明される。参加定員は50名、定員になり次第〆切。
★参加申込&問:闘龍門JAPAN・DFバスツアー係:078-333-9797

イタリアン・コレクションの、ミラノコレクションA.T.&YOSSINOと行くメキシコ・ツアーが決定。詳細は以下のとおり!

12/4日(木)〜9(火)(9日間)

★参加料金:198,000円
(※ローン利用可)

【内容】
①ミラノ&YOSSINOと、イタリアンレストランにてウェルカムランチ!
②両選手が参加する、闘龍門メキシコ自主興行を観戦!
③メキシコ道場にて打ち上げパーティに参加!
④EMLLなど、ルチャ・リブレの大会を観戦!!
⑤両選手とともにソチミルコ観光! 2人とメヒコを満喫しよう!!
★申込受付&問:近畿日本ツーリスト新宿法人旅行支店 03-3341-2411 締切は11月4日!

これまたイタコネのミラノコレクションA.T.とYOSSINOが、福島・郡山市で開催されるサイン会&ディナー交流会に参加する。

9/28(日)

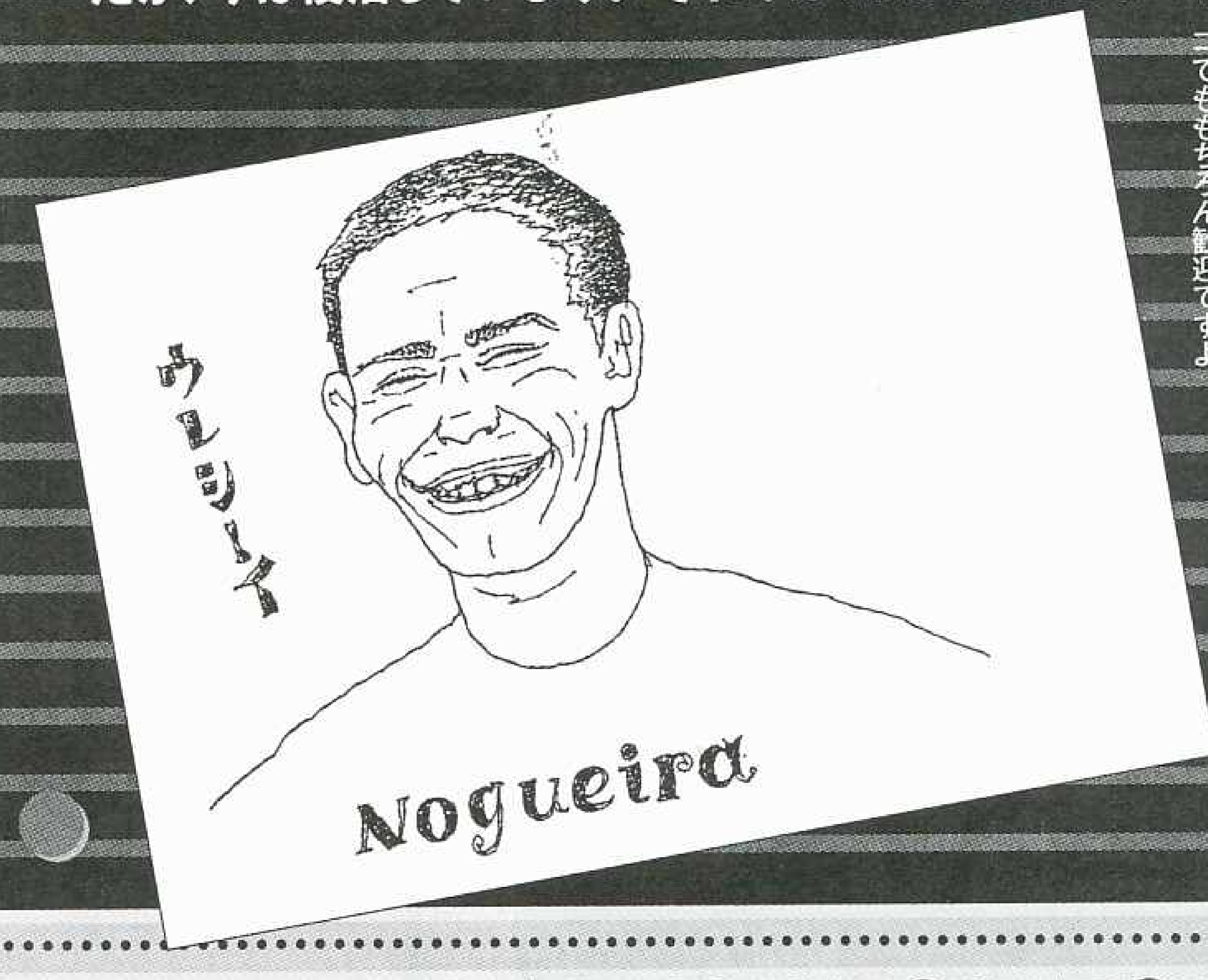
サイン会 15:00〜
ディナー交流会 18:00〜

【会場&参加方法】
★サイン会:ホビーショップ「プログレッサ」(郡山市開成2-38-20)参加方法は、当日、同所で闘龍門JAPAN10/30郡山大会チケット、もしくは闘龍門グッズを購入すれば誰でも参加OK。
★ディナー交流会:郡山市内の飲食店にて(詳細は申込時にお知らせ)。参加方法は、下記電話番号にて受付。参加費はひとり10000円、30名限定で定員になり次第〆切となる。
★参加申込&問=ホビーショップ・プログレッサ 024-935-5778

初心に戻って元気が一番！ な読者ページ

紙プロ元気大学

オィーッス（ギリギリ『8時だよ』世代）。上半期MVP&ベスト興行集計で、死にかけているさささぃです。毎日少しずつやればいいのに、イッキにやろうとするからいけないのです。読者ページ担当です。本業は電気部です。残暑が厳しい今日この頃、みなさんお元気でしょうか。私は食あたりにかかってしまいました。死ぬかと思いましたが、今は復活しています。それでは、はじまりはじまり。



（神奈川県・葉チャン）「ノゲイラを描いてみましたが私はヒョードル派です。弟はミルコ派です。『紙プロ』毎月楽しみです、ちょっと高いけど……」⬇はじめまして。ノゲイラ、なんかいい感じでしたのでこちらに載せました。そうですか、高いですか？ 自分のハガキが載っていると、いくらか安く感じると思います。というわけで、じゃんじゃん送ってきて下さい。次はヒョードルでしょうか。ミルコでももちろん歓迎ですよ。

校内巡回

『紙プロ』65号 面白かった記事

【田村潔司インタビュー】
★いつも通りのスカシっぷりが良かった。
（大阪府・堀田祐一朗・27歳・会社員）
⬇スカシっぷりが楽しめるあなたは、すっかり赤いパンツの罠にはまっています。先月のアンケート第1位は『紙プロ』独占、田村潔司インタビューでした。以下、順不同でお送りします。

【ヴァリッジ・イズマイウインタビュー】
★近所にいるおじさんを思い出した。その人の家はこの間、放火されそうになった（壁がこげた）。
（東京都・佐々木たかのり・25歳・会社員）
⬇なぜ思い出したのか、その辺にも触れて欲しかったです。グレイシーを4回倒しているんでしょうか。それとも、いくらその話をしても、誰も注目しないのでしょうか？

【青木さんとは誰だ？】

★ZERO-ONE中村部長が、全てを語っているところ。
（東京都・柴田直享・31歳・フリー）
⬇コメントをいただいた際、そばにいた某美人記者が「あたしは真面目に答えちゃった」と悔しがっていました。全日本プロレスの電話番号を間違えたのは私です。全日本プロレスの皆さん、本当に申し訳ございませんでした。今月号の番号が正しい番号です。

【佐伯さんインタビュー】
★かわいいから。
（東京都・花田めぐみ・33歳・会社員）
⬇か、かわいいから!?

【『PRIDE GP徹底検証』金原弘光】
★かわいい。かっこいい。いい事言ってた。
（千葉県・江森悠樹・18歳・学生）
⬇かわいい!? 18歳の同性からかわいいと言われるって、どんな気分なんでしょう。

【格闘技暗黒外伝 電撃ネットワーク・ギュウゾウインタビュー】
★私にもSMクラブを紹介してください。
（埼玉県・矢島博司・37歳・会社員）
⬇迷わず行けよ、行けばわかるさ。アリガトーッ！

【スティーブ・ウィリアムスインタビュー】
★久しぶりの『紙プロ』本格派外人レスラーの登場で、単純にうれしかった。内容も訳わかんなくて期待以上に楽しめた。
（神奈川県・中原圭介・25歳・会社員）
⬇IWAマットに登場するウィリアムス。殺人医師と河童小僧が同じマットに上がるなんてゼイタクです。浅野社長、10周年おめでとうございます。9・29は後楽園へGO！

『紙プロ』65号 つまらなかった記事

【ヴァリッジ・イズマイウインタビュー】
★真顔のイズはサンダーバードの悪者みたいな顔だから。
（徳島県・北島昌信・37歳・会社員）
⬇まつげが長くてうらやましいです。マスカラいらず。

『紙プロ』64号 感想

【ベイダーのインタビュー】
★なかなかベイダーのインタビューはめずらしいから、とても良かったです。
（住所不明・菅原豪浩・17歳・学生）
⬇たしかにめずらしいですが、ウチには載ってませんでした。

【I編集長観戦記】
★WWEグッズに身を包んだI編集長の写真と文章が秀逸。
（広島県・中村悌二郎・21歳・学生）
⬇井上さんの素敵な写真は、携帯サイト『紙プロHand』で待画として配信中。配信当日から、ダウンロードする人が多いのに驚き、かつ嬉しく思いました。

【鈴木健想インタビュー 後編】
★健想先生と一緒に、保育園で子供を男に育てたいと思いました。
（岐阜県・西鶴園弥生・27歳・保育士）
⬇毎日暴れるガキ、いや、元気なお子さんの相手ご苦労様です。ストレスたまるんでしょうね。心中お察しします。スタッフは集まりそうな感じですが、どうですか、健想先生？

その他のおたより

★大分県の月刊誌で、藤波の母のインタビューが掲載。ファックスしましょうか？
（iモード投稿・アバ）
⬇送っていただきました。ドラゴンが小学校1年の時にジフテリアで死にかけた話や、ドラゴンロケットは危ないからやめてほしかった話などを、笑顔がステキなドラゴンお母さんが語ってらっしゃいました。どうもありがとう。

★高野拳磁選手？ さんは今、芸能プロを経営中だそうです。知り合いの役者さんが所属したところ、街頭でキャッチをやらされてばかりで嫌気がさして辞めた、との事です。
（東京都・和風まくだ煮M・34歳・女優）
⬇そして、本当に来た高野拳磁情報。真偽のほどはわかりませんが、なんかイヤなリアリティにあふれていますね。



（愛媛県・鈴木ユージ）⬇みちのく覆面リーグ優勝者のモアイ。シブイ人選。みちのく勢には、そろそろ『紙プロ』登場を願いたいところですね。



（東京都・相澤寛子）⬇ながくない？ あ、顔ですか？ そう言われれば少し長いような。武藤社長。今月のインタビューはどうでしたでしょうか。

今月の『紙プロHand』調べ 好きなレスラー人気ランキング!!

1位 田村潔司
2位 桜庭和志
3位 橋本真也
4位 小川直也
5位 CIMA

今月は上半期ベスト興行&MVP投票があったため、好きな選手&嫌いな選手のアンケートは行わず。なので、携帯サイト「紙プロHand」上でのランキングをご紹介します。本誌のランキングとあまり変化ないように思えるかもしれませんが、5位にCIMAが入っているあたり、層の違いを感じました（ただいま、コラム絶賛配信中）。好きな団体のほうも闘龍門が3位に。ちなみに、嫌いな選手&嫌いな団体投票も行っているんですが、こちらの1位は某議員、嫌いな団体1位は某ど真ん中でした。田村戦の影響なのか、柔道王が嫌いな選手3位に入っているのが興味深かったです。ランキングは「紙プロHand」からいつでも見られますよ〜。
（8/1〜9/12アクセス分調べ）

紙プロ65号・読者が選ぶ 面白かった記事ベスト5

1位 田村潔司インタビュー
2位 スティーブ・ウィリアムスインタビュー
3位 電撃ネットワーク・ギュウゾウインタビュー
4位 ヴァリッジ・イズマイウインタビュー
5位 『PRIDE・GP』徹底検証

吉田秀彦戦を終えたばかりの田村潔司インタビューが1位。2位には殺人医師インタビューがランクインしました。続いてまさしく暗黒外伝だった、裏話満載のギュウゾウインタビュー。そして、闘魂ストーカーがついに『紙プロ』登場！ イズマイウインタビューが4位にランクイン。5位は炎上する宮戸優光、「セコくなる自分がイヤ」と語る金原弘光に多くの共感、感心、同情が寄せられました。6位以降はミルコ、『紙プロ』初登場のマッハ、青木さんが続きました。

緊急特集!! 無呼吸症候群とは何か？

締切もまだ遠い、比較的ヒマな日の出来事です。私の隣に座っているスモーノブさん（現在電気部）が「いくら眠っても疲れが取れない」と言うので、こんな時期になぜ、そんなにくたびれているんだろうと思い「どうしたんですか」と聞いてみると「無呼吸症候群らしくて、いくら眠っても寝た気がしない」と言うではありませんか。

ただ単に寝てないだけなら「早く帰って眠ってはどうですか」と言えるんですが、寝ている間の呼吸が原因では、早く帰ってもらってもどうにもなりません。確かに、ノブさんのイビキはかなりアレです（ほとんどの人が、いびきに気付くし、ダブルクロスに戻ってきてから太ったという話も内外から聞きますが、まさか無呼吸症候群まで併発しているとは。

ちょっと調べてみたところ、無呼吸症候群とは、夜間眠っている間に呼吸が止まるため、深い睡眠が得られなくなり、そのために昼間、眠気に困らされるというのです。重症の睡眠時無呼吸症候群の患者さんは5年間で、10人に1～2人は亡くなる（5年生存率約85％）という、恐ろしいデータも知ってしまいました。

常に人手不足のダブルクロス電気部です。ノブさんに死なれては困るので、何か良い治療法、原因などご存じの方は「紙プロ元気大学『スモーノブを救え』」の係まで。「俺も無呼吸だ」という、患者さんからのお便りも募集します。

あなたは大丈夫？　昼間の無呼吸度チェック

いつも通りに睡眠を取った上で、昼間の眠気をチェック!!

Q1	座って読書をしている時	0点	1点	2点	3点
Q2	テレビを見ている時	0点	1点	2点	3点
Q3	大勢の中で、やることがなくじっとしている時	0点	1点	2点	3点
Q4	1時間程度、車の助手席に座っている時	0点	1点	2点	3点
Q5	午後、横になることができる時	0点	1点	2点	3点
Q6	座って、他の人と話をしている時	0点	1点	2点	3点
Q7	昼食後、静かに座っている時	0点	1点	2点	3点
Q8	車を運転していて1～2分間停車するような時	0点	1点	2点	3点

0点——決して眠くならない　2点——2回に1回は眠くなる
1点——時々眠くなることがある　3点——ほとんどの場合が眠くなってしまう

★5点以下＝正常　★6～9点＝治療を勧めたい症候群　★10点以上＝要治療

今月のタレコミ部



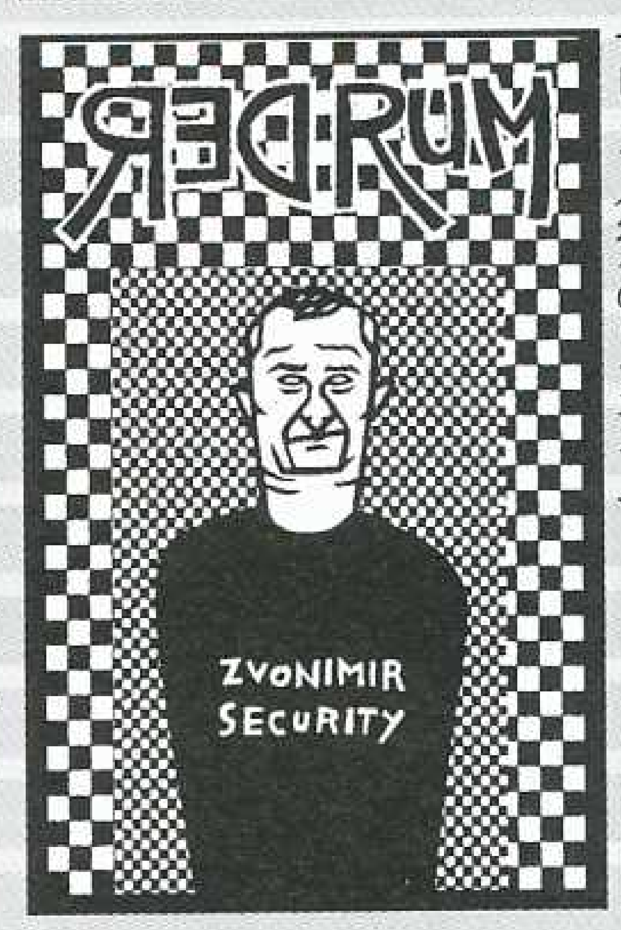
「先日、日本酒を送ったのは私です。今回は一升瓶〝ヴァーッ!!〟ジョン。ヴァーッ!!と盛り上がってクダサイ」➡先月、送り主不明だった「ど真ん中酒」の送り主は、やっぱり（?）目ガ覚メタロウさんでした。アリガトーッ!! そして、今回は一升瓶ヴァージョンを送ってくれました。これまたアリガトーッ!! 大きさ比較のためにも、前回のお酒と並べて写真を撮ろうと思ったら、会社のどこにもありません。はて、誰が持って帰ったのでしょう。……? 大きさを分かりやすくしようとして、30センチのアントン像と一緒に撮影したら、かえって妙な作品となってしまいました。ンムフフフ。



（埼玉県・中川雅博）「すみません。何も思い浮かびません。来月はがんばります。ジョシュ素敵!!」➡お疲れですか？　ますます日本語が達者になってきているジョシュ。ジョシュのお腹はもっとダイナマイッですけど、愛を感じます。中川画伯へのはげまし＆リクエストを送ろう。



（埼玉県・中川雅博）「『火祭り』の佐藤耕平選手は素晴らしかったです。入場の時ののっそりした感じをパスで表現してみました」➡そうそう。『火祭り』は全部いい試合だったですよ。相方（と呼ぶのは語弊があるかもしれませんが）の横井もすごく良かったです。



（大阪府・英加直純）➡上半期MVP2位のミルコ（2位だと知ったら怒りそうで怖いですが）。英加画伯、毎月ありがとうございます。次はヒョードルなんてどうでしょう（久々のリクエスト）。



（石川県・シーザータカシ）➡お騒がせ男、入江。デコを光らせてはいかんと思うけど、かわいいイラストだから許してくれるでしょう（そうか？）。はじめましてのシーザータカシさん、何枚もありがとう。もう1枚載ってますけどね。

ほんとにジョーク？



（愛知県・たっつぁん）「イズマイウについて考える……それだけで酒5合はいける」➡5合は行きすぎでは？　いや、いいんですけどね。これを見て写真を探したんですが、本当にイズが写っていたら怖いのでやめようかと思いました。見つかった写真、そこには……!?



（石川県・テレ朝のディレクターとケンカで新日出入禁止男）➡ペンネームが長いです。はじめまして。「ほんとにジョーク」あてのおハガキなんですが、井上さんのイラストは珍しいので奪ってきました。たっつぁんさんは毎度こういう気持ちになっているんだということを感じてください。知りたくなかったですか。そうですか。



（愛知県・たっつぁん）「中川画伯、素晴らしいTシャツありがとうございました」➡これもまた『ほんとにジョーク』あてのものです。たっつぁんさん、すっかりイズマイウのトリコですか？　次に日本で試合をするのは、いつになることでしょう。

おハガキ・お便り・メール大募集!!

『紙プロ元気大学』では、みなさんのお便りを募集してます。『紙プロ』を読んで感じたこと、ご意見、大会の感想、お便りの他、イラストや写真も宜しくです。毎月、締切後に届くイラストを前に「あと2日早く送ってくれれば!」と、身をよじらせています。毎月、5日位までに投函してもらえると、掲載の確率がかなり上がりますよ。宛先は、

メールは radical@kamipro.com

〒151-0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷3・11・3・702（株）ダブルクロス
紙のプロレスRADICAL編集部　紙プロ元気大学「弁当管理は俺の仕事」係まで。

★☆★携帯サイト『紙プロHand』からの投稿も出来ます！★☆★

本名NGの方はペンネームを記入するのを忘れないよーに！　プレゼントコーナーあてのハガキも、内容によっては無断でこっちに載ってしまいます。匿名希望の人はその旨明記のこと。旬のネタは掲載率が高いです。

中川雅博 爆笑連載!?

ほんとにジョーク

第27回



今月イチバンおもしろかった作品とその作者

北海道札幌市　**虹伝説**



➔前号のTシャツ
ケンドー・カシン

★虹伝説さん、採用おめでとうございま〜す!!　「小川"ライオン・キング"直也」Tシャツ(XL)、お楽しみに!!　今回、ハガキが44枚も来ました。わーい!　わーい!　パチパチパチパチ。たくさんハガキが来ると嬉しく幸せ!　です。

★ウチの愛犬コマ(0才6ヵ月)が他のメス犬をハラませたら大変なので睾丸を取る!　と姉が言い出しました。自分は何となく取らないで欲しいので、一人で『コマちゃんのタマちゃんを見守る会』を結成して保護していきたいと思います。

★仕事が全然無いので毎日、必要以上に愛犬達とベタベタしたり、一人で謎の会を結成したりしている中川画伯の『ほんとにジョーク』にハガキを書こう!!　抽選で5名様に「手づくり缶バッヂ」、採用された方には「Tシャツ」をプレゼント!!　皆さん、ハガキをビッシビシ送ってください。自分はハガキとワンちゃん(ノット、868号)が心の支えです。

応募方法　プロレスに関したものなら何でもけっこう、ジョーク、ギャグ、コント、マンガ、標語、何でもいいんだ、とにかく『ホントニ面白い』ヤツをたのむ。毎月1名の作品をこのページで掲載。このページは読者投稿ですが、めでたく掲載された方には「中川画伯オリジナルTシャツ」をプレゼント。原稿発送は紙のプロレス「ほんとにジョーク係」へ、希望選手名やサイズ(S・M・L・XL)をハガキに書いて下さい。　〈例〉ジョシュ・バーネットのS

営業に行くくらいならタレントになります！ なコラムページ

BEST OF THE スタ♥コラム™



“歌うシュート活字王”狂気の新連載!!

タダシ☆タナカの『シュート活字劇場』

マット界舞台裏の裏（ウラ）

第２回

ロッシー小川が強要した「最強の演技」

03年8月25日の朝日新聞は、『アジャ・コングさん勝訴 試合放棄は興行会社が演出』という興味をそそる記事を掲載している。01年2月に後楽園ホールであったアルシオン大会でのアングルの裏にある女子プロレスの真実が裁判の場で争われ、東京地裁は「試合放棄はロッシー小川宏社長が演出し、指示した」と認定したうえで、慰謝料50万円と未払い報酬約670万円の支払いを命じたというのだ。

公判では、ギャラをずっと払ってくれていないロッシーにアジャが退任を申し入れたところ、「試合が始まったらほかの選手がリングに上がって辞任要求を出すので『辞めてやる！』と言え」と指示され、従ったという証言が認められ、記録に残った。

しかし、アジャが出ないとなって地方のプロモーターからキャンセルが相次ぎ、記者会見や専門誌インタビューでロッシーが「勝手に去って後始末しない」「問題児」などと発言したことは、アルシオン弁護側は「プロレス業界では、リング外のコメントは試合を盛り上げるために許される」と主張したが、裁判では「当時の両者の関係を考慮すると許容されるコメントではない」と退けたことも意義深い。「お約束の世界」が否定され、アジャ・コングの勝訴となったのだ。

ただし、倒産した会社からはカネは取れない。ロッシーはこの判決を予期してすでに自己破産も申告している。エース浜田文子の離脱とこのアジャ・コングの退団劇は、98年に全日本女子プロレスの経営危機（97年10月に二度目の手形不渡り）から派生して旗揚げされたアルシオンの崩壊を決定づけていた。

金も戻ってこない可能性が高いのに、小川の逆恨みも含めて実際の訴訟合戦になりアジャが裁判を続けた意義は計り知れない。全国新聞だけでなく、プロレス村のスポーツ紙もこのニュースの報道に踏み切った事実があるため、日本でも「プロレスは作られたショービジネス」とのカミングアウトの契機になるインパクトを含んでいるからだ。

もともとロッシー小川は、アジャの例でもわかるように、退団騒動までプロレスの演出にしてやらせたり、自身がリングに上がって堀田祐美子と対戦したときは、アスリートでないフロント背広組が試合する際のお約束として、カミソリ流血をやって白いスーツを鮮血に染め、〝流血の魔術〟まで実演していながら、一方で「ミスター高橋は業界の敵です！」と公言していた男。そのロッシーが結局、自分がやった演出を裁判で公表させられ、プロレス界の内幕を暴露するハメになってしまったのだから皮肉な話だ。



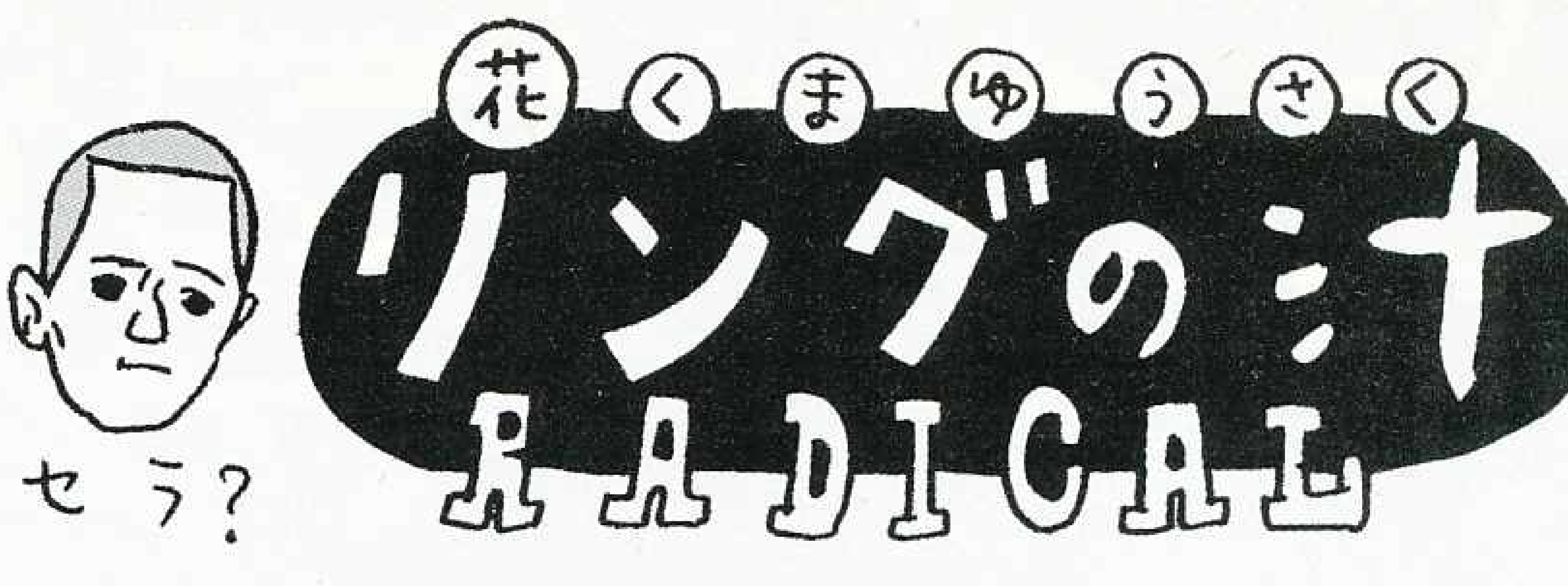
現在は「メジャー女子プロレスAtoZ」との関係が囁かれるロッシー。しかし、勝負をかけた9・13有コロは2800人発表の大惨敗だった。

暗いニュースばかりでもない。10月からフジテレビ製作部担当の女子プロレスが15分間だけレギュラーで復活することが決定した。土曜深夜の競馬番組の後の時間帯に元・全女の伊藤薫が現地で特訓中の中国人15名による、歌って躍れる美女ばかりの新しい趣向の女子プロ番組をお台場のSDM（スタジオ・ドリーム・メーカー）で収録するという。井上京子率いる「NEOレディース」を後援したホリプロ会長が支援するようだ。

フジテレビのプロデューサー時代はビューティー・ペアを仕掛けて大成功させ、現在は独立してサルティンバンコやキダムも手がけ、フジテレビ「スマックダウン」にも絡んでいる吉田斉（ダン）氏のオフィスがすでに大金を集めており、電通の協力を得て中国人少女という素材をどう料理するのか注目が集まっている。地上波での放送が消えていた女子プロレスだけに歓迎するしかない。

jdアストレスをより派手にする方針とメディア戦略は歓迎だが、日本人レスラーを絡ませないほうがいいような気もする。ただし、全女を退団後も師匠・伊藤のために中国に渡っている中西百重の動向が気になるのは関係者の一致した思いだろう。

ターミネーター3のトイレバトルは、トラック野郎の食堂
ケンカの影響受けてるなと、勝手に思う作文



古くは、『格通』での「イカンガー軍団挑戦もの」や「サンボロシア体験ツアー」、ちょい前なら「大槻ケンヂ強くないたい道」や「『リン魂』松本ハウスアマ修斗挑戦」などは面白さと刺激を、見る側だけの読者に与え、見る側からやる側にいってみたいと思うけど迷ってる者の背中を、少し押したもんですが、今回のZST出場もそんな感じで刺激になってもらえればといいかなと。そんなわけでZST話をどうぞ。

緊張の中、試合スタート。相手はフロントチョークにきたので、カウンターで得意の正面抱きつきヒザ十字へ。これは、昔からコピィロフが練習でよくやってたので、見よう見まねでマネして自分なりの形にし、今では普段のスパーでバンバン極めてる得意技〝くまがいスペシャル〟（勝手に命名）。しかしこの技には、デメリットがいくつかあったのであったのでした。

その一「この技知らない人は、技だと気づかない」

案の定、会場の雰囲気を察するにみんな気づいてない様子。マスコミでも気づくのは、藁谷さんなどごく一部だろう。それでも、手ごたえ少しあったので絞め続けた。しかし、相手もこれを知らないと、技だと思ってないのでギブするわけにもいかず、痛いけど試合なら我慢してしまうのか、それともただ単に浅かったのか、ギブしません。そして……

その二「極まらなかった場合の、肉体的&精神的ダメージが激しい」

普通のヒザ十字も極まらなかった場合、どっと疲れますが、これもひどい。あきらめて技といた時には、もうお疲れです。テレビゲームなら、


これが文中で花くま先生が書いている“くまがいスペシャル”が極まっているところだ。確かにコピィロフがたまに使っていた技だ



私のエネルギーは、一気にレッドゾーン。相手がバックにきたので、こんなとこまでコピィロフのマネしたくないんだがなあ〜と思いつつ、亀になり休んでひたすらブレイクを待つ。

ブレイク後こちょこちょやってるうちに、もう時間は後30秒。見せ場作って盛り上げねばと、得意ムーブのひとつ（スイープからヒザ十字）を仕掛けると、これがどんぴしゃりで極まり、「やったー！　最高のフィニッシュだ」と喜ぶもギブの気配がない。「やばい、ギブしないよ。でももう体パンパンで、アンクルいく力ないっス」と思ううちに時間切れとなりました。いくらスパーで取れても、試合で取れない自分の限界を痛感し反省しょぼん。36才の夏は、これで終った。

アマチュアの話はこれぐらいにして、プロ本戦へ。この日いちばんよかったのは、WK次代のエースと期待される中原太陽選手から、見事一本取った所選手でしょう。ZST4人衆（小谷弟・イリホリ・所）の一人としてこれでアピールし、トーナメントに厚みがでてきました。ZSTの門番的扱いで、TAISHOとやりそうな気がします。

この日は、もうひとりの足関十段・花井選手のムーブを楽しみにしていたのだが、KO負けで残念。花井選手の魅力は、コンテンダーズでこそ発揮されると思うのだが、オファーはないのかな？

結末でもめたメインですが、小谷弟のめずらしい怒りのマイクが新鮮。貴重なもの見れました。

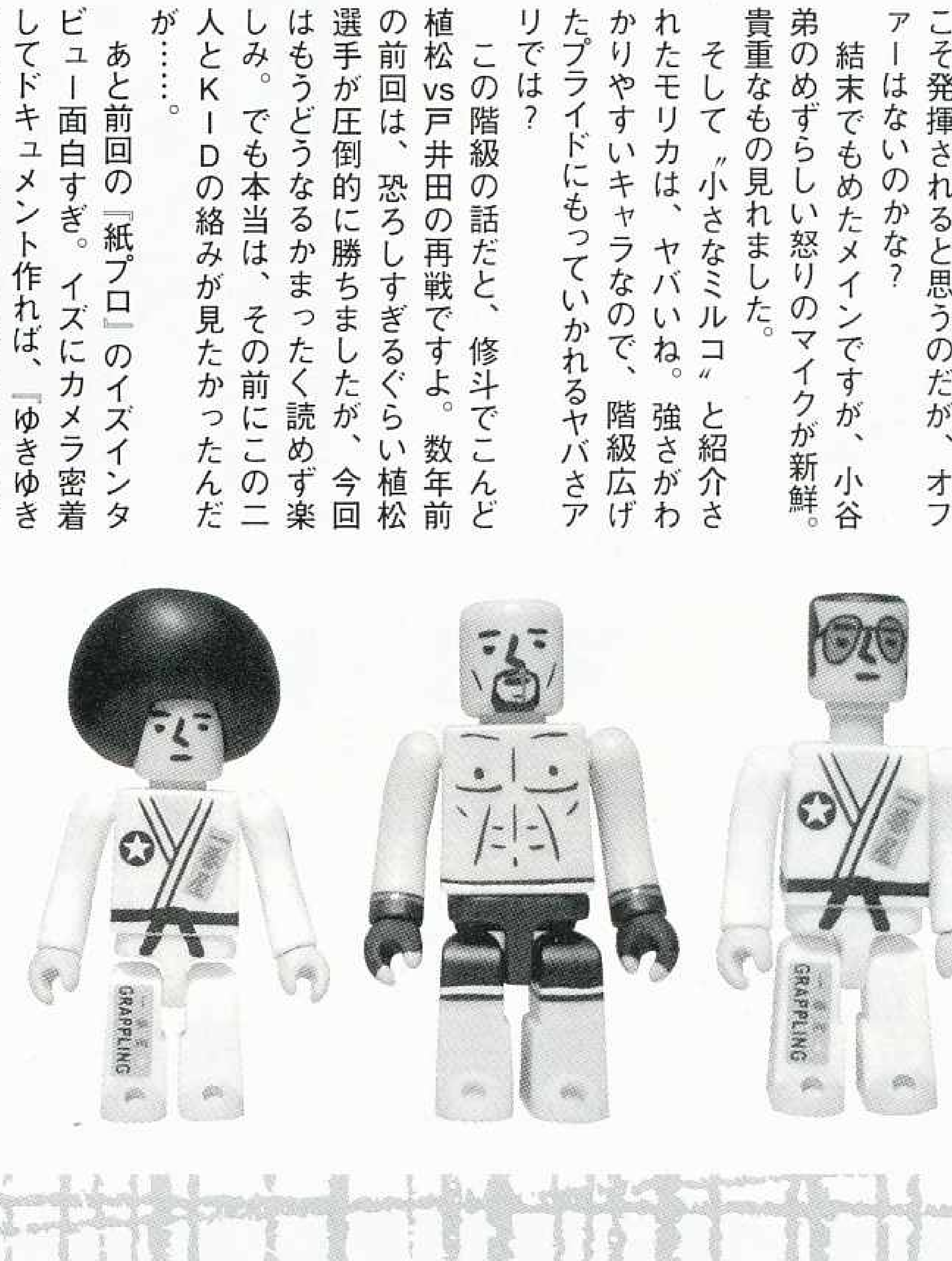
そして〝小さなミルコ〟と紹介されたモリカは、ヤバいね。強さがわかりやすいキャラなので、階級広げたプライドにもっていかれるヤバさアリでは？

この階級の話だと、修斗でこんど植松vs戸井田の再戦ですよ。数年前の前回は、恐ろしすぎるぐらい植松選手が圧倒的に勝ちましたが、今回はもうどうなるかまったく読めず楽しみ。でも本当は、その前にこの二人とKIDの絡みが見たかったんだが……。

あと前回の『紙プロ』のイズインタビュー面白すぎ。イズにカメラ密着してドキュメント作れば、『ゆきゆきて神軍』を超えるものができるのではないか？　それか、日曜午後に人々をどんよりさせるダウナー番組『ザ・ノンフィクション』で、イズをとりあげてほしい。



Hanakuma Yuusaku
今回相手してくれた、小松選手ありがとうございました。



男道コーチ屋稼業 掟ポルシェ(ロマンポルシェ。)の

業☆勝ちます



『狂犬・ロマン優光』の巻



この夏は忙しかった。サマーソニックなどの大場所でのライブ出演が決定していたにもかかわらず、相方の狂犬・ロマン優光が家賃滞納のため本格的にホームレス生活に突入し、3食拾い食いで済ませるなど粗野過ぎる生活態度がたたって体を壊し長期入院、代役を立ててなんとかゴマカすなどしていたからだ。クイントン・ランペイジ・ジャクソンは桜庭と対戦前、ホームレスファイターとして話題を呼んだが、よく考えてみれば住所不定無職のヤツに日本に来れるビザが発給されるわけもないのでそれがギミックだとわかるが、ロマンのホームレスは単なる事実。たまにギャラの入金があっても無駄にマンガ喫茶やビデオボックスの深夜6時間コースで悠々自適に寝泊まりして電光石火で散財し、すぐに全財産30円とかいうこども銀行残高並の経済状態に陥り、結果いつもの定位置（公園の芝生の具合のいいところ等）で就寝することに。仕事場に全身枯れ草だらけで現れてファンタスティック・イリュージョンを見せつけてくれるため、本当にガックリくる。そんなロマンに比べれば疑似ホームレス・ランペイジなど全くの常識人である。吐き気がするほどロマンチック、いや、ロマン優光だぜ！　オマエは！

まぁ、しかしだ。相方の俺が言うのも何だが、ロマンには昨今のバイトレスラーには感じられない危険な臭いを感じることも多く、ある意味ロマンはプロレスラーよりプロレスラーらしい魅力を持っているとも言えよう。鶴見五郎を彷彿とさせる、年齢に見合わないただれたマッチョバディとコミカルなヒゲ面、リトル・フランキーを想起させる天然パーマと人並みはずれてコンパクトなヒューマンサイズ。佇まいからしてまさにザッツ・プロレスラーというに相応しい。

というわけで今回はネタがないので、ロマン優光のプロレスラーよりプロレスラーな話を適当に書き飛ばしてみよう（本当に末期）。

忘れもしない、あれは『紙プロ』で俺が●野社長に取材したのをキッカケに●W●●ャ●ンのリングに上がり、ロマンポルシェ。のライブをやることになった時のことだ。プロレスのリング上でライブ？　それもまったく試合のアングルに関係無しの状態で？

●野社長は俺たちをハウンドドッグみたいな感動を与えてくれるロックバンドだと勘違いしているに違いなかった。

ディファ有明へ向かう電車を降りて改札口へ向かう途中、「●W●って今誰がいるのかね〜？」と、ロマンが話しかけてきた。連日のライブ続きで疲れきっていた俺は、面倒臭かったのでなんとなく想像で「●ル●ラ●ブ●とかじゃねぇか？」と適当かつ的確に返答。するとロマンの基本声質・他人を見下した下品な態度が朝から颯爽と飛び出し、「なにィ〜！　●杉!?　あの土●レスラーか！」と周囲に軽く響き渡る大声で嬉々として罵倒。すると、ロマンの2m前方で、当然その日も出場することになっているウ●ト●●●ンがノーマスクの状態でハッ！　と振り返った。幸いにして●杉さんが温厚な人柄だったため「きっと気のせいだろう」と判断されて事なきを得たのだが、さすがに俺もこれはシャレにならんぞと思い、「てめぇふざけんなよ、オマエの目の前に●杉いただろ！　言って良いことと悪いことって言うのが世の中にはあんだろ！」と、ロマンをたしなめた。するとロマンは「だってさぁ、本当のことじゃん！」と悪びれもせず開き直り。本当のことだったら余計言っちゃいけねぇんだよボケ!!

それに厳密には●杉は土●じゃなくて水道の配管屋だ、覚えとけ。もういきなり前途多難である……。

俺たちの出番は第3試合と第4試合の合間。休憩時間とは別にキッチリ枠が組まれている。それがまずかった。ライブが始まって直後、数名のタチの悪い客が「俺たちはプロレス観にきてるんだよ！　お前らの歌聴きに来た訳じゃねえよ！」とひっきりなしに、俺の曲間のしゃべりをかき消すようにして罵声を浴びせる。最初はリングの四方から浴びせられる単に口汚いだけの気の利かないヤジに逐一対応していたが、あまりに次元が低く広がりのないやりとりだったため、すっかり失望した俺は残りの曲をさっさと終わらせ、社長とのカラミもそこそこにリングを降りた。ロマンは客の一人に対して狂ったようにガンを飛ばし続けているようだったが、さほど気にもせず俺は楽屋に戻った。もっとわかりやすいプロレスネタをやっておくべきだったなとかショービジネスの基本的なことを反省していた俺だったが、ロマンはいつまでたっても戻って来ない。イヤな予感がしているところにマネージャーが血相を変えて飛び込んできた。

「大変です！　ロマンが客をボコボコにしてます！」

なんじゃそりゃあ！　早く止めに行かなくちゃと思ったら、異常なまでに息を荒らげた狂犬・ロマンがいつにも増して三白眼になりながらキバ剥き出しで戻ってきた。

「アイツは俺に言っちゃいけないことを言った！　そのくせ『俺は客だぞ！　客に手をあげてもいいのかよ！』とかふざけたことヌカしやがって！　ああいうヤツは殴られなきゃわかんねぇんだ！」

プロレスラーが聞き分けのないナメた客を体育館裏に連れ込んでかわいがるというのは聞いたことがあるが、そのドツかれた客もまさかプロレス会場でミュージシャンにボコられるとは思ってもみなかっただろう。呆れてモノが言えなかったが、こいつは男として少し信用できるなと思った。その日は当然ノーギャラだった。

Okite Porushe

ロマンポルシェ。ライブ情報！

11・15（土）高円寺『20000V』
11・29（土）江ノ島『オッパーラ』
その他の情報はHP参照！
http://www.musicmine.com/roman-p/

原タコヤキ君の 大阪プロレスファン通信

ナニワの中のナニワな人たちがお送りするダイナマイトな関西コラム

まいどー！「関西にプロレス熱を取り戻せ！」を合言葉にしながら、毎回お笑い芸人たちとウダ話に終始するこのコーナー。今回は関西でも屈指の『紙プロ』マニアのお二人にご登場願います。ほな、行きまっせ〜。

★

―ボクはあまりレイザーラモンさんのこと、詳しくないのでやさしくしてください（笑）。まず、お二人はかなりの『紙プロ』愛読者なんですよね？ ちっちゃい判型の時からですか？

住谷 ボクは基本的には『ラディカル』になってからですね。

出渕 ボクはそうです。原さんのことも知ってますよ。一度編集長になってますよね？

―お恥ずかしい（笑）。特に出渕さんは『ラディカル』で投稿してますね。編集部から送ってもらいました（とコピーを取り出す。過去、読者投稿ページ『PRIDE0』に3度掲載されている）。

出渕 書いてましたねぇ（笑）。何度か載って、チョロさんからも「模範の原稿を書いてください」って電話があったりして、「もしかしたらこれは芸人をしながらプロレスライターになれるかも」と思ったこともあったんですけど、でもそれっきりでした（笑）。

―まあそんなもんですね（笑）。えーっと、資料によると、お二人は学生プロレスのチャンピオン同士がコンビを結成したんですよね？

出渕 ボクが立命館プロレスリング（RWF）で、住谷が同志社プロレス同盟（DWA）の学生プロレスのチャンピオンでした。

―ボクは学生プロレス全然わかんないんですけど、段取り的にはプロレスと一緒なんですか？

住谷 そうですね。ちゃんとアングル考えたり、華のあるヤツを勝たせたりとかしてましたけど。

出渕 でもレスリング部とかに出稽古に行ったりしてましたよ。

―住谷さんなんか体も大きいから、実際のケンカも強そうですね。

住谷 いや、わかんないですけど、ボクは純プロレスをやってたんで、あまりケンカがどうとか関係なかったですね。

―吉本でケンカが強いって言うたら誰なんですかね？

住谷 （ケンドー）コバヤシさんも強いらしいですよ。

―ホンマに!? あの人、強いのか弱いのかよくわかんないんですけど。

住谷 でも二丁目（劇場）にヤンキーみたいなのが20人くらい「コバヤシ出せ！」って押しかけてきたのを、一人で出て行って騒ぎを収めたらしいですよ。

―マジで？ それまた、ケンドー君お得意のウソちゃうの？（笑）。ところでお二人がプロレスに出会ったきっかけは？

住谷 ボクは全日本で三沢が鶴田と凄い試合をしてたくらいに入りましたね。ほんで悪役商会とか好きになって、それからはもうアメプロですね。

―悪役商会が好きっていうのが、いま所属している吉本新喜劇に通ずるものがありますね（笑）。

出渕 ボクも全日本なんですけど、エリック兄弟とか大好きでしたね。いまはもう、WWEが一番好きですね。

―そこからアメプロにのめり込むようになったのは、なんでなんですか？

住谷 実はタダシ☆タナカさんが、ボクが所属していた同志社プロレス同盟（DWA）の創始者なんですよ。それでタダシ☆タナカさんが本を出されるにあたって、ボクら後輩に連絡をくださって、そこから本場のアメプロのビデオを送ってくれるようになったんですよ。

―へぇ。どえらい人が先輩なんですねぇ（笑）。

住谷 それから日本に帰ってくるたびに、タダシ☆タナカさんは独演会を開いて、ボクら聞きに行ってたんですよ。それでアメプロに詳しくなったんです。

―まあ、今はお二人のお師匠さんは吉田豪さんにイジられてますけども（笑）。これだけプロレスファンをアピールしてたら、プロレスラーの知り合いとか多いでしょ？

出渕 闘龍門のドン・フジイさんはWARの営業をやってらした頃に、よくボクらにチケットを売りに来てたんで、そこからお付き合いさせてもらってます。律儀な方ですよ。

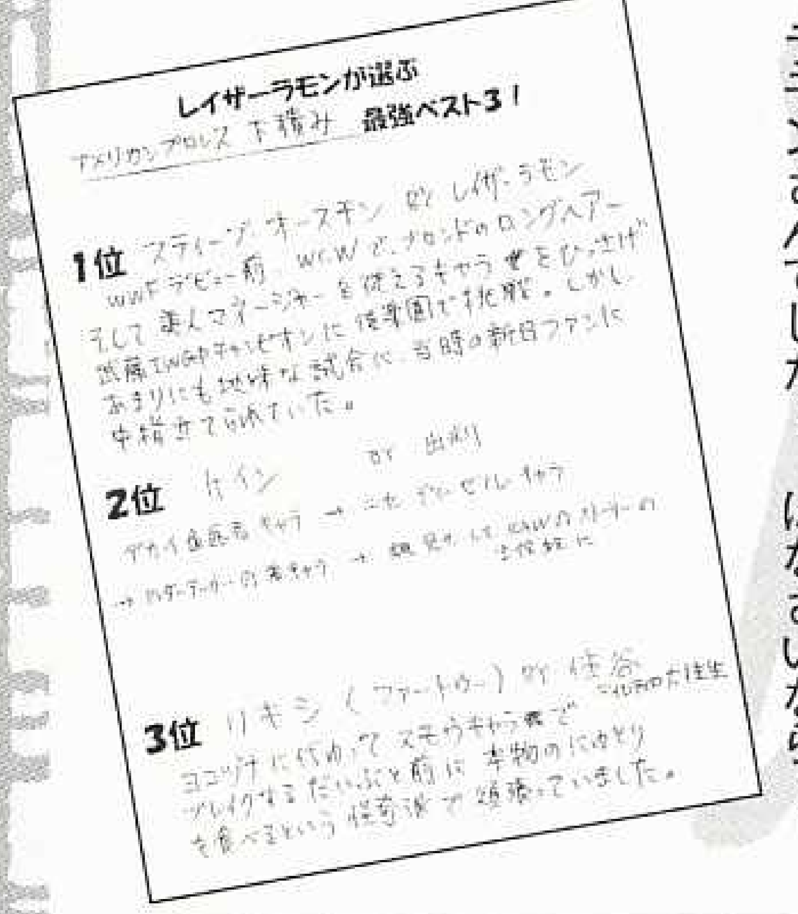
―闘龍門はお二人の好みかもしれませんね。では最後にマット界に望むことはなんですか？

出渕 ボクらはWWEが好きなんですけど、もっと日本人がWWEで活躍してほしいですよね。

住谷 さっき出た闘龍門の選手とか、ノアの丸藤選手とか活躍できるんじゃないですか。

出渕 浜田文子選手とかディーバで通用すると思いますよ。

―どこまでもWWEマニアなレイザーラモンさんでした！ ほなさいなら〜。



3th. GUEST



レイザーラモン■左／住吉正樹　右／出渕誠　吉本新喜劇所属。その名の通り、大のWWEファン。平成9年にコンビを結成するや、同年、いきなり「今宮子供えびすマンザイ新人コンクール」で福笑い大賞を受賞。凄いことなのだが、この肩書きはなぜか笑える。

タコヤキ日記

8.18 ひょんなことからトミーズ雅さんの別荘へ。メッチャ楽しい一日だったが、夜、僕の隣で寝ていたのは、なぜか大阪プロレスのえべっさんでした。

8.21 スモーノブが大阪へ。一緒にお昼を食べながらダブルクロス話。僕のいた頃とはえらい変わったようで、隔世の感。夜はWJ観戦。正直、入りはガラガラだったが、客席は思いのほか熱気があって驚いた。初めて生で鈴木健想を観たけど、やっぱりいいですよ、健想は。

8.23 神戸でサザンのライブ。途中、MCで桑田さんが「今日は色んな人たちが来てくれてて、ボブチャンチンとかですね……」と意味不明なことを言っていたが、そのへんはやはりプロレスファンの桑田さん。『プライド』もしっかりチェック済みのようで……。

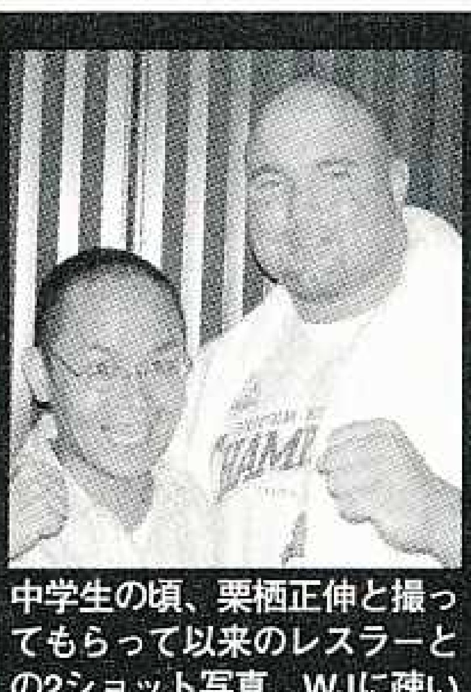
8.28 関西テレビの番組で空手家を探しているというので、正道会館東大阪支部長の後川聡之さんを紹介する。例のしゃがれ声で「大丈夫ですよ！」と快諾をいただく。

9.3 久しぶりに角田信朗さんに電話。サザンや最近のK-1の話題で盛り上がる。

9.5 関西テレビにボブ・サップ参上。うちの番組にも出演してもらう。

9.7 正道会館の全日本大会。久々に武蔵とウダ話するも、いきなり、「今度のトーナメントではあのデカイ奴、ぶっ飛ばしますよ！」と炎上。誰かに言わされている感が……。夜はケンドーコバヤシLIVE。今回、プロレスネタはほとんどなかったが、ブラジャーとパンティー姿で、股間に電動バイブを突っ込んでのオープニングには爆笑！ それにしてもどこに向かおうとしてるんや、ケンドー君よ……。

9.13 引越ししたばかりの我が家に、島田裕二レフェリーが来宅。世界柔道の視察に来たようで、「引越し祝いだよ〜！」とカバンからクシャクシャのパンフレットを突き出す。「こんな大人にはなりたくない……」と心底思った瞬間でした。



中学生の頃、栗栖正伸と撮ってもらって以来のレスラーとの2ショット写真。WJに疎いボクでもこの人がボビッシュでないことは断言できる！

原タコヤキ君■ちっちゃい頃の『紙プロ』編集者。前田日明デコピン事件やダミー編集長就任が有名（？）。現在は地元大阪でテレビの制作会社に勤務。引退した後でも『紙プロ』編集部に影響力を持ちたがる。



金ちゃんの MONTHLY BOYA-KING COLUMN

なんでそ〜なるの!?

第2回

本当に嬉しかった天山のG1優勝 本当に寂しかったタイソンK-1登場

最近、俺自身はいいことないけど、天山広吉がG1クライマックスで優勝したのは、人ごとながら嬉しかったね。

知ってる人も多いと思うけど、俺と天山はデビュー前に、新日本の道場を一般開放していた「プロレス学校」に通っていた同期で、それ以来いまでもずっと仲がいいんだよ。当時、天山には京都から一緒に上京して「プロレス学校」通ってた相棒がいてね、いつも一緒にいて、一緒に住んでるから、プロレス学校内では、いきなりホモ説が流れたりしてね（笑）。いやぁ、懐かしいな。

それで優勝戦の3日後くらいに祝勝会で飲みに行ったんだけど、天山も「いやぁ、やっとだよ」って、しみじみ語ってたよ（笑）。シングルは10何年やって初めてだもんね。俺も会場には行かなかったけどテレビで見て、「入場コスチュームは前の方が良かったよ」って言ったら、天山は「やっぱイメチェンしないとダメでしょう」って。アナコンダ・バイスっていう新しい技も作って、髪も切って、シングルでトップに立つのには、やっぱりいろいろ大変なんだなぁ、と思ったよね（笑）。

でもさぁ、G1だとチャンピオンベルトがないのがかわいそうだよね。「G1で優勝した」って言っても、〝証〟がないとすぐ忘れられちゃうじゃん。俺だったら、自分でベルトを作ってでもそれを巻いて入場するけどね。そうすりゃ、G1のタイトルマッチなんかないんだし、少なくとも来年の夏まではベルトを巻き続けていられるからね（笑）。

でも、天山はそういうずうずうしいことはできないのかな。ホントああ見えて、信じられないくらい腰が低くて優しい男なんだよ。和田さん（和田良覚レフェリー）が腰が低くて有名だけど、天山は和田さん以上だからね。



人の良さが災いしてか、これまで損な役回りが多かった天山が遂に掴んだ栄光！　でも、肝心の10・13ドームの話題からはなぜか蚊帳の外。受難は続く……？

この前の祝勝会の時も、途中である選手を呼ぼうってことになって、俺が電話したら「いま具合悪くて行けません」って断られたんだけど、しょうがないから天山に電話代わったのよ。そしたら「こんな夜分遅くに突然お電話おかけしてすいません。本当に申し訳ありません」とか話し始めてさ、まだ夜11時ぐらいだよ？　俺らにしてみたら夜はまだまだこれからなのに、「いまちょっと飲んでまして、ホント夜分遅くすみません」だからね。聞いたことないくらい丁寧なしゃべり方するんだもん。リング上では「テメー、オラッ、エー！　ぶっ潰してやる！」って言ってるのに、夢が壊れたよ（笑）。でも、そんな男だから、みんな彼の優勝を祝福してるんだろうね。

次のドームは高山君（高山善廣）とタイトルマッチなんだろうけど、これはどちらとも仲がいい俺としては複雑だよね。でも最近、高山君の腹が気になるからなぁ。俺が高山君と会うたびに腹触るんだけど、そうすると「うるせぇな、この野郎」って顔で見るのよ（笑）。だから、腹が減っこめば高山君の勝ち、減っこまなければ天山の勝ちかな。この前、蝶野さんとやった金網マッチも、金網登りながら苦しそうだったもんね（笑）。でも、あんまり言うと嫌われるからやめよう。今後のことも考えて、業界のトップとは仲良くしとかないと（笑）。業界のトップだからね。

でも、ホント冗談抜きで彼らがうらやましいよ。俺はやりたくてもリハビリ中で試合できないんだから。最近はウエートばっかりやってるから凄い筋肉ついちゃって、いま95キロあるんだよ。もう立派なヘビー級だよ（笑）。復帰したら高橋（義生）選手が持ってるパンクラス・ヘビー級のベルトでも狙おうかなぁ。それか、『PRIDE』のヘビー級グランプリを目指すのもいいかもしれない（笑）。とにかく誰でもいいから試合したいよ！

いまジムで練習するだけの毎日だから、凄いストレスたまってるからね。こんだけジムにいるとインストラクターでもやろうかと思うよ。田村さんなんかいくつもジム持ってるんだから、雇ってくんないかなぁ、復帰するまで。Uインターの後輩を助けてほしいよ（笑）。

最後に天山のG1優勝とは反対に凄くショックだったことも書いておこう。それはタイソンがK-1に出てきたことなんだよね。

俺、小中学生のころからタイソンの大ファンだからさぁ、いまでもスポーツ選手で一緒に写真撮ったりサインしてもらいたいと思うのはタイソンくらいしかいないからね。みんな知らないかも知れないけど、俺の入場コスチューム（ポンチョ）もタイソンが大きなタオルの真ん中を切って、それを頭から被って入場するのを真似たんだから。それぐらいタイソンファンなんだよ。

だから、なんかボクシングで勝てなくなって、事件とかもあって、それでK-1行くっていう感じがして寂しいんだよね。俺はいちファンとして、タイソンには最後までボクシング一本でいってほしかったな。タイソンのファンでK-1に出ること望んでる人って誰もいないでしょう？　ま、それでもやったら絶対見ちゃうんだろうけどね（笑）。

Kanehara Hiromitsu
オフィシャルHPで「本音炸裂コラム」毎日更新してます！
金原弘光オフィシャルHP
http://www.hiromitsu-kanehara.com/

ザ・検証

先日、ある大会関係者から連絡があった。「今度のウチでやる大会でトーナメントがあるんですけど、誰か出てくれるプロレスラーとかいないッスかねぇ?」。「いつ頃の話ですか?」「あと2週間ちょっとしかないんですけどね。一応、優勝したら●●万出るんですよ」「あ、そうなんですか?　誰か1人捜せばいいんですね」「いや、できれば6人ぐらい探してもらえれば助かるんですけど」。どうやら無事、終わったみたいです。

【今月の検証　椎名基樹】
『DEEP』の感想

映画『アンチェイン』に寄せた文章で「男子は後楽園ホールのリングに立ったら、男として上がり」という名言を吐いた、花くま先生がZSTのリングに立った。後楽園ホールではなかったが、ZSTといえば立派な晴れ舞台。花くま先生は男として「上がり」となっただろうか？　結果はドローだったらしいが、なにしろ立派な先生ですな。

話は変わって、『DEEP』大田区体育館大会観て来ました。独特の熱気で、空調が効かない大田区体育館が、さらにヒートアップでおもしろい大会だった。

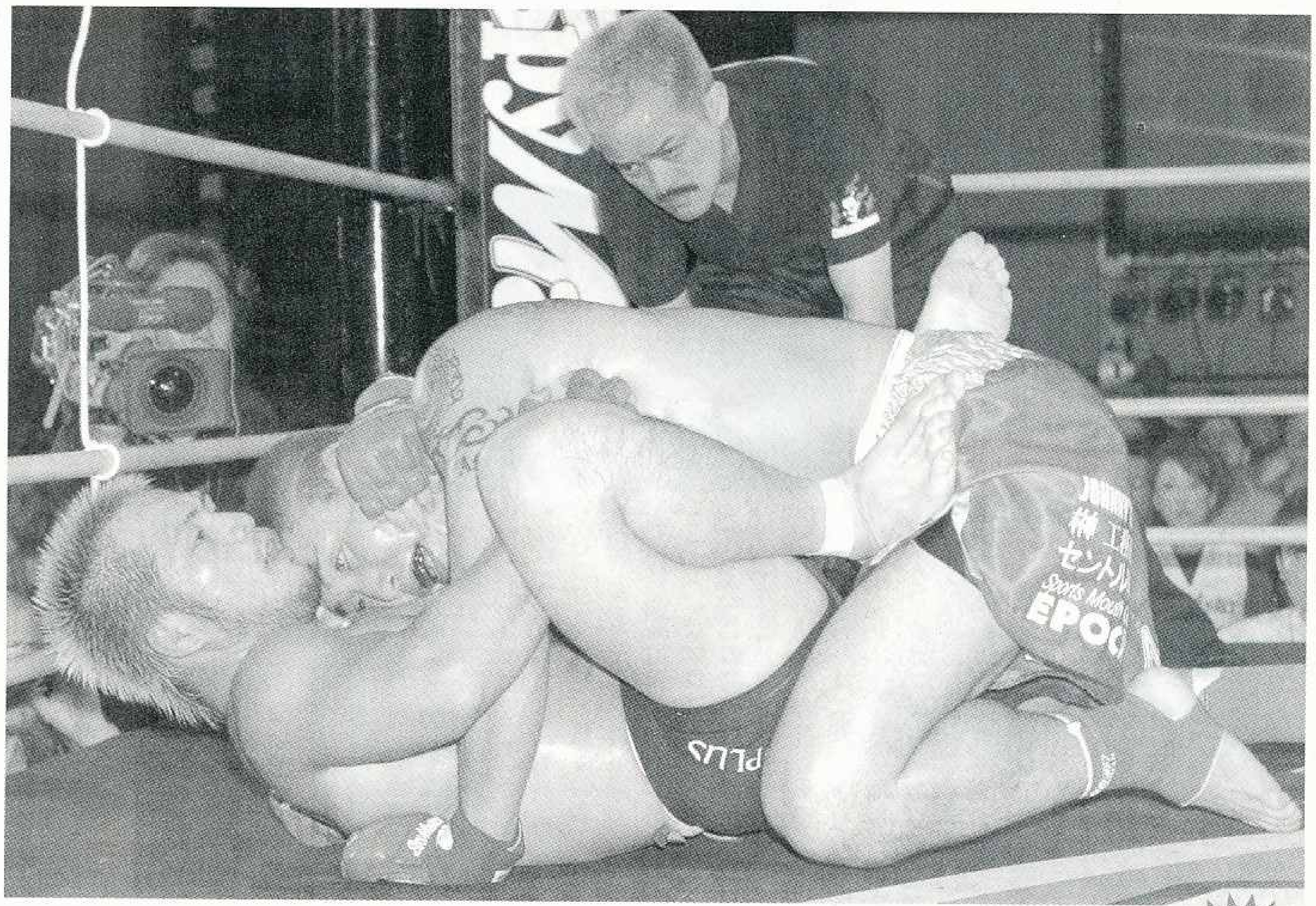
しかし、マッハが長南選手に負けたのはショックだったな。しかも、眼窩底骨折で『PRIDE武士道』にも出られなくなってしまったし。前回マッハがヒザで切って勝った、デイブ・メネー戦と同じ場所を自分が切られてしまうなんて、メネーの祟りかね。

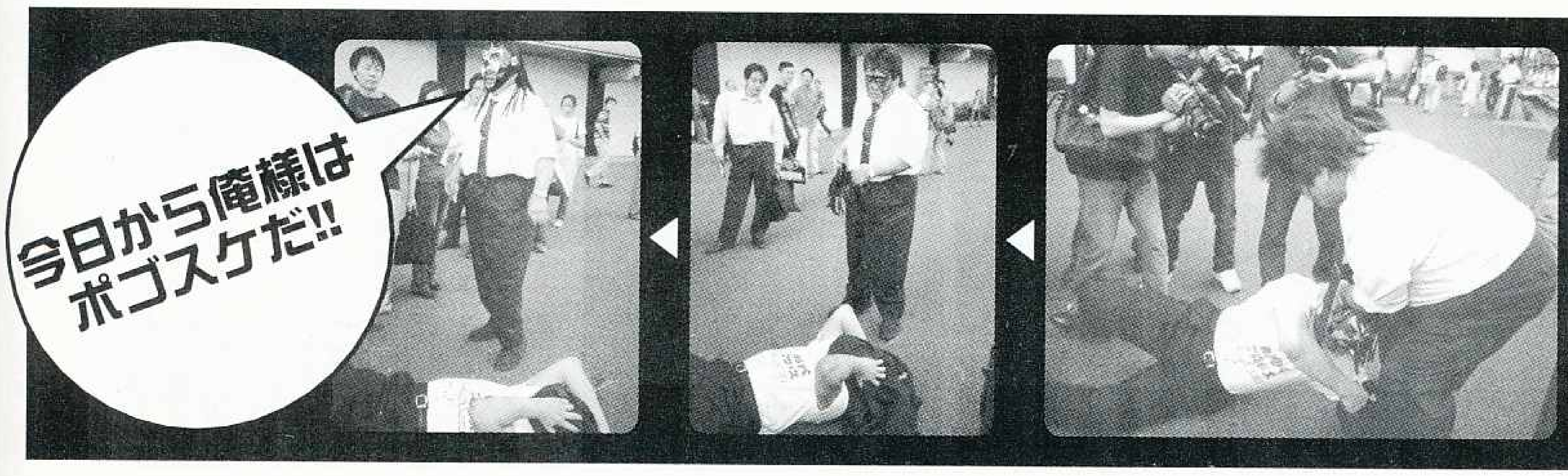
いつの間にか、『DEEP』はU-FILE勢のファンを中心の世界が出来ていて、すごい熱気になっていたのね。マッハが完全な外敵になっていたので驚いた。マッハとしても、アウェーでの闘いは覚悟の上であっただろうが、いくらなんでも「殺せコール」はないよね。後味悪いね。

に、しても桜庭にしてもマッハにしても、VTの一時代を築いた選手が最近バタバタ負けて、寂しい＆厳しいです。VTの旬は短いなあと思ったりしますが、しかし、マッハのキャリアの頂点であろうフランク・トリッグ戦も数年前であり、リアルファイト格闘技ではこれが普通なのか？　しかし、両桜ともまた満開に咲く日を、あきらめずに待とうと思います。

しかし、この日の『DEEP』には桜井隆多選手、加藤選手、三島選手、マッハ選手、須田選手と、かつて修斗で活躍した選手がたくさん出ていたし、五味選手もセコンドで顔を見せていたりして、これからどう動いていくのか楽しみなのであった。

とにかく、日本人が壁を取っ払って、今、闘っていかなければ、外国人にまったく勝てなくなるであろうので、ガンガン闘い、交流して欲しいと思います。以上！





特別ふろく

こちらも『DEEP』な闘い！サスケvsポーゴ、東京駅前で大乱闘!!

今号が発売される頃にはポーゴも立ち会う中、行われるサスケvs大仁田は終わってしまっているが、それを前に東京駅の真ん前で、しかも大勢の通行人の前でサスケをポーゴが襲撃！　どうなる、サスケの素顔!?

【今月の検証　せき詩郎】坂口征二と憲二（&坂口安吾）の違い

それは今年の夏。G1を観戦するために両国国技館へと行った時のことだった。

休憩中、私はチケットの半券を落としたことに気づいた。だがもう会場入りしていることだし、いまさら半券などあっても無くても大差はないと思いつつも、もしも席へと戻る時にチケットチェックがあったらどうしよう!? などと小心者らしくびくついてしまったために、一応落ちていないか探してみることにした。

先ほどまで私はグッズ売り場辺りをウロウロしていた。落とした可能性があるとしたらそこしかないだろう。私はグッズ売り場へと引き返し、半券を探し始めた。その時、事件は起こった。

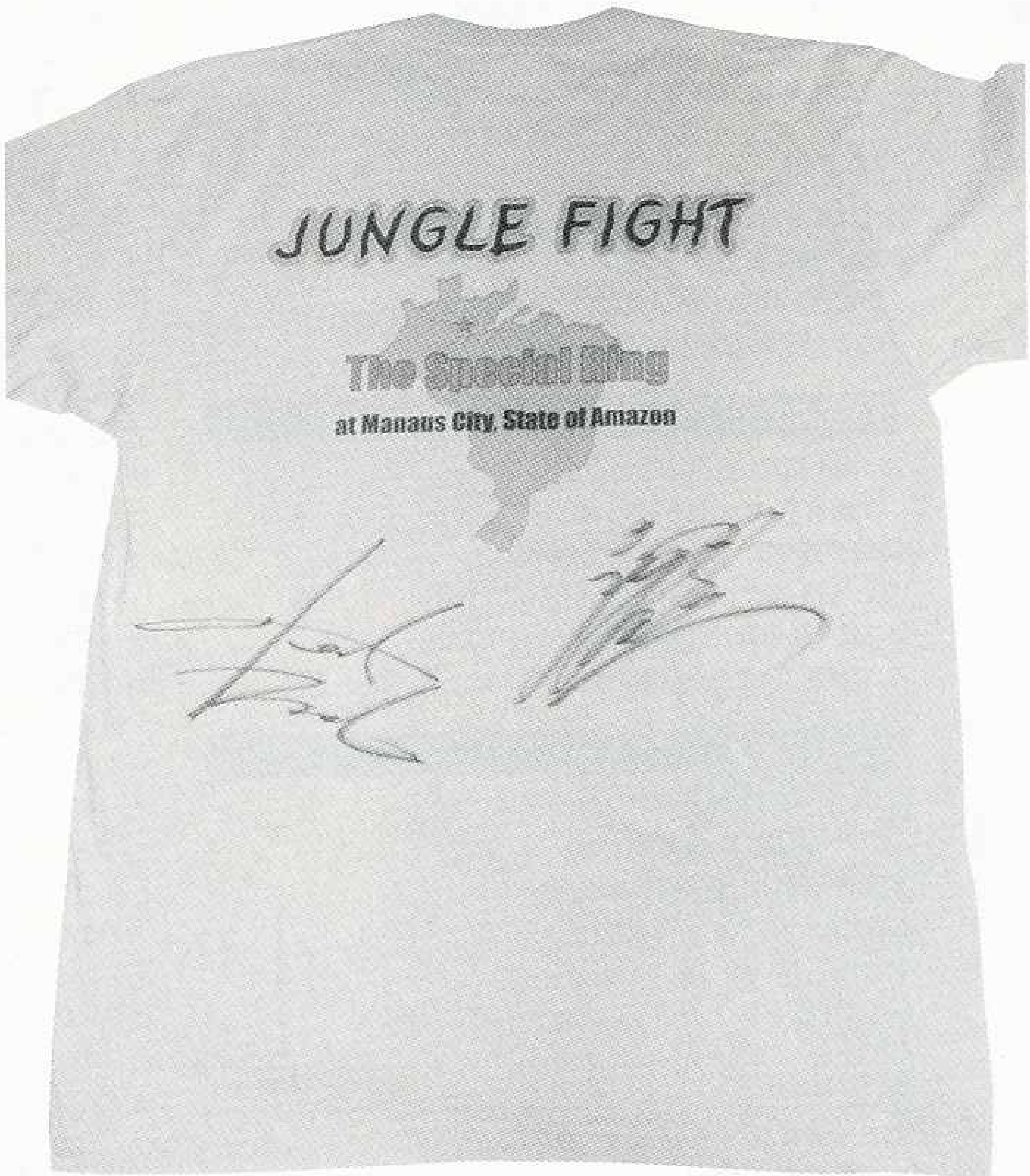
新日関係者らしき男性スタッフがある間違いを犯してしまったのだ。

そこはグッズを買い求める人で賑わっていた。私は人混みをかき分けながらチケットの半券が落ちていないか床を探していた。そんな私の前に男性スタッフが立ちはだかった。男性は私に「あちらにお並びください」指差した。指の先には何かの列ができていてなにやらひときわ賑わっていた。

それが何の列で、そこで何が起こっているのか知らない。わかっているのは私には無関係なことだということ。その列がチケット半券落とした人たちの列ではないことは明らかだ。私は無視して再び床を探し始めようとした。だがまたしても男性に体を張って止められる。そしてまるで聞き分けの無い子供を扱われるかのように、半ば強制的に列の方へと誘導されてしまった。

そこにはどんどん人が集まってくる。今来たばかりの私の後ろにもあっという間に列ができていた。潰れた銀行に押しかける預金者のように、我先と押し寄せてくる。もはやそこから脱出することは不可能になってしまった。

私の気持ちとは裏腹に列は進む。押され、私も前へと進む。女性スタッフがなにやら大声で叫んでいる。「3000円です!」何かが3000円らしい。いったい何が3000円なのか。辺りを見渡す。すると奥の壁に黄色いTシャツが掛かっている。Tシャツには「ジャングルファイト」の文字。どうやらそれが3000円らしい。



それだけではなかった。Tシャツを今購入すると、それにヒートとタイガーマスクがサインしてくれるらしいのだ。それがこの人だかりの答えであった。

ジャングルファイトのTシャツなどいらない。ヒートのサインもいらない。何代目か忘れたタイガーのサインもいらない。すべてが不必要。私が今欲しいのはチケットの半券だけ。

だがもう後戻りはできない。押し出されるように前へとはじき出され、3000円でTシャツを買う。もはや抵抗する気は失せた。流れのままヒートとタイガーにサインを貰う。そして最後には握手までしてもらった……。

いかがであろうか。私をヒート&タイガーのサインを欲しがってる客と勘違いしたあの男性スタッフ。そのちょっとした間違いが引き起こした大変な事件。思わぬところで3000円出費。加えヒート&タイガーの大ファンのような行動。ちょっとした間違いが取り返しのつかないことになることが良くわかっていただけただろう。

そういうわけで、今回は間違ってしまうと大変なことをみなさんに教えようと思う。第一回目は今が旬の坂口征二と坂口憲二。

この二人、親子だけあって名前が似てるし間違いやすい。もしもコンパの席で坂口憲二の話をしているつもりで坂口征二のことを話してしまって嫌われてしまったら!? そんな致命的なミスをしないよう、しっかりと違いを覚えましょう。またコンパの席で知的さをアピールしようと「坂口安吾とか読むんだよね」というつもりが「坂口征二とか読むんだよね」と言ってしまったら!?「坂口安吾ってさ、身長が195センチもあるんだよ」と言ってしまったら!? これまた危険! そこで坂口安吾の情報も載せておきます。

坂口征二と憲二（&坂口安吾）の違い





名前	坂口征二	坂口憲二	坂口安吾
生年月日	1942年2月17日	1975年11月8日	1906年10月20日
出身地	福岡県久留米市	東京都	新潟県新潟市
身長	196cm	185センチ	不明
体重	135kg	70キロ	不明
出身校	明治大学	東海大学ハワイ校	東洋大学印度哲学倫理学科
デビュー&主な経歴	柔道日本一 1973年4月1日プロレスデビュー 北米タッグ&シングル王座	『MEN'S CLUB』(モデル) 『ベストフレンド』(ドラマ) 『機関車先生』(映画)	昭和6年「風博士」を牧野信一に激賞され一躍文壇にデビュー 「堕落論」/「白痴」/「二流の人」
得意技	アトミックドロップ	サーフィン、ゴルフ	小説を書くこと

RADICAL CALENDAR



9 September

27 SAT.
大日本■千葉・八日市場ドーム(18:30)
大阪■大阪・デルフィンアリーナ(18:00)
K-DOJO■京都・KBSホール(19:00)
NEO■東京・板橋区立産文ホール(18:00)

28 SUN.
WJ■三重・三重県営サンアリーナ(15:00)
大日本■東京・後楽園ホール(18:30)
DDT■東京・後楽園ホール(12:00)
大阪■大阪・デルフィンアリーナ(13:00)
K-DOJO■大阪・デルフィンアリーナ(19:00)
全女■茨城・下館市小川町山倉神社前特設リング(18:30)
JD■東京・北沢タウンホール(14:00&18:00)
U-FILE■東京・西調布アリーナ
GAEA■東京・EDITパーク(16:00)
WWS■群馬・伊勢崎市文化会館(17:00)

29 MON.
WJ■和歌山・和歌山県立体育館(18:30)
IWA■東京・後楽園ホール(18:30)

30 TUE.
WJ■長野・長野運動公園総合体育館サブアリーナ (18:30)

10 October

1 WED.
大日本■熊本・熊本市興南会館総合展示場(18:30)
スマックガール■東京・六本木ベルファーレ(19:30)

2 THU.
闘龍門■岩手・岩手県営体育館(18:30)
K-DOJO■千葉・Blue Field(19:00)

3 FRI.
闘龍門■青森・はちのへハイツ(18:30)
AtoZ■千葉・東金アリーナ サブアリーナ(18:30)

4 SAT.
闘龍門■山形・酒田市営体育館(18:30)
パンクラス■大阪・グランキューブ大阪(18:30)
K-DOJO■千葉・Blue Field(19:00)
みちのく■福島・福島市国体記念体育館 (18:30)

5 SUN.
『PRIDE 武士道』■埼玉・さいたまスーパーアリーナ(17:00)
全日本■東京・後楽園ホール(12:30)
ノア■東京・ディファ有明(17:00)
闘龍門■宮城・Zepp Sendai(16:00)
大日本■福岡・博多スターレーン(15:00)
JD■東京・新宿クラブハイツ(13:00)
NEO■東京・バトルスフィア東京(14:00)
キャプチャー■東京・新宿村スタジオ(14:00)
東海プロ■愛知・三菱電機グラウンド特設リング
みちのく■ 青森・新青森県総合運動公園(15:00)
AtoZ■神奈川・横須賀市臨海公園(13:00)

6 MON.
U-STYLE■東京・後楽園ホール(18:30)

7 TUE.
大日本■愛媛・宇和島闘牛場(18:30)
闘龍門■静岡・キラメッセ沼津(18:30)
みちのく■秋田・山内村民体育館 (18:30)

8 WED.
大日本■徳島・アスティ徳島(18:30)
みちのく■岩手・花巻市民体育館 (18:30)
DDT■渋谷Club ATOM(19:00)

9 THU.
闘龍門■島根・松江くにびきメッセ(18:30)
K-DOJO■千葉・Blue Field(19:00)
みちのく■山形・酒田市営体育館 (18:30)

10 FRI.
全日本■大阪・大阪府立体育会館第二競技場(18:30)
闘龍門■兵庫・神戸チキンジョージ(19:00)
ZERO-ONE■東京・後楽園ホール(18:30)
みちのく■宮城・石巻市総合体育館 (18:30)

11 SAT.
K-1■大阪・大阪ドーム(16:00)
ノア■東京・後楽園ホール(18:30)
闘龍門■愛知・津島市文化会館(18:00)
全日本■ 香川・高松市民文化センター(18:00)
みちのく■福島・郡山総合体育館 (18:30)
DDT■東京・自由が丘駅前商店街(19:00)

12 SUN.
ZERO-ONE■ 熊本・グランメッセ熊本(16:00)
ノア■埼玉・桂スタジオ(17:00)
闘龍門■岡山・倉敷山陽ハイツ(18:00)
NEO■大阪・デルフィンアリーナ(18:00)
K-DOJO■千葉・Blue Field(15:00)
みちのく■岩手・一関文化センター体育館 (15:00)

13 MON.
新日本■東京・東京ドーム(15:00)
闘龍門■岡山・岡山卸センターオレンジホール(16:00)
みちのく■福島・いわき市平体育館(16:00)
ZERO-ONE■ 福岡・博多スターレーン (16:00)
GAEA■東京・後楽園ホール(12:00)
JWP■東京・板橋区立赤塚公会堂(16:00)

14 TUE.
ZERO-ONE■ 徳島・徳島市立体育館(18:30)
大日本■東京・後楽園ホール(18:30)
全日本■ 青森・八戸市体育館(18:30)
みちのく■岩手・住田町生涯スポーツセンター

15 WED.
全日本■ 宮城・築館町総合運動公園体育館(18:30)
新日本■鹿児島・鹿児島アリーナ (18:30)
ノア■千葉・千葉ポートアリーナ(18:30)
闘龍門■福岡・博多パヴェリアホール(18:30)
DDT■渋谷ClubATOM (18:30)

16 THU.
全日本■ 福島・いわき市平体育館(18:30)
ノア■新潟・三条市厚生福祉会館 (18:30)
新日本■長崎・島原市体育館(18:30)
JD■東京・後楽園ホール(19:00)
K-DOJO■千葉・Blue Field(19:00)
みちのく■宮城・白石市文化体育活動センター (18:30)
ZERO-ONE■兵庫・高砂市総合体育館(18:30)

17 FRI.
新日本■長崎・長崎県立総合体育館(18:30)
みちのく■秋田・秋田市立茨島体育館 (18:30)
AtoZ■ 宮城・石巻市総合体育館(18:30)

18 SAT.
新日本■福岡・福岡国際センター(18:00)
K-DOJO■千葉・Blue Field(19:00)
ZERO-ONE■大阪・大阪府立体育会館第2競技場 (18:30)
みちのく■青森・はちのへハイツ(18:30)
AtoZ■ 東京・池袋サンシャインシティ文化会館展示ホールB(18:00)

19 SUN.
ノア■京都・KBSホール(17:00)
WJ■青森・新青森県総合運動公園(15:00)
大日本■北海道・別海町スポーツセンター
東海プロ■愛知・名古屋市総合体育館第3競技場(13:15)
K-DOJO■東京・歌舞伎町クラブハイツ(18:00)
みちのく■宮城・ Zepp Sendai(14:00)
AtoZ■ 千葉・夷隅町多目的研修センター(13:00)

20 MON.
新日本■山口・海峡メッセ下関(18:30)
WJ■秋田・秋田市立体育館(18:30)
大日本■北海道・釧路ヒルトップ青雲台体育館(18:30)
NEO■東京・渋谷Culb ATOM(19:00)

21 TUE.
ノア■兵庫・県立武道館(18:30)
新日本■広島・広島サンプラザホール(18:30)
闘龍門■東京・後楽園ホール(18:30)
大日本■北海道・根室青少年体育センター(18:30)
全日本■和歌山・和歌山県立体育館(18:30)
AtoZ■ 新潟・三条市厚生福祉会館(18:30)

22 WED.
ノア■岡山・岡山武道会館(18:30)
大日本■北海道・羅臼町民体育館 (18:30)
全日本■ 長野・佐久市総合体育館(18:30)
新日本■福岡・大牟田市民体育館(18:30)
AtoZ■新潟・新潟フェイズ(18:30)

23 THU.
大日本■北海道・北見東トレーニングセンター(18:30)
新日本■熊本・熊本市総合体育館(18:30)
AtoZ■ 新潟・柏崎市総合体育館 (18:30)

24 FRI.
ノア■広島県立総合体育館(18:30)
大日本■北海道・本別町体育館(18:30)
闘龍門■長野市運動公園体育館(18:30)
AtoZ■ 新潟・長岡市厚生会館(18:30)

25 SAT.
ノア■長崎・佐世保市体育文化館 (18:00)
大日本■北海道・札幌テイセンホール(18:30)
闘龍門■埼玉・本川越ペペホールアトラス(18:00)
K-DOJO■千葉・Blue Field

26 SUN.
全日本■東京・日本武道館(15:00)
新日本■兵庫・神戸ワールド記念ホール(16:00)
ノア■福岡・博多スターレーン(17:00)
大日本■北海道・札幌テイセンホール(15:00)
闘龍門■埼玉・桂スタジオ(15:30)
JD■大阪・NGKスタジオ(16:00)
DDT■東京・お台場メディアージュ内スタジオドリームメーカー(17:00)

28 TUE.
新日本■長野・駒ヶ根市民体育館(18:30)
AtoZ■ 茨城・下妻市立総合体育館(18:30)

月刊誌の限界に迫る
海外スクープ速報!!

9月19日（現地時間）
ブラジル、リオ・グランデ・ド・ソル州
デンウリンハ・コンプレックス
『BRAZIL SUPER FIGHT』



［ブラジル・スーパーファイト・ミドル級選手権］
○美濃輪育久（2R3分1秒、ヒザ十字固め）シルマル・ホドリゴ●

地球の裏側ブラジルに日本人王者誕生!!

俺がリアル・プロレスラー
美濃輪育久だ!!

構成／堀江ガンツ　協力／ブラジリアン・トップチーム



ブラジルに流れ着いた一匹の侍

美濃輪が蘇らせた“海外武者修行”という名の浪漫



美濃輪育久、ブラジルでチャンピオンベルト奪取！

今年7月からパンクラスを退団し、ブラジルへ〝海外武者修行〟に出ている美濃輪育久が、9月19日、南ブラジルの都市リオ・グランデ・ド・ソル州ポルトアングレで行われたバーリ・トゥードイベント『ブラジル・スーパー・ファイト』に出場。なんとメインイベントでブラジル・スーパー・ファイトミドル級タイトルマッチを行い、2ラウンド3分1秒、ヒザ十字固めでブラジル人格闘家シルマル・ホドリゴを破り、見事、初代チャンピオンとしてそのベルトを腰に巻いた。

このイベントはブラジリアン・トップチームの首領マリオ・スペーヒーが初めてプロモートしたブラジルでは珍しい大規模なバーリ・トゥード・イベントで、トップチームを中心に、グレイシー・バッハやファス・バーリ・トゥードなど有力ジムから若い選手が多数出場。ここへ、プロモーターのマリオはプロとして経験豊富な美濃輪をメインイベントに抜擢。

当初、美濃輪の相手は日本でも名が知られるジョルジ・パチーノ・マカコの予定だったが、直前にブラジル・ドージョーを主宰するイズマイウにマカコが引き抜かれ、急遽対戦相手変更。異国の地で未知の相手と闘うという、まさに海外武者修行ならではのシチュエーションでシルマル・ホドリゴと対戦。2Rにバックを取られたところを、得意の前方回転ヒザ十字固めで極め、一本勝ちを奪った！

その直後にノゲイラ、アローナ、ブスタマンチ、ゴエスらブラジリアン・トップチームのメンバーたちに祝福されると、美濃輪は一目はばからず号泣！　日の丸を掲げ、「俺がリアル・プロレスラーだ！」と涙ながらに絶叫した。

昨年から思うような結果が残せず、もがき苦しんでいた美濃輪が今年7月に出した、パンクラス退団、海外武者修行へ出発という決断。ブラジルへ単身渡り、何もかもが日本と違う環境の中で、ノゲイラらトップ選手らと日々、強くなるための厳しいトレーニングを続けていた美濃輪。そしてその中で仲間ができ、仲間たちの協力を得て、異国の地で初の戴冠。これぞ一人のプロレスラーが、肉体的にも精神的にも大きく成長する、かつての〝海外武者修行〟そのものだ。

理想のプロレスラー像を目指し、ガムシャラに突っ走り、そして結果を残し始めたいまの美濃輪には、そんなかつてのプロレスラーが、ファンに抱かせたロマンがある。

ブラジルに一匹の侍あり。その名は美濃輪育久。我々が本当に夢を託せるリアル・プロレスラーが、いま誕生しようとしている。

ベルト獲得の一週間前

美濃輪に独占 FAXインタビュー

ブラジルでベルト奪取の快挙を成し遂げる一週間前『紙プロ』では、次号11・1韓国VT大会『K.O.KINGS』用の企画として、美濃輪にFAXによる質問にすべて自筆で答えてもらっていた。ブラジルで修行に没頭する美濃輪のいまを読みとれ！

■ブラジルでの生活には慣れましたか?
いえ。まだ、毎日が新しい事なので。

■いまどんな環境で生活していますか?
自然と練習とブラジル人という環境です。

■ブラジルで困ったこと、驚いたことはありますか?
多すぎて書けない。

■言葉の問題はどうしていますか?
なんとか、辞書持って歩いています。

■いま、一番ほしいものは何ですか?
島・城・星。

■トップチームでの練習はいかがですか?
いい環境です。

■トップチームに入ってみて驚いたこと感じたことはありますか?
人が多い。

■いまは主にどんなことに重点を置いて練習していますか?
すべて。

■日本のことは気になりますか?　日本の情報は仕入れていますか?
全然入らない。

■8・10『PRIDE』やパンクラス10周年記念大会はビデオでご覧になりましたか? 見ていたら、その感想を聞かせてください。
テレビない、ビデオない、見れない。

■9月19日のマリオ・スペーヒー興行はメインイベントですが意気込みを聞かせてください。
BRAZIL!!
ハハハハハハハ・・・。

■いま一番の楽しみはなんですか?
週末。

■11・1韓国でダン・スバーン戦が決定していますが、30キロ以上の体重差は気になりませんか?
俺は侍・プロレスラー。
侍は体重で人を選ばない。

■対戦相手としてダン・スバーンはどのように評価していますか?
すばらしいレスラー。

■スバーン戦以降も、どんどん試合をやっていく予定ですか?
もちろんです。

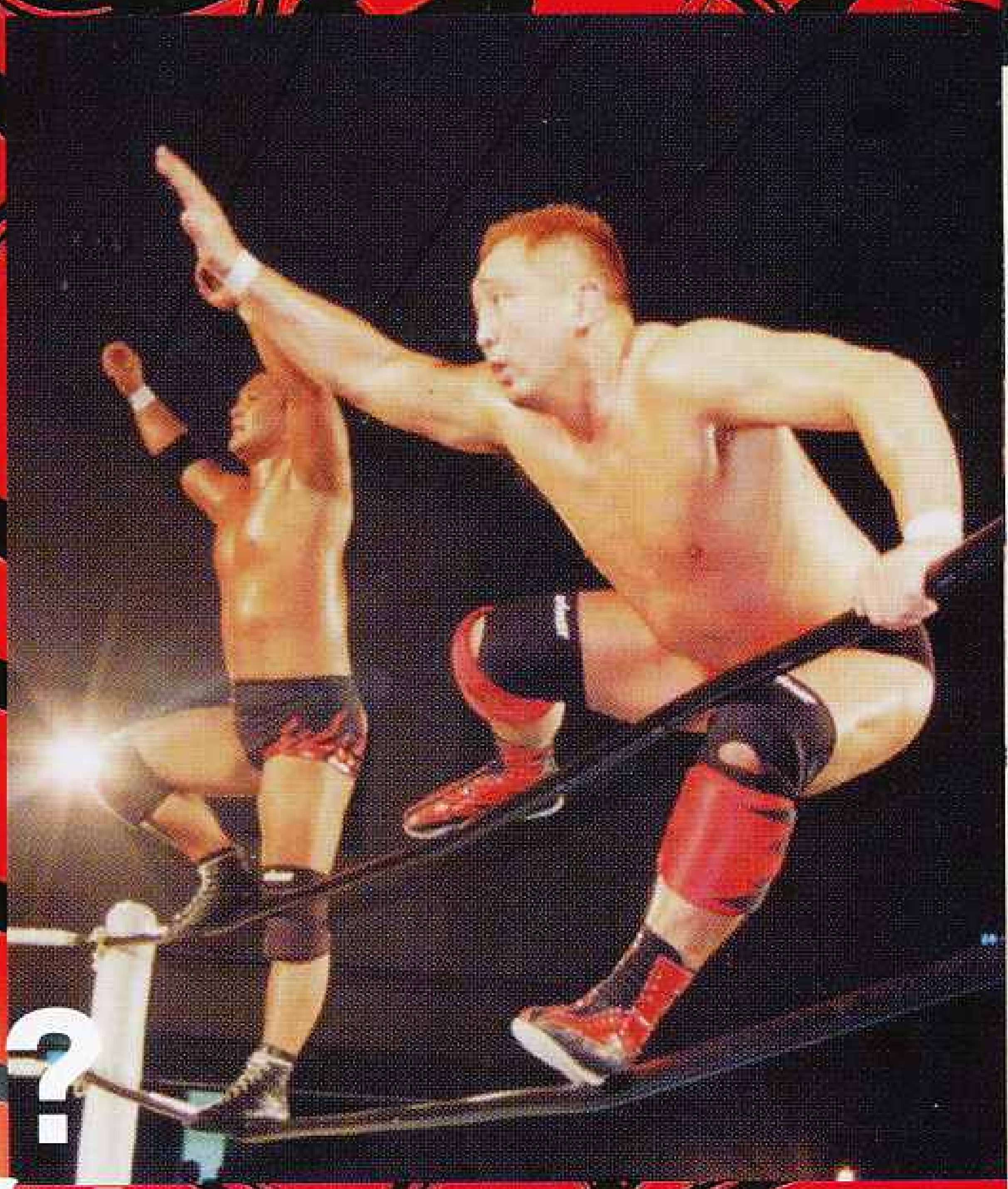
■日本へはいつごろ帰る予定ですか?
わからない。

■以前、パンクラス時代にミルコ戦を熱望していましたが、ミルコと闘う一番の魅力とは何ですか?
俺はリアルプロレスラーだ。以上。

■ここ最近のミルコ・クロコップの試合をご覧になって、どのような感想をお持ちですか?
テレビない。・・・。

■日本のファンへのメッセージをお願いします。
いろいろとご心配をおかけしております。私まだまだ修行の身なので帰った時はよろしくお願いします。



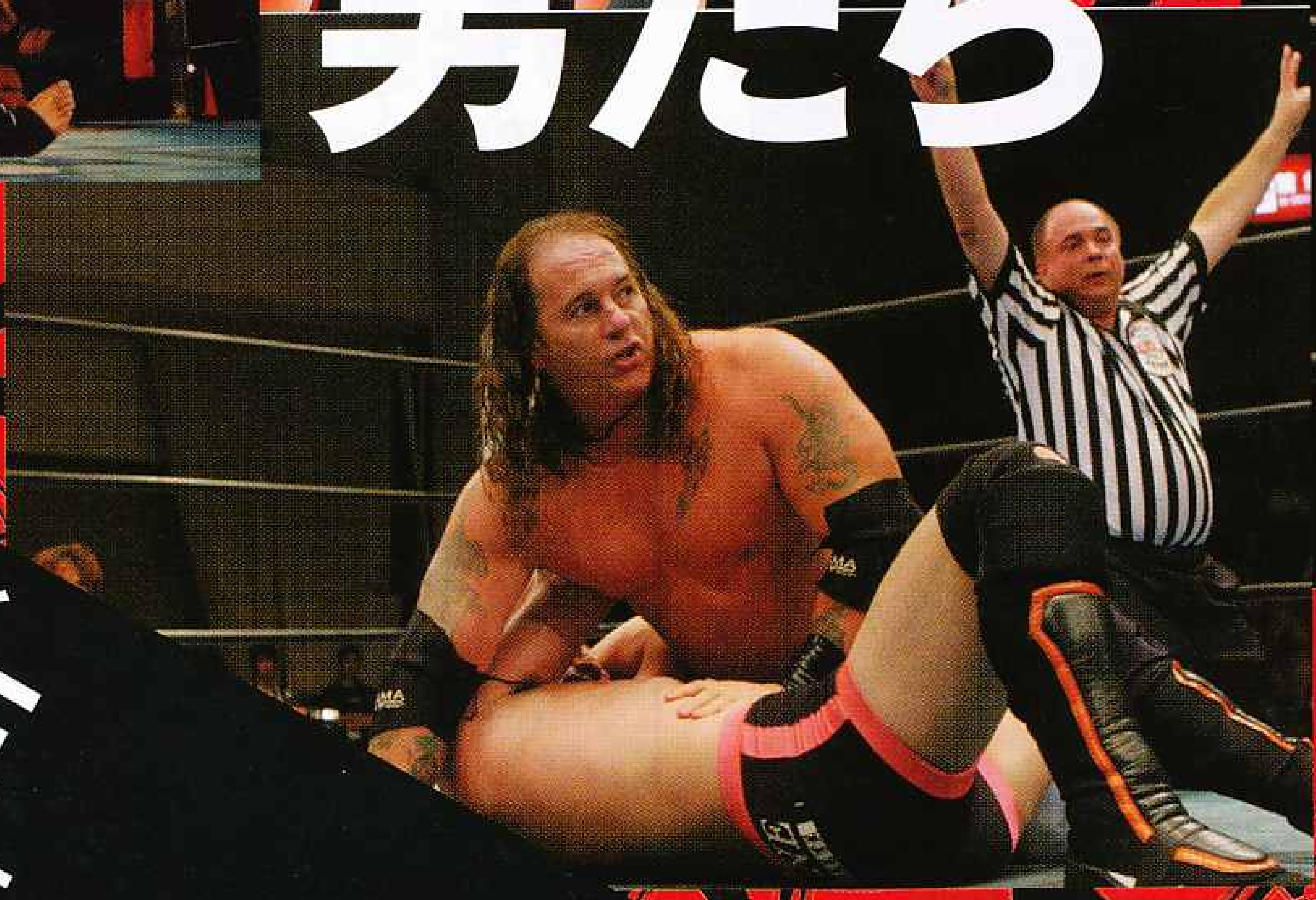




破壊王長期欠場!?
インディー連合侵攻!
『W-0』開催延期!?

ZERO-ONEはどこへ行く!? カギを握る男たち





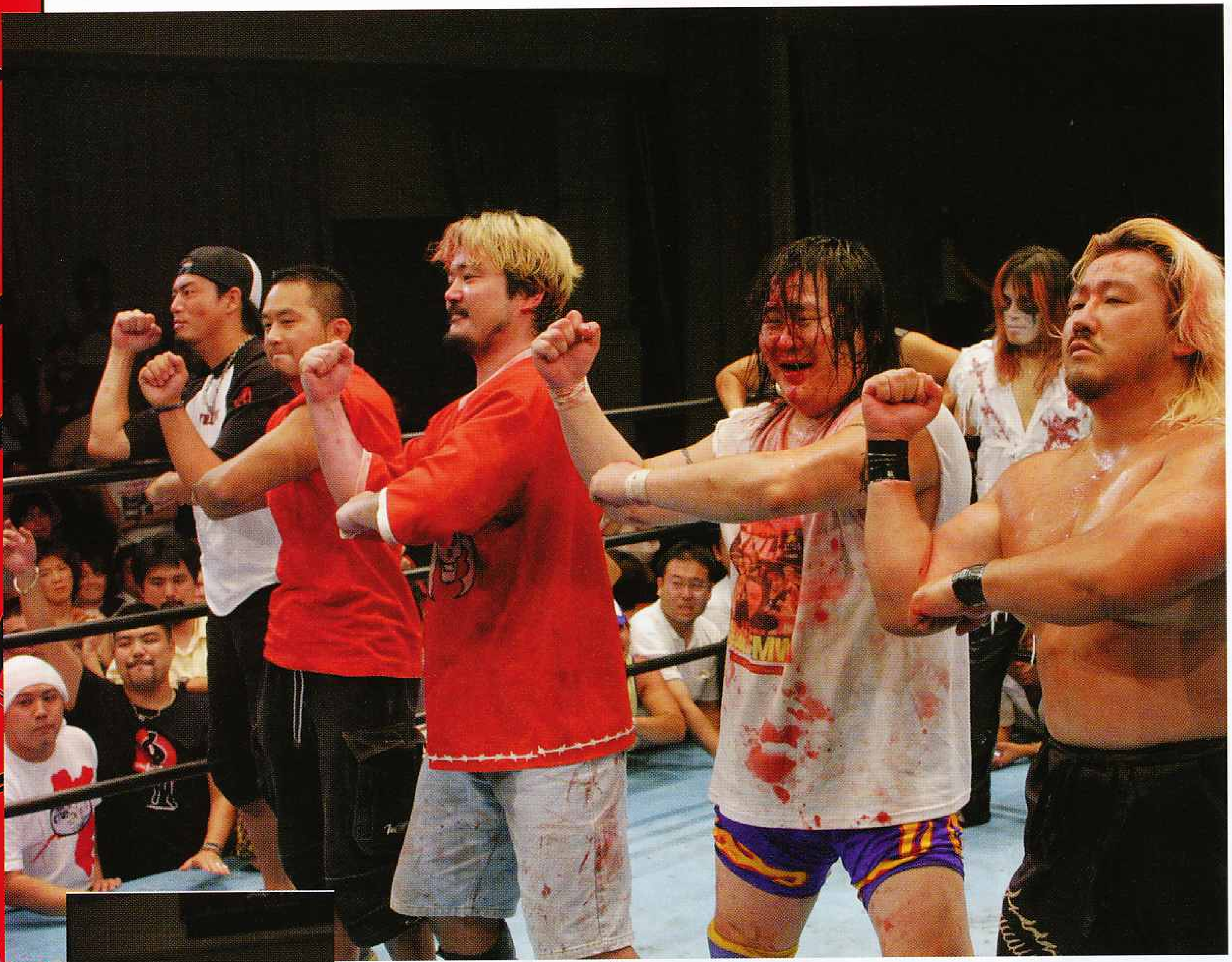


特別ふろく
破壊王
プチインタビュー
つき!!

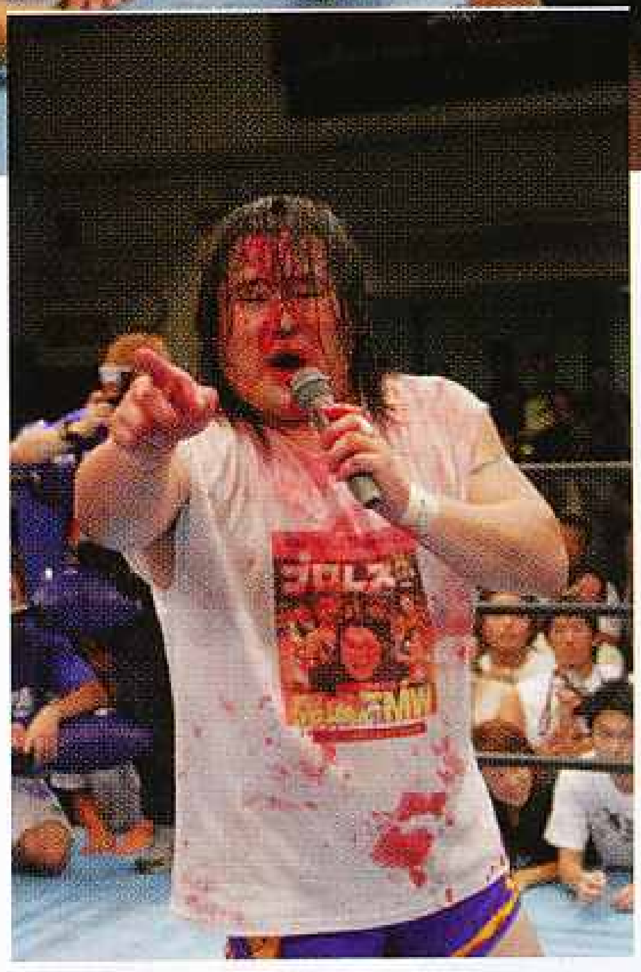
構成／松澤チョロ、ささきぃ
撮影／平工幸雄
Design／さおとめの事務所

ZERO-ONEはどこへ行く!? カギを握る男たち

01 インディー連合



金村、雁之助ほか、インディー軍が勢揃い（黒田は頭を打ったため控室に）！試合を見守ったハヤブサは「意外と言えば意外でしたが、なるべくしてなった、という感じで、自分はお客さんのようなスタンスで、これでいいんだ、って思った」とコメントしていた



金村「おととし、ボスのガンがわかった年の川崎は、インディーは全敗、ボスが死んだ今年の川崎はＺＥＲＯ―ＯＮＥに全敗や。オレと黒田だけやったらインディーはもう限界なんや。来年の川崎では橋本真也にもっかいたどりつく。ついて来いとは言わん、一緒にやろうや」

インディー軍団、ＺＥＲＯ―ＯＮＥ殴り込みを宣言!! 8月25日、冬木軍プロモーション特別興行のメインで、金村キンタローとミスター雁之助が激突。激闘を制した金村が、インディー連合の設立を宣言。恩讐を超え、雁之助らに結託を呼びかけた。

激しいイスチャンバラでスタートした、雁之助と金村の対決。雁之助は金村の顔面を狙って殴りにいき、金村も負けじと机を持ち出して南側客席でダイブを披露する。

雁之助の暴行でレフェリーが気を失っている間に、非道、ＴＡＫＡ、佐々木貴がリングイン。4人で金村を痛めつける。この暴挙に怒った怨霊、マンモス佐々木、ＧＥＮＴＡＲＯらもリングへ。金村が、雁之助に爆ＹＡＭＡスペシャルからサンダーファイアーパワーボムを決めたその瞬間、失神しているレフェリーに代わって、元クドウちゃんこと伊藤豪プロデューサーがリングに走り込み、3カウントを叩いて金村を勝利に導いた。

金村は、乱入した3人と雁之助に「雁ちゃん、一、俺はホントにやろうと思ってる」とマイク。「ついて来いとは言わん、一緒にやろうや。みんなでガーっと、メジャーをいわしたろうや!」。

返事はダンスで、とばかりに音楽スタート。雁之助は金村の隣でともにダンス！ 大きな拍手の中、雁之助は「金村、俺とオマエが組むんなら、ブリーフ・ブラザーズ復活だろ!!」と、伝説のユニット再結成を宣言した。

メジャー団体へ宣戦布告したインディー連合軍は、早速9月8日、ＺＥＲＯ―ＯＮＥ事務所に殴り込み！ 山笠Ｚ'信介を火祭りならぬ血祭りにして「新シリーズ『Ｈ』は、冬木軍のＨや!」と、ＦとＨの違いもいとわず叫び、真っ向から「（田中）将斗、（葛西）純、（佐々木）義人、一緒にやろうや!」と、引き抜きまでブチあげた。

ＺＥＲＯ―ＯＮＥが面白いと認めたからこその標的宣言。挑発を受けたＺＥＲＯ―ＯＮＥ軍とインディー連合のぶつかり合いは……次のページをチェック!! オィーッス!!

（ささきぃ）



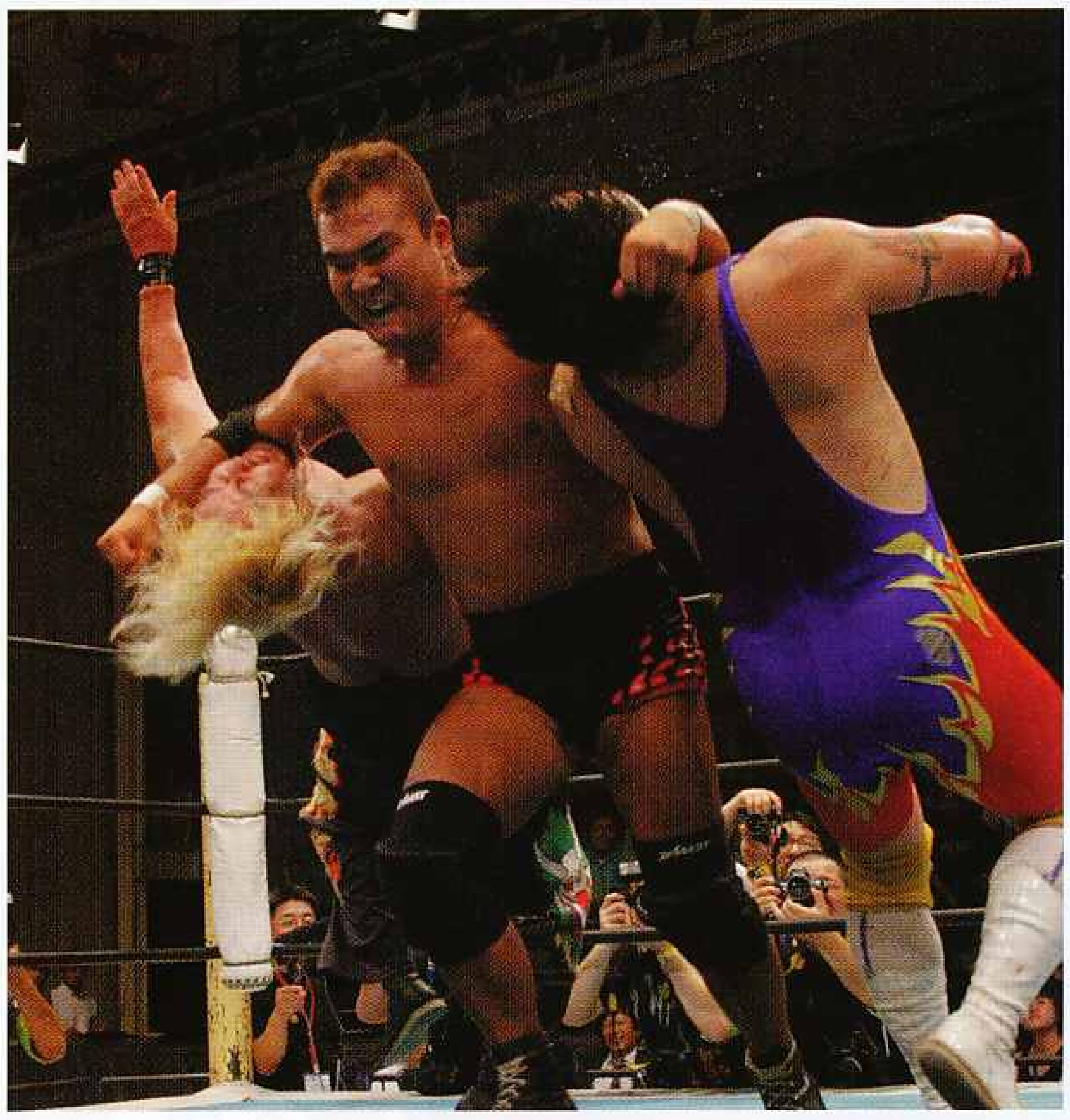


大流血で横たわる山笠の横で、インディー連合軍が薄笑い。これには大谷も「俺と田中でブッ潰してやる!!」と大激怒！ 中村部長はすぐさま伊藤豪プロデューサーに連絡を取り、大会カードを決定した。「ヒドイことしたけど、オレらの本筋は白い天使や！（by金村）」

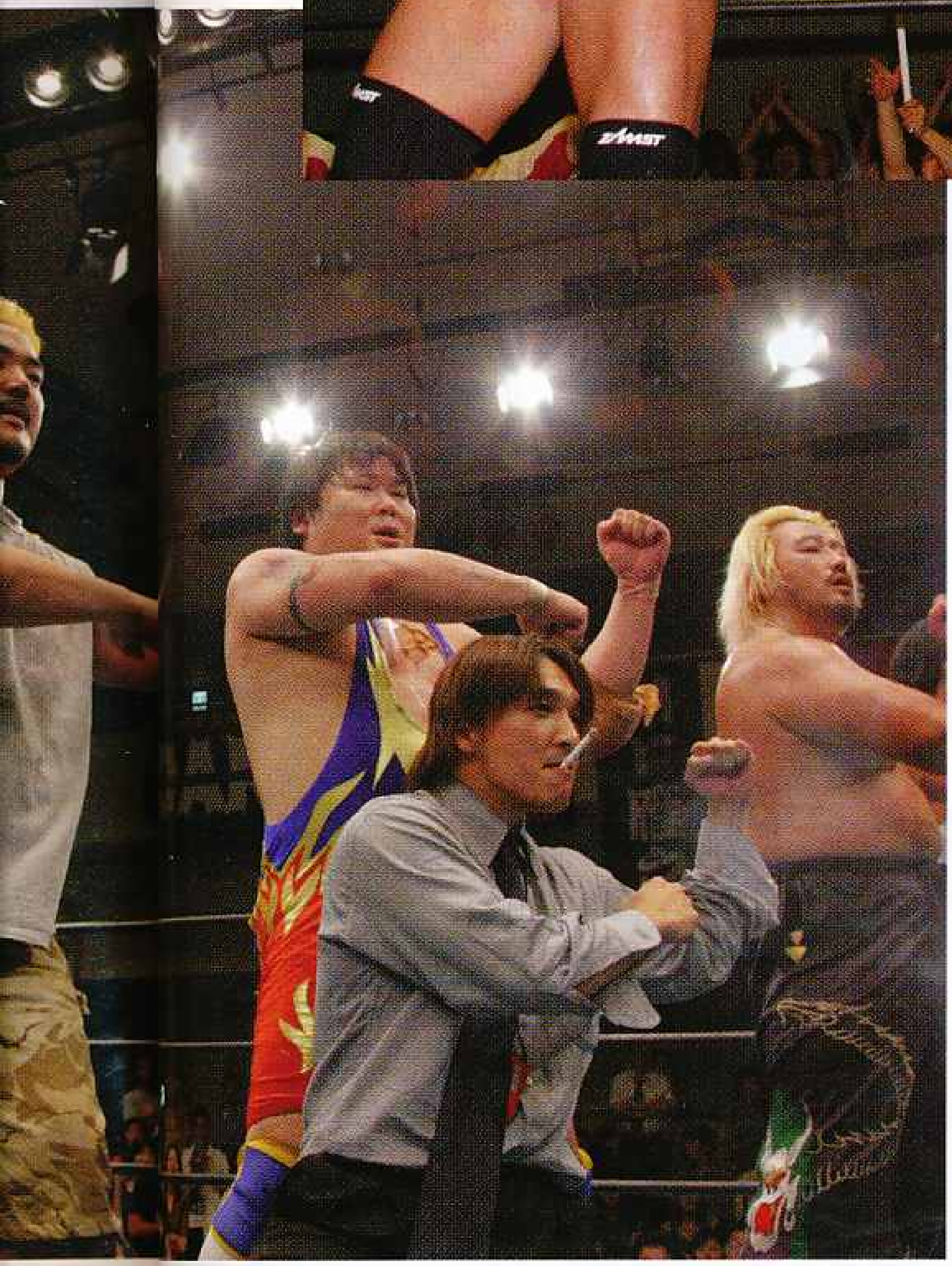
ZERO―ONE軍VS"アパッチ・プロレス軍"、全面戦争!!
そしてZERO―ONEはどこへ向かうのか!?



激闘を制した炎武連夢。クドウちゃん（伊藤豪プロデューサー）のレフェリングを足を引っ張って止めた中村部長とともに勝ち名乗り！ 見よ、これが闘うフロントの顔だ!!



中盤、やっと大谷とタッチした田中。何を思ったか、敵である金村&雁之助の前で大谷を羽交い締めに!! 炎武連夢解散か!? しかし次の瞬間、ラリアットで2人いっぺんに首狩り!! 場内大歓声!!



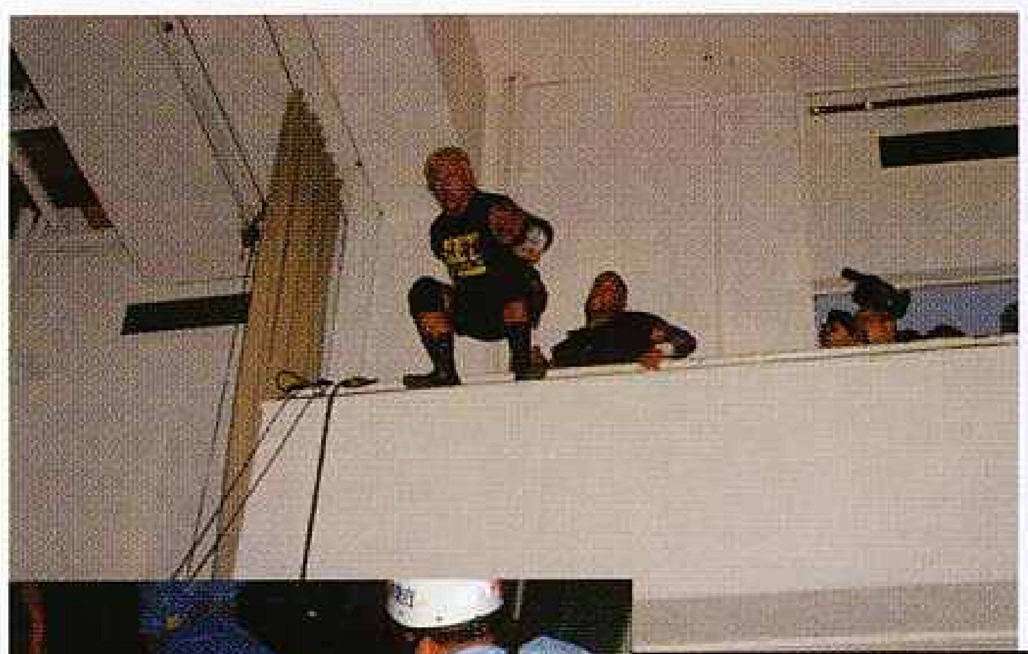
ZERO―ONEマットを占領、我がモノ顔でダンスを披露するインディー連合。試合後、連合軍の名称を"アパッチ・プロレス軍"とすることを宣言した。中央でタバコをくわえているのが、これまた闘うフロント（?）クドウちゃんこと、伊藤豪プロデューサーだ!!

ZERO―ONE軍、ハードコア対決を制す!! 9・21、ZERO―ONE池袋大会メイン・大谷晋二郎&田中将斗VSミスター雁之助&非道の一戦は、文字通り"ZERO―ONE軍"VS"アパッチ・プロレス軍"の軍団全面対決に。イス・机・角材を持ち込んだあげく、当然のようにセコンド陣が介入してきたアパッチ軍に対し、ZERO―ONE軍も一丸となって対抗。雁之助がレフェリーに暴行すれば、ハードコア育ちの炎武連夢・保坂秀樹が飛び込む。勝手にカウントを叩こうとしたクドウちゃん＝伊藤豪プロデューサーの足を引っ張って止めたのは、19日後楽園大会でニールキックを喰らわされた中村部長。最後はクドウちゃんをジャーマンでブン投げた大谷が、スパイラルボムで非道を沈めて勝利した。

炎武連夢がメインを張ったハードコア・シリーズ「H」は、絶対の存在だった破壊王の欠場により、ZERO―ONEの底力が試されるシリーズとなった。開幕戦である後楽園は、葛西のケガという、どうしてもビビらずにはいられない事件があった上（まして、破壊王がケガをしているのだからなおさら）、ZERO―ONEが"インディー軍"に"アイディア"と"結束力"で敗北するという、重い現実がのしかかった。それは、ZERO―ONEがもっとも他団体に負けてはいけない部分であったはずだし、闘いのテーマとして"日本対アメリカ"、そして"全日本壊滅"を掲げていた団体が、たとえハードコア戦とはいえ、卑怯な手を使って、リング上でタバコを吸う"インディー軍"に負けている状況は屈辱である。

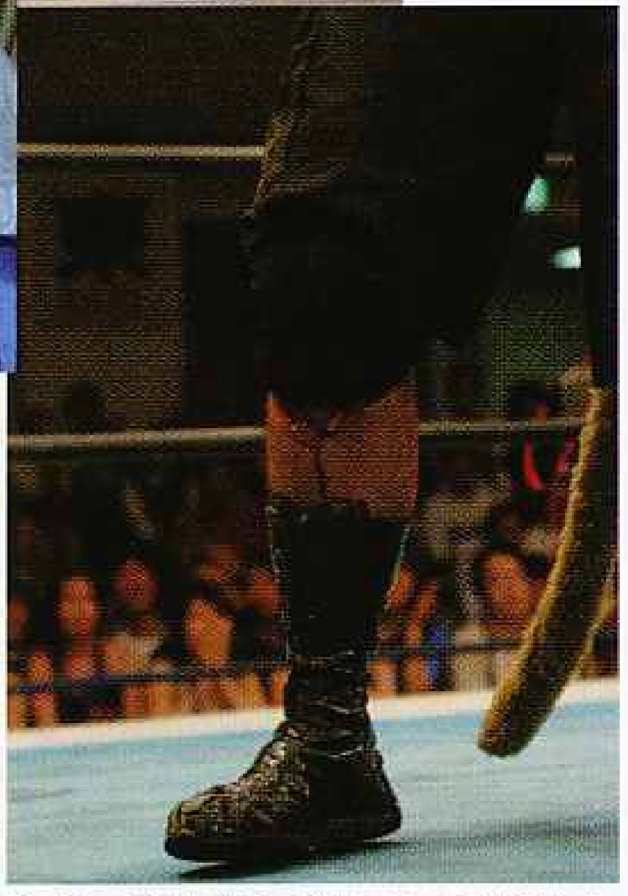
だが、金村の「仲間がやられてんのに、何でボーッと見てるんや」という言葉に目が覚めた。もともと、対抗戦ではすぐに鉄の一枚岩になるZERO―ONEなだけに、一丸となったら強かった。最終戦である池袋大会では、葛西がザンディ

おサル、バルコニーから落ちる!! 20針の大ケガもシリーズ完走!!



バルコニーに登って下を見ると……机に寝かせていたはずのホミサイドがいない!! 後ろから突き落とされ、葛西、まさかの逆バルコニーダイブ!!





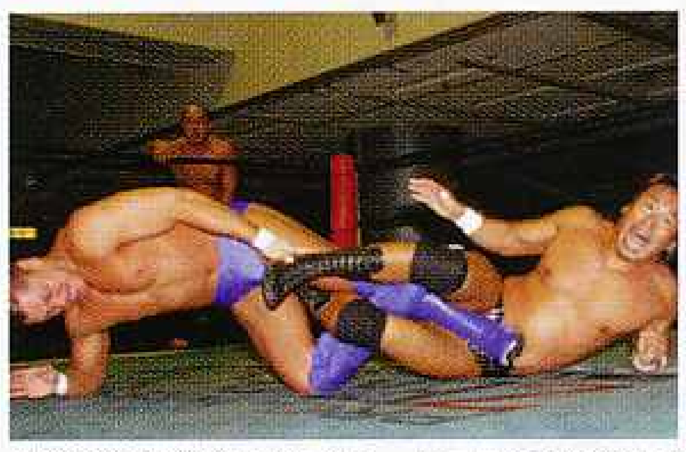
机を直撃した右スネは、バックリ割れて骨が見える状態に（写真右）。それでもおサルは試合を続け、ホミサイドを丸め込んで勝利。試合後は救急隊員が駆けつけ、病院に運ばれた。翌々日、ケガの状態を尋ねられると「大丈夫じゃねぇよ!! だけど、これでまた休むと鈴木健に警告とかされちまうからよぉ、意地でも出てやるんだよ!!」

この後、Ｐ１３７で葛西のＺＥＲＯ—ＯＮＥ入団について取り上げているが、入稿の都合上９月シリーズ『Ｈ』の情報の方が先に来てしまうため、話が前後する部分も出てきてしまい正直スマン！ そうまでして取り上げたいぐらい『Ｈ』での葛西の暴れっぷりと会場人気は群を抜いていたのだ。ウッキーッ!!

19日の後楽園大会でホミサイドと対戦した葛西は、バルコニーダイブをブッ放そうと一目散に階段を駆け上がった。その後ろからホミサイドが追ってきてるとは知らずに……。客席からの「葛西、後ろ！」とのツッコミもどこ吹く風、ダイブを試みようとする葛西を後ろからホミサイドがプッシュ。哀れ、転落した葛西は右足をテーブルの角に激突！ 試合後20針も縫う重傷だったにも関わらず葛西はホミサイドから勝利。翌日から欠場かと思われた葛西だったが、21日のサンシャイン大会では、かつてのボス・ザンディグとも、しっかり大流血戦を繰り広げ『Ｈ』３連戦を見事に完走！

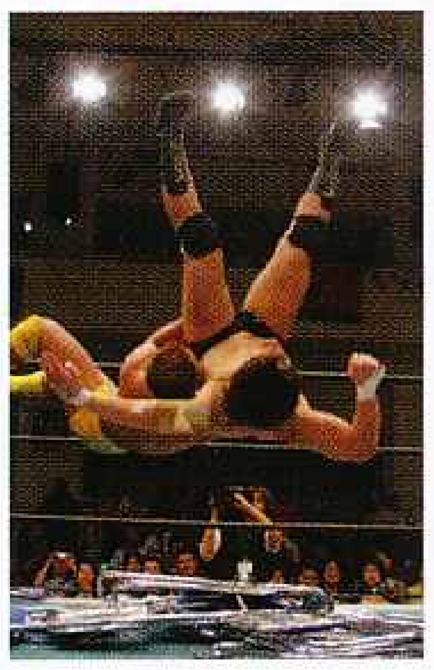
サンシャイン大会の試合後、ケガの状態を聞かれると「ケガ？ 大丈夫じゃねえよ！ でも、これで休んじまうと鈴木健に、また危険なデスマッチはどうとかって警告されっからよ！ 意地でも休まねえよ！ さすがに明日はキツイけどな（苦笑）」と頭をポリポリ。そんな葛西に敬意を表して、次号では遅ればせながらＺＥＲＯ—ＯＮＥ入団記念ロングインタビューをやらせていただきます！

黒田、坂田のベルトに挑戦表明!!



現在ジュニア２冠王の坂田亘に、突如、対戦表明をブチ上げたのが、インディー連合としてＺＥＲＯ—ＯＮＥを掻き回している黒田哲広。すでにこの２人はＺＥＲＯ—ＯＮＥのリングで何度も闘っており、その返答が注目されたが、坂田は「お前は挑戦者の資格十分だよ。いつでも受けてやるよ！ ど～ですかぁ、お客さん!?」と、黒田の定番パフォーマンスをパクって対戦を受諾。試合後も「汚い手を使おうが、いい選手に変わりはない。肌を合わせてればわかる」と黒田を評価していた坂田。両者のタイトルマッチは近日公開予定だ!!

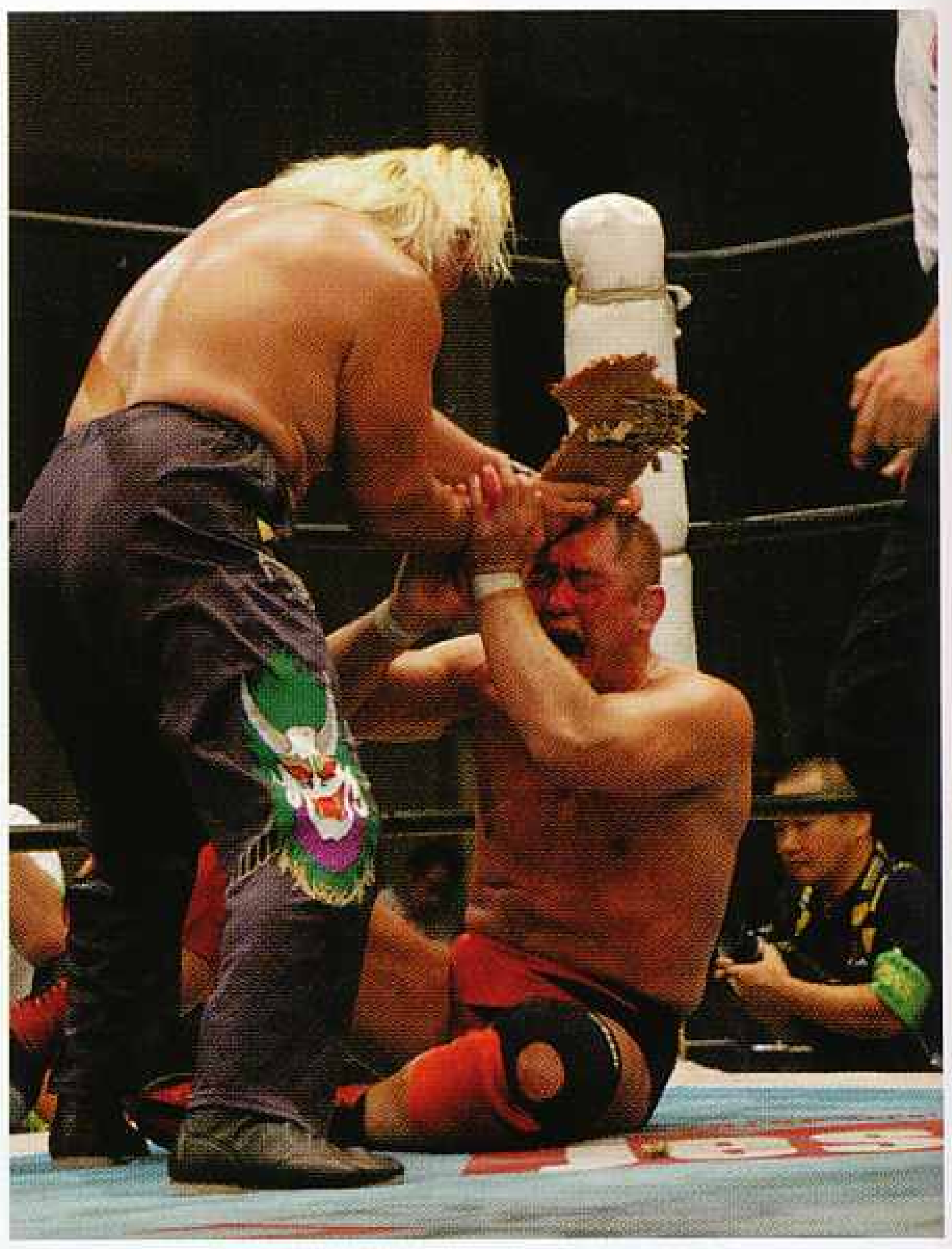
本間、久々のハードコアマッチ!!



19日後楽園大会で、必要以上にイキイキしていたのが、現在全日本に籍を置く本間朋晃。イスをリングに投げ込みながら登場した本間は「せっかくのハードコアなんだからよ、場外カウントなしで行こうじゃねぇか！」と呼びかけ、記者席の机をブン投げて豪快なファイトを展開。イスチャンバラ、イスを使ってシャイニング・ウィザード、さらには強烈な張り手の応酬と目の離せない攻防の末、最後はイス上への雪崩式ブレーンバスターで見事勝利した。残念なことに（？）敵地のこの闘いぶりは、ターメリックとして闘っている普段よりも数倍光っていた

ZERO-ONEはどこへ行く!? カギを握る男たち 02

「H」



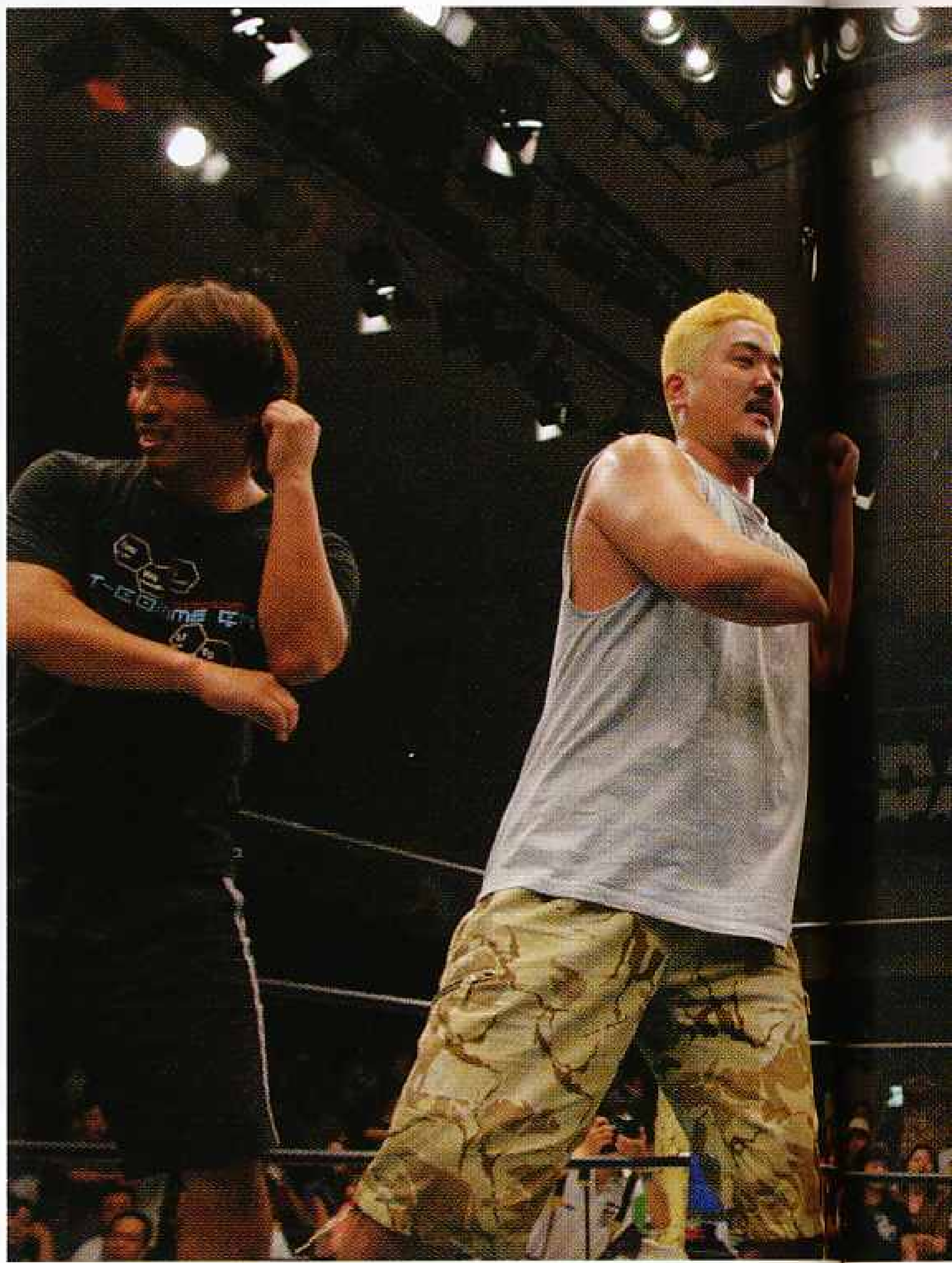
19日後楽園では、大谷と雁之助が初対決！ 金村らインディー軍との闘いに、迷いを見せていた田中は、炎武連夢の連係にも応じず試合を見守るばかり。ローンバトルを強いられた大谷は、机ダイブ、そして机の破片（ギザギザ）攻撃で見ての通りの大流血!!



レフェリーを失神させ、セコンド陣が当然のように試合に介入!! 悪事の限りを尽くすアパッチ軍、トドメは疾風のようにリングインしたクドウちゃんが、勝手に３カウント!! 金村「これが冬木の残した結束力や」!!



さらにはオッキーを脅し、強引にゴングを鳴らさせたアパッチ軍。中村部長がこれに激怒、抗議すると金村の容赦ないエルボー！ 続けざまにクドウちゃんの見事なニールキックがヒット!! フロント対決極まれり!!



ング相手に血をまきちらしながら（はじめての会場なのに）ハードコアの超激闘を見せ、各試合で会場を所狭しと選手が暴れ回り、村山大値をはじめとするＺＥＲＯ—ＯＮＥレフェリーが、アパッチ軍セコンドに一歩も引かない強さを見せ、次代を担っていくアジアタッグ王者コンビ・ＲＯＷＤＹが、１年ぶりに互いの成長を確かめ合った。

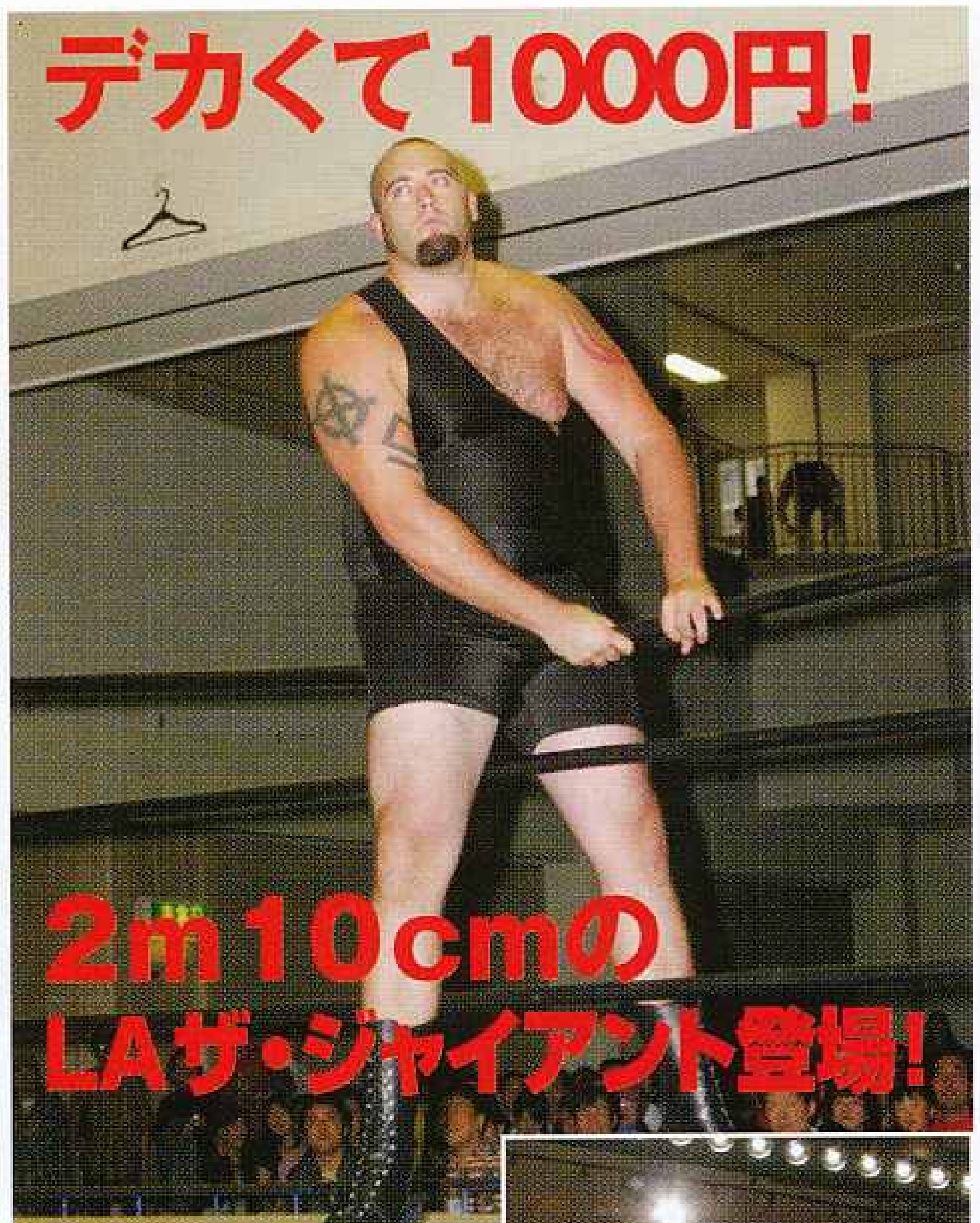
外敵から団体を守り抜くというテーマに加え、〝やられたらやり返す〟という、ＺＥＲＯ—ＯＮＥが忘れてはいなかった熱い反発心のおかげで、破壊王の不在を闘いの物語へ昇華させることに成功した今シリーズ。池袋大会翌日の冬木軍大会で、どんな闘いの流れが生まれたかについては、当日夜が締め切りの今月号ではわからないが、ＺＥＲＯ—ＯＮＥは、「Ｈ」で突きつけられた「インディー軍にさえ、足をすくわれる時もある」という、キツイ現実を抱えながら、新しい局面へ自ら身を投じ、変革を遂げようとしている。それがどんな結果を招くかはわからないが、これまで、ＺＥＲＯ—ＯＮＥが越えられなかった逆境はない。今は、ただそれを信じて見守るだけだ。あとは、大会をすがすがしくシメてくれる〝スリー、トゥー、ワン、ゼロ、ワン!!〟が、破壊王不在でも行われることを祈りたい。

（ささきぃ）

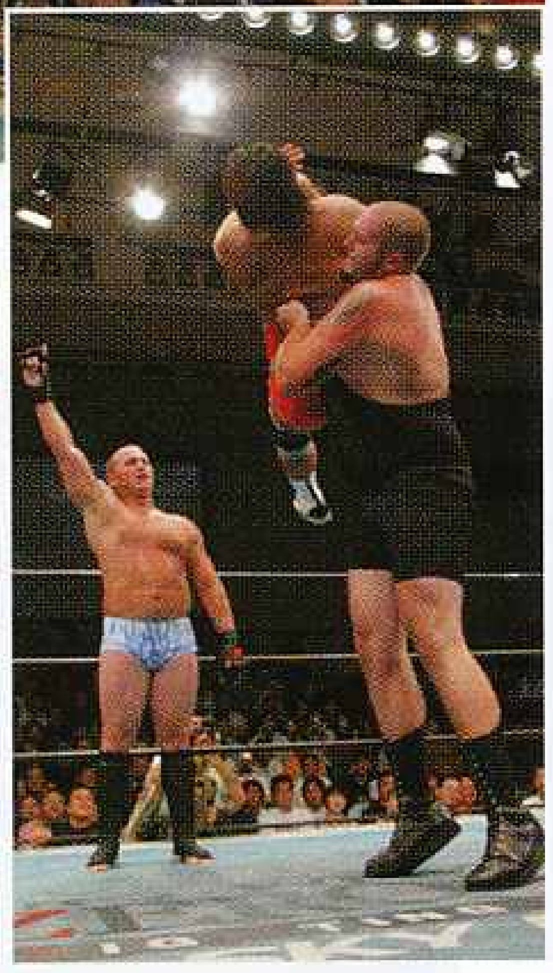
ZERO-ONEはどこへ行く!? カギを握る男たち

03 中村部長

デカくて1000円!



2m10cmのLAザ・ジャイアント登場!



9月初旬のアメリカへ選手発掘の旅に出ていた中村部長。帰国後の8日に行われた会見では米国土産とも言える大量の選手プロフィールを記者に公開。その中から早速9月19日からの『H』に初来日となったのが、2m10cmの大巨人、LAザ・ジャイアント。レスラーとしては今回の来日が、ほぼデビュー戦と言うことで、動きに、ぎこちなさを感じさせたが、その巨体を活かしたパワー殺法と今回封印していた得意の柔術テクが炸裂すれば、ZERO-ONEにとって脅威の存在になるのは間違いない!



『W—0』一発目から開催延期!? 『紙プロ』前号でスクープした10・25横浜アリーナでのDSEとZERO—ONE&UFOの合体イベント『W—0』(仮)。8・27後楽園大会で中村部長が大筋でその動きを認めたため正式発表が待たれていたが、その後、情報をかき集めてみると、どうやら、10・25『W—0』(仮)横アリ大会は諸事情により延期となった模様。う〜ん、残念!

中村部長に、その件について直撃すると、「ボクもよくわからないんで(苦笑)、DSEさんに聞いてください」との返答。続けて「まあ、やるのかやらないのかだけはハッキリしてもらいたい。ファンも振り回されてる部分があるんで。そろそろキチンとしたものを提示しないとファンは付いてこないんじゃないかなと。まあ出遅れてることだけは間違いないです」と苦笑い。

『PRIDE』級の演出でZERO—ONEが中心となった大会が開催されたら破壊力抜群で魅力的なイベントになるのは間違いないだけに、いい方向に話が進展することを期待したい。

一方、肝心のZERO—ONEのリングに目を向けてみると、破壊王長期欠場の可能性も高く、こちらも揺れに揺れている。もちろん、社長でもある破壊王の決断にかかる部分が大きいのは当然だが、やはりカギを握る男と言えば中村部長というのが「ゼロ中」の間では定説となっている。

9月初旬には選手発掘のためアメリカへ飛んだ中村部長は帰国後、その成果をマスコミに報告。早速9月シリーズに2m10cmの大巨人を登場させ、10月にも新外国人を何人か来日させるという。今後予想される破壊王抜きのシリーズについて「全然自信ない(苦笑)。でも、いつかはやんなきゃいけないし、今がやるべき時期なんじゃないかと。それをみんなで乗り越えようっていうのが今のZERO—ONEだから」と決意表明。

ここ最近の中村部長は、アルピンプレスを喰らって失神したり、冬木軍プロモーションの伊藤豪氏とフロント同士で大乱闘を繰り広げたりとリング内外でフル回転営業中。この男なくしてZERO—ONEはなし!!

(チョロ)

新キャラ クロウカイザー見参!





9・19後楽園大会での試合中に坂田にお面を剥がされたテングカイザー。なおも攻撃を続ける坂田の前に颯爽と現れたのはテングより小型の謎のカラス天狗。21日のサンシャイン大会で、このカラス天狗の名はクロウカイザーと判明。急遽行われた夢路とのデビュー戦はシューティングスタープレスで見事勝利。次は噂のツチノコ仮面の登場ですか、中村部長？

ZERO-ONE10月シリーズ日程

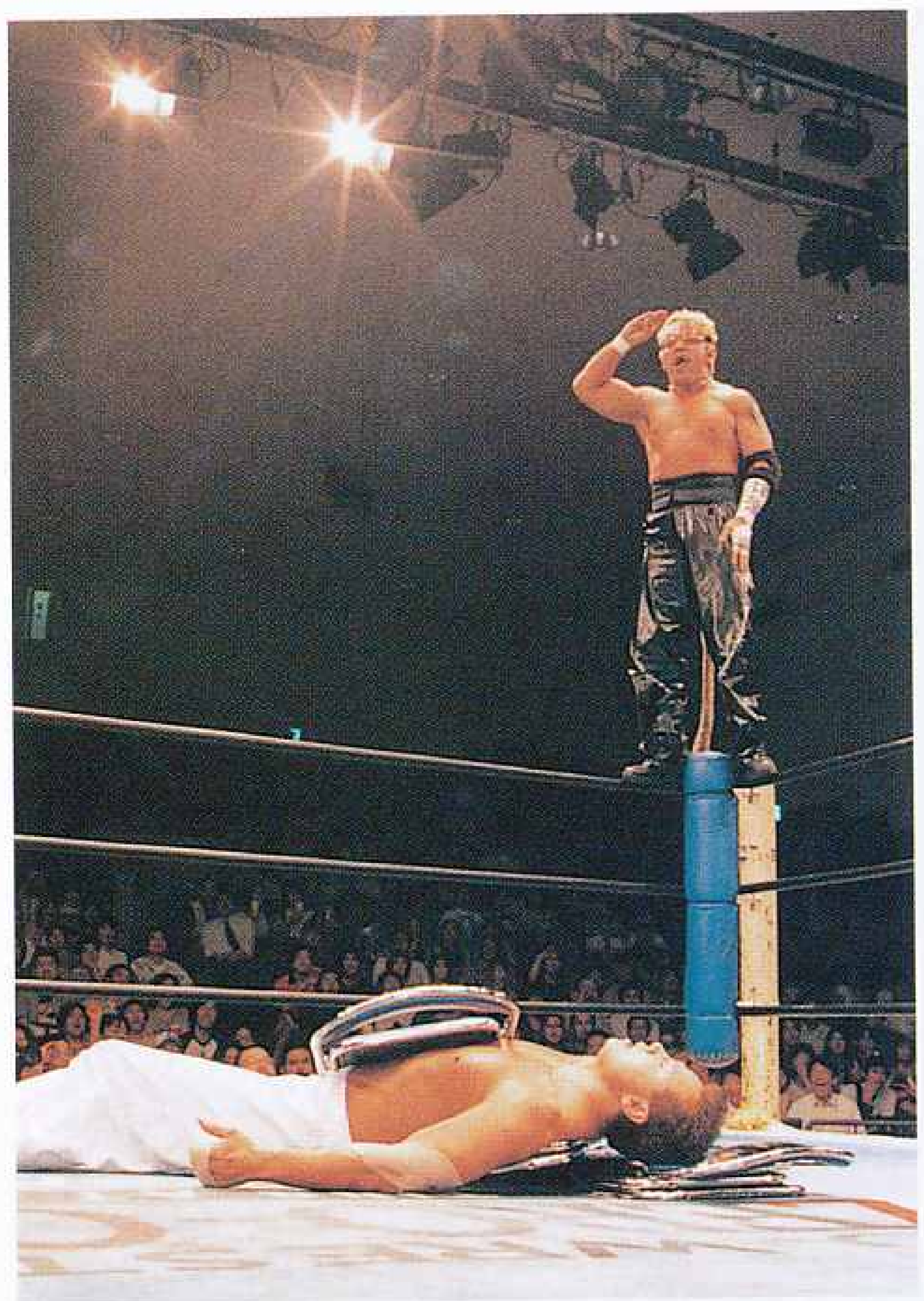
10月10日(金)	東京・後楽園ホール(18:30)
10月12日(日)	熊本・グランメッセ熊本(16:00)
10月13日(月・祝)	福岡・博多スターレーン(16:00)
10月14日(火)	徳島・徳島市立体育館(18:30)
10月16日(木)	兵庫・高砂市総合体育館(18:30)
10月18日(土)	大阪・大阪府立体育会館・第2競技場(18:30)

【問い合わせ】ZERO-ONE TEL.03-5730-3401

君は有刺鉄線バットのフルスイングを受けたこ

てしまったかのような形になっていた。だけど破

04 葛西入団



8・27後楽園で小笠原先生とシングルで激突した葛西。空手ジジイ(by葛西)相手に正拳突きでガンガン前に出る極真殺法を披露。最後はKO負けを喫するも客席からは大歓声。その直後に中村部長から「橋本真也から預かった」という選手契約書が遂に葛西に手渡された!

葛西、ようやくZERO-ONE入団! 本領発揮はこれからだ!!





8月からPUMA提供の新ジャージが支給されたZERO-ONEだが、発注当時、入団が決まっていなかったため葛西にはフリー用の青ジャージが。ズコッ



9・13札幌大会で葛西にビッグチャンス到来。以前、シングルで勝利を収めている坂田とのタイトルマッチが決定したのだ。しかし、結果は完敗。「破壊王の付き人やってっから睡眠時間が取れねえっつーの!」と敗因は全て破壊王のせいに



ベルトには滅法目がない葛西。残念ながら現在保持しているのはハンドメイドなカンカンヘビー級ベルトのみ。葛西の次なる狙いは?

君は有刺鉄線バットのフルスイングを受けたことがあるかい?

君はやぐらに組んだ蛍光灯の中に飛び込んだことがあるかい?

君はトラックのコンテナ上から砂利だらけの地面に向けてダイブしたことはあるかい?

そして、バナナの皮ですべって転ぶだけでドカンと笑いを取ることができるかい?

ZERO—ONEにはそれをすべてこなせる一匹の素敵なサルがいる。8・27後楽園ホール「ゼロ中祭3」でついに正式入団を果たした葛西純がそのサルだ。

今年1月の「01★U$A」から巡業に参加。最初は荒川さんとの師弟(?)タッグや夢路とのチーフデザイナーを巡る抗争などで、お笑い担当だったサル。しかし古の団体を離脱するきっかけとなった、ヒザの負傷が癒えるにつれて本領発揮。入団テストマッチと銘打たれた坂田、高岩との連戦を無事に乗り切り、晴れて正式入団かと思ったらベルトを盗むなどの問題行動と破壊王の負傷によるゴタゴタでまるで新日本のランキング制度のように、入団テストという話そのものが無くなってしまったかのような形になっていた。だけど破壊王と中村部長はちゃんと覚えていたのだ。体を張って歓声と笑いを呼び込む素敵なサルはついにZERO—ONEの正式メンバーとなった。まあ、その後、いきなり破壊王の付き人になったりもしているが、サル=秀吉なので、信長を目指す破壊王にとっては当然の選択ということらしいけど。

そして、葛西の入団を待っていたかのようにZERO—ONEは新しい闘いの幕を切って落とす。『H~episode 1』でハードコアのリングに葛西は身を投じる。あらためてZERO—ONE壊滅を誓う金村率いるスーパーインディー軍、かつて大日本で血みどろの闘争を繰り広げた「ウルトラヴァイオレンス」を標榜するCZW。橋本不在のZERO—ONEを襲う強敵たち。その闘いの最前線に葛西は立つ。ほとんどのレスラーにとっては未体験の領域だが、そこが葛西の生まれ故郷だ。全身を血で紅く染め、右手に有刺鉄線バット、左手にはバナナを持ってニヤリと笑顔を浮かべて葛西は真の姿をついに現すだろう。

(ダイス)

涙





“世界一強い（『OH祭り』パンフレットより）”OH砲、まさかの敗北。右肩を攻められてどうすることも出来ず、無念のフォール負けに、破壊王が大粒の涙をこぼす。小川の目もうるみ、声が震えていた

破壊王、ザ・プレデターに涙のフォール負け!!『夏祭り』シリーズ、破壊王の地元岐阜で開催された8・31最終戦『01 Summer Gift』は、思いもよらぬOH砲の敗戦で終了した。

ザ・プレデター&ジェイソン・ザ・レジェンド相手に、右腕の上がらぬ状態で健闘、合体技の〝オレごと刈れ〟まで披露した破壊王だったが、チャンスのたびに右肩を攻撃され、悪徳レフェリー・Dマックの妨害もあってペースを徹底的に崩されてしまう。

2度目の〝オレごと刈れ〟をブチかまそうとしたその時、後ろからジェイソンが右肩を攻撃。痛みに悶絶し、腕を放したところにプレデターのキングコング・ニーが襲い掛かる。頼りの小川は場外に吹っ飛ばされた状態で、破壊王は無念の3カウントを聞くしかなかった。

いつもなら、勝利して「オー、エイチ、ホー!!」を決めるはずのマイクも、小川の表情は暗い。「岐阜のみなさん、応援どうもありがとうございました。結果は結果で、ちゃんと受け止め、次はこうならないように頑張ります。ありがとうございました」。言いません。……理由は反省文のようなマイクを聞く観客の誰もが、破壊王の右肩を思いやり、心配していた。

控室に戻った破壊王は、顔をゆがませて号泣。小川も目をうるませ、声をつまらせながら「もう、見てのとおりです。わかってやってください」とコメント。負傷をおして出場しているパートナーのケガについて語ろうとした小川を、破壊王自身が涙声で「これ以上、言うな」と押しとどめる。小川はそれを受けて「結果がすべてです。とにかく、OH砲は次頑張ります。ありがとうございました」と言いきり、破壊王をかばうように会見を打ち切り、控室へ消えた。

一時は、全治6ヶ月と判断された破壊王の右肩。負傷の痛みへ、シリーズ最終戦、夏休み最後の日にフォール負けを喫した悔しさが加わった。

誰もが、〝長期欠場〟だと思った、地元・岐阜での敗戦。しかし、破壊王は上がらぬ腕のまま闘い続け、敗戦を積み重ねながらも、北海道を中心とする次のシリーズを〝完走〟してしまった。なぜ、

特別ふろく

紙の ZERO-ONE

ここまで紹介してきたページだけでは、この１ヶ月のゼロワンの動向は、ちっとも把握できない。というわけで、数あるネタの中から厳選して『紙のZERO-ONE』としていくつか紹介します。いくぞーッ！ スリー、トゥー、ワン、ゼロ、ワ〜ンッ！

田中将斗デビュー10周年



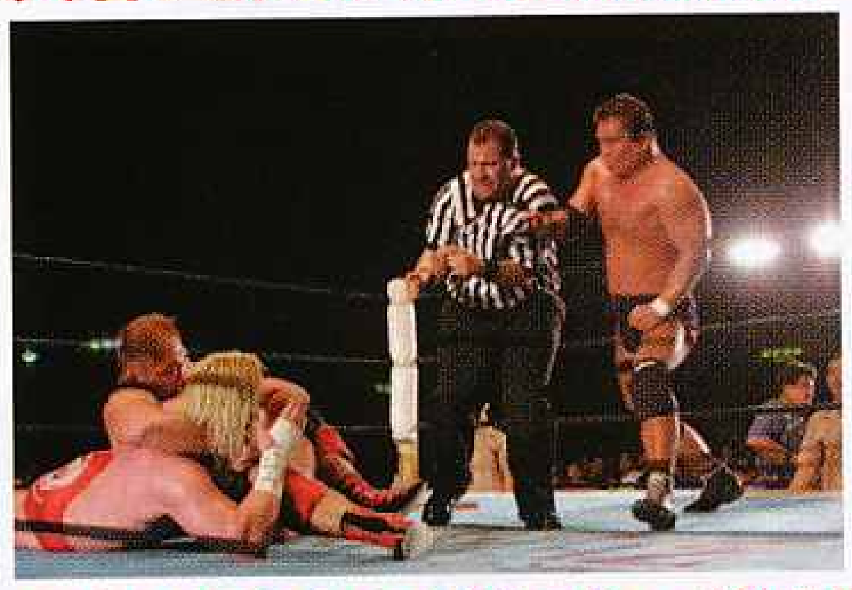
8・31岐阜大会の試合開始前、田中将斗デビュー10周年を祝い、花束と金一封が贈呈された。田中は「これからも頑張りますんで、宜しくお願いします」と挨拶。インディー軍からの勧誘を受け、迷いを見せていた田中。今後の発言・行動にいっそう注目が集まる

坂田亘、場外初飛行で２冠奪取!!



岐阜大会で、ZERO-ONEの誇るジュニア王者２人が激突！ 坂田亘が見事なトルニージョを披露、最後はスリーパーで勝利した。某フライデーの仙波記者も大興奮して編集部に電話をかけてくるなど大騒ぎ。敗れたＬｏｗｋｉは、ベルトにキスをして坂田の足元へ放った

大谷、新必殺技を初披露!!



炎武連夢、約10カ月ぶりのNWAタッグベルト奪還成功！大谷が新技「キングコブラホールド」で見事フィニッシュ。Ｄ・マックはギブアップを無視するも、田中に詰め寄られて試合をストップ。大谷は「破壊王プロレスを炎武連夢プロレスに変えてやる」と宣言した

ROWDY、アジアタッグ防衛!!



9・6全日本武道館大会でアジアタッグ防衛戦に挑んだ佐藤耕平＆横井宏考。対戦相手の奥村と平井は仲間割れを繰り返してきたが、この日は思いのほか息のあった所を見せ攻め込むも、最後はROWDYが勝利し3度目の防衛に成功。奥村組は試合後、やはっり仲間割れ

山笠Z"信介、無念の欠場!!



9・8ZERO-ONE事務所、9・9新潟・上越大会と2日続けて金村率いるインディー連合軍に襲撃され、血だるまにされるという屈辱を味わった山笠Z"信介が右前十字靭帯断裂により9月シリーズの全戦欠場が決定。年内復帰は絶望との声もあるが、一日も早い復帰を待とう！

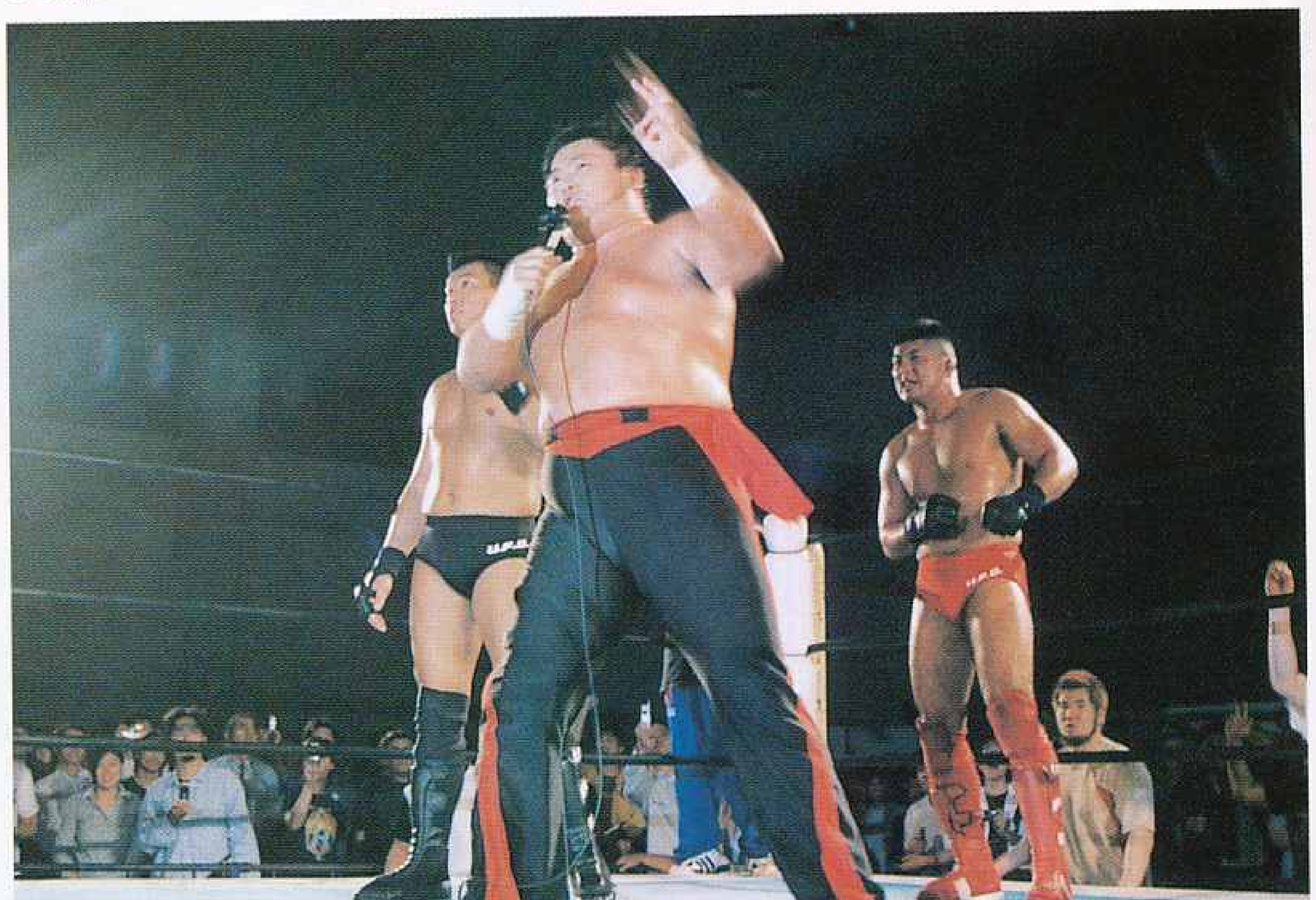
期待の超大型新人、明石鯛我デビュー！



かねてからZERO-ONE会場で見かける２m級の超大型練習生が気になっていた人は多いだろう。この男が９・14札幌大会での横井宏考戦で電撃デビュー（試合10分前に突如、破壊王に言われたという）。リングネームは明石鯛我（あかし・たいが）に決定!! もちろん、破壊王命名だ!!



破壊王のお膝元・岐阜で敗北を喫してしまったＯＨ砲。合体技ＤＤＯ、オレごと刈れも繰り出したが、最近ますます好調のプレデター＆だいぶZERO-ONEに慣れてきたジェイソン組の前には、ひとたまりもなかった



右手が肩より上に上がらない破壊王。『Regeneration』シリーズ、9・12青森大会では、敗北しても挨拶はキッチリ「スリー、トゥー、ワン、ゼロワン！」＆「オー、エイチ、ホー！」を行うが、これもやっぱり左手だった



9・14、札幌で破壊王と激突した小島聡（新婚）は、耕平をラリアットで沈め「あれが病み上がりの人間か。たいしたもんだ。あれだけのケガして、ああやって出続けられるんだったら、ずっと出続けろ」とコメントした



9・8の会見で、中村部長が「手術を行わなかったとしても、11月以降のシリーズでは代表の出ないツアーをやっていこうと結論付けました」と発表。大谷も「代表には、しっかりケガを治してもらいたい」と続けた

そうまでして闘うのか？ 自分以外の選手には任せられないからか？ それともプロモーターさんとの約束か（邪推）？ 破壊王の真意が読めない状態は、いまのZERO―ONEにうっすらと雲をかけているかのように思える。上がらない腕で無理をする破壊王の姿に、このまま闘い続けることを願うべきなのか、それとも、選手生命を考えて欠場を願うべきなのか。見ている側もどちらの立場を選べばいいのかわからずに苦しいのだ。それは、破壊王に代わってZERO―ONEを守ろうとしている選手も、きっと同じ思いだろう。

苛立ちをかくせない大谷晋二郎は「休め」「自分にまかせろ」と繰り返す。敵方である小島は「あれだけ闘えるなら、ずっと出続けろ」と挑発（？）する。岐阜で破壊王が流した涙は、何を思わせ、何を決意させたのか？ そして、これから破壊王の選ぶ道は……!?

（ささきぃ）

『W-O』!?長期欠場!? どうなるZERO-ONE!?
三冠の行方…… どうする破壊王!?

破壊王 多くを語らず



「なるようにしかならんやろ!」

右肩&右ヒザともに、いまだ完治には程遠い状態の破壊王・橋本真也。9月シリーズ『Regeneration』は気力で完走。その後の『H～episode I』は大事を取って欠場したものの、その間もイベントやら映画撮影で大忙しの破壊王を9・19後楽園大会でなんとかキャッチ。現在の状況をズバリ直撃してみた。

聞き手/松澤チョロ
試合撮影/平工幸雄
Design/さおとめの事務所

いま100%の橋本真也でないことは誰しもがわかると思う。ただ……

——橋本さん！ もう何度も聞かれてるとは思うんですが、ケガの具合はどうなんですか？ 昨日の『東スポ』には「いよいよ、長期欠場を決意！」って出てましたけど。

橋本 いや、俺の試合を見てくれる人がいる限り欠場する理由はないと思う。ただし、いまの状態が100%の橋本真也でないことは誰しもがわかると思う。

——100%にはほど遠い状態ですよね。

橋本 ただ、いまのタイミングで、欠場することが……できないんや。

——それは社長としてですか？

橋本 社長としてもそうだろうし、選手としても。じゃあ、「橋本の出ない試合、あなたはキップ買いますか？」って聞かれて「それでも買いますよ」って一回ぐらいは言ってくれるかもしれない。でも2回目も出なかったら買わんやろ？

——なんと言っても『破壊王プロレス』ですからね。番組名にもなってるぐらいだし。

橋本 それが正直なところ。それと俺自身、手術をせずにできるだけ治したい。だって見ろよ（と言って、右腕を振り上げ、聞き手の脳天にチョップを連発する破壊王）。

——い、痛いッスよ！（笑）。でも、だいぶ動くようになってきてますね。

橋本 なんか最近ある程度動くようになってきてるんだよ（ちょっと満足げに）。普通あり得ないんだよ、こんなこと。

——さすがプロレスラーですね（笑）。

橋本 そういう部分もあるし、あり得ないけど、俺はあり得るようにできるんだよ！

——いやぁ、実にカッコいいです！

橋本 まあでも、手術っていうのを、いずれするんであれば、やっぱり時期を見計らって、ある程度、期間も空けなきゃいけないからな。

——でもそれは社長として考えると、いつまで経っても時期が来ないっていう判断になっちゃったりしませんか？

橋本 でも、どっかで何かを犠牲にしなければいけないときが来ると思うんで。まあ、いまウチは俺が何日も休んでる余裕はないですから、死に物狂いで頑張らさせてもらいます！ 俺たちは、たとえ手負いになっても動けなくなるまでリングに上がらなければいけないさだめがありますんで。それはトップを張ってる以上なおさらそうだと思うしな。

——ホント、大変な商売ですよね。

橋本 最初に足をやっちゃったときはホントに動けなくなったからな、アクシデントで。

——「地球を蹴ってケガをした」って言ってたときですね（笑）。

橋本 そういうのはしょうがないんだよ。だって地球を蹴っちゃったんだから（笑）。

——それはしょうがないですよね（笑）。

橋本 まあでも、自分がある程度試合ができる状態であるんであれば、闘わなければいけないこともあるだろうし、かと言って中途半端な自分を見せるっていうのも当然納得はいかない部分はあるからな。

——難しいところですよねぇ。

橋本 そういうのを考えると、手術云々っていうのも非常に判断は難しい状態なんや。やはりウチっていうのは橋本や小川や大谷らが誰と闘うのか、まあ全日本の問題はほとんど終結を迎えそうだけど、まだハッキリしてな

いんで、途中で終わってしまってる状態。だから、そこのところをもうちょっとハッキリしておきたいなっていうのは思ってるんで。

――武藤さんは「いまZERO―ONEは大将が欠けてる状態だし、一回距離を置こうかな」ってことを言ってたみたいですけど。

橋本 一言言うたろうか!?（ニヤリ）。

――はい（笑）。なんでしょうか?

橋本 ウチは十分体勢が整ってるよ。

――ZERO―ONEは全日本と違って選手を借りなくても十分にやっていけると（笑）。

橋本 そんなもん一目瞭然だと思うけどな。勝ち越してんのはこっちなんだから。ナメんな、バカヤロー！　だよ（笑）。

――アハハハ！　それで、当初は10月25日に横浜アリーナで『W―0』が開催されるという話が出てましたが……。

橋本 それに関しては俺はようわからん！

――一説によると、10・25は延期になりそうだっていう話ですけど。

橋本 まあ、それはそれとして、今年後半のZERO―ONEに関して言えば、いままでやってきたことと、それからやり残したこと、やりきれなかったことっていうのに視点を合わせていきたいな、と。やっぱり、日々追われてできなかったこともあるし。今日から始まるインディーとの抗争も、しっかりと一線をおくために俺らが仕掛けたことですから。

――ある意味、ZERO―ONE側から仕掛けた部分もあると?

橋本 仕掛けられたっていうより、仕掛けに乗ったことでもあるからな。あえて、一線をハッキリさせるために俺は今日からインディ1軍との試合を組みましたから。あとは大谷とかができるのかどうか?（突然、アントン顔でアゴを突き出して）「できるか、オイ!?」ってヤツだよな（笑）。

――アハハハハ！　今回のシリーズ名の『H』っていうのは、いろんな意味があると思うんですけど、ハードコアであったり……。

橋本 最後は橋本に戻るぞぉ！（笑）。まあ、そうならないように頑張ってもらいたいよ。

――あと、『ファイト』の一面にもなってましたけど、WJを離脱した鈴木健想選手が元・橋本さんの付き人ラインからZERO―ONEに入団するんじゃないかと?

橋本 いや、全く一切連絡ないよ。

――あ、そうなんですか。

橋本 彼はそれだけ道を踏み外してしまった人間だから。まあでも若いんだから、ちゃんと修正できるんだったら、そのためにやるべきことをいまやらないと。

――その辺をクリアしたら会う用意はあるということですか?

橋本 いや、話すとか会ったりする前に、態度で示すことがあるでしょ?って。だから、ウチでやろうがどこでやろうが、レスラーとして生きていくことには変わりはないと思うけど、でもね、半人前のウチから自分の意見ばっかり押し付けたって誰も意見は聞いてくれないっていうこと。だから、やるべきこと、すべきことをしていきなさい！　そうじゃないと世間様が認めてくれませんよっていうことを、俺は先輩としてアドバイスします。今日は、こんなもんでいいか?

――はい。ありがとうございます。あ、最後に、最近アダルトビデオでZERO―ONEのロゴをまるごとパクった『FUCKING ATHLETE ERO―ONE』っていうのが発売されてたんですよ。これなんですけど（と言って、そのジャケットを見せる）。

橋本 ん!?　これはハッキリ言っとくぞ！　こんなもんはウチができた当初に俺が考えてたネーミングや！（誇らしげに）。

――あ、すでに考えてましたか（笑）。

橋本 とっくに頭にあったよ。遅い！（キッパリ）。でも、それ頂戴（笑）。

――アハハハハ！　ネタにでも使ってください（笑）。ありがとうございました！

【9・19／ゼロワン後楽園大会にて収録】

ZERO-ONEグッズ とっくにはじめてます！

ハシフ・カーンTシャツ『破不可』〈イエロー〉
¥3,800　~~S~~ or M or L or ~~XL~~



ハシフ・カーンTシャツ『破不可』〈ホワイト〉
¥3,800　~~S~~ or M or L or ~~XL~~



ハシフ・カーンパーカー『破不可』
¥6,000　~~M~~ or ~~L~~ or XL



ガファリ・バスターズTシャツ〈ホワイト〉
¥3,000　XS or S or M or L or XL



マット・ガファリTシャツ〈キナリ〉
¥3,500　S or M or L or ~~XL~~



Mr.フレッド『TWOOO』パーカー
¥6,000　M or L or ~~XL~~



Mr.フレッド『TWOOO』Tシャツ〈カーキ〉
¥3,800　~~S~~ or M or L or ~~XL~~



Mr.フレッド『TWOOO』Tシャツ〈ベージュ〉
¥3,800　~~S~~ or M or L or ~~XL~~



Mr.フレッド『TWOOO』Tシャツ〈ネイビー〉
¥3,800　~~S~~ or M or L or ~~XL~~



通販完売商品は直販店にある!?
【『紙プロ』ウェア常備ショップ】★チャンピオン（TEL.03-3221-6237）★東京イサミ（TEL.03-3352-4083）★リングソウルZ神戸（TEL.078-393-3514）★宮城・スクワット（TEL.022-264-8160）★大阪・少年ジェッター（TEL.06-6541-3551）★福岡天神ビブレ・GROUND COBRA（TEL.092-711-1021）★三恵格闘技SHOP長崎（TEL.095-824-8658）★浜松市・Buddy（tel.053-450-7888）


北海の虎.望郷

――前号で登場して頂いた青木取締役のインタビューが、新日本プロレスの事務所で話題沸騰中らしいですよ。

武藤 何で、何で？

――上井取締役があれを読んで爆笑して、カラーコピーで社内に配ってたって噂を聞きましたけど（笑）。

武藤 でもさぁ、青木さんTシャツを作ったけどイマイチ売れ行きが良くねえんだよなぁ。前回のカントクTシャツ（『サムライTV』〝プロレスの砦〟の小路谷監督のTシャツ）の100分の1しか売れてないよ（笑）。

――100分の1（笑）。あのTシャツ同様、青木さんTシャツにも武藤さんが登場してれば、売れ行きも違ったかも知れませんね。

武藤 さすがの俺でも〝陰〟の部分に引きずられそうだよ。どっちかっつったら、俺は〝陽〟じゃん？ 雲がかかっちゃうよ（笑）。

――それは平たく言うと「イメージダウンになる」ってことですか？

武藤 まあ、そうだな（笑）。

――そんな青木さんの厄年も、今年で終わるみたいですから（笑）。

武藤 でも、厄年って場所によって変わるからさ。俺が行ってる神社だと、いまの俺（40歳）が本厄になっちゃってるし。

――あ、そうなんですか？ いかがですか、本厄の気分は？

武藤 いやぁ、もう抜けかかってるよ。全日本プロレスも金銭的な部分では実感ってないけど、組織は整ってきた感じがするもん。

――反撃体勢が整ったと？

武藤 でも、いまは動いたらいけないような気がするからねぇ（しみじみ）。

――ちょうど社長就任から1年が経ちましたけど、端から見ても、ようやく武藤体制が確立されたように感じるんですよ。

武藤 1年って時間はもったいないなかったよなぁ。正直な話、去年の今頃と今年じゃ全然売上が違うからね。去年の方が売上は全然いいんだけど、出て行くものも多かったから利益

ZERO-ONEとの交流断絶!? 全日本、反撃の宣戦布告!!

10.26全日本武道館とW-Oは商売敵興行戦争だ!!

昨年10月の社長就任以降、文字通り激動の1年を走り抜けた武藤敬司。この1年、『W－1』の失敗、旧全日派との確執等、様々な問題に苦しんできたが、ここへ来て全日本もようやく本来の陣容が整ってきた感がある。勝負の2年目、武藤はいま何を考えているのか？

聞き手／堀江ガンツ
本文構成／スモーノブ
撮影／森鷹博
試合写真（9.6武道館）／平工幸雄
designed by さおとめの事務所



全日本プロレス社長就任1周年記念インタビュー

武藤敬司

KEIJI MUTO

この1年よく話題を提供したと思うけど 正直、1年という時間はもったいなかったな

が少ないというか……。

——今年はちゃんと利益が出るような体制が整った、ということですね。社長を1年間やってみた感想というのは？

武藤 いま振り返ってみると……いろいろ言われたけど、話題はかなり提供したよな。

——プラスの話題もマイナスの話題もって感じでしたけど（笑）。

武藤 『W−1』をやればいろいろ言われたしね。金がどうだとか、リストラがどうだとか……。

——先代の馬場さんは「プロレス団体の社長にだけはなるもんじゃない」って、口癖のように言ってたらしいですけど（笑）。

武藤 あっ、そう⁉ でも、生きてるという充実感は、いまの方が断然あるよ。新日本の頃は一介のレスラーだったから。

——社長就任以来、川田選手の戦線離脱とかいろいろ誤算もあったと思うんです。

武藤 そうだね。でも、これはっかりはコントロール出来ねえじゃん！ 青木さんが厄年だからさ、しょうがねえよ！

——ダハハハ！ それは青木さんの厄のせいでしたか（笑）。中でも一番の誤算は何ですか？

武藤 う〜ん……。甘い考え、かな？

——なるほど。青木さんは「夢を見ていた」って言ってましたけど、理想と現実のギャップが大きかったということですね。ようやく現実が分かって、新たに夢が見えてきた部分もありませんか？

武藤 まだ、見えてこないけどね。

——でも、こないだの武道館大会では「これがもともと武藤・全日本がやりたかったことなのかな？」って体勢が、ようやく見えたんですよ。武藤さんが社長、チャンピオンが川田選手、若頭が小島選手で、腹心には青木取締役がいて、マッチメイカーの渡辺取締役がいて、『レッグロック』の武田さんが周りのフォローをするという……。

武藤 ただ、欲を言えばもっと武藤敬司というレスラーを追い出して欲しいというか。俺だって変な形でフェードアウトはしたくないけど、でも売り興行のことや個人の集客力のことを考えると、武藤敬司を抜きには興行を買ってくれないし。俺がいなくなっても興行が回って行くようになったときには、きっと層が厚くなってるよね。

——マッチメイカーを渡辺さんに変えたのは、そういう流れを作りたかったからですか？

武藤 自然と成り行きで、そういう風になっちゃったんだけど。俺の上の権力が「外せ」って言ったのを元に戻しただけだから。

——「全日本プロレス代表取締役武藤敬司」（扶桑社）を読んだら、「ブッカーが渡辺さんに戻った」とか、そんなことまで全部載ってるから驚きましたよ（笑）。

武藤 あ、そう？ あの本、おかげさまで増刷が決まりましたよ。メチャクチャ売れてるわけじゃないだろうけど。

——でも、いまは増刷がかかるプロレス本ってあまりないですからね。実際、内容はムチャクチャ面白かったですよ。

武藤 そうでしょ？ 最初の頃は「目指せ年商50億」とか夢物語を語ってるんだけど、だんだん「どうやったら潰れないか」って内容がトーンダウンして、それがまた滑稽でいいじゃない？（笑）。

——通して読むと面白いですよね！ マッチメイクに関して、渡辺さんに望むことはどんなことですか？

武藤 「ブッキングを変えよう」ということになった時、ちょうど6月頃だけど、三冠のベルトはブッチャー（＝橋本真也の愛称）が持ってたんだよ。だから、俺は会議の席で「これからは対外的なことが出来るブッカーじゃないとダメだ」って言ったんだ。それまでの人は全日本の中にしかいなかった人だから、渉外ができないんだよ。

——いまや渉外のない団体経営ってあり得ないですからね。若手選手の抜擢も積極的にやってますよね？ 河野真幸選手もメインに出場しましたし。

武藤 あいつはそれだけの素材を持ってるからね。実力で勝ち取ってるんだよ。

——次期シリーズから、全日本プロレス伝統のシリーズ名も廃止して、ガラッとイメージも変わると思うんですよ。そうすると若い選手は必要になってきますよね？

武藤 他のマスコミにも言ってることだけど、ザルに山盛りのみかんを育ててるより、ひとつのプリンスメロンを育てる方が金になるからね。ザルのみかんはまとまってるから、一つ腐り始めるとみんな腐っちゃうんだよな！

——つい最近までの全日本を見ていると、宮本（和志）選手なんかもったいないなぁと思うんですよ。ターメリックで休憩前後で試合をやってたわけじゃないですか？

武藤 でも、あいつ鈍臭せえじゃん！（キッパリ）。いまいち、お客の気持ちを察知してないというのは確かだよ。でも、そんな宮本でさえ技術的には上手くなってきてるし、レスラーとしても成長してるから。例えば、他団体からレスラーを借りた時には「ウチの選手のほうがクオリティは高いなぁ、ムフフ」





武藤社長就任が発表された、「30周年記念パーティ」でのヒトコマ。わずか1年前だが、遙か昔のように感じてしまうのは、それだけ激動の1年だったということだろう。





9・6日本武道館■三冠王者決定トーナメントを制し、遂に川田が王者に返り咲いたことで、メインを川田が、セミを武藤が務めることが多くなりそうな新生・全日本。武藤自身、TAKA&外人組とのエンジョイしており、この図式は期待大だ。

なんて思ってる自分もいますよ。こないだ、ZERO―ONEから（黒毛）和牛太っていうのを借りたんだけど、「これは中村祥之の全日本プロレス潰しの策だ」ってケンドー・カシンが言ってたもんなぁ（笑）。あんなショッパイのを押し付けてくるから油断ならねえよ！

――いろいろ駆け引きがあるわけですね（笑）。さて、武藤さん自身は先シリーズを通して乗ってる感じがしたんですよ。TAKAみちのくや外人レスラー達との闘いはいかがですか？

武藤　面白いですよ。他人の評価もいいかもしれない。

――僕は、武藤&嵐&カズ・ハヤシvsTAKAみちのく&外人2人組の6人タッグだったら、地方興行で毎日やってもいいんじゃないかなと思いますね。

武藤　毎日見たいっていう感じは、それはそれでプロレスの原点じゃん。点と点が繋がっていけば。それに外人も良くなってきたよ！　前のシリーズより全然良くなってる。

――これから新しい外人選手をどんどん登場させようと思ってるわけですか？

武藤　どんどんっていう訳にはいかないけどね。経費もかかるし。でも、幸いなことにアメリカでもレスラーがいっぱい余ってるんだよ。それに、新日本とかノアが日本人ばっかりだって話を聞くけど、やっぱ逆を行きたいじゃん。

――逆に、その日本人の話ですけど、チャンピオンとなった川田選手に武藤さんが求めるものって何ですか？

武藤　今のままいいと思うよ。いろいろ言う人もいるけどさ、リングの上では幅広いレスリングが出来るしさ。でも、彼が持ってないものはいっぱいあるからね。これから突き上げていく小島とかは、そういう部分で勝負を挑んでいった方がいいだろうね。

――川田選手は三冠王座を取った後に、「王道とはちょっとズレるかもしれないですけど」って、暗に小川直也選手とのシングル実現をほのめかしてましたよね？

武藤　「王道」ってものの捉え方が人それぞれ違うから、果たしてそういう意味なのか俺には分からないけどさ。そうは言っても彼自身も、自分の枠を広げようという意思表示をしてるわけでしょ？　多分ね。それはいいコメントなんじゃないかな、きっと。

――小川選手は7月の武道館大会で初めて全日本のリングに上がったわけですけど、その試合を見て彼に対するイメージは変わりましたか？

武藤　俺はレスラーって立場じゃなくて社長の立場で見ると、7月の武道館より9月の武道館の方が好きだなぁ。俺は7月はヤキモキしっぱなしだったから！　「橋本は出られるのかな？」とかさぁ（笑）。

――たしかに、社長の立場としてはたまったもんじゃないですよね（笑）。ZERO―ONEとの交流は、今後どのように考えてますか？

武藤　……わかんねぇなぁ。

――というのは、今後は少し距離を置く可能性もあるということですか？

武藤　分かんない。その可能性もあるし、距離を置かない可能性もあるよ。現状で橋本がいまダメじゃない？　橋本がいない中で、ZERO―ONEに何を求めるかっていうと凄く難しいよ。このままの状態だと、お互いの団体にとって良くない気がするんだよな！

――そういう部分を見越して、少しの期間は交流が途絶えてもいいかなという部分もあるわけですね。その、ZERO―ONEが、いま『W―0』というイベントを立ち上げよう

KEIJI

としているみたいなんですが、武藤さん的にはいかがですか？

武藤　『W―0』が10月25日だっけ？　次の日にウチの武道館大会が入ってるんだよな。

――ああ、そういえばそうですね。じゃあ、協力するどころか……。

武藤　邪魔だよな！（キッパリ）。興行戦争だよ！

――現時点では、選手の貸し出しなどはあり得ない？

武藤　わかんねえな。人がいいからな、俺も。

――ダハハハハ！　『W―1』的なイベントが新たに生まれるということについてはいかがですか？

武藤　どんなものなのか、まだ何も分かんねえからな。俺は『W―1』をやってみて、凄く難しいものだってことは感じてるし。

――今回は興行戦争になってますけど、将来的な協力というのは？

武藤　コメントのしようがないな。まだ、オファーもない話だし、見てもいないし、何を描こうとしてるのかも分からないし。

――『W―1』が標榜していた「ファンタジー・ファイト」に対抗して、「イリュージョン」がテーマらしいですけど（笑）。

武藤　「イリュージョン」って何？

――幻想とか幻影とか……。

武藤　じゃあ、「ファンタジー」って何？

――え～……（笑）。

武藤　大した違いはねえじゃん（笑）。俺は『W―0』の翌日に、日本武道館でありのままのプロレスを見せるよ。

――あとはファンがどっちを選ぶかですね。でも、前に比べて、いまの武藤さんはありのままのプロレスに自信を持ってるんじゃないですか？

ZERO―ONEと今のままの関係でいるのは、お互いの団体にとって良くないと思う

武藤　そんなもん、ずっと前から自信はあるよ！

――失礼しました（笑）。

武藤　俺はプロレスラーの中で一番、等身大だと思ってるから。プロレスラー＝俺だって、自分で思ってるもん！

――「プロレスラー＝俺」！　なかなか他の選手には言えませんよ（笑）。

武藤　たとえばさ、組織的なもので見たら闘龍門とか凄くいいビジネスしてるなって思うわけ。ただ、あいつらがやってるプロレスには、俺の憧れたプロレスはないよね。だから、俺がもしファン時代に闘龍門を見てたら、プロレスラーになってないと思うな。

――それは、どのへんの違いなんですか？





1月の東京ドームを最後にわずか2回で中断されたままの『W―1』。“主役”のひとりゴールドバーグは『W―0』にも参戦予定だが、今度こそブレイクできるか!?

武藤　それは身体の大きさって部分もあるし……。いま、パートナーの嵐もでかいし、付き人をやってる河野もでかいでしょ？　俺と嵐と河野が街を歩くと、プロレスを知らない人もみんな振り向くぜ！　それの延長がファンタジーであり、それの延長が強さだと思うんだよな。

――なるほど！　「プロレスラーは大きくなければならない」。ある意味で武藤さんの考えって“王道プロレス”なんですよね。馬場さんと同じ感覚ですよ、それは。

武藤　でしょ？　その大きさによる威圧感？1メートル90以上のヤツが束になって歩いてたら、それはもう異常な光景じゃない？　ビックリするでしょ。その延長でいいんだよ。

ただ、現状ではそういう素材が少ないからさ。新陳代謝もないし、デカいやつも入ってこないし、でけえヤツを育てるのは小さいやつを育てるよりも10倍は苦労するし。

――そういう難しい問題に真正面から取り組んでるわけですね。

武藤　そうやって全日本は少しずつって感じで足場を固めてる段階だからさ、逆に言えば話題を提供出来てないんだよな。いまのプロレス・格闘技界は派手な話題をいっぱい飛ばしてるじゃない？

――世界の荒鷲・坂口征二が復活したりしてますよね（笑）。

武藤　まあ、そっちはいいけどさ。例えば『ジャングル・ファイト』とかあるじゃん？　話題がバブリーで内容を伴ってないような気がするんだよな。だから、全日本は逆を行っていいんじゃないかっていう変な自信はあるよね。

――それは去年、派手な話題を提供した武藤さんならではの意見ですね（笑）。

武藤　その間に、実を強くしておけば、必ずファンの人たちも付いて来てくれると思うし。地方に行けば「また来てください」「面白かったですよ」ってファンやプロモーターの声も多いんだよ。いま、俺が一番嬉しいのはそれだもん！　昔はそういう土着が嫌で、バブリーな感覚を持って『W―1』みたいな方向に考え方が向いたこともあるんだよ。

――「地方興行がなくてもいいんじゃないか？」って言ってた時期もありましたよね。

武藤　うん。でも、いまは違うよな。

――『W―1』は現時点で休眠状態になってますけど、近い将来に復活させようとは思ってないですか？

武藤　う～ん、やりたいとは思ってるよ。でも、『W―1』をやってる仕組み、というか組織が一回壊れちゃってるからさ。

――『W―1』でもう一本の柱となっていたK―1が新日本と密接な関係になってることは、どう思いますか？



武藤　いいんじゃない？

――武藤さんとK―1の関係は悪くないんですよね？

武藤　悪くないとは思うよ、分かんないけど。だって、俺らは新日本と違って、K―1とは違うものとして区別してるからね。同化してないじゃん？　だから、仕事としての接点は生まれないんだよ。ただ、組織としての接点はいっぱい残ってるから。

――いまは対外的な部分より、内部的な部分のほうに目を向けているわけですね。

武藤　ここまで苦しみながら、骨格が出来上がってきたわけだからさ。肉を付けていくだけだよ。

――去年は骨格が出来あがる前に、勢いだけで走り出しちゃった感じですよね（笑）。

武藤　でも、去年は去年で面白かったけどなぁ。だって、去年までの骨格は俺が作った骨格じゃないもん！

――武藤さんが体制を整えて、これからやっていきたいことは何ですか？

武藤　やっぱりTV放送は欲しいなぁ～（しみじみ）。難しいことだけど、それだけはあきらめないで狙っていきたいよ。

――ZERO―ONEにしても、毎週じゃないですけどTVが付いたことで、だいぶ違うでしょうからね。

武藤　でも、あれじゃダメだ。放送間隔が開きすぎてるから、あれじゃスターを作れねえよ。商売につながんない。チケットに跳ね返らないよ。ただ、テレビに限らず、いろんな方法論があると思うんだよ。大きなものを仕掛けていく方法論もあれば、俺の本にも書いてある通り、目指すところは劇団四季もいいかなぁと思うんだ。アングラって言ったら失礼かもしれないけど、マニアだけであんなにでかいビジネスをしてるんだから、そういう方法論もありだなって。

――リピーターも多いでしょうからね。

武藤　幸いなことに「プロレス」っていう言葉は、かなりのパーセンテージでみんな知ってるだろうし。

――『W―1』では「プロレス」っていう言葉がNGだったわけですけど（笑）。

武藤　それはでかく仕掛けるわけだから、方法論が違うじゃん。アングラな方法でも全然出来るんだよ。劇団四季はファンも多いけど、なぜかと言ったらクオリティが高いからだろうな。『W―1』をやってる時に「全日本を捨てた」とか言われたけど、それは違うよ。全日本に跳ね返すためにやってたんだから。

――今後についての具体的な戦略はあるんですか？　たとえば、興行数を絞るとか？

武藤　減らないんじゃない？　幸いなことに売り興行も多く入ってるし。ただ、大きな仕掛けは少なくなっていくかもしれない。プロレス業界だけじゃなくて世の中全体が不景気になってるからね。もしかしたら日本武道館クラスの大会も減らしていくかもしれない。でも、クオリティは絶対に落とさないよ。背伸びはしない！　でも、チャンスと見たら背伸びもするかもしれない（笑）。

――背伸びしっぱなしじゃ疲れますよね（笑）。

武藤　そう、そう。

――他団体の動向は気になりますか？　たとえば、WJがVTを始めたりしてますけど。

武藤　別に気になんねえなぁ。自分たちのことで必死だから。まあ、でもウチはその裏を行くよ。まあ、向こうが裏で、こっちが表だけどな！

――ダハハハハ！　でも、ようやく武藤さんがプロレスや興行に没頭できるような環境が整ってきたんですね。

武藤　うん。ただ、いまのプロレス界はホラばっかじゃん。俺なんか、しゃべりもガチンコで言っちゃうからさ（笑）。

――すべて話してますもんね（笑）。では、素のままの全日本に期待してますよ！

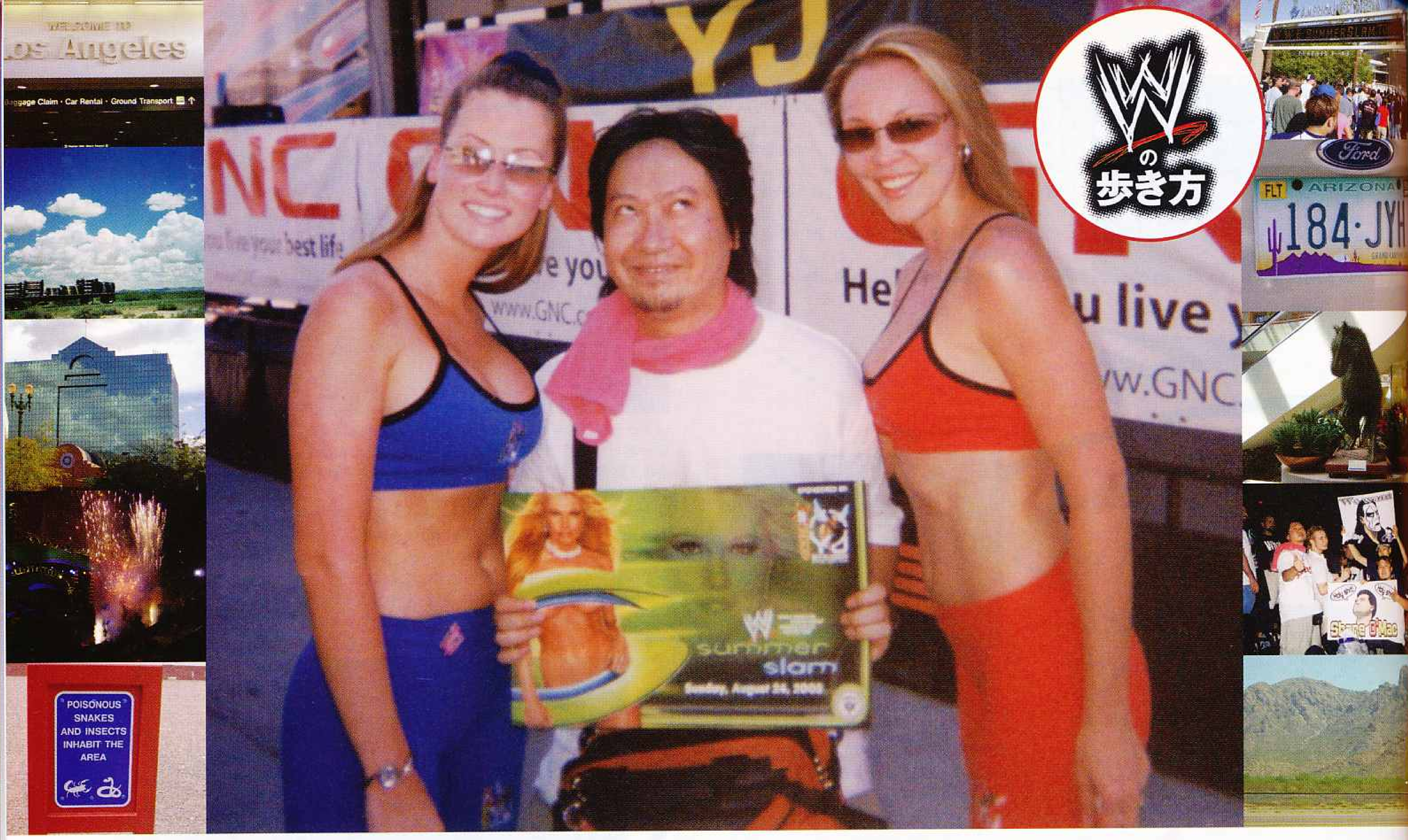
武藤　うーし、よろしく頼むよ！

【03年9月12日／『レッグロック』にて収録】

ROAD TO RE-BIRTH × RE-VERSE

10月5日	（日）12:30	東京・後楽園ホール
10月10日	（金）18:30	大阪・大阪府立体育会館第二競技場
10月11日	（土）18:00	香川・高松市民文化センター
10月14日	（火）18:30	青森・八戸市体育館
10月15日	（水）18:30	宮城・築館町総合運動公園体育館
10月16日	（木）18:30	福島・いわき市平体育館
10月17日	（金）18:00	千葉・市原市臨海体育館
10月20日	（月）18:30	岐阜・高山マウントエース
10月21日	（火）18:30	和歌山・和歌山県立体育館
10月22日	（水）18:30	長野・佐久市総合体育館
10月24日	（金）18:30	新潟・新津市民会館
10月26日	（日）15:00	東京・日本武道館

問い合わせ■全日本プロレス　03-3403-7344



本誌でおなじみアメプロライターのアホでマヌケなアメリカ紀行!!

阿部タケシと行く SUMMER SLAM CIRCUIT 2003



本誌でおなじみアメプロライターの阿部タケシ氏が送るWWE真夏の祭典「サマースラム」旅紀行! 自らツアーを組み、アメリカに乗り込んだ阿部氏を迎えたのは桁違いのスケールで繰り広げられるプロレスと予想だにしないハプニングだった!? 写真と原稿で現地の熱気を真空パック!! 少年よ大志を抱いて、書を捨てアメリカに行こう!!

文／阿部タケシ

designed by matsu(Two three)

アメリカ! 夏! WWE! といえば? 「サマースラム」! というわけで、「レッスルマニア」や「ロイヤルランブル」と並ぶWWE年間4大イベントのひとつ「サマースラム」をレポートしたい。近年の「サマースラム」といえば、HBK復活や、映画界に転進するロックへの大ブーイング、WCW上陸といった大事件が起こり、オンエアを観た後は、必ず日本で一人布団を噛みしめ後悔していたものだった……。そんなわけで、今年は必ず行くぞと心に決めて、某大御所ライターさんに勝手にあやかってツアーを企画してみた。

本家とは異なり、このツアーは僕のごくごく近しい友人のみで行なわれ、その中には神保町のアメプロショップ「ノンストップ」のバイヤー、ケン君がいた。ちなみに彼は「レッスルマニアツアー」の常連で、過去には「WCWマンデーナイトロ」や映画「レスリング・ウィズ・シャドウズ」の翻訳も担当、英語はお手のもの。今回のツアーも自信満々に旅の通訳を買って出てくれた、じつに頼もしい男である。

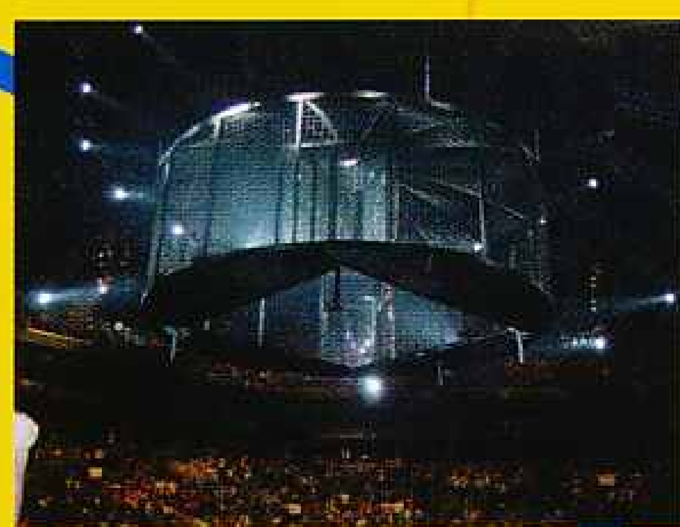
今回観戦したのはアリゾナ州フェニックスで「サマースラム」、その翌日はツーソンで『RAW』、テキサス州エルパソで『SMACKDOWN!』の3大会で、僕らはそのすべてをレンタカーで移動した。

「サマースラム」の会場となったアメリカ・ウエスト・アリーナ周辺は奇声を発する中年集団やスーパ

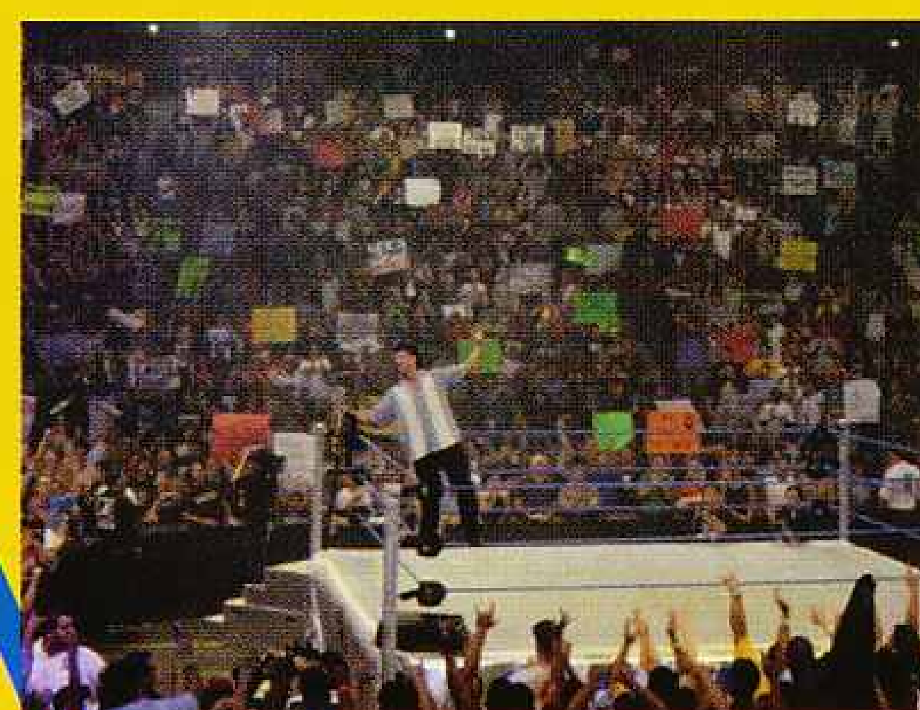
アリゾナ〜ニューメキシコ〜テキサスを爆走!! 謎の空手家も急襲!?



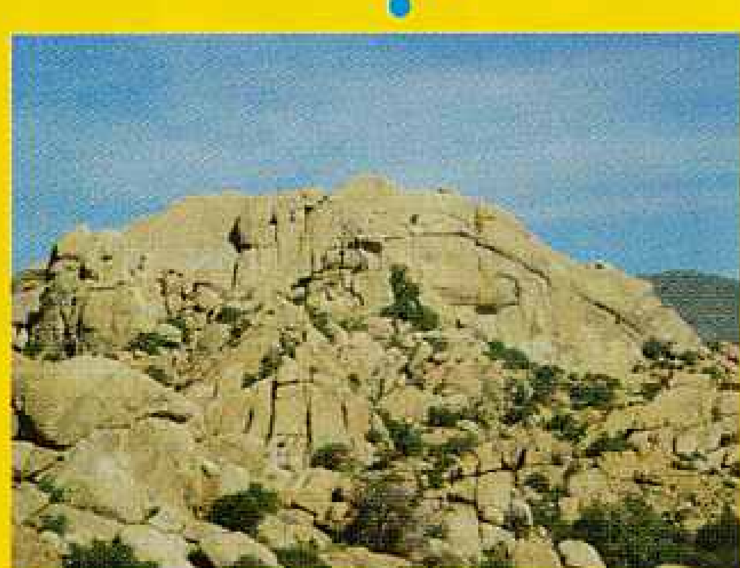
サマースラムの会場横にあるボールワン・パークはMLBのダイヤモンド・バックスの本拠地。サマースラムの開催前にはシカゴ・カブスとのゲームが行なわれていた。"コルクバット"サミー・ソーサの姿も拝見できた。センター横にはプールが設置されている変な球場だ。



会場内天井には、サマースラム史上最大の試合形式「エリミネーション・チェンバー」がぶら下がっていた。メイン直前にこの檻が降りてきたとき観衆は、割れんばかりの声援を送っていた。TVで観るより小さく感じた。



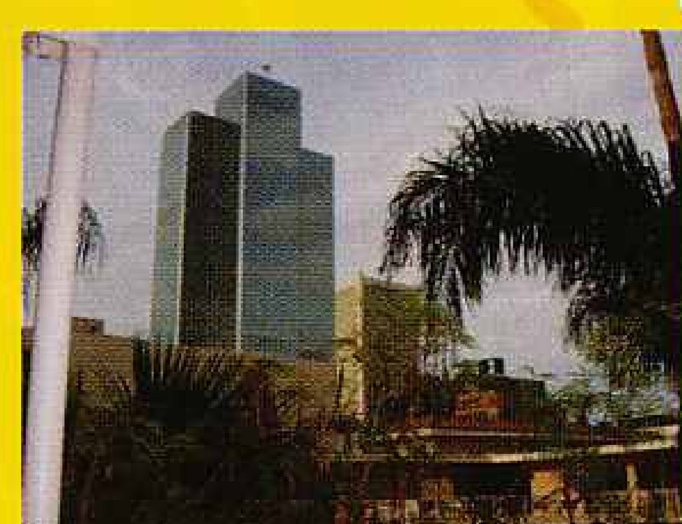
さすがエディの地元だけあって、スマックダウンの番組開始からおよそ30分はエディの独演会。エディは先代からのゲレロ家の躍進や家訓を言いながら、躍進の過程を説明。このプロモに乱入してきたジョン・シナとこの日から抗争を開始した。



出発前、タジリさんにエルパソに向かうまでの注意を聞いていた。タジリさん曰く「エルパソは火星みたいだ」とか、「映画のロケセットみたい」とのこと。半信半疑で聞いていたが、いざこの光景をみたら、マジそのとおり! 今にも倒れてきそうな岩山の間をすり抜け、車をひたすら走らせ、会場へ急いだ。



サービスエリアで謎のオッサン発見。景色を写真に収めていたところ、我々に対し「昔、空手をやってました! チェストッ!」というハリキリっぷり。さらに「高田馬場に住んでました。日本イイトコネ!」と知りうる限りの知識を披露。なんでもこのオッサンはこの土地で活動する"学者"らしいが、話す限りそういう匂いは微塵も感じなかった。構えも正直ヘッピリだったし。





エルパソでのホテルは、ハイウェイ沿い。街はビジネス街というお堅い建造物ばかり。スマックダウンの会場は車で数キロだったが、ウィークデーの夕方は、渋滞が当たり前の様子。この日は久々のWWE上陸だけあって、渋滞は普段以上だったようだ。スマックダウンは超満員。開催を長年待っていたファンのボルテージが爆発し、ショーは大成功に終わった。

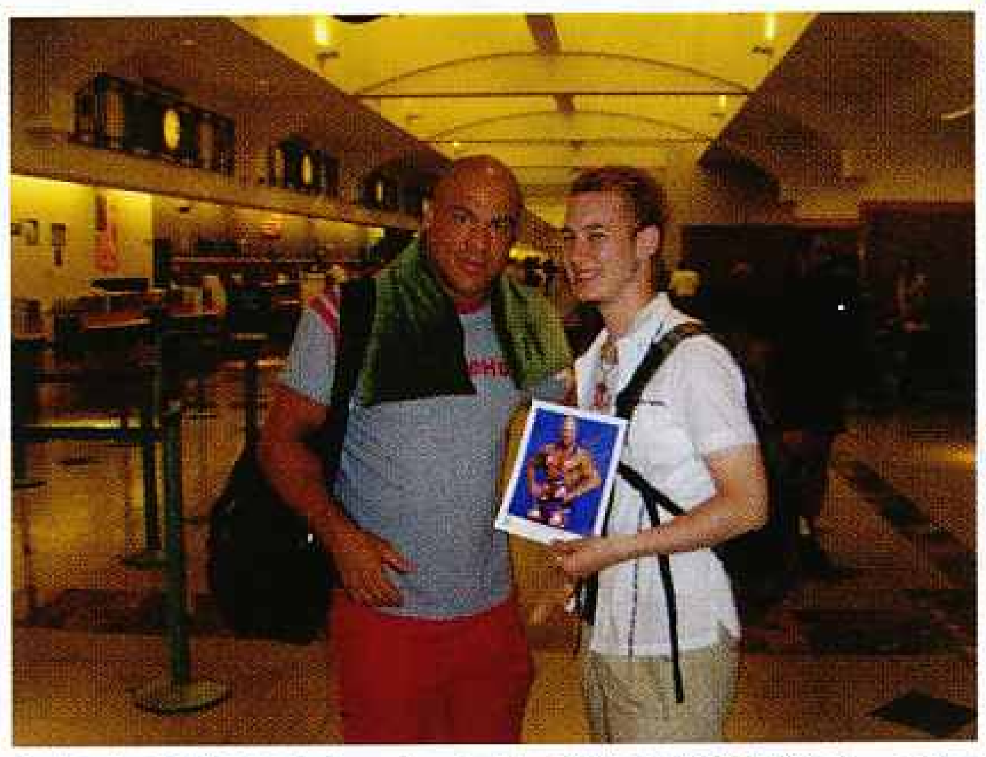
ースターの物真似をする子供達が、〃真夏の祭典〃の上陸を祝うべく異様なテンションでバカ騒ぎ、僕らもそれにノってバカ騒ぎ! さらに会場横のボールワンパーク(ダイヤモンドバックスの本拠地)でMLBが行なわれおり、その客もサマースラム会場になだれ込んだりで、会場周辺は収拾のつかない事態に。開始前の異様な光景に僕等のテンションも一気に上がる。

翌日の月曜日早朝、『RAW』の会場があるツーソンへ。会場に向かう途中、駐車場でケインとシェインのプロモ収録が行なわれていた。暗幕に囲まれたその中から火柱が見えたので、その様子を伺うべく近づくと、屈強なセキュリティが走ってきて「立ち止まるな、ガキ!」とまくし立てられた。怖ぇよ!

その翌日は睡魔と強風に煽られながら6時間かけてニューメキシコ州を横断、テキサス州エルパソに到着した。WWEの開催は13年ぶりで、TVショーは初とのこと。ファンは会場の周りに長蛇の列を作っており、中にはマスクを身につけたファンが多く居た。R・ミステリオをはじめ、ブカネロやカト・クン・リー、少しパーツの足りない自作U・ドラゴンまで多種。さすがにメキシコ国境の街だけあって、マスクマンへの尊敬はこの上なしだった。

翌日は朝4時に空港へ向かう。そこで、ケンに異変が発生。「あれ? おれ? ちと待って?」と、なにやら慌てだす。スーツケースを思いっ

Wの歩き方



満面の笑みでカート・アングルと写真に納まっているのが、ツアー賛同者でもある"自称・日本一の翻訳家"ケン。この写真の前には、滞在時の命綱であるパスポートを失くしていたのである。帰国したい一身で空港側と交渉をしていたのだが、スマックダウンブランドのスーパースターが次々と空港入りするや否や、バッグから持参したポートレートを取り出しサインをねだり、しっかりと写真まで撮る始末。ありえねぇ！　彼のファン根性には恐れ入った。でも、パスポート紛失のおかげでスマックダウンブランドのほぼ全選手の遭遇に成功したのは確か。ゴッドアングルと言うべき？　いや、そう思いたくない…。



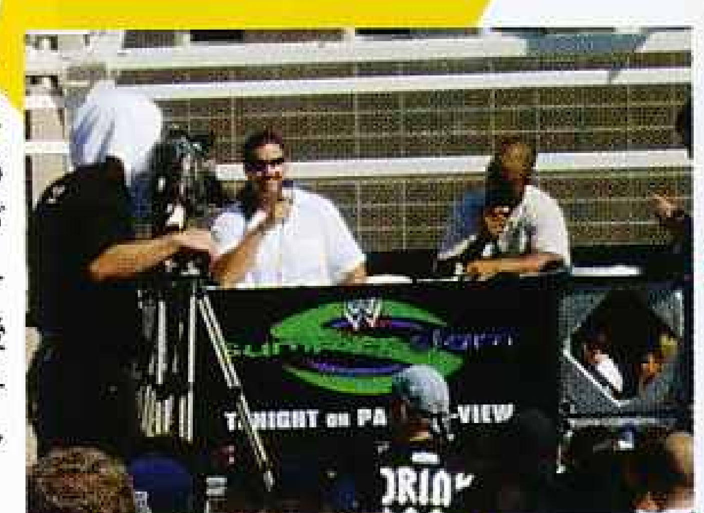
サマースラムの前日タジリさんと食事後、他のスーパースターの宿泊先へ。その途中、路上でひっきりなしにファンが差し出したポートレートやパンフに、丁寧にサインを書き込むタジリ。その列の中には、レッスルマニア19のファンイベント「アクセス」で行列に割り込みしまくり、世界中のファンから反感を買ったアメリカ人男子を発見。僕は「君、今年のレッスルマニアにも居たよね？　ズル込みクンだよね？」と聞くと、「は？　いねぇよ。居るわけないじゃん」とシラケ顔。絶対に居た。僕は覚えてるよ！

CALIFORNIA

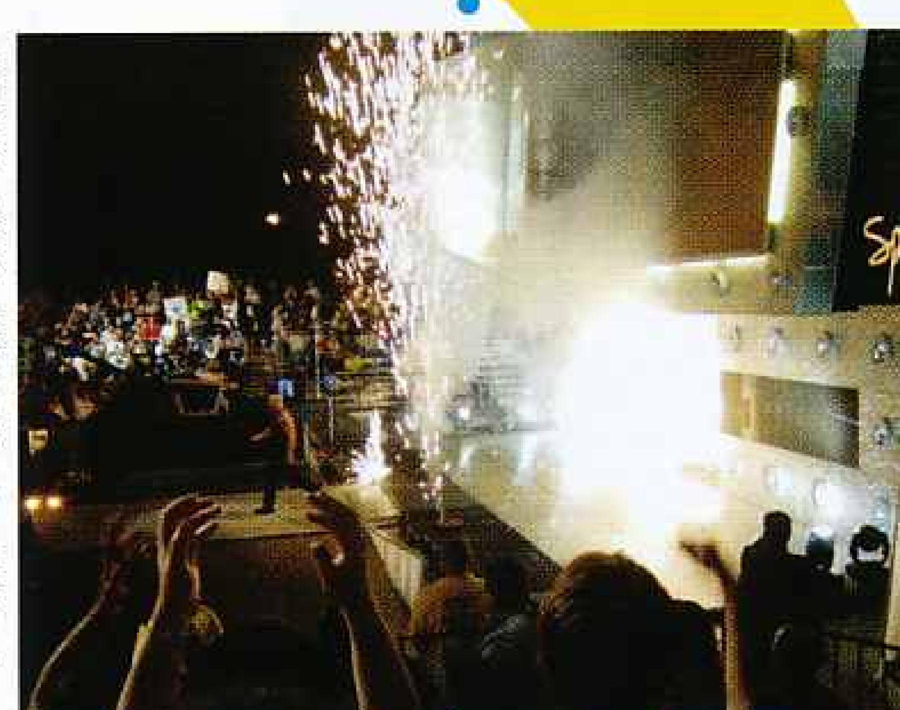
Los Angeles



サマースラムの会場で発見した、私的バカ親子。ストーンコールドの大ファンらしい父親と、ハリケーンのマスクを無理矢理に被せられ気味の息子が、僕らの真後ろに座っていた。こういう仲睦ましい光景はWWEならでは。



サマースラム前のサンデーナイト・ヒート（以下ヒート）の模様。この日のヒートはPPV開催ということもあり、生中継の煽り的プログラム。気温が40度を差す中、熱心にPPVのプロモーションを行なっていた。しかしこの直後のサマースラムででジョナサン・コーチマンは、信じられない行動に走り、ファンのヒートを買うことに。



会場内に仕掛けられたパイロの迫力は想像以上。日本でTVショーが行なわれない限り、この爆発の体感は現地のみでしか味わえない。普段TVで観ている入場前の演出が、目の前で起こるだけで鳥肌が立つ。室内イベントという概念をまったく無視した様々な仕掛に、さすが世界一のエンターテインメント団体と唸った次第。



本誌NO.64でインタビューに登場の"獣人"ライノと感動的な再会!

「WWE至近距離の真実」

出発前にタジリさんに連絡をとり、『紙プロ』を通じ親交が生まれたライノも交え、会食を企画した僕。先に合流したタジリさんと、カフェレストランでライノを待つことに。ホテルのチェックイン後、我々に電話をくれるはずだったが、一向に連絡は無し。待ち合わせは午後10時だったが、時計はすでに午後11時。タジリさんに「ライノって時間にルーズですか?」と聞くと、タジリさんは「ライノは、つかみどころがなんだよね……」と苦笑。

我々の周りには現地のファンが多く詰め掛けてきた。「遠慮せず飲めや!」と我々にコロナをガンガン振舞ってくれるファン。「オレ、プロレス超スキ!」と、自分のプロレス論を熱く語り始めるファンまで出てくる始末。

収拾が付かなくなり店を出て、スーパースターズが宿泊しているホテルへ。ホテル周辺はファンがワンサカ。もちろんタジリの周辺は一瞬にして人だかり。その100m先ではレフェリーのアール・ヘブナーと息子のブライアンが、酒でべろんべろんになりながら、ミネラルウォーターを掛けあっていた。結局この日はライノに会えず……。

サマースラム当日夜、宿泊先のホテルで打ち上げを行なっていたスーパースターズ一行。そこでタジリさんはジェイミー・ノーブル、ババ・レイ・ダッドリー、シェイン・マクマホンなどを紹介してくれた。そしてこの日やっとライノと遭遇。「昨日はごめーん。お詫びにビールおごるよ!」と言い残し、またどこかに行ってしまった。本当に掴みどころのない奴だった……。

きり開け、何かを探し始める。どうやら、パスポートを紛失したらしい。

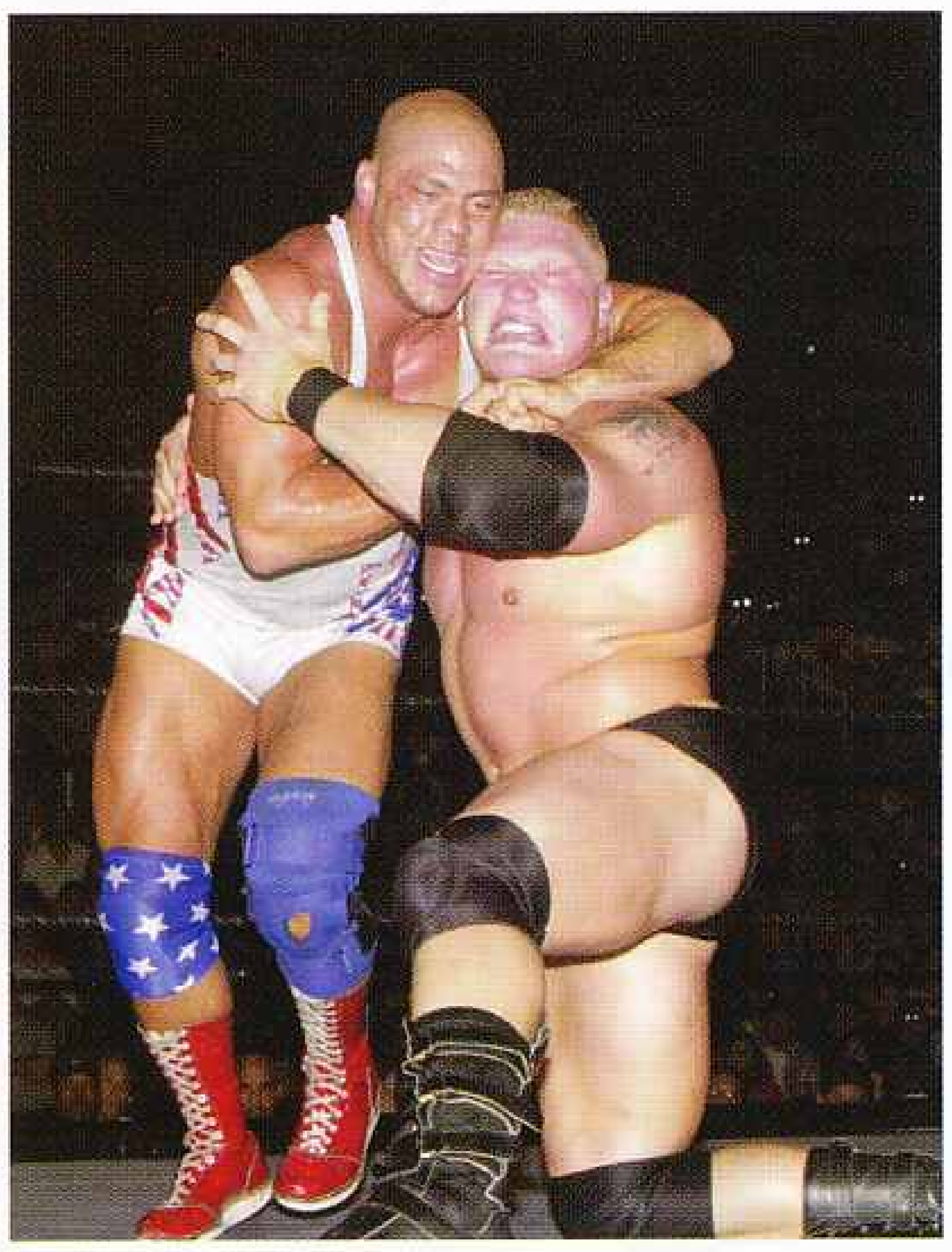
なんと、ここでU・ドラゴンさんとタジリさんに遭遇！　タジリさんは「パスポート無いの?」と気遣ってくれ、U・ドラゴンさんは、「俺もメキシコでパスポートなくしたけど大丈夫だよ。帰れるって！」と暖かいお言葉。だが、ドラゴンさんの「で、パスポートのID控えてるだろ?」という〝究極〟なお言葉にケンは、「いえ、控えてません」と衝撃告白。その言葉にU・ドラゴンさんは「マジかよ……」と凍りついた表情でタップアウト。結局経由先のロスの日本領事館で帰国用旅券を再発行するため、僕らは一日延泊の憂き目に遭った。だが、パスポート紛失にテンパリながらも、ケンは空港で次から次に登場するスーパースターズにサインを貰いまくり。じつに頼もしい男である。

3月の「レッスルマニア」以来、約半年振りの現地観戦だったが、やっぱりアメリカで観るWWEは最高だ！　子供をほったらかして子供以上に楽しんでる親、天井に届かんばかりのパイロ、耳鳴り必至の爆音、会場に充満するオイルの臭い、限界ギリギリの演出を目の当たりにした観客のリアクション。これが見事に合致したときの奇跡のような空間は、TVで味わうことの出来ないはず。是非、一度現地で体験することをオススメします！　もちろん、その際はパスポートをなくなさないように……。

何時男、叙似井&派乱暴のF.B.I.Presents
ネタバレ通信
Vol.8

崖っぷちゴーバーがサマースラムで大逆転！

何時男 今月は叙似井さんが『サマースラム』帰りということで、読者プレゼントがあります!! ガンガン応募して欲しいですね。
叙似井 完全な個人観戦で行ってきましたよ。『紙プロ』のアメプロ担当・阿部タケシも来てましたね。
派乱暴 いかがでした？ 日本のメディアでは評判悪いみたいですけど。
叙似井 何見てんの!?って感じですよ。『サマースラム』に関しては、ゴールドバーグが完全に主役でしたよね。アメリカのファンからは、「給料泥棒」とか「いなくなっちゃえ」とか散々叩かれてたんですけど、入団4ヶ月でようやく本領を発揮したんじゃないですか？ エリミネーション・チェンバーが降りてくる時も「ゴーバー」コールが凄かったし、バカにしたようなボードを持ってた連中も最後には拍手してましたからね。しかも「HOLY SHIT」(超スゲエ)って賞賛のコールが飛び出してましたよ。
何時男 そんな凄かったんだ……。
叙似井 トリプルHが逃げ込んだプラスチックの檻をパンチと蹴りで破壊して引きずり出して乱闘を始めてましたから(笑)。チェンバーがゴールドバーグの凄みを引き出したんですよ。
何時男 プロレスラー相手じゃ光らないけど、チェンバー相手に光るというか(笑)。
叙似井 でも、観客も喜んでましたよ。特にWCWも知らなそうな小さな子まで届いてましたから。ショーとして出来上がってましたよ。
何時男 ケガの功名じゃないですけど、トリプルHとゴールドバーグのシングルじゃなくて、結果的には良かったんですね？
叙似井 もともと9月のPPV『アンフォーギブン』のルーザーリーブ戦でゴールドバーグが負けて、日本に行くんじゃないかと言われていたんですが、ここにきてトリプルHの結婚式っていう問題も絡んできましたからね(笑)。ケガもひどいらしいですから、そこでトリプルHが負けて2ヶ月くらい消えるんじゃないかと言われてます。
何時男 そしたら『W-0』にはWWEヘビー級王者のゴールドバーグが来るわけですか？
叙似井 とりあえず、ゴールドバーグ・ファンとしては一安心ですよ。
派乱暴 えっ、いつからファンになったんですか!?
叙似井 いやぁ、現地でファンになっちゃいました(笑)。



サマースラムの超豪華ボーナストラック！

叙似井 で、『サマースラム』には全試合終了後にビッグ・サプライズがあったんですよ。急にストーンコールドのエントランス・ビデオが流れて、不機嫌そうな顔で花道を歩いて来るんですよ。「ちょっと、ビンス出てこいや」って呼ぶと、ビンスはビッグ・ショーを引き連れて出てきて。ビンスはリング上に呼ばれるってことは知ってたらしいんですけど、何をやるかってことは知らされてなかったらしくて。ストーンコールドが「お前に言いたいことがある」って言ってる間に、『RAW』と『SMACKDOWN!』の選手が続々とリングサイドに集結してるんですよ。ランバージャックマッチでも始まるのかなと思ったんですけど、ストーンコールドがリング内にどんどんビールを投げ込ませて「誕生日、おめでとう！」って(笑)。
派乱暴 アハハハハ！
叙似井 ビンスは「えっ!?」って顔をしてましたよ(笑)。ストーンコールドは「皆でビンスの58歳のお祝いしてやろうぜ！ アンダーテイカー、とりあえずスピンルーニーで祝ってやれや」とか言い出すし。
何時男 テイカーにそんなこと言えるんだ!?(笑)。
叙似井 でも、テイカーは「そんなことはやろうと思っても出来ないから、ビッグショーが見本を見せてくれ」って。ビッグショーは、それをまたキレイに決めるんですよ！
何時男 さすがモノマネ番長(笑)。
叙似井 でも、やらせるだけやらせといて、「それはさておき、皆で歌を歌ってやろう」って(笑)。それ

叙似井から読者へ！ 激レアWWEグッズをプレゼントです！

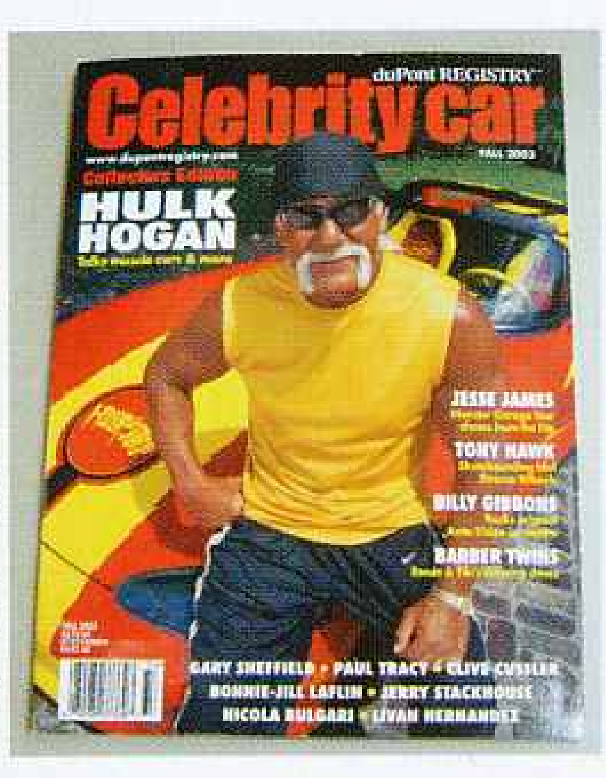
右はトリプルHのトレードマークになってるスレッジ・ハンマー！ これなら憎いあんちくしょうをブッ叩いてもケガはさせません！ 真ん中はセイブルのランチ・マット！ 下チチが気になってランチは進まない？ 最後はハルク・ホーガンが表紙を飾るセレブ満載の車雑誌！ ホーガンの愛車をチェック！
提供■叙似井



空気を入れて膨らますスレッジハンマーは1名様にプレゼント！



食欲よりも性欲をそそるランチマットは2名様にプレゼント！ 部屋に飾るもよし、大事に保存するもよし、大切にしてね♥



ハルク・オーガン……じゃなくてホーガンが表紙の雑誌は2名様に！

※応募方法はP159を参照!!

今月もやってきましたF.B.I.プレゼンツ「ネタバレ通信」。WWEのネタバレ情報

内のビッグイベントという話に繋が

で『♪ハッピバースデー』や『♪マイウェイ』を観客と一緒に大合唱したんですよ！

派乱暴 感動的な光景ですねぇ。

叙似井 それが終わるとシェーンとステフとリンダが入ってきて熱い抱擁を繰り広げてました。最後はリンダと30秒ぐらいディープキスしてましたからね（笑）。その1週間前にエリック・ビショフとリンダは番組でキスしてたんですけど（笑）。

何時男 観客が羨ましいなぁ。

叙似井 会場にいたお客さんはホントにハッピーだったと思いますよ。G1の天山優勝以上にハッピーだったんじゃないですか？ このコーナーでずっと「ゴールドバーグの最後を見届ける」と2～3ヶ月言い続けてましたけど、まさかビンスの誕生会を見届けるとは思いませんでした（笑）。

今月もやってきましたF.B.I.プレゼンツ「ネタバレ通信」。WWEのネタバレ情報のみでお届けします！ 10月25日『W-0』（仮称）は開催延期が噂される中、アメリカからWWEで活躍していたた（活躍中の人も含む）スーパースターが10月に大挙襲撃！ 叙似井が現地で「サマースラム」土産を大放出しつつ、現地で見てきた試合の模様をレポートしてくれました。さあ、今月も張り切っていってみよう！

F.B.I.とは？■「踏み込んだところまで・バラしちゃって・いいかな？（いいとも！）」の略。『SMACKDOWN!』のマフィア系3人組「F.B.I.」（フル・ブラッド・イタリアンズ）にあやかって命名。プロレス業界に潜伏する何時男（なんじお）、桁違いのパワーで情報をかき集める叙似井（じょにー）、裏方さんの派乱暴（ぱらんぼ）の3人組だ。

WWEが12月アジア遠征「空白の1日」を追え!!

何時男 いまゴールドバーグの来日以上に日本のマスコミで騒がれてるのが、ホーガンですよね！ ホーガンは10月13日のドーム参戦が決まりましたが、その新日本が「ゴールドバーグの権利を買ってでも、10月25日の『W-0』開催阻止を目論んでいるらしい」という情報が流れてます。

叙似井 ただ、ホーガン獲得はいろいろ障害も多いって噂でしたけどねぇ。前号で言ったようにホーガンは「ホーガン・ボンバイエ」開催を望んでるらしく、新日本にはいろんな選手とパックでの契約を望んでるとか。そのメンバーっていうのがナスティ・ボーイズとかブルータス・ビーフケーキ……。

何時男 すごいメンツだ（笑）。

叙似井 そんなメンバーが来ちゃったら、いまのアルティメット・クラッシュ路線がぼやけちゃうんじゃないかなと心配なんですけどね（笑）。

何時男 ま、でも坂口征二が復活してるぐらいですから。そっちの路線なら何でもアリなんじゃないですか？（笑）。全日本も元WWEの選手を続々と呼ぶみたいですね。

叙似井 こないだのニセWWE軍団も、そのための布石みたいですね。そうは思いたくないけど（笑）。

何時男 偽ミステリオなんてたった10分間試合に出ただけでケガして帰国しちゃったじゃないですか（笑）。

叙似井 前途多難ですね（笑）。でも、ブル・ブキャナン以外は試合も出来る人ばっかりですから、10月からは期待できそうですよ。

何時男 WWE本体は日本に来ないんですか？ 12月に韓国、マレーシア、シンガポールのツアーが発表されましたけど。

叙似井 ちなみに、これは『SMACKDOWN!』ブランドのツアーなんですよね。

派乱暴 いまのところ予定では12月2日が韓国で、4日がマレーシア、5日がシンガポールになってますねぇ……。

何時男 おっ、3日が空いてるんですね？ それが前号で言ってた、年内のビッグイベントという話に繋がるわけですか？

派乱暴 それは、また別の話だったんですけど……。まだ流動的です。

何時男 今号でも登場してるフジテレビのプロデューサーは『SMACKDOWN!』を呼ぶって宣言してるんですけど、おそらく来年の頭に来日するのは『RAW』ブランドと言われてるんですよね。

派乱暴 現時点でまだ何も発表はないんで、注目して待ちたいですけど。

何時男 フジの「スマックダウン！」の命運もかかってるわけですからね。

【9月某日、都内某所で収録】



噂FILE

● 今月のビンス

もはや、数週間に一回の割合でブチ切れをくり返すビンス様。『SMACKDOWN!』ブランドのスーパースターには「レスリングを中心にして、観客にも伝わるスピードで試合しろ」という命令を出していたが、9月初旬のハウスショーで行われた試合中、いきなりリングサイドにビンスが登場。そのままゴングを乱打するという暴挙に出て「こんな試合よりビキニ・コンテストだ！」と無効試合にしてしまったとのこと！ もちろん、スーパースター達はこの事態に目が点。神だ神だと言われて続けたが、本当に神以外に出来ない行為をしたようだ。

● トリプルHの結婚前夜祭

9月16日に収録されるスマックダウンの試合後、どうやらトリプルHとステファニー・マクマホンの結婚を祝う意味でトリプルHが結婚前夜祭を開く模様。WWE両番組の男性スーパースターはこれに招待されているようだが、多くは快く思っていない様子。ここ最近、トリプルHに対する様々なやっかみ、嫉妬じみたコメントが多いが、果たして？ ちなみにトリプルHとステファニーの結婚式は10月30日～31日の予定。

● DIVASサーチ・コンテスト優勝者

アメリカ全土から新たなDIVAを発見すべくWWE.COMで開催された「DIVASサーチ・コンテスト」。サマースラムの直前にその優勝者はファンの投票によりジェイミー・コエッペ嬢に決定した。ジェイミー嬢はフィットネス・モデルの経験があり、優勝後のインタビューでは「Yahoo！のメッセージボードで私のファン達が是非とも応募するべきだって言うものだから、ついつい応募しちゃったの」とコメント。さらに、「私はトリッシュが好きなの。同じカナダ人というだけじゃなくて、デビュー直後ってマイクを握るのでも手が震えたり、声が詰まったりしてたでしょう？ かわいらしくて大好きッ！」と何気に暴言を披露した。

● 日本来襲予定の元スーパースター

ゴールドバーグのゼロワン横浜アリーナ来日は既成事実とされており（一時はWWE退団後の来日という話だったが、所属継続で落ち着いた模様）、10/13の新日本・東京ドーム大会ではホーガンvsマサ・チョーノに決まったとされている。ちなみにホーガンの親友で有名なDJババの主催するラジオ・ショーでもコメントされた。さらに、全日本プロレスでは10月にブル・ブキャナン、ディーロー・ブラウン、ジャマールの参戦が予定されており、11月にもクラッシュ・ホーリー、レイヴェン、ジャスティン・クレディブルの来日も確実視されている。

● DIVA恋愛事情

フィラデルフィアにて放送された「ヤングマン・レスリング」という番組がDIVAのゴシップ・ネタを披露。その放送によるとトリッシュ=一般人。ニディア=エリック・アングル。モーリー=謎。アイボリー=フリー。ジャズ=ロドニー・マックとは夫婦。シャニークワ=ダグ・バシャム。ジャクリーン=ブッカーT。テリー=青年実業家と再婚。ジャッキー=ランディー・オートン。ゲイル・キム=ケビン・ナッシュ。ジャクリーンとブッカー!?

● サバイバー・シリーズ&レッスルマニア20

ブロック・レスナーを『RAW』、ケインを『SMACKDOWN!』にトレードさせる案が浮上。それによって、次のブランド共催大会であるサバイバー・シリーズでアンダーテイカーvsケイン、ブロック・レスナーvsゴールドバーグの二大タイトル・マッチを展開させることを目論んでいる様子。またレッスルマニア20はストーンコールドとミック・フォーリーとワンマッチ復活も着々と進行中らしい。ミック・フォーリーも自身の本のサイン会会場でレッスルマニア20で復帰を名言していたとのこと。

●ジョーニー「チャイナ」ローラーが、今後は「チャイナ・ドール」という名前で活動中。

●今現在WWEが予定しているネイサン・ジョーンズの復帰日時は9月中旬とのこと。『RAW』でバティスタとのコンビ結成の可能性があり。

●ロックが来年一月から復帰。WRESTLEMANIA20までの復活を公言。

●ロディ・パイパーがインディでワンマッチ5000ドルで出場している。

フジテレビ「WWEスマックダウン」プロデューサー／演出

織田実 Interview［後編］

聞き手／阿部タケシ



ブーイングを乗り越え、WWEに真剣勝負を挑むフジテレビの壮大な野望!

ズバリ言って賛否両論！ フジテレビ系で放送中の「WWEスマックダウン」プロデューサー・織田氏が本誌前号で登場、7月の日本大会での大ブーイングについて語ってもらったわけだが、読者の意見は真っ二つに割れた。「そこまで擁護する必要はない」「日本に根付かせるために頑張って欲しい」などなど……。しかし、フジテレビはさらに先を見据えていた！「WWEスマックダウン」の命運を占う爆弾発言まで飛び出したぞ！ エンターテインメント・プロレス定着に燃えるこの男の熱い魂を感じろ!!

――ところでこの番組（フジテレビ系「WWEスマックダウン」）って、プロレス専門誌などでは取り上げられる機会が少ないですよね？

織田 従来のプロレスをこよなく愛するスタンスの専門誌さんと、まだお話をするような段階ではないだろう、と。

――多分、プロレスマスコミの多くは、フジテレビさんが手掛けることでいろんな意味で話題だった『W－1』みたいになるだろうと思って見てるのかもしれないですよ。

織田 （急にかしこまって）『W－1』の経験は重々、肝に据えてるつもりです!!

――織田さんご自身は『W－1』に関わってなかったんですか？

織田 一切、関わってないです!!（力強く）この番組って、K－1とか『PRIDE』とは違うところで制作してるんですよ。

――あっちはスポーツ局ですよね？

織田 「フジテレビ格闘技委員会」が中心になってやってますけど、こっちは全くリンクしてないですから。その分、頑張らなきゃって思いますね。

――スポーツ局さんはプロレスが嫌いなんですかね？ アーネスト・ホーストがプロレスをやることに猛反対していたという噂も聞きましたし。

織田 それは僕も大反対です。こないだのブーイング（7／17横浜アリーナ）の根底には、「フジテレビはプロレスをバカにしてるんだろ？ ふざけんなよ」って意味もあったと思うんですよ。僕は、プロレスという昔からあるエンターテインメントがガチンコの渦に巻き込まれてしまっている、そういう状況に少しでもブレーキをかけるつもりでやっているんですけど……。

――ほう！ それは意外ですね！

織田 でも、ガーッとそっちの方向に行っちゃってるんで、「どうしてだろう？」と思って眺めてる状態ですね。

――新日本までアルティメット・クラッシュを始めちゃったぐらいですからね。

織田 質問があるんですけど、いいですか？

――どうぞ、どうぞ！

織田 プロレスファンにとって、格闘技が人気を得ているという状態は本意ではないんですよね？

――まあ、プロレス業界にとって本意でないことは間違いないでしょうけど。

織田 ファンの人たちはどうなんでしょう？ 両方あった方が嬉しいんですかね？ 僕はプロレスって、リングの中で鍛え上げた肉体がぶつかり合うのを人に見せるエンターテインメントだと思ってるんです。

――エンターテインメントであることを初めて公言したのはWWEで、完全に勝負論に徹したのが『PRIDE』やK－1ですよね。日本の一部のプロレス団体はその中間でどっちつかずになっちゃってるのが現状ですけど。

織田 だから、僕はプロレスラーが

見つけたら即ゲット！ 最新DVDを各1名に読者プレゼントです！

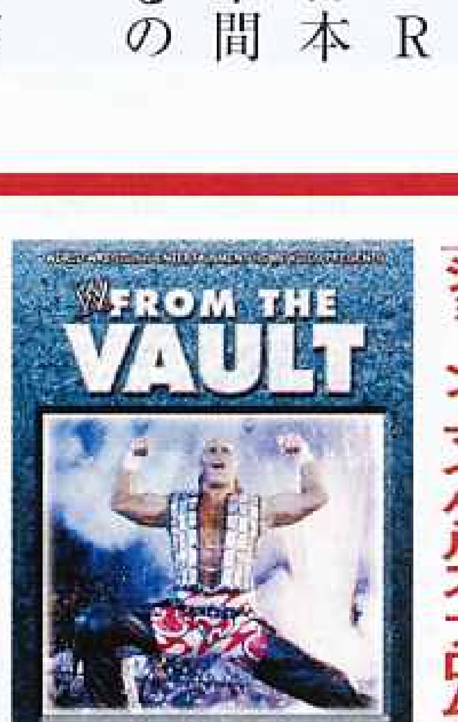
絶賛発売中のWWE最新作は凄い！ まず、真っ先に紹介しなければいけないのは『FROM THE VAULT, SHAWN MICHAELS』。『ZST』のエース・小谷直之も大ファンだというショーン・マイケルズの過去の名勝負やインタビューが満載されており、なぜ彼が「ハート・ブレイク・キッド」（略してHBK）と呼ばれるか、これ一発でわかるはずだ。ブレット・ハートと繰り広げた伝説の60分アイアンマン・マッチなど厳選した名勝負7本を完全収録！ もはや神の領域にまで達したプロレスの深淵を堪能してください！ もう一本は6月のPPV『BAD BLOOD』。こちらは『RAW』チームのみで構成された初のPPV大会で、共同GMに就任したストーンコールドが大暴れ!! 共同GMでライバルのエリック・ビショフとのゲップ対決などで本領発揮しまくってます。トリプルH対ケビン・ナッシュのヘル・イン・ア・セル戦、HBK対リック・フレアーが究極vs至高の対決！ どちらもDVDには特典映像が満載!! 魅惑のWWEワールドを体験するには絶好のチャンス！ 見逃すな！ 各1本ずつプレゼントです。

【提供■ユークス】



『バッドブラッド2003』

DVD:¥3800/VHS:¥5800
本編154分 DVD特典映像32分



『ショーン・マイケルズ フロム・ザ・ヴォルト』

DVD:¥5700/VHS:¥5800
本編265分 DVD特典映像127分

※応募方法はP159を参照!!

Wの歩き方

プロレスラーがガチンコで負けて「弱いじゃん」って言われるのが凄い悔しい！

ガチンコに走る必要はないと思うんですよっ！（力強く）。ファンはプロレスラーがガチンコで勝つところを見たいんですか？

——そりゃ、格闘技のリングでプロレスの強さを証明したらファンは喜びますよ。でも、いまのプロレスはショーマンシップな部分も『PRIDE』やK-1に正直負けてるし、勝負としても負けてるからプロレスファンは自信を喪失しちゃってるんです。でも、そこに自信を与えてくれたのがWWEだと思うんです。ガチンコだろうがなんだろうが、別次元のプロレス団体ですからね。

織田　そうですよね！　だから、僕はWWEスーパースターズがガチンコをやっても無意味だと思うんです。プロレスを格闘技として見てもいいんですけど、やっぱり「違うんですよ」って部分も見せないと。基本的に味が違いますからね。いままでプロレスには興味を持ってなかった人が『PRIDE』やK-1を見て、プロレスラーが負けると「なんだよ、プロレスラーって弱いじゃん」って言われるじゃないですか？　それが凄く嫌なんです!!　凄く悔しいんです!!　……そういうことは言ってもいいんですかね？

——ドンドン言うべきです！（笑）。

織田　だって、プロレスラーがガチンコに出て行って負けちゃったら、夢も何も与えられないじゃないですか？　だから、いま僕らの番組には「K-1も好き、『PRIDE』も好きだし、WWEも好き」っていうオピニオン・リーダー的な人は入れてないんです。さっきも言ったように、ガチンコとプロレスは見方を変えなきゃいけないと思いますから。それが今の日本人、特に一般視聴者には絶対必要だと思うんですよ！　全部同じ見方になっちゃったら、ホントにまずいですよ！



WWEスーパースターの来日に合わせて公開収録も頻繁に行なっているフジテレビ（写真は7月20日＠お台場）。

——WWEはあれだけムチャクチャな演出をしてるんで、一歩間違えば世間の人には「それって八百長でしょ？」の一言で終わってしまう危険性もありますよ。

織田　そうですね。だから、僕らも八百長って言葉には凄く敏感にならざるを得ませんよ。

——今の時代、「筋書きが決まってる」ってことが、「八百長」って単語とイコールになっちゃってますから。「八百長」って言葉が安易に使われてますよね。

織田　それってお金が動いて、「この試合で負けろよ」ってことでしょ？　でも、プロレスってそういう構造じゃないですもんね。確固たる肉体を作り上げて、リング上でパフォーマンスして、エンターテインメントを成立させながら、その中に勝ち負けがあって、試合を魅せる……。そこからドラマが始まるわけですよね？　これは八百長ではないですよ。だったら、TVドラマも映画も八百長になっちゃう。WWEを見た人は「どうせ筋書きが出来てるんだろ？」って言いますけど、そういう話をする時点で、もう取り込まれてますから。

——それって作り手側としては完璧に〝勝ち〟ですよね（笑）。

織田　そういう部分の面白さを視聴者の方に伝えていきたいですねぇ。

——それには毎週のストーリーの繋がりは大事ですね。

織田　ええ。無責任に流しっぱなしだと視聴者が離れて行っちゃいますから、そういうことはしたくないんですよね。しかも、WWEは英語圏で情報が取りづらい。JスカイスポーツさんでもWWEの番組は見られますけど、一般視聴者の方に対する説明は欠かしたくないんです。

——そういう中でムーブメントを起こすのって、並大抵のことじゃないですよね？

織田　でも、F1だってFIFAっていう凄く堅いところを相手にして、ジャパンGP開催にまで漕ぎ着けましたから。

——もともとはヨーロッパ中心の閉じた世界でしたもんね。

織田　そうです。10何年の交渉を経て、開催が実現してるんですよ。WWEに関しても、放送を始める2年以上前から話はありましたし。

——そう考えると、『SMACKDOWN！』日本公演も大変なイベントなんですね。スポンサーへの働きかけが重要になってきますよね？

織田　重要ですね。だから視聴率は落とせないんですよ。スポンサーの窓口になってらっしゃる方も、いわゆるサラリーマンですからね。その方が、社内で責められないような番組や大会にしなきゃいけない。会社自体の業績が不安定にもなりかねないですから。あとはファンの方の意見にも耳を傾けて、細心の注意を払っていかないと……ごめんなさい、こんな話で。

——いえいえ！　そういう話を聞くと、「WWEを日本でブームにする」というのがいかに大変な作業なのか読者にも伝わると思いますし。

織田　僕の目標としては、来年のハウスショーをTVマッチ用の収録形態にしたいと思っていて、WWEに交渉しているんですよ。

——前回同様にWWEと共催という形で？

織田　興行に関してウチは何もさせてもらってない状況なんで、僕としてはTVを見た人が違和感を感じないようなものにはしたいですね。フジテレビとして独自の色を付けるといったことは一切考えてないです。ただ、見せ方の部分ですよね。興行をアメリカでやってるTVマッチをそのまま持ってきたいんですよ。興行をやるにあたって、フジテレビは最大限の協力をしますから、その代わり視聴者に夢を与えて欲しいんです！　そうすれば深夜枠じゃなくて、子供たちにも見られる時間帯に放送できますから。

——いいですねぇ。今日はそういう話を聞きたかったんですよ（笑）。ちなみに、来年の2月に『RAW』が来日とかいう噂になってますけど、その場合「スマックダウン！」を放送しているフジテレビとしてはどうするんですか？

織田　ウチとしての主張は来年の1～3月までに、もう一度『SMACKDOWN！』に来てもらわないと、来年の4月からの放送継続はあり得ないですね。背後から刺されるようなもんですよ（笑）。そこは譲れないです。「スマックダウン！」番組内で、「え～、じつは『RAW』っていう番組がありまして……」とか、いまさら言えないですよ（笑）。素材も一切ないですし。もう、これからは真剣勝負です!!　是非、応援してください、お願いします。

【03年8月13日お台場・フジテレビにて収録】



ビッグ・サカ一家が新日本を救った!
バード路線に続いてエンタメモードにも突入!!

〃新日本が面白い!!

“馬鹿”な動きがボンヤリわかる

紙の新日本プロレス

坂口憲二の登場、小鉄が復帰、西村がマイク術を開眼したり、ケロが流血したりと、なんだか凄いことになっている新日本。まさに開き直りの力。アントンいわくの馬鹿になれ! 今回は荒鷲復活を祝して、その“馬鹿になった”新日本の異常な動きをものすごく大まかに紹介しよう!!

構成／ジャン斉藤　designed by matsu (Two three)

●新エースは坂口憲二

9・14名古屋大会。〃世界の荒鷲〃坂口征二の復活戦に、息子であり人気俳優の坂口憲二がセコンドとして登場！憲二はノリノリで観客を煽り、高山&真壁を挑発するパフォーマンスもみせた。快勝後の控室では、ビック・サカ、利子夫人、兄・征夫と記者会見。一般マスコミの取材も殺到するなど、ジャンルを超えて反響を生んだ憲二に新日本某幹部もニコニコ顔。「東京ドームは憲二が主演だ！」と絶叫したとか。

●ビック・サカ復活

坂口&蝶野vs高山&真壁。ビック・サカは次々と柔道殺法を繰り出すばかりか、往年の必殺技であるアトミック・ドロップまでも披露。最後は蝶野が真壁を丸め込むアッサリとした結末だったが、荒鷲フィーバーで大賑わいとなった新日本。ビック・サカは10・13東京ドームにも出場予定だ。

●真壁、荒鷲一家の秘密を暴露！

戦前の口撃が冴えに冴えた高山&真壁。真壁は「あの家は奥さんが一番怖い！」と坂口一家の内情まで暴露！これにはさすがの高山も「俺はそこまで言ってない」と絶句。その後、真壁の口から坂口夫人の名前は一切出ず……。

●馳浩、荒鷲一家にエール

「出来ればセコンドにつく憲二に真壁がちょっかい出して、それに激怒した利子夫人がフライパンで真壁をドツキ回す姿を密かに期待する。だって、坂口家最強は間違いなく利子夫人なのだから!!」と、サンスポからイヤらしいエールを送った馳先生でした！

●仰天!! アントン総帥も復帰!?

高山が東京ドームに〃神〃の降臨を予告。「ジジイのお達者クラブはもういい。否定するためには〃神〃を連れてくるしかない」。〃神〃と言えば、アントン総帥もしくはカール・ゴッチだが、本誌としては大槻ケンヂが〃神〃と崇めるミスター高橋を推薦したい！

●蝶野、ドラゴンに引退勧告！

ホーガンとのドリームマッチに挑む蝶野。「ホーガンを倒したら、上の世代に引導を渡す。藤波さんにも引退してもらう！」と、なぜか矛先はドラゴンへ。さらに「この歳になると、闘うのはリングだけじゃない」と、社長の座からも引きずり降ろすことを匂わせた。ドラゴン、マスト・ダイ!?

●ドラゴン、発言禁止令

迂闊な発言でおなじみの藤波社長。最近サッパリ口を開かなくなったが、会社からコメントにストップがかかっていることが今号の柴田記者インタビューで



8・28大阪大会。高山vs蝶野の金網マッチ立会人を務めたビック・サカは、試合後に高山と乱闘。それを聞いて電話してきた憲二の「お父さん、やるんか!?」の一言で「やっちゃるか!」と復帰を決意した

判明。「紙の新聞」で散々ネタにしたことの影響？ ドラゴンが主人公の年末好評企画「語録で振り返るマット界」に暗雲が漂ってきた！

●高山vs天山、ドームでIWGP戦

「プロの興行ならもっと客が集まるカードを組め！」と高山。もっともだ。

●西村「安田、負けたら人間をやめなさい！」

「安田、お前は悪じゃ！」「最後に勝つのは正義だ！」などと説法する、現代では風化寸前のヒーロー&時代劇調マイクが好調の西村。魔界倶楽部・柴田に「そなたは悪ではない。正義じゃ！魔界をやめて無我に入りなさい！」と、宗教じみた勧誘も始める始末。

●山本小鉄、遂に現役復帰!!

魔界と因縁が生じた小鉄が魔界vs新日本の6人タッグにレフェリーとして登場。試合前に魔界の挑発を受けると、Tシャツを脱ぎ捨て怒りの緊急参戦！……って、最初からリングシューズ履いてるじゃん！ という突っ込みを入れてはいけないのだ。

●らしくもないぜ！ 怒りの健吾！

竹村と邪道&外道が、ケロこと田中リングアナを血祭りにあげるなど、IWGPジュニアタイトルマッチで大暴走！激怒した立会人・健吾は背広を脱いで臨戦態勢の構えをみせたが何をするわけでもなく再び背広に腕を通すという、吉本新喜劇張りのアクション。らしくもないぜ、健吾兄ィ！

●棚橋、王座防衛！ 裁判示談！

知らぬ間にタイトル化されていた「U―30」。大阪大会で王者・棚橋が魔界2号の挑戦を受けた。ベルトの他に、髪の毛&マスク剥ぎが懸けられたが、示談で終わった刺傷事件の裁判同様、棚橋が防衛戦も無事クリア。二重におめでたい！

●魔界2号の正体

棚橋に敗れ、そのマスクを自ら脱いだ魔界2号は「オレは筑前りょう太ばい！」と吠えた！……けど、そのマイナーネームに会場が一気に凍り付いたのは言うまでもあるまい。

●新日本、ポーゴ劇場化

8月28日大阪大会。中西vs村上。中西を南京袋に拉致。道頓堀に投げ込むという、時節柄物騒な制裁を予告した魔界。試合は2分で村上の反則負け。裁定後、ロビーに繰り出して乱闘を繰り広げる、ポーゴ真っ青なインディバトルを展開！ 場内からはしっかり「金返せ！」コールが巻き起こった。

●永田裕志 レスラー11周年記念試合

「いまの新日本には必要ない！ ふざけんな！」と、相変わらず一本調子な罵倒を続ける永田。9月14日はちょうど自身がデビューした日とのことで、「11周年記念試合」という非常に中途半端なメモリアルマッチを開催。そして「第二章開幕」を宣言！ 誰か、永田をどうにかしてくれ！

『PRIDE』、K-1、いいかよく見てろぉ！ これが新日本プロレスだぁ！

“馬鹿になった”新

●中西、パンクラスで馬鹿騒ぎ

パンクラス両国大会に出陣した新日本軍団のセコンドについた中西学。矢野通が負けるとまるで自分のことのように本気で悔しがり、ジョシュが勝つと新日本フラッグを振って大喜び！ “馬鹿騒ぎ”とはこのことだ。ホー！

●その後のイズマイウ①

マネージャー・イズの怠慢により、パンクラス参戦が中止になったサイボーグ。尾崎社長が「イズとは絶縁」を宣言すれば、イズは自分の不備を棚に上げて「パンクラスはクソったれ！」とブラジルのラジオで逆ギレ。さすがだ！

小鉄も復帰!! ケロ流血！ 倉掛異動！ 健吾だって臨戦態勢！ そして“神”は……!?

●その後のイズマイウ②

ブラジル各地ジムで「ミスター・イノキがお前に惚れている。10月の新日本に出す計画もある」などと、ありもしないプランをエサに選手の引き抜きを画策。関係者から大ヒンシュクを買っているらしい。さすがだ！

●その後のイズマイウ③

前回のインタビューで通訳を務めたタダシ☆タナカに国際電話。「ミスター・イノキが12メートルの大蛇と闘った！ これは本当の話だ！」と大演説。あのタダシ☆タナカすらも大呆れ。



開き直りのパワーが溢れる新日本のリング。“真打ち”アントン総帥はどう絡んでくるのか？ ドーム復帰問題も含めてアントン成田会見が待ち遠しい!!



●青木さん絶賛される

前号の全日本プロレス・青木取締役インタビュー。それを読んだ新日本・上井執行役員は大爆笑！ カラーコピーして社内に配るなど、「“全日本の不発弾”のコピーは青木にピッタリ！」とやけに御満悦だった模様。

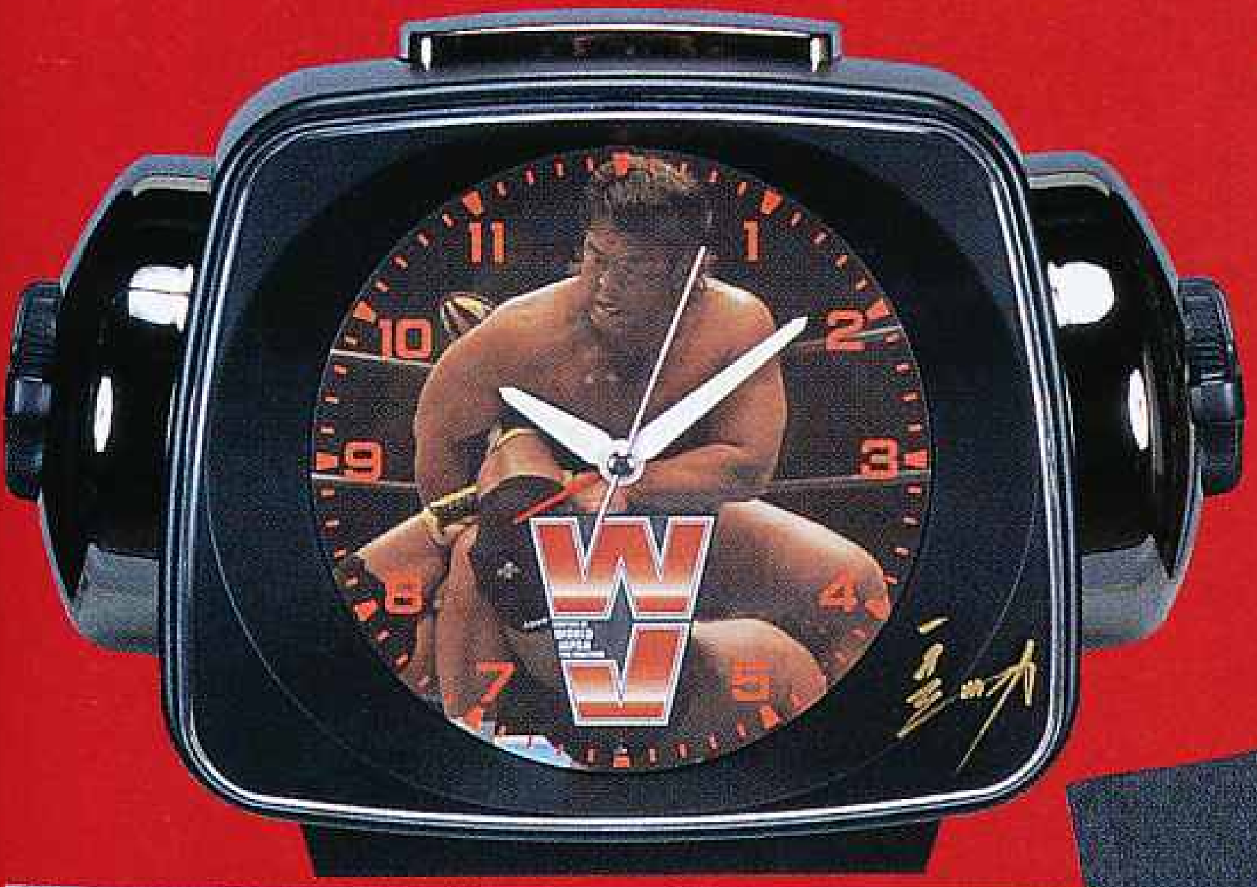
【その他の新日本ニュース】

- ●ジョシュvs高橋、ドームで実現
- ●アントン総帥、LAからNYへ引っ越し。イズが追随する可能性あり
- ●倉掛広報、闘魂SHOPに異動
- ●現在営業部のケロ、10月中旬まで広島に出張
- ●永久電機、計画頓挫の噂
- ●星野総裁、黄金マスクで憲二を勧誘
- ●猪木営業軍団奮戦記HP謎の閉鎖。
- ●鈴木みのる、ペンライトで空中に「高山」と書いてNWF戦に意欲
- ●新間氏、イズマイウと上井執行役員の不仲を明かす
- ●全日本・青木さんTシャツ、新日本社内のゴミ箱に捨てられる

非常ベルが鳴っている!!
RADICAL PRESENT

WJ

【WJ提供】
WJ HP【URL】http://www.wj-pro.com/main.html





★『X-1』パンフレット（中嶋君サイン入り） 1名様
中嶋君のサインが入った『X-1』パンフ!! ド迫力!なつくりになっているぞ!! ヴァー!!



1名様





1名様



★長州力ド真中目覚まし時計 1名様
「非常ベルが鳴っているのに気付かないのか!?」とばかりに、寝坊・遅刻に警鐘を鳴らすド真ん中な長州グッズ!! カチ喰らわす音量がアナタを襲う!!

★LOCK IT UP! Tシャツ（ネイビー）
キミの心に力強くロックアップする、目ン玉が飛び出るWJTシャツがマグマとなって読プレに押し寄せた!! 着ない奴はクソぶっかけてカチ喰らわすからな!

★WJ両国国技館パンフレット（中嶋君サイン入り）
こちらも中嶋君のサイン入り! カレンダーにも使用できる優れモノなパンフレットだ! クアーッ!と飾るんだよ!!

NON STOP

フィギュア、レプリカベルト、ポスター、サイン色紙など、様々なアメプログッズを扱うNONSTOP!! マニアはさっそく神保町へGOだ!!【NONSTOP提供】
【URL】http://www.nonstop.co.jp/ 【営業時間】12:00～21:00
【アクセス】東京都千代田区神田錦町3-6錦町スクウェアビル1F 新御茶ノ水駅（JR）・小川町駅（新宿線）・新御茶ノ水駅（千代田線）・神保町駅（半蔵門線/三田線/新宿線）下車

各1名様



★ハルク・ホーガン80's フィギュア（¥2800）



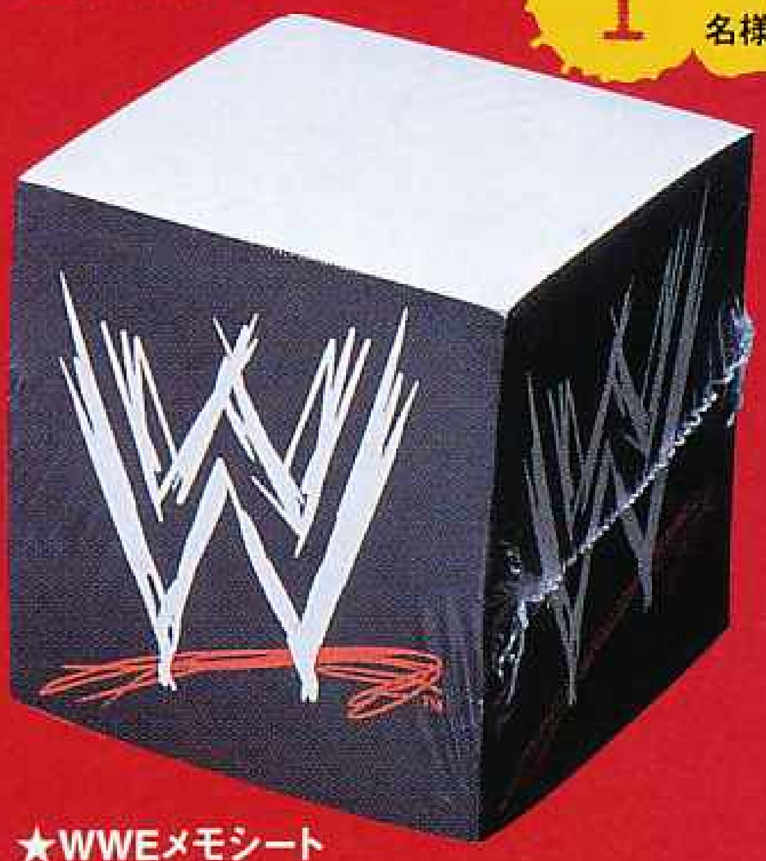
★スパイク・ダッドリー フィギュア（¥2800）



★トーリー・ウィルソン フィギュア（¥2800）



★ステイシー・キーブラー フィギュア（¥2800）



★WWEメモシート

UCS

お問い合わせ◎ UCS TEL.045-260-5175
【URL】http://www.uno-caol-showten.com/【営業時間】金～火曜日（水・木は定休日）
※諸事情により営業日・営業時間が変わる場合がございます。



各1名様

★HAOMING×UCS マスクコインケース
宇野君がプレゼントで貰ったHAOMINGのコインケースをカスタム。UCSの文字をモチーフにしたデザインになっています。シルバーとゴールドの2カラーで各¥2200（缶バッチ&キーチェーン付き）。製品版はパッケージに入っての販売になります。【UCS提供】

HAOMING

IWA、マス・オオヤマなどの好評オフィシャルシリーズを手掛けるHAOMINGより、今度はルチャTシャツがやってきた!! 他にも品揃え充実なのでHPを欠かさずチェックしろ!!【HAOMING提供】お問い合わせ【URL】http://www.haoming.jp



★LAPAKA 長袖Tシャツ

各1名様



★AAA Tシャツ

ASAKUSA KID

10名様



『お笑い男の星座2・私情最強編』出版を記念して開催された『キッド BOM-BA-YE』。浅草キッドと親交の深い瀬戸芳貴氏が非売品の記念シールを制作!! キッド、江頭、ジモン、そして『PRIDE』の怪人がマトリックス調にコラージュされた!

【瀬戸芳貴提供】

JUNGLE FIGHT

1名様



★『ジャングル・ファイト』Tシャツ

空前絶後の秘境興行『ジャングル・ファイト』のオフィシャルTシャツ!! プレミアなイベントだけに、グッズもプレミア間違いなしだ!

【編集部提供】

PANCRASE



1名様

★パンクラス10周年記念Tシャツ

節目となる10周年を迎えたパンクラス。イズマイウの妨害(?)をモロともせずに記念大会も無事終了! 数多く製作された記念グッズから、Tシャツをプレゼントだ!

【パンクラス提供】

KARATE

1名様



★押忍闘夢Tシャツ

小笠原先生の、空手魂溢れるTシャツが押忍ッ!と登場! これを着て、小笠原先生と一緒に汗を流そう!! チェストーッ!

【小笠原和彦提供】

お問い合わせ◎MID BREATH【TEL】03-3375-3917

CHARACTER PRODUCT

5名様



★黒師無双DXフィギュア(¥3000・税抜)

衣、頭巾、笠、髑髏首飾り、様々な付属品が黒師無双を完全再現!! 天才・武藤敬司、"第3の顔"が降臨!!

【キャラプロ提供】お問い合わせ◎TEL.03-5917-6210

NAMEKAWA

3名様



★滑川R-ismTシャツ

韓国での復帰戦が間近に迫っている滑川康仁からTシャツをゲット!! 日本復帰戦も心待ちにしよう!! (カラー:レッド、ブルー、イエロー/サイズ*SS、S、M、L、XL)

【滑川康仁提供】

お問い合わせ◎バンガローミュージック【TEL】048-8593-629 【MAIL】decca@bungalow-music.com

SUBSCABS

関西を拠点に置く、三島☆ド根性ノ助、後藤龍治、パンクバンドCOBRAの友情T、三島命名……「仲良し」は友情特別価格¥2500で販売中!! SUBSCABS HPトップページにCOBRAの新作のプロモが見れます。三島、後藤の他に、滑川、マッハ、美濃輪、謙吾、オマケにサモハンが登場!!

【KEIGO提供】

お問い合わせ◎http://www.subscabs.com/

各1名様



★後藤龍治×三島ド☆根性ノ助×COBRA(ホワイト)

★後藤龍治×三島ド☆根性ノ助×COBRA(ブラック)

応募要項

①郵便番号・住所・電話番号
②氏名③年齢・職業
④希望商品
⑤面白かった記事&その理由
⑥つまらなかった記事&その理由
⑦好きなレスラー
⑧好きな団体

応募券

【宛 先】

〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
(株)ダブルクロス
『紙プロRADICAL』編集部
「亮子おめでとう!!」係まで

※締切は2003年10月24日(金)当日消印有効

FEDOR

3名様



★ヒョードル特製ステッカー

『紙プロ』チケットサービスで『PRIDE武士道』チケットを購入すると、もれなく付いてきた非売品ステッカー!! ヒョードル弟の日本デビューを記念して特別放出だ!

【編集部提供】

IWA

3名様



★外人スーパースター伝説

IWAのリングに活躍したガイジンレスラーの、入場曲がCDになったのよ!! カクタス、テリー・ゴディ、ジェット・シン、マードック、カネックなどをゴキゲン収録!

【IWA提供】

ALL JAPAN



3名様

★青木さんTシャツ(¥3000)

LEG LOCK 製作Tシャツ史上、最低の売れ行きを記録しているという青木取締役Tシャツ……。Tシャツを購入して、青木さんを助けるんだ!

【LEG LOCK 提供】

お問い合わせ◎
【URL】http://leglock.nifty.com/

BOOK

10名様



★紙でプロレスソリチュード(¥1600+税)

本誌失踪編集長・山口日昇と、柳沢忠之のタッグが復活!! 北朝鮮からボブ・サップまで語る、怒濤320ページ!! 太っ腹なぴあより、10名様にドドーンと上げますよ!!

【ぴあ提供】

紙のプロレス RADICAL
No.66
2003年10月25日発行
No.67は 10月下旬発売予定!
※地域によっては多少発売日が遅れます。

STAFF

編集兼発行人
山口日昇
編集スタッフ
松澤チョロ
堀江ガンツ
ジャン斉藤
八木賢太郎（全網修繕のため非番）
見習い
斉野政智
スーパーバイザー
吉田豪
助っ人
片山ボン
ジャイ子
電気部
ささきぃ
スモーノブ
アートディレクター
出田さん（TwoThree）
デザイン
ヒサくん
マツくん
村松さん
グッチー
タニやん
ブンちゃん（以上TwoThree）
トメさん
はなえちゃん
黄川田洋志（以上さおとめの事務所）
カメラマン
斉藤ユーリ
森鷹博
遠藤政文
戸成嘉則
松本崇
丸山剛史
吉場正和
福島俊彦
福島勝儀
試合写真
平工幸雄
乾晋也
吉澤晃
お勘定&衣料部
林“ヘックション”一枝
出前
出前持ち入江（TwoThree）
フィニッシュ
ツー・スリー
さおとめの事務所
ゼロ・グラフィックス
印刷
図書印刷株式会社
印刷人
大杉すぎすぎ昌也



ロシアン・トップチーム
『RTT』Tシャツに
新色登場!!
やっぱり
赤が好き♥
ロシア『RTT』Tシャツ〈レッド〉
¥3,800 S or M or L or XL
ヒョードル『ラスト・エンペラー』Tシャツ〈ホワイト〉
¥3,800 S or M or L or XL
ヒョードル『ラスト・エンペラー』Tシャツ〈ブラック〉
¥3,800 S or M or L or XL
ロシアン・トップチームグッズは
電話注文できます!!
TEL.03-3403-5142
【平日AM3:00〜PM10:00】
エメリヤーエンコ・ヒョードルTシャツ〈ホワイト〉
¥3,800 S or M or L or XL
エメリヤーエンコ・ヒョードルTシャツ〈ネイビー〉
¥3,800 S or M or L or XL
ロシア『RTT』Tシャツ〈ホワイト〉
¥3,800 S or M or L or XL
ロシア『RTT』Tシャツ〈グレー〉
¥3,800 S or M or L or XL
『ヒョードル』キーホルダー
¥1,200
『ロシアン・トップチーム』キーホルダー
¥1,200
ロシアン・トップチームTシャツ〈ホワイト〉
¥3,800 S or M or L or XL
ロシアン・トップチームTシャツ〈レッド〉
¥3,800 S or M or L or XL

がんばれ受験生！

問題があると解かずにいられない……。
そんな人にも入ってほしい携帯サイト

問１　ZERO-ONE、闘龍門、スマックガール。
この３団体に共通するのは何？

答　『紙プロHand』おすすめ団体であること。

◎紙プロのプッシュする３団体は、全試合結果を即日更新!! スペシャル待画、選手データや記事も充実!!

問２　『紙プロＨａｎｄ』は月額３００円。
待画、着メロは、毎月何ダウンロードが可能？

答　着メロは月２曲、待画は取り放題。

◎10月1日更新の着メロは「移民の歌」ブルーザー・ブロディ（またはザ・プレデター）、「BOOK OF DAYS」近藤有己「トゥー・ハーツ」馳浩の３曲!!
待画にはココでしか手に入らない「中川画伯・カレンダー待画」が新登場!!　※着メロ、待画は一部対応していない機種があります。

問３　以下の順番にあてはまる法則は何か。
葛西純→大谷晋二郎→小島聡→金村キンタロー→小笠原和彦→ＣＩＭＡ

答　『紙プロHand』人気コラム「『紙プロ』いいとも！」に登場した選手、その順番。

◎『紙プロ』いいとも！は、ほぼ１カ月交代のレスラーコラム。選手が次々と“お友達”を紹介、バトンタッチ！ＣＩＭＡの紹介する相手は、ズバリ○○・○○○選手だ!!（お楽しみに!!）

問４　『紙プロＨａｎｄ』不定期連載コラム
『山口日昇の鬼畜日記』。前回更新日はいつ？

答　６カ月前、３月３０日。

◎山口日昇以外は毎週更新!! 吉田豪「入院させてよ！」、井上義啓「喫茶店トーク」、
格闘家コラムはアントニオ・ホドリゴ・ノゲイラに代わってドスカラスＪｒ.が登場ッ!!　『紙プロ』スタッフの週代わりコラムもあるぞ!!

問５　以上４つの問いから分かる結論は？

答　宇宙一面白い携帯サイト『紙プロHand』には入らなきゃ損!! 今すぐアクセス!!

受験シーズンっていつだっけ？



携帯サイト『紙のプロレスＨａｎｄ』は毎日毎日、マット界の情報・ニュースを配信しまくることで、勉学に勤しむ学生を応援しま～す！（？）　んあ～。

紙のプロレス RADICAL　WANIMAGAZIN MOOK235　2003 NO.66
ミルコ、10・5『PRIDE武士道』に電撃出陣!!
平成15年10月25日発行　編集発行人／山口日昇
発売元：（株）ワニマガジン社　〒160-8580 東京都新宿区内藤町1番地　電話／03-3357-2911
発行元：（株）ダブルクロス　〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702　電話／03-3403-5188
ワニマガジン社　定価：本体838円＋税

9784898297155
ISBN4-89829-715-3
C9476 ¥838E
1929476008381

雑誌　69860—35

印刷：図書印刷株式会社